

中野区子どもと子育て家庭の実態調査  
報告書

令和2年1月

中野区



# 目次

結果の概要.....	1
調査結果.....	5
<b>第1部 調査の概要.....</b>	<b>7</b>
1 本調査の目的・対象・方法等.....	9
(1) 調査の目的.....	9
(2) 調査対象者.....	9
(3) 抽出方法.....	10
(4) 調査方法.....	10
(5) 調査時期.....	10
2 有効回答数（有効回答率）.....	10
3 回答者の基本属性（性別・年齢・世帯タイプ）.....	11
(1) 未就学児の保護者.....	11
(2) 小学生①（小学1～3年生）の保護者.....	12
(3) 小学生②（小学4～6年生）の保護者・子ども.....	13
(4) 中学生（中学1～3年生）の保護者・子ども.....	14
4 「生活困難」について.....	15
(1) 「生活困難」について.....	15
(2) 生活困難層の割合.....	18
(3) 生活困難層の分布.....	21
<b>第2部 生活困窮の状況.....</b>	<b>23</b>
1 家計の状況.....	25
(1) 食料を買えなかった経験.....	25
(2) 衣類を買えなかった経験.....	28
(3) 公共料金等の滞納経験.....	31
(4) 物品の所有状況.....	36
(5) 暮らし向き.....	36
(6) 家計の収支状況.....	39
2 子どもの生活水準.....	44
(1) 子どもの所有物の欠如.....	44
(2) 子どもへの支出.....	49
(3) 子どもの体験（海水浴、博物館等）.....	55
3 子どもの食と栄養.....	65
(1) 朝食の摂取状況.....	65
(2) 栄養群の摂取状況.....	66
4 住宅の状況.....	72
(1) 住宅の種類.....	72
<b>第3部 子どもの学び.....</b>	<b>76</b>
1 学校の種類と学校選択の理由.....	78

(1) 学校の設置者.....	78
(2) 中学生の学校選択の理由.....	78
2 学校の成績についての主観的評価.....	82
(1) 小学生.....	82
(2) 中学生.....	83
3 授業の理解度・わからなくなった時期.....	84
(1) 小学生.....	84
(2) 中学生.....	86
4 学校外での学習の状況.....	88
(1) 小学生.....	88
(2) 中学生.....	90
5 学習環境の欠如の状況.....	92
6 補習教室への参加状況・参加しない理由.....	94
7 学習関連の支援プログラムの利用意向.....	95
(1) 勉強ができる場所の利用意向.....	95
(2) 学校外での無料の学習支援.....	96
<b>第4部 子どもの生活・友人関係.....</b>	<b>97</b>
1 放課後・休日の過ごし方.....	99
(1) 平日の放課後の過ごし方.....	99
(2) 休日の過ごし方.....	103
(3) 一番ほっとできる居場所.....	104
(4) 中学生の部活動.....	105
(5) 放課後子ども教室.....	106
(6) 家事負担.....	107
(7) 運動.....	107
(8) 読書.....	108
2 夕方以降の留守番と母親の就労時間.....	109
(1) 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験.....	109
(2) 母親の平日日中以外の就労.....	110
3 友人関係・孤立.....	113
(1) 友人との会話頻度.....	113
(2) 親との会話頻度.....	114
(3) 孤独感.....	115
4 いじめ・不登校の悩み.....	117
(1) いじめられた経験.....	117
(2) 学校に行きたくないと思った経験（小学生、中学生）.....	118
5 居場所支援・相談事業の利用意向.....	119
(1) 平日の放課後から夜にかけての居場所.....	119
(2) 休日の居場所.....	120
(3) 夕ごはんをみんなで食べることができる場所.....	121

(4) なんでも相談できる場所.....	122
<b>第5部 子どもの健康と自己肯定感.....</b>	<b>123</b>
1 健康.....	125
(1) 健康状態.....	125
(2) 医療の受診抑制.....	132
(3) 予防接種の未接種状況.....	136
2 自己肯定感.....	139
(1) 自己肯定感.....	139
(2) 抑うつ傾向.....	144
<b>第6部 保護者の状況.....</b>	<b>147</b>
1 保護者の就労状況.....	149
(1) 父母の就労状況.....	149
(2) 共働きの状況.....	155
2 保護者の健康状態と精神的ストレス.....	158
(1) 保護者の健康状態.....	158
(2) 保護者の抑うつ傾向.....	160
3 親子の時間.....	163
(1) 親子での過ごし方.....	163
(2) 将来についての会話.....	174
4 相談相手.....	175
<b>第7部 制度・サービスの利用.....</b>	<b>177</b>
1 子ども本人の支援サービス利用意向.....	179
(1) 年齢別の子ども本人のサービス利用意向.....	179
(2) 生活困難度別の子ども本人のサービス利用意向.....	180
2 情報の受け取り方法.....	182
(1) 年齢別の情報の受け取り方法.....	182
3 支援サービスの利用状況・認知状況・利用意向.....	184
(1) 支援サービスの利用状況.....	184
(2) 支援サービスの非認知による不利用.....	190
(3) 保護者の支援サービス利用意向.....	194
4 相談窓口の利用状況・認知状況.....	198
(1) 相談窓口の利用状況.....	198
(2) 相談したことがない理由.....	200
<b>第8部 中野区的环境について.....</b>	<b>203</b>
1 保護者から見た中野区的环境.....	205
(1) 中野区の各種環境.....	205
(2) 中野区の移動や交通環境について.....	209
(3) 中野区の住宅環境について.....	212
(4) 中野区健康や医療環境について.....	215
(5) 中野区商業環境について.....	218

(6) 中野区の安全や安心について.....	221
(7) 中野区の保育や子育てサービス環境について.....	223
(8) 中野区の教育・学習環境について.....	226
(9) 中野区の遊び・憩いの環境について.....	229
(10) 中野区の地域環境（コミュニティ）について.....	232
(11) 中野区への定住意向と、他者への推奨意向.....	234
(12) 施設への興味.....	235
2  子どもから見た中野区の環境.....	237
(1) 中野区の各種環境.....	237
(2) 中野区の移動や交通について.....	239
(3) 中野区の買い物をする場所について.....	241
(4) 中野区の安全や安心について.....	242
(5) 中野区の教育・学習について.....	243
(6) 中野区の遊ぶ場所について.....	244
(7) 中野区のまちの人達とのつながりについて.....	246
(8) 中野区への定住意向と好感度.....	247
(9) 施設への興味.....	248
3  中野区の環境要因と定住意向の分析.....	249
(1) 保護者から見た各環境要因と定住意向の関係.....	249
(2) 子どもから見た各環境要因と定住意向の関係.....	250
<b>第9部 自由記述.....</b>	<b>251</b>
1  保護者の自由記述.....	253
(1) 困っていることや悩み事.....	253
(2) 中野区への意見・要望.....	255
2  子どもの自由記述.....	257
(1) 中野区への意見・要望.....	257
(2) アンケートの感想、大人の人に言いたいこと・困っていること.....	258

## 結果の概要

## 【集計方法】

- 本報告書においては、クロス表の掲載の際には、 $\chi$ 二乗検定によって分布が統計的に有意であるかを検定している。その結果、1%水準で有意である場合は表頭に「\*\*\*」、5%水準で有意の場合は「\*\*」、10%水準で有意の場合は「\*」、有意でない場合は「X」を付している。（例：1%未満で有意であるとは、図表で示している項目の間に統計的に差が無い確率が1%未満であり、差があるといって問題がない、という意味を指す。）
- 世帯タイプは、保護者票の子どもと父親、母親、祖父母それぞれの同居状況から判別している。そのため、各制度や公的統計の定義とは必ずしも一致しない。
- 本文中の各図表の数値については、端数処理の関係上、各項目の割合の合計値が100%とならない場合がある。
- 本報告書は、調査票への回答を統計的に集計処理したものであり、回答者の個人の情報が特定されるものではない。
- 本文中の東京都の数値については、東京都が平成28年度に実施した「東京都子供の生活実態調査」の調査結果による。



## 調査の概要

- (1) 調査対象 令和元年7月23日時点で中野区に在住する0歳～14歳（中学3年生）の就学前児童、小学校低学年（以下、小学生①）、小学校高学年（以下、小学生②）、中学生の各保護者及び小学校高学年、中学生本人
- (2) 調査対象数 18,750世帯（26,250件）
- (3) 抽出方法 住民基本台帳より、対象年齢ごとに無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送法（一部ウェブ回答）
- (5) 有効回答数 子ども 2,017票（有効回答率26.9%）  
保護者 7,987票（有効回答率42.6%）
- (6) 調査期間 令和元年8月28日（水）～令和元年9月25日（水）

### 【本調査における「生活困難」の取り扱いについて】

本調査では、子どもの「生活困難」を以下の3つの要素に基づいて分類した。

#### ①低所得

等価世帯所得<sup>\*1</sup>が厚生労働省「平成30年国民生活基礎調査」から算出される基準<sup>\*2</sup>未満の世帯<sup>\*3</sup>

※1 世帯所得（公的年金など社会保障給付を含めた世帯所得）を世帯人数の平方根で割って調整した所得

※2 厚生労働省「平成30年国民生活基礎調査」（所得は平成29年値）の世帯所得の中央値（427万円）を平均世帯人数（2.44人）の平方根で除した値の50%である135.4万円

※3 低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」にて公表されている「子どもの貧困率」（13.9%）と比較できるものではない

#### ②家計の逼迫

公共料金や家賃の滞納、食料・衣類を買えなかった経験など7項目のうち、1つ以上該当

#### ③子どもの体験や所有物の欠如

子どもの体験や所有物などの15項目のうち、経済的な理由で欠如している項目が3つ以上該当

生活困難層	困窮層＋周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

（※詳細はP17参照）



## 調查結果



## 第 1 部 調査の概要



# 1 本調査の目的・対象・方法等

## (1) 調査の目的

中野区在住の子育て家庭の保護者及び子どもに対してアンケート調査を行い、子育て家庭の生活実態を把握・分析する。

## (2) 調査対象

令和元年7月23日時点で中野区に在住する0歳～14歳（中学3年生）の就学前児童、小学校低学年（以下、小学生①）、小学校高学年（以下、小学生②）、中学生の各保護者及び小学校高学年、中学生本人。

図表 1-1-1 調査対象者数（全体）

区分	年齢		保護者	子ども	
未就学児	乳幼児・未就学児	0歳	1,250件		
		1歳	1,250件		
		2歳	1,250件		
		3歳	1,250件		
		4歳	1,250件		
		5歳	1,250件		
小学生①	小学1年生	6歳	1,250件		
	小学2年生	7歳	1,250件		
	小学3年生	8歳	1,250件		
小学生②	小学4年生	9歳	1,250件		1,250件
	小学5年生	10歳	1,250件		1,250件
	小学6年生	11歳	1,250件		1,250件
中学生	中学1年生	12歳	1,250件		1,250件
	中学2年生	13歳	1,250件		1,250件
	中学3年生	14歳	1,250件		1,250件
小計			18,750件	7,500件	
合計			26,250件		

### (3) 抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

### (4) 調査方法

郵送配布-郵送回収（一部ウェブ回答）

### (5) 調査期間

令和元年8月28日（水）～令和元年9月25日（水）

## 2 有効回答数（有効回答率）

有効回答数は、全ての年齢層を合わせると子ども票2,017票、保護者票7,987票であり、有効回答率はそれぞれ26.9%、42.6%であった。

図表 1-2-1 有効回答数（全体）

	子ども			保護者			親子マッチング※	
	対象数	回答数	回答率	対象数	回答数	回答率	件数	マッチング率
未就学児保護者				7,500	3,861	51.5%		
小学生①				3,750	1,782	47.5%		
小学生②	3,750	1,075	28.7%	3,750	1,231	32.8%	1,064	28.4%
小学生保護者計				7,500	3,013	40.2%		
中学生	3,750	942	25.1%	3,750	1,113	29.7%	929	24.8%
子ども票全体	7,500	2,017	26.9%					
保護者票全体				18,750	7,987	42.6%		
全体	26,250	10,004	38.1%					

※子ども票と保護者票の両方を回収し、紐付けが行えたものを指す



### 3 回答者の基本属性（性別・年齢・世帯タイプ）

#### （1）未就学児の保護者

未就学児保護者票の回答者の属性は以下の通りであった。子どもの性別は、男子 50.9%、女子 49.0%、無回答 0.1%であった。回答した保護者は、母親 81.3%、父親 17.4%、平均年齢は 36.5 歳であった。世帯タイプは、ふたり親（二世帯）世帯 90.1%、ふたり親（三世帯）世帯 4.4%、ひとり親（二世帯）世帯 3.8%、ひとり親（三世帯）世帯 1.3%であった。また、日本国籍の母親は 95.9%、父親は 94.6%、日本以外の国籍の母親は 2.9%、父親は 3.4%であった。

図表 1-3-1 子どもの性別（未就学児） (人)

男子	女子	無回答	合計
1,965	1,891	5	3,861
50.9%	49.0%	0.1%	100.0%

図表 1-3-2 保護者と子どもとの属性（未就学児） (人)

父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	その他	施設職員	無回答	合計
673	3,139	-	-	-	1	10	38	3,861
17.4%	81.3%	-	-	-	0.0%	0.3%	1.0%	100.0%

図表 1-3-3 保護者の年齢（未就学児） (人)

39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	合計
2,743	991	32	4	91	3,861
71.0%	25.7%	0.8%	0.1%	2.4%	100.0%
平均値	最小値	最大値			
36.5	20	81			

図表 1-3-4 世帯タイプ（未就学児） (人)

ふたり親（二世帯）	ふたり親（三世帯）	ひとり親（二世帯）	ひとり親（三世帯）	不明	合計
3,479	171	148	51	12	3,861
90.1%	4.4%	3.8%	1.3%	0.3%	100.0%

図表 1-3-5 両親の国籍（未就学児） (人)

	日本	日本以外	無回答	合計
母親	3,704	112	45	3,861
	95.9%	2.9%	1.2%	100.0%
父親	3,651	130	80	3,861
	94.6%	3.4%	2.1%	100.0%

(2) 小学生①(小学1～3年生)の保護者

小学生①保護者票の回答者の属性は以下の通りであった。子どもの性別は、男子51.1%、女子47.6%、無回答1.3%であった。回答した保護者は、母親83.4%、父親14.6%、平均年齢は40.7歳であった。世帯タイプは、ふたり親(二世帯)世帯83.4%、ふたり親(三世帯)世帯7.4%、ひとり親(二世帯)世帯6.9%、ひとり親(三世帯)世帯1.7%であった。また、日本国籍の母親は95.2%、父親は92.9%、日本以外の国籍の母親は3.3%、父親は3.7%であった。

図表 1-3-6 子どもの性別(小学1～3年生) (人)

男子	女子	無回答	合計
910	849	23	1,782
51.1%	47.6%	1.3%	100.0%

図表 1-3-7 保護者と子どもとの属性(小学1～3年生) (人)

父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	その他	施設職員	無回答	合計
261	1,487	-	2	1	1	5	25	1,782
14.6%	83.4%	-	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	1.4%	100.0%

図表 1-3-8 保護者の年齢(小学1～3年生) (人)

39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	合計
700	913	47	9	113	1,782
39.3%	51.2%	2.6%	0.5%	6.3%	100.0%
平均値	最小値	最大値			
40.7	23	72			

図表 1-3-9 世帯タイプ(小学1～3年生) (人)

ふたり親(二世帯)	ふたり親(三世帯)	ひとり親(二世帯)	ひとり親(三世帯)	不明	合計
1,487	132	123	30	10	1,782
83.4%	7.4%	6.9%	1.7%	0.6%	100.0%

図表 1-3-10 両親の国籍(小学1～3年生) (人)

	日本	日本以外	無回答	合計
母親	1,696	58	28	1,782
	95.2%	3.3%	1.6%	100.0%
父親	1,656	66	60	1,782
	92.9%	3.7%	3.4%	100.0%

### (3) 小学生②（小学4～6年生）の保護者・子ども

小学生②の回答者の属性は以下の通りであった。回答者の性別は、男子47.9%、女子48.5%、答えたくない0.7%、無回答2.9%であった。回答した保護者は、母親84.5%、父親12.7%、平均年齢は44.2歳であった。世帯タイプは、ふたり親（二世帯）世帯78.5%、ふたり親（三世帯）世帯8.6%、ひとり親（二世帯）世帯9.0%、ひとり親（三世帯）世帯2.3%であった。また、日本国籍の母親は95.4%、父親は93.5%、日本以外の国籍の母親は2.9%、父親は2.9%であった。

**図表 1-3-11 子どもの性別（小学4～6年生）** (人)

男子	女子	答えたくない	無回答	合計
515	521	8	31	1,075
47.9%	48.5%	0.7%	2.9%	100.0%

**図表 1-3-12 保護者と子どもとの属性（小学4～6年生）** (人)

父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	その他	施設職員	無回答	合計
156	1,040	1	1	-	1	7	25	1,231
12.7%	84.5%	0.1%	0.1%	-	0.1%	0.6%	2.0%	100.0%

**図表 1-3-13 保護者の年齢（小学4～6年生）** (人)

39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	合計
207	783	155	8	78	1,231
16.8%	63.6%	12.6%	0.6%	6.3%	100.0%
平均値	最小値	最大値			
44.2	29	82			

**図表 1-3-14 世帯タイプ（小学4～6年生）** (人、子ども票ベース)

ふたり親 （二世帯）	ふたり親 （三世帯）	ひとり親 （二世帯）	ひとり親 （三世帯）	不明	合計
844	92	97	25	17	1,075
78.5%	8.6%	9.0%	2.3%	1.6%	100.0%

**図表 1-3-15 両親の国籍（小学4～6年生）** (人)

	日本	日本以外	無回答	合計
母親	1,174	36	21	1,231
	95.4%	2.9%	1.7%	100.0%
父親	1,151	36	44	1,231
	93.5%	2.9%	3.6%	100.0%

#### (4) 中学生（中学1～3年生）の保護者・子ども

中学生の回答者の属性は以下の通りであった。回答者の性別は、男子 44.7%、女子 49.8%、答えたくない 1.7%、無回答 3.8%であった。回答した保護者は、母親 82.7%、父親 15.9%、平均年齢は 46.9 歳であった。世帯タイプは、ふたり親（二世帯）世帯 77.4%、ふたり親（三世帯）世帯 7.9%、ひとり親（二世帯）世帯 10.7%、ひとり親（三世帯）世帯 2.2%であった。また、日本国籍の母親は 96.5%、父親は 94.1%、日本以外の国籍の母親は 3.0%、父親は 2.9%であった。

**図表 1-3-16 子どもの性別（中学生）** (人)

男子	女子	答えたくない	無回答	合計
421	469	16	36	942
44.7%	49.8%	1.7%	3.8%	100.0%

**図表 1-3-17 保護者と子どもとの属性（中学生）** (人)

父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	その他	施設職員	無回答	合計
177	921	-	2	2	-	4	7	1,113
15.9%	82.7%	-	0.2%	0.2%	-	0.4%	0.6%	100.0%

**図表 1-3-18 保護者の年齢（中学生）** (人)

39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	合計
62	709	279	17	46	1,113
5.6%	63.7%	25.1%	1.5%	4.1%	100.0%
平均値	最小値	最大値			
46.9	16	72			

(人、子ども票ベース)

ふたり親 (二世帯)	ふたり親 (三世帯)	ひとり親 (二世帯)	ひとり親 (三世帯)	不明	合計
729	74	101	21	17	942
77.4%	7.9%	10.7%	2.2%	1.8%	100.0%

**図表 1-3-20 両親の国籍（中学生）** (人)

	日本	日本以外	無回答	合計
母親	1,074	33	6	1,113
	96.5%	3.0%	0.5%	100.0%
父親	1,047	32	34	1,113
	94.1%	2.9%	3.1%	100.0%

## 4 「生活困難」について

### (1) 「生活困難」について

本報告では、子どもの生活における「生活困難」を、3つの要素から分類する。

- (ア) 低所得
- (イ) 家計の逼迫
- (ウ) 子どもの体験や所有物の欠如

「(ア) 低所得」は、先進諸国の貧困の測定に最も一般的に用いられ、厚生労働省も用いている指標であるが、本調査においては、自記式の質問紙調査であるため、把握できる世帯所得の精緻度が限られている。そこで、所得データを補完するために、「(イ) 家計の逼迫」と「(ウ) 子どもの体験や所有物の欠如」に用いられている物質的剥奪指標を用いる。物質的剥奪指標は、所得データによる貧困率と一緒に用いることで、貧困の測定の精緻化が可能であることが欧州連合などを始め国内外の研究より判明している。以下にそれぞれの詳細な定義を示す。

#### (ア) 低所得

「低所得」は、世帯所得（勤労収入、事業収入等＋社会保障給付）を、世帯人数の平方根で割り算した値（＝等価世帯所得）が、厚生労働省「平成30年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯と定義する。なお、低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」にて公表されている「子どもの貧困率」（13.9%）と比較できない。

#### (イ) 家計の逼迫

「家計の逼迫」は、経済的な制約を子どもに課し、生活水準を低下させるだけでなく、親の心理的なゆとりや、心身的健康状態の悪化を通して子どもに悪影響をもたらす可能性があると言われている。そこで、家計の逼迫を、家計の中で大きな比重を占め、これらの欠乏により、基本的な生活水準を保つことが難しいと考えられる公共料金や食料・衣類の費用が捻出できない状況と定義する。具体的には、保護者票において過去1年間に、「経済的な理由で電話、電気、ガス、水道、家賃などの料金の滞納」があったか、また、過去1年間に「家族が必要とする衣類、食料が買えなかった経験」があったかの7つの項目のうち、1つ以上が該当する場合は「家計の逼迫」があると定義する。

#### (ウ) 子どもの体験や所有物の欠如

上記（ア）と（イ）は、世帯全体の生活困難を表すが、子ども自身の生活困難を表す指標として、「子どもの体験や所有物の欠如」を用いる。ここで用いられる子どもの体験や所有物とは、日本社会において、大多数の子どもが一般的に享受していると考えられる経験や物品である。具体的には、保護者票において過去1年間において、「海水浴に行く」、「博物館・科学館・美術館などに行く」、「スポーツ観戦や劇場に行く」、「キャンプやバーベキューに行く」、「遊園地やテーマパークに行く」ことが「経済的にできない」、「毎月おこづかいを渡す」、「毎年新しい洋服・靴を買う」、「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」、「お誕生日のお祝いをする」、「1年に1回

くらい家族旅行に行く」、「クリスマスプレゼントや正月のお年玉をあげる」ことが「経済的にできない」、または「子どもの年齢に合った本」、「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」、「子どもが自宅で宿題（勉強）ができる場所」が「経済的理由のために世帯にない」（全15項目）である。これらの項目のうち3つ以上が該当している場合に、「子どもの体験や所有物の欠如」の状況にあると定義する。

## 【本調査における「生活困難」の取り扱いについて】

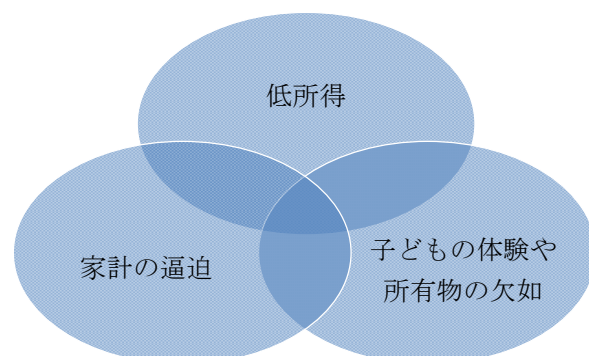
本調査では、子どもの「生活困難」を以下の3つの要素に基づいて分類した。

図表 1-4-1 生活困難について

① 低所得	③ 子どもの体験や所有物の欠如
<p>等価世帯所得が厚生労働省「平成30年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯</p> <p>&lt;低所得基準&gt; 世帯所得の中央値423万円÷ √平均世帯人数(2.44人)×50% =135.4万円</p>	<p>子どもの体験や所有物などに関する15項目のうち、経済的な理由で、欠如している項目が3つ以上該当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 海水浴に行く</li> <li>2 博物館・科学館・美術館などに行く</li> <li>3 キャンプやバーベキューに行く</li> <li>4 スポーツ観戦や劇場に行く</li> <li>5 遊園地やテーマパークに行く</li> <li>6 毎月お小遣いを渡す</li> <li>7 毎年新しい洋服・靴を買う</li> <li>8 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる</li> <li>9 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)</li> <li>10 お誕生日のお祝いをする</li> <li>11 1年に1回くらい家族旅行に行く</li> <li>12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる</li> <li>13 子どもの年齢に合った本</li> <li>14 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ</li> <li>15 子どもが自宅で宿題(勉強)をすることができる場所</li> </ol>
② 家計の逼迫	
<p>経済的な理由で、公共料金や家賃を支えなかった経験、食料・衣服を買えなかった経験などの7項目のうち、1つ以上が該当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 電話料金</li> <li>2 電気料金</li> <li>3 ガス料金</li> <li>4 水道料金</li> <li>5 家賃</li> <li>6 家族が必要とする食料が買えなかった</li> <li>7 家族が必要とする衣類が買えなかった</li> </ol>	

### ◆生活困難層(困窮層・周辺層)、一般層

生活困難層	困窮層＋周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない



## (2) 生活困難層の割合

これを用いて、各年齢層の子どもについて生活困難層の割合を計算したところ、以下の結果となった（図表 1-4-2）。低所得率は、未就学児 1.5%、小学生①1.9%、小学生②2.4%、中学生 2.7%と年齢層が上がるにつれて高くなっている。家計の逼迫率は、未就学児 5.9%、小学生① 5.9%、小学生②5.6%、中学生 10.3%と中学生で 1 割を超える。子どもの体験や所有物の欠如は、全ての年齢層において約 5～6%前後となっている。

3つの要素の重なりから、2つ以上の要素に該当する「困窮層」、いずれか1つの要素に該当する「周辺層」の子どもの割合を算出したところ、未就学児においては、困窮層が 2.6%、周辺層が 8.1%、小学生①においては、困窮層が 3.8%、周辺層が 7.3%、小学生②においては、困窮層が 3.8%、周辺層が 7.3%、中学生においては、困窮層 5.6%、周辺層 9.3%であった。どの年齢層においても、9割弱の子どもは、どの要素にも該当しない「一般層」であった。

東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共に困窮層、周辺層どちらも東京都に比べて中野区の方が低い。3つの要素では、中学生の家計の逼迫率のみ東京に比べて中野区の方が高かった。

図表 1-4-2 生活困難層の割合（全体）

	未就学児	小学生①	小学生②		中学生	
			中野区	東京都	中野区	東京都
生活困難層	10.7%	11.1%	11.2%	20.5%	14.9%	21.6%
困窮層	2.6%	3.8%	3.8%	5.7%	5.6%	7.1%
周辺層	8.1%	7.3%	7.3%	14.9%	9.3%	14.5%
	未就学児	小学生①	小学生②		中学生	
			中野区	東京都	中野区	東京都
低所得	1.5%	1.9%	2.4%	11.6%	2.7%	11.6%
家計の逼迫	5.9%	5.9%	5.6%	8.1%	10.3%	7.7%
子どもの体験や所有物の欠如	4.9%	6.3%	5.6%	7.8%	6.6%	11.8%

困窮層	3つに該当	低所得＋家計の逼迫＋ 子どもの体験や所有物の欠如	0.5%	2.6%
	2つに該当	低所得＋家計の逼迫	0.1%	
		低所得＋子どもの体験や所有物の欠如	0.3%	
		家計の逼迫＋子どもの体験や所有物の欠如	1.7%	
周辺層	1つに該当	低所得のみ	1.1%	8.1%
		家計の逼迫のみ	4.0%	
		子どもの体験や所有物の欠如のみ	3.1%	
困窮層と周辺層の計				10.7%



図表 1-4-4 生活困難層の割合（小学生①）

困窮層	3つに該当	低所得+家計の逼迫+ 子どもの体験や所有物の欠如	0.4%	3.8%
		低所得+家計の逼迫	0.3%	
	2つに該当	低所得+子どもの体験や所有物の欠如	0.5%	
		家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	2.5%	
周辺層	1つに該当	低所得のみ	1.0%	7.3%
		家計の逼迫のみ	2.9%	
		子どもの体験や所有物の欠如のみ	3.5%	
困窮層と周辺層の計				11.1%

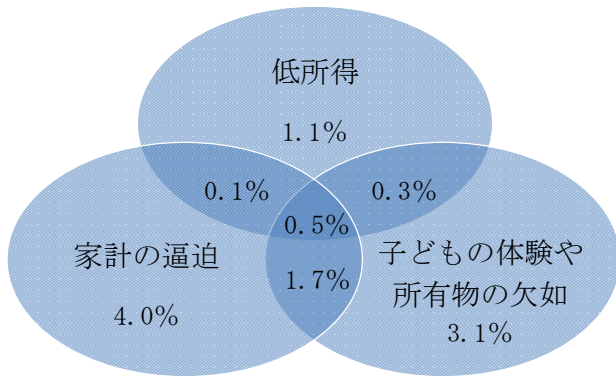
図表 1-4-5 生活困難層の割合（小学生②）

			中野区		東京都	
困窮層	3つに該当	低所得+家計の逼迫+ 子どもの体験や所有物の欠如	0.7%	3.8%	1.1%	5.7%
		低所得+家計の逼迫	0.3%		1.3%	
	2つに該当	低所得+子どもの体験や所有物の欠如	0.5%		0.6%	
		家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	2.3%		2.6%	
周辺層	1つに該当	低所得のみ	1.6%	7.3%	8.4%	14.9%
		家計の逼迫のみ	2.8%		3.2%	
		子どもの体験や所有物の欠如のみ	2.9%		3.4%	
困窮層と周辺層の計			11.2%		20.5%	

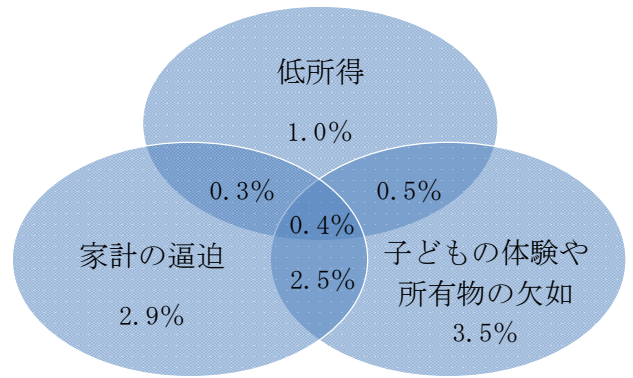
図表 1-4-6 生活困難層の割合（中学生）

			中野区		東京都	
困窮層	3つに該当	低所得+家計の逼迫+ 子どもの体験や所有物の欠如	0.4%	5.6%	1.7%	7.1%
		低所得+家計の逼迫	0.3%		0.6%	
	2つに該当	低所得+子どもの体験や所有物の欠如	0.8%		1.6%	
		家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	4.1%		3.2%	
周辺層	1つに該当	低所得のみ	1.7%	9.3%	6.6%	14.5%
		家計の逼迫のみ	5.4%		2.2%	
		子どもの体験や所有物の欠如のみ	2.2%		5.7%	
困窮層と周辺層の計			14.9%		21.6%	

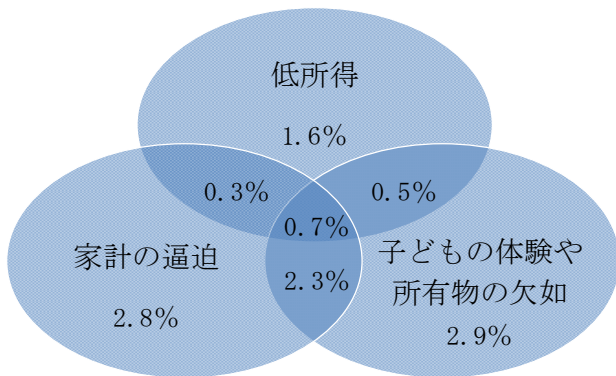
図表 1-4-7 三つの要素の大きさ：年齢層別



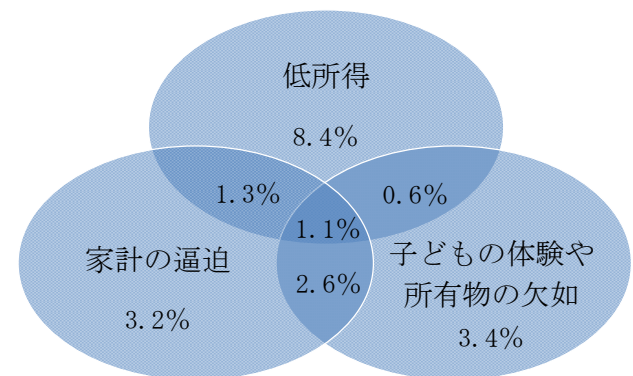
未就学児



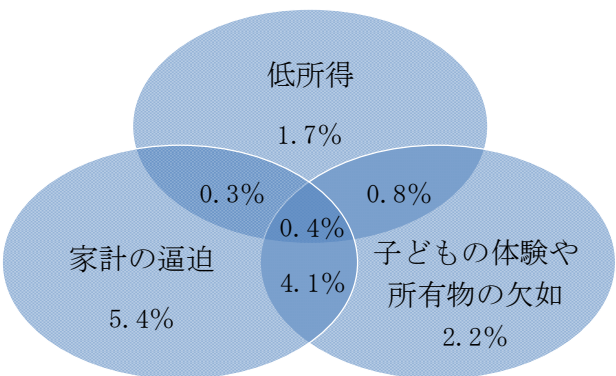
小学生①



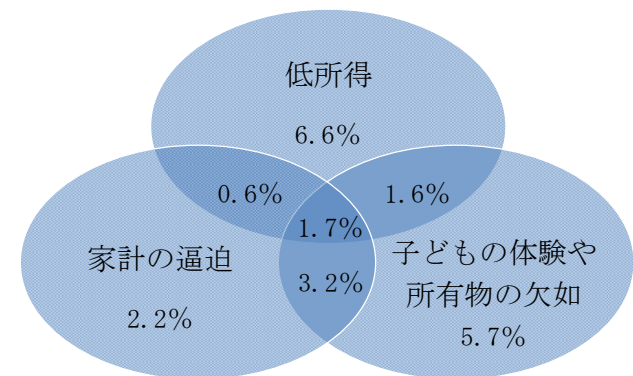
中野区小学生②



東京都小学5年生



中野区中学生



東京都中学2年生

### (3) 生活困難層の分布

困窮層、周辺層、一般層の分布を世帯タイプ別及び学校種類別に見たところ、以下のとおりであった。

図表 1-4-8 生活困難層の分布：世帯タイプ別

(サンプル数)		年齢層	ふたり親 (二世帯)	ふたり親 (三世帯)	ひとり親 (二世帯)	ひとり親 (三世帯)
		未就学児	2,266	109	97	34
生活困難層	困窮層	小学生①	1,089	102	82	21
		小学生②	694	71	78	16
		中学生	601	68	86	19
		未就学児	2.2%	2.8%	9.3%	8.8%
生活困難層	周辺層	小学生①	2.5%	3.9%	19.5%	9.5%
		小学生②	2.7%	2.8%	10.3%	25.0%
		中学生	3.8%	0.0%	18.6%	21.1%
		未就学児	7.0%	11.9%	24.7%	23.5%
一般層		小学生①	6.1%	10.8%	15.9%	23.8%
		小学生②	5.8%	8.5%	16.7%	25.0%
		中学生	8.5%	4.4%	18.6%	10.5%
		未就学児	90.8%	85.3%	66.0%	67.6%
一般層		小学生①	91.5%	85.3%	64.6%	66.7%
		小学生②	91.5%	88.7%	73.1%	50.0%
		中学生	87.7%	95.6%	62.8%	68.4%

図表 1-4-9 生活困難層の分布：学校種類別（小学生①）

(サンプル数)		公立 (区立・市立・都立)	私立	国立
		1,199	80	12
生活困難層	困窮層	3.8%	2.5%	0.0%
	周辺層	7.4%	6.3%	0.0%
一般層		88.7%	91.3%	100.0%

図表 1-4-10 生活困難層の分布：学校種類別（小学生②）

(サンプル数)		公立 (区立・市立・都立)	私立	国立
		783	62	5
生活困難層	困窮層	4.2%	0.0%	0.0%
	周辺層	7.8%	1.6%	0.0%
一般層		88.0%	98.4%	100.0%

図表 1-4-11 生活困難層の分布：学校種類別（中学生）

(サンプル数)		公立 (区立・市立・都立)	私立	国立・ 公立中高一貫校
		483	264	24
生活困難層	困窮層	7.7%	2.3%	0.0%
	周辺層	12.4%	3.4%	4.2%
一般層		79.9%	94.3%	95.8%



## 第2部 生活困窮の状況

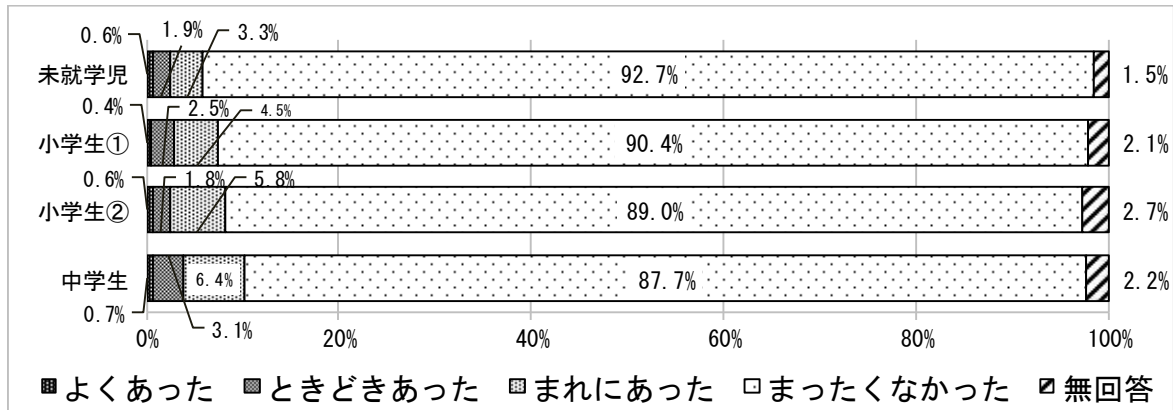


# 1 家計の状況

## (1) 食料を買えなかった経験

子どもの保護者に「過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか」と聞いた。どの年齢層においても、約9割の保護者は、家族が必要とする食料が買えなかったことはないと答えている。しかし、約1割の保護者は食料が買えなかった経験が「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」と答えている。どの年齢層でも、「よくあった」と答えた保護者は1%以下、「ときどきあった」と答えた保護者は約2~3%である。

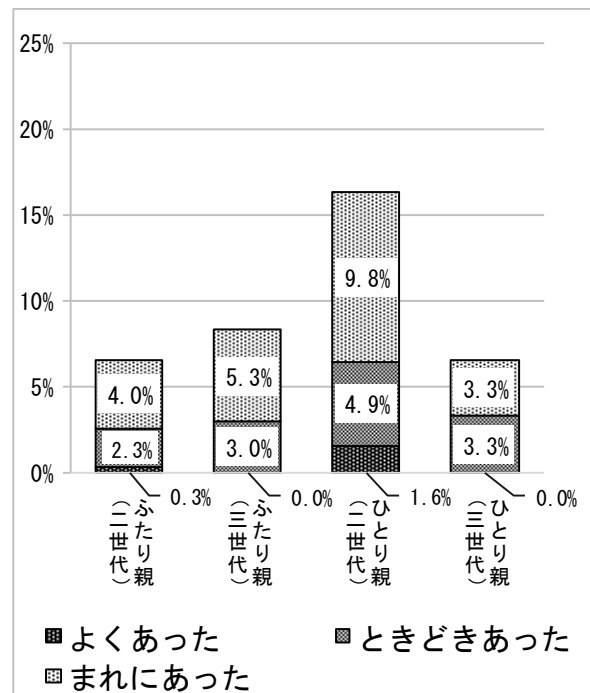
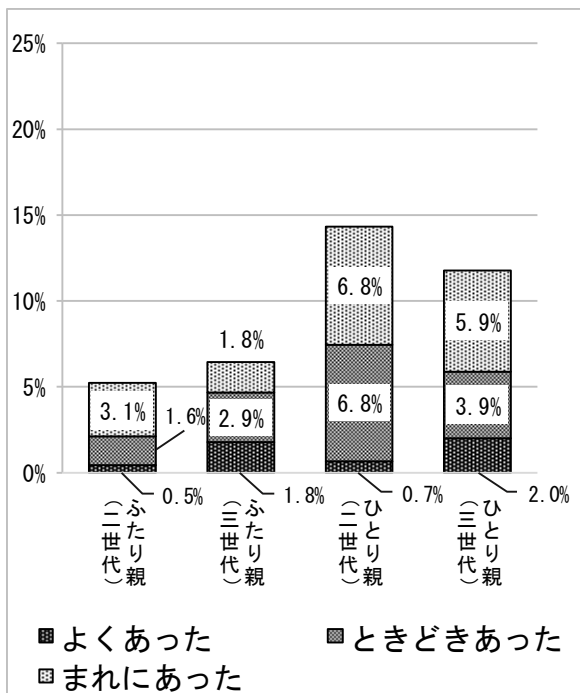
図表 2-1-1 食料の困窮の経験：年齢層別



図表 2-1-2 食料の困窮の経験：世帯タイプ別<sup>1</sup>

未就学児 (\*\*\*)

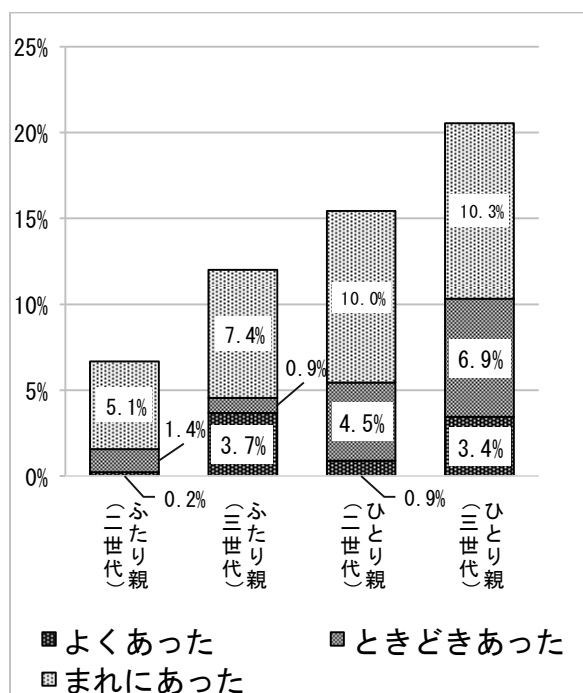
小学生① (\*\*)



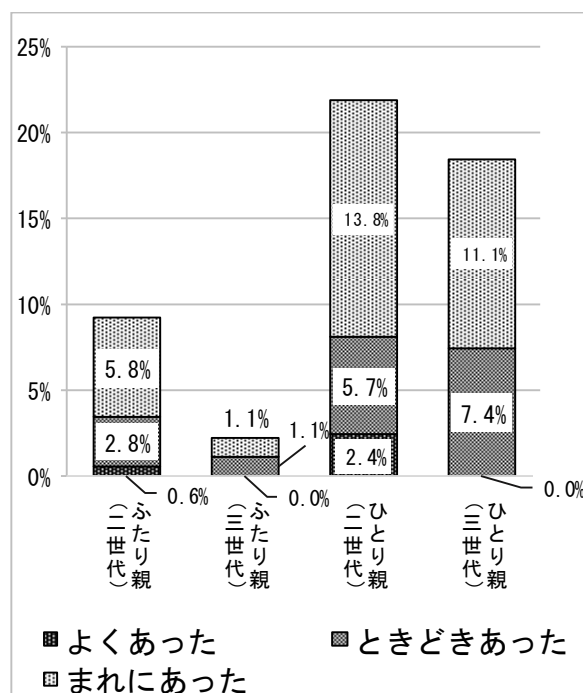
<sup>1</sup> 世帯タイプ別のサンプル数は以下のとおり。以降、全ての世帯タイプ別図表は同じ。

(未就学児) ふたり親 (二世世代) 3,479 ふたり親 (三世世代) 171 ひとり親 (二世世代) 148 ひとり親 (三世世代) 51  
 (小学生①) ふたり親 (二世世代) 1,487 ふたり親 (三世世代) 132 ひとり親 (二世世代) 123 ひとり親 (三世世代) 30  
 (小学生②) ふたり親 (二世世代) 975 ふたり親 (三世世代) 108 ひとり親 (二世世代) 110 ひとり親 (三世世代) 29  
 (中学生) ふたり親 (二世世代) 867 ふたり親 (三世世代) 92 ひとり親 (二世世代) 123 ひとり親 (三世世代) 27

小学生② (\*\*\*)



中学生 (\*\*\*)



世帯タイプ別に見ると、どの年齢層であってもひとり親世帯の食料の困窮の割合が高く、未就学児、小学生①、中学生では「ひとり親世帯 (二代)」が最も高い。「ひとり親 (三代) 世帯」については、年齢ごとの差が大きい、これはこの世帯タイプのサンプル数が少ないことにも関係していると考えられる。

生活困難度別に見ると、生活困難度の識別自体に本設問の項目も入っていることもあり、強い相関がみられる。困窮層においては、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせると全ての年齢層で7割以上の世帯における食料の困窮経験がある。「よくあった」とする世帯に限っても未就学児で15.4%、小学生②で12.1%と1割を超える結果となっており、困窮層では食料が十分に確保できていない。「よくあった」、「ときどきあった」とする世帯は、一般層ではどの年齢層でも0%である。

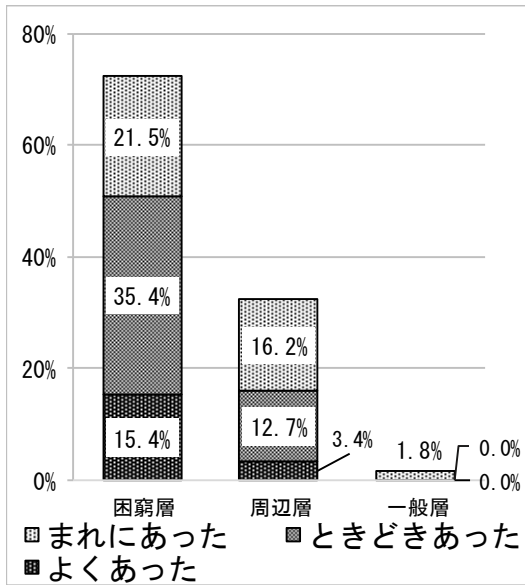
東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共に全ての生活困難度で東京都に比べて中野区の方が「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」の合計が高くなっている。



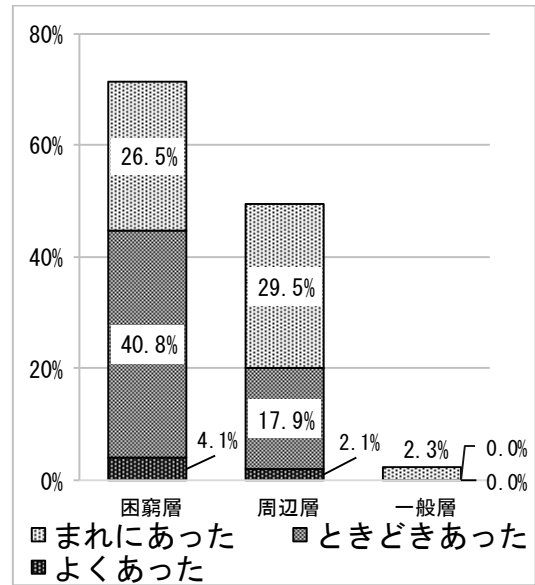
図表 2-1-3 食料の困窮の経験：生活困難度別<sup>2</sup>

(小学生②、中学生は東京都と比較)

未就学児 (\*\*\*)

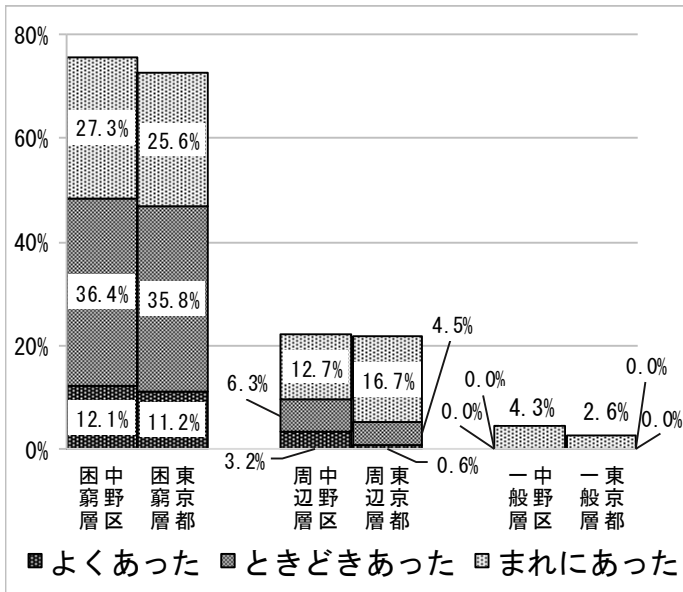


小学生① (\*\*\*)



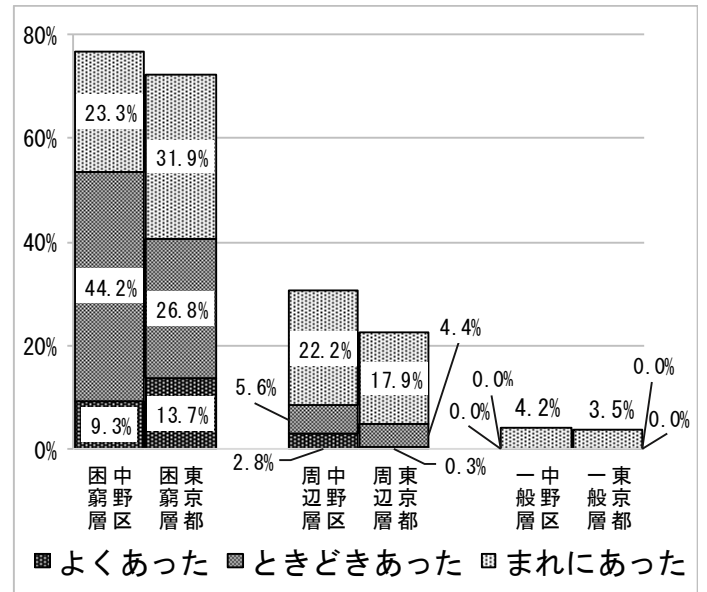
中野区小学生② (\*\*\*)

東京都小学5年生 (\*\*\*)



中野区中学生 (\*\*\*)

東京都中学2年生 (\*\*\*)



<sup>2</sup>生活困難度別のサンプル数は以下のとおり。以降、全ての生活困難度別図表は同じ。

(未就学児) 困窮層 65 周辺層 204 一般層 2,237

(小学生①) 困窮層 49 周辺層 95 一般層 1,151

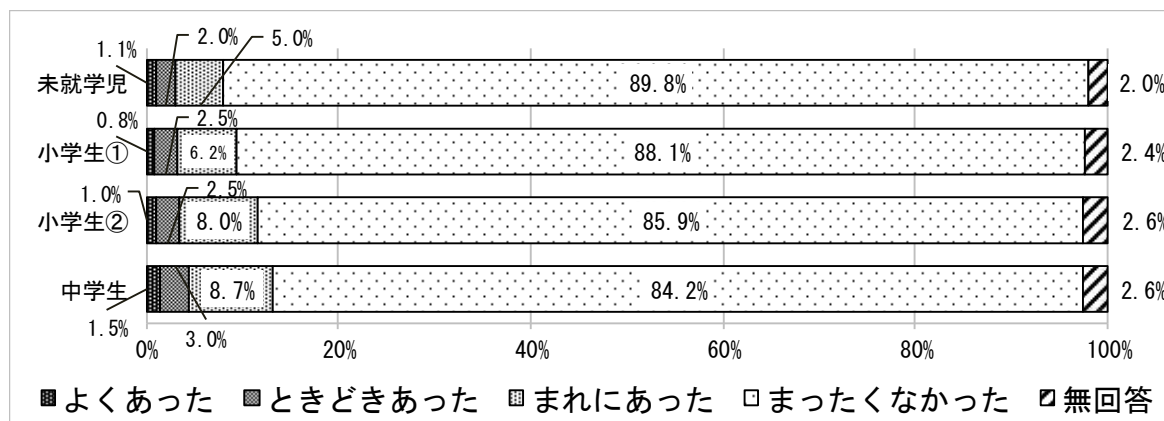
(小学生②) 困窮層 33 周辺層 63 一般層 763

(中学生) 困窮層 43 周辺層 72 一般層 659

## (2) 衣類を買えなかった経験

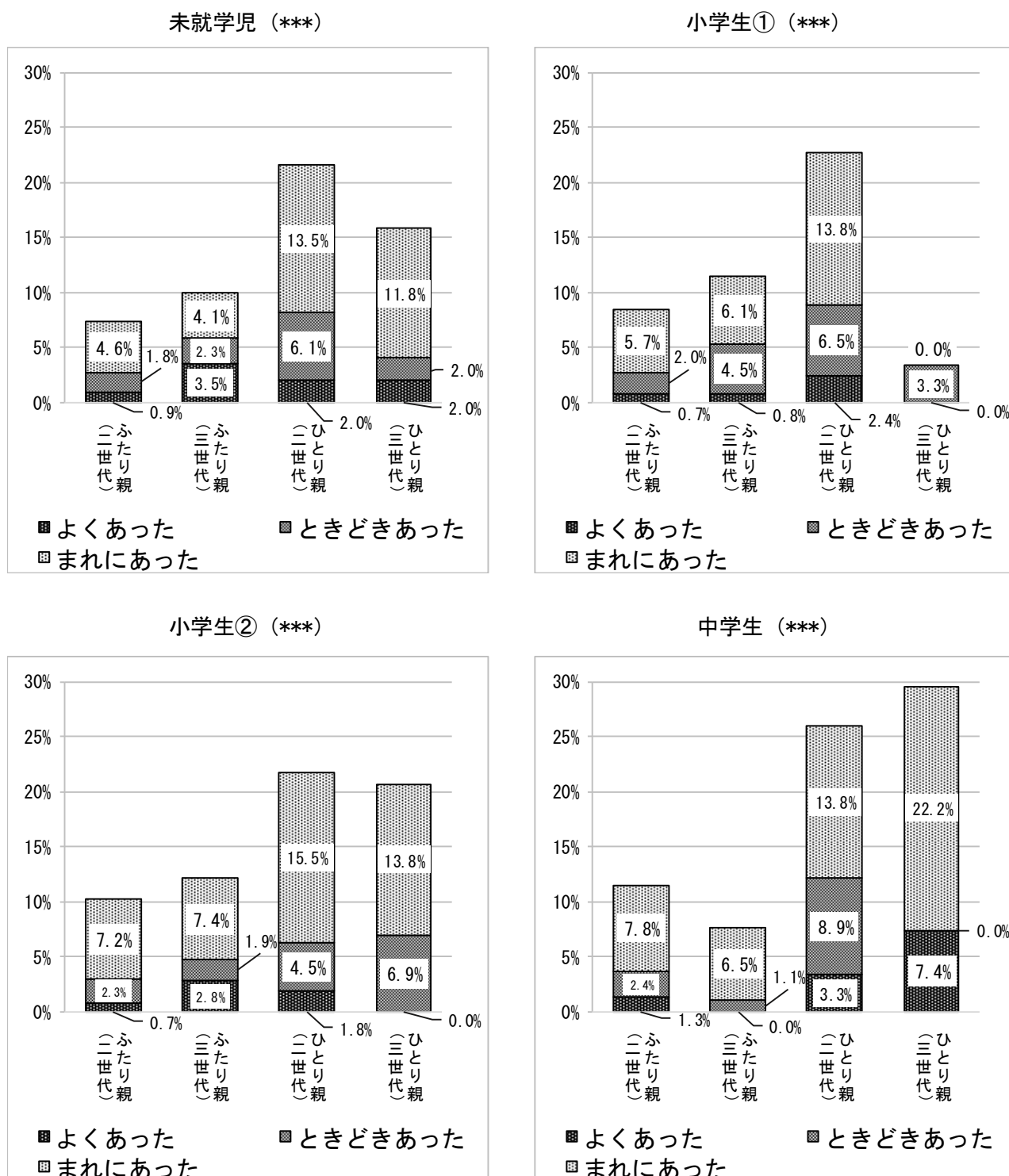
子どもの保護者に「過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか」と聞いた。どの年齢層においても、8割以上の保護者は、家族が必要とする衣類が買えなかったことは「まったくなかった」と答えている。しかし、中学生では約13%の保護者が衣類を買えなかった経験が「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」と答えており、年齢層が上がるにつれて高くなっている。

図表 2-1-4 衣類の困窮の経験：年齢層別



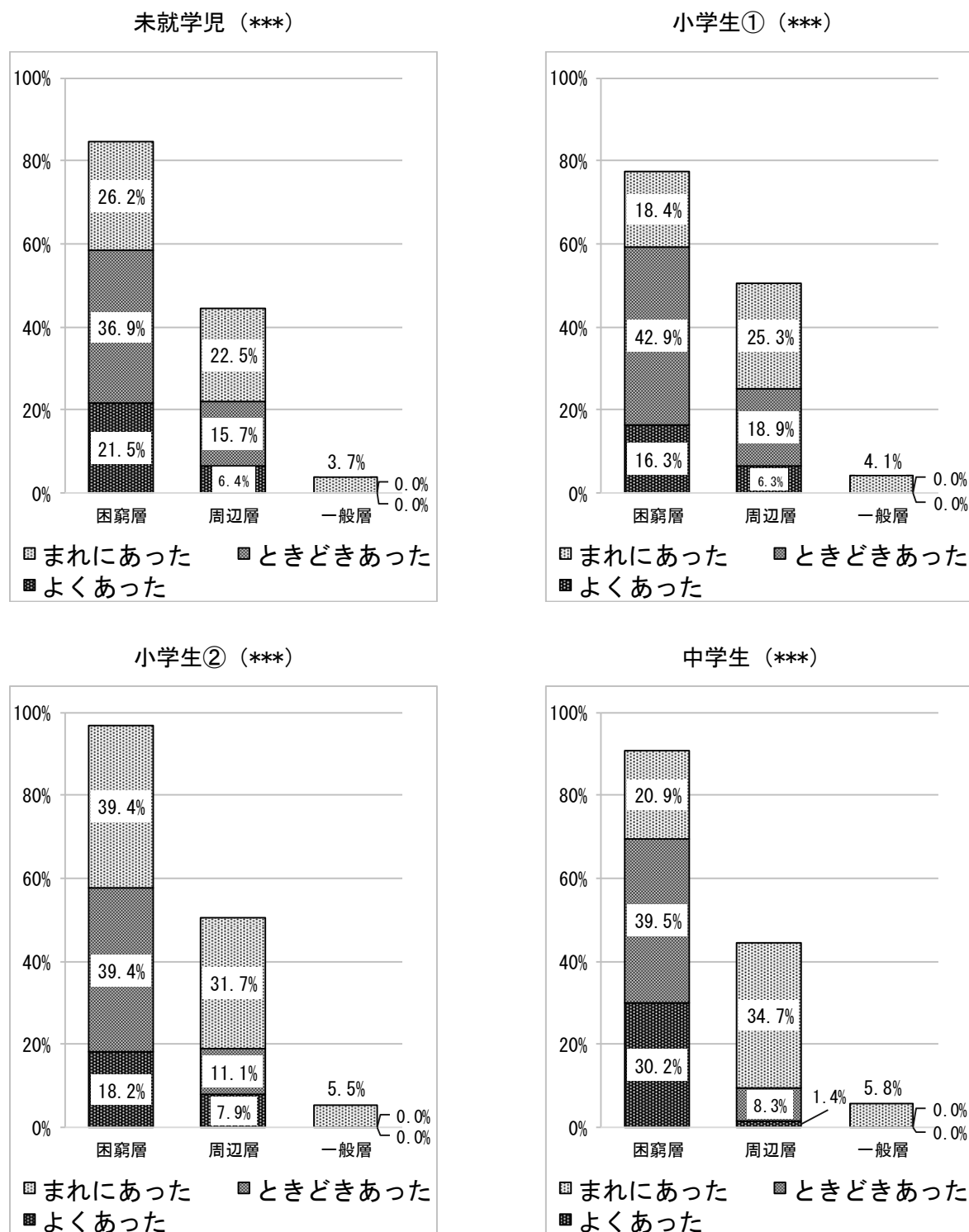
世帯タイプ別に見ると、ひとり親（二世帯）世帯における衣類の困窮の度合いは、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせると2割以上となっており、この世帯タイプの約4～5人に1人の子どもが衣類の困窮を経験している。ひとり親（三世帯）世帯については、中学生の衣類の困窮の度合いが高く、小学生①では低いが、これは各世帯タイプのサンプル数が少ないことにも関係していると考えられる。未就学児、小学生①、小学生②では、ふたり親世帯であっても、三世帯の世帯は二世帯の世帯よりも高い困窮の傾向が見られる。

図表 2-1-5 衣類の困窮の経験：世帯タイプ別



生活困難度別には、生活困難度の識別自体に本設問の項目が入っていることもあり、強い相関がみられる。困窮層においては、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせると、小学生①を除く年齢層で8割以上の世帯において衣類の困窮経験があり、小学生①でも8割弱であった。「よくあった」とする世帯に限ると、未就学児で21.5%、小学生①で16.3%、小学生②で18.2%、中学生で30.2%と高い割合となっており、困窮層では衣類が十分に確保できていない傾向にある。「よくあった」、「ときどきあった」とする世帯は、一般層ではどの年齢層でも0%である。

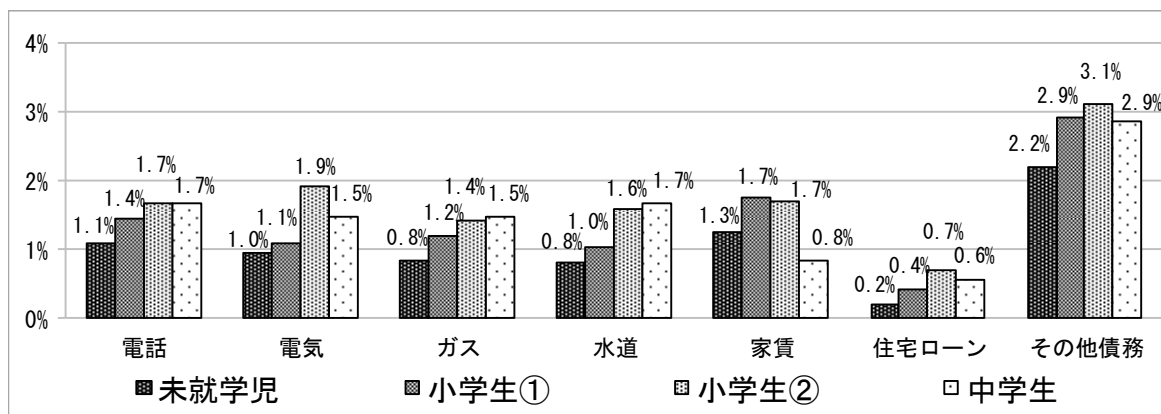
図表 2-1-6 衣類の困窮の経験：生活困難度別



### (3) 公共料金等の滞納経験

次に、過去1年間において、経済的な理由で、公共料金（電話、電気、ガス、水道）、「家賃」、「住宅ローン」及び「その他債務」について、支払えないことがあったかを聞いた。4つの公共料金、家賃については、どの年齢層においても、1%前後の世帯において滞納経験がある。「住宅ローン」は0.5%前後、「その他債務」は2～3%台の世帯に滞納経験がある（無回答を除く割合）。

図表 2-1-7 公共料金等の滞納経験：年齢層別

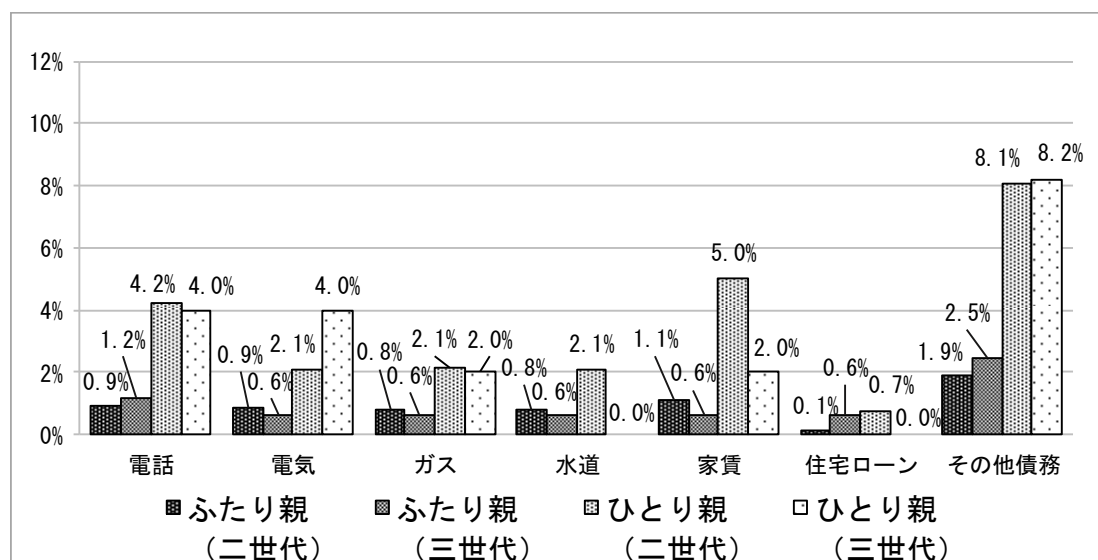


世帯タイプ別に見ると、ひとり親（二世帯）世帯の公共料金（電話、電気、ガス、水道）の滞納は未就学児では、電話が4.2%で最も高く、他の公共料金は2.1%、小学生①では、電話とガスが3.4%、電気と水道が1.7%、小学生②では、他の年齢層に比べて滞納率が高く4～6%台で推移している。中学生では、他の年齢層に比べ、ひとり親（三世帯）世帯の公共料金の滞納率が高い傾向にある。全ての年齢層でふたり親世帯よりもひとり親世帯での滞納率が高い傾向にある。

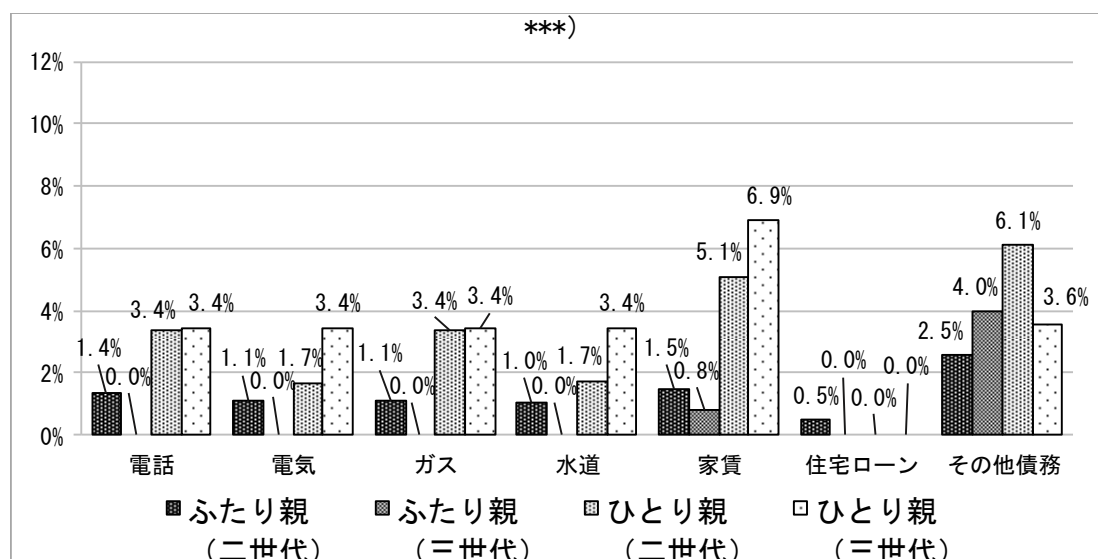
東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共にふたり親（二世帯）で全ての項目で中野区に比べて東京都の方が滞納経験がある世帯の割合が高い。また、中学生のひとり親（三世帯）の「水道」、「家賃」で中野区に比べて東京都の方が滞納経験がある世帯の割合が高く、他の項目、世帯タイプに比べて差が大きくなっている。

図表 2-1-8 公共料金等の滞納経験：世帯タイプ別

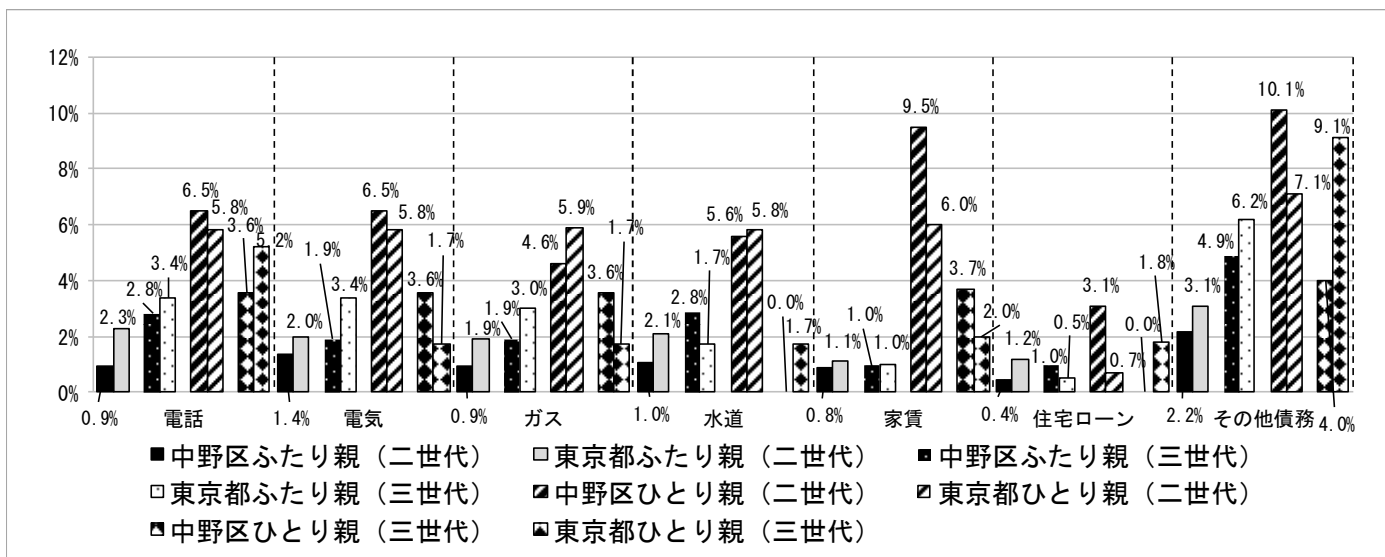
未就学児（住宅ローンのみ\*\*、その他の項目\*\*\*）



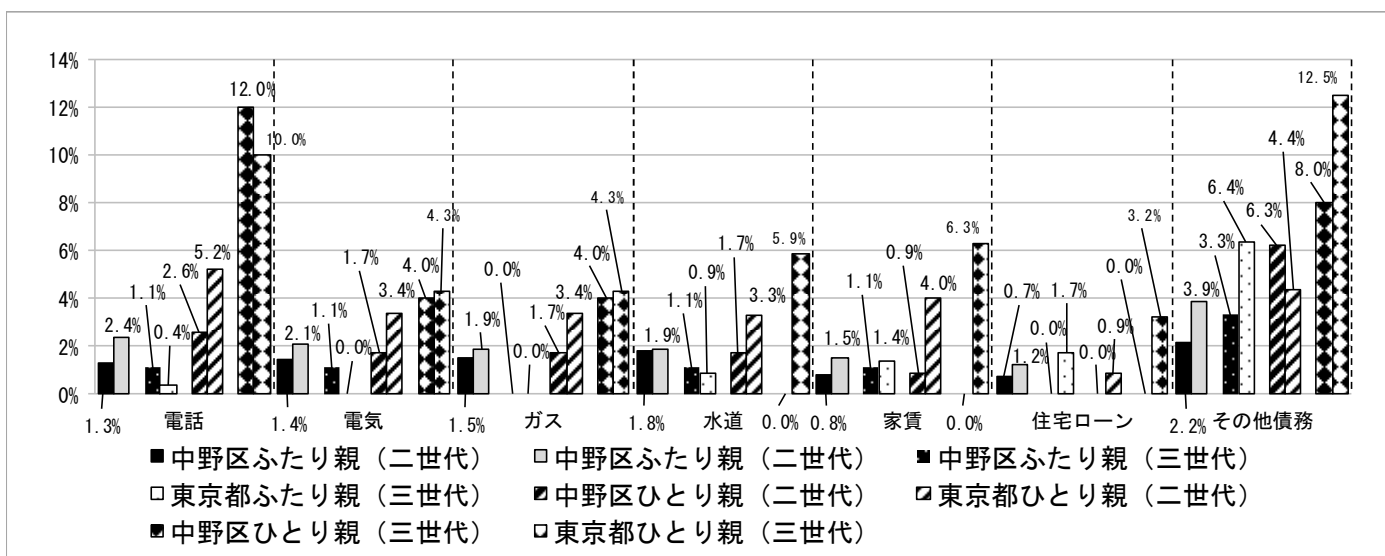
小学生①（電話X、その他の債務\*\*、その他の項目\*\*\*）



中野区小学生② (\*\*\*)全項目)  
東京都小学5年生 (\*\*\*)全項目)



中野区中学生 (電気、ガス、水道\*、家賃\*\*、その他の項目\*\*\*)  
東京都中学2年生 (ガスのみ\*\*、その他の項目\*\*\*)

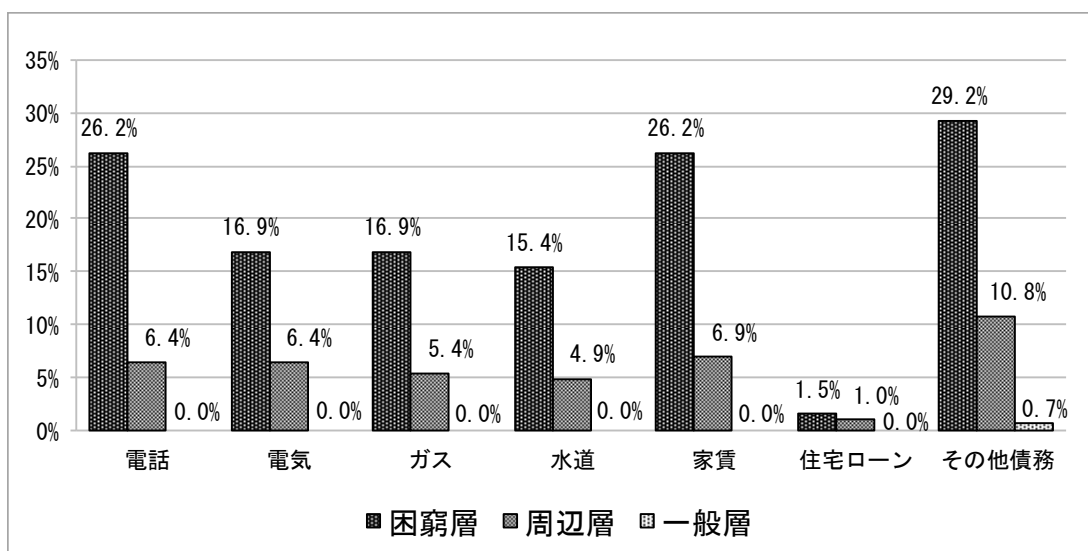


生活困難度別においては、生活困難度の識別自体に本設問の項目が入っていることもあり、強い相関がみられる。どの年齢層においても、困窮層では、1割以上の世帯において公共料金（電話、電気、ガス、水道）の滞納経験があり、特に小学生②で高い。一般層においては、公共料金の滞納経験は全て0%である。

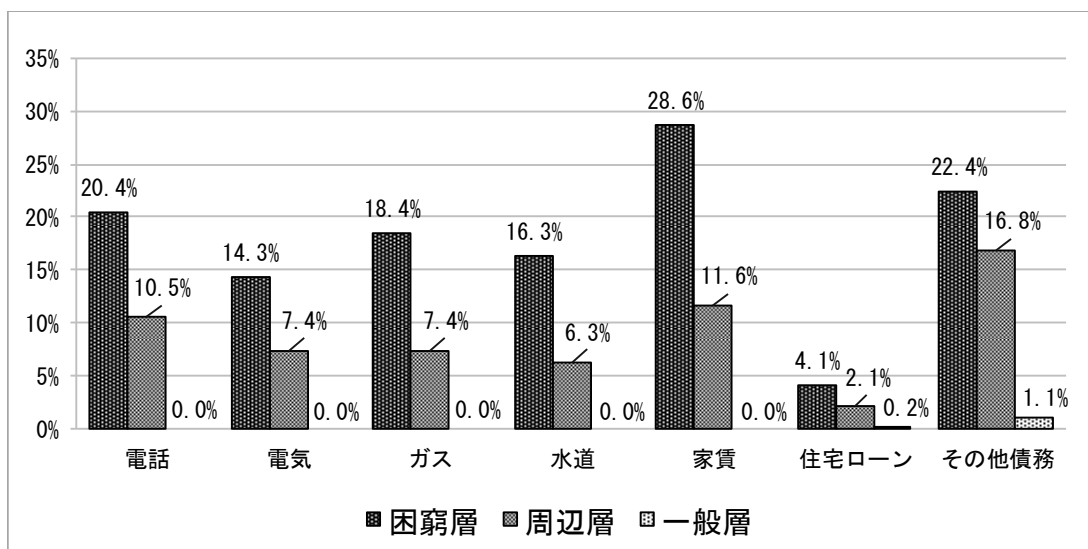
東京都との比較を見ると、公共料金は困窮層以外では中野区に比べて東京都の方が料金の滞納経験は少なく、小学生②の困窮層では、「家賃」が他の項目に比べて差があり、中野区が33.3%に対し、東京都では20.1%と中野区の方が13.2ポイント高くなっているが、「ガス」、「水道」、「住宅ローン」では中野区に比べて東京都の方が料金の滞納経験がある。中学生の困窮層では、全ての項目で中野区に比べて東京都の方が料金の滞納経験があり、小学生②の困窮層で差のあった「家賃」は中学生になると中野区が7.0%に対し、東京都が18.7%と東京都の方が11.7ポイント高くなっている。

図表 2-1-9 公共料金等の滞納経験：生活困難度別（小学生②、中学生は東京都との比較）

未就学児（\*\*\*全項目）

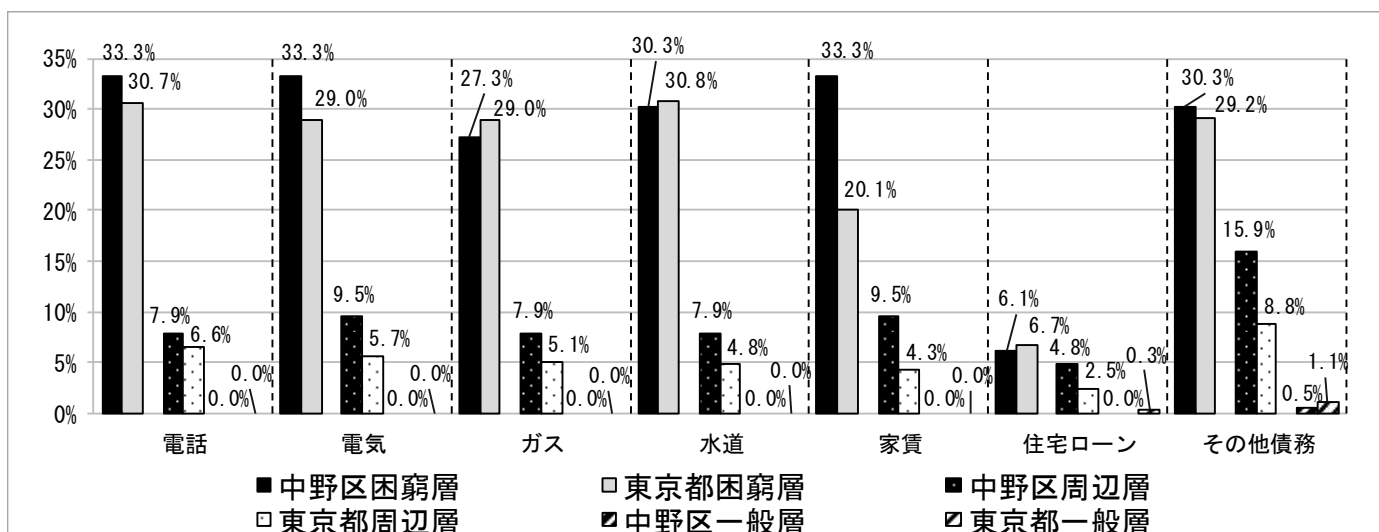


小学生①（\*\*\*全項目）

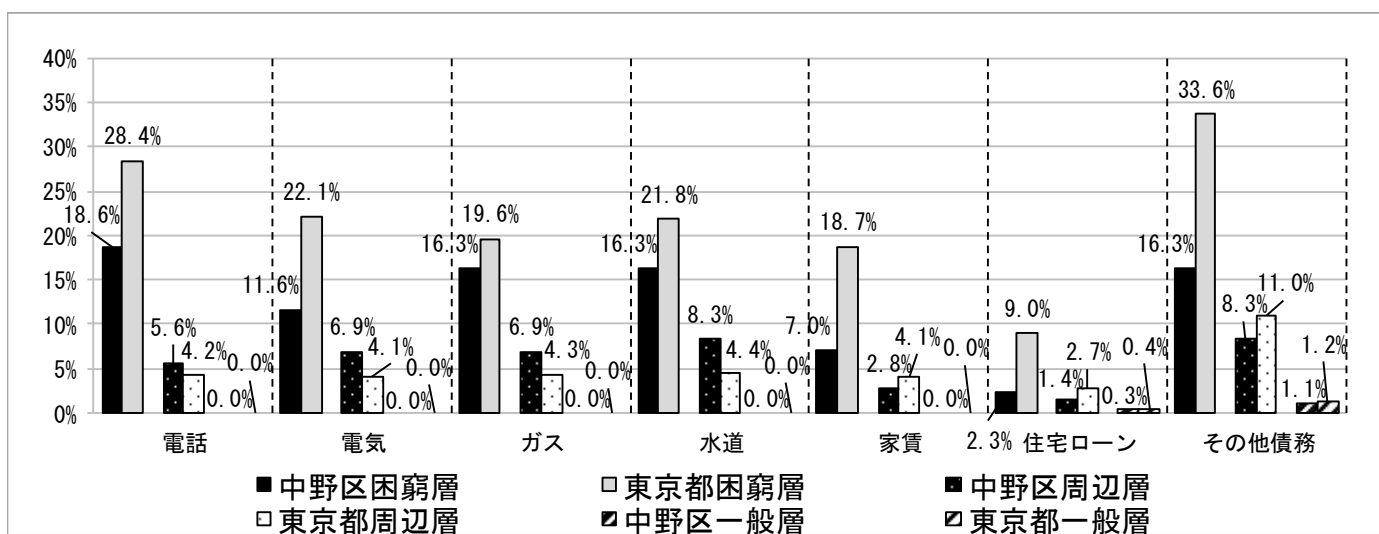




中野区小学生② (\*\*全項目)  
東京都小学5年生 (\*\*全項目)



中野区中学生 (\*\*全項目)  
東京都中学2年生 (\*\*全項目)



#### (4) 物品の所有状況

家庭において広く普及している耐久財などについて、それらの有無を保護者に聞いた。その結果、洗濯機、炊飯器、掃除機、暖房機器、冷房機器、電子レンジ、世帯専用の風呂については、欠如している世帯に属する子どもの割合は1%以下であった。しかし、「電話（固定電話・携帯電話を含む）」については、未就学児で1.1%と1%を超えており、「世帯人数分のベッドまたは布団」については約2～4%、「インターネットにつながるパソコン」については2～3%、「新聞の定期購読（ネット含む）」については12～15%、「急な出費のための貯金（5万円以上）」については5～9%の世帯で欠如している。

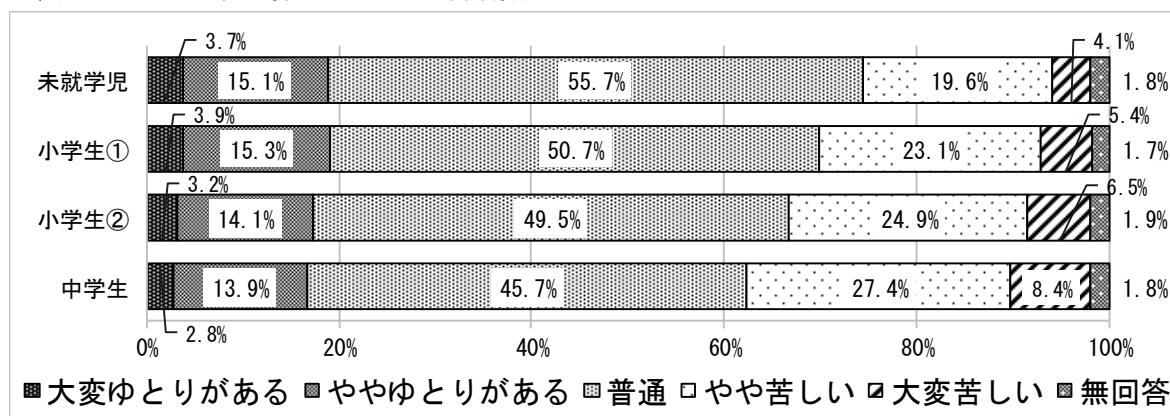
図表 2-1-10 家庭における物品が欠如している割合：年齢層別

	【未就学児】	【小学生①】	【小学生②】	【中学生】
洗濯機	0.3%	0.2%	0.3%	0.3%
炊飯器	0.5%	0.3%	0.5%	0.4%
掃除機	0.5%	0.4%	0.2%	0.4%
暖房機器	0.4%	0.4%	0.3%	0.2%
冷房機器	0.5%	0.3%	0.7%	0.6%
電子レンジ	0.4%	0.4%	0.3%	0.3%
電話（固定電話・携帯電話を含む）	1.1%	0.7%	0.8%	0.9%
インターネットにつながるパソコン（タブレットを含む）	3.0%	2.3%	2.4%	2.5%
新聞の定期購読（ネット含む）	14.0%	12.6%	12.8%	14.9%
世帯専用のお風呂	0.6%	0.5%	0.4%	0.7%
世帯人数分のベッドまたは布団	2.5%	2.6%	2.4%	3.8%
急な出費のための貯金（5万円以上）	5.7%	8.0%	7.9%	8.4%

#### (5) 暮らし向き

保護者に、「現在の暮らしの状況をどのように感じていますか」と聞いたところ、未就学児では18.8%、小学生①では19.2%、小学生②では17.3%、中学生では16.7%の保護者が「大変ゆとりがある」、「ややゆとりがある」と答えている。一方で、未就学児では23.7%、小学生①では28.5%、小学生②では31.4%、中学生では35.8%の保護者が「やや苦しい」、「大変苦しい」と答えており、苦しいと感じる保護者の割合は、子どもの年齢が高くなるほど増える傾向がある。

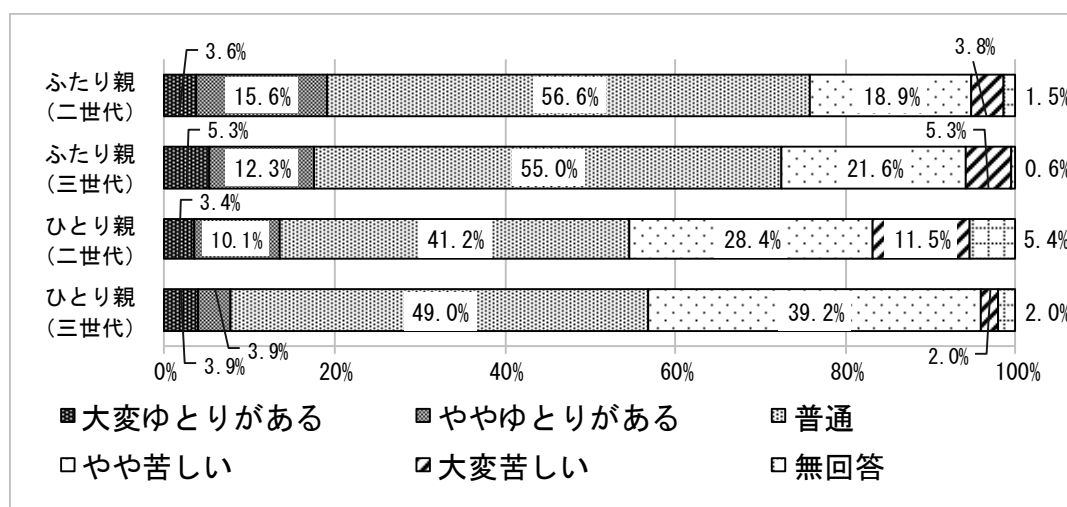
図表 2-1-11 主観的暮らし向き：年齢層別



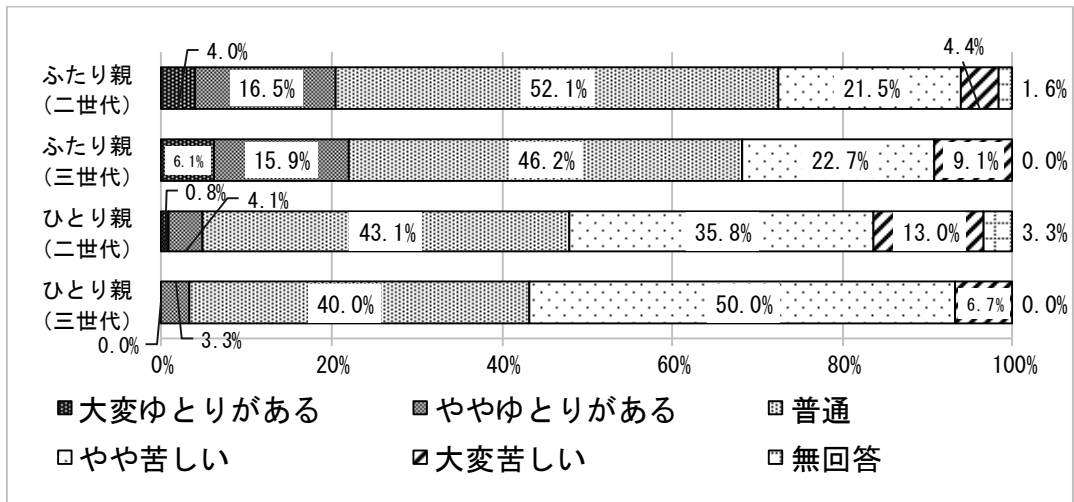
世帯タイプ別に見ると、「やや苦しい」、「大変苦しい」と回答した保護者の割合は、ふたり親世帯よりひとり親世帯の方が高い。しかし、ふたり親（二世帯）世帯においては未就学児では3.8%、小学生①では4.4%、小学生②では5.5%、中学生では7.6%が「大変苦しい」と答えており、どの世帯タイプにおいても主観的暮らし向きが厳しい世帯が存在する。

図表 2-1-12 主観的暮らし向き：世帯タイプ別

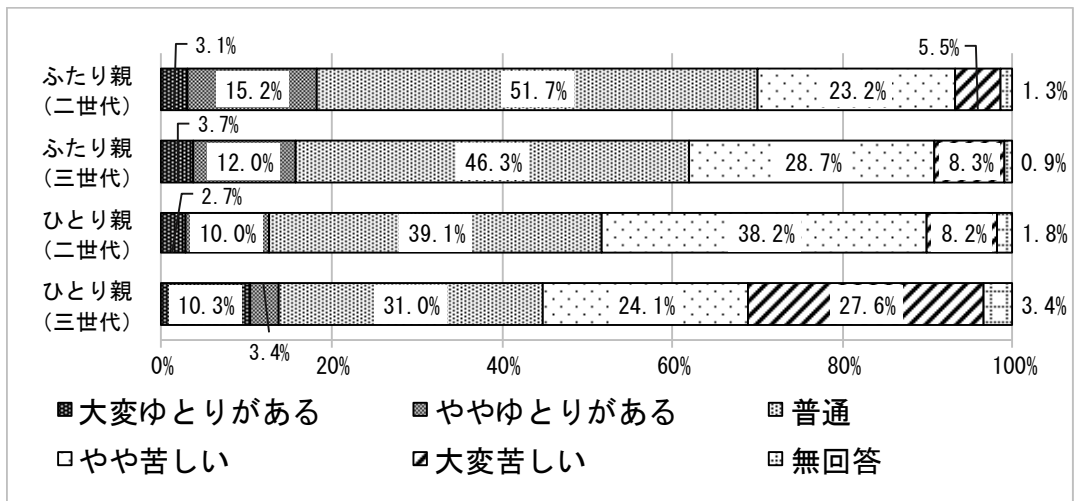
未就学児 (\*\*\*)



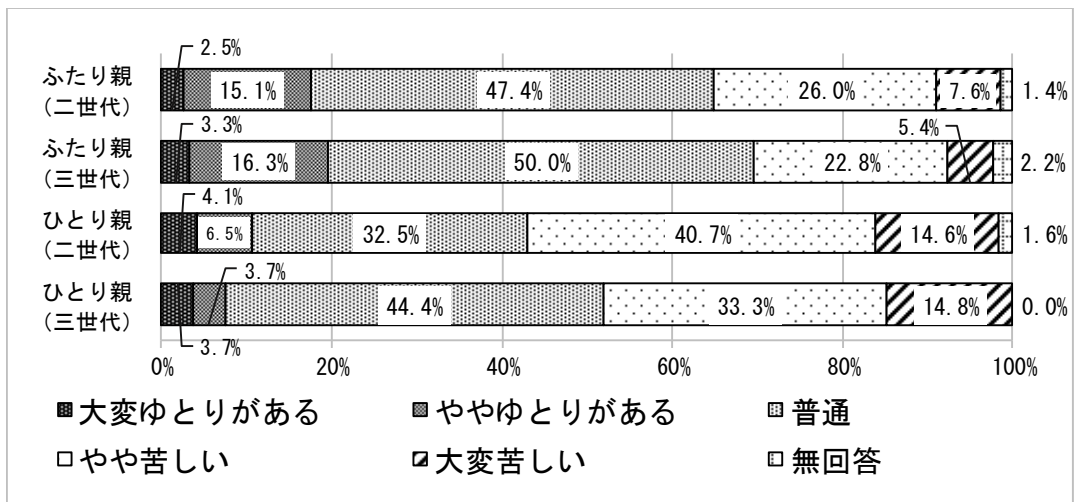
小学生① (\*\*\*)



小学生② (\*\*\*)

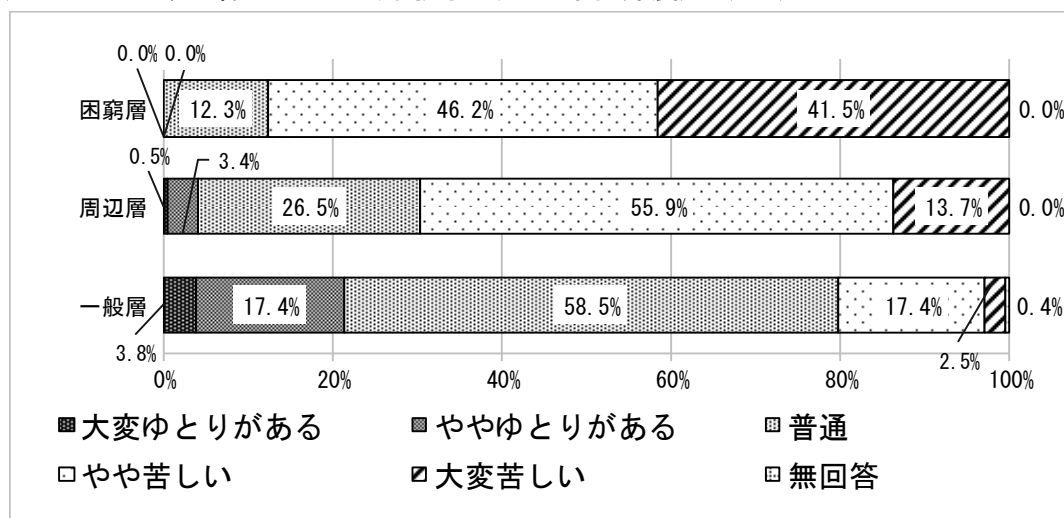


中学生 (\*\*\*)



未就学児の生活困難度別に見ると、困窮層の41.5%が「大変苦しい」と回答しており、「やや苦しい」を合わせると87.7%が「苦しい」としている。一方、一般層においては2.5%の保護者が「大変苦しい」と回答している。この傾向は小学生①、小学生②、中学生においても同様の傾向が確認された。

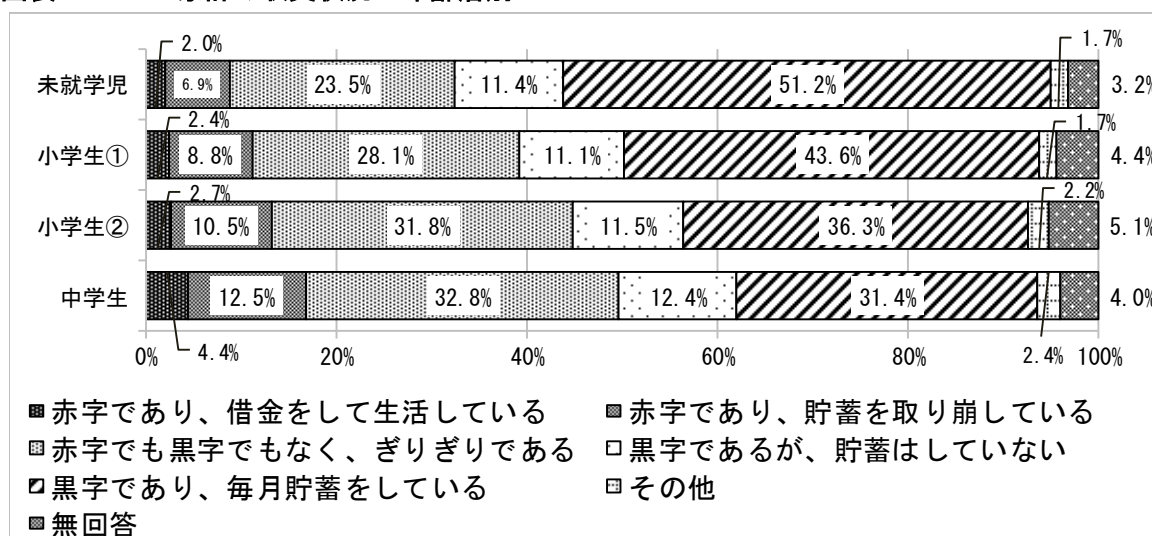
図表 2-1-13 主観的暮らし向き（未就学児）：生活困難度別（\*\*\*）



(6) 家計の収支状況

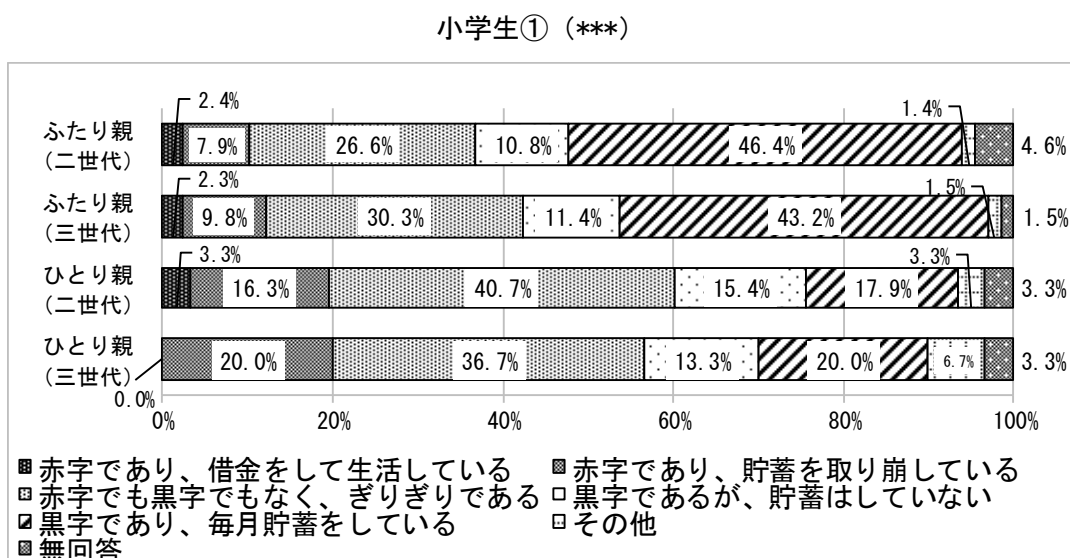
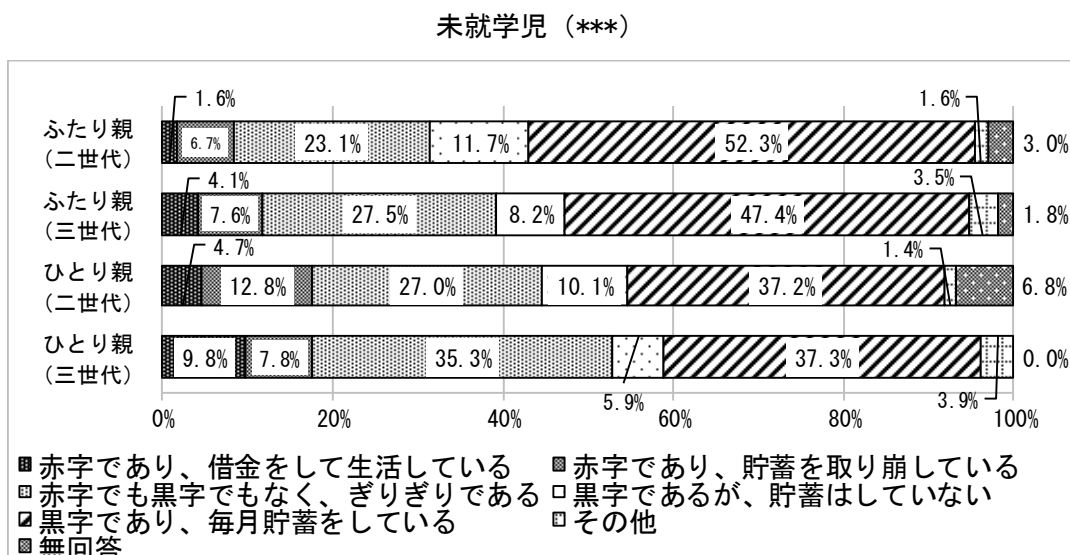
世帯における家計の状況について、保護者に聞いた。どの年齢層も、約2～5%の保護者が「赤字であり、借金をして生活している」と回答している。また、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」と回答した保護者は小学生②、中学生で1割を超えており、年齢の高い子どもの保護者の方が家計の収支が赤字である傾向がある。「黒字であり、毎月貯蓄している」とした保護者は、未就学児で51.2%、小学生①で43.6%、小学生②で36.3%、中学生で31.4%である。

図表 2-1-14 家計の収支状況：年齢層別

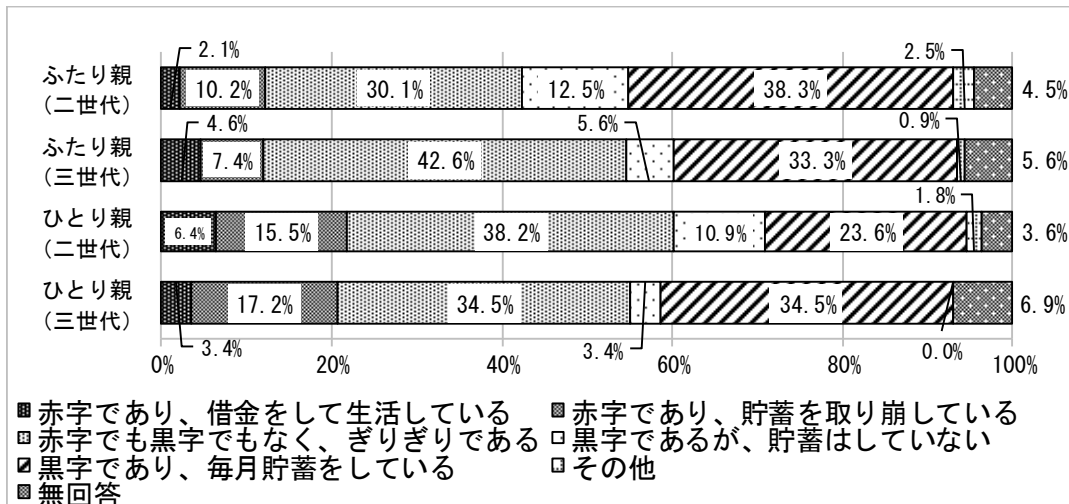


世帯タイプ別では、全ての年齢層で統計的に有意な差がある。全ての年齢層でふたり親世帯よりひとり親世帯で家計の収支が赤字の割合が高い。

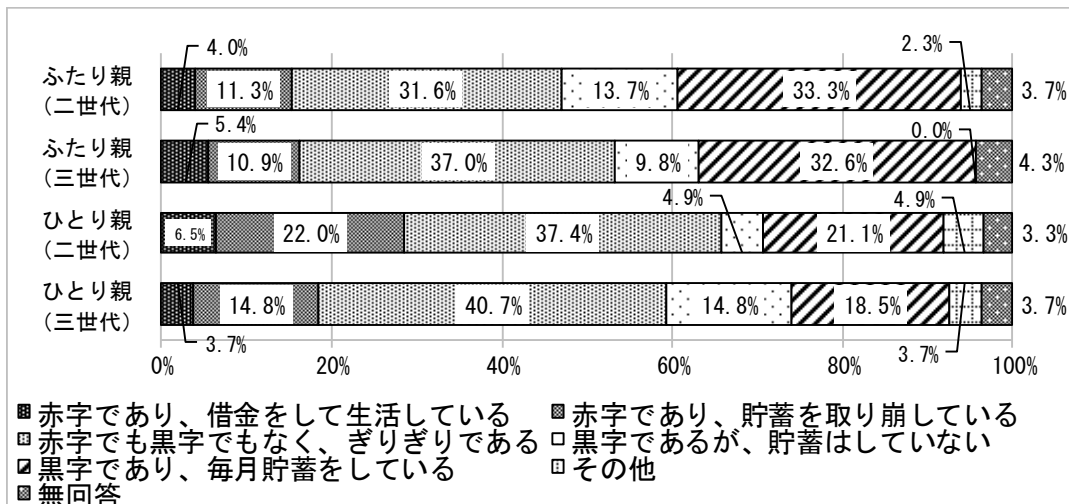
図表 2-1-15 家計の収支状況：世帯タイプ別



### 小学生② (\*\*\*)



### 中学生 (\*\*\*)

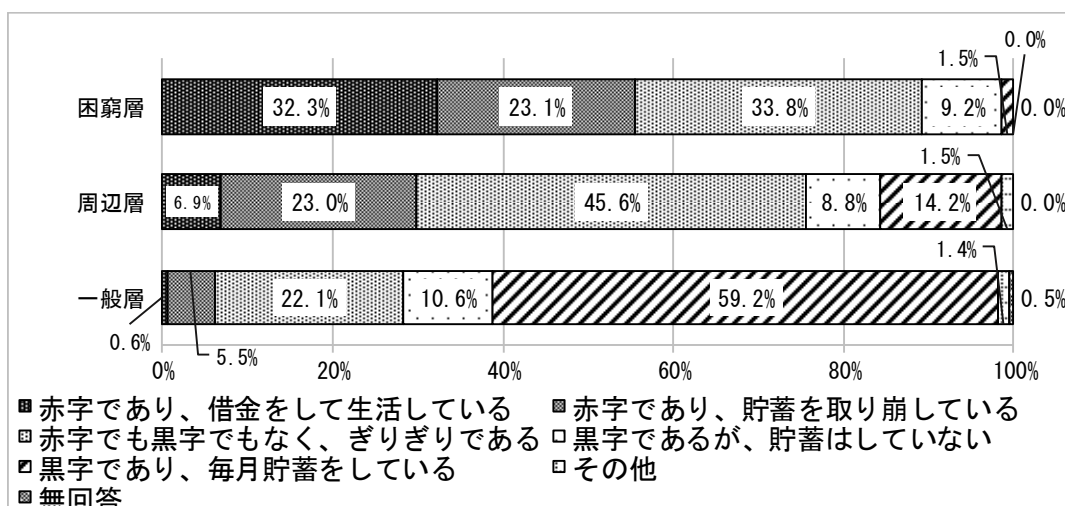


世帯における家計の状況を生活困難度別に見ると、全ての年齢層で一般層では黒字である割合が5割を超えているのに対し、困窮層では赤字の世帯が5割を超えており、家計の収支の状況が大きく異なることがわかる。借金をして生活している割合も、未就学児では、一般層が0.6%であるの比べ、困窮層では32.3%となっており全ての年齢層で同様の傾向となっている。また、周辺層でも借金、もしくは貯金の取り崩しをしている割合が約3～5割である。また、全ての年齢層で統計的に有意な差がある。

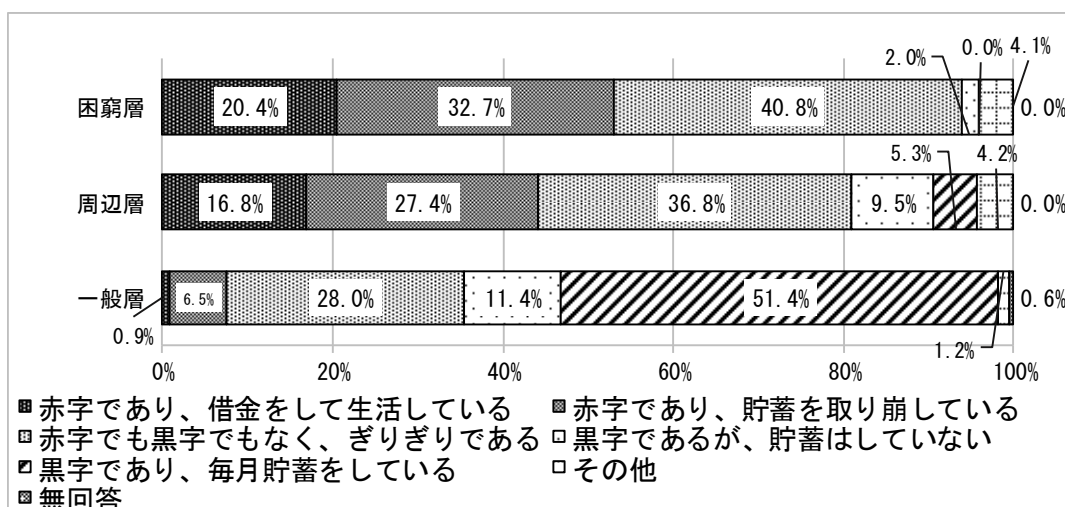
東京都との比較を見ると、小学生②で特に差の大きい項目は、周辺層では「赤字であり、借金をして生活している」、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」、「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」で東京都に比べて中野区の方が高く、一般層の「赤字であり、借金をして生活している」や困窮層・周辺層の「黒字であり、毎月貯蓄をしている」では中野区に比べて東京都の方が高くなっている。中学生で特に差の大きい項目は、困窮層では「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」、周辺層では「赤字であり、借金をして生活している」で東京都に比べて中野区の方が高く、困窮層の「赤字であり、借金をして生活している」、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」、周辺層の「黒字であり、毎月貯蓄をしている」は中野区に比べて東京都の方が高くなっている。

図表 2-1-16 家計の収支状況：生活困難度別（小学生②、中学生は東京都との比較）

未就学児 (\*\*\*)

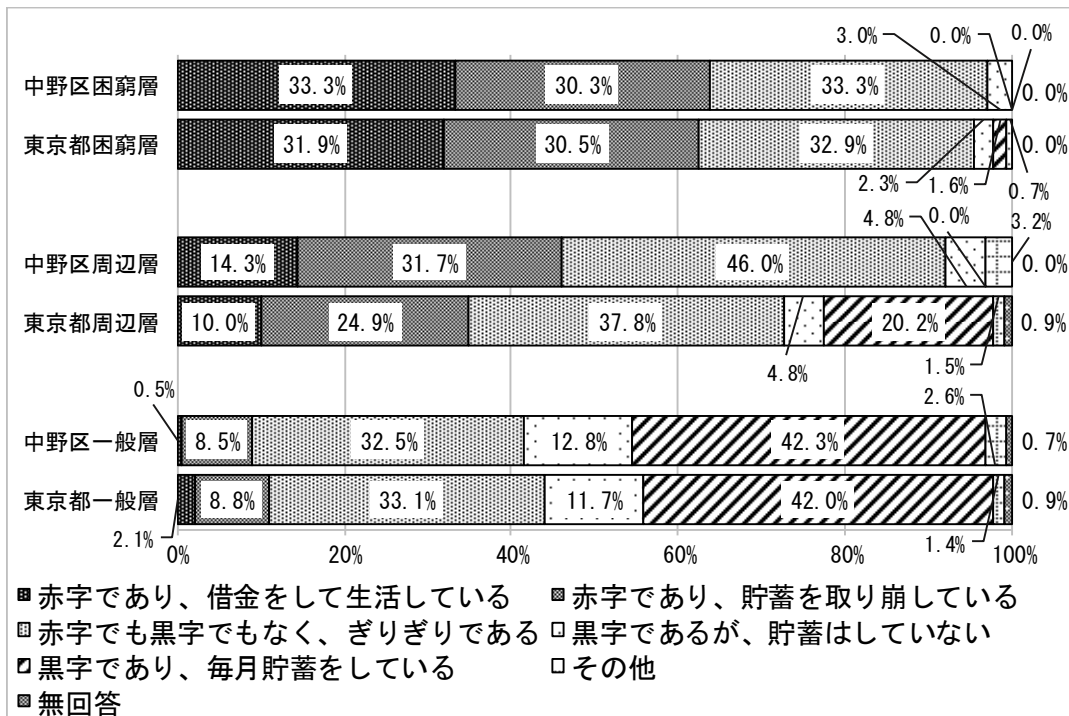


小学生① (\*\*\*)

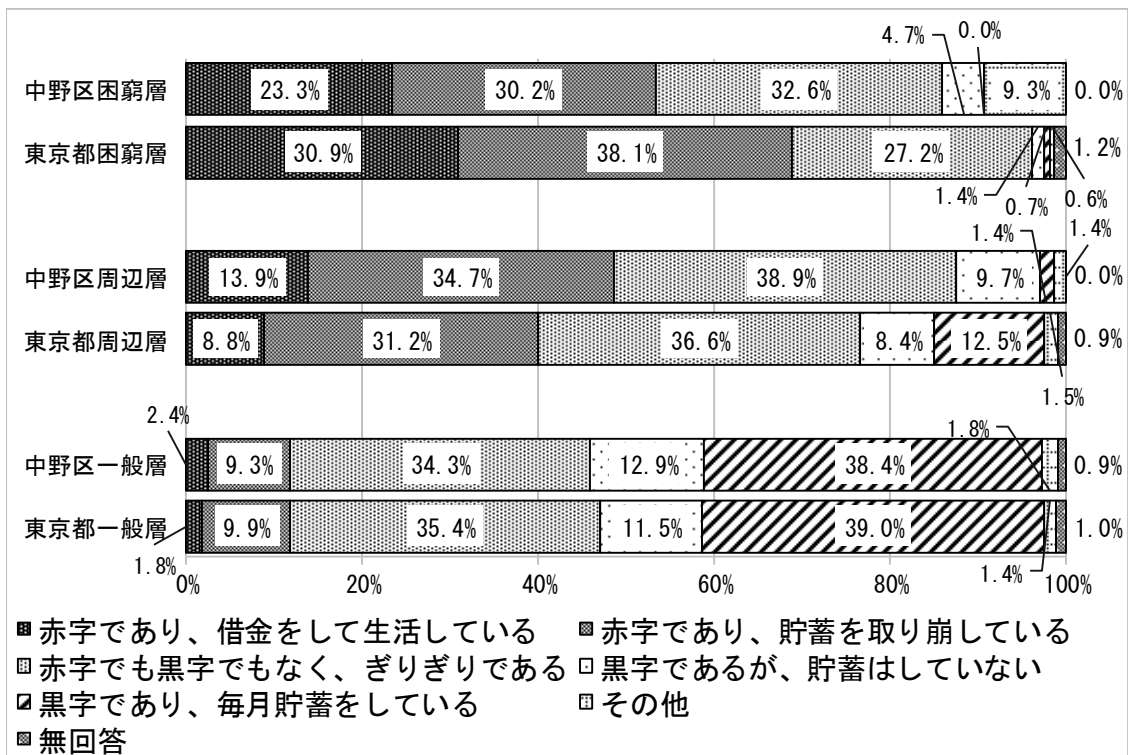




中野区小学生② (\*\*\*)  
東京都小学5年生 (\*\*\*)



中野区中学生 (\*\*\*)  
東京都中学2年生 (\*\*\*)



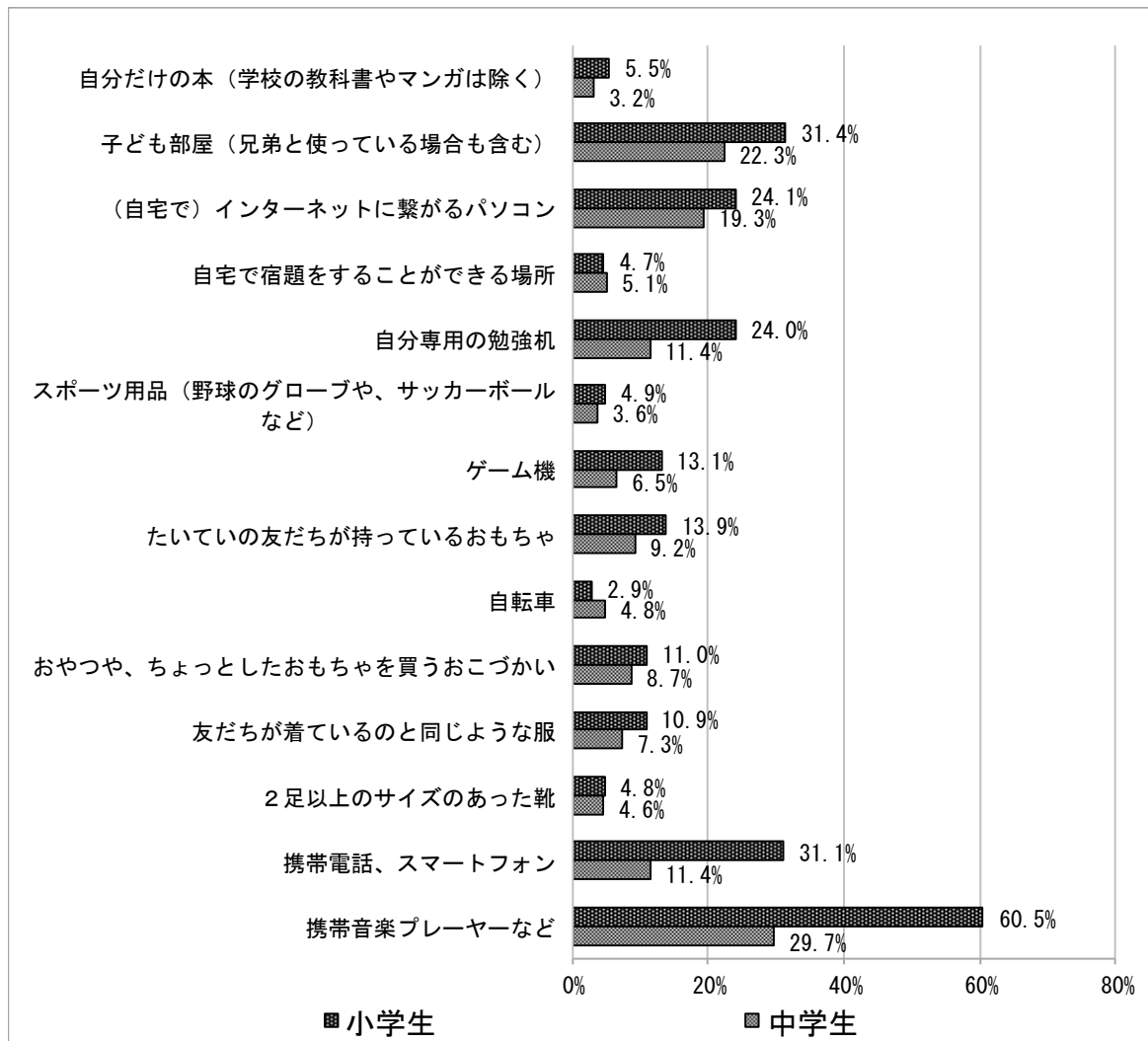
## 2 子どもの生活水準

### (1) 子どもの所有物の欠如

子ども本人に、現在の日本において多くの子どもが所有している物品等について、「ある」、「ない（欲しい）」、「ない（欲しくない）」の選択肢で所有状況を聞いた。回答から、それぞれの項目の「欲しいが、持っていない」割合（＝（「ない（欲しい）」と回答した人数／（（「ある」と回答した人数及び「ない（欲しい）」と回答した人数））を計算した。

小学生と中学生では、「携帯音楽プレーヤーなど」（小学生60.5%、中学生29.7%）、「子ども部屋」（小学生31.4%、中学生22.3%）、「携帯電話、スマートフォン」（小学生31.1%、中学生11.4%）、「インターネットに繋がるパソコン」（小学生24.1%、中学生19.3%）、「自分専用の勉強机」（小学生24.0%、中学生11.4%）について「欲しいが、持っていない」の割合が高かった。

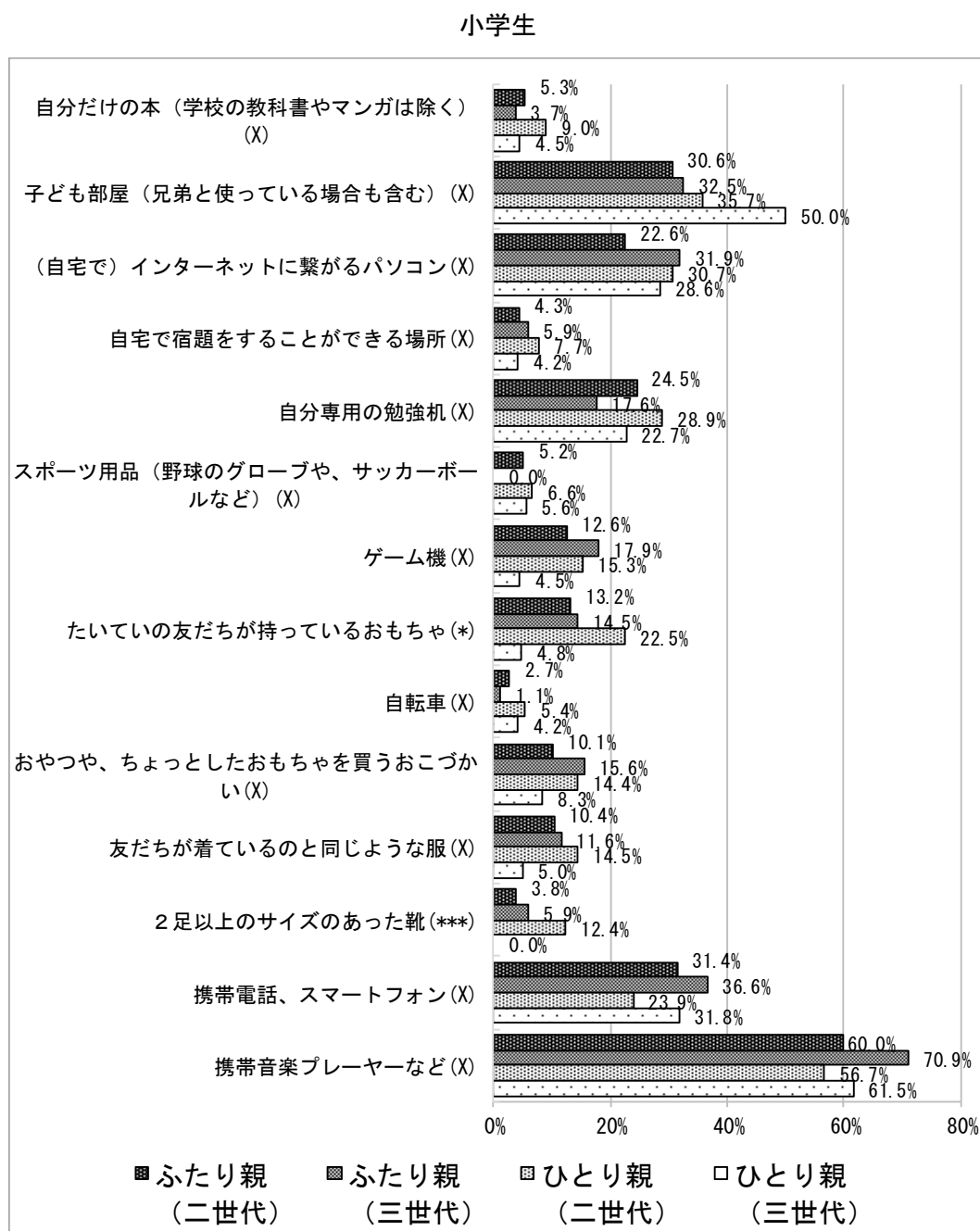
図表 2-2-1 所有物の状況（欲しいが、持っていない割合※）：年齢層別



※ 「ない（欲しくない）」、「無回答」を分母から除いた割合

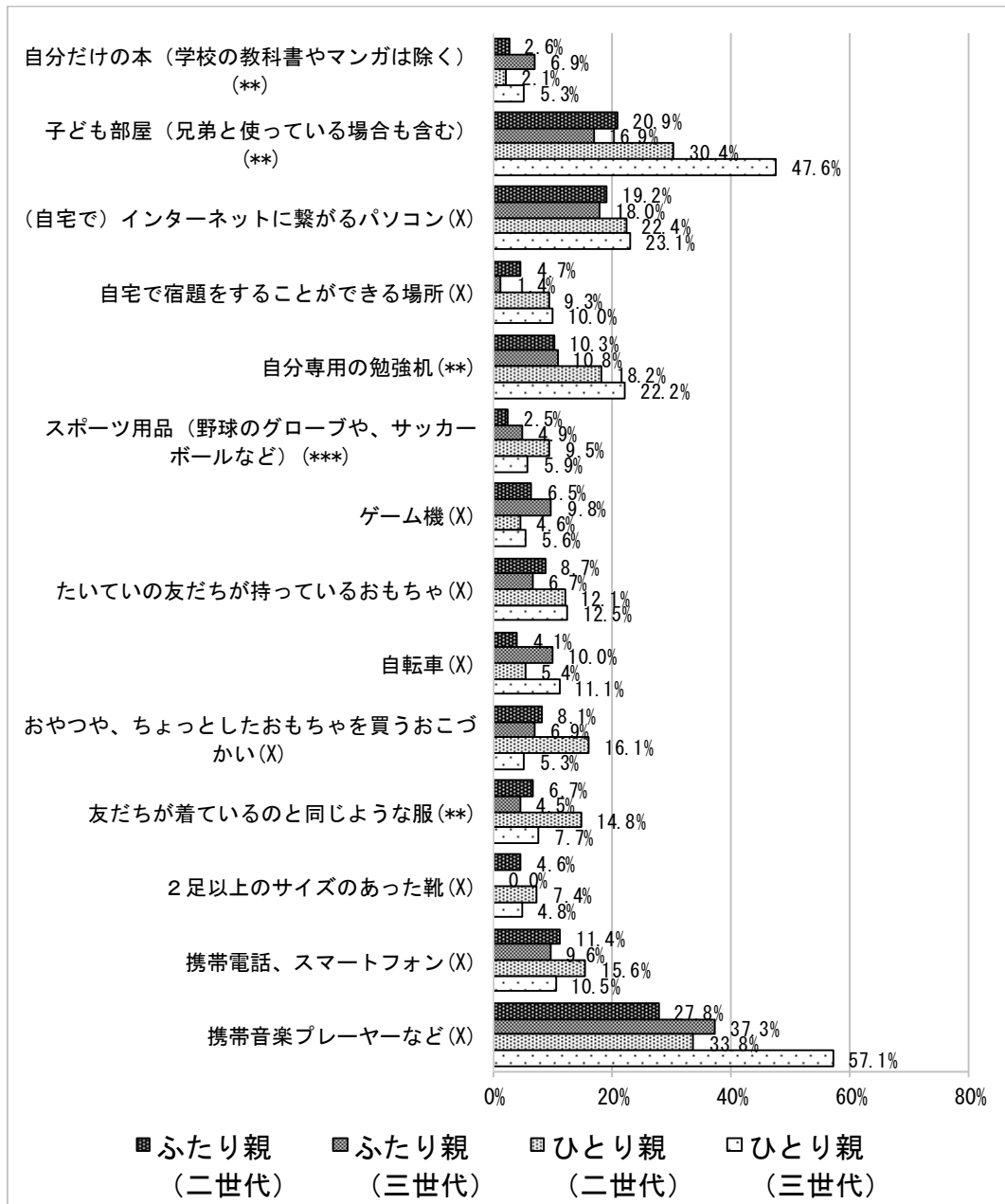
物品の「欲しいが、持っていない」割合を、世帯タイプ別に見ると、小学生においては「たいていの友だちが持っているおもちゃ」、「2足以上のサイズのあった靴」にて統計的に有意な差があった。おおむねひとり親（二世帯）世帯の子どもにおいて「欲しいが、持っていない」割合が高い傾向にある。中学生においては、「自分だけの本」、「子ども部屋」、「自分専用の勉強机」、「スポーツ用品」、「友だちが着ているのと同じような服」にて統計的に有意な差があり、ここでもひとり親（二世帯、三世帯）世帯の割合が高い傾向にある。

図表 2-2-2 所有物の状況（欲しいが、持っていない割合※）：世帯タイプ別



※「ない（欲しくない）」、「無回答」を分母から除いた割合

## 中学生



※「ない (欲しくない)」、「無回答」を分母から除いた割合

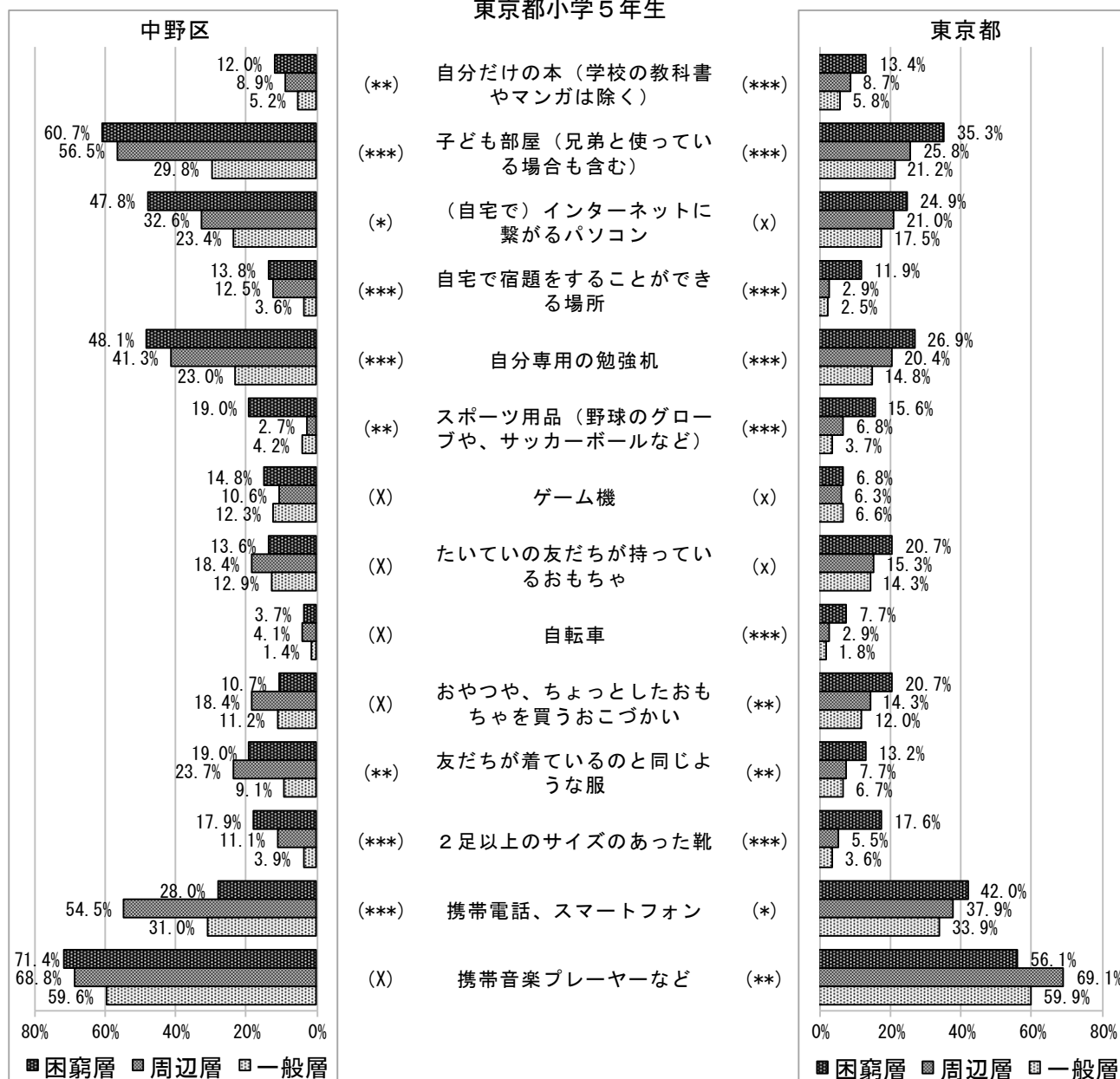
生活困難度別に見ると、小学生では、「自分だけの本」、「子ども部屋」、「(自宅で) インターネットに繋がるパソコン」、「自宅で宿題をすることができる場所」、「自分専用の勉強机」、「スポーツ用品」、「友だちが着ているのと同じような服」、「2足以上のサイズのあった靴」、「携帯電話、スマートフォン」などにおいて統計的に有意な差が見られた。中学生では、全ての項目において統計的に有意な差が見られた。なかでも「(自宅で) インターネットに繋がるパソコン」、「子ども部屋」、「携帯音楽プレーヤーなど」、「自分専用の勉強机」などについて、生活困難度別の差が大きい。

東京都との比較を見ると、小学生で特に差の大きい項目は、困窮層では「子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）」、「（自宅で）インターネットに繋がるパソコン」、「自分専用の勉強机」、周辺層では「子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）」、「自分専用の勉強机」で東京都に比べて中野区の方が高く、困窮層の「おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい」、「携帯電話、スマートフォン」は中野区に比べて東京都の方が高くなっている。中学生で特に差の大きい項目は、困窮層では「子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）」、「（自宅で）インターネットに繋がるパソコン」、「自分専用の勉強机」、周辺層では「子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）」で東京都に比べて中野区の方が高く、一般層の「携帯電話、スマートフォン」は中野区に比べて東京都の方が高くなっている。

図表 2-2-3 所有物の状況（欲しいが、持っていない割合※）：生活困難度別  
（東京都との比較）

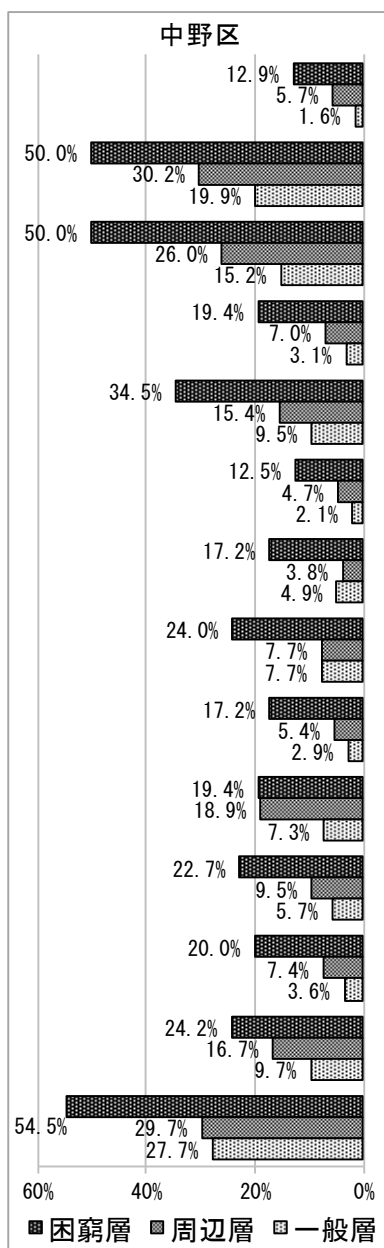
中野区小学生

東京都小学5年生

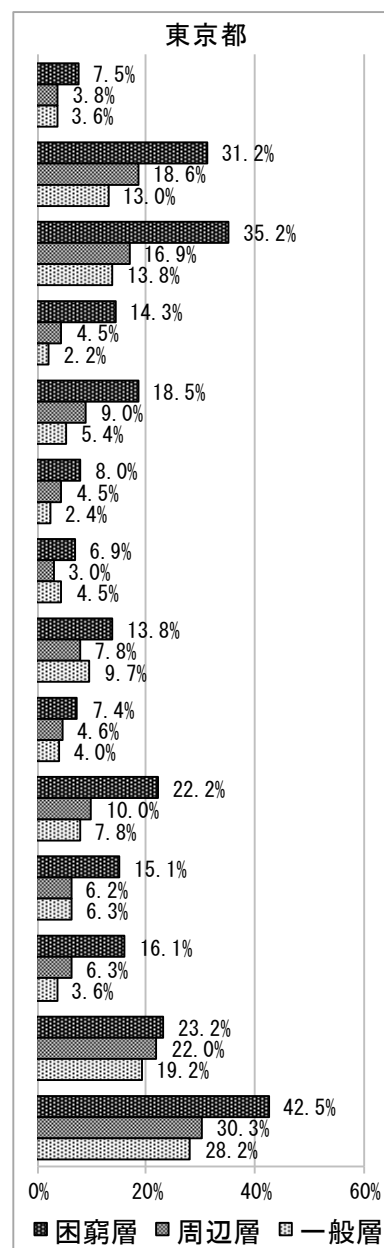


※「ない（欲しくない）」、「無回答」を分母から除いた割合

中野区中学生  
東京都中学2年生



- (\*\*\*) 自分だけの本 (学校の教科書やマンガは除く) (\*\*)
- (\*\*\*) 子ども部屋 (兄弟と使っている場合も含む) (\*\*\*)
- (\*\*\*) (自宅で) インターネットに繋がるパソコン (\*\*\*)
- (\*\*\*) 自宅で宿題をすることができる場所 (\*\*\*)
- (\*\*\*) 自分専用の勉強机 (\*\*\*)
- (\*\*) スポーツ用品 (野球のグローブや、サッカーボールなど) (\*\*\*)
- (\*) ゲーム機 (x)
- (\*\*) たいていの友だちが持っているおもちゃ (\*\*)
- (\*\*\*) 自転車 (\*)
- (\*\*) おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい (\*\*\*)
- (\*\*\*) 友だちが着ているのと同じような服 (\*\*\*)
- (\*\*\*) 2足以上のサイズのあった靴 (\*\*\*)
- (\*\*) 携帯電話、スマートフォン (x)
- (\*) 携帯音楽プレーヤーなど (\*\*)



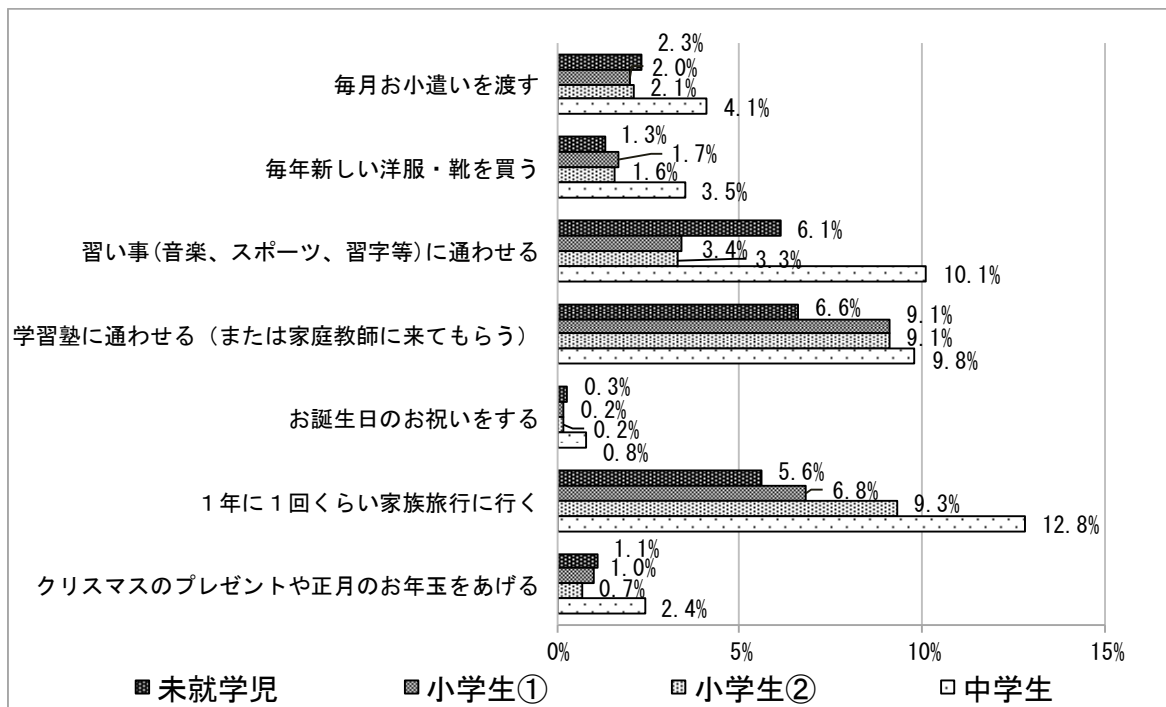
※「ない (欲しくない)」、「無回答」を分母から除いた割合

## (2) 子どもへの支出

保護者に、子どもに対して「毎月お小遣いを渡す」、「毎年新しい洋服・靴を買う」、「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」、「お誕生日のお祝いをする」、「1年に1回くらい家族旅行に行く」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」、「子どもの学校行事などへ親が参加する」ことをしているか聞いた。家庭の方針などで支出していない場合もあるので、回答は「している」、「していない（方針でない）」、「経済的にできない」の選択肢を用意した。「経済的にできない」と回答した保護者の割合を、図表 2-2-4 に示す。

保護者が子どもにしてあげたいのに「経済的にできない」とする割合が各年齢層において高い項目は、「1年に1回くらい家族旅行に行く」、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」であり、全ての年齢層で5%以上となっている。これらの割合は、年齢の高い子どもを持つ保護者の方が高く、中学生の保護者では、12.8%が「家族旅行」、10.1%が「習い事」、9.8%が「学習塾（家庭教師）」を「経済的にできない」と回答している。「毎年新しい洋服・靴を買う」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」、「お誕生日のお祝いをする」ことができないとする保護者は少ないものの、特に中学生の子どもを持つ保護者ほどこれらが支出できないとする割合が高い。

図表 2-2-4 「経済的にできない」子どものための支出：年齢層別



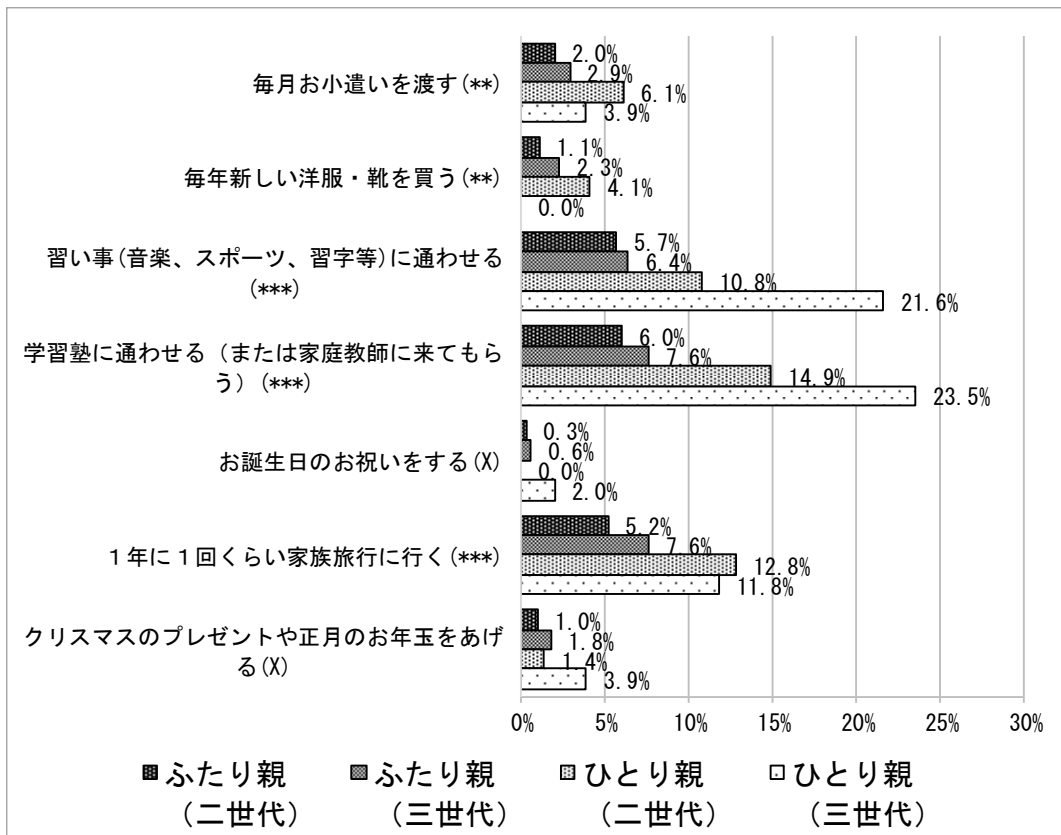
世帯タイプ別に見ると、未就学児については「お誕生日のお祝いをする」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」以外の項目について統計的に有意な差があり、小学生①については、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉」以外は統計的に有意な差があった。小学生②については、全ての項目について統計的に有意な差があり、中学生は「毎年新しい洋服・靴を買う」、「お誕生日のお祝いをする」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」以外の項目について統計的に有意な差があった。未就学児、小学生②、中学生はひとり親とふたり親の差

が大きい。

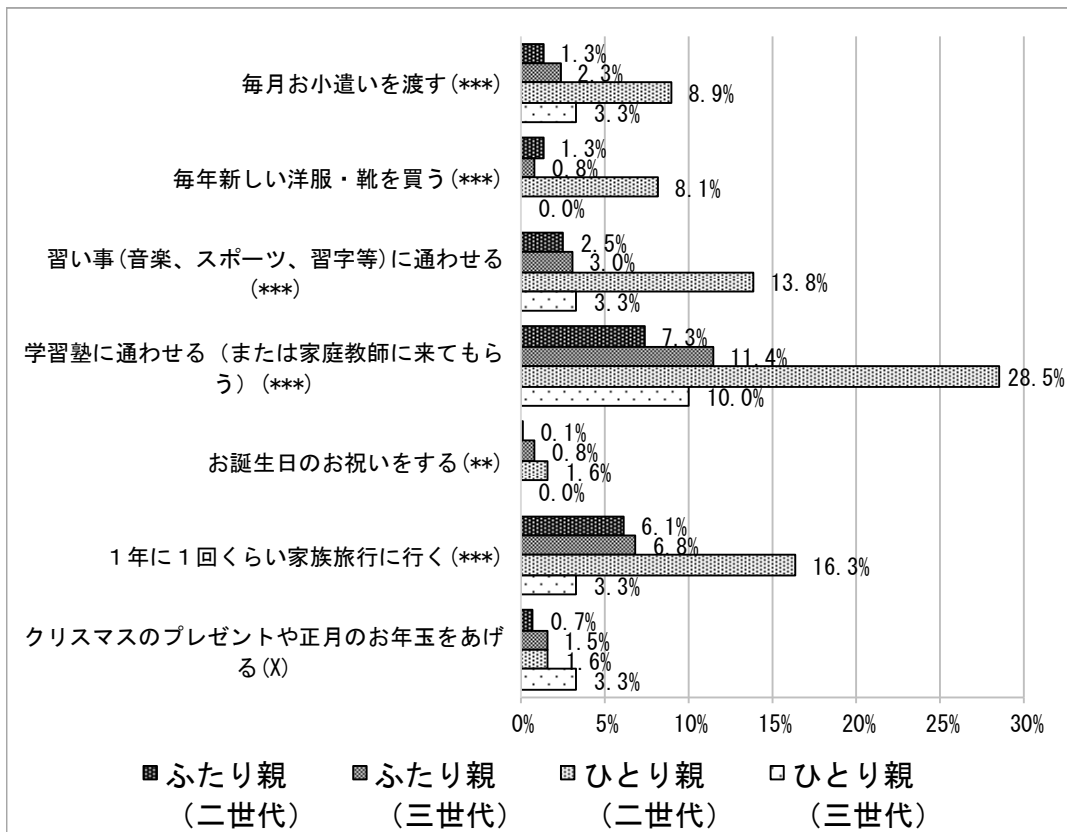


図表 2-2-5 「経済的にできない」子どものための支出：世帯タイプ別

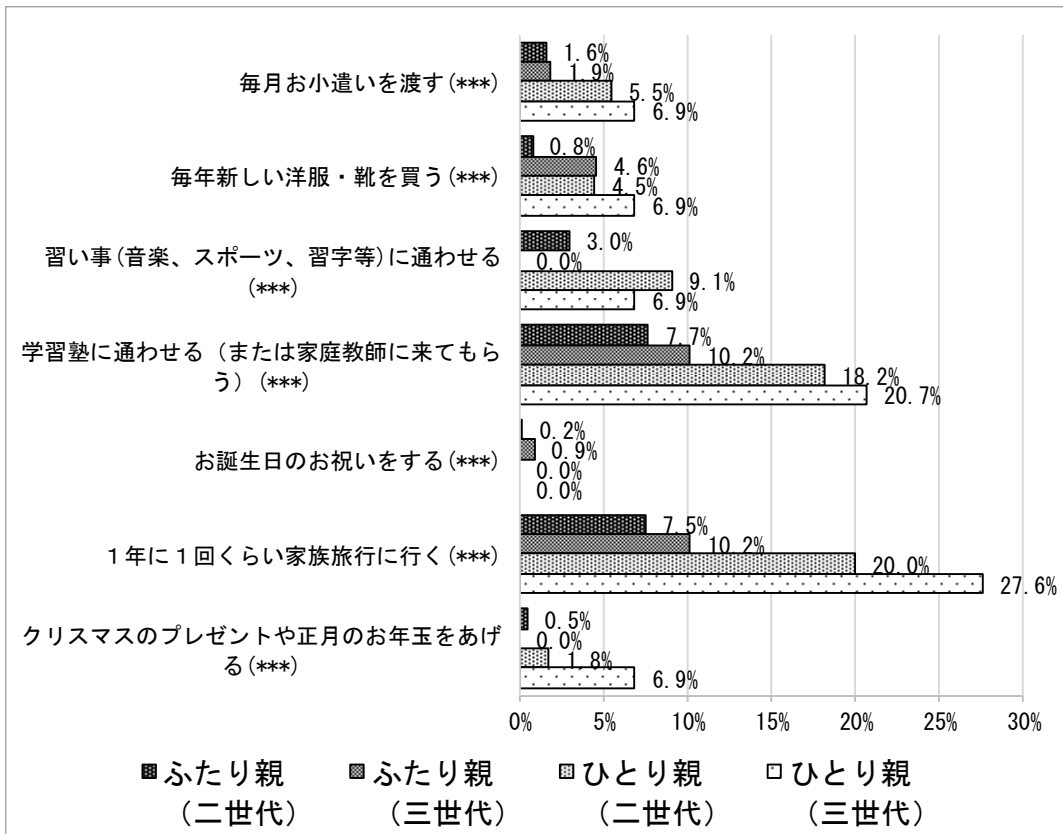
未就学児



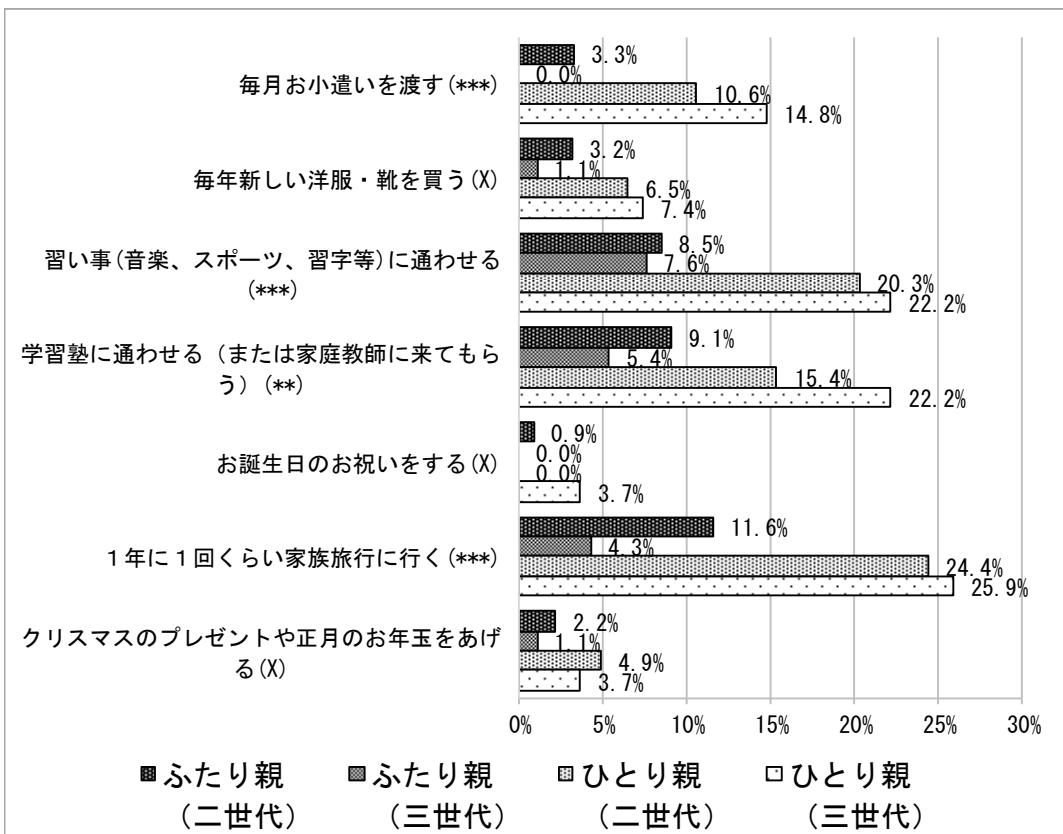
小学生①



### 小学生②

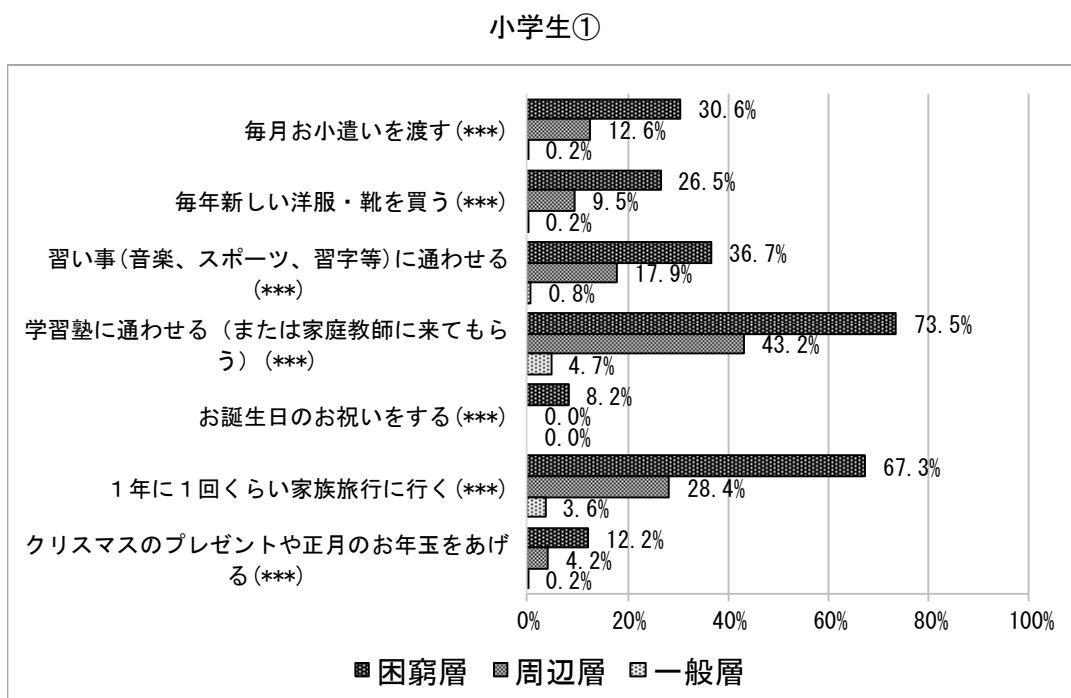
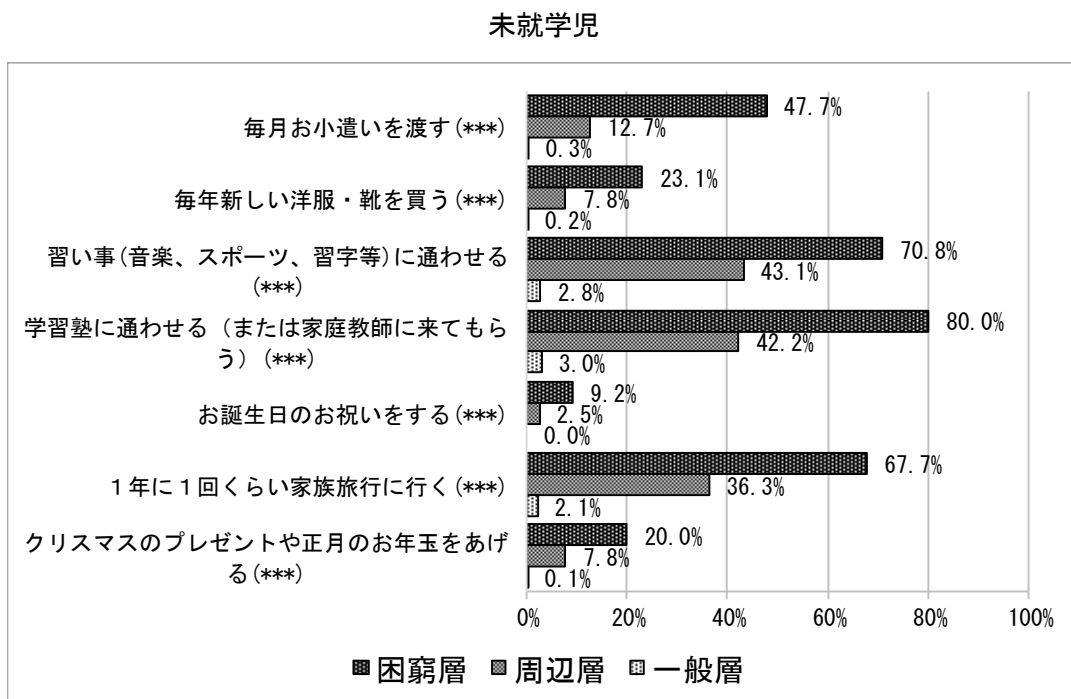


### 中学生

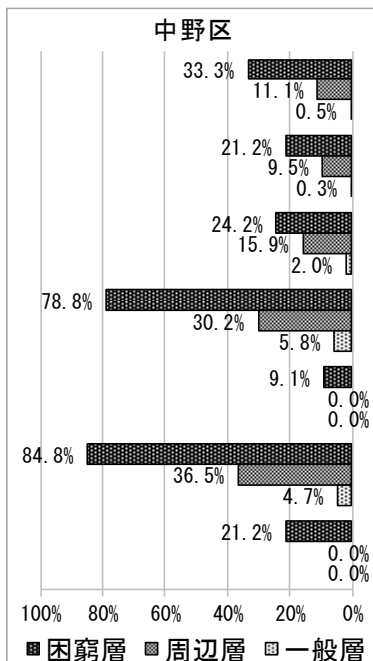


生活困難度別には、全ての項目において統計的に有意な差がある。全ての年齢層、項目において「経済的にできない」割合は一般層が最も低く0%に近い数値となっているのに対し、困窮層では未就学児、小学生①で「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」が最も高く、小学生②、中学生で「1年に1回くらい家族旅行に行く」が最も高い。また、年齢の高い子どもの方が、生活困難度による差が大きい傾向にある。項目別には、「1年に1回くらい家族旅行に行く」、「毎年新しい洋服・靴を買う」、「毎月お小遣いを渡す」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」などに大きな差がある。

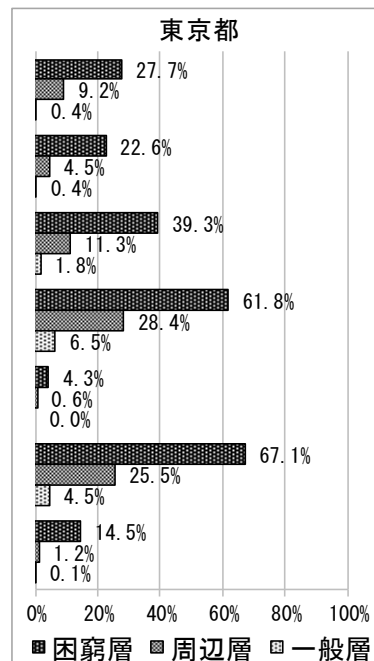
図表 2-2-6 「経済的にできない」子どものための支出：生活困難度別



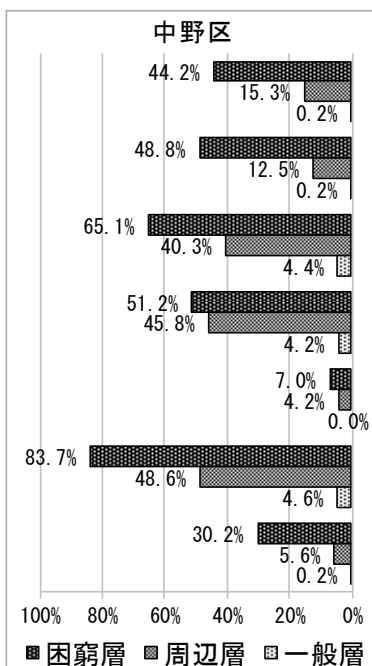
中野区小学生②  
東京都小学5年生



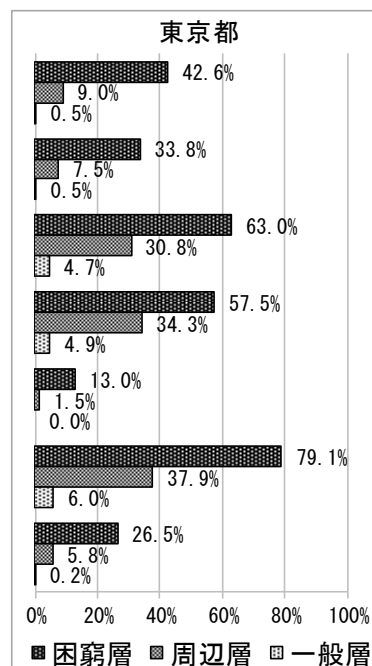
- (\*\*\*) 毎月お小遣いを渡す (\*\*\*)
- (\*\*\*) 毎年新しい洋服・靴を買う (\*\*\*)
- (\*\*\*) 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる (\*\*\*)
- (\*\*\*) 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう) (\*\*\*)
- (\*\*\*) お誕生日のお祝いをする (\*\*\*)
- (\*\*\*) 1年に1回くらい家族旅行に行く (\*\*\*)
- (\*\*\*) クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる (\*\*\*)



中野区中学生  
東京都中学2年生



- (\*\*\*) 毎月お小遣いを渡す (\*\*\*)
- (\*\*\*) 毎年新しい洋服・靴を買う (\*\*\*)
- (\*\*\*) 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる (\*\*\*)
- (\*\*\*) 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう) (\*\*\*)
- (\*\*\*) お誕生日のお祝いをする (\*\*\*)
- (\*\*\*) 1年に1回くらい家族旅行に行く (\*\*\*)
- (\*\*\*) クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる (\*\*\*)

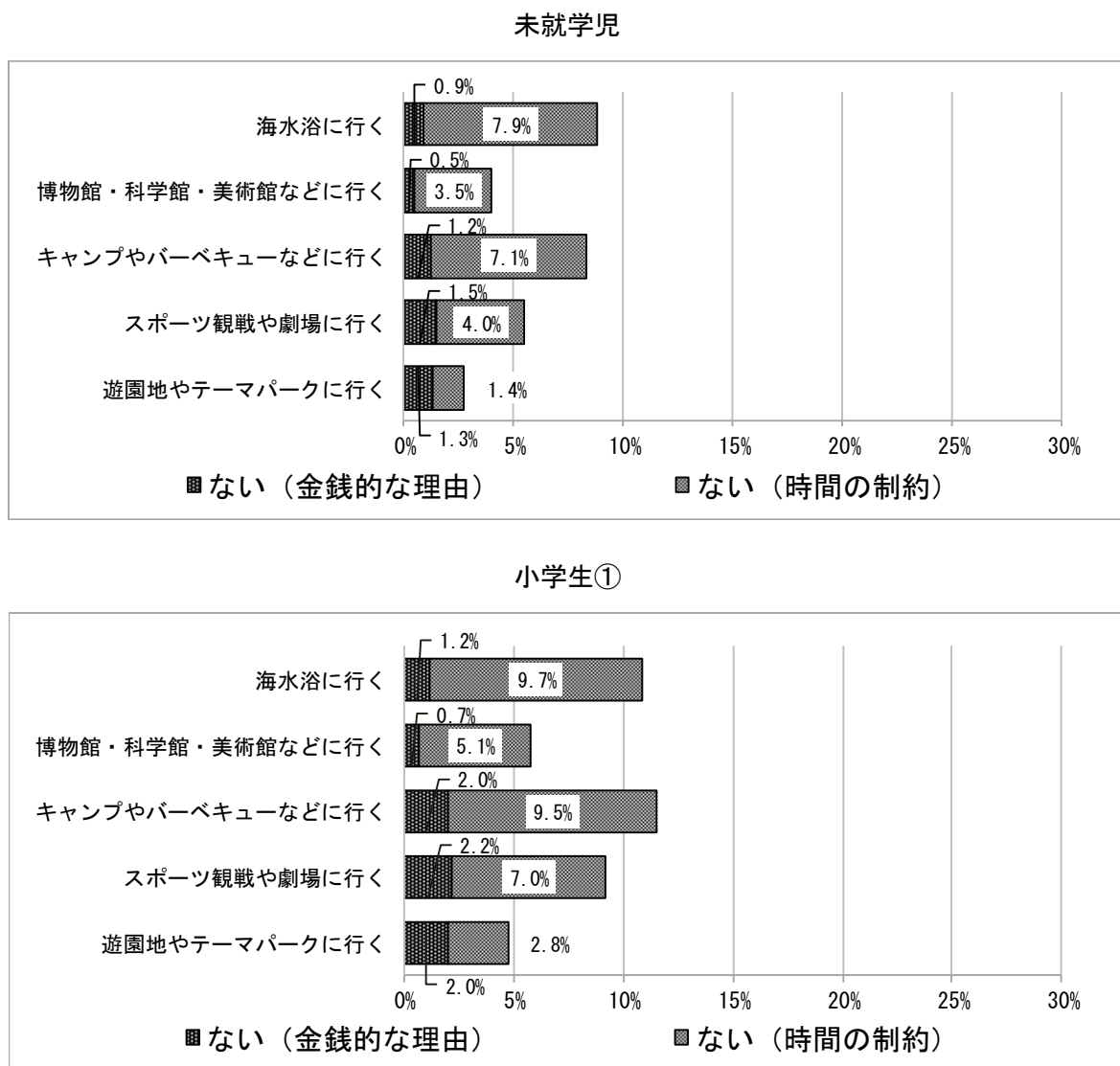


東京都との比較を見ると、「経済的にできない」割合での小学生②で特に差の大きい項目は、困窮層では「学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」、「1年に1回くらい家族旅行に行く」、周辺層では「1年に1回くらい家族旅行に行く」で東京都に比べて中野区の方が高く、困窮層の「習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる」では中野区に比べて東京都の方が高くなっている。中学生で特に差の大きい項目は、困窮層では「毎年新しい洋服・靴を買う」、周辺層では「学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」で東京都に比べて中野区の方が高く、困窮層では「学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」、「お誕生日のお祝いをする」で中野区に比べて東京都の方が高くなっている。

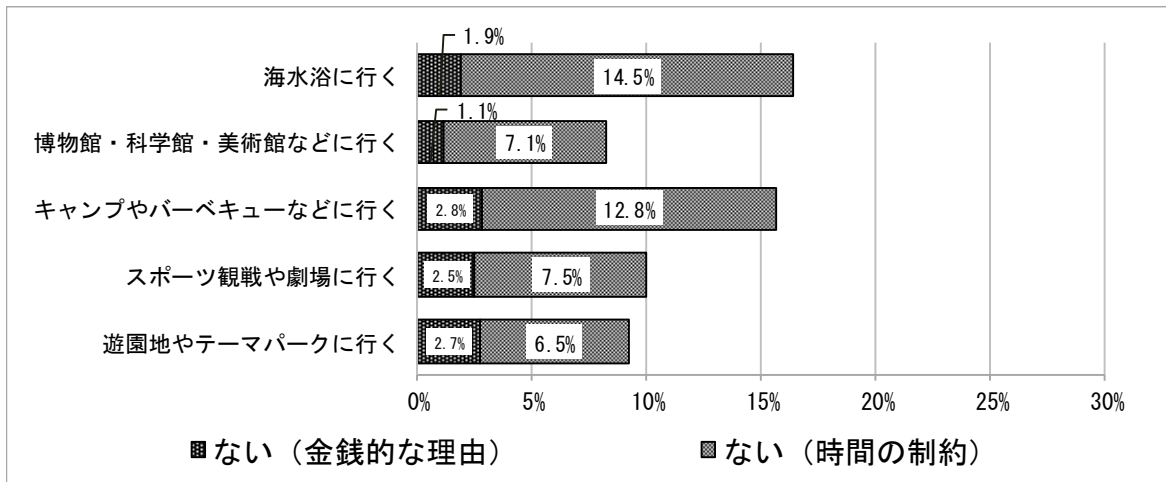
### (3) 子どもの体験（海水浴、博物館等）

未就学児、小学生①、小学生②、中学生の保護者に、過去1年間において、「海水浴に行く」、「博物館・科学館・美術館などに行く」、「キャンプやバーベキューに行く」、「スポーツ観戦や劇場に行く」、「遊園地やテーマパークに行く」といった子どもとの体験があったかを聞いた。回答は、「ある」、「ない（金銭的な理由）」、「ない（時間の制約）」、「ない（その他の理由）」の4つの選択肢を示した。“金銭的な理由”で「ない」と答えた保護者の割合を見ると、未就学児では1%前後、小学生①では約1～2%、小学生②では1～3%、中学生では2～5%となっている。全ての項目において“時間の制約”で「ない」は“金銭的な理由”で「ない」よりも割合が高くなっており、未就学児では1～8%、小学生①では約3～10%、小学生②では6～15%、中学生では約11～22%の保護者がこれらの体験を“時間の制約”で子どもとしていない。

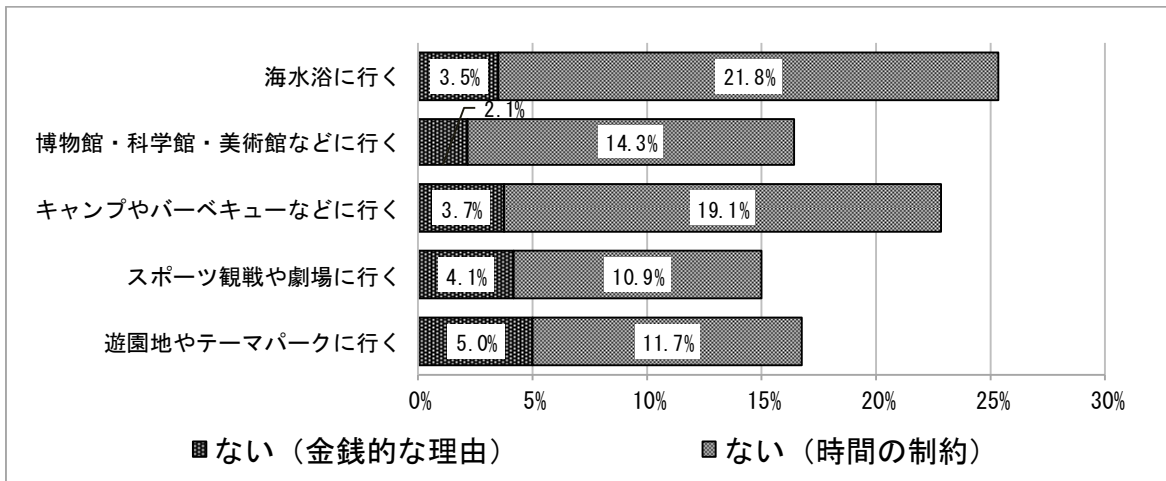
図表 2-2-7 以下の体験を「(金銭的な理由又は時間の制約で) 過去1年間にしなかった」割合：  
年齢層別



### 小学生②



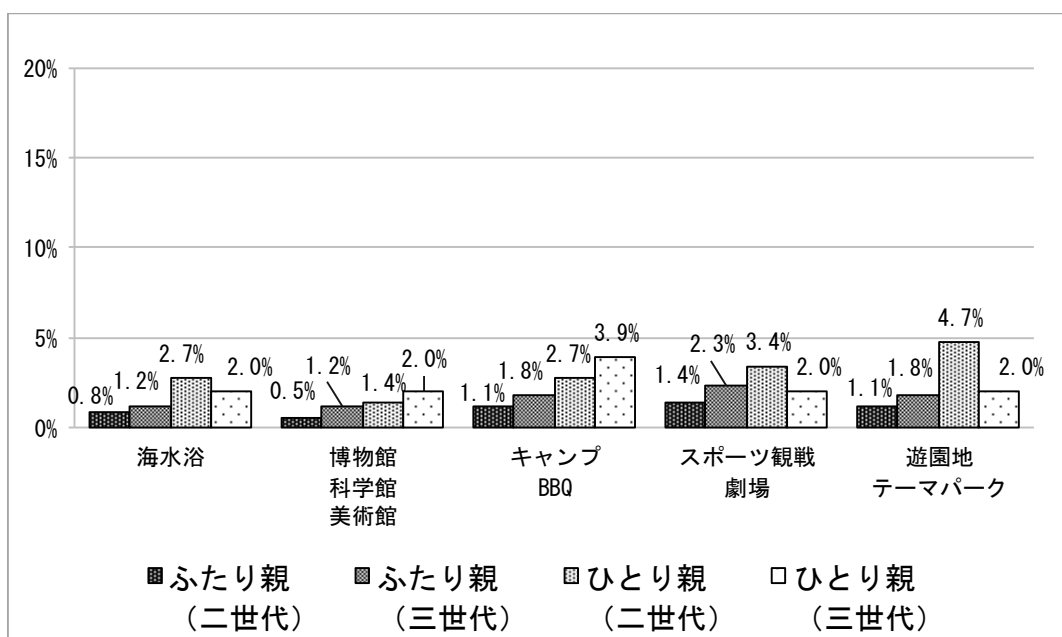
### 中学生



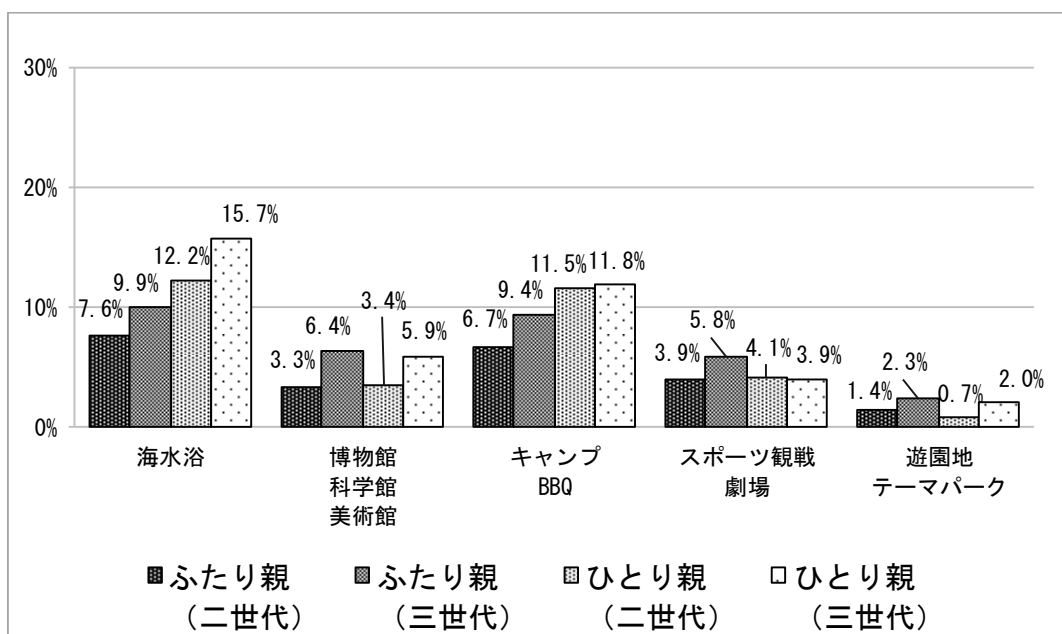
未就学児の保護者について、世帯タイプ別に“金銭的な理由”又は“時間の制約”で体験がない子どもの割合を見ると、おおむね“金銭的な理由”に比べて“時間の制約”で体験がない割合が高く、“金銭的な理由”はふたり親に比べてひとり親の方が高い。“時間の制約”は「海水浴に行く」、「キャンプやバーベキューに行く」といった屋外レジャーで高い。

図表 2-2-8 体験がない割合：世帯タイプ別（未就学児）

金銭的な理由



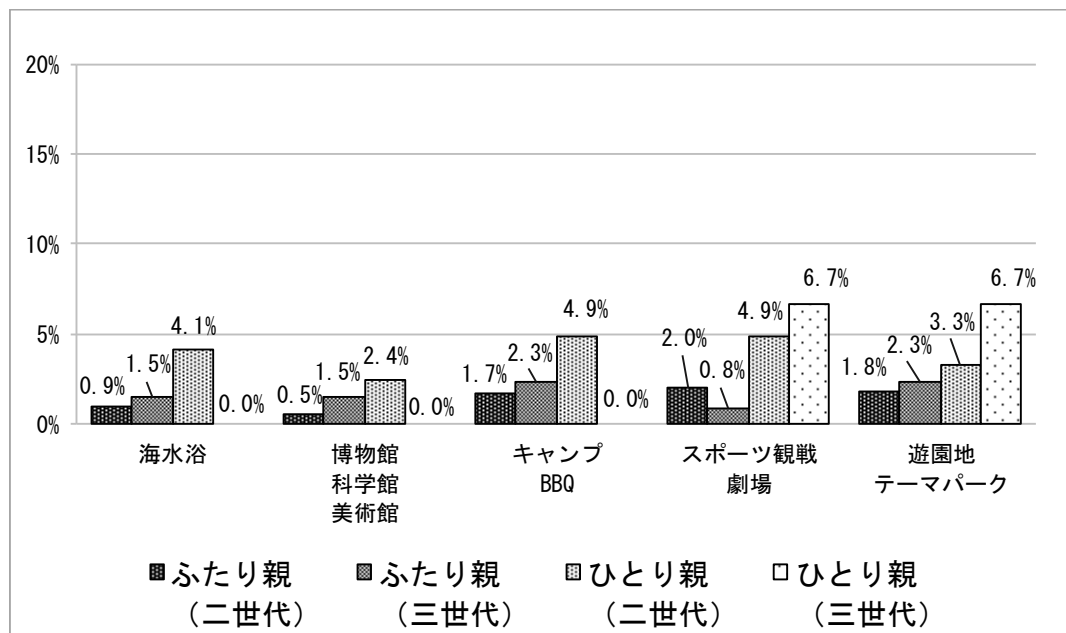
時間の制約



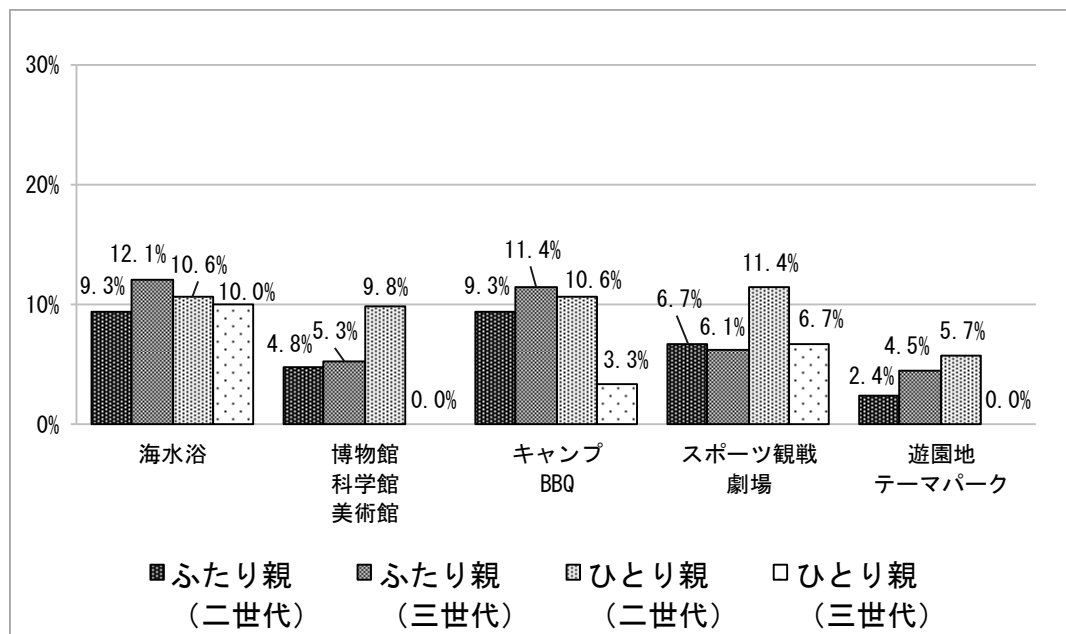
小学生①の保護者について、世帯タイプ別に“金銭的な理由”又は“時間の制約”で体験がない子どもの割合を見ると、おおむね“金銭的な理由”に比べて“時間の制約”で体験がない割合が高いが、“金銭的な理由”はふたり親に比べてひとり親の方が高い傾向にある。

図表 2-2-9 体験がない割合：世帯タイプ別（小学生①）

金銭的な理由



時間の制約

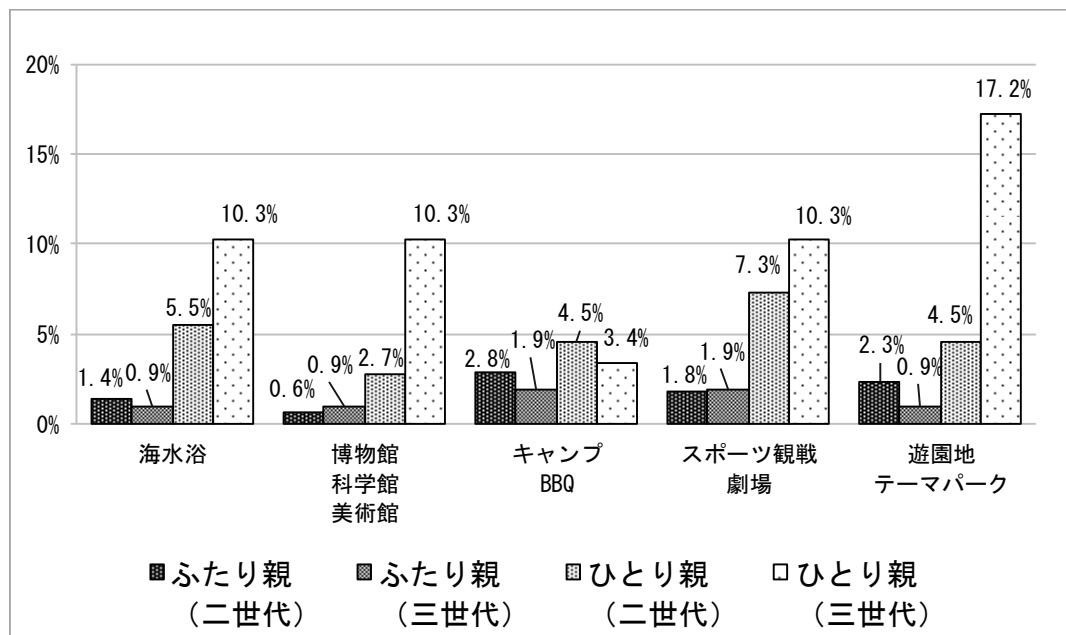




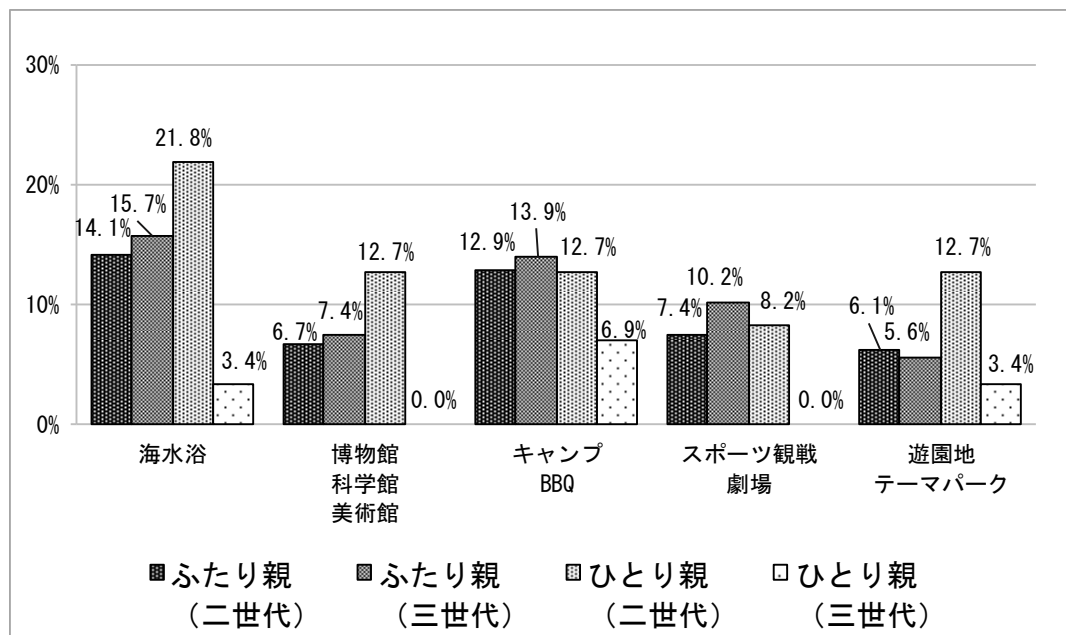
小学生②の保護者について、世帯タイプ別に“金銭的な理由”又は“時間の制約”で体験がない子どもの割合を見ると、おおむね“金銭的な理由”に比べて“時間の制約”で体験がない割合が高いが、「海水浴に行く」、「博物館・科学館・美術館などに行く」、「スポーツ観戦や劇場に行く」、「遊園地やテーマパークに行く」のひとり親（三世代）では“金銭的な理由”の方が高い。また、未就学児、小学生①に比べ、“金銭的な理由”、“時間の制約”共に体験がない割合が高い。

図表 2-2-10 体験がない割合：世帯タイプ別（小学生②）

金銭的な理由



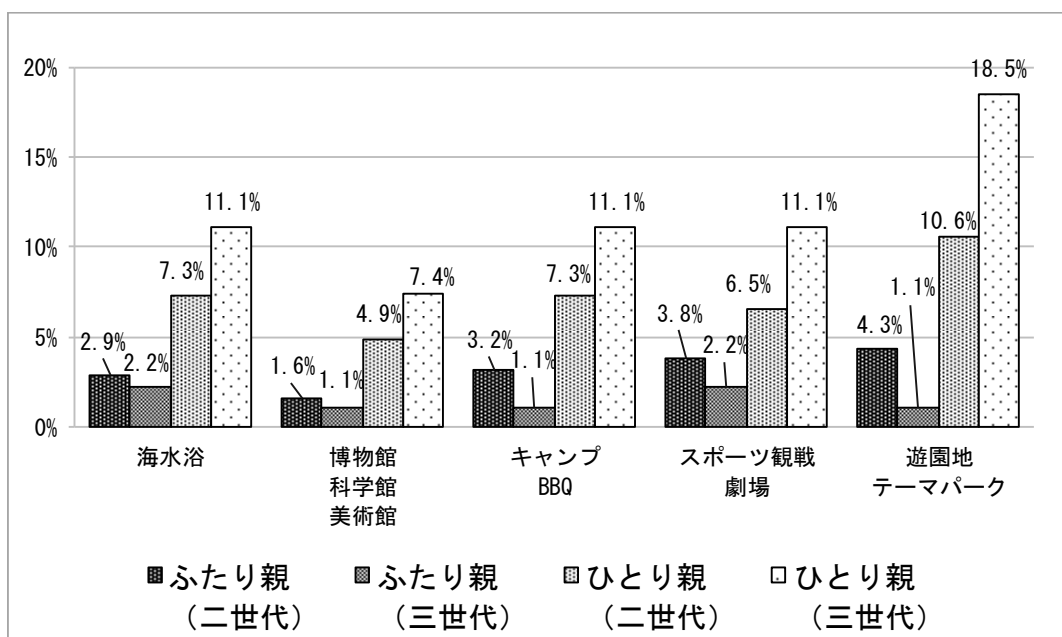
時間の制約



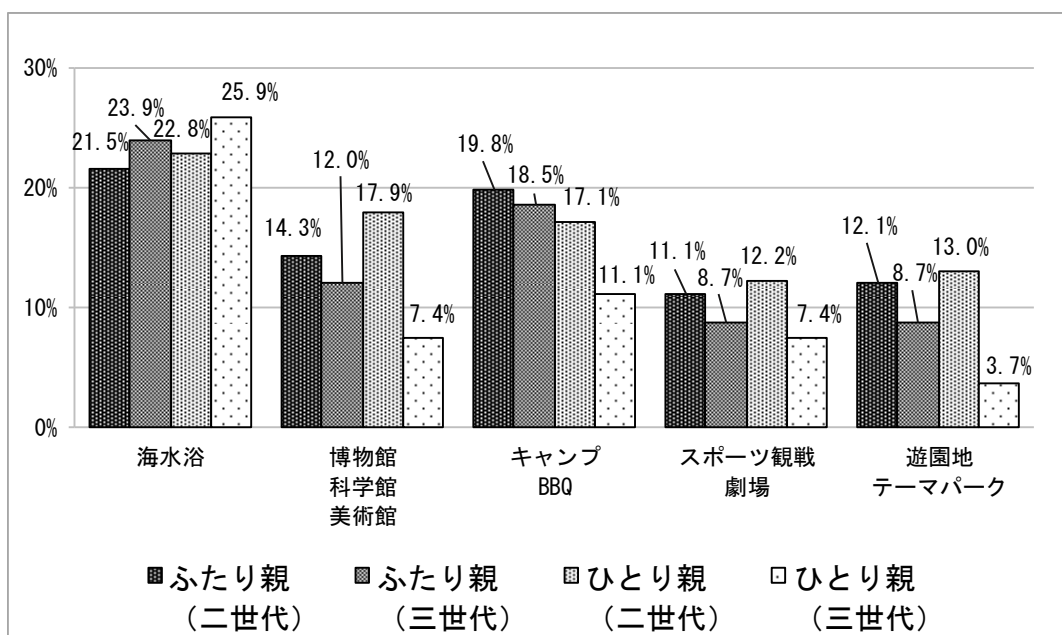
中学生の保護者について、世帯タイプ別に“金銭的な理由”又は“時間の制約”で体験がない子どもの割合を見ると、おおむね“金銭的な理由”に比べて“時間の制約”で体験がない割合が高いが、「スポーツ観戦や劇場に行く」、「遊園地やテーマパークに行く」のひとり親（三世代）では“金銭的な理由”の方が高い。また、年齢層が上がるにつれて体験がない割合は増えるが、特に「海水浴に行く」、「博物館・科学館・美術館などに行く」、「キャンプやバーベキューに行く」で増加率が上がる。

図表 2-2-11 体験がない割合：世帯タイプ別（中学生）

金銭的な理由

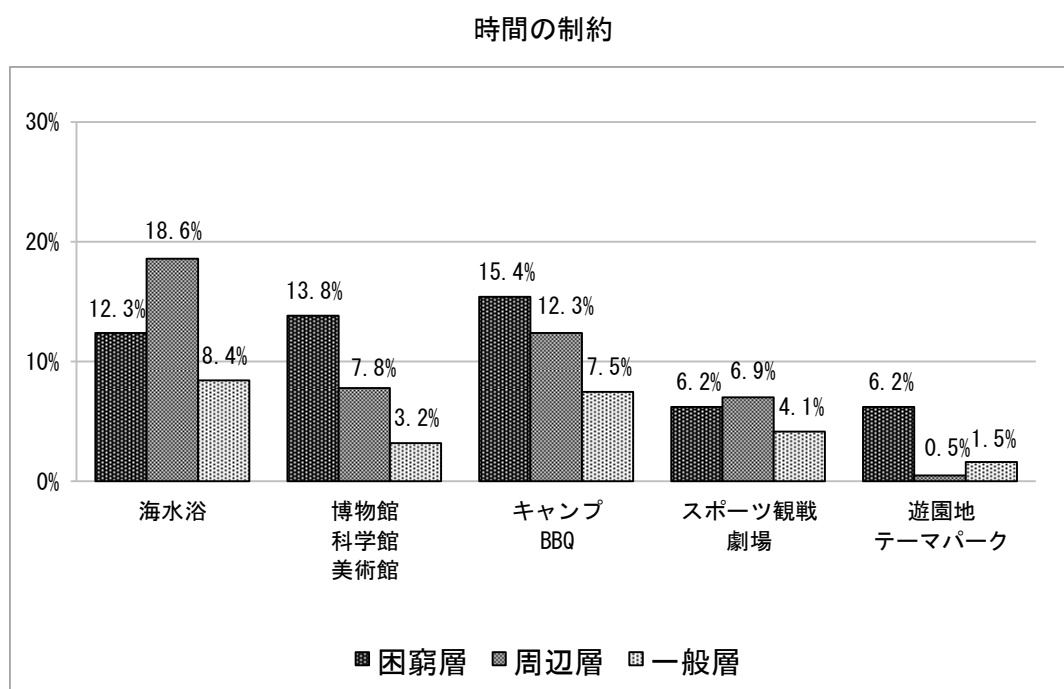
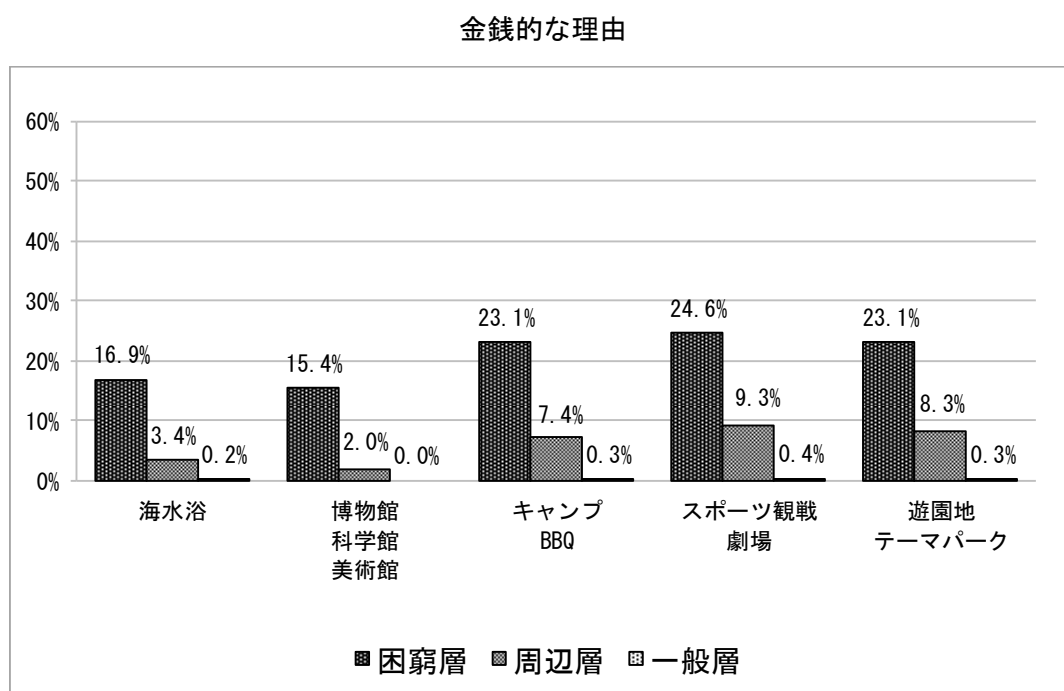


時間の制約



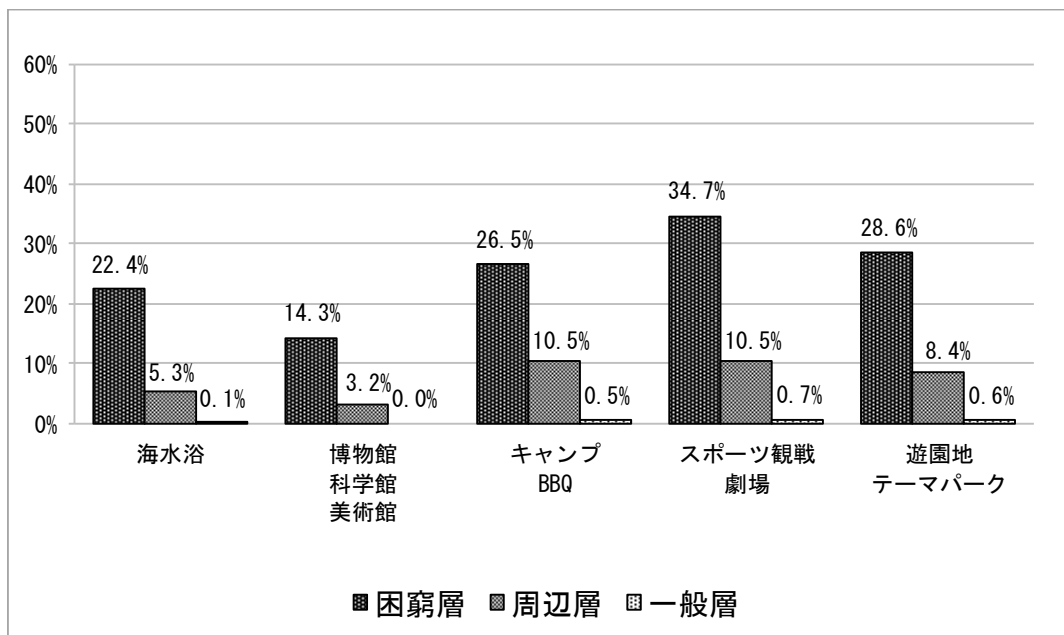
生活困難度別では、“金銭的な理由”で体験がない割合は大きな差があり、困窮層においては、未就学児の保護者の約15～25%、小学生①の保護者の約14～35%、小学生②の保護者の約24～37%、中学生の保護者の約28～56%が“金銭的な理由”でこれらの体験ができなかったと回答している。一般層においては、この割合は1%以下である。また、“時間の制約”で体験がない割合は、未就学児、小学生①、小学生②では困窮層の割合が高いことが多く、中学生では一般層の割合が高い傾向にある。

図表 2-2-12 体験がない割合：生活困難度別（未就学児）

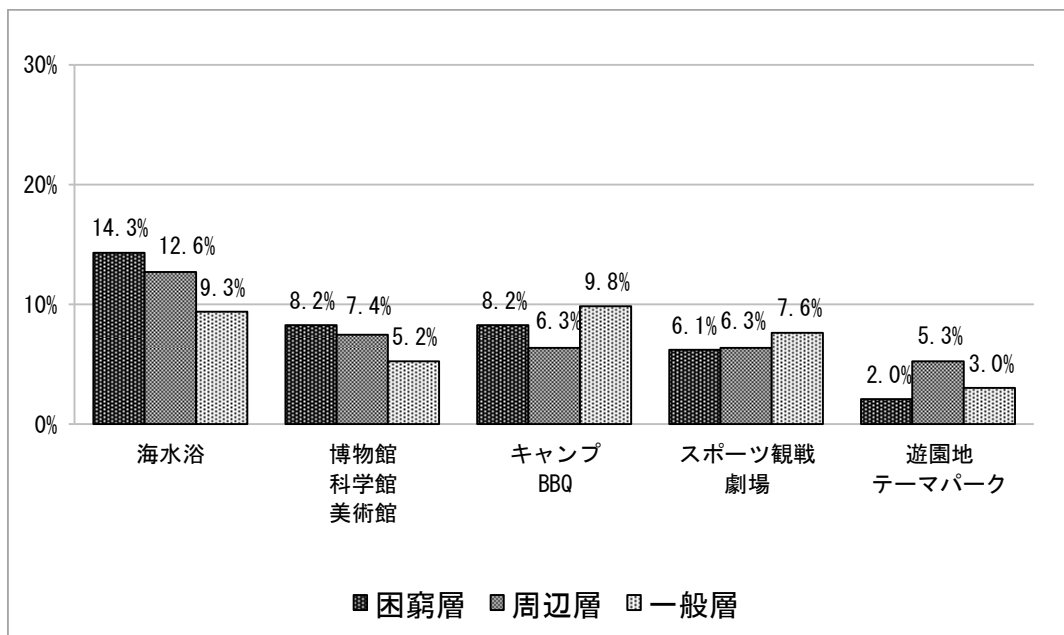


図表 2-2-13 体験がない割合：生活困難度別（小学生①）

金銭的な理由

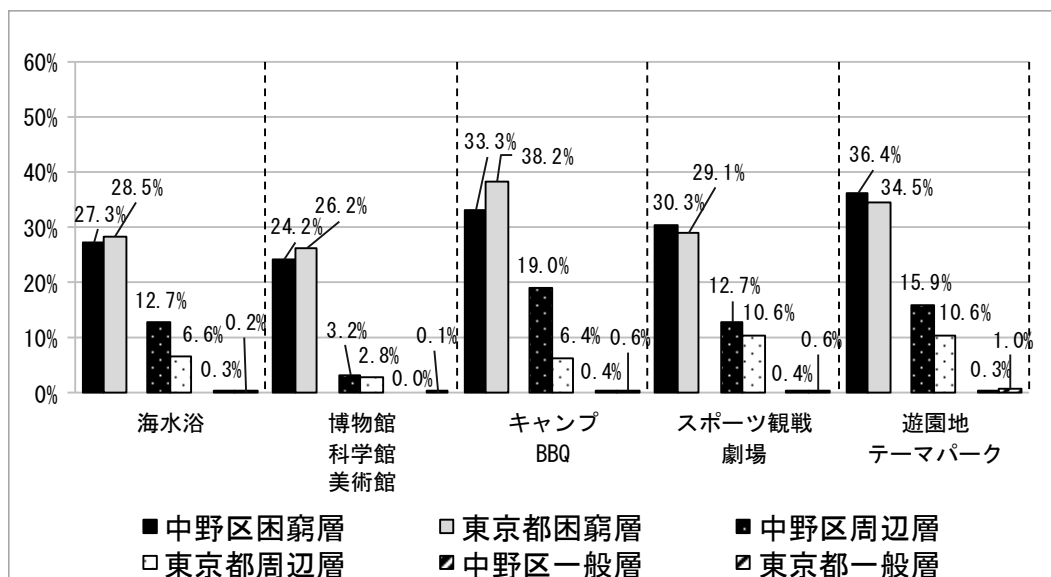


時間の制約

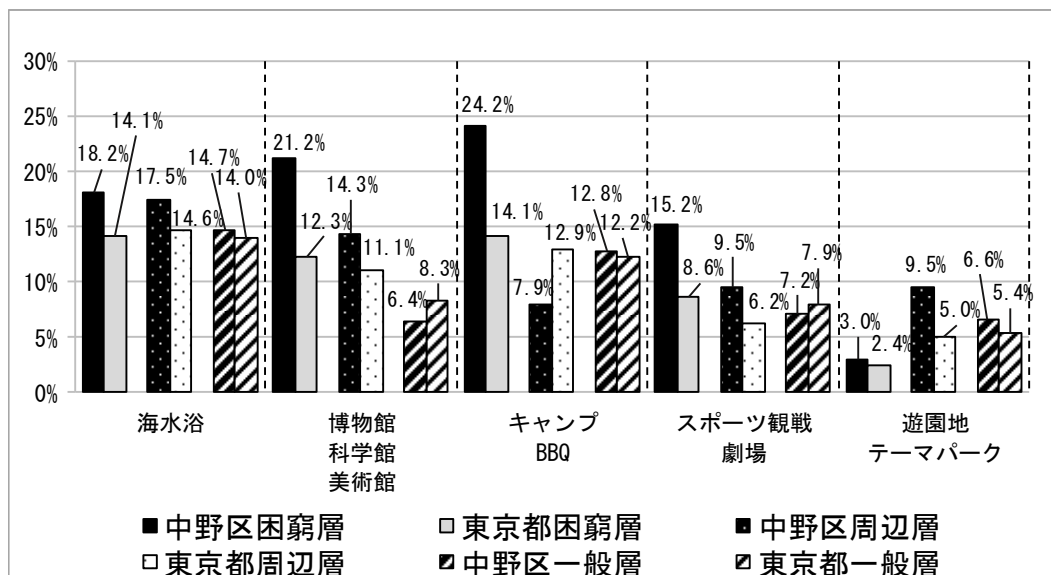


東京都との比較を見ると、小学生②の“金銭的な理由“で特に差の大きい項目は、周辺層の「キャンプ、BBQ」で東京都に比べて中野区の方が高く、困窮層の「キャンプ、BBQ」で中野区に比べて東京都の方が高くなっている。小学生②の“時間の制限“では多くの項目で中野区の方が東京都に比べて高い傾向にあり、一般層では「博物館、科学館、美術館」、「スポーツ観戦、劇場」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。中学生の“金銭的な理由“では困窮層、周辺層の全ての項目で中野区の方が東京都に比べて高く、一般層の「海水浴」、「キャンプ、BBQ」、「遊園地やテーマパーク」で中野区に比べて東京都の方がやや高くなっている。中学生の“時間の制約“では、困窮層の「海水浴」、「博物館、科学館、美術館」、一般層の「海水浴」を除く全ての項目で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表 2-2-14 体験がない割合：生活困難度別（中野区小学生②、東京都小学5年生）  
金銭的な理由

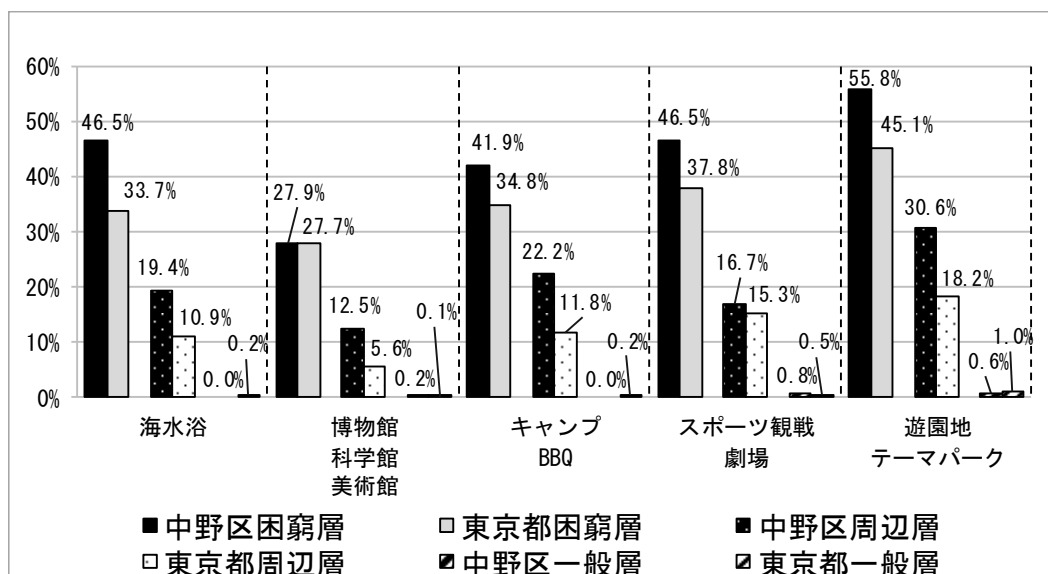


時間の制約

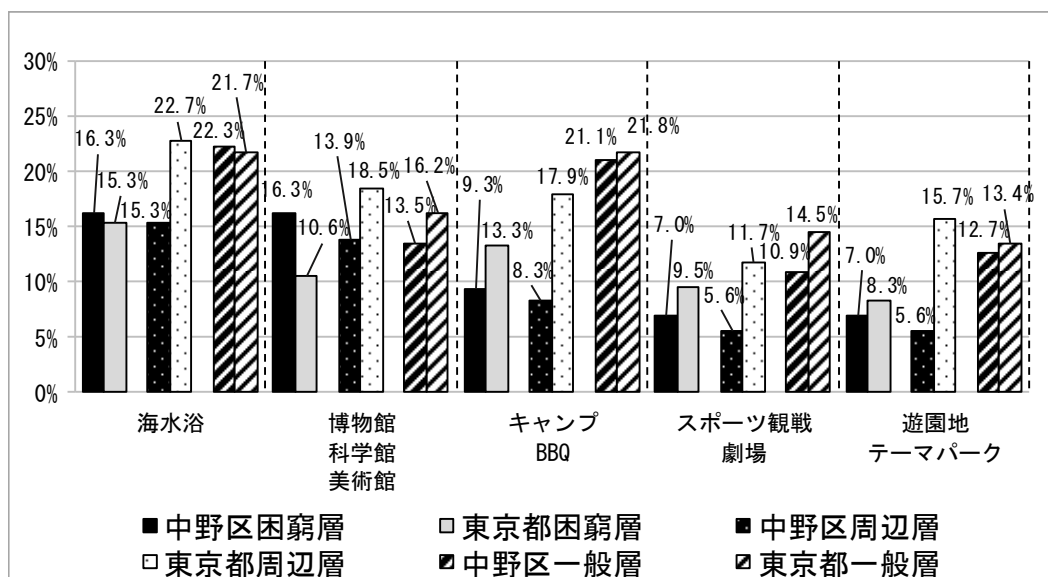


図表 2-2-15 体験がない割合：生活困難度別（中野区中学生、東京都中学2年生）

金銭的な理由



時間の制約

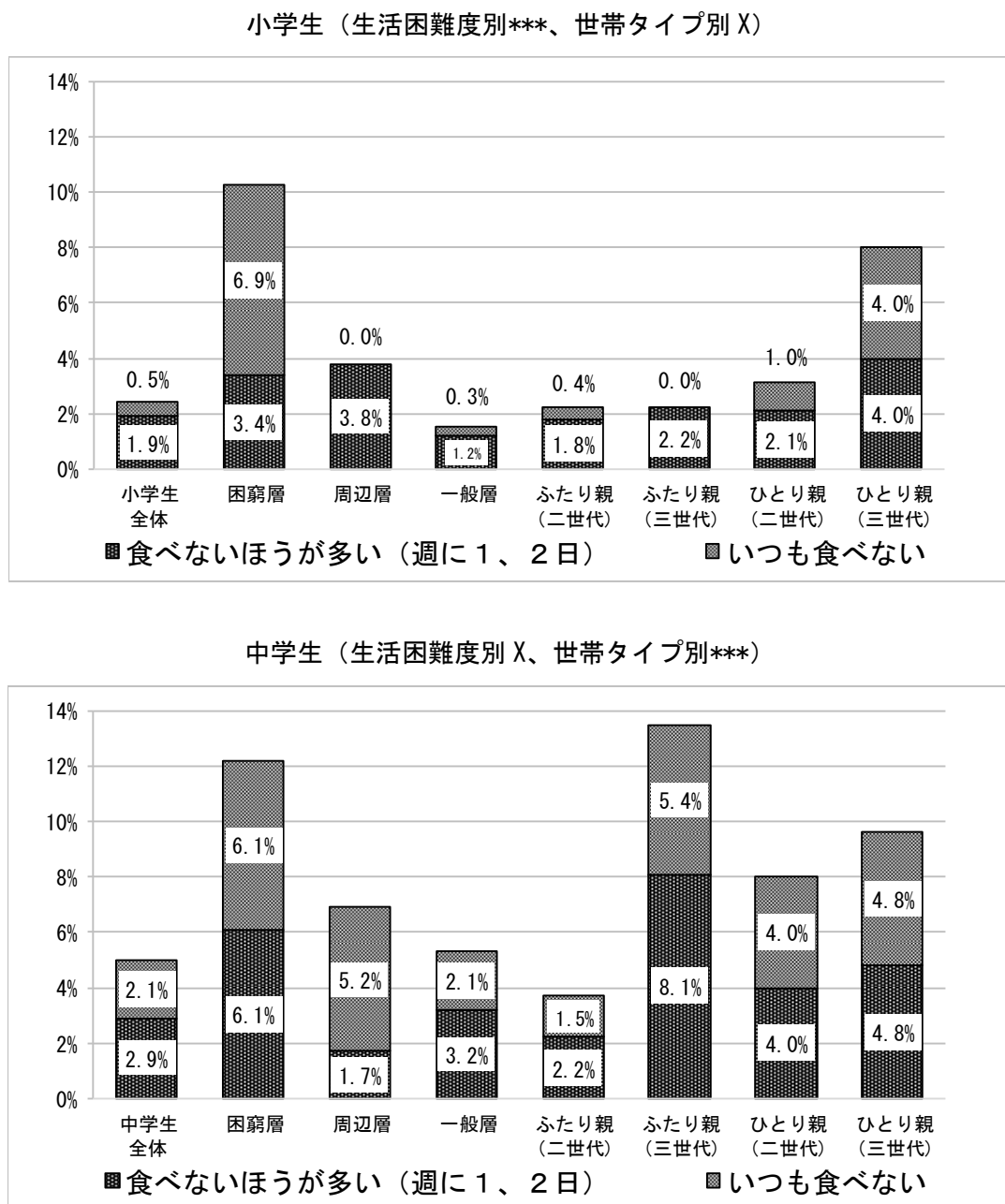


### 3 子どもの食と栄養

#### (1) 朝食の摂取状況

朝食は、子どもの成長と健康にとって重要である。そこで、子どもに、平日に朝ごはんを食べる頻度を聞いた。小学生は、無回答を除いても9割以上の子どもが平日に朝食を毎日食べている一方で、困窮層の子どもの10.3%が「食べない方が多い」、「いつも食べない」と回答しており、一般層の1.5%、周辺層の3.8%に比べて高い割合である。ひとり親（三世代）世帯においても、「食べない方が多い」が8.0%存在するほか、ひとり親（二世代）世帯では「いつも食べない」とした子どもが1.0%存在する。中学生では、「いつも食べない」が増え、中学生全体では2.9%であるものの、困窮層では6.1%、ふたり親（三世代）世帯で8.1%と小学生と傾向が異なる。

図表 2-3-1 平日（学校に行く日）に朝ごはんを食べる頻度（小学生、中学生）



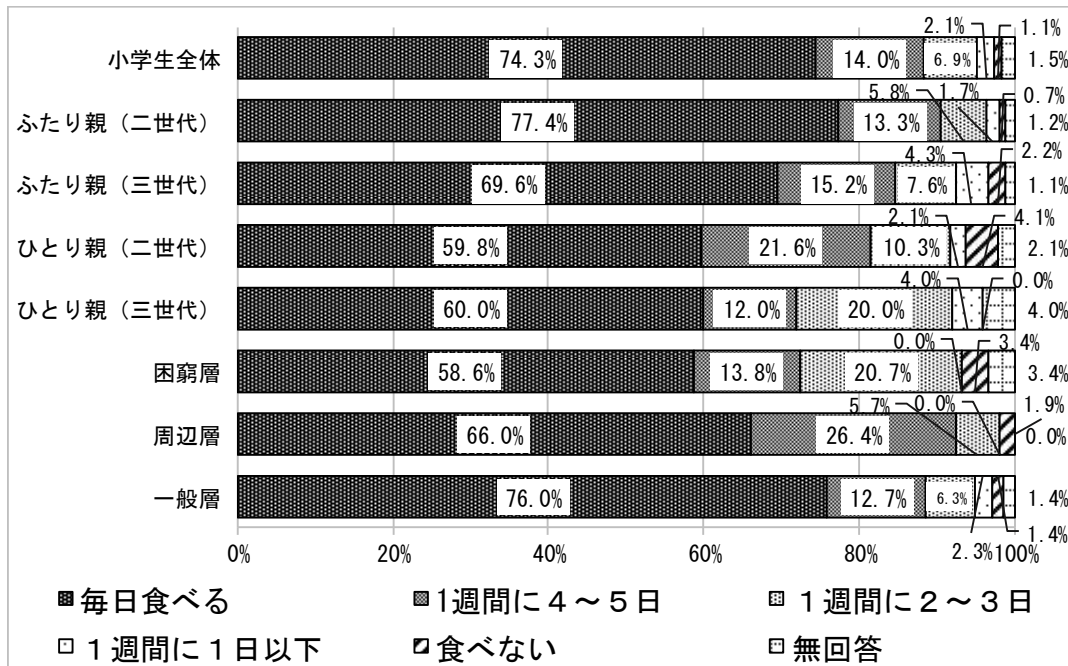
## (2) 栄養群の摂取状況

次に、小学生と中学生に、「給食を除いて、以下の食物をふだんどれくらい食べますか」と聞いた。

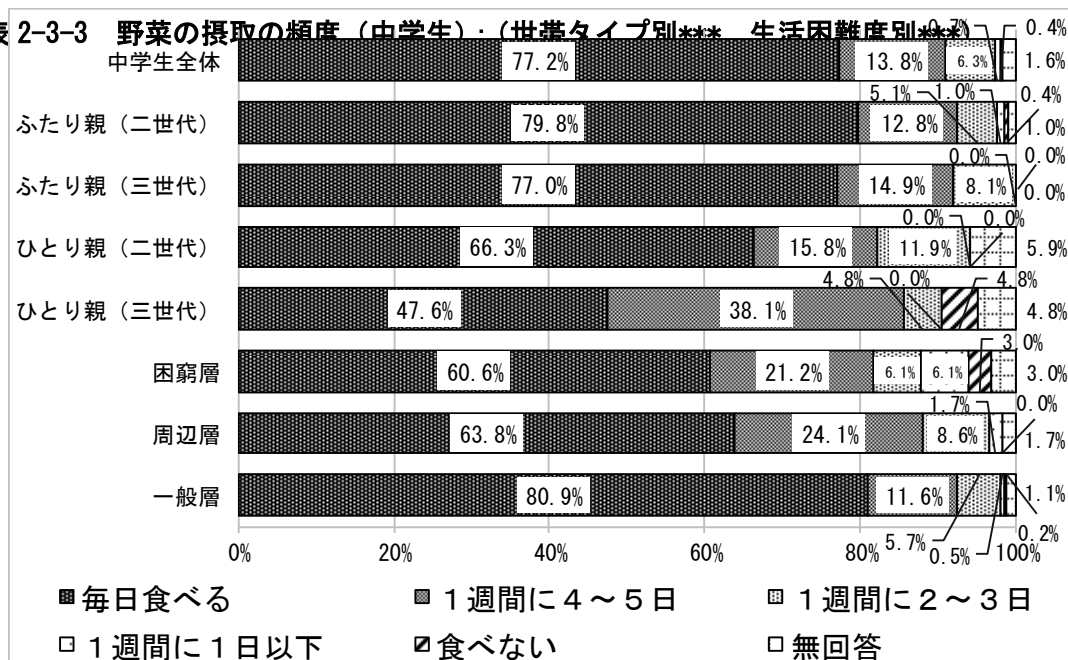
### ①野菜

「野菜」については、小学生の74.3%、中学生の77.2%が「毎日食べる」としているが、「1週間に2～3日」(小学生6.9%、中学生6.3%)、「1週間に1日以下」(小学生2.1%、中学生0.7%)、「食べない」(小学生1.1%、中学生0.4%)となっている。小学生、中学生ともに生活困難度別では困窮層、世帯タイプ別ではひとり親(三世代)世帯で野菜の摂取の頻度が低い。

図表 2-3-2 野菜の摂取の頻度(小学生):(世帯タイプ別\*\*\*、生活困難度別\*\*)



図表 2-3-3 野菜の摂取の頻度(中学生):(世帯タイプ別\*\*\*、生活困難度別\*\*)



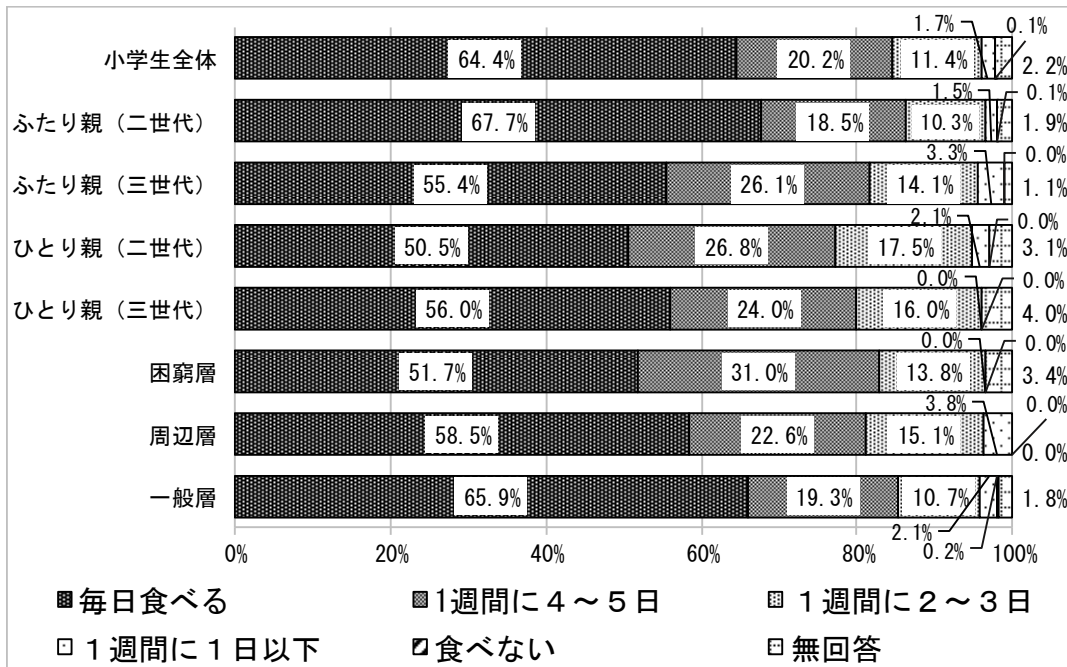


## ②肉か魚

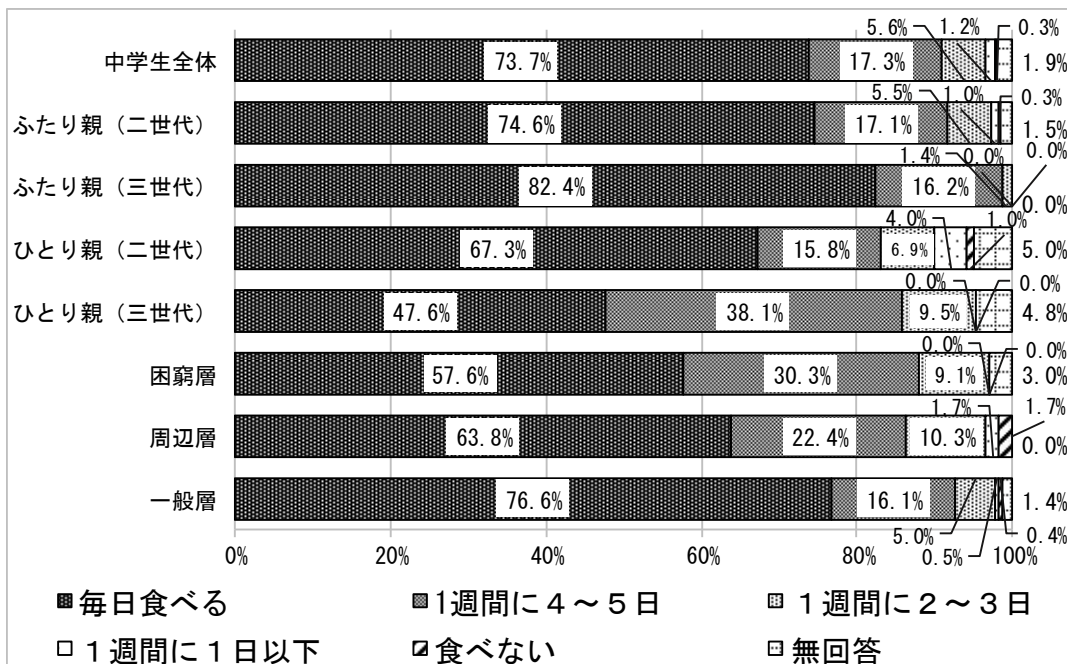
「肉か魚」については、小学生の64.4%、中学生の73.7%は「毎日食べる」、小学生の20.2%と中学生の17.3%は「1週間に4～5日」としており、約8～9割の子どもは給食以外においても「肉か魚」をほとんどの日において摂取している。「1週間に2～3日」は小学生では11.4%、中学生では5.6%、「食べない」は小学生では0.1%、中学生では0.3%であった。

世帯タイプ別及び生活困難度別に見ると、中学生では世帯タイプ別、生活困難度別に統計的に有意な差が見られた。小学生、中学生ともに「毎日食べる」は一般層で6割以上になるのに対し、困窮層は5割台にとどまる。

図表 2-3-4 肉か魚の摂取の頻度（小学生）：（世帯タイプ別 X、生活困難度別 X）



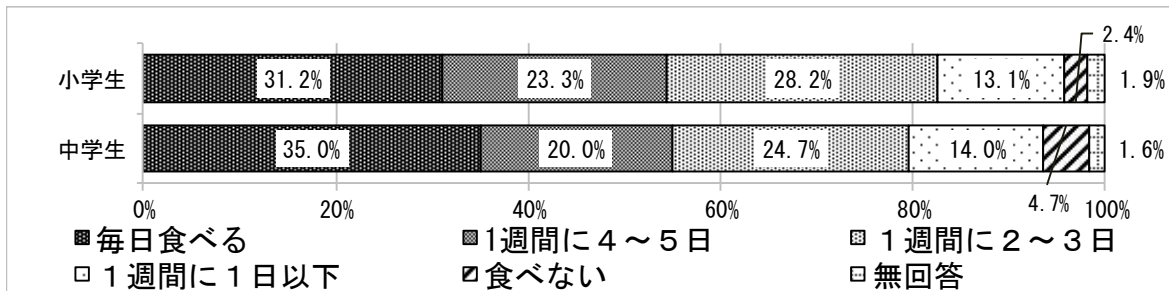
図表 2-3-5 肉か魚の摂取の頻度（中学生）：（世帯タイプ別\*\*、生活困難度別\*）



### ③果物

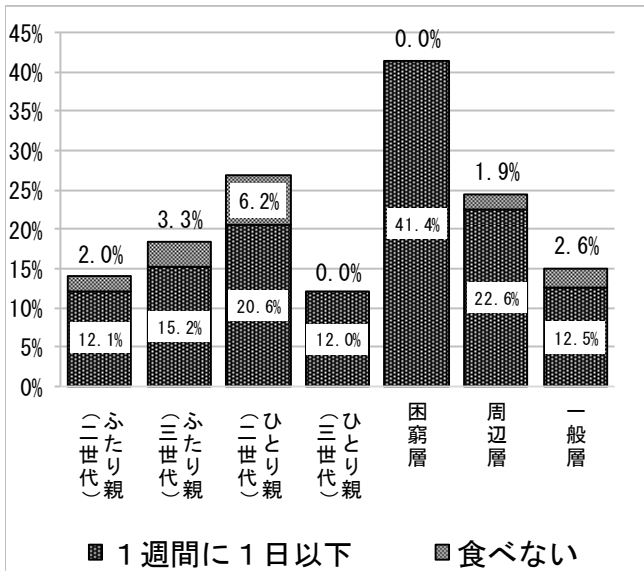
「果物」については、小学生の31.2%が「毎日食べる」、23.3%が「1週間の4～5日」、中学生では35.0%が「毎日食べる」、20.0%が「1週間の4～5日」としており、過半数の小中学生は1週間の4～5日以上、給食以外にも果物を食べている。しかし、「1週間に1日以下」と回答した子どもが小学生では13.1%、中学生では14.0%、「食べない」と回答した子どもは、小学生では2.4%、中学生では4.7%となっている。果物を給食以外に食べる回数が少ない子どもの割合は、小学生の世帯タイプ別と全ての生活困難度別に統計的に有意な差があり、困窮層では3割以上の子どもが1週間に1回以下である。

図表 2-3-6 果物の摂取の頻度：年齢層別

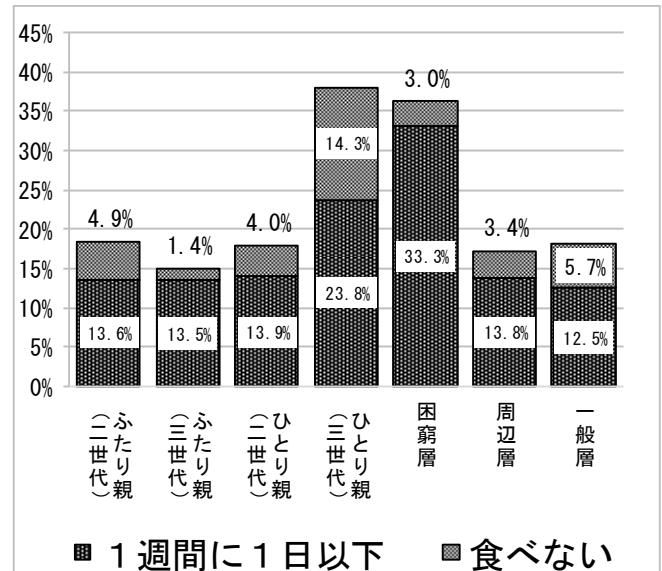


図表 2-3-7 果物の摂取が1週間に1日以下の子どもの割合

小学生（世帯タイプ別\*\*、生活困難度別\*\*\*）



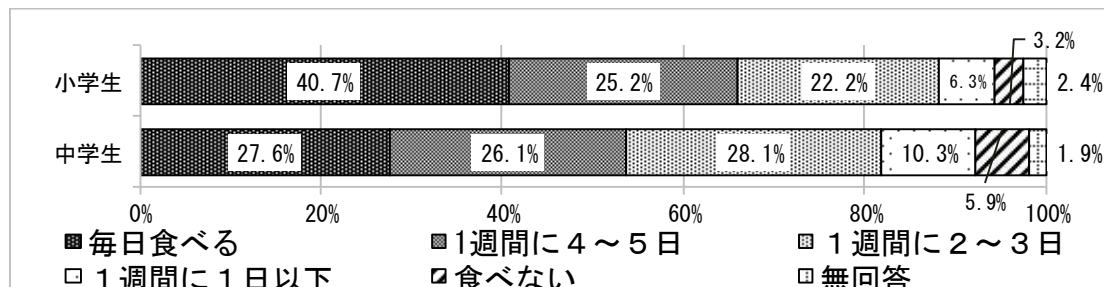
中学生（世帯タイプ別X、生活困難度別\*\*）



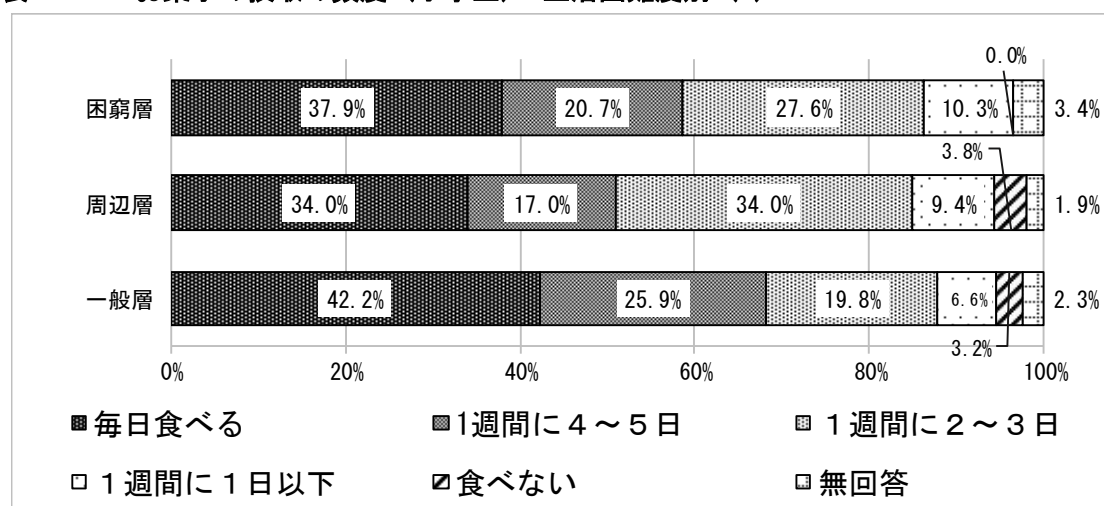
#### ④お菓子

「お菓子」については、小学生の40.7%、中学生の27.6%が「毎日食べる」と回答している。小学生、中学生においては、生活困難度別にはお菓子を食べる頻度に有意差は見られなかったが、小学生、中学生共に、「毎日食べる」子どもの割合は困窮層に比べて一般層で高い。

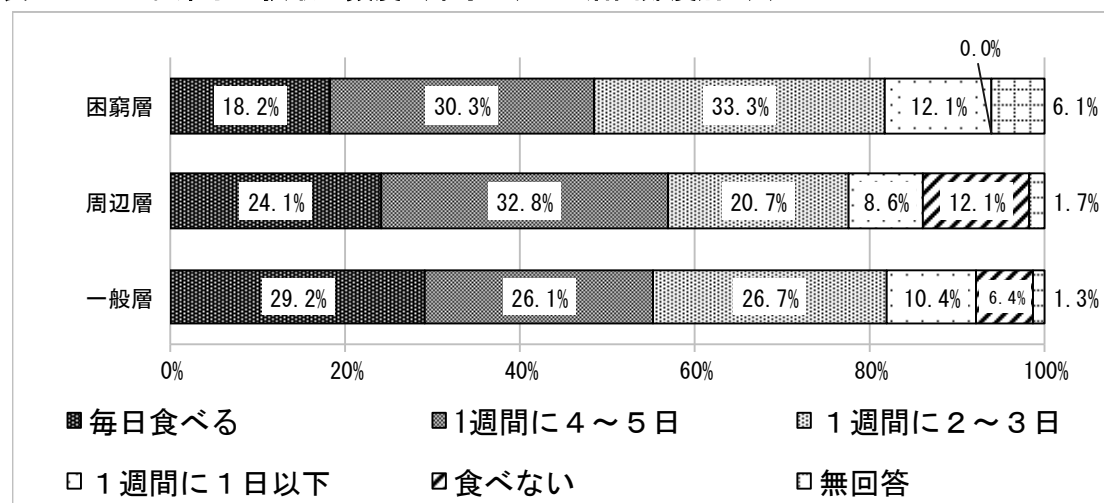
図表 2-3-8 お菓子の摂取の頻度：年齢層別



図表 2-3-9 お菓子の摂取の頻度（小学生）：生活困難度別（X）



図表 2-3-10 お菓子の摂取の頻度（中学生）：生活困難度別（X）

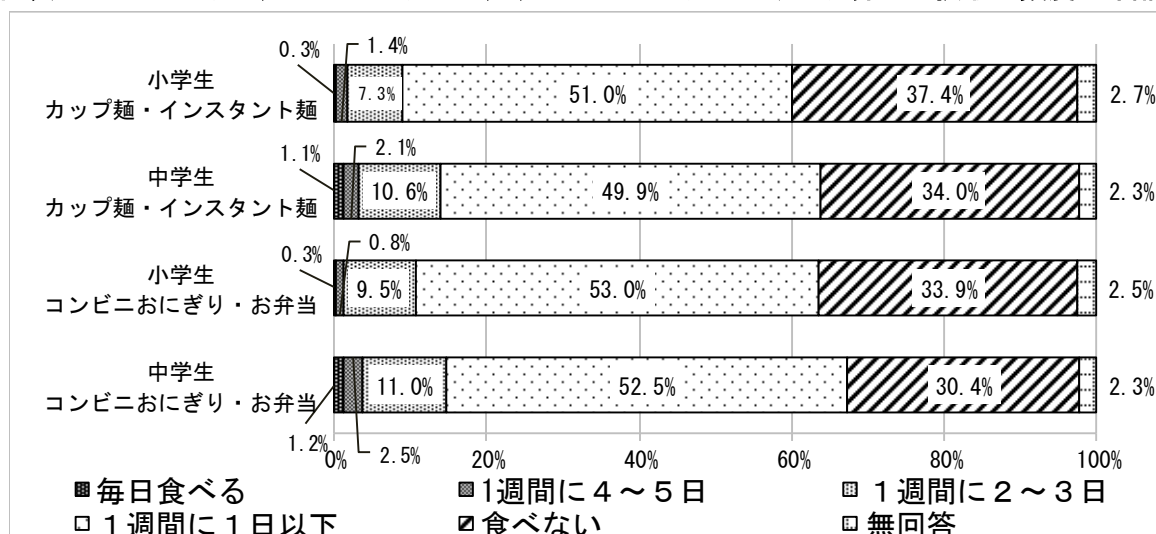


### ⑤カップ麺・インスタント麺、コンビニのおにぎり・お弁当

小学生と中学生において、カップ麺・インスタント麺、コンビニのおにぎり・お弁当を1週間に4～5日以上食べる子どもは、小学生ではカップ麺・インスタント麺は1.7%、おにぎり・お弁当は1.1%、中学生でもそれぞれ3.2%、3.7%である。約半数の子どもは「1週間に1日以下」、約3割の子どもは「食べない」と回答している。

生活困難度別に食べる頻度に統計的に有意な差があり、小学生では困窮層とひとり親（二世帯）世帯、中学生では困窮層とひとり親（三世帯）でこれらの食品の摂取の頻度が高い。カップ麺・インスタント麺について、小学生においては、困窮層では10.3%の子どもが「1週間に4～5日」と回答している。

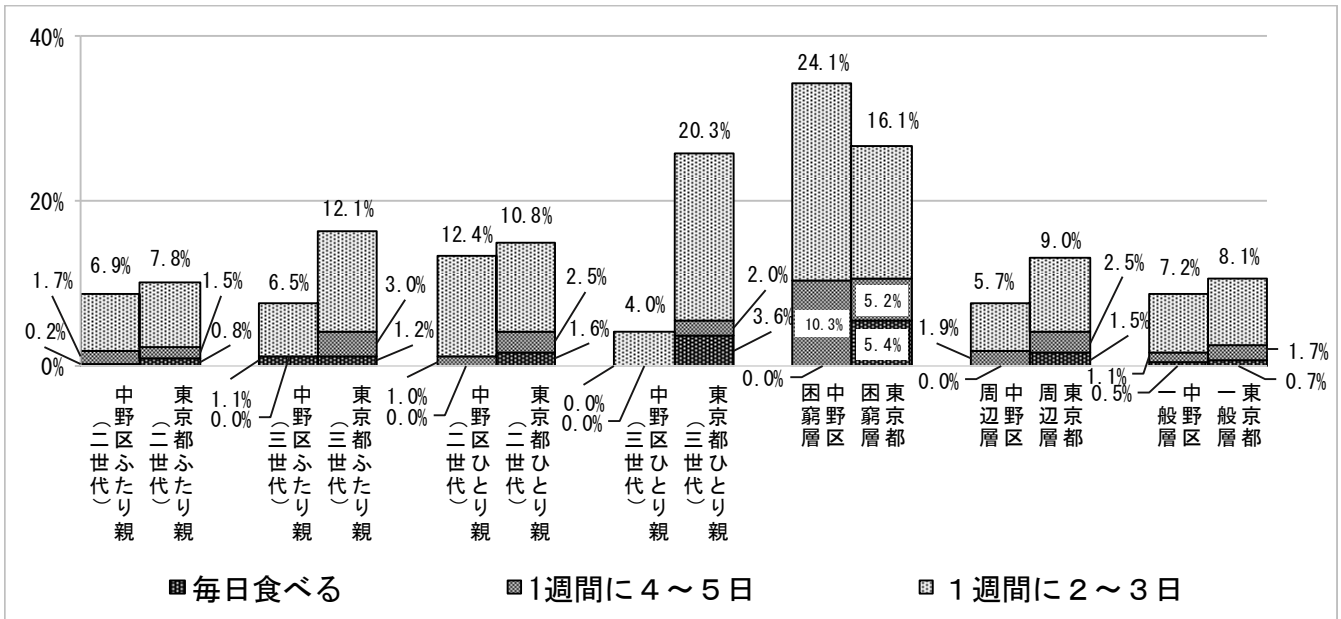
図表 2-3-11 カップ麺・インスタント麺、コンビニのおにぎり・お弁当の摂取の頻度：年齢層別



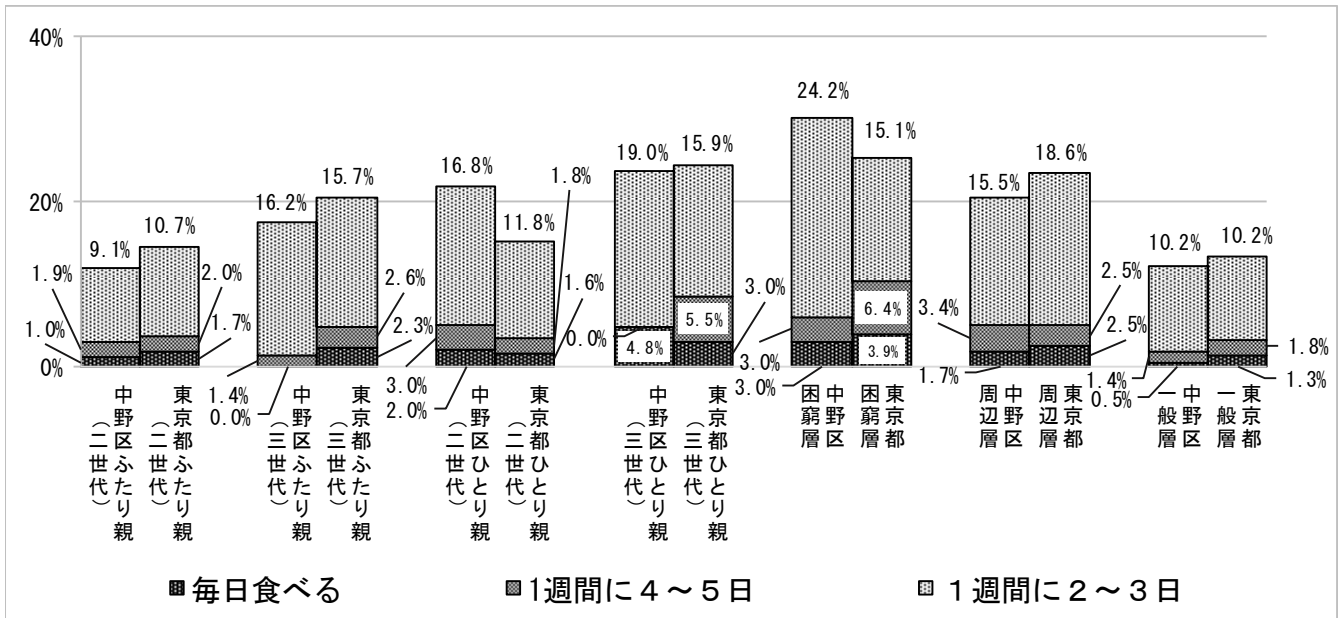
東京都との比較を見ると、小学生で特に差の大きい項目は、困窮層の「1週間に2～3日」で中野区の方が東京都に比べて高く、ひとり親（三世帯）の「1週間に2～3日」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。中学生で特に差の大きい項目は、困窮層の「1週間に2～3日」で中野区の方が東京都に比べて高く、ひとり親（三世帯）の「1週間に4～5日」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表 2-3-12 カップ麺・インスタント麺の摂取の頻度：世帯タイプ別・生活困難度別

中野区小学生（世帯タイプ別 X、生活困難度別\*\*\*）  
 東京都小学 5 年生（世帯タイプ別\*\*\*、生活困難度別\*\*\*）



中野区中学生（世帯タイプ別 X、生活困難度別\*）  
 東京都中学 2 年生（世帯タイプ別 X、生活困難度別\*\*\*）



## 4 住宅の状況

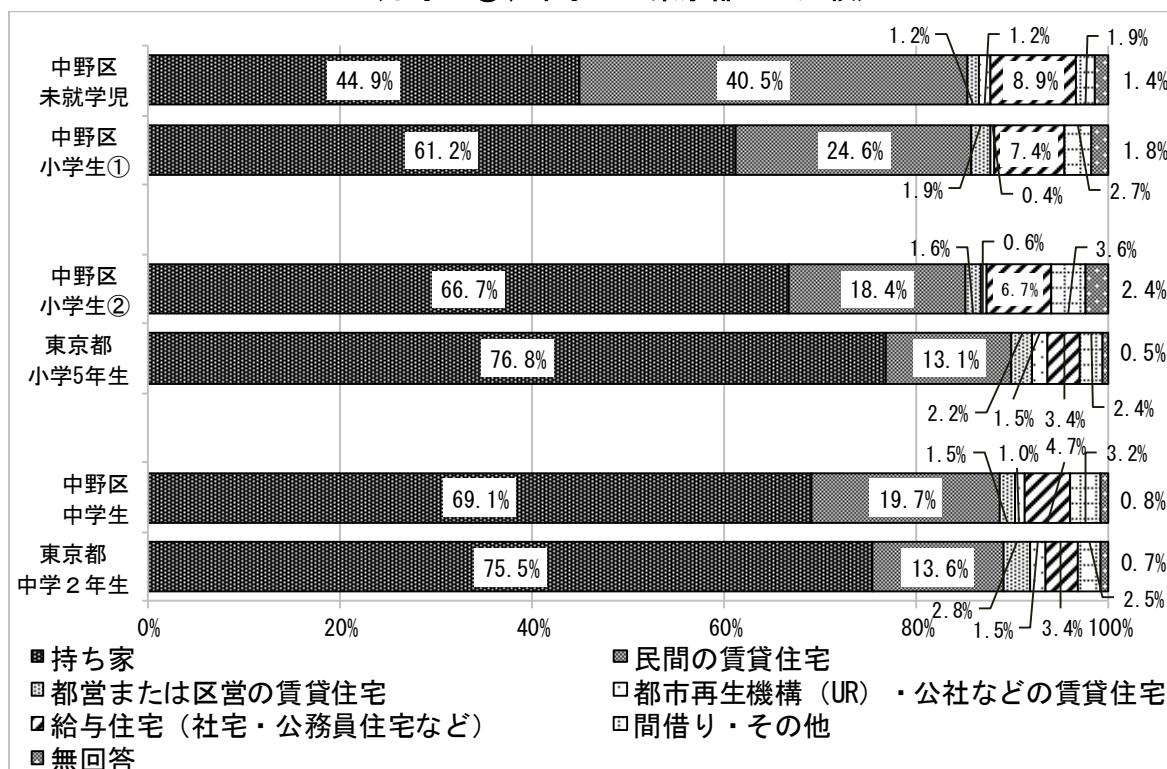
### (1) 住宅の種類

現在居住している住宅の種類について、子どもの保護者に聞いた。「持ち家」は、全ての年齢層で最も高く、年齢層が上がるにつれて高くなっており、未就学児 44.9%、小学生①61.2%、小学生②66.7%、中学生 69.1%であった。次いで「民間の賃貸住宅」が未就学児 40.5%、小学生①24.6%、小学生②18.4%、中学生 19.7%であった。

東京都との比較を見ると、差の大きい項目は小学生②、中学生共に「民間の賃貸住宅」で中野区の方が東京都に比べて高く、「持ち家」では東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表 2-4-1 住宅の種類：年齢層別

(小学生②、中学生は東京都との比較)

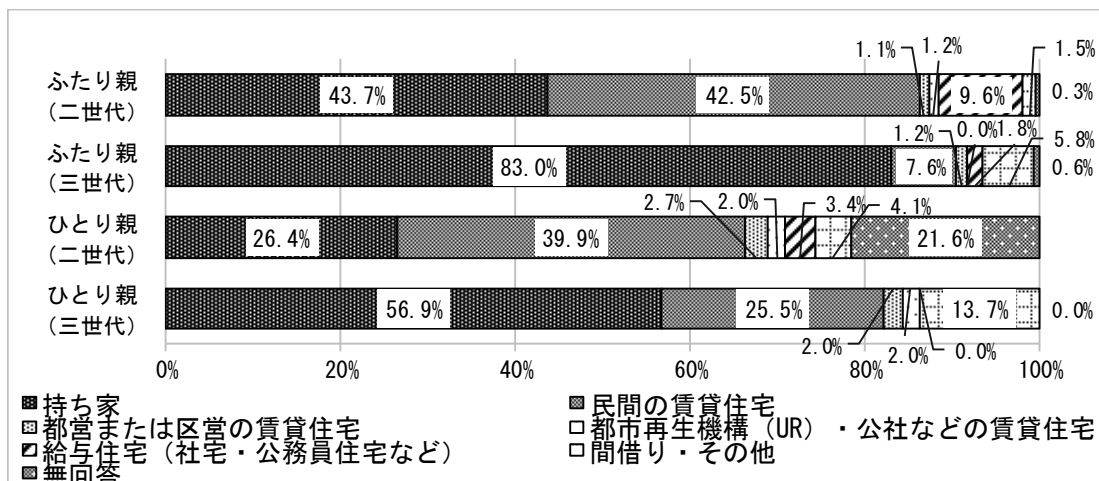


世帯タイプ別に見ると、「持ち家」に住んでいるのは、ひとり親よりふたり親が、二世帯より三世帯家族が高く、全ての年齢層で同様の傾向である。

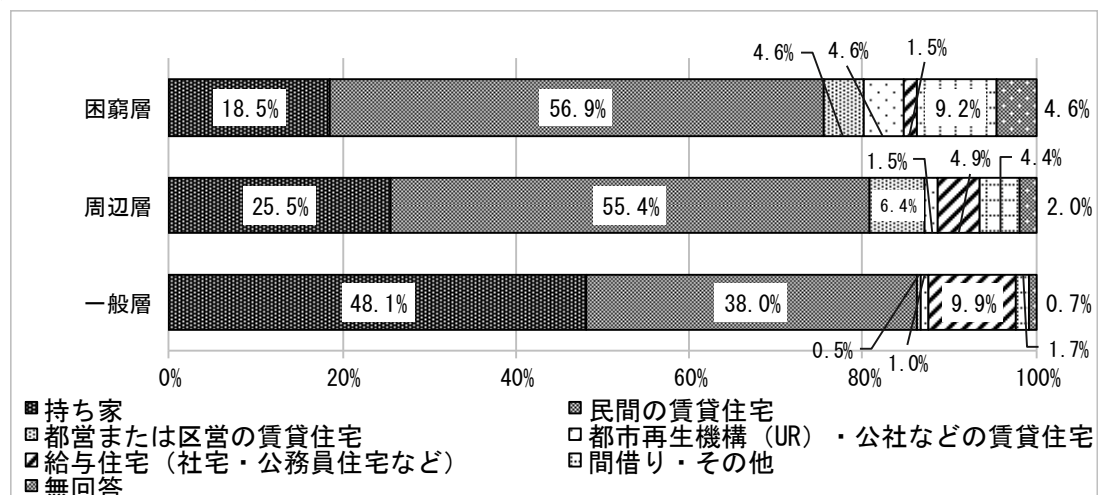
生活困難度別に見ると、「持ち家」に住んでいるのは、困窮層で約 18~27%、一般層で約 48~74%であり、困窮層と一般層で倍以上の差がある。また、「都営または区営の賃貸住宅」に住む世帯が困窮層では約 4~15%に対し、一般層では 1%前後である。

東京都との比較を見ると、差の大きい項目は小学生②、中学生共に全ての生活困難度の「民間の賃貸住宅」で中野区の方が東京都に比べて高く、生活困難度が高まるほど差は広がる。また全ての生活困難度の「持ち家」で東京都の方が中野区に比べて高く、生活困難度が高まるほど差は広がる。

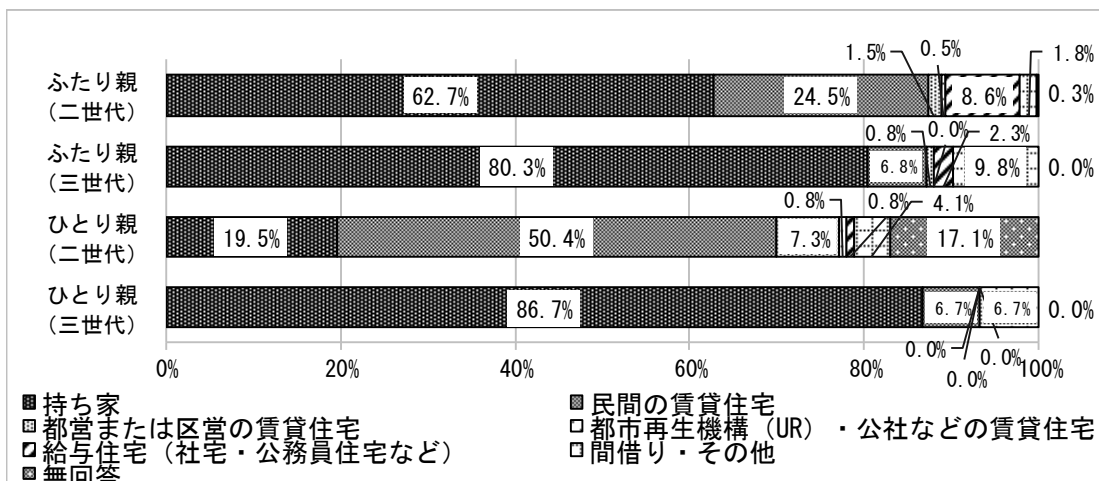
図表 2-4-2 住宅の種類（未就学児）：世帯タイプ別（\*\*\*）



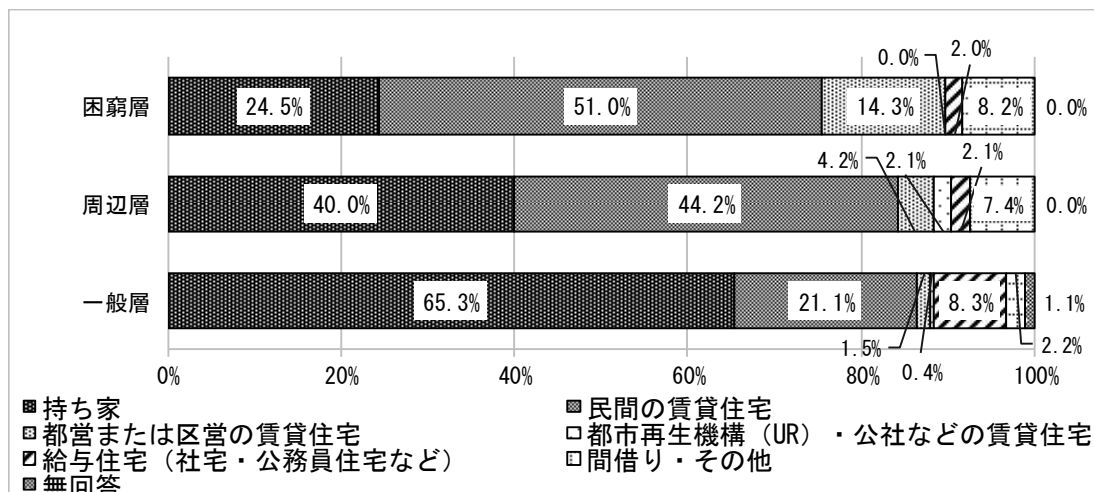
図表 2-4-3 住宅の種類（未就学児）：生活困難度別（\*\*\*）



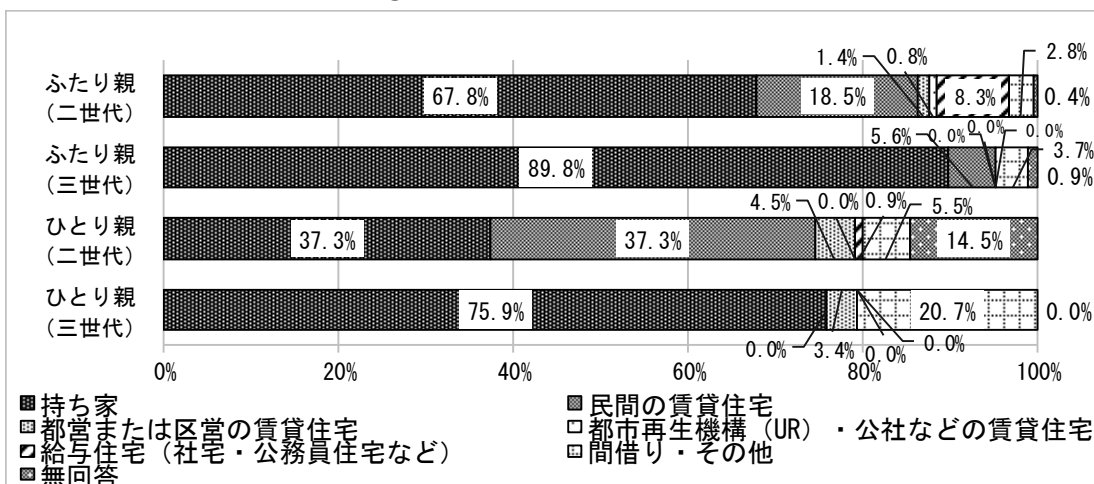
図表 2-4-4 住宅の種類（小学生①）：世帯タイプ別（\*\*\*）



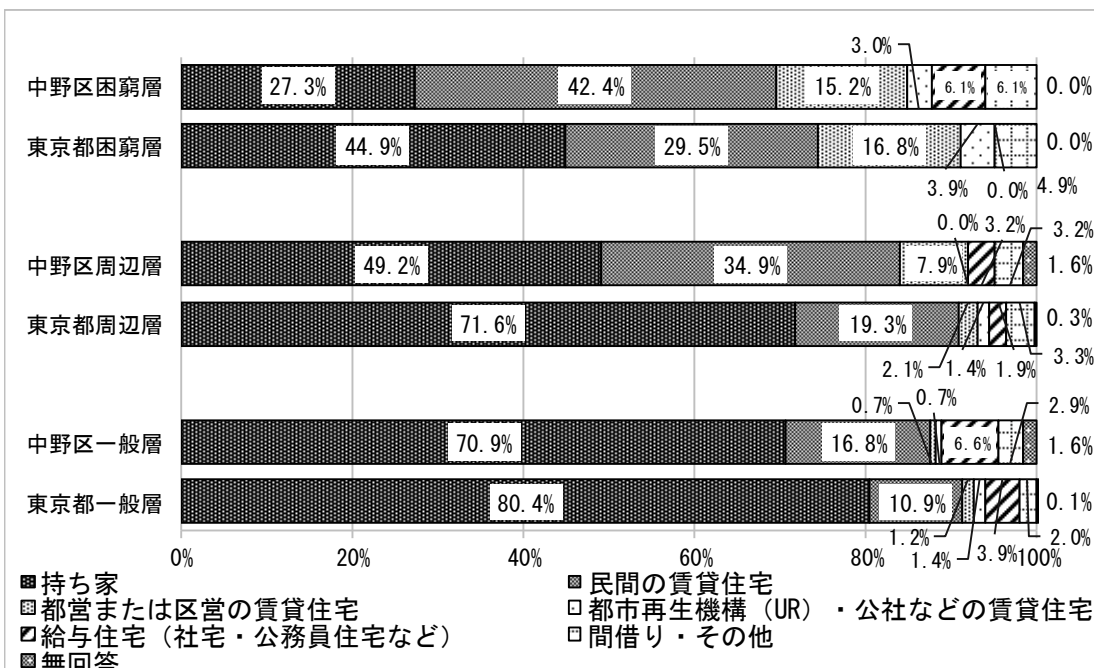
図表 2-4-5 住宅の種類（小学生①）：生活困難度別（\*\*\*）



図表 2-4-6 住宅の種類（小学生②）：世帯タイプ別（\*\*\*）

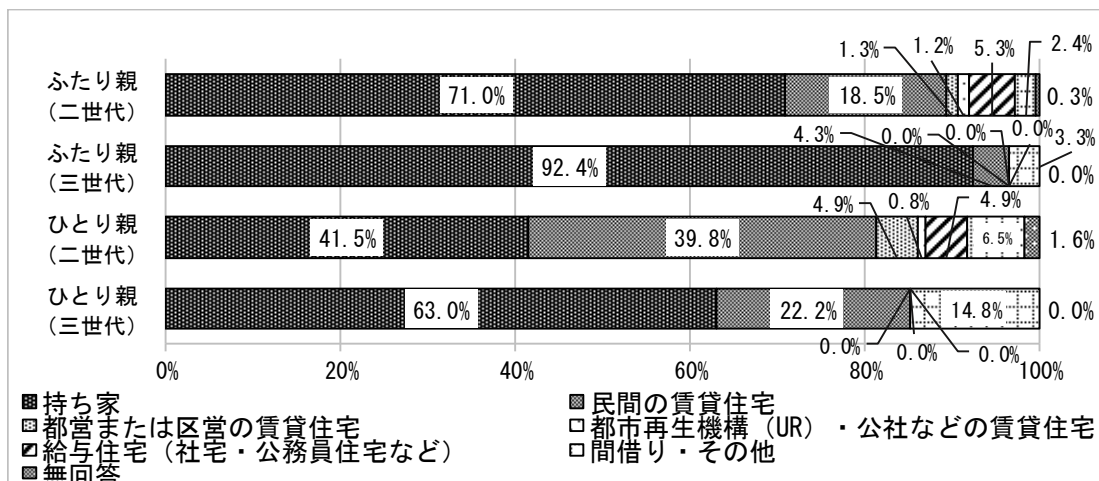


図表 2-4-7 住宅の種類（中野区小学生②、東京都小学5年生）：生活困難度別（\*\*\*）

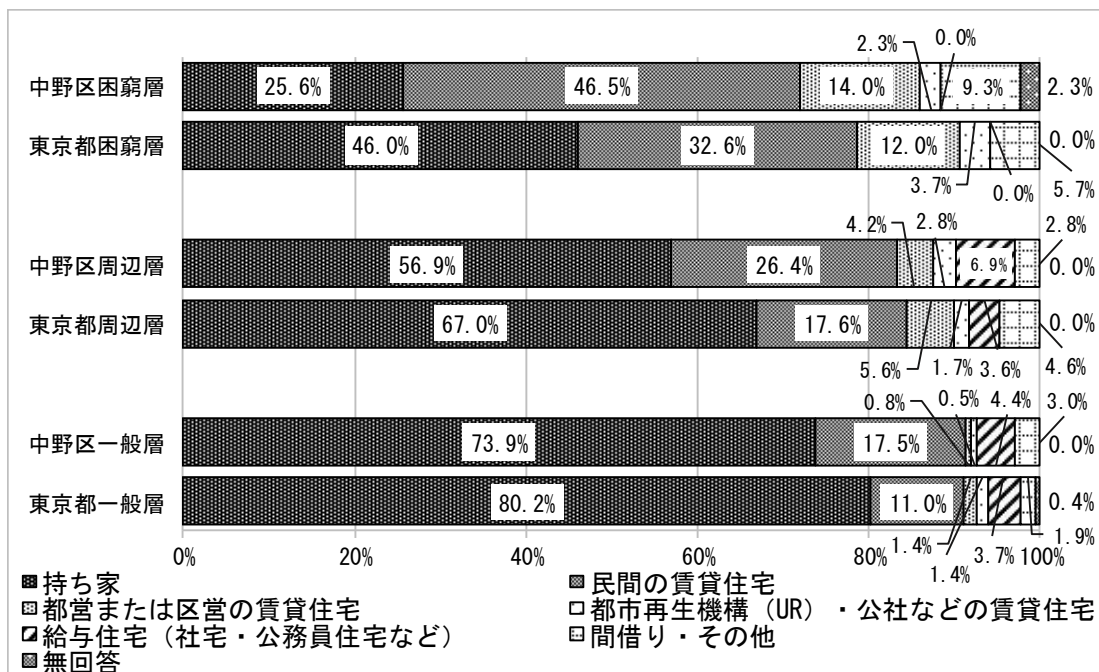




図表 2-4-8 住宅の種類（中学生）：世帯タイプ別 (\*\*\*)



図表 2-4-9 住宅の種類（中野区中学生、東京都中学2年生）：生活困難度別 (\*\*\*)



## 第3部 子どもの学び



## 1 学校の種類と学校選択の理由

### (1) 学校の設置者

回答者が在籍している学校の設置者（保護者票の回答）は図表 3-1-1 のとおりである。

東京都との比較を見ると、特に差の大きい項目は、小学生②、中学生共に「私立」は東京都に比べて中野区の方が高く、中学生の「公立」は中野区に比べて東京都の方が高くなっている。

図表 3-1-1 現在在籍している学校の設置者

	小学生①	小学生②		中学生	
		中野区	東京都	中野区	東京都
公立	91.7%	90.7%	91.7%	62.6%	73.3%
私立	6.5%	7.4%	3.6%	33.0%	20.7%
国立	0.9%	0.6%	0.9%	3.5%	3.1%
無回答	0.9%	1.4%	3.8%	0.9%	2.9%

※公立：区立、市立、都立 国立：国立、公立中高一貫校

### (2) 中学生の学校選択の理由

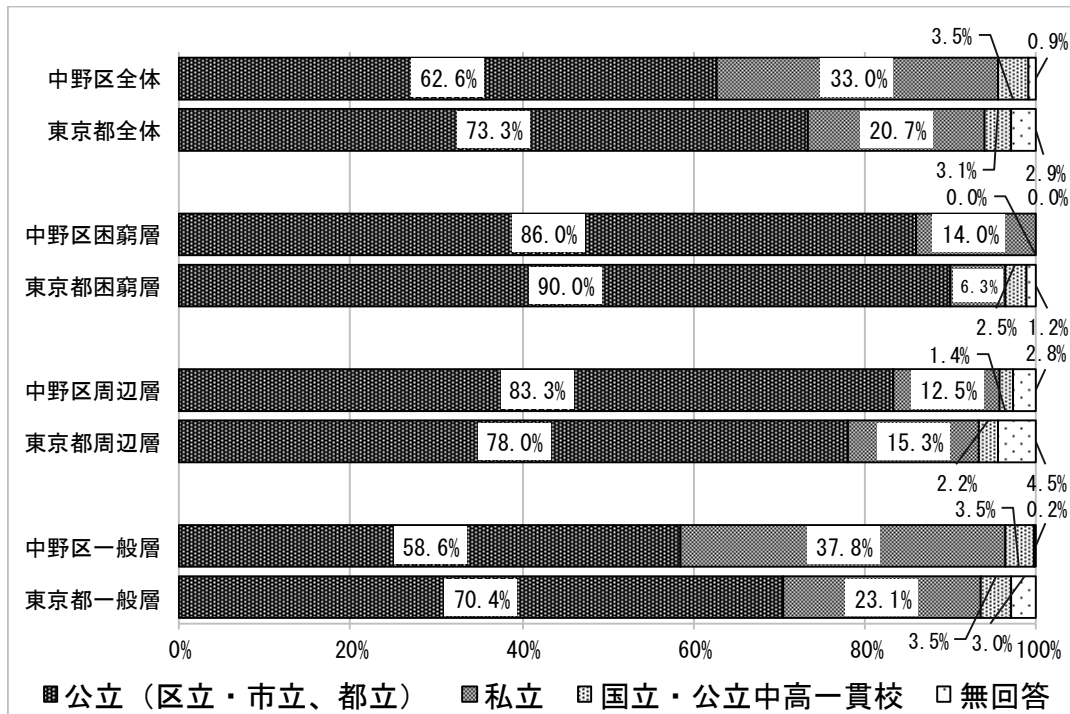
中学生の保護者に、在籍する学校の設置者を聞いた。公立中学校に通っているのは62.6%、私立中学校は33.0%であった。この割合を生活困難度別に見ると、困窮層は一般層に比べて公立を選択する割合が高く、86.0%である。公立以外に進学する割合は、一般層では41.3%であるのに対し、周辺層は13.9%、困窮層は14.0%であった。

中学生の保護者に、子どもが私立中学校に進学した理由を聞いたところ、困窮層、周辺層は母数が少ないものの生活困難度別のどの階層でも「教育の質が高いと思った」、「教育方針が気に入った」が最も高い。

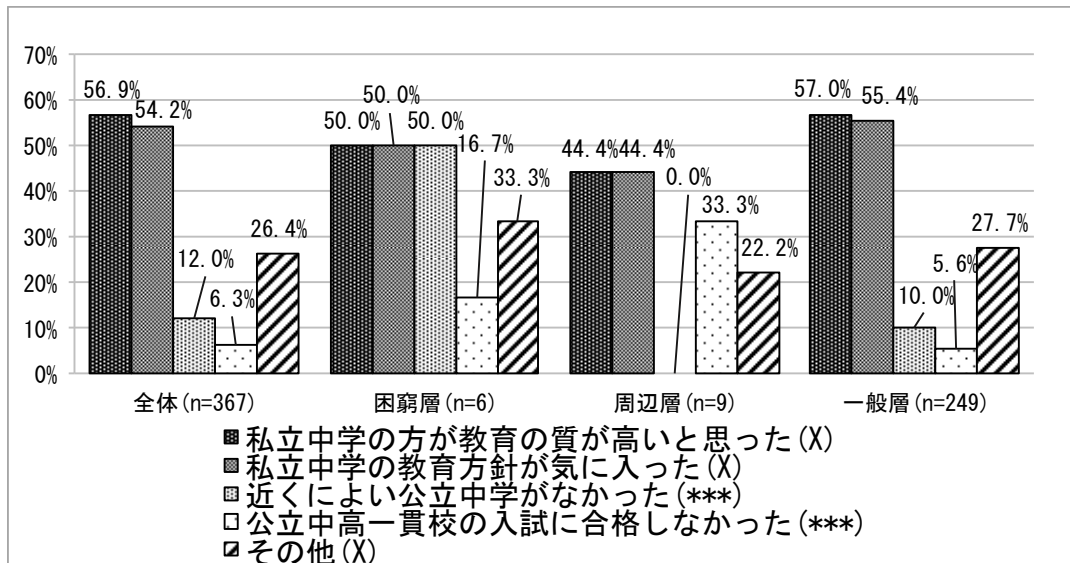
世帯タイプ別に見ると、ふたり親（二世帯）以外の母数が少ないものの、「私立中学の方が教育の質が高い」、「教育方針が気に入った」が高い。

東京都との比較を見ると、特に差の大きい項目は、中野区全体、一般層の「私立」で中野区の方が東京都に比べて高く、中野区全体、困窮層、一般層の「公立（区立・市立、都立）」、周辺層の「私立」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

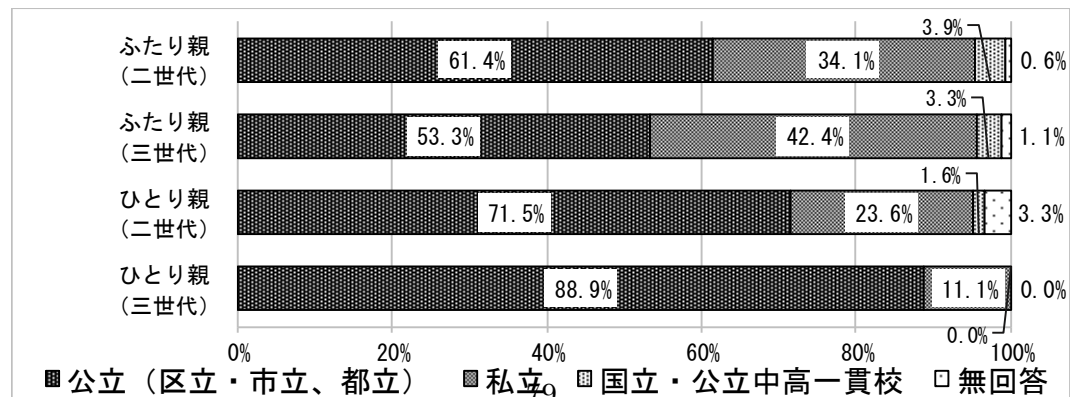
図表 3-1-2 在籍する学校の設置者（中野区中学生、東京都中学2年生）：全体、生活困難度別 (\*\*\*)



図表 3-1-3 私立中学校に進学した理由（中学生）：全体、生活困難度別

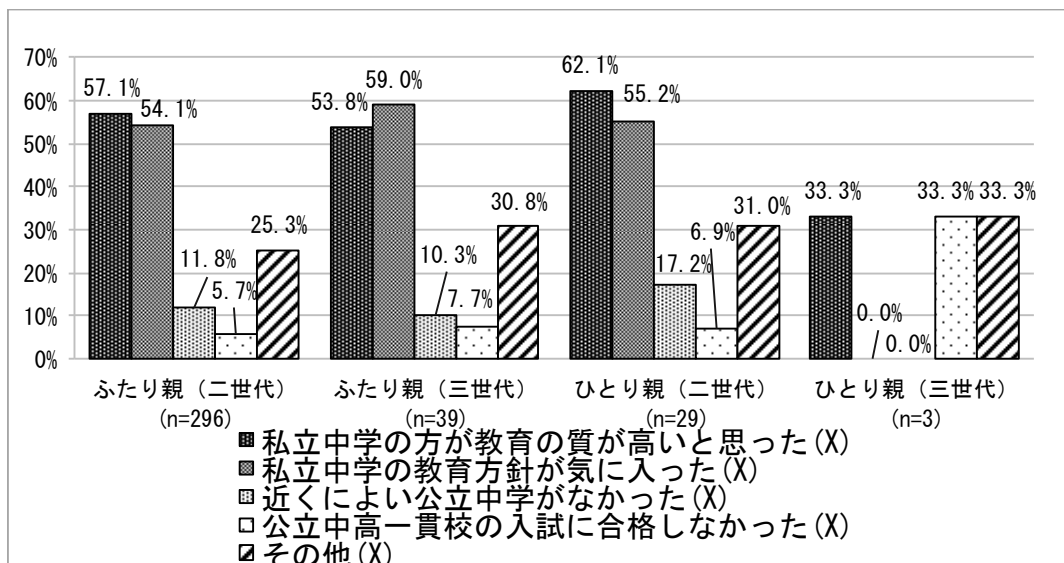


図表 3-1-4 在籍する学校の設置者（中学生）：世帯タイプ別 (\*\*\*)





図表 3-1-5 私立中学校に進学した理由（中学生）：世帯タイプ別



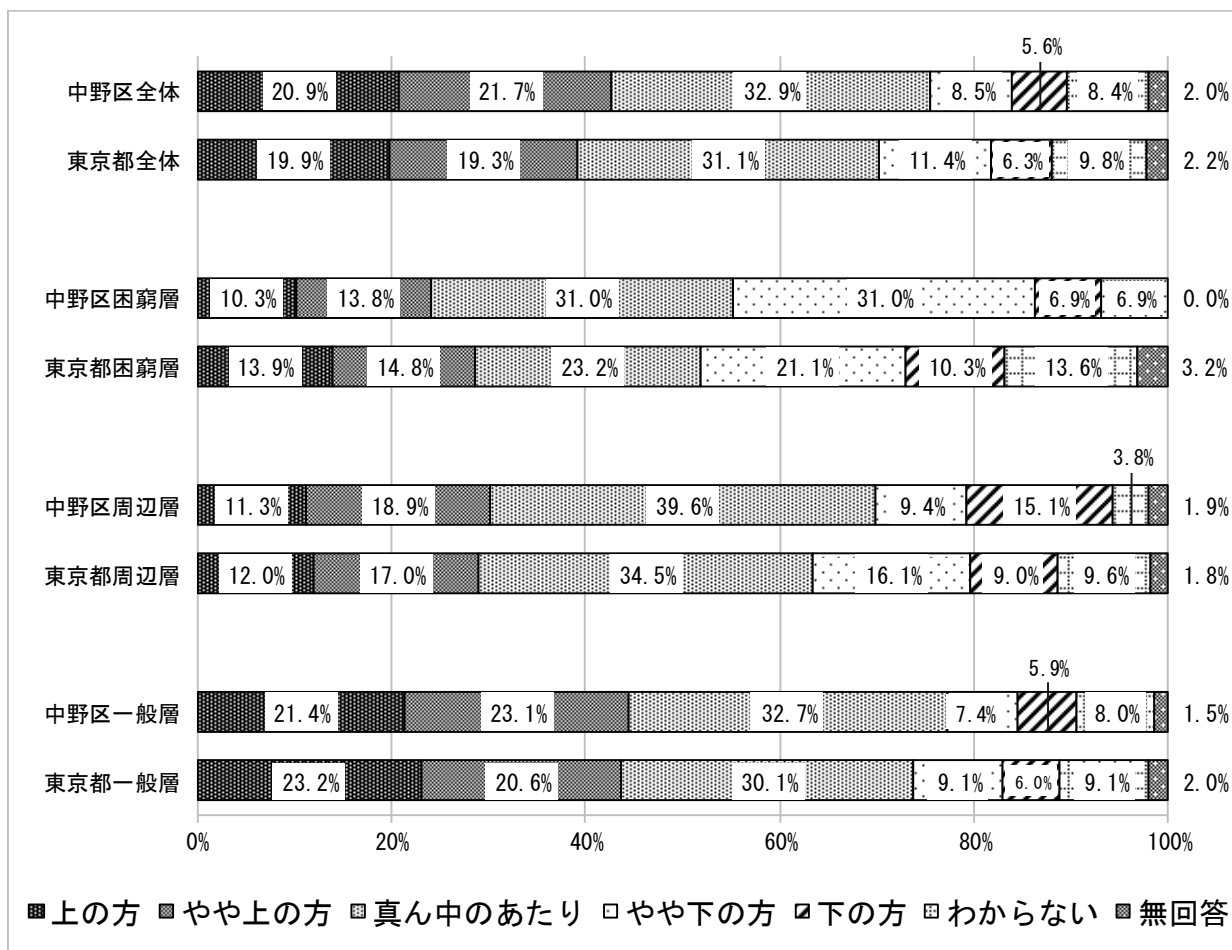
## 2 学校の成績についての主観的評価

### (1) 小学生

子どもに自分の成績について「クラスの中でどのくらいだと思いますか」と聞いたところ、全体で見ると、小学生の20.9%が「上の方」、21.7%が「やや上の方」と答えているが、一方で5.6%が「下の方」、8.5%が「やや下の方」と回答している。生活困難度別で見ると、自分の成績が下の方だと感じる子どもは困窮層が13.8%、周辺層が18.9%、一般層が13.9%の子どもが自分の成績を「やや下の方」、「下の方」と感じている。

東京都との比較を見ると、小学生で特に差の大きい項目は、困窮層の「真ん中のあたり」、「やや下の方」、周辺層の「真ん中のあたり」、「下の方」で中野区の方が東京都に比べて高く、周辺層の「やや下の方」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表 3-2-1 成績の主観的評価（中野区小学生、東京都小学5年生）：全体、生活困難度別 (\*\*\*)



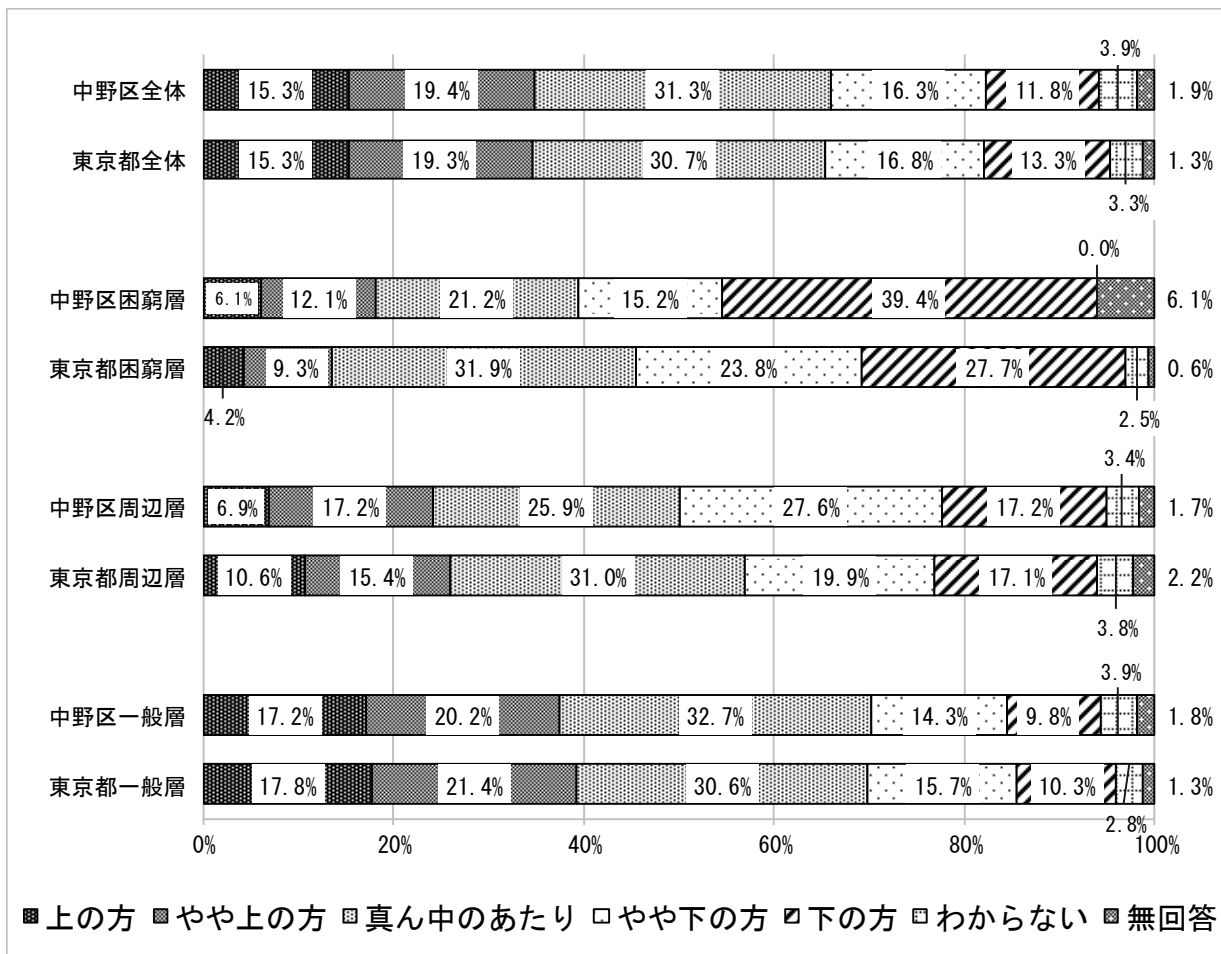


## (2) 中学生

中学生になると、小学生に比べて、全体的に自分の成績の評価が下がる傾向がある。中学生の11.8%が「下の方」と回答しており、この割合は小学生(5.6%)の約2倍である。また、生活困難度別に見ると、中学生では困窮度が上がるにつれ自分の成績が下の方だと感じる子どもの割合が増え、困窮層の54.6%が自分の成績を「やや下の方」、「下の方」と感じている。

東京都との比較を見ると、中学生で特に差の大きい項目は、困窮層の「下の方」、周辺層の「やや下の方」で中野区の方が東京都に比べて高く、困窮層の「真ん中のあたり」、「やや下の方」、周辺層の「真ん中のあたり」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表 3-2-2 成績の主観的評価（中野区中学生、東京都中学2年生）：全体、生活困難度別 (\*\*\*)



### 3 授業の理解度・わからなくなった時期

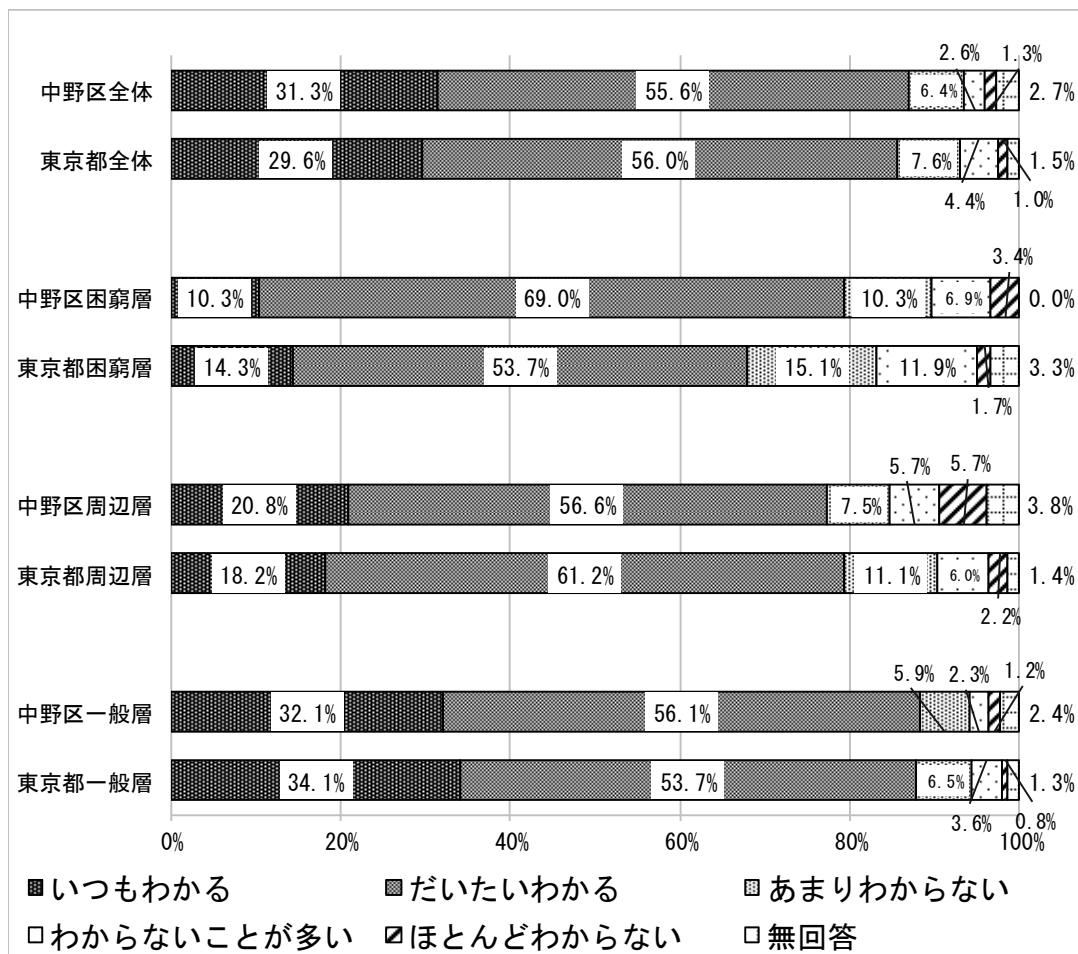
#### (1) 小学生

小学生に、「学校の授業がわからないことがありますか」と聞いた。その結果、31.3%が「いつもわかる」、55.6%が「だいたいわかる」と合わせて86.9%が学校の授業を「わかる」と回答している。一方で、6.4%が「あまりわからない」、2.6%が「わからないことが多い」、1.3%が「ほとんどわからない」と回答しており、小学校の段階においても学習に問題を抱える子どもが1割以上存在する。この割合は、生活困難度別に大きな差があり、困窮層の小学生で授業が「いつもわかる」生徒は10.3%で、一般層よりも約22ポイント低い。困窮層、周辺層の約2割は、学校の授業がよくわからない（「あまりわからない」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」と答えている。

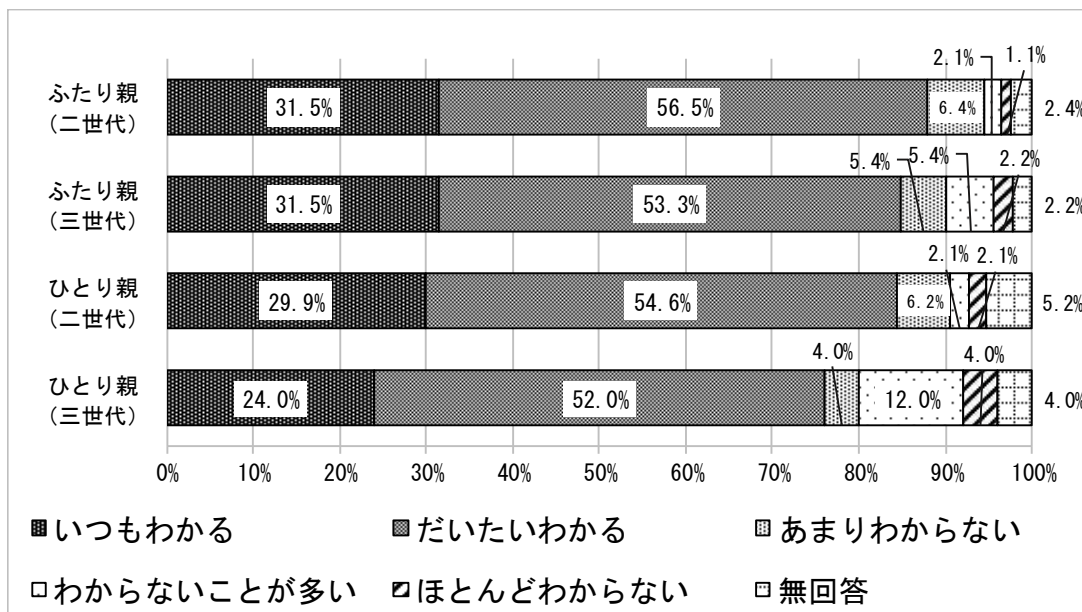
世帯タイプ別では、「あまりわからない」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」と答えている割合が、ひとり親（三世代）世帯で20.0%、ふたり親（三世代）世帯で13.0%となっている。

東京都との比較を見ると、小学生で特に差の大きい項目は、困窮層の「だいたいわかる」で中野区の方が東京都に比べて高く、困窮層の「いつもわかる」、「あまりわからない」、「わからないことが多い」、周辺層の「だいたいわかる」、「あまりわからない」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表 3-3-1 授業の理解度（中野区小学生、東京都小学5年生）：全体、生活困難度別 (\*\*)



図表 3-3-2 授業の理解度（小学生）：世帯タイプ別 (X)



## (2) 中学生

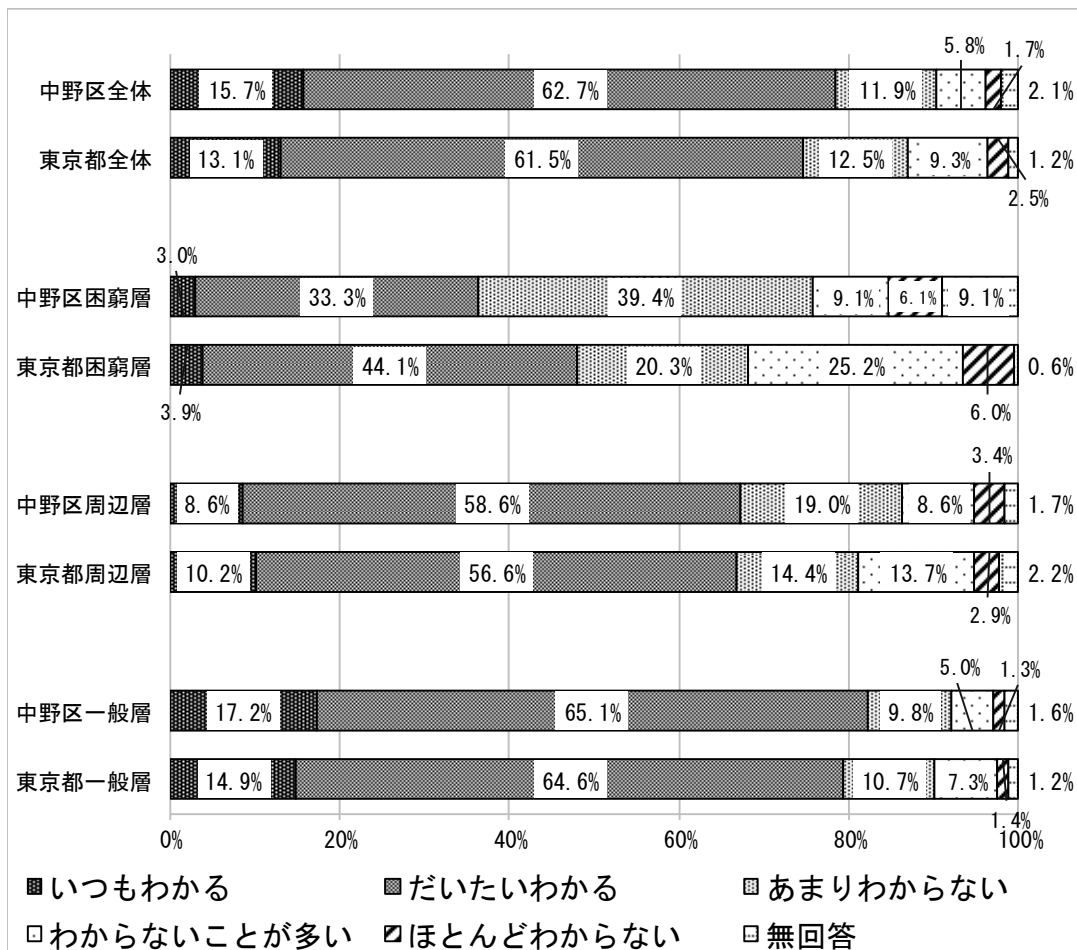
中学生になると授業がよくわからないと感じる子どもの割合は全体的に増え、全体の19.4%が「あまりわからない」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」と回答している。

生活困難度別には、一般層の82.3%は、授業が「いつもわかる」、「だいたいわかる」と回答しているのに対し、困窮層では半数以上(54.6%)が学校の授業をよくわからない(「あまりわからない」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」と回答している。

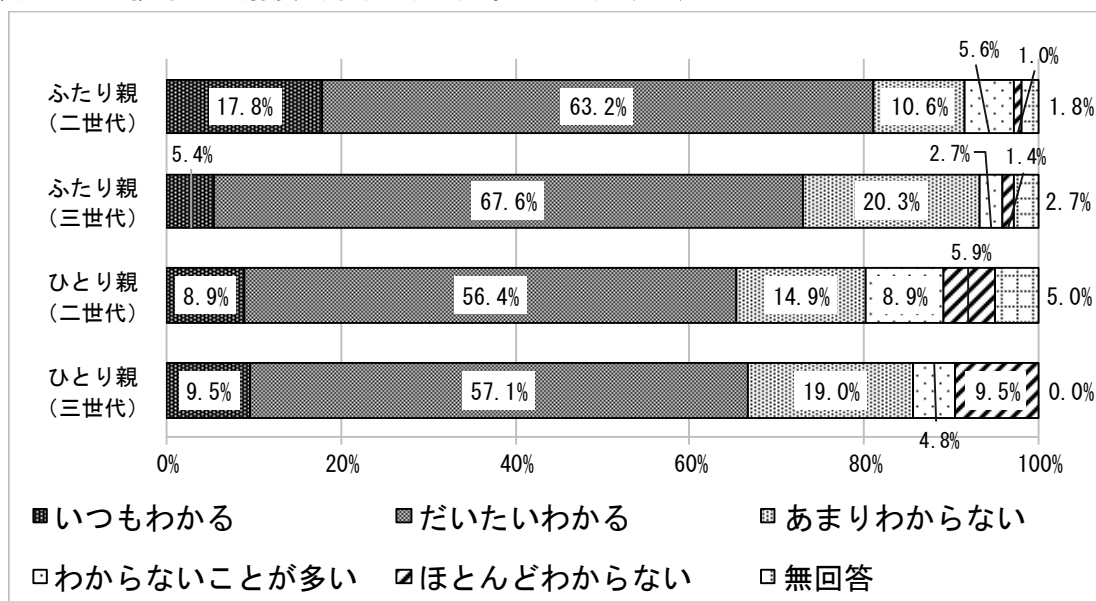
世帯タイプ別に見ると、ふたり親(三世代)は24.4%、ひとり親(二世帯)は、29.7%、ひとり親(三世代)世帯は33.3%が授業をよくわからないと回答しているが、ふたり親(二世帯)世帯では17.2%であった。

東京都との比較を見ると、中学生で特に差の大きい項目は、困窮層、周辺層の「あまりわからない」で中野区の方が東京都に比べて高く、困窮層の「だいたいわかる」、「わからないことが多い」、周辺層の「わからないことが多い」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表 3-3-3 授業の理解度(中野区中学生、東京都中学2年生): 全体、生活困難度別 (\*\*\*)



図表 3-3-4 授業の理解度（中学生）：世帯タイプ別 (\*\*\*)

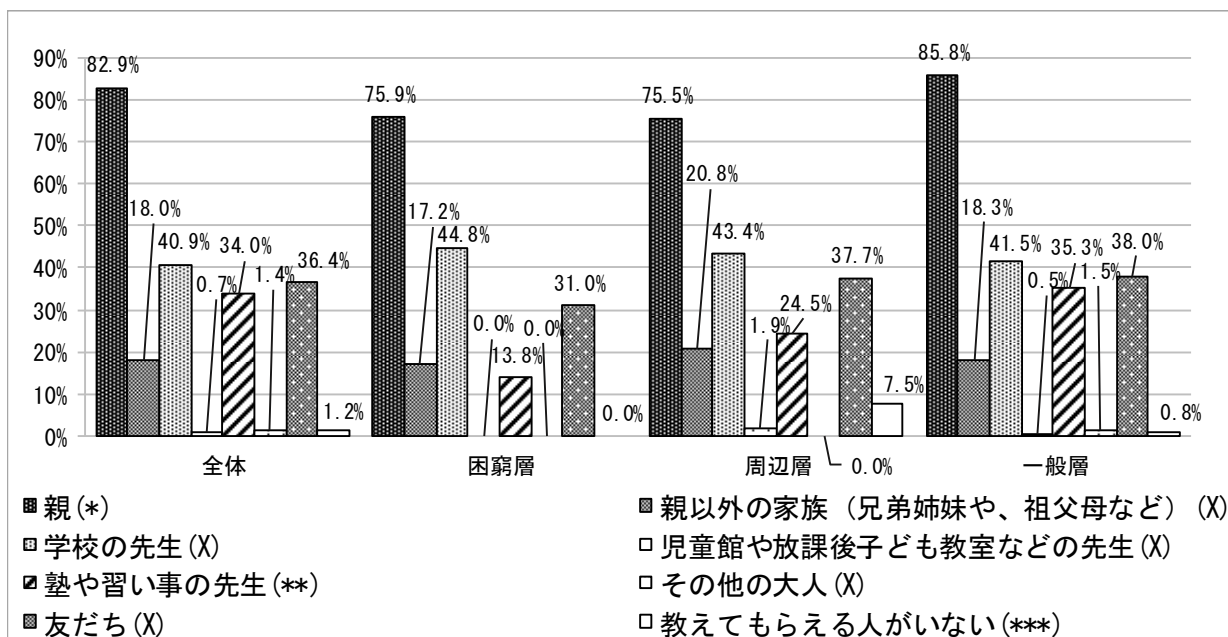


## 4 学校外での学習の状況

### (1) 小学生

小学生に、「勉強がわからないときは、誰に教えてもらいますか」と聞いたところ、82.9%は「親」、40.9%は「学校の先生」、36.4%は「友だち」、34.0%は「塾や習い事の先生」と回答している。生活困難度別に見ると、困窮層は、周辺層・一般層に比べて「塾や習い事の先生」に教えてもらう割合が低い。

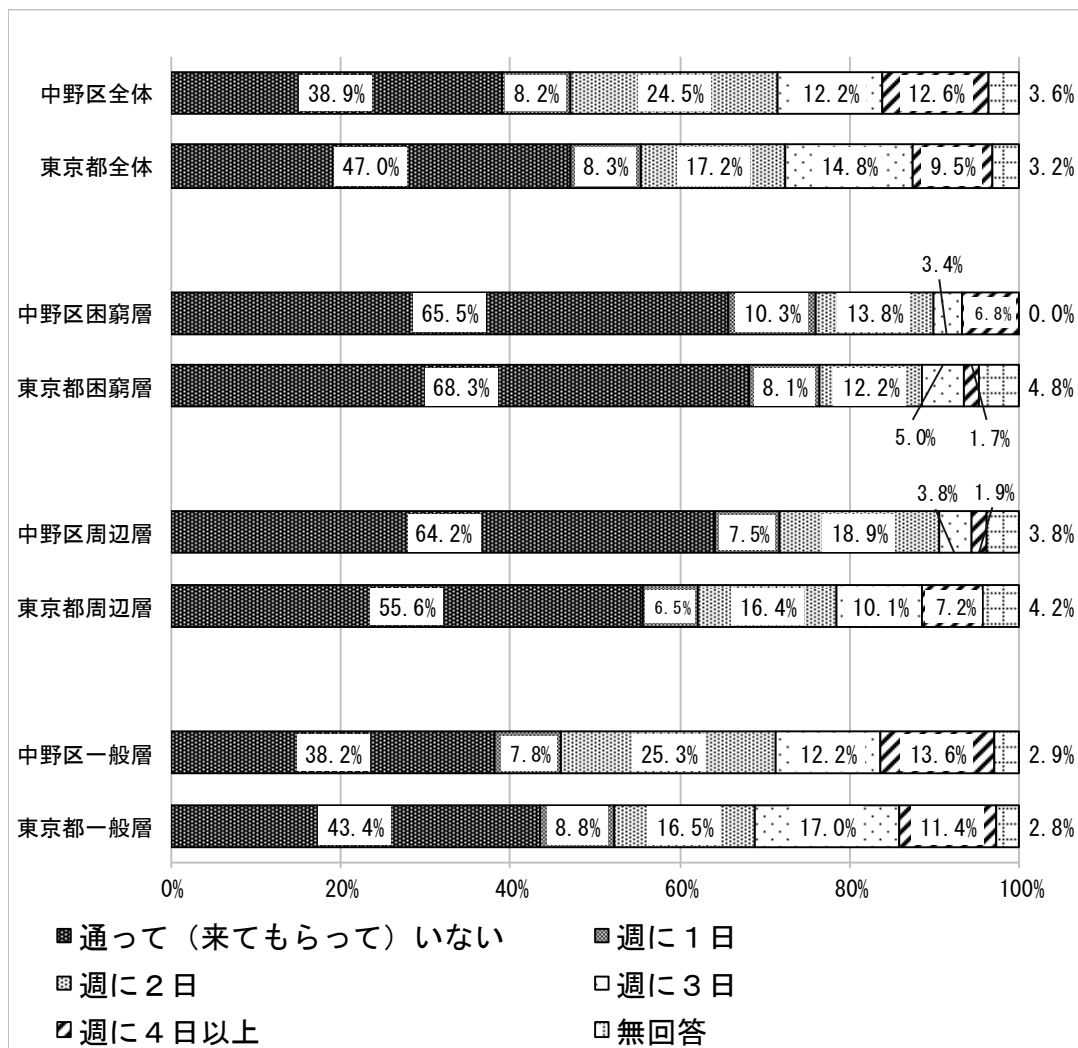
図表 3-4-1 勉強がわからない時に教えてもらう人（小学生）：全体、生活困難度別



通塾（又は家庭教師）については、全体では半数以上（57.5%）が塾に通って（又は家庭教師に来てもらって）おり、12.6%は週4日以上通っている。通塾の頻度は、生活困難度が上がるほど低くなり、困窮層は65.5%が塾に通っておらず、一般層との差は約27ポイントであった。

東京都との比較を見ると、小学生で特に差の大きい項目は、中野区全体の「週に2日」、困窮層の「週に4日以上」、周辺層の「通って（来てもらって）いない」、一般層「週に2日」で中野区の方が東京都に比べて高く、中野区全体の「通って（来てもらって）いない」、周辺層の「週に3日」、「週に4日以上」、一般層の「通って（来てもらって）いない」、「週に3日」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

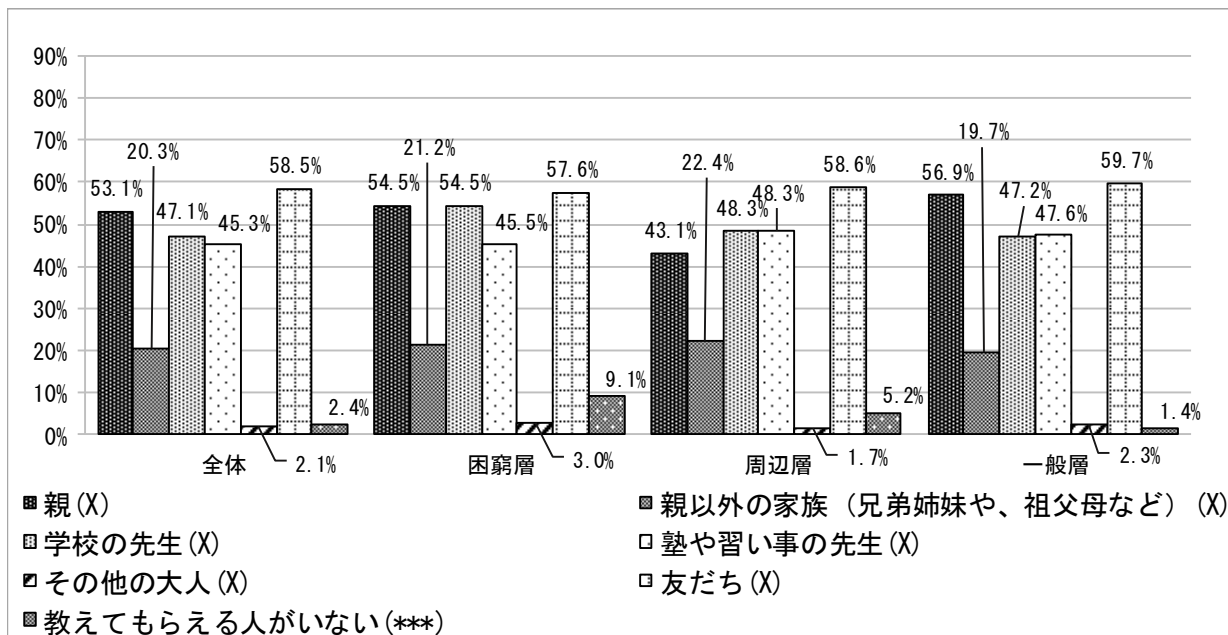
図表3-4-2 通塾（又は家庭教師）状況（中野区小学生、東京都小学5年生）：全体、生活困難度別 (\*\*)



## (2) 中学生

中学生については、勉強がわからない時、58.5%が「友だち」に、53.1%が「親」と回答している。また、「学校の先生」は47.1%、「塾や習い事の先生」は45.3%となっている。「学校の先生」については、困窮層では54.5%である一方、周辺層では48.3%、一般層では47.2%となっている。困窮層の9.1%は「教えてもらえる人がいない」と回答しており、これは一般層の6倍以上である。

図表 3-4-3 勉強がわからない時に教えてもらう人（中学生）：全体、生活困難度別

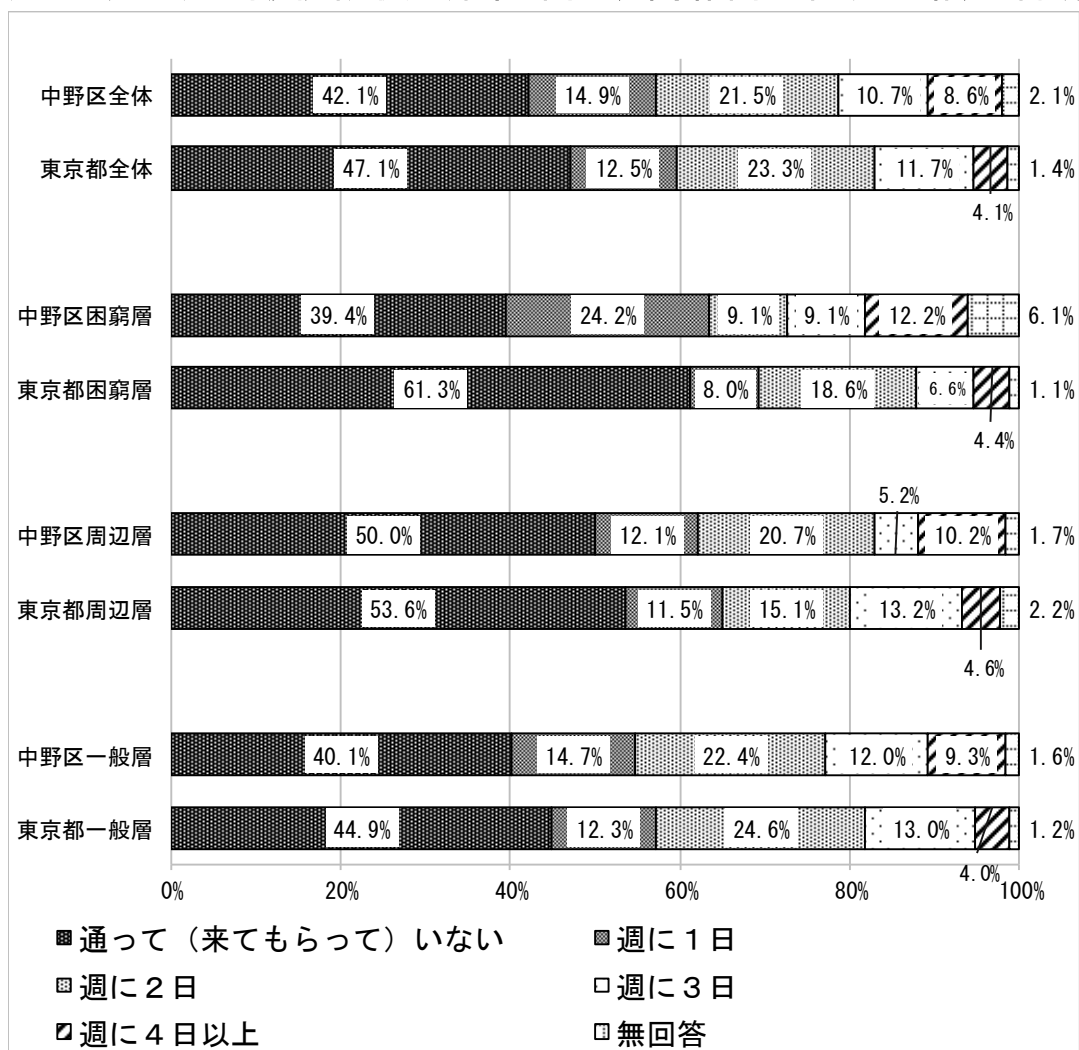


通塾（又は家庭教師）については、全体の55.7%が通って（又は来てもらって）おり、小学生より若干割合が低い。生活困難度別に見ると、困窮層の39.4%、周辺層の50.0%、一般層の40.1%は塾に行っていない。

東京都との比較を見ると、中学生で特に差の大きい項目は、困窮層の「週に1日」、「週に4日以上」、周辺層の「週に2日」、「週に4日以上」、一般層の「週に4日以上」で中野区の方が東京都に比べて高く、困窮層の「通って（来てもらって）いない」、「週に2日」、周辺層の「週に3日」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。



図表3-4-4 通塾（又は家庭教師）状況（中野区中学生、東京都中学2年生）：全体、生活困難度別(X)



## 5 学習環境の欠如の状況

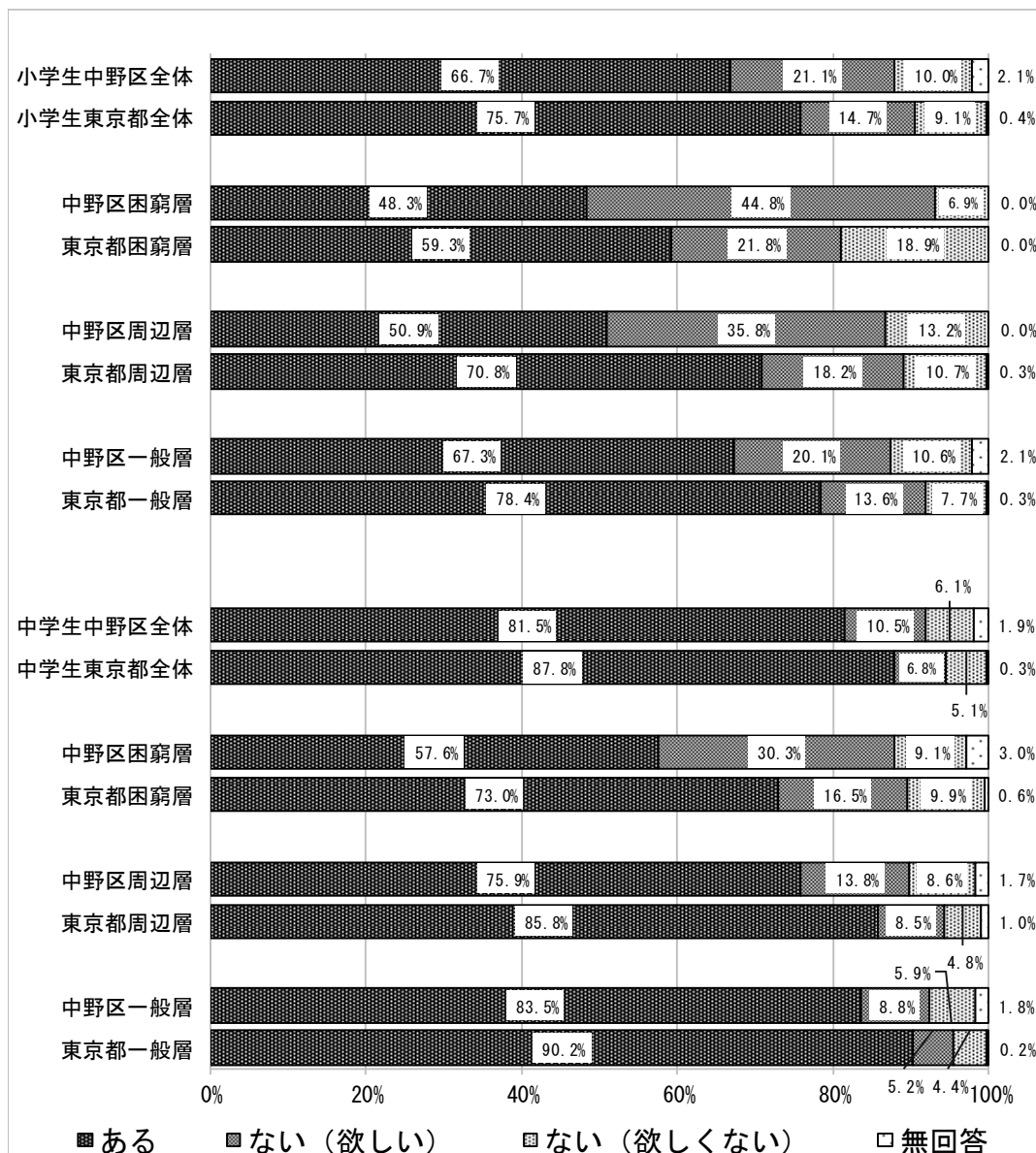
家庭における学習環境を見るために、小学生と中学生に「自分専用の勉強机」、「自宅で宿題（勉強）ができる場所」、「自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）」、「（自宅で）インターネットにつながるパソコン」の所有状況を聞いた。

小学生は、自分専用の勉強机を持っているのは全体で66.7%であるが、21.1%は「ない（欲しい）」、10.0%は「ない（欲しくない）」としている。困窮層では、「ない（欲しい）」と回答したのは44.8%であった（一般層では20.1%、周辺層では35.8%）。

中学生は、81.5%が自分専用の勉強机を持っているが、10.5%は「ない（欲しい）」、6.1%は「ない（欲しくない）」としている。困窮層では、「ない（欲しい）」と回答したのは30.3%であった（一般層では8.8%、周辺層では13.8%）。

東京都との比較では、小学生、中学生共に中野区全体及び生活困難度別の集計において、東京都に比べて中野区の方が「ない（欲しい）」が高く、「ある」が低くなっている。

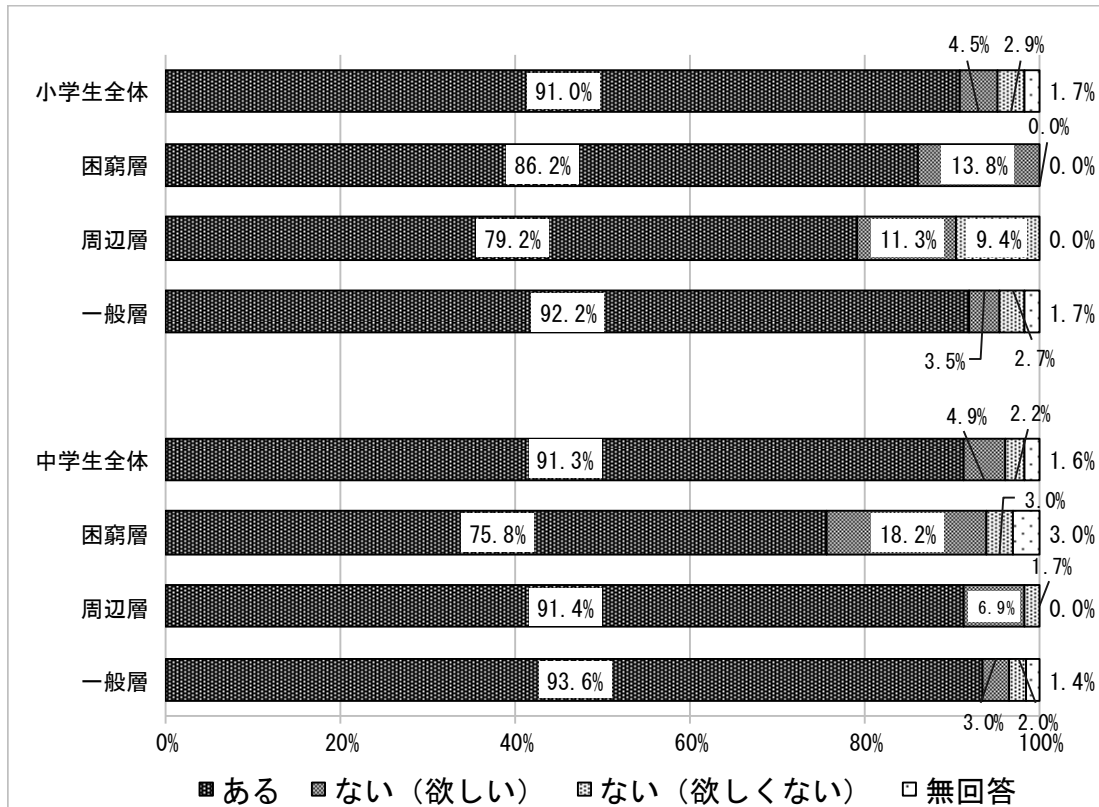
図表 3-5-1 自分専用の勉強机の有無（欠如）の状況（小学生・中学生）：（生活困難度別  
中野区小学生(\*\*\*)・中学生(\*\*\*) 東京都小学5年生(\*\*\*)・中学2年生(\*\*\*)）



「自宅で宿題（勉強）ができる場所」については、小学生全体の4.5%、中学生の4.9%が「ない（欲しい）」としている。困窮層では、この割合は小学生では13.8%、中学生では18.2%となっており、困窮層の1割以上の子どもが「自宅で宿題（勉強）ができる場所」を欲しいが持てない状況にある。

図表 3-5-2 自宅で宿題（勉強）ができる場所の有無（欠如）状況（年齢層別全体

生活困難度別小学生(\*\*\*)中学生(\*\*\*)

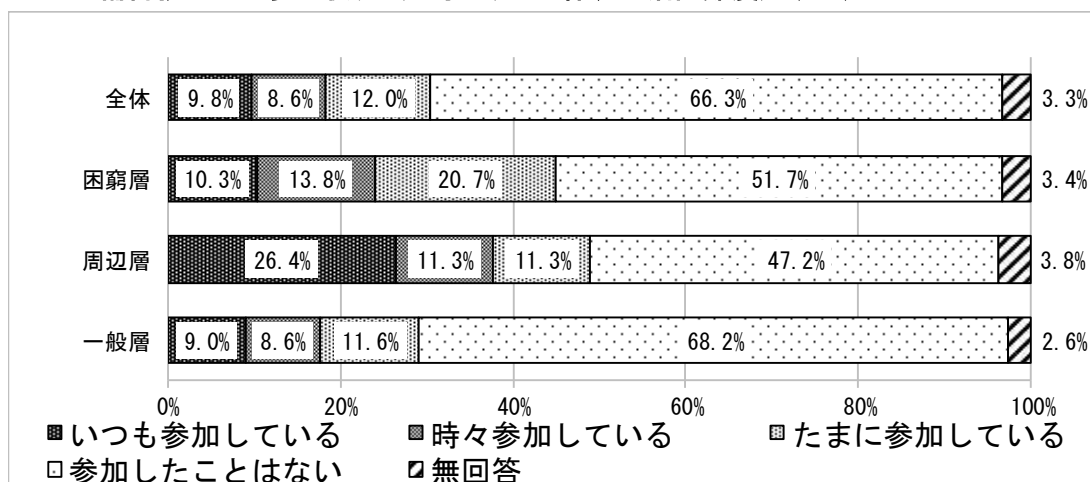


## 6 補習教室への参加状況・参加しない理由

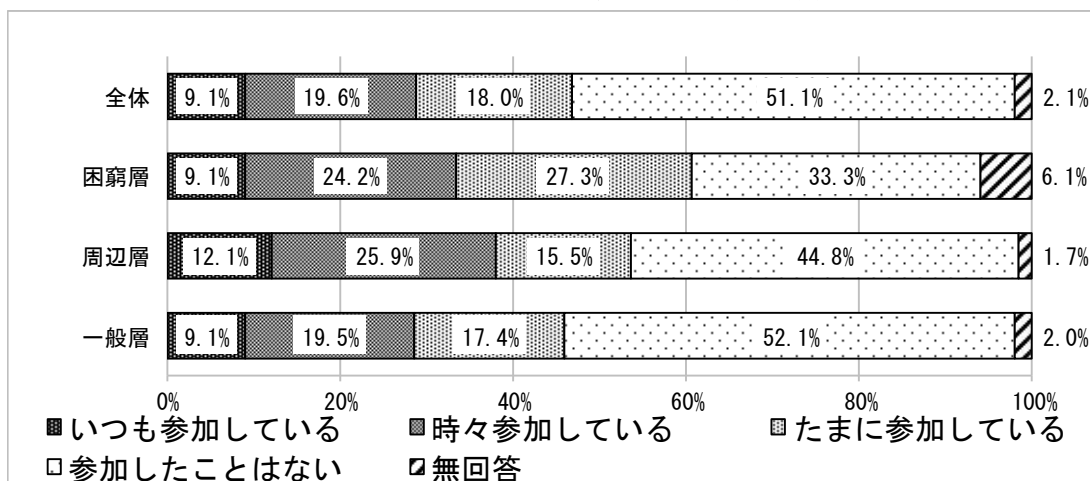
補習教室（補充学習教室）への参加状況について子どもに聞いた。その結果、小学生では、9.8%が「いつも」、8.6%が「時々」、12.0%が「たまに」補習教室に参加していると回答した。一方、「参加したことがない」と答えた小学生は66.3%であった。生活困難度別で見ると、困窮層の24.1%、周辺層の37.7%が「いつも」または「時々」補習教室に参加しているが、一般層は17.6%と困窮層、周辺層に比べて参加している割合が低い。周辺層においては、「いつも」参加している子どもは26.4%であり、他の層に比べて高いものの、約半数である47.2%は「参加したことがない」としている。

中学生では、9.1%が「いつも」、19.6%が「時々」、18.0%が「たまに」参加しており、小学生に比べると参加している割合は高い。生活困難度別に見ると、困窮層の33.3%、周辺層の38.0%が「いつも」または「時々」補習教室に参加しているが、一般層は28.6%と困窮層、周辺層に比べて参加している割合が低い。困窮層では、参加していない子どもが33.3%存在する。

図表 3-6-1 補習教室への参加状況（小学生）：全体、生活困難度別 (\*\*\*)



図表 3-6-2 補習教室への参加状況（中学生）：全体、生活困難度別 (X)

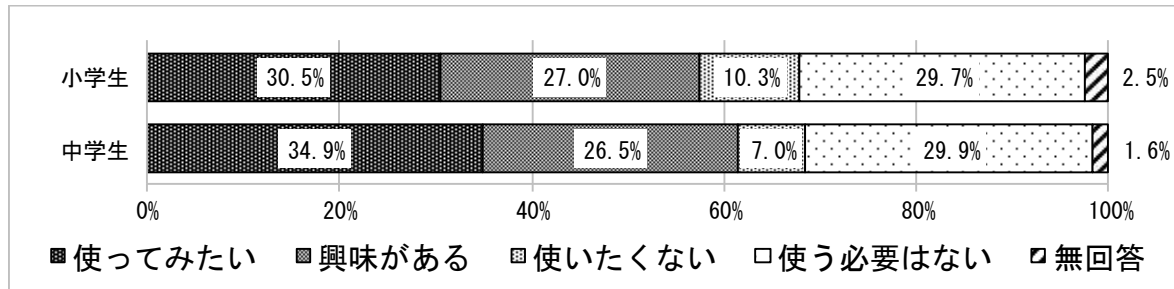


## 7 学習関連の支援プログラムの利用意向

### (1) 勉強ができる場所の利用意向

学習の妨げになる要因として、勉強する環境の欠如が考えられることから、子どもに「家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」の利用意向を聞いた。その結果、小学生の57.5%、中学生の61.4%がそのような場所を「使ってみたい」又は「興味がある」と回答している。

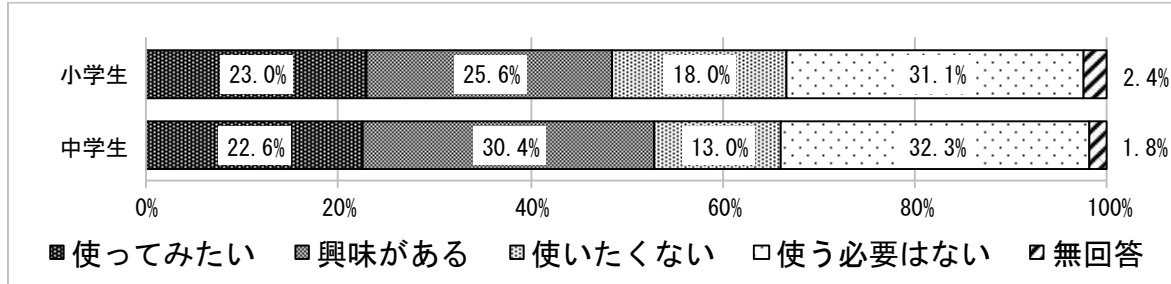
図表 3-7-1 「家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」の利用意向：年齢層別



(2) 学校外での無料の学習支援

「大学生のボランティアが勉強を無料でみてくれる場所」についての利用意向を子どもに聞いた。その結果、授業の理解度に差はあっても、小学生の48.6%、中学生の53.0%が「使ってみたい」又は「興味がある」と回答している。

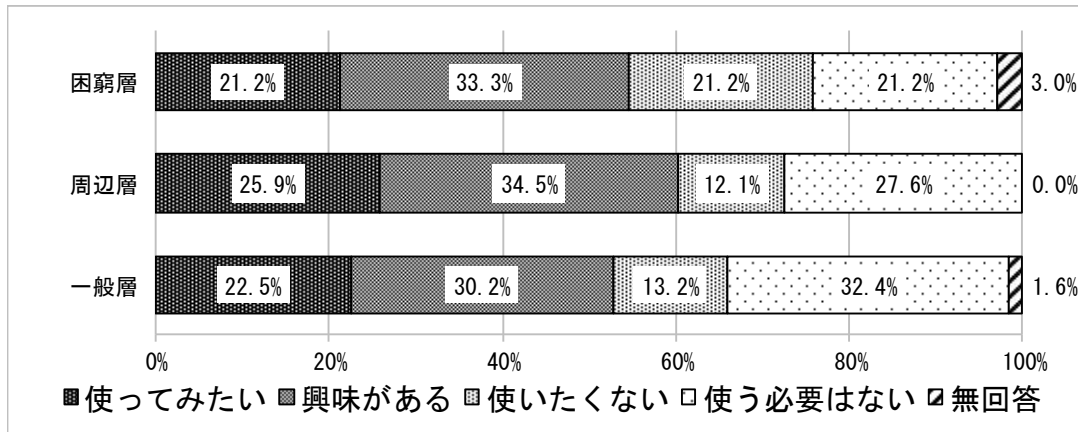
図表 3-7-2 「大学生のボランティアが勉強を無料でみてくれる場所」の利用意向：年齢層別



生活困難度別に見ると、中学生では生活困難度が低いほど大学生による学習支援の利用意向が少なく、困窮層が21.2%なのに対し、一般層では32.4%である。

また、保護者に「学校以外が実施する学習支援」について利用意向を聞いたところ、小学生②の保護者の30.1%、中学生の保護者の30.7%が「興味がある」としている（194頁図表7-3-18「支援サービスの利用意向」参照）。

図表 3-7-3 「大学生のボランティアが勉強を無料でみてくれる場所」の利用意向（中学生）：生活困難度別(X)



## 第4部 子どもの生活・友人関係





# 1 放課後・休日の過ごし方

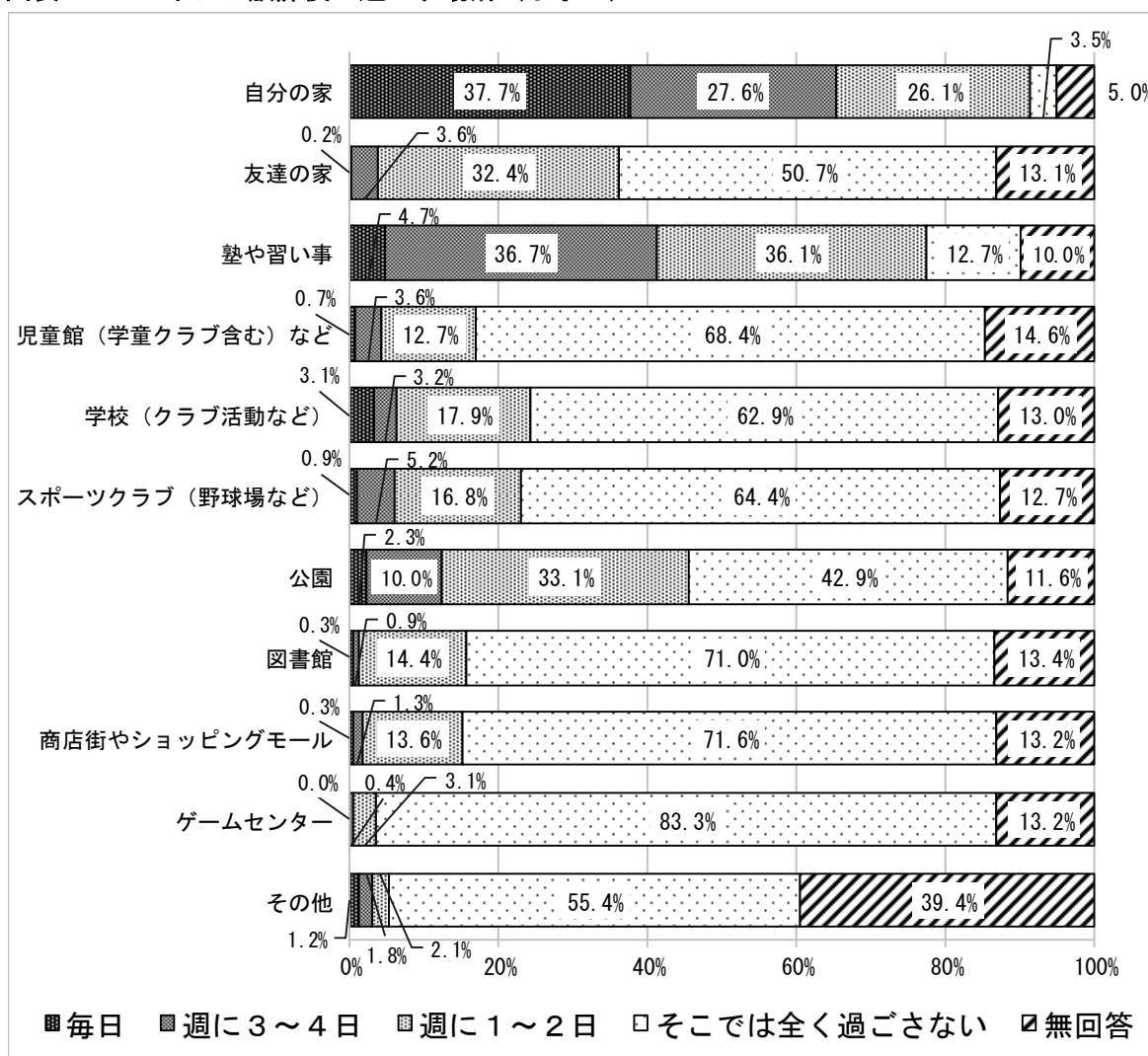
## (1) 平日の放課後の過ごし方

平日の放課後の過ごし方について、「平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）」をどこで過ごすかを子どもに聞いた。平日の放課後に「週に3～4日」以上過ごす場所について、小学生では、「自分の家」が最も高く6割台、次いで「塾や習い事」が約4割、「公園」が約1割である。

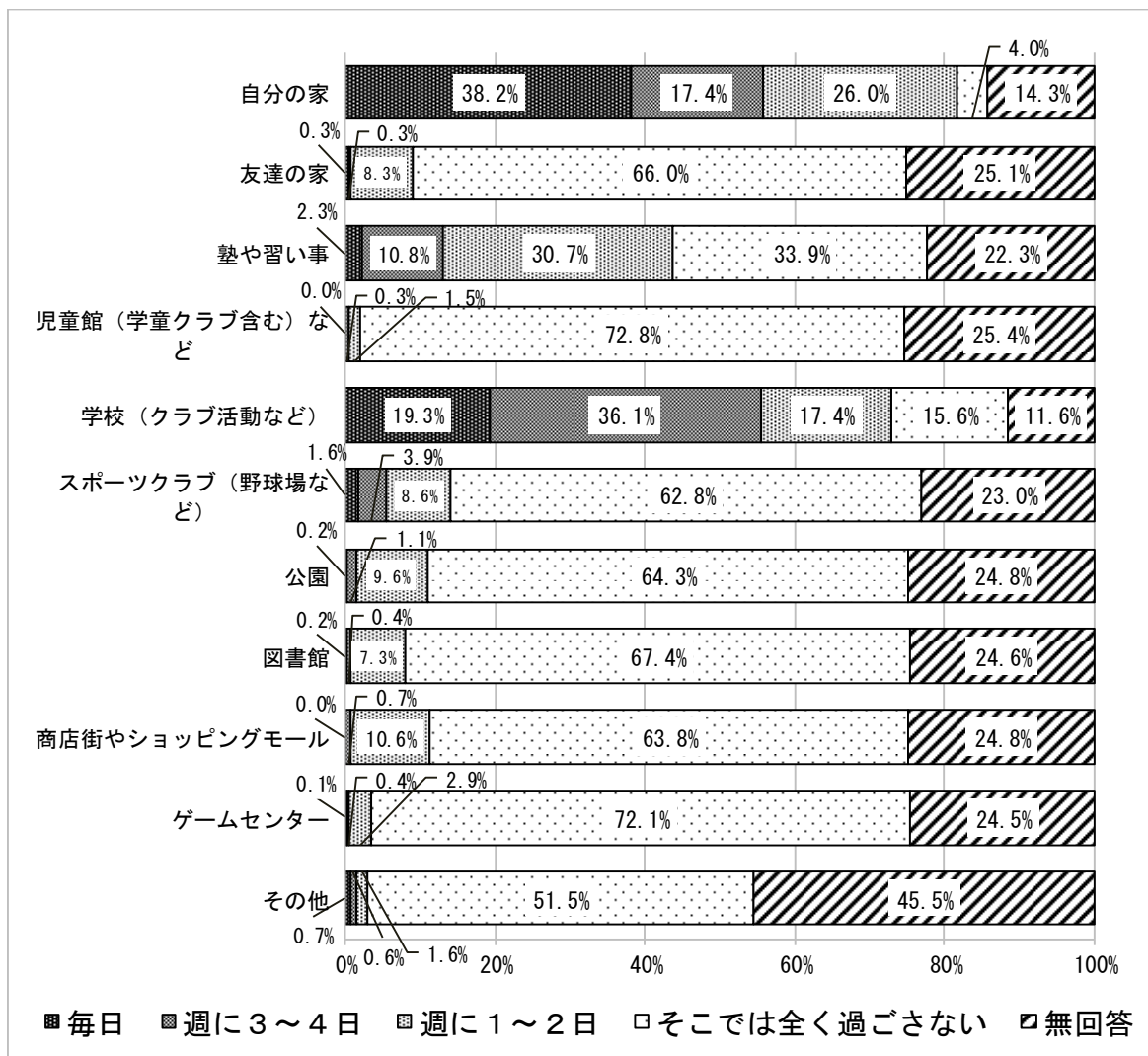
中学生では、「自分の家」、「学校（部活など）」が5割台で高く、次いで「塾や習い事」が約1割である。

「図書館」については、小学生の15.6%、中学生の7.9%が週に1日以上過ごしており、年齢層が上がるにつれて利用はされなくなるが、子どもの居場所として一定の機能がある。

図表 4-1-1 平日の放課後に過ごす場所（小学生）



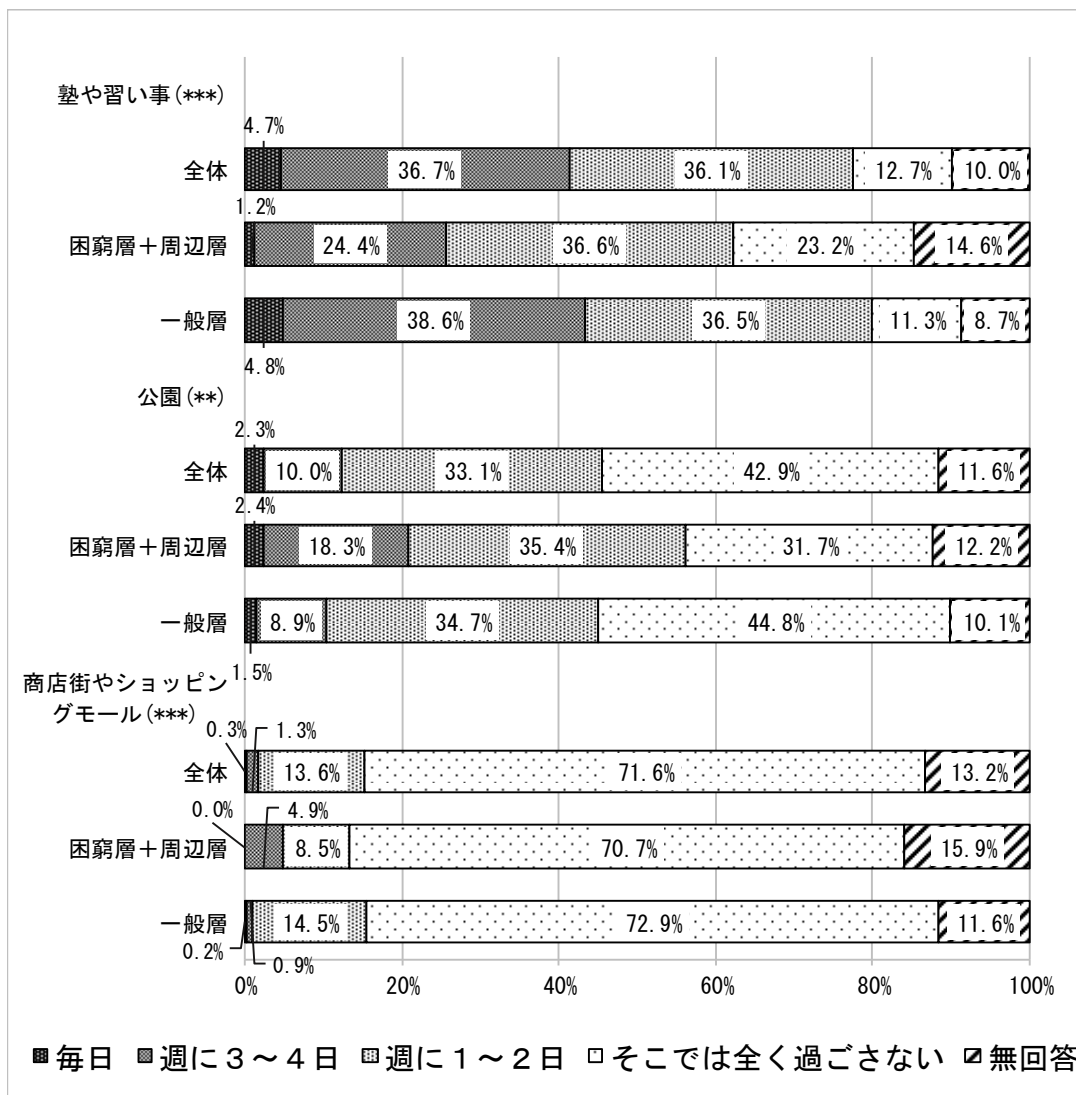
図表 4-1-2 平日の放課後に過ごす場所（中学生）



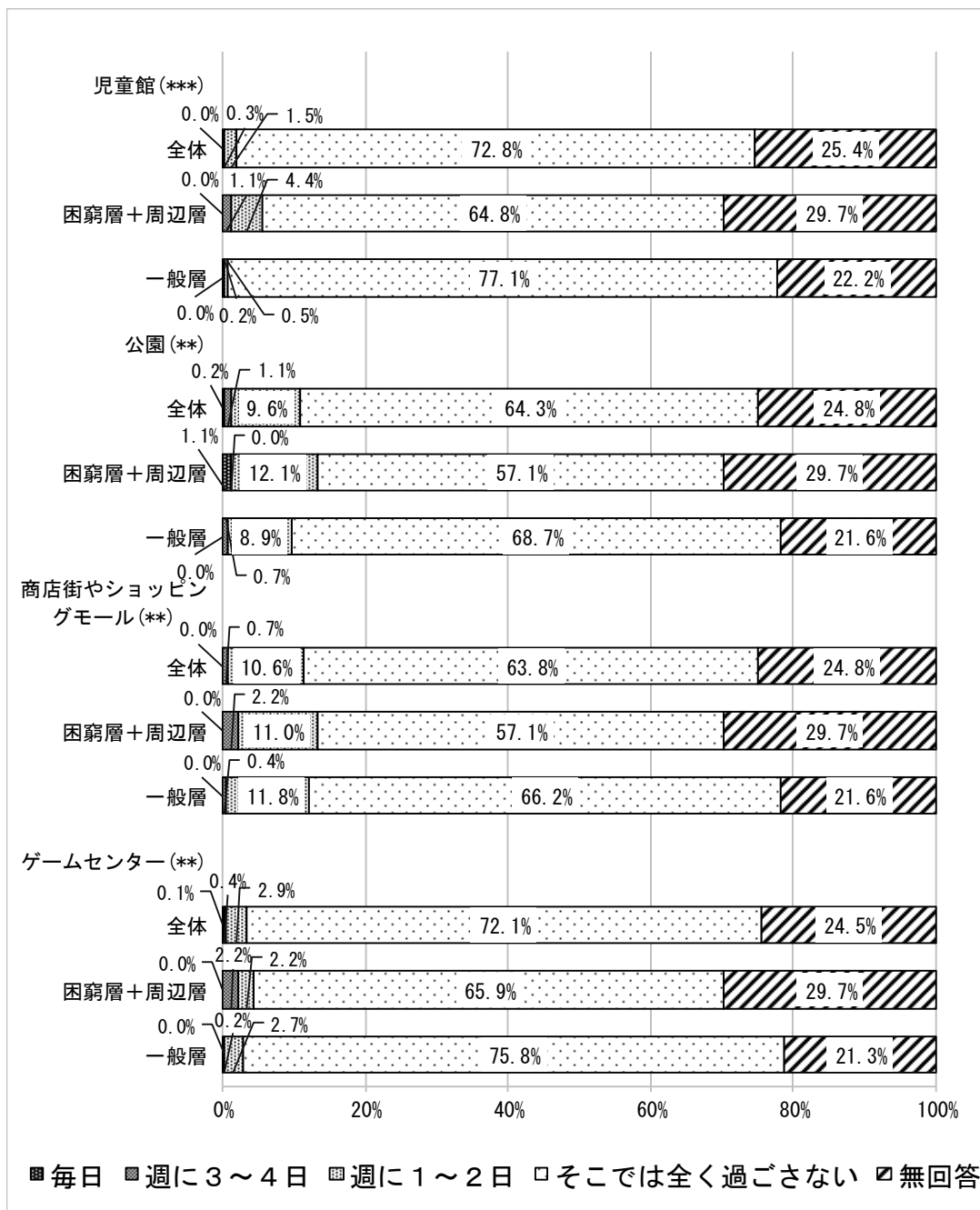
生活困難度別に見ると、困窮層、周辺層の小学生は一般層に比べて「公園」で毎日過ごす割合が高い一方、「塾や習い事」、「商店街やショッピングモール」で過ごす割合が低かった。

中学生では、困窮層、周辺層の中学生は一般層に比べて「公園」で毎日過ごす割合が高い。また、「児童館」、「商店街やショッピングモール」、「ゲームセンター」で過ごす割合が一般よりも高かった。

図表 4-1-3 平日の放課後に過ごす場所（小学生）：生活困難度別（有意差のある主な項目）



図表 4-1-4 平日の放課後に過ごす場所（中学生）：生活困難度別（有意差のある主な項目）

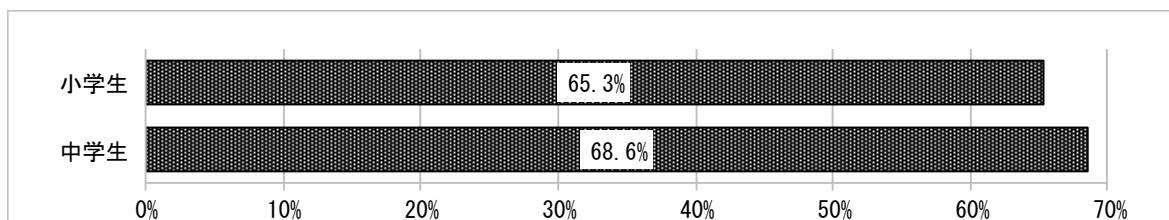


## (2) 休日の過ごし方

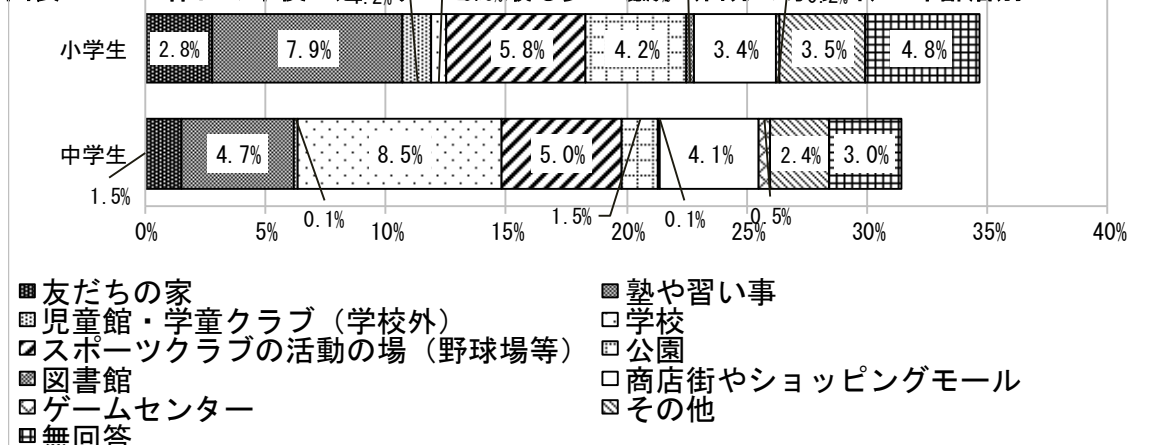
子どもたちの休日の過ごし方を知るために、休日の午後に過ごすことが最も多い場所と、休日の午後を一緒に過ごすことが最も多い人について子どもに聞いた。休日の午後に過ごすことが最も多い場所は、どの年齢層でも6割台が「自分の家」と答えている。次いで休日に過ごすことが多い場所は年齢によって異なり、小学生は「塾や習い事」(7.9%)、中学生は「学校」(8.5%)である。

休日の午後を一緒に過ごすことが最も多い人は、どの年齢層でも「家族」であるが、その割合は、年齢層が上がるごとに低くなり、「学校の友だち」と過ごす割合が高くなる。また、休日の午後を一人で過ごすことが最も多いとする子どもの割合は、年齢が上がるごとに高くなり、小学生で1.5%、中学生で6.6%となる。

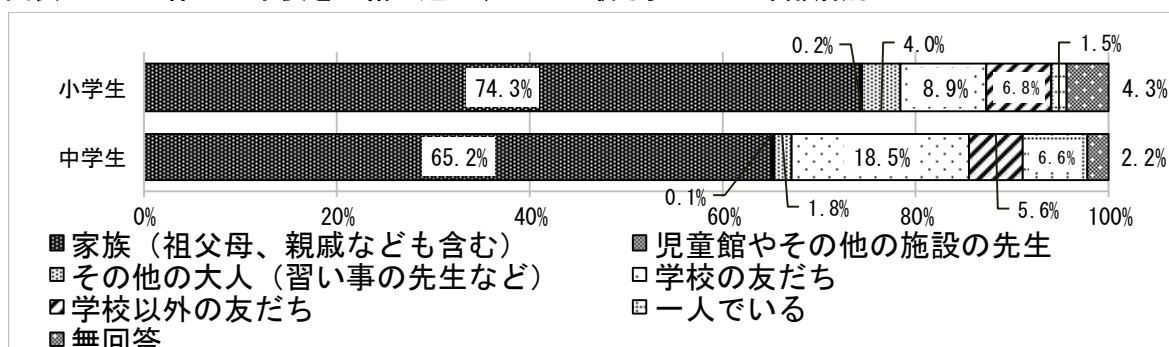
図表 4-1-5 休日の午後に過ごすことが最も多い場所（自分の家）：年齢層別



図表 4-1-6 休日の午後に過ごすことが最も多い場所（自分の家以外）：年齢層別



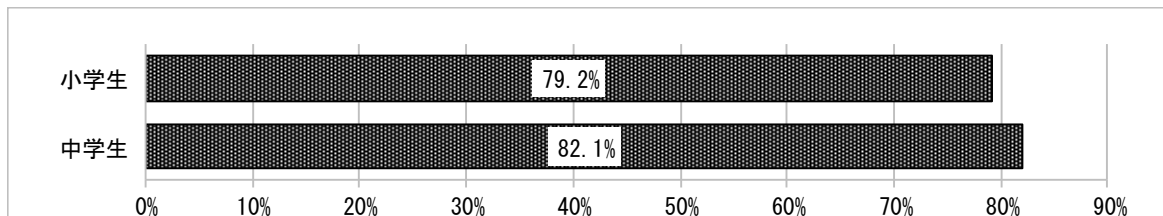
図表 4-1-7 休日の午後を一緒に過ごすことが最も多い人：年齢層別



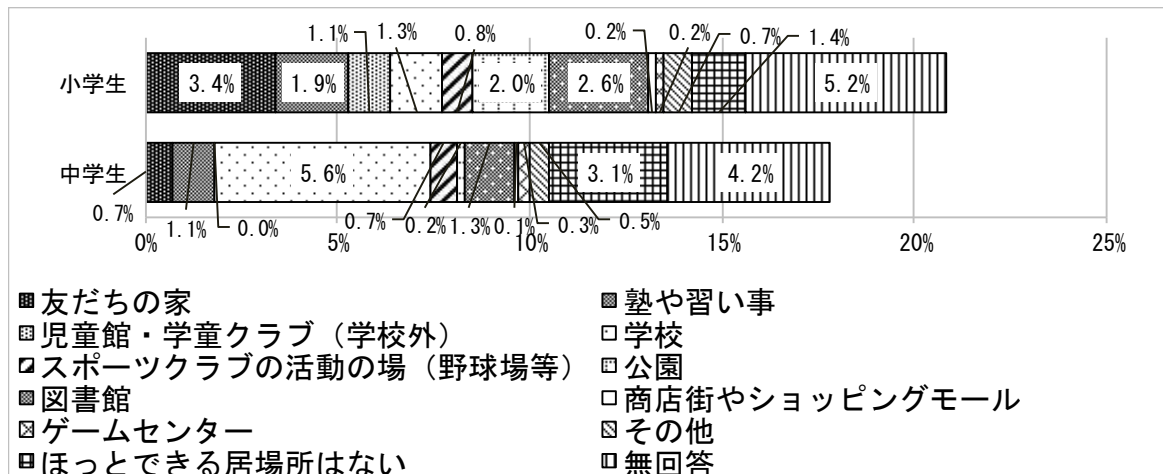
### (3) 一番ほっとできる居場所

「一番ほっとできる居場所はどこか」子どもに聞いた。どの年齢層でも約8割が「自分の家」が一番ほっとできる場所と回答している。小学生では「友だちの家」(3.4%)、中学生では「学校」(5.6%)が2番目に高いが、3番目に高いのは小学生で「図書館」(2.6%)、中学生で「ほっとできる居場所はない」(3.1%)である。

図表 4-1-8 一番ほっとできる居場所（自分の家）：年齢層別



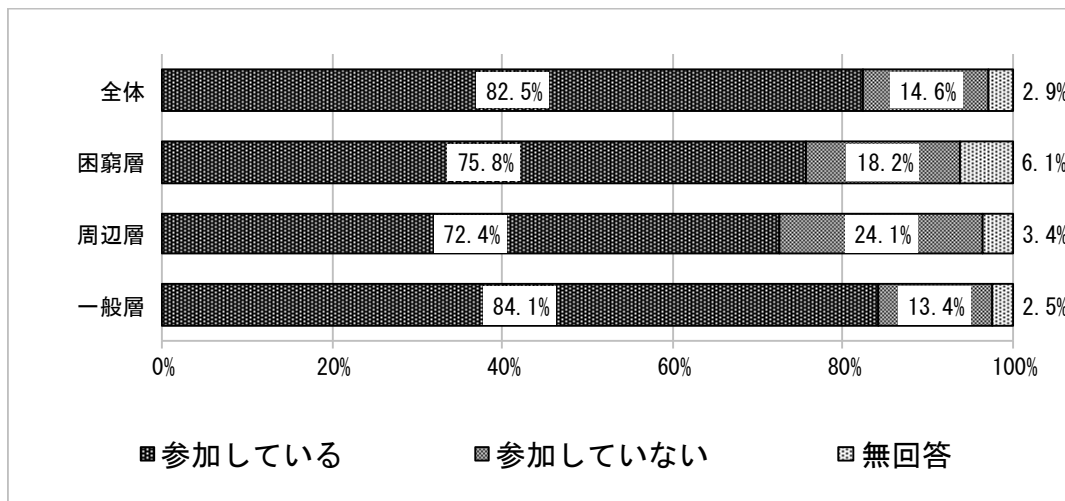
図表 4-1-9 一番ほっとできる居場所（自分の家以外）：年齢層別



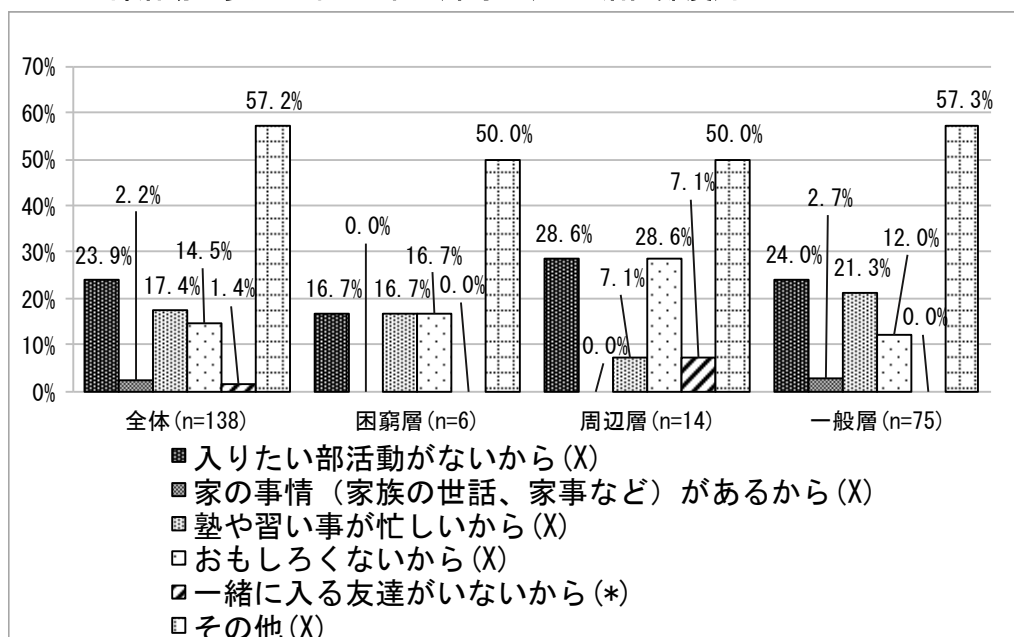
#### (4) 中学生の部活動

中学生に部活動への参加について聞いた。中学生の82.5%が部活動に参加している。しかし、生活困難度別では困窮層(75.8%)、周辺層(72.4%)で参加しない割合が高い。参加しない理由を生活困難度別に見ると、どの層においても「入りたい部活動がないから」の割合が高い。

図表 4-1-10 部活動への参加状況(中学生):生活困難度別(\*)



図表 4-1-11 部活動に参加しない理由(中学生):生活困難度別



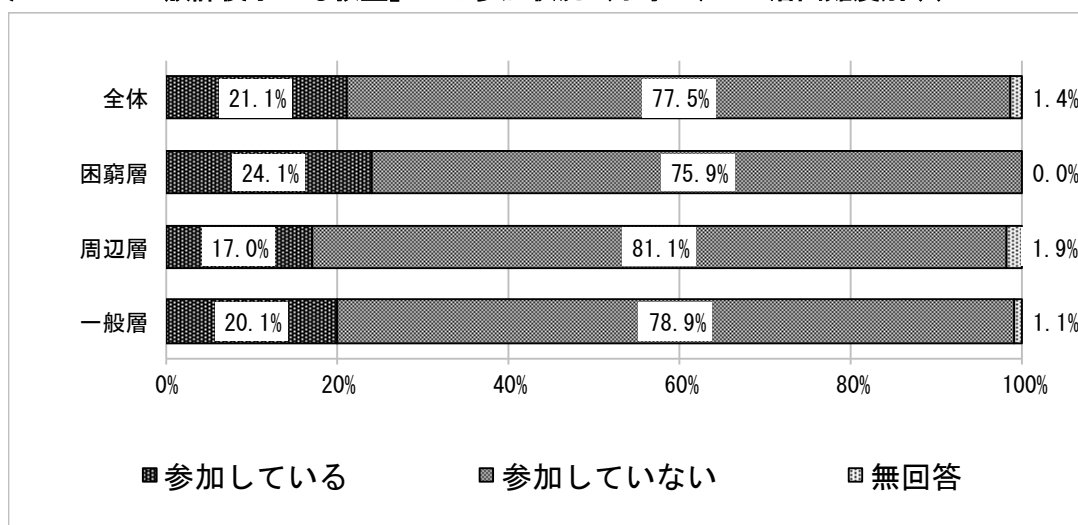
### (5) 放課後子ども教室

小学生に「放課後子ども教室」の参加状況について聞いたところ、小学生で「放課後子ども教室」に参加しているのは21.1%である。

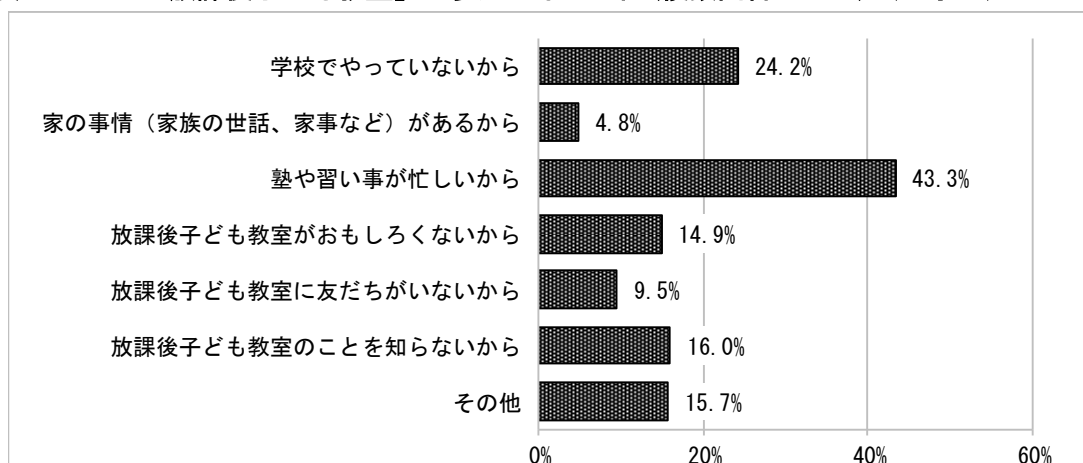
生活困難度別に見ると、「放課後子ども教室」に参加している割合は困窮層（24.1%）の子どもの方が一般層（20.1%）、周辺層（17.0%）より高い。また、「放課後子ども教室」に参加しない理由としては、「塾や習い事が忙しいから」が43.3%で最も高い。その一方で、「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」という支援の必要性をうかがわせる理由も4.8%あった。

「家以外で平日の放課後に夜までいることができる場所」、「家以外で休日にいることができる場所」へのニーズが比較的高いことから（本報告書第7部参照）、放課後子ども教室については、ニーズはありつつも利用できない子どもがいることがわかる。

図表 4-1-12 「放課後子ども教室」への参加状況（小学生）：生活困難度別(X)



図表 4-1-13 「放課後子ども教室」に参加しない理由（複数回答 n=833）（小学生）

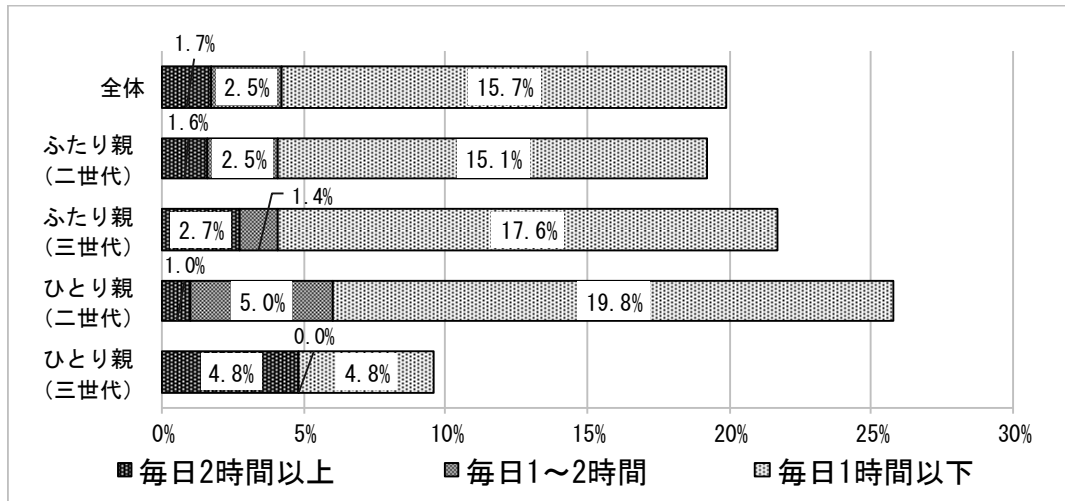




(6) 家事負担

子どもに家事負担の頻度について聞いたところ、毎日1時間以上家事をする中学生は、世帯タイプ別ではひとり親（二世帯）で6.0%と最も高くなっている。

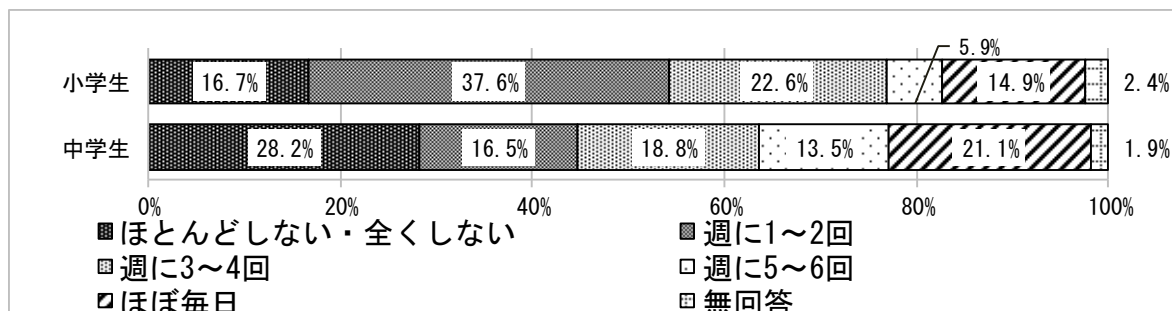
図表 4-1-14 家事をする頻度（中学生）：全体、世帯タイプ別(X)



(7) 運動

子どもに「30分以上身体を動かす遊びや運動、習い事を、1週間でどれくらいするか」を聞いたところ、小学生の81.0%が週に1回以上と答えているが、16.7%は「ほとんどしない・全くしない」と答えている。「ほとんどしない・全くしない」子どもの割合は、中学生では28.2%である。

図表 4-1-15 30分以上の身体を動かす遊びや習い事：年齢層別



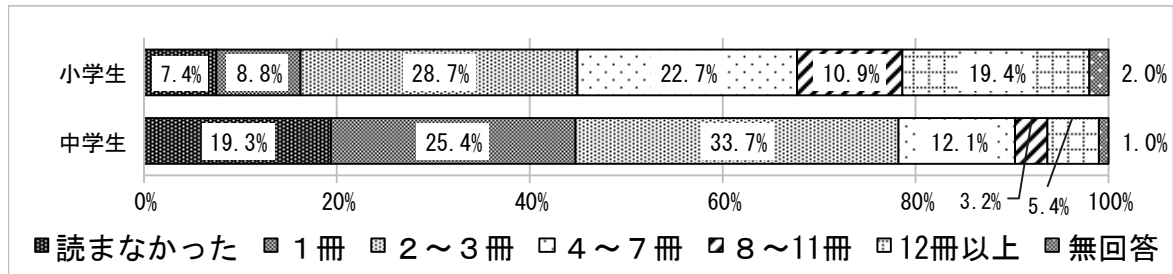
(8) 読書

子どもに1か月の間に読む本の冊数を聞いた。小学生では「2～3冊」が28.7%で最も高く、次に「4～7冊」が22.7%となっているが、7.4%は「読まなかった」と回答している。「読まなかった」という子どもの割合は、年齢層が上がるにつれて増加し、中学生では19.3%となっている。

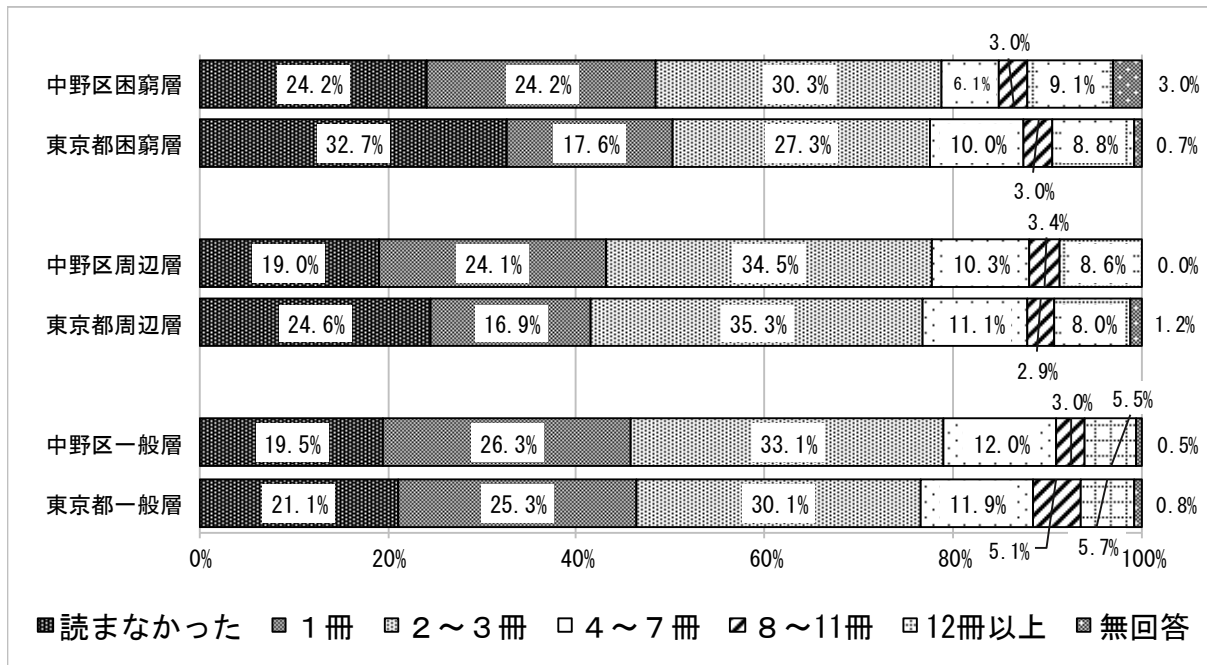
生活困難度別に見ると、中学生では、困窮層は読書の習慣がない傾向があるものの、過去1か月に「12冊以上本を読んだ」という子どもは9.1%と周辺層(8.6%)、一般層(5.5%)より高くなっている。

東京都との比較を見ると、特に差の大きい項目は、困窮層、周辺層の「1冊」で中野区の方が東京都に比べて高く、困窮層の「読まなかった」、「4～7冊」、周辺層の「読まなかった」で東京都の方が中野区と比べて高くなっている。

図表 4-1-16 1か月に読んだ本の数(雑誌・漫画除く): 年齢層別



図表 4-1-17 1か月に読んだ本の数(雑誌・漫画除く): (生活困難度別 中野区中学生(X)、東京都中学2年生(\*\*\*))



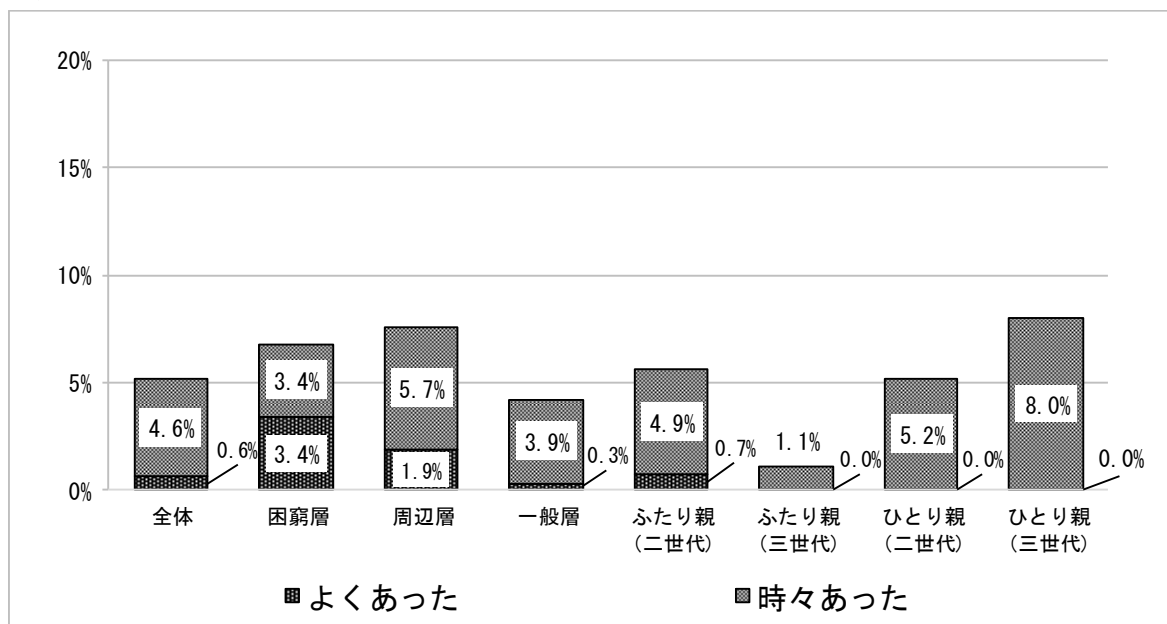
## 2 タ方以降の留守番と母親の就労時間

### (1) 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験

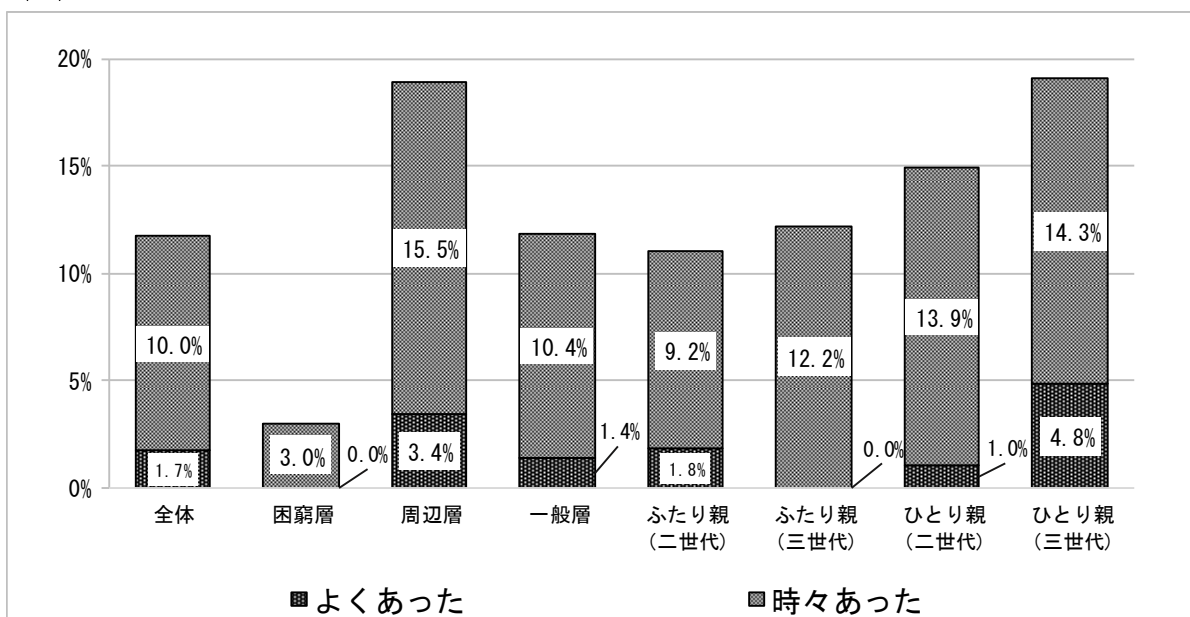
小学生と中学生の子どもに「夜遅くまで子どもだけで過ごした」ことがあったかを、「よくあった」、「時々あった」、「あまりなかった」、「なかった」、「わからない」の5つの選択肢で聞いた。小学生の0.6%が「よくあった」、4.6%が「時々あった」と答えており、合わせて5.2%が夜遅くまで子どもだけで過ごした経験がある。生活困難度別に見ると困窮層、周辺層ではその割合は約7%で、世帯タイプ別に見るとひとり親（三世代）世帯の小学生では8.0%となっている。

中学生になると、夜遅くまで子どもだけで過ごした経験がある割合は、小学生の約2倍の11.7%（「よくあった」1.7%、「時々あった」10.0%）となり、周辺層、ひとり親（三世代）世帯では約2割になる。

図表4-2-1 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験（小学生）：生活困難度別(\*\*\*)・世帯タイプ別(X)



図表4-2-2 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験（中学生）：生活困難度別(X)・世帯タイプ別(\*\*)

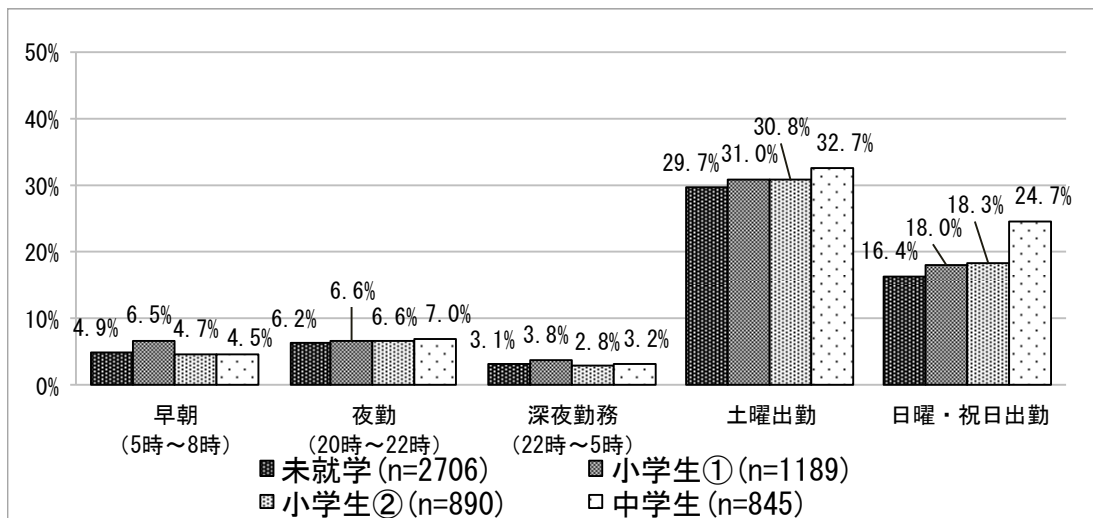


## (2) 母親の平日日中以外の就労

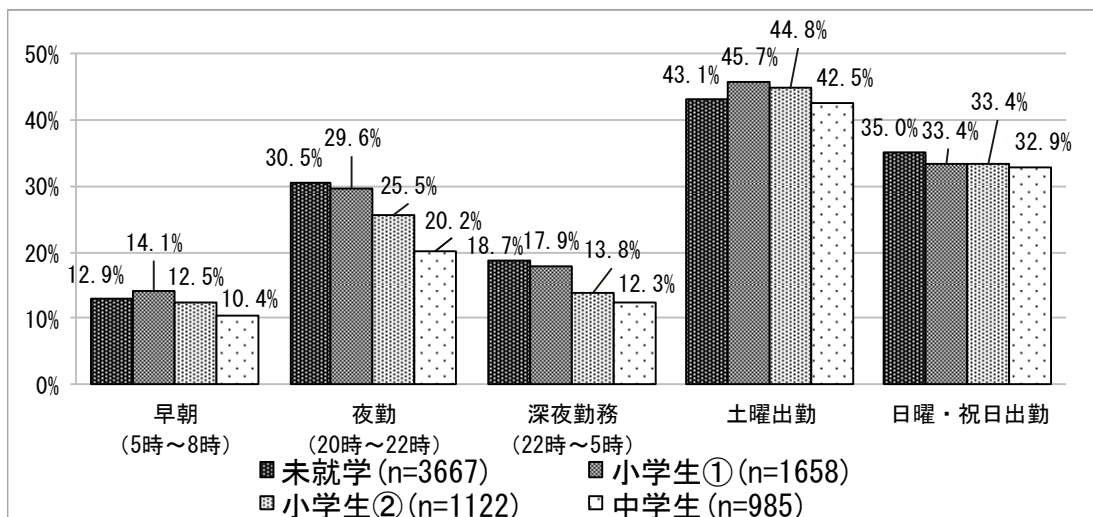
夜遅くまで子どもだけで過ごした経験は、親の就労時間、とりわけ母親の就労時間と関係があると考えられる。そこで、就労時間について、就労をしている保護者に聞いたところ、就労している母親のうち約3～7%は早朝勤務、夜勤、深夜勤務をすることがあると回答している。父親、母親ともに土曜出勤、日曜・祝日出勤も約2割～5割の割合で見られる。

未就学児、小学生①の母親の「夜勤（20時～22時）」、「深夜勤務（22時～5時）」、中学生の「深夜勤務（22時～5時）」は、ひとり親世帯（三世帯）で1割を超えるが、小学生②は全ての世帯タイプで1割を切る。

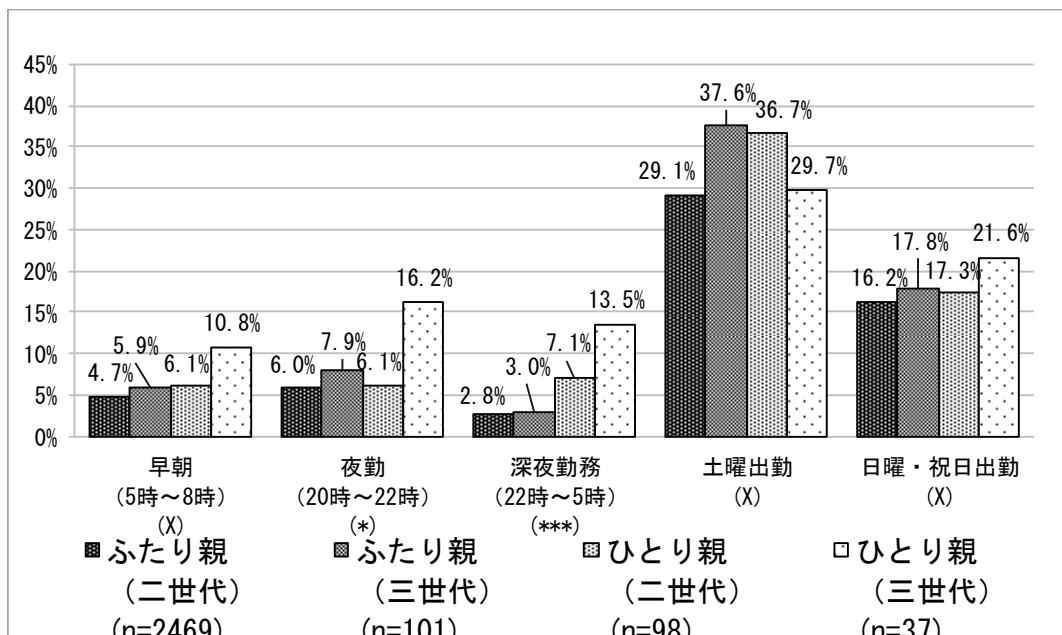
図表 4-2-3 母親の平日日中以外の就労：年齢層別



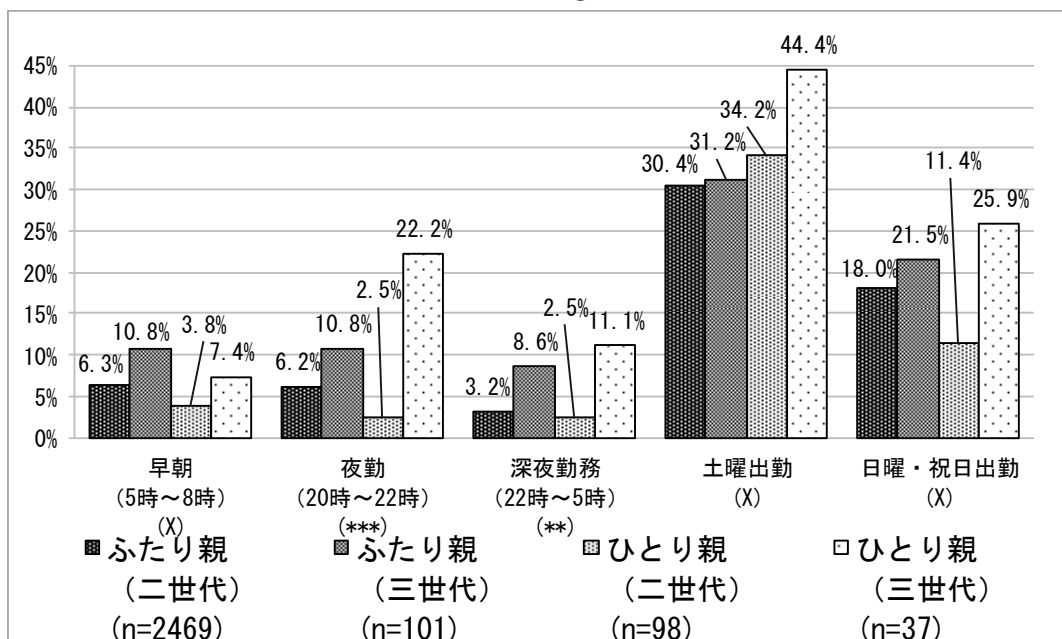
図表 4-2-4 父親の平日日中以外の就労：年齢層別



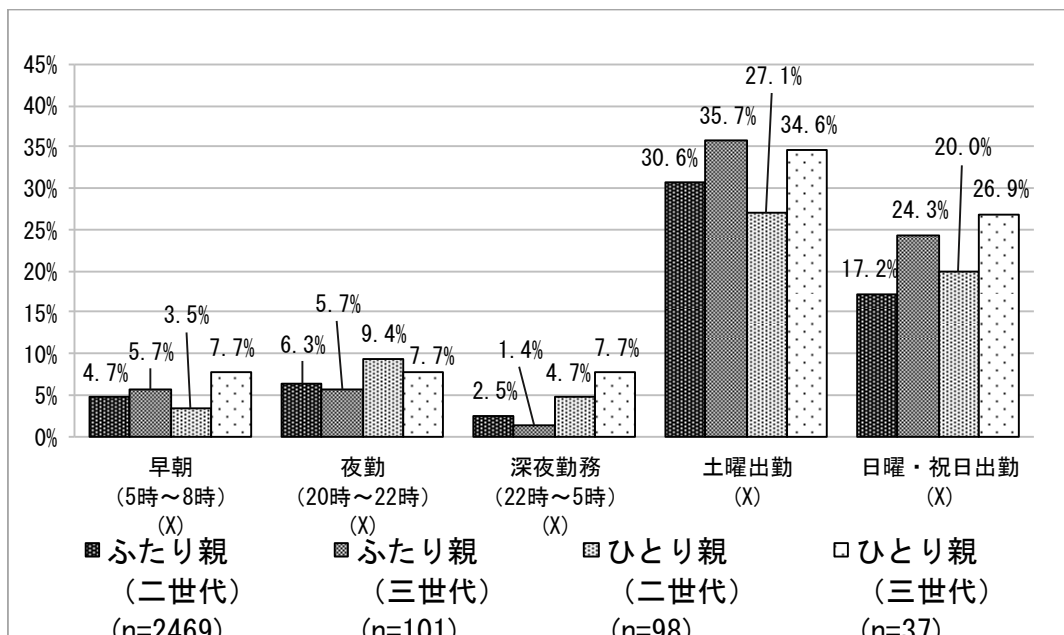
図表 4-2-5 母親の平日日中以外の就労（未就学児）：世帯タイプ別



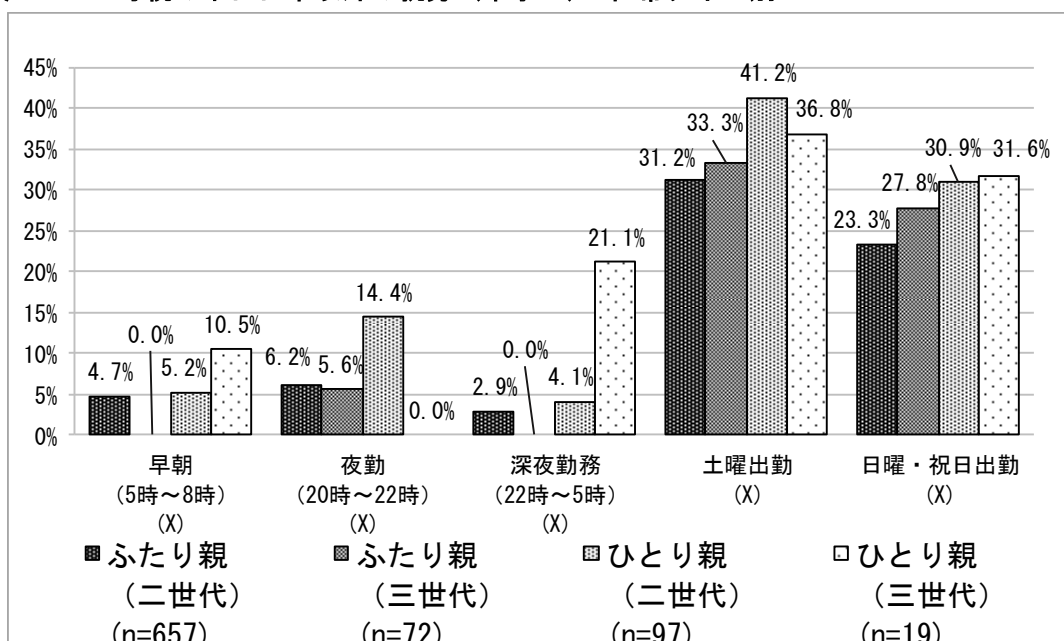
図表 4-2-6 母親の平日日中以外の就労（小学生①）：世帯タイプ別



図表 4-2-7 母親の平日日中以外の就労（小学生②）：世帯タイプ別



図表 4-2-8 母親の平日日中以外の就労（中学生）：世帯タイプ別



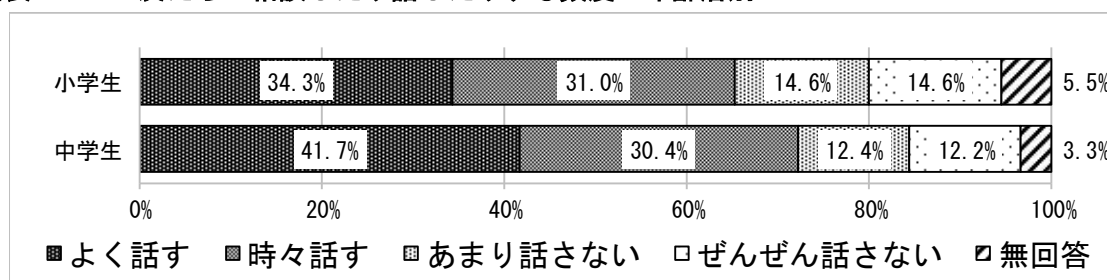
### 3 友人関係・孤立

#### (1) 友人との会話頻度

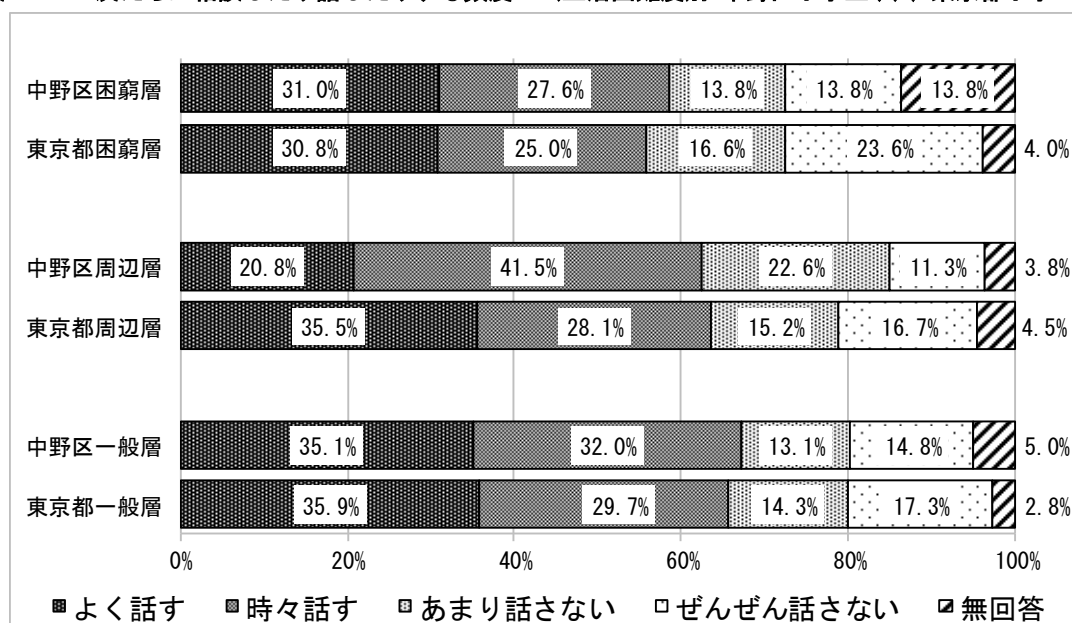
子どもの友人関係・孤立の状況を見るために、まず、子どもが困っていることや悩んでいること、楽しいことや悲しいことについて、友だちにどのくらい話しているのかを聞いた。小学生の全体では、友だちに「よく話す」とした割合は34.3%、「時々話す」とした割合は31.0%であり、65.3%の小学生は友だちに相談したり話したりしている。友だちと「良く話す」、「時々話す」割合は、中学生では72.1%と、年齢層が高くなるほど友だちとの会話の割合が高い。その一方で、小学生の14.6%、中学生の12.2%が「ぜんぜん話さない」と回答しており、友人から孤立している子どもが存在している。友人との会話頻度を生活困難度別に見ると、小学生の周辺層の33.9%、中学生の困窮層の33.4%が「あまり話さない」、「ぜんぜん話さない」と回答しているが、統計的に有意な差はない。

東京都との比較を見ると、小学生で特に差の大きい項目は、周辺層の「時々話す」、「あまり話さない」で中野区の方が東京都に比べて高く、困窮層の「ぜんぜん話さない」、周辺層の「よく話す」、「ぜんぜん話さない」で東京都の方が中野区と比べて高くなっている。中学生で特に差の大きい項目は、周辺層の「時々話す」、「ぜんぜん話さない」で中野区の方が東京都に比べて高く、困窮層の「時々話す」、周辺層の「よく話す」で東京都の方が中野区と比べて高くなっている。

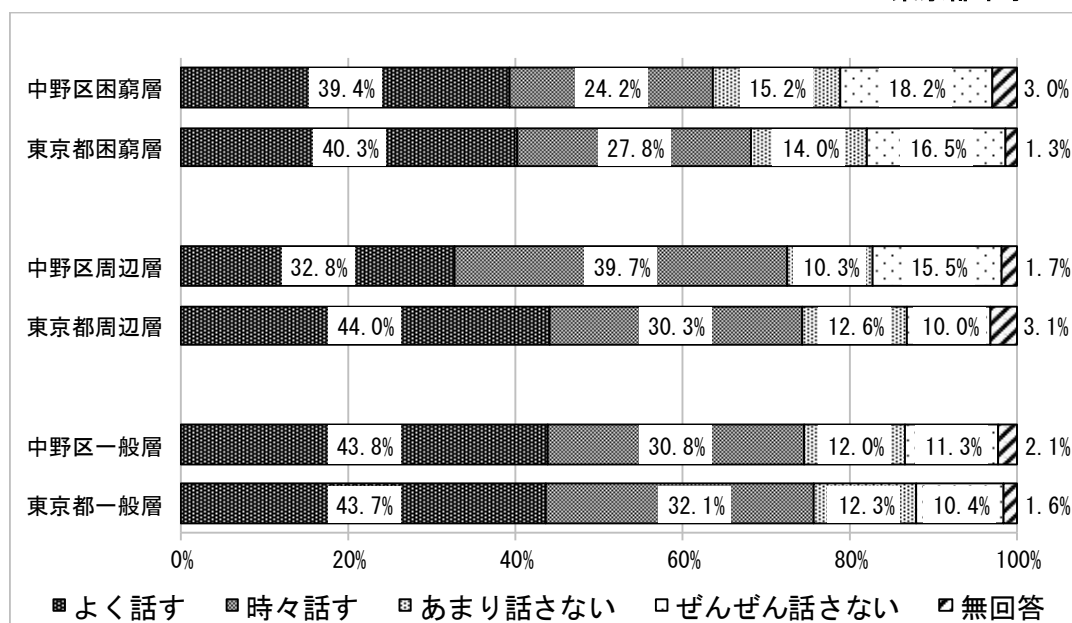
図表 4-3-1 友だちに相談したり話したりする頻度：年齢層別



図表4-3-2 友だちに相談したり話したりする頻度：（生活困難度別 中野区小学生(X)、東京都小学5年生(X)）



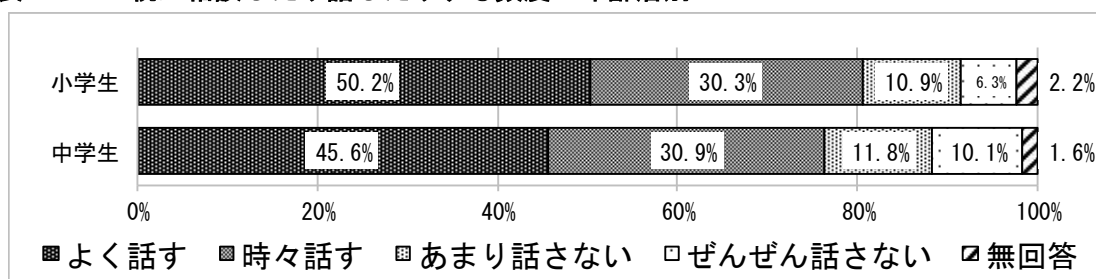
図表 4-3-3 友だちに相談したり話したりする頻度：(生活困難度別 中野区中学生(X)、  
東京都中学2年生(X))



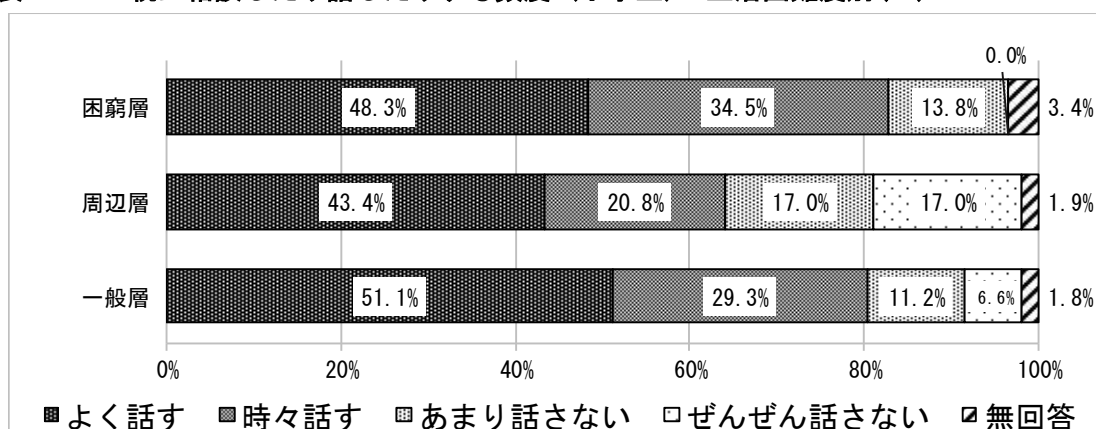
(2) 親との会話頻度

子どもに困っていることや悩んでいること、楽しいことや悲しいことについて、周囲の大人、特に親や学校の先生にどのくらい話しているのかを聞いた。親と話す(「よく話す」、「時々話す」)割合は、小学生で80.5%、中学生で76.5%と、年齢が高くなるほど親に話す子どもの割合は低くなる。親に「ぜんぜん話さない」とした割合は、小学生では6.3%、中学生では10.1%である。生活困難度別では中学生に統計的に有意な差は見られなかったが小学生には見られた。

図表 4-3-4 親に相談したり話したりする頻度：年齢層別



図表 4-3-5 親に相談したり話したりする頻度 (小学生)：生活困難度別(\*\*)

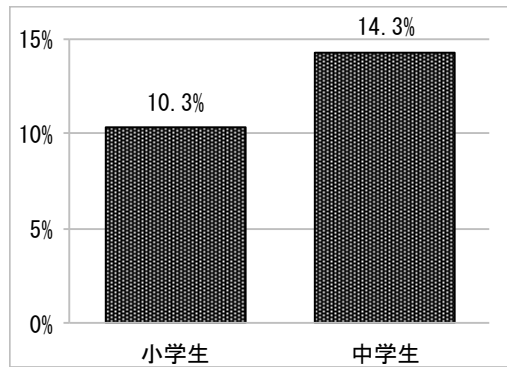




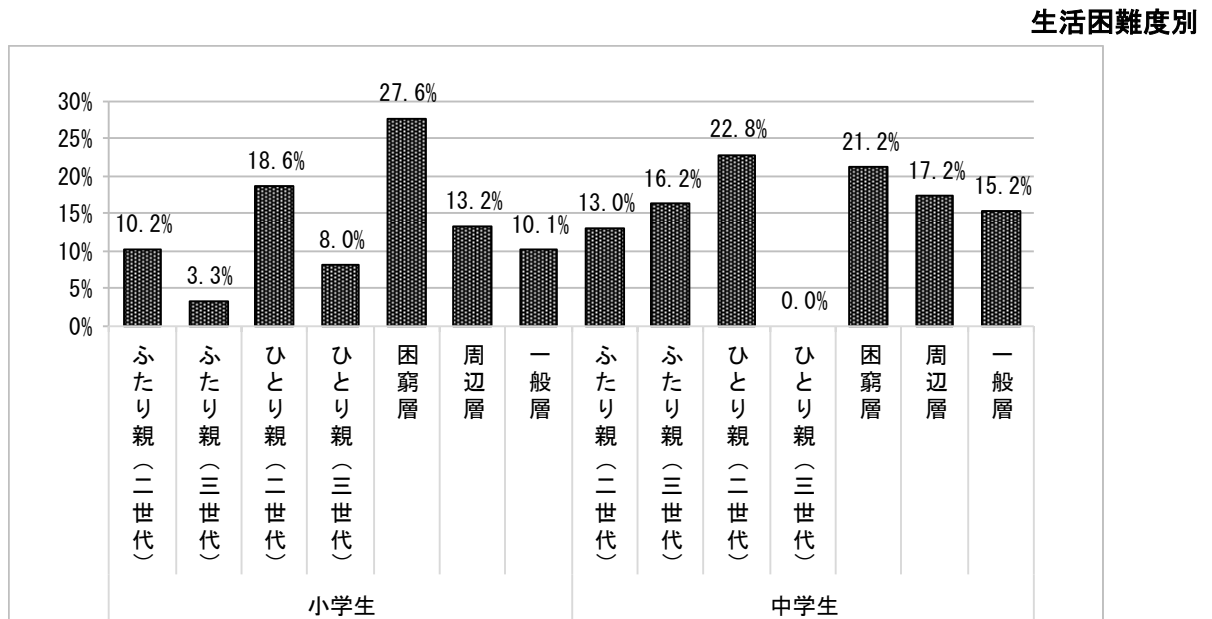
### (3) 孤独感

平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人を子どもに聞いたところ、小学生の10.3%、中学生の14.3%が「一人である」と回答している。世帯タイプ別、生活困難度別に見ると、「一人である」ことが一番多いと答えた割合が高いのは、小学生ではひとり親（二世帯）世帯（18.6%）、困窮層（27.6%）、中学生ではひとり親（二世帯）世帯（22.8%）、困窮層（21.2%）の子どもであった。

図表 4-3-6 平日の放課後に「一人である」ことが一番多い子どもの割合：年齢層別

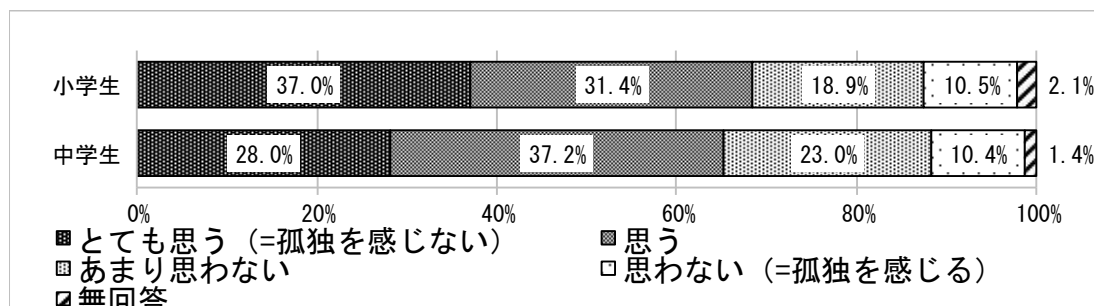


図表 4-3-7 平日の放課後に「一人である」ことが一番多い子どもの割合：年齢層別世帯タイプ別、

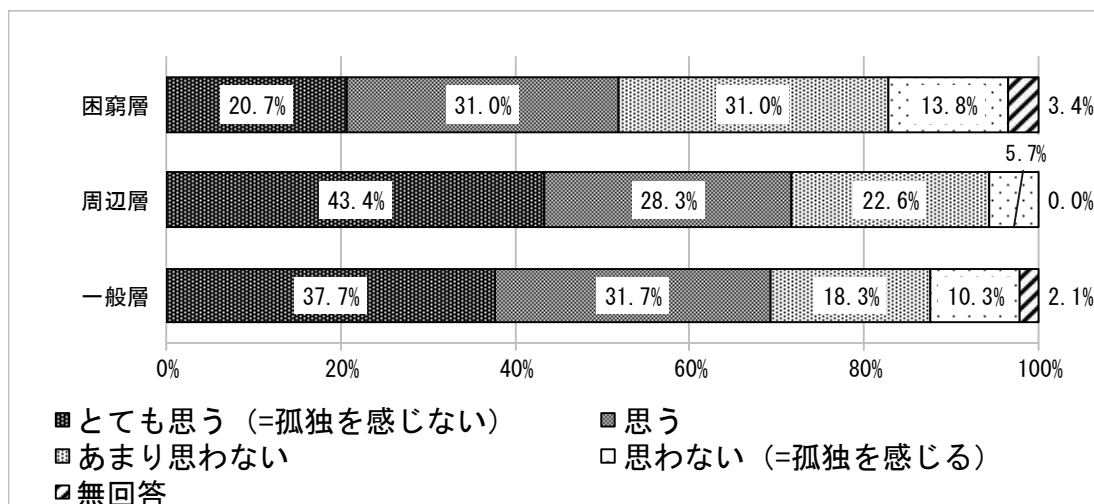


「孤独を感じることはないか」との問いに「思わない (=孤独を感じる)」、「あまり思わない」と答えた子どもは、全体では、小学生は29.4%、中学生は33.4%であった。困窮層で、小学生は44.8%、中学生では54.5%であり、一般層との差は約16~21ポイントになる。

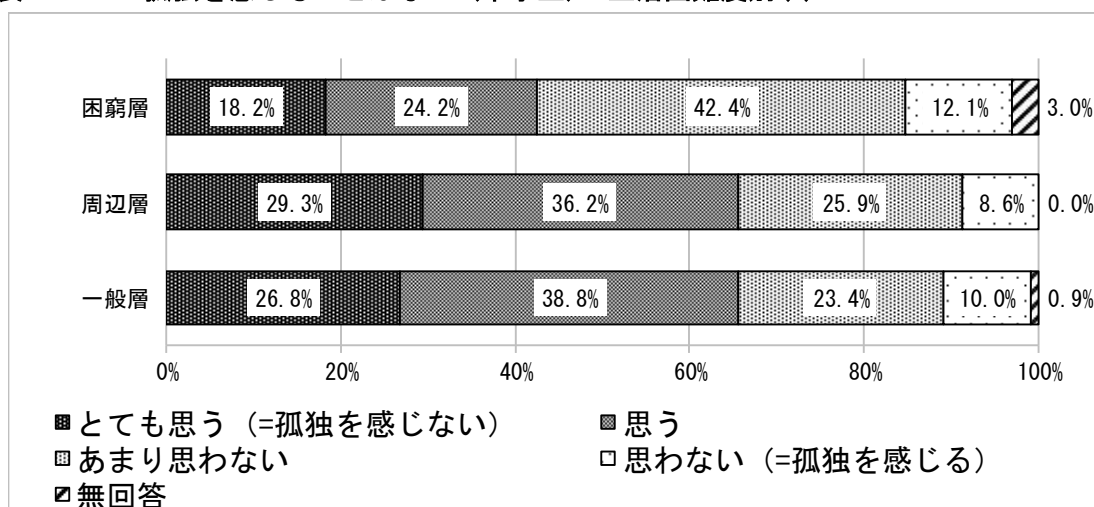
図表 4-3-8 孤独を感じることはない：年齢層別



図表 4-3-9 孤独を感じることはない (小学生)：生活困難度別 (X)



図表 4-3-10 孤独を感じることはない (中学生)：生活困難度別 (X)

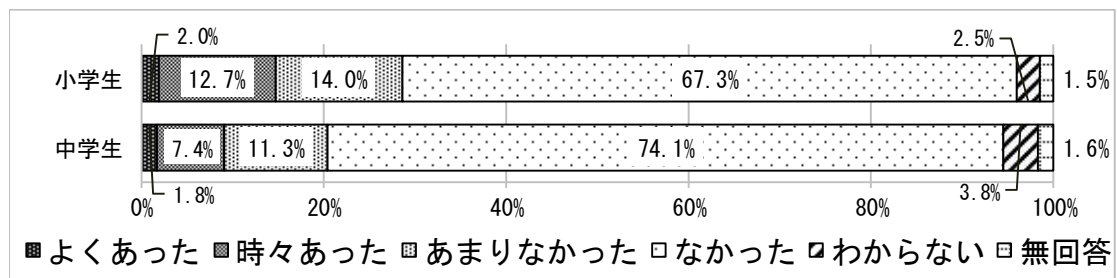


## 4 いじめ・不登校の悩み

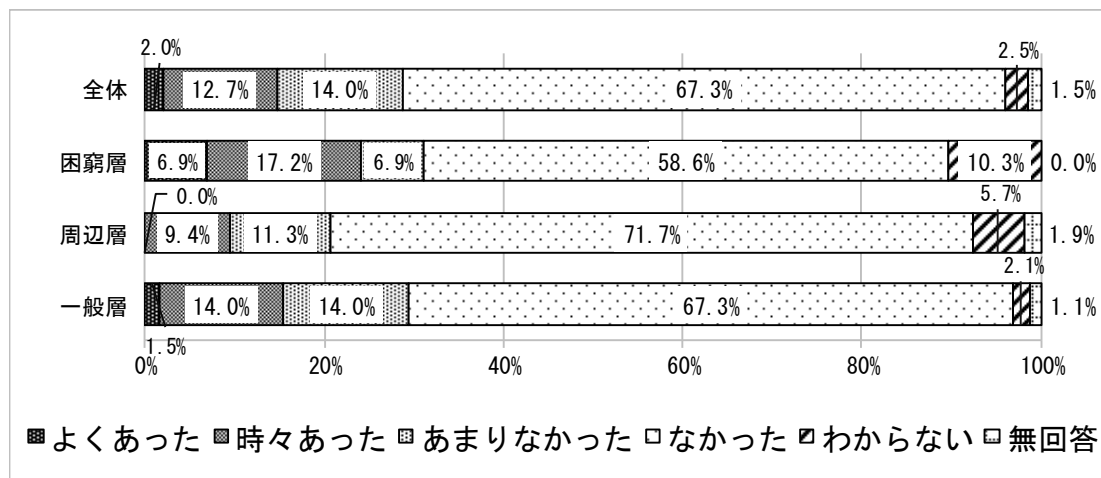
### (1) いじめられた経験

子どもに、これまでにいじめられた経験があったかを聞いたところ、「よくあった」と回答した小学生は2.0%であり、「時々あった」12.7%を合わせて14.7%がいじめられた経験があったとしている。また、中学生では、「よくあった」1.8%、「時々あった」7.4%を合わせて9.2%がいじめられた経験があったとしている。生活困難度別に見ると、小学生では、困窮層で24.1%、一般層で15.5%、中学生では、困窮層で18.2%、一般層で7.5%がいじめられた経験をしており、困窮層と一般層で約10ポイントの差がある。また、小学生、中学生共に生活困難度別に統計的に有意な差がある。

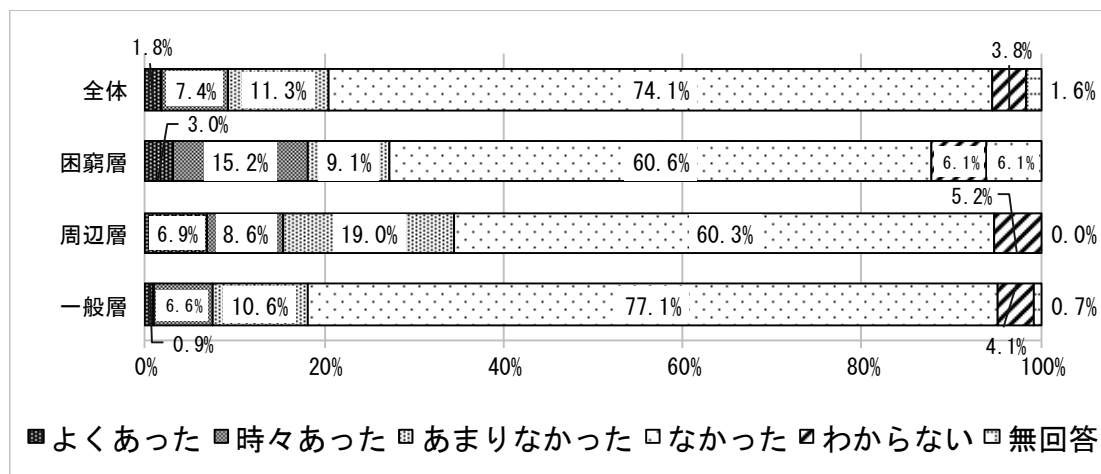
図表 4-4-1 いじめられた経験（小学生、中学生）



図表 4-4-2 いじめられた経験（小学生）：生活困難度別(\*)



図表 4-4-3 いじめられた経験（中学生）：生活困難度別(\*\*\*)

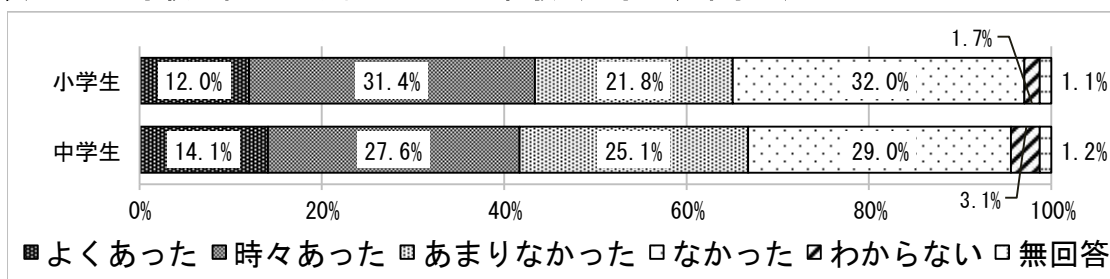


(2) 学校に行きたくないと思った経験（小学生、中学生）

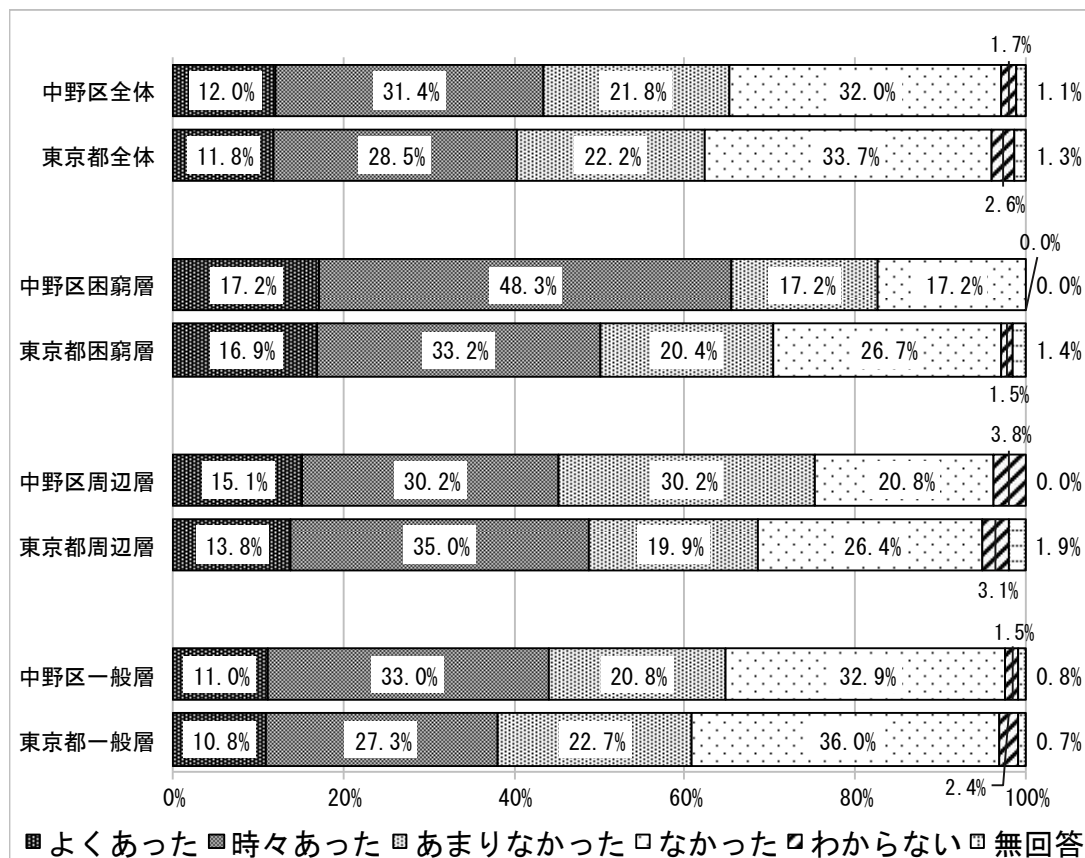
子どもに、「学校に行きたくないと思った」ことについて聞いたところ、小学生の12.0%が「よくあった」、31.4%が「時々あった」と回答しており、合わせて43.4%が「学校に行きたくないと思った」経験がある。また、中学生は、「よくあった」14.1%と「時々あった」27.6%であり、合わせて41.7%が「学校に行きたくないと思った」経験がある。生活困難度別に見ると、小学生の困窮層では65.5%の子どもが「学校に行きたくないと思った」経験があり、この割合は周辺層（45.3%）、一般層（44.0%）よりも約20ポイント高く、生活困難度が高くなるほど「学校に行きたくないと思った」経験がある子どもの割合が高くなる。中学生においても、同じ傾向が見られる。

東京都との比較を見ると、特に差の大きい項目は、困窮層の「時々あった」、周辺層の「あまりなかった」、一般層の「時々あった」で中野区の方が東京都に比べて高く、困窮層、周辺層の「なかった」で東京都の方が中野区と比べて高くなっている。

図表 4-4-4 学校に行きたくないと思った経験（小学生、中学生）



図表 4-4-5 学校に行きたくないと思った経験：（生活困難度別 中野区小学生(X)、東京都小学5年生(\*\*\*)）



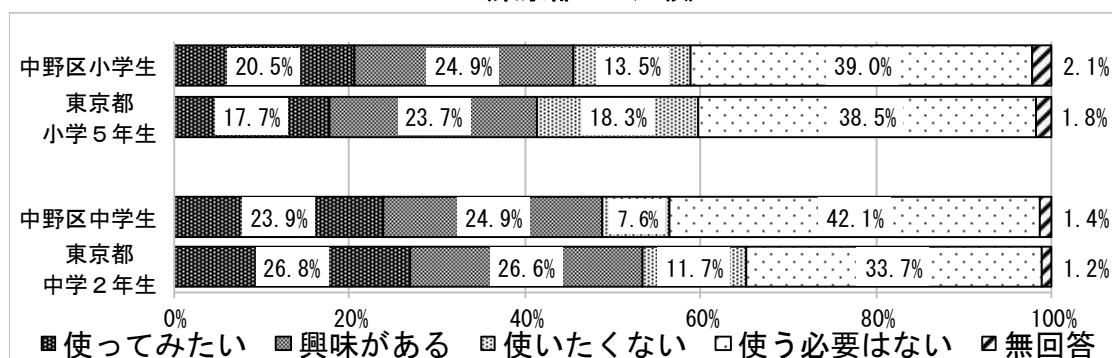
## 5 居場所支援・相談事業の利用意向

### (1) 平日の放課後から夜にかけての居場所

子どもに、「(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所」について、「使ってみたいと思いますか」と聞いたところ、小学生の20.5%、中学生の23.9%が「使ってみたい」と回答した。「興味がある」を合わせると、小学生の45.4%、中学生の48.8%が「(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所」の利用意向がある。

東京都との比較を見ると、小学生で特に差の大きい項目は、「使いたくない」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。中学生で特に差の大きい項目は、「使う必要はない」で中野区の方が東京都に比べて高く、「使いたくない」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

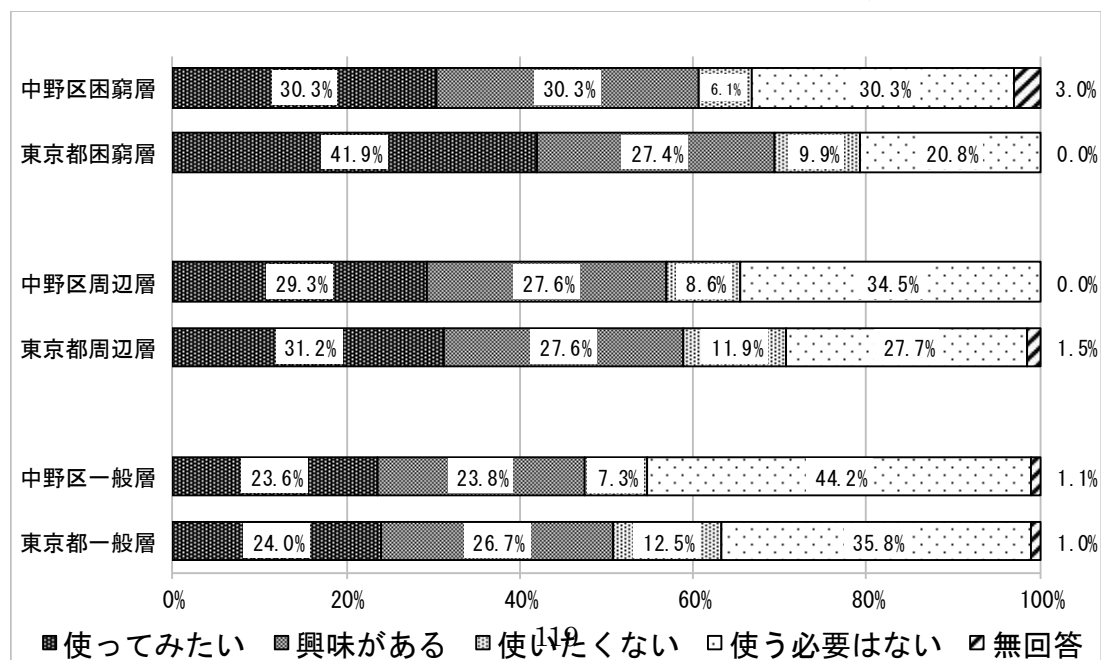
図表 4-5-1 (学校以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所の利用意向：年齢層別 (東京都との比較)



生活困難度別に見ると、中学生では困窮層ほど利用意向が高く、困窮層で6割以上が関心を持っている。

東京都との比較を見ると、全ての生活困難度で東京都に比べて中野区の方が「使う必要はない」が高くなっている。また困窮層の「使ってみたい」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表 4-5-2 (学校以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所の利用意向：(生活困難度別 中野区中学生(X)、東京都中学2年生(\*\*\*))



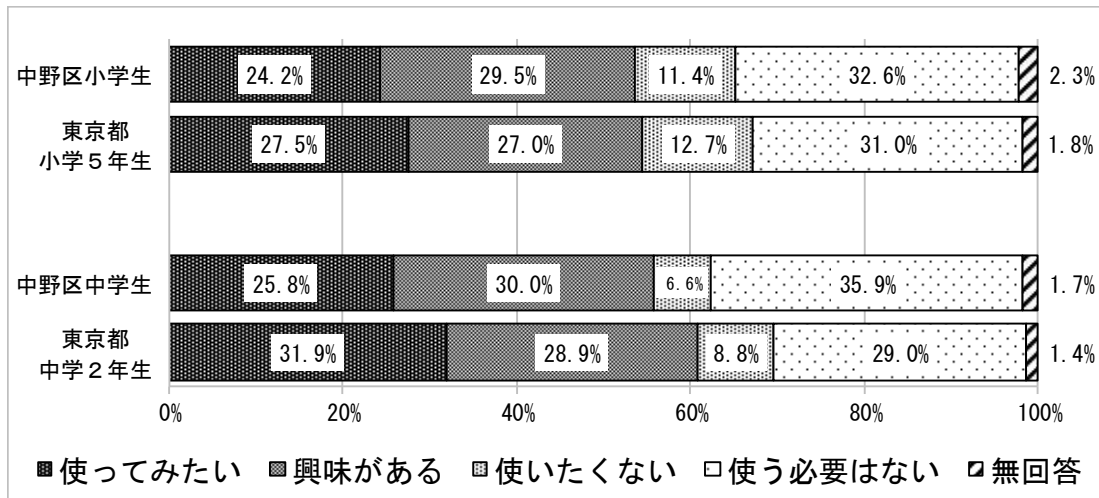
## (2) 休日の居場所

子どもに、「(家以外で) 休日にいることができる場所」について聞いたところ、小学生の24.2%、中学生の25.8%が「使ってみたい」と回答している。「興味がある」を合わせると、約5～6割の子どもが休日の「(家以外で) 休日にいることができる場所」の利用意向がある。

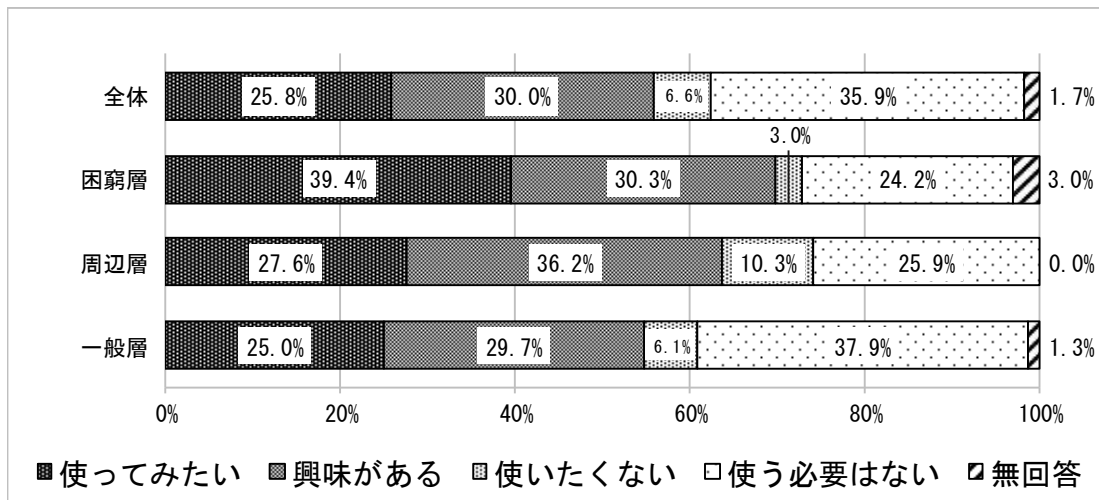
生活困難度別に見ると、中学生では生活困難度が高くなると利用意向が高くなる。

東京都との比較を見ると、小学生で特に差の大きい項目は、「使ってみたい」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。中学生で特に差の大きい項目は、「使う必要はない」で中野区の方が東京都に比べて高く、「使ってみたい」では東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表 4-5-3 (学校以外で) 休日にいることができる場所の利用意向：年齢層別  
(東京都との比較)



図表 4-5-4 (学校以外で) 休日にいることができる場所の利用意向 (中学生)：生活困難度別  
(X)

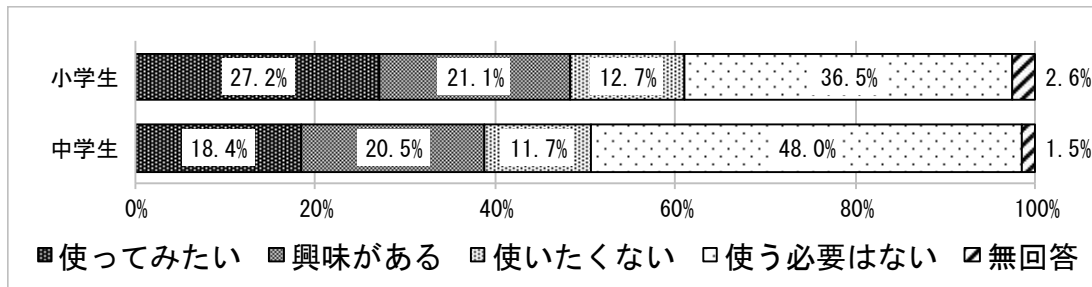


### (3) タごはんをみんなで食べることができる場所

子どもに、「家の人がない時、タごはんをみんなで食べることができる場所」の利用意向について聞いた。「使ってみたい」と答えたのは、小学生の27.2%、中学生の18.4%であり、「興味がある」を合わせると、どの年齢層でも約4～5割の子どもに利用意向がある。

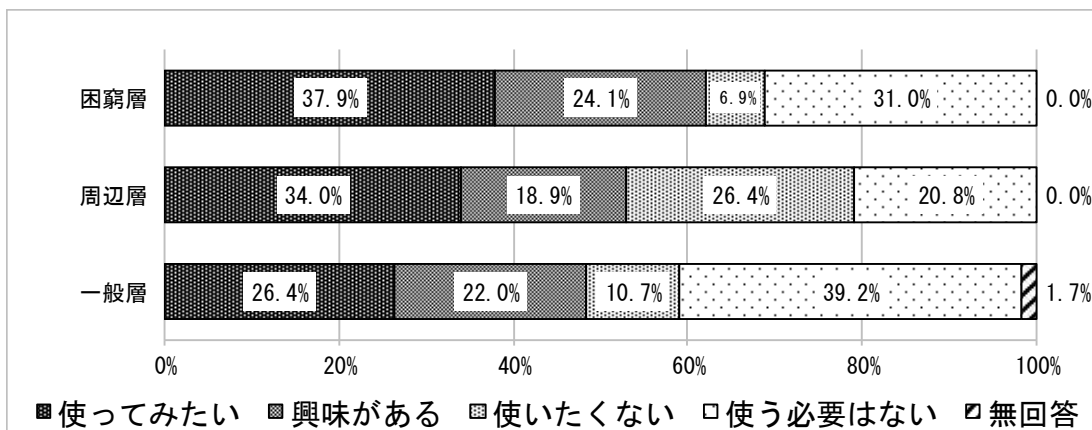
生活困難度別に「使ってみたい」と答えた割合を見ると、中学生では統計的に有意な差はなかったが、小学生、中学生共に困窮層、周辺層の割合が高かった。

図表4-5-5 家の人がない時、タごはんをみんなで食べることができる場所の利用意向：年齢層別



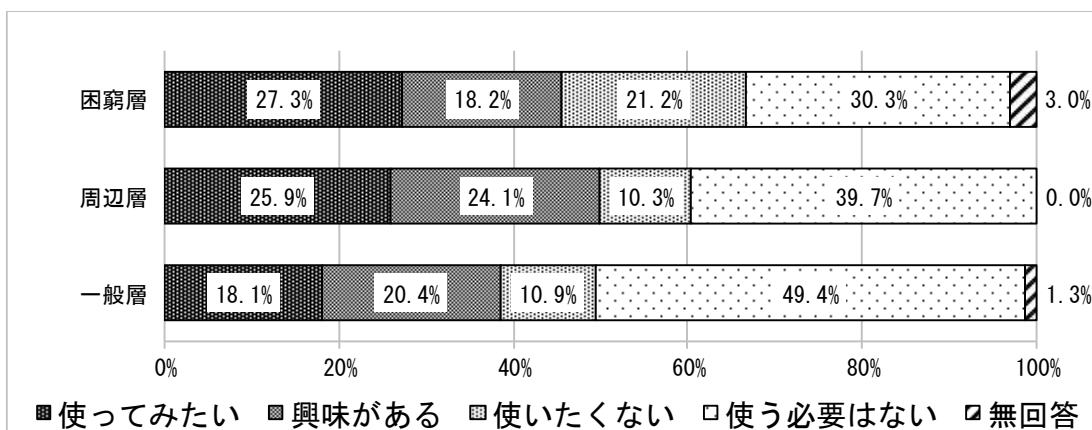
図表4-5-6 家の人がない時、タごはんをみんなで食べることができる場所の利用意向

(小学生)：生活困難度別 (\*\*\*)



図表4-5-7 家の人がない時、タごはんをみんなで食べることができる場所の利用意向

(中学生)：生活困難度別 (X)

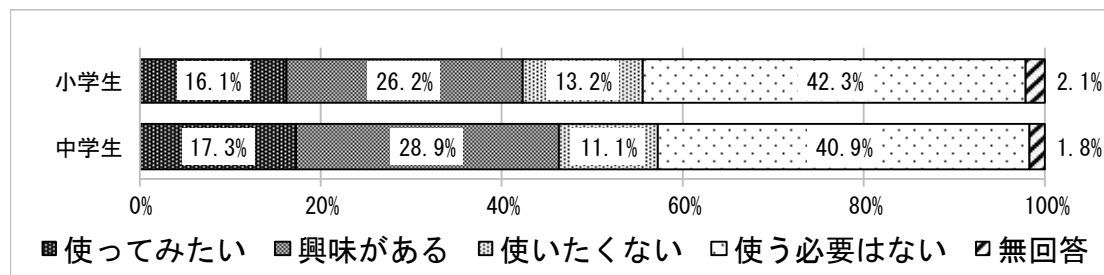


#### (4) なんでも相談できる場所

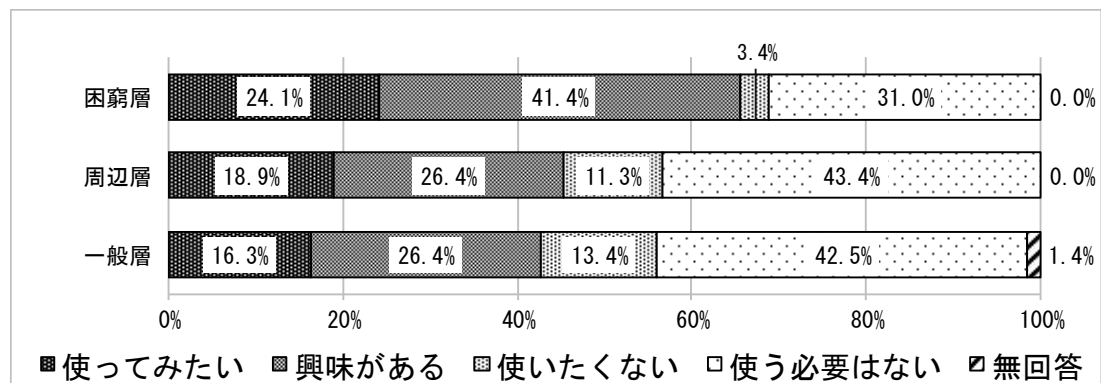
「(学校以外で) 進路や勉強、家族のことなどなんでも相談できる場所」については、小学生の16.1%、中学生の17.3%が「使ってみたい」と回答している。「興味がある」を合わせると、どの年齢層も4割以上の子どもに利用意向がある。

「使ってみたい」と回答した割合が他に比べて高かったのは、小学生では困窮層(24.1%)、中学生では周辺層(19.0%)である。小学生と中学生では生活困難度別で統計的に有意な差はなかった。

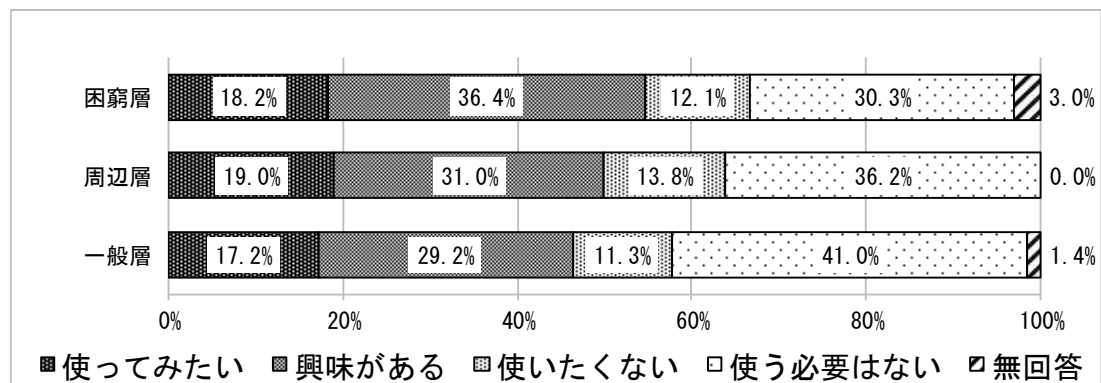
図表 4-5-8 (学校以外で) なんでも相談できる場所の利用意向：年齢層別



図表 4-5-9 (学校以外で) なんでも相談できる場所の利用意向(小学生)：生活困難度別(X)



図表 4-5-10 (学校以外で) なんでも相談できる場所の利用意向(中学生)：生活困難度別(X)





## 第5部 子どもの健康と自己肯定感



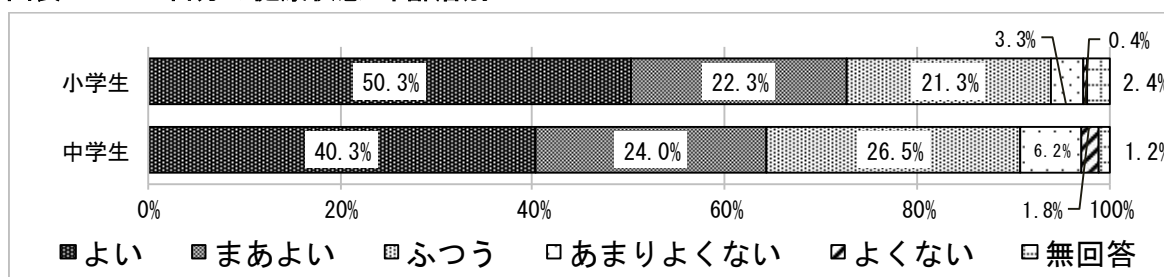
# 1 健康

## (1) 健康状態

### ①子どもの主観的健康状態

子どもに、自分自身の健康状態について、5段階（「よい」、「まあよい」、「ふつう」、「あまりよくない」、「よくない」）の選択肢で聞いた。小学生の50.3%、中学生の40.3%は、自分の健康状態が「よい」と答えている。健康状態が「よい」と「まあよい」を合わせると、小学生では7割、中学生では6割を超える。しかし、小学生の3.3%、中学生の6.2%が「あまりよくない」と答え、小学生の0.4%、中学生の1.8%が「よくない」と答えている。

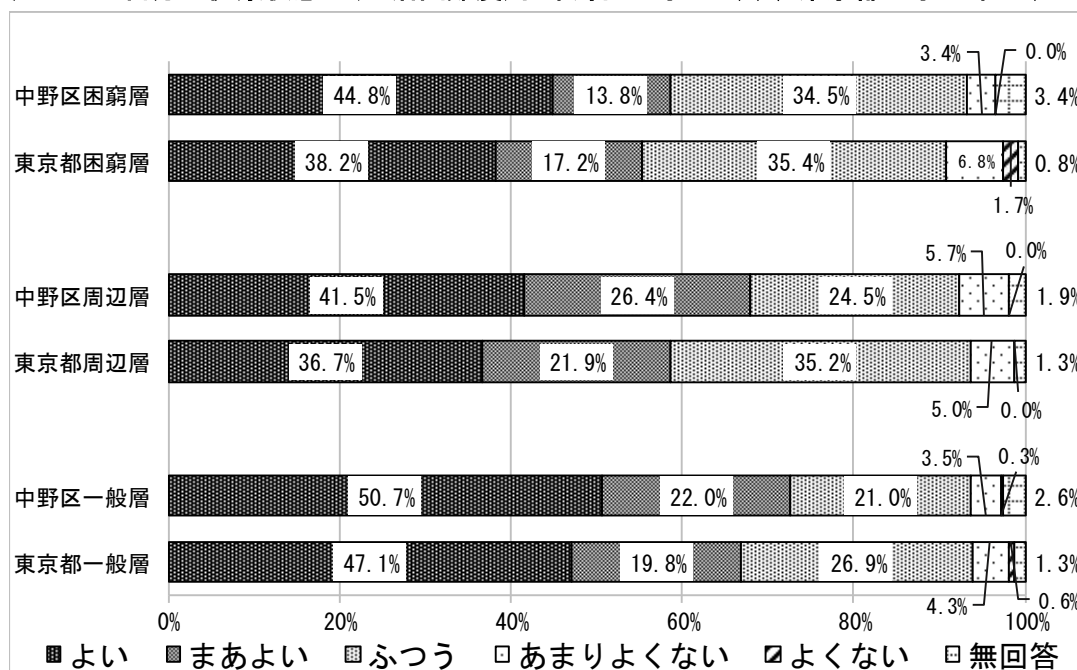
図表 5-1-1 自分の健康状態：年齢層別



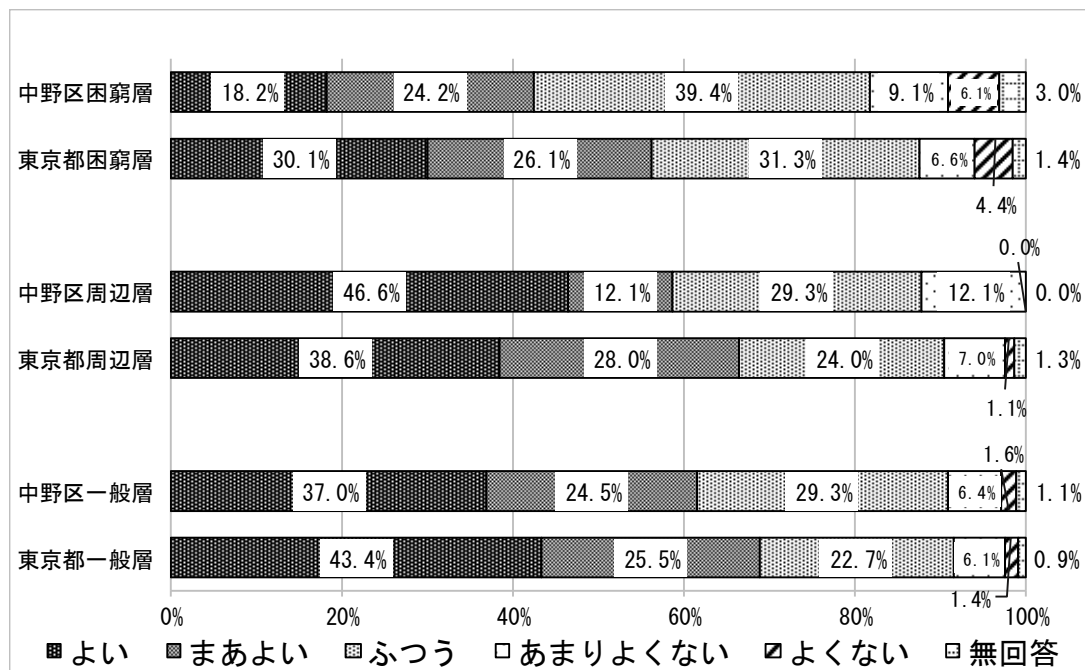
また、生活困難度別に見ると、困窮層で健康状態が「よい」、「まあよい」と答える割合が低く、小学生では一般層が72.7%、困窮層が58.6%、中学生では一般層が61.5%、困窮層が42.4%となっている。

東京都との比較を見ると、小学生では全ての生活困難度で「よい」が東京都に比べて中野区の方が高くなっている。中学生では周辺層以外の「よい」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表 5-1-2 自分の健康状態：(生活困難度別 中野区小学生 (X)、東京都小学5年生 (\*\*\*))



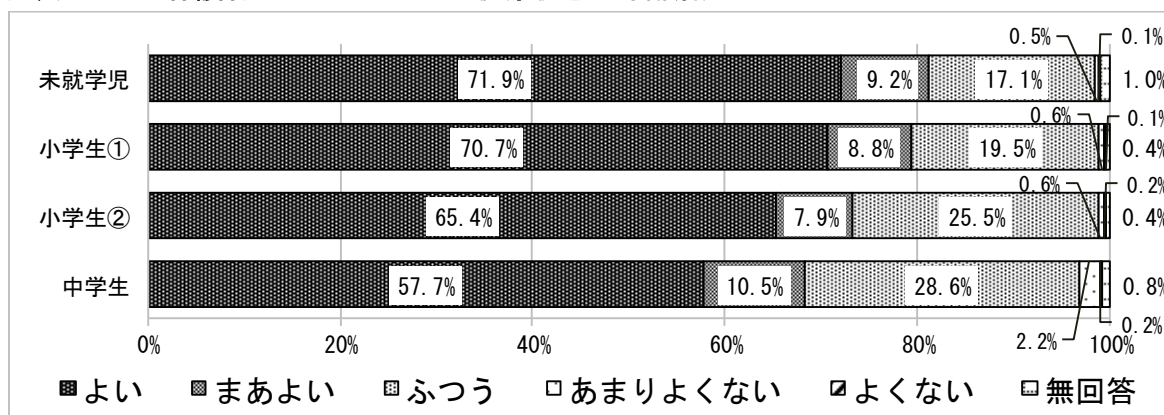
図表 5-1-3 自分の健康状態：(生活困難度別 中野区中学生 (\*\*)、東京都中学 2 年生 (\*\*\*))



## ②保護者からみた子どもの健康状態

保護者に子どもの健康状態を聞いた。どの年齢層においても「よい」と回答した割合が過半数を超えている一方で、子どもの健康状態が「あまりよくない」、「よくない」と回答した保護者は、未就学児で0.6%、小学生①で0.7%、小学生②で0.8%、中学生で2.4%であった。

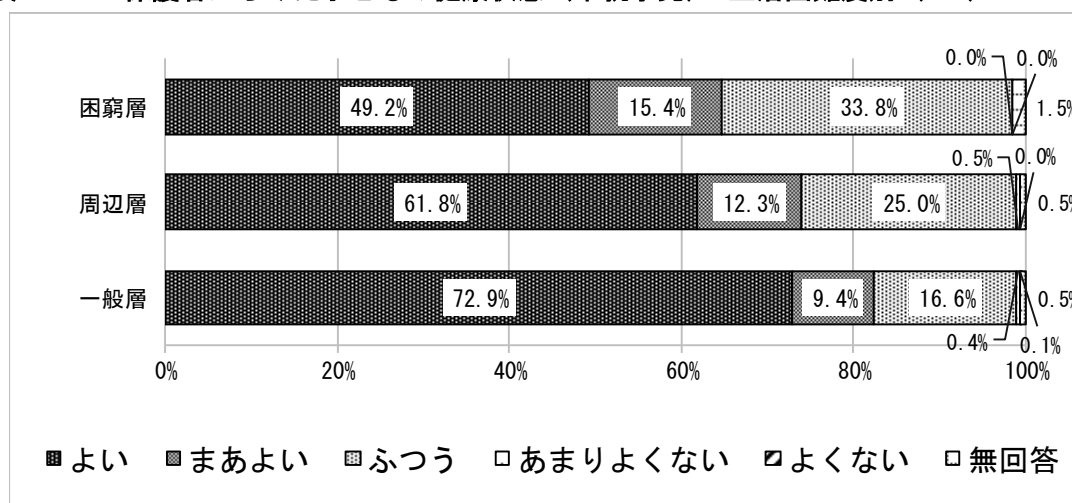
図表 5-1-4 保護者からみた子どもの健康状態：年齢層別



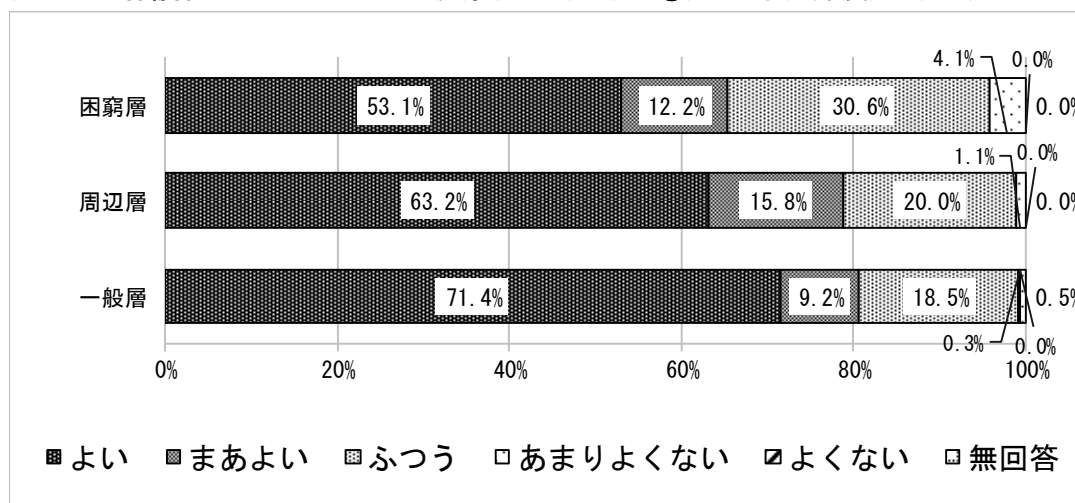
生活困難度別では、全ての年齢層で統計的に有意な差があり、生活困難度が上がるにつれて「よい」と答えた保護者の割合が低くなる。

東京都との比較を見ると、小学生②で特に差の大きい項目は、困窮層の「まあよい」、「あまりよくない」で中野区の方が東京都に比べて高く、困窮層の「よい」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。中学生では、全ての生活困難度で「よい」が東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

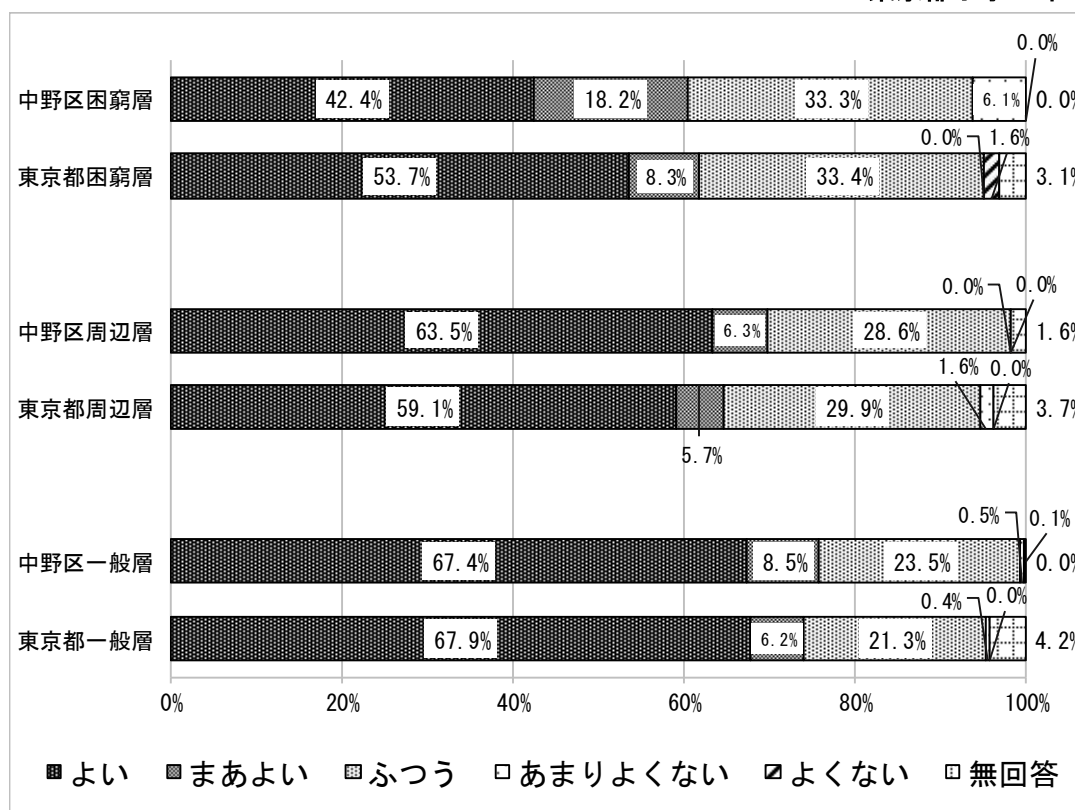
図表 5-1-5 保護者からみた子どもの健康状態（未就学児）：生活困難度別 (\*\*\*)



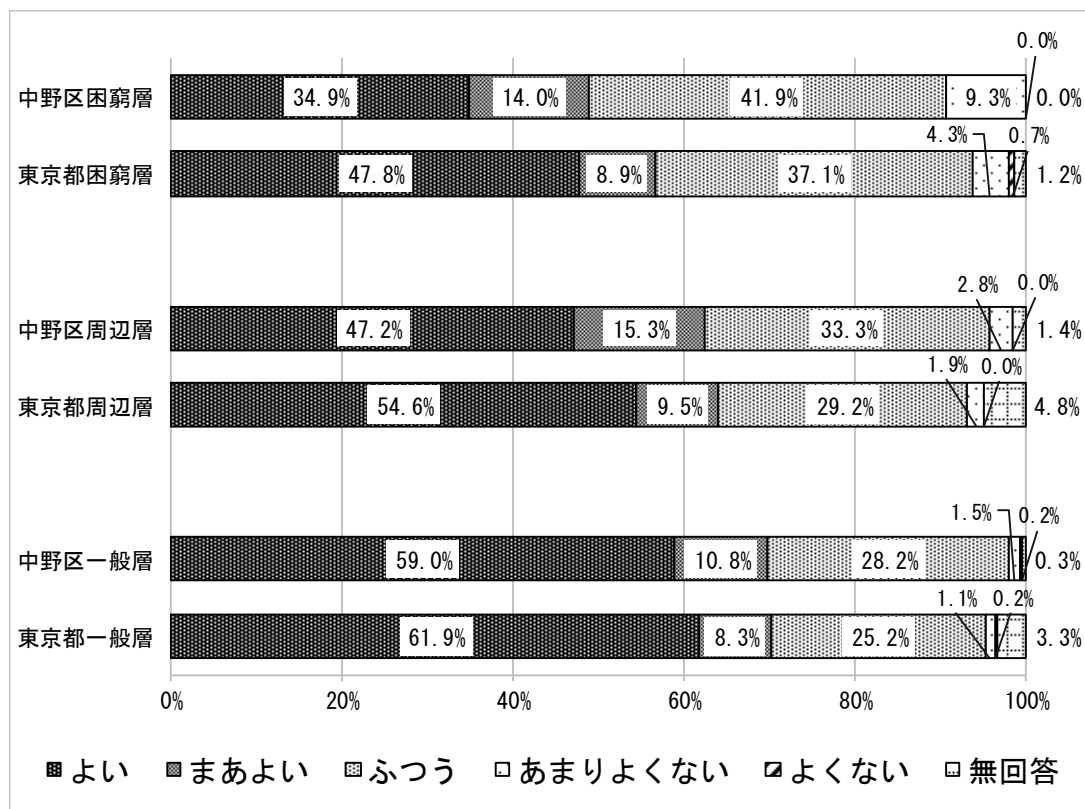
図表 5-1-6 保護者からみた子どもの健康状態（小学生①）：生活困難度別（\*\*\*）



図表 5-1-7 保護者からみた子どもの健康状態：（生活困難度別 中野区小学生②（\*\*\*）、東京都小学5年生（\*\*\*））



図表 5-1-8 保護者からみた子どもの健康状態：(生活困難度別 中野区中学生 (\*\*\*)、  
東京都中学2年生 (\*\*\*))

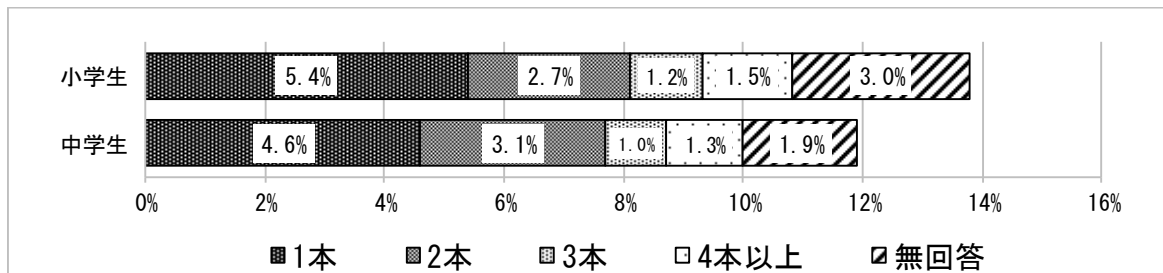


### ③むし歯の本数

子どもにむし歯の本数（治療中も含む）を聞いた。図表 5-1-9 から図表 5-1-13 までは、むし歯の本数のうち、「0本」と回答した割合を除いて集計したものである。

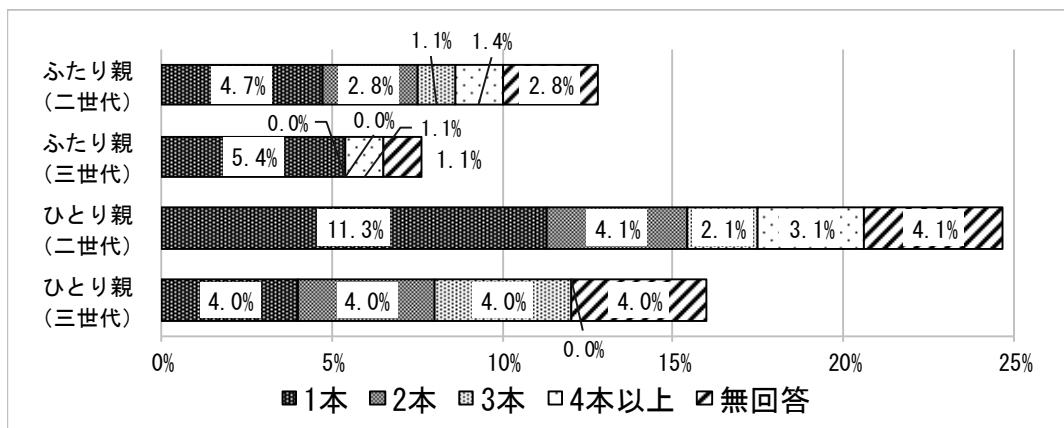
むし歯が「4本以上」の子どもは、小学生で1.5%、中学生で1.3%であり、虫歯があったとした割合は中学生に比べて小学生の方が高い。

図表 5-1-9 むし歯の本数（治療中も含む）：年齢層別

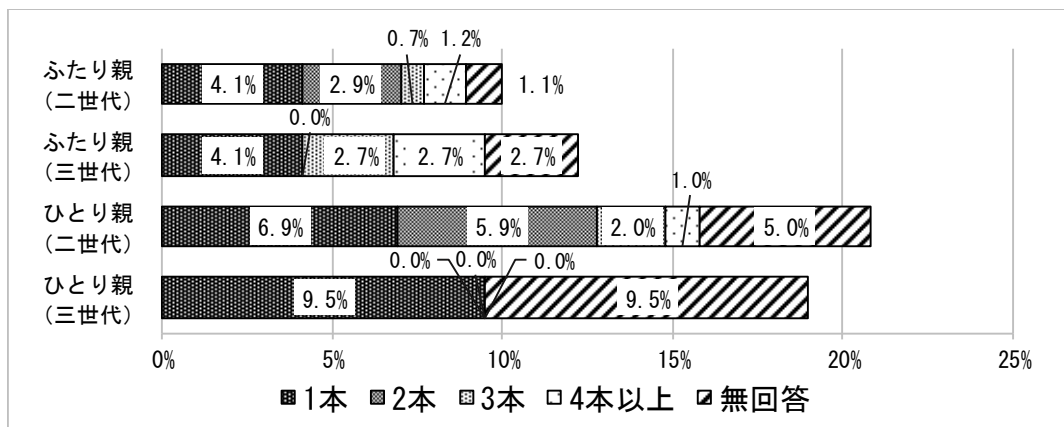


世帯タイプ別に見ると、小学生、中学生共に統計的に有意な差は見られなかったが、小学生ではむし歯が「4本以上」と答えた割合は、ひとり親（二世帯）世帯で最も高く、中学生ではふたり親（三世帯）世帯で最も高かった。

図表 5-1-10 むし歯の本数（治療中も含む）（小学生）：世帯タイプ別(X)



図表 5-1-11 むし歯の本数（治療中も含む）（中学生）：世帯タイプ別(X)

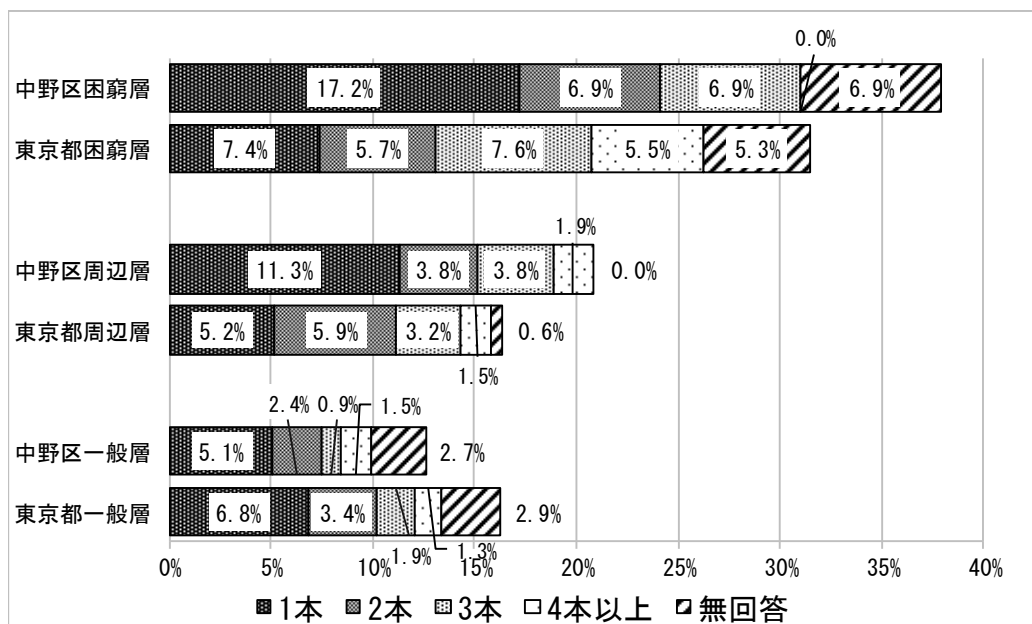




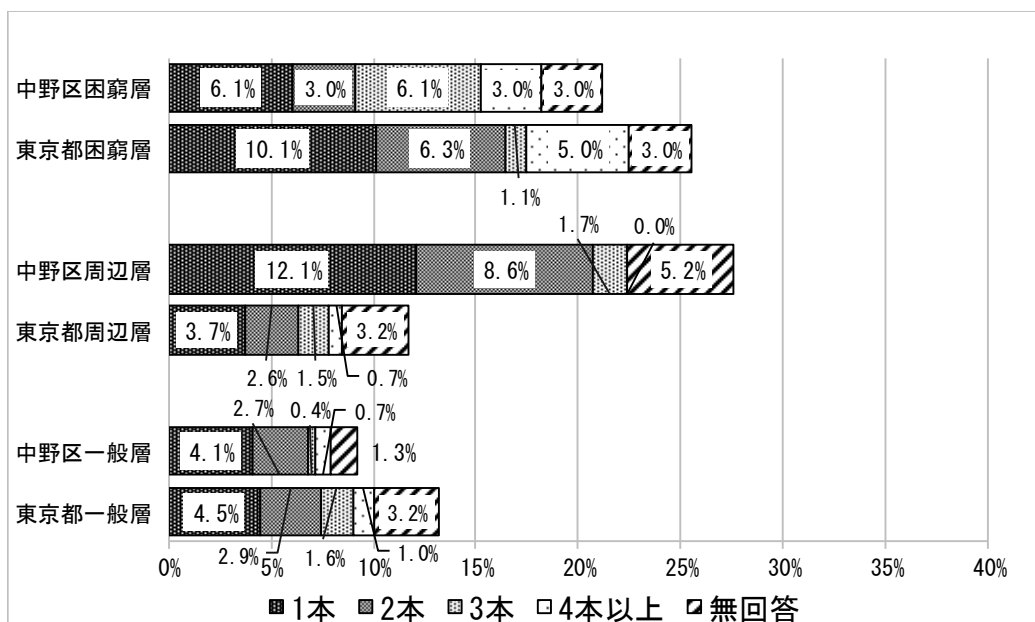
生活困難度別では、全ての年齢層で統計的に有意な差が見られた。「むし歯がある」と答えた割合は、小学生では困窮層が31.0%、周辺層が20.8%、一般層が9.9%、中学生では困窮層が18.2%、周辺層が22.4%、一般層が7.9%となっており、困窮層と一般層を比較すると、本数に関わらず「むし歯がある」と答えた割合の差は、小学生では21.1ポイント、中学生では10.3ポイントあり、困窮層の方が高い。また、中学生では、周辺層で「むし歯がある」と答えた割合が最も高い。

東京都との比較を見ると、小学生の困窮層、周辺層において、東京都に比べて中野区が本数に関わらず「むし歯がある」と答えた割合が高くなっている。また中学生の困窮層において、中野区に比べて東京都が本数に関わらず「むし歯がある」と答えた割合が高くなっている。

図表 5-1-12 むし歯の本数（治療中も含む）：（生活困難度別 中野区小学生（\*\*\*）、東京都小学5年生（\*\*\*））



図表 5-1-13 むし歯の本数（治療中も含む）：（生活困難度別 中野区中学生（\*\*\*）、東京都中学2年生（\*\*\*））



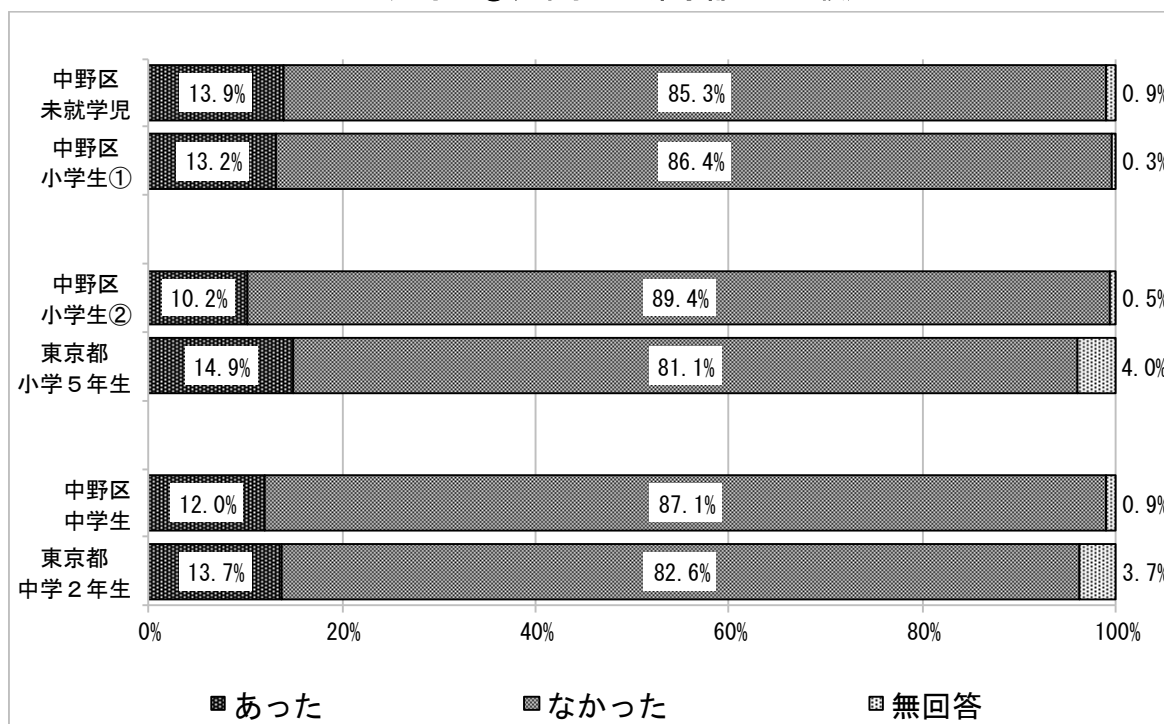
(2) 医療の受診抑制

① 受診抑制経験

保護者に対して「過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか」と聞いた。未就学児では13.9%、小学生①では13.2%、小学生②では10.2%、中学生では12.0%の保護者が受診させなかった経験が「あった」と回答している。

東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共に、東京都に比べて中野区は受診抑制経験の割合が低くなっている。

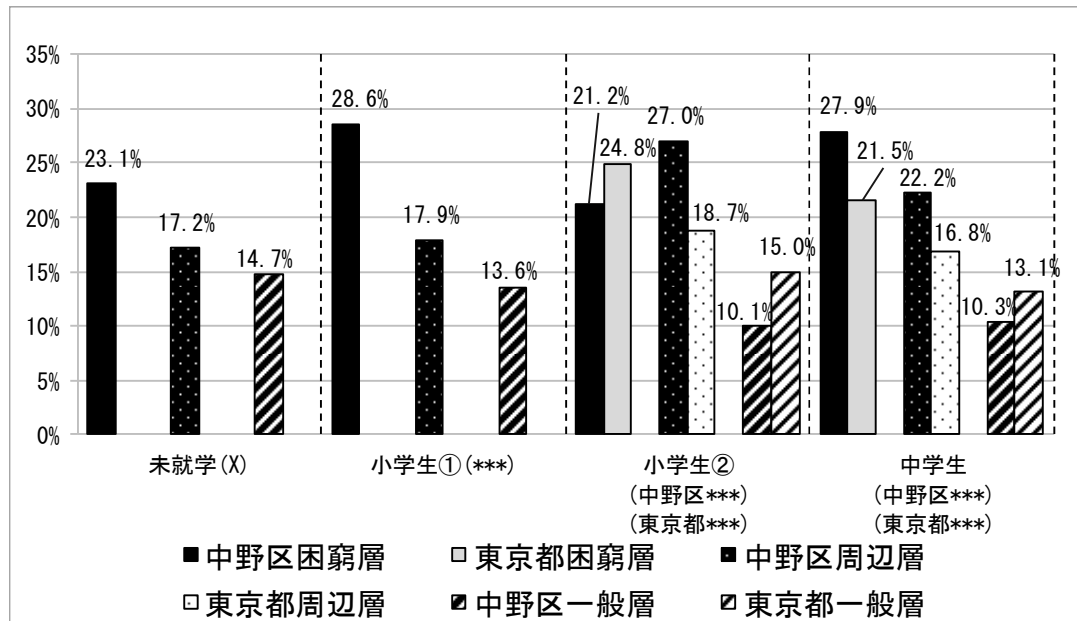
図表 5-1-14 医療の受診抑制経験：年齢層別  
(小学生②、中学生は東京都との比較)



受診抑制経験において、生活困難度別では未就学児を除く年齢層で統計的に有意な差が見られ、全ての年齢層で一般層に比べて困窮層で受診抑制経験がある割合が高い。

東京都との比較を見ると、小学生②の困窮層において、中野区に比べて東京都は受診抑制経験の割合が高い。また中学生の困窮層において、東京都に比べて中野区は受診抑制経験の割合が高くなっている。

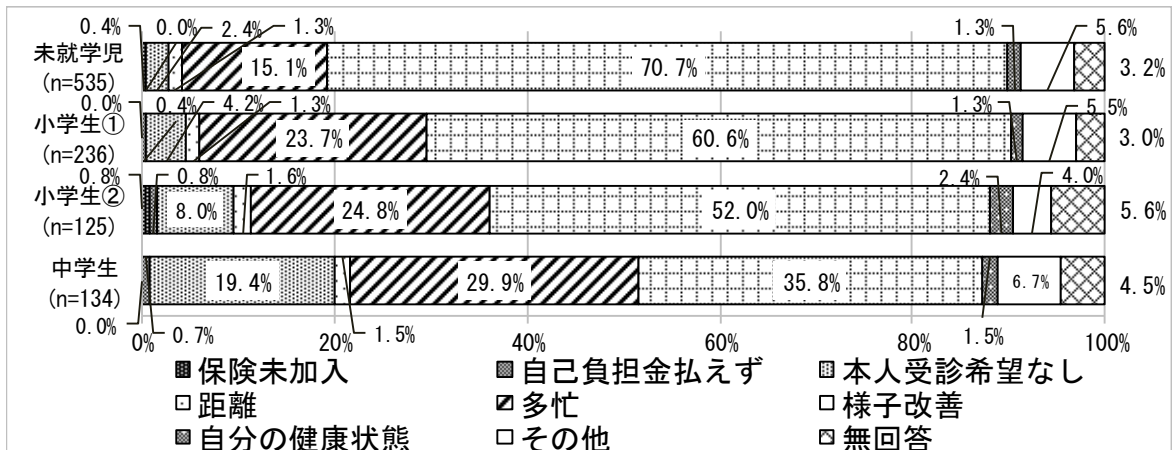
**図表 5-1-15 医療の受診抑制経験：生活困難度別**  
(小学生②、中学生は東京都との比較)



## ②受診抑制理由

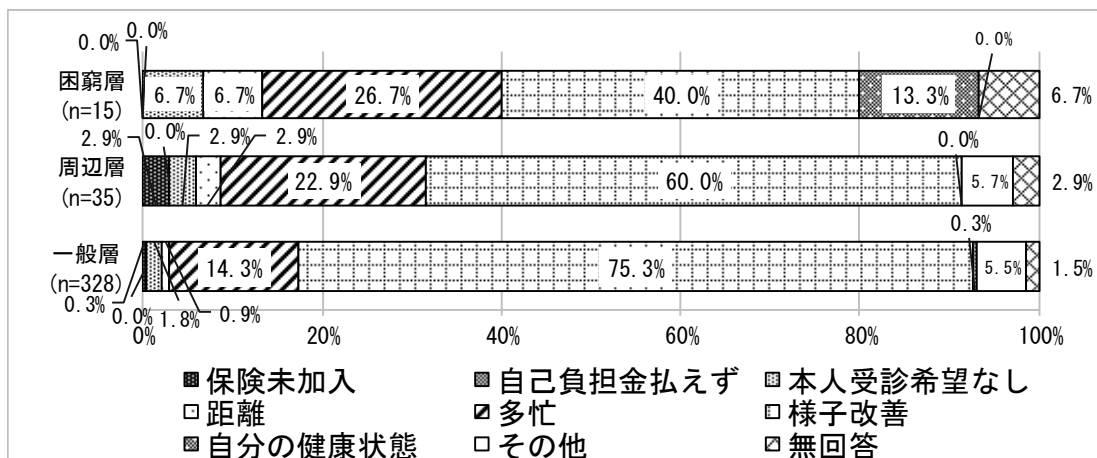
子どもを受診させなかった経験がある保護者に、その理由を聞いたところ、全ての年齢層において「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため（様子改善）」、「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため（多忙）」、「子ども本人が受診しなかったため（本人受診希望なし）」の順に割合が高かった。しかし、「公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため（自己負担金払えず）」と回答した保護者（小学生①0.4%、小学生②0.8%、中学生0.7%）もいる。

図表 5-1-16 医療の受診抑制理由：年齢層別

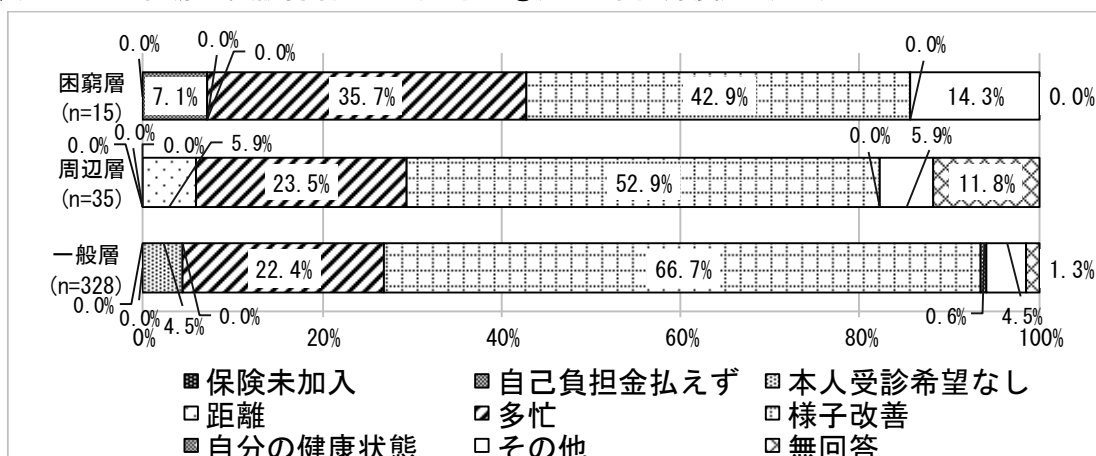


生活困難度別で見ると、困窮層の受診抑制理由で最も高いのは未就学児、小学生①では「様子改善」で未就学児 40.0%、小学生①42.9%、小学生②、中学生では「多忙」で小学生② 42.9%、中学生 50.0%である。全ての年齢層で一般層に比べて困窮層で「多忙」との回答が高い。

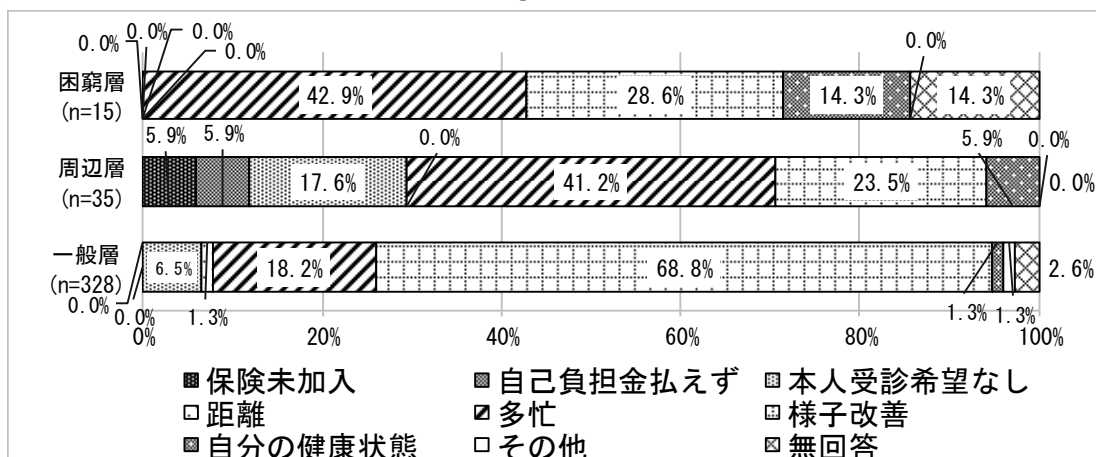
図表 5-1-17 医療の受診抑制理由（未就学児）：生活困難度別 (\*\*\*)



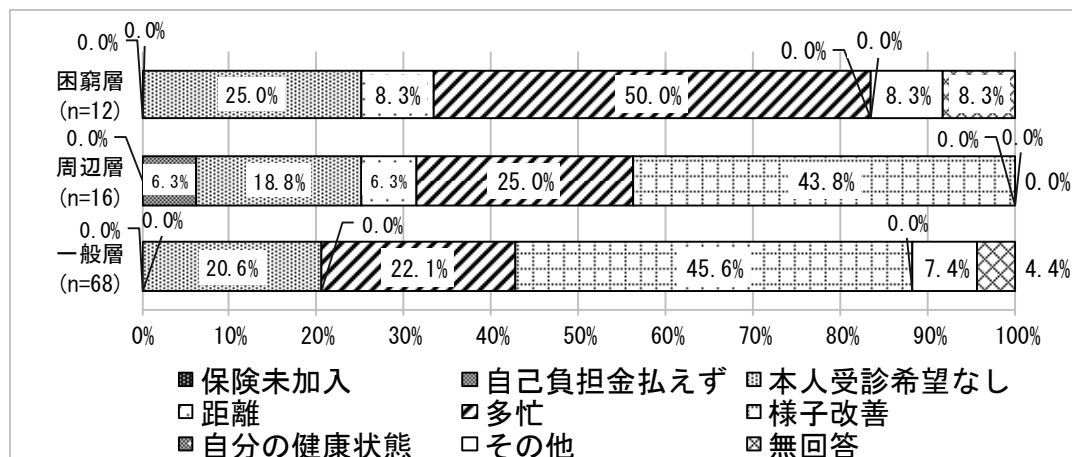
図表 5-1-18 医療の受診抑制理由（小学生①）：生活困難度別（\*\*\*）



図表 5-1-19 医療の受診抑制理由（小学生②）：生活困難度別（\*\*）



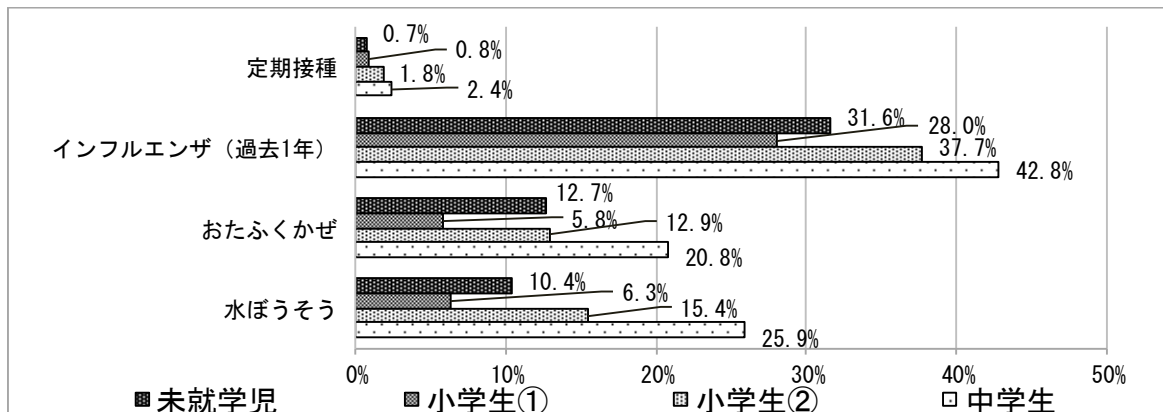
図表 5-1-20 医療の受診抑制理由（中学生）：生活困難度別（\*\*）



### (3) 予防接種の未接種状況

保護者に対し、子どもの予防接種の受診状況について聞いた。その結果、「定期接種」では未接種率が低いものの（未就学児 0.7%、小学生①0.8%、小学生②1.8%、中学生 2.4%）、インフルエンザでは未接種率が小学生②、中学生で約4割と、未就学児、小学生①に比べて高い。その他予防接種でも小学生②、中学生の未接種率は未就学児、小学生①に比べて高い。

図表 5-1-21 予防接種の未接種状況：年齢層別

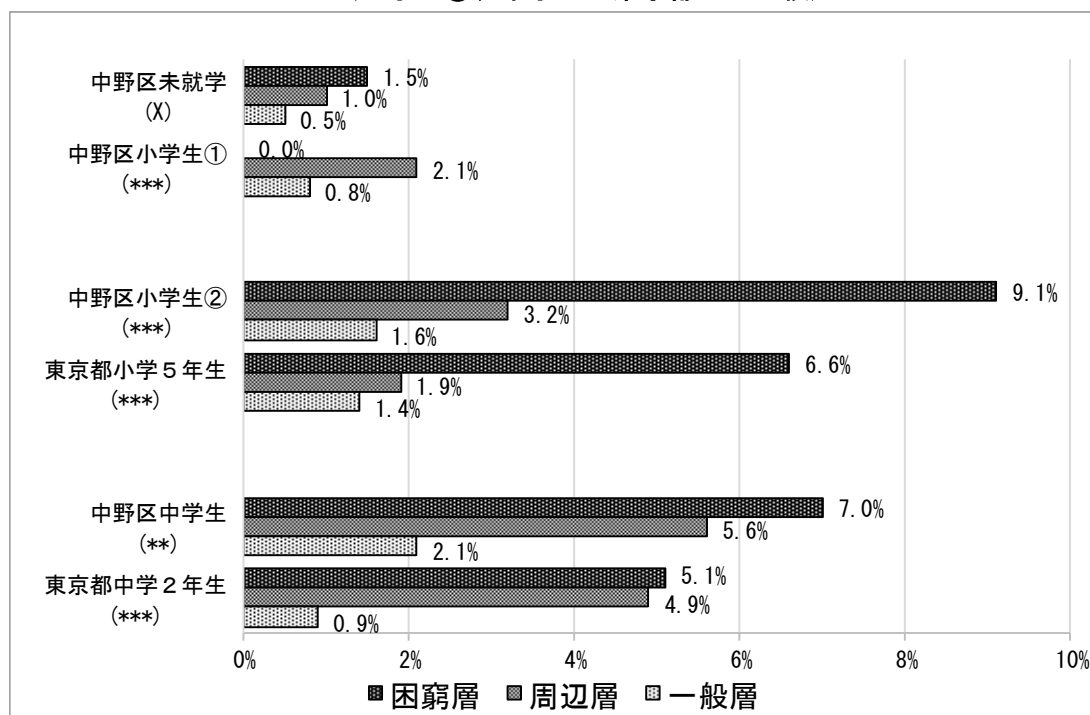


※水ぼうそうは、平成 26 年 10 月より定期予防接種となっている。

定期予防接種は、生活困難度別ではおおむね困窮層の未接種率が高く、小学生②は 9.1%、中学生で 7.0%である。

東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共に全ての層において、東京都に比べて中野区が定期予防接種の未接種状態の割合が高くなっている。

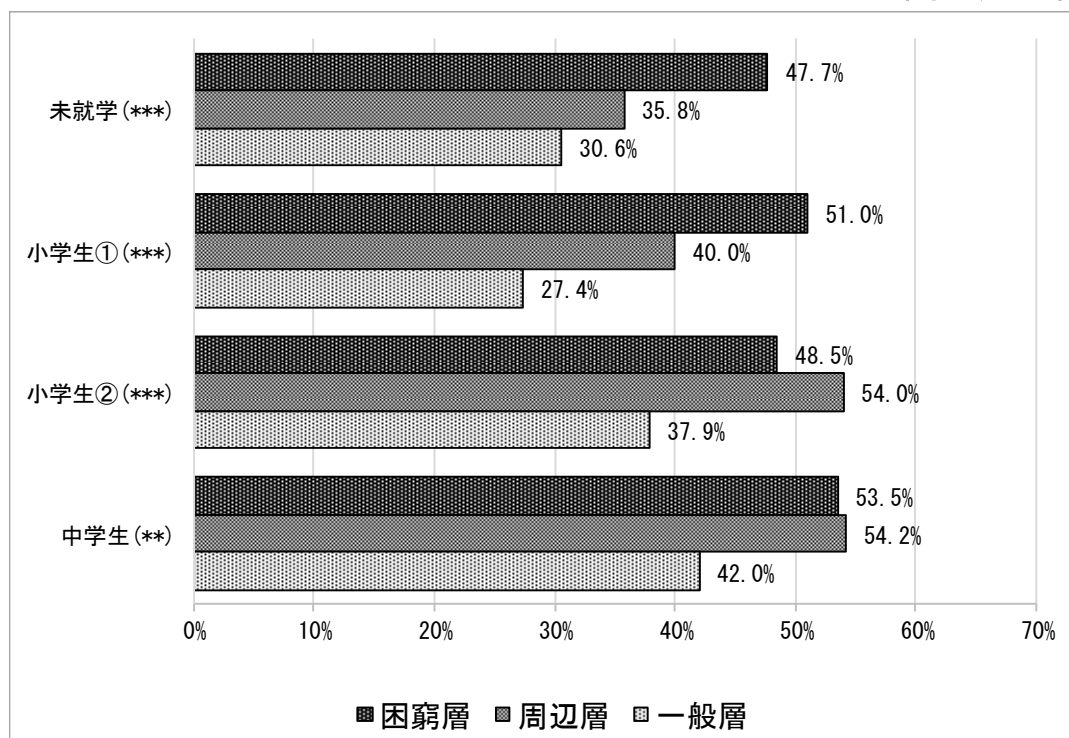
図表 5-1-22 定期予防接種の未接種状況（未就学児、小学生①②、中学生）：生活困難度別（小学生②、中学生は東京都との比較）



任意予防接種の接種状況を見ると、インフルエンザの予防接種は、世帯タイプ別、生活困難度別の両方で統計的に有意な差が見られた。

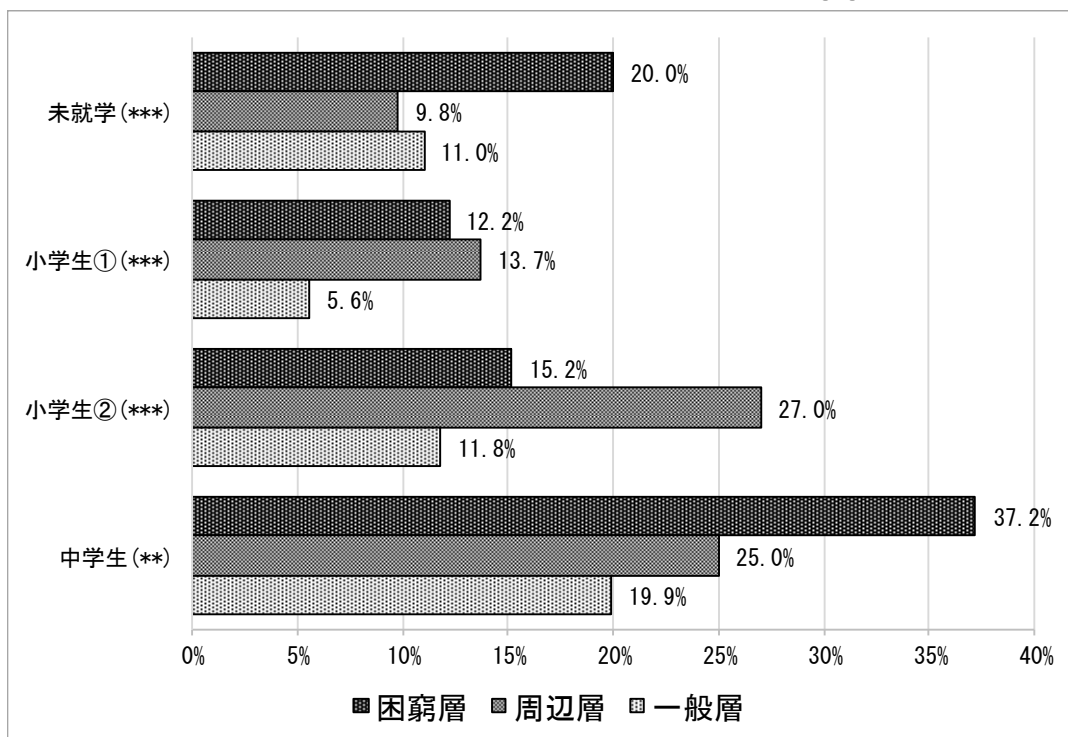
生活困難度別では、一般層に比べて困窮層、周辺層で未接種率が高い。

**図表 5-1-23 予防接種の未接種状況（インフルエンザ（過去1年））（未就学児、小学生①②、中学生）：生活困難度別**

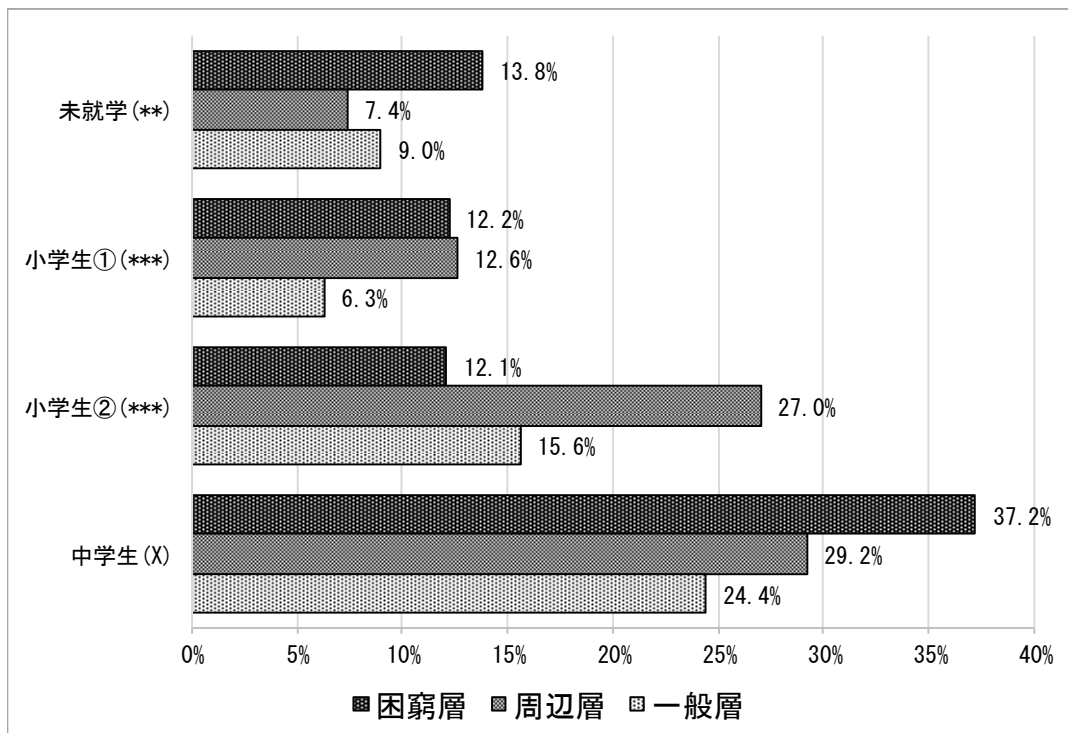


おたふくかぜ、水ぼうそうの未接種率について、生活困難度別では中学生の水ぼうそうを除く年齢層で統計的に有意な差があり、「受けなかった」と回答した割合は、おおむね一般層に比べて困窮層、周辺層で高い。

図表5-1-24 予防接種の未接種状況(おたふくかぜ) (未就学児、小学生①②、中学生) : 生活困難度別



図表5-1-25 予防接種の未接種状況(水ぼうそう) (未就学児、小学生①②、中学生) : 生活困難度別





## 2 自己肯定感

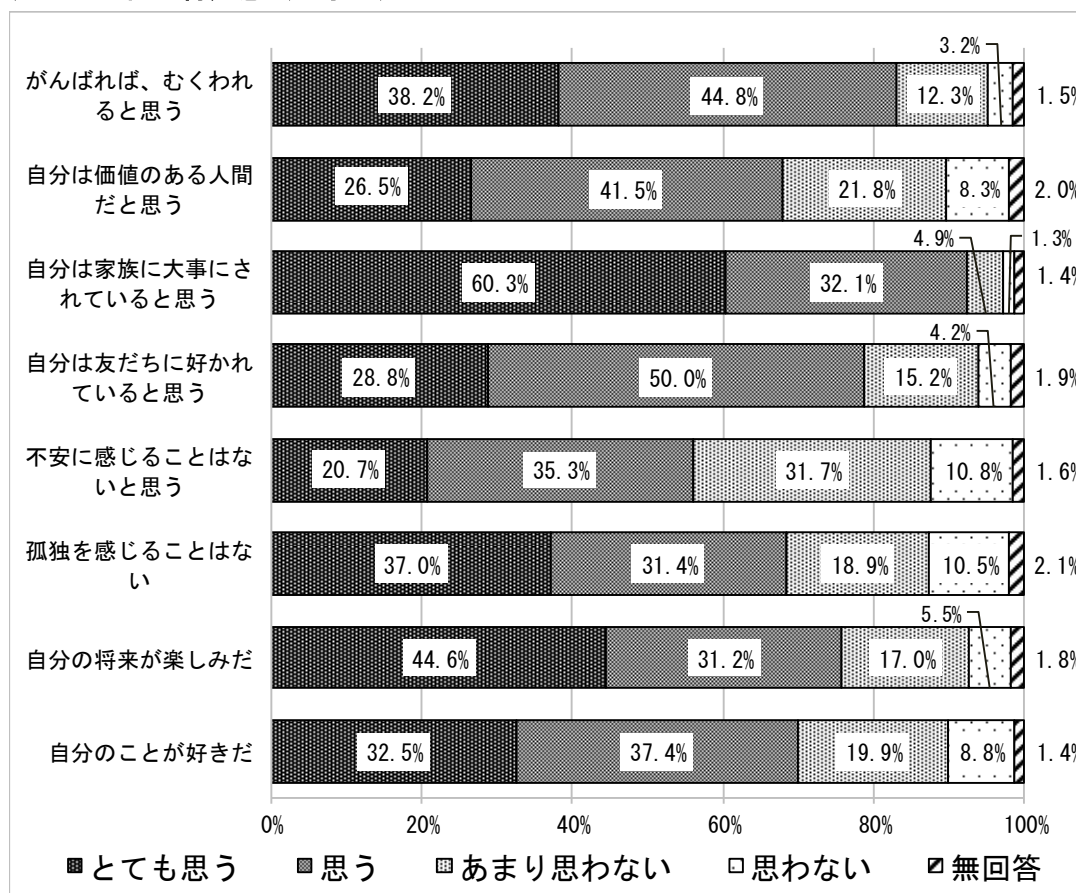
### (1) 自己肯定感

本調査では自己肯定感に関連する8つの設問を設けている。図表5-2-1及び図表5-2-2の8項目について「とても思う」、「思う」、「あまり思わない」、「思わない」の4段階で最も近いものを選択してもらった。

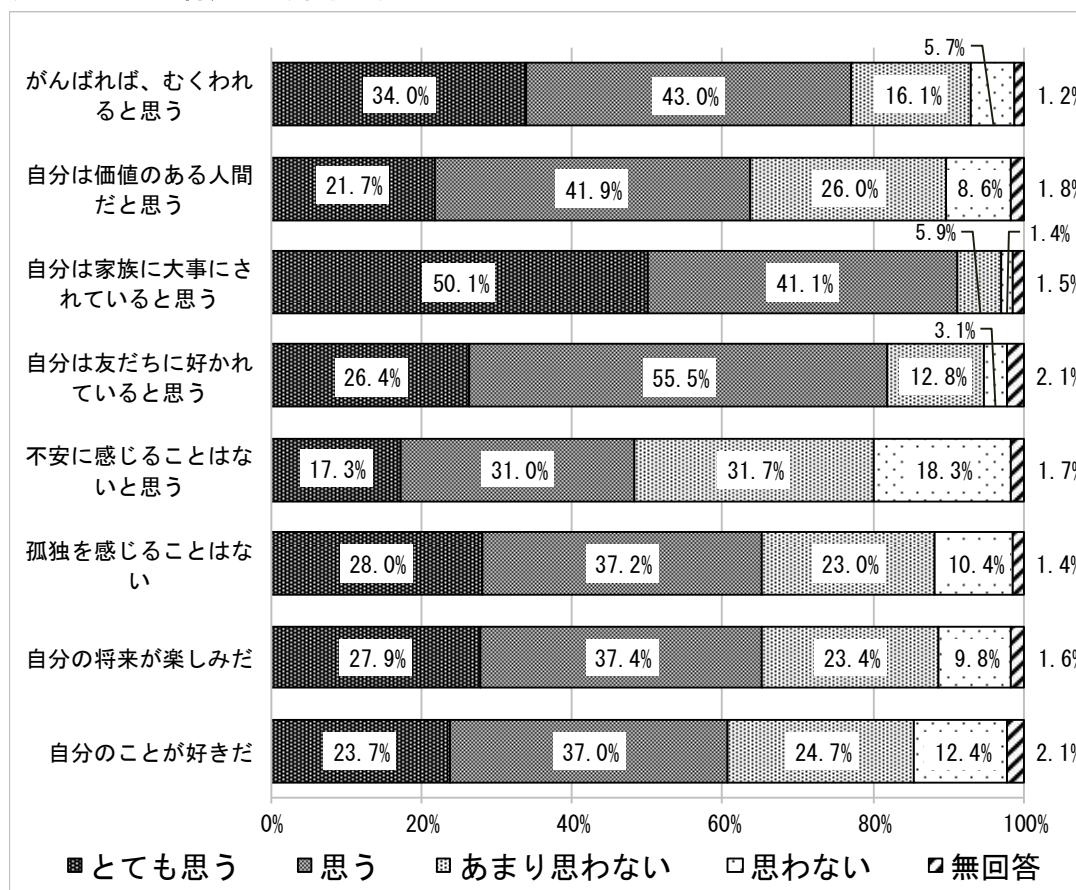
「不安に感じることはないと思う」については、小学生の42.5%、中学生の50.0%が「あまり思わない」、「思わない」と回答しており、多くの子どもが何かしらの不安を抱えていることがわかる。また、「孤独を感じることはない」については、小学生の29.4%、中学生の33.4%が「あまり思わない」、「思わない」(＝孤独を感じる)と回答している。

「自分は価値のある人間だと思う」については、「とても思う」、「思う」は、全ての年齢層で60%を超えているものの、約8～9%が「思わない」と回答している。また、「自分の将来が楽しみだ」については、小学生の5.5%、中学生の9.8%が「思わない」と回答している。

図表5-2-1 自己肯定感（小学生）



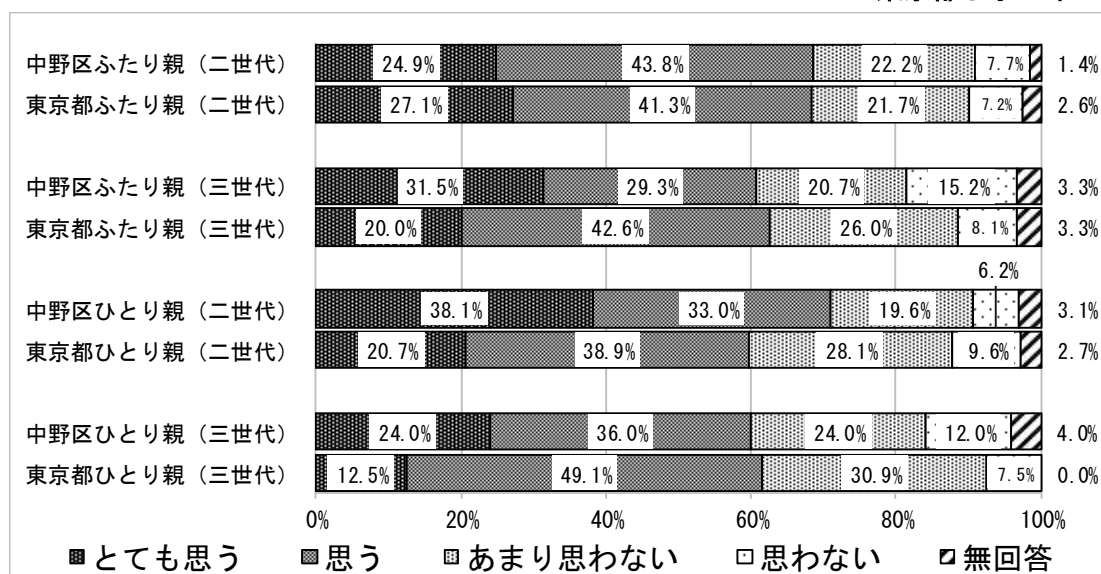
図表 5-2-2 自己肯定感（中学生）



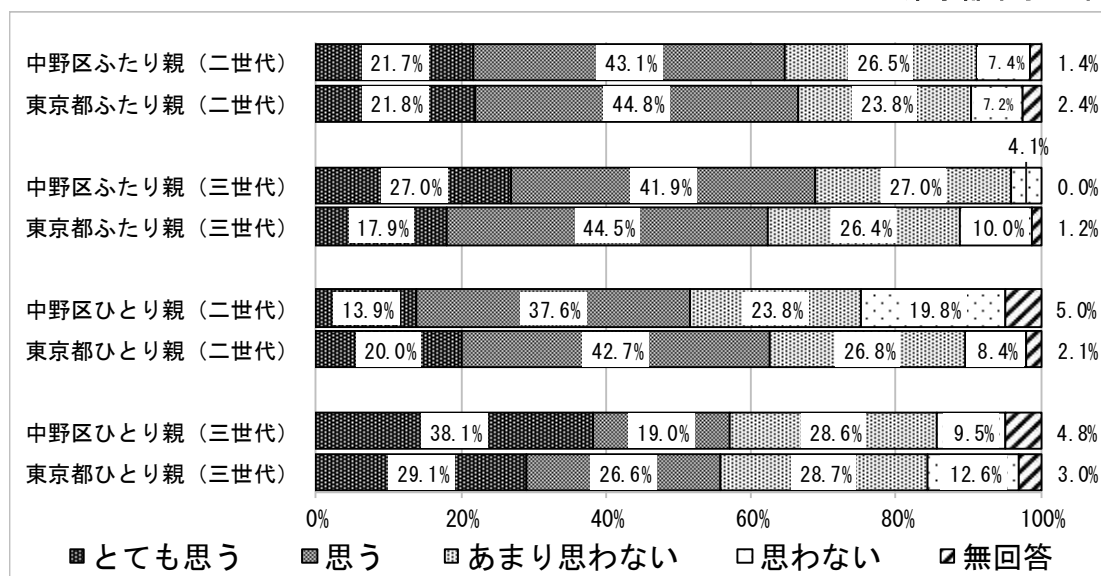
世帯タイプ別に見ると、全ての年齢層で統計的に有意な差が見られた項目は「自分は価値のある人間だと思う」である。「思わない」と回答した割合が最も高かったのは、小学生ではふたり親（三世代）世帯の15.2%、中学生ではひとり親（二世代）世帯の19.8%であった。

東京都との比較を見ると、小学生のふたり親（三世代）、ひとり親（二世代）、ひとり親（三世代）において、東京都に比べて中野区が自分は価値のある人間だと思うという考えについて「とても思う」の割合が高い。また中学生のふたり親（三世代）、ひとり親（三世代）において、東京都に比べて中野区が「とても思う」は高くなっている。

図表 5-2-3 自分は価値のある人間だと思う：(世帯タイプ別 中野区小学生 (\*\*)、  
東京都小学 5 年生 (\*\*\*))



図表 5-2-4 自分は価値のある人間だと思う：(世帯タイプ別 中野区中学生 (\*\*\*)、  
東京都中学 2 年生 (\*))

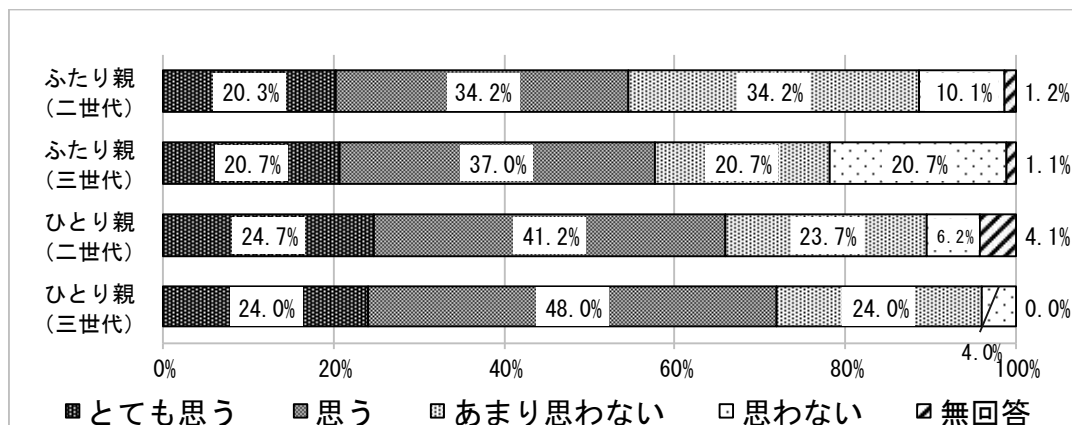


その他の項目では、小学生では「不安に感じることはないと思う」、中学生では「自分は家族に大事にされていると思う」、「自分は友だちに好かれていると思う」、「孤独を感じることはないと思う」の項目に統計的に有意な差が見られた。

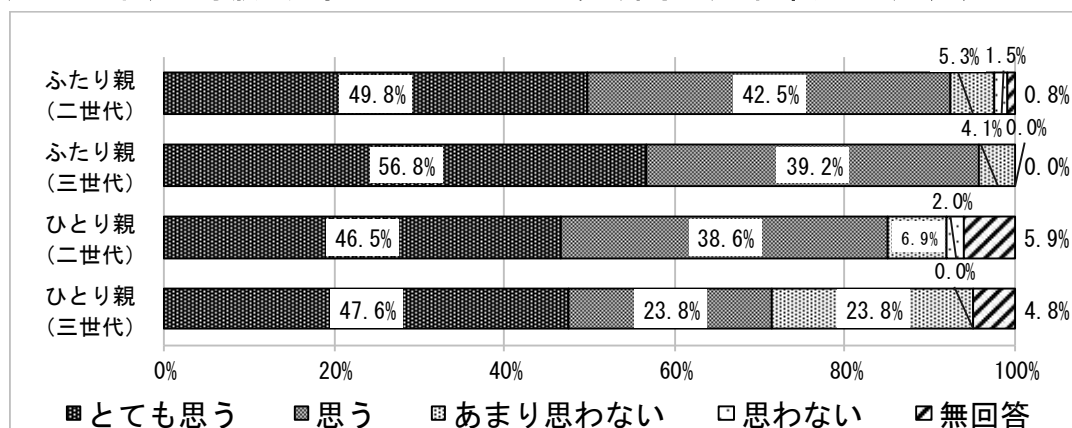
小学生では、「不安に感じることはないと思う」を「とても思う」、「思う」と回答した割合が最も高かったのは、ひとり親 (三世帯) 世帯の子ども (72.0%) である

中学生では、「自分は家族に大事にされていると思う」を「とても思う」、「思う」と回答した割合が高かったのはふたり親 (二世帯、三世帯) 世帯の子どもで9割を超え、「自分は友だちに好かれていると思う」を「とても思う」、「思う」と回答した割合が高かったも同様にふたり親 (二世帯、三世帯) 世帯の子どもで8割を超えている。「孤独を感じることはないと思う」を「とても思う」、「思う」と回答した割合が高かったのはふたり親 (三世帯) 世帯、ひとり親 (三世帯) 世帯の子どもで7割を超える。

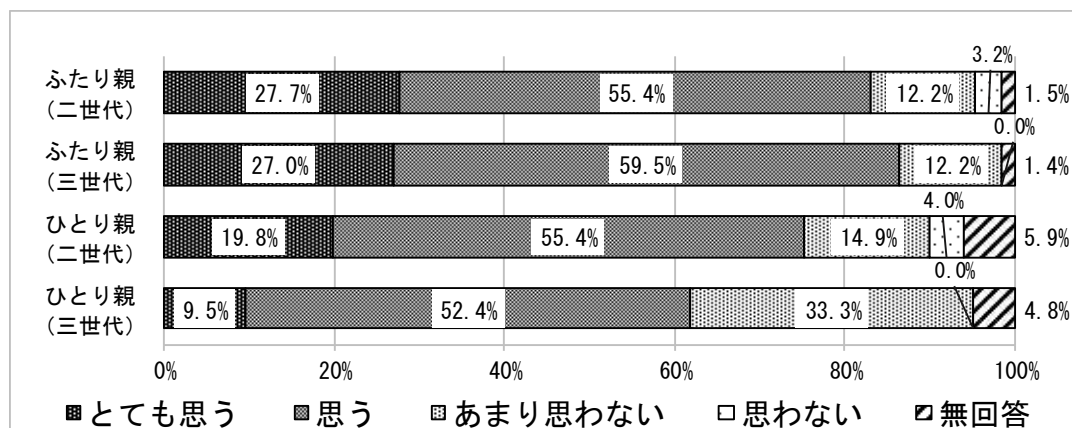
図表 5-2-5 不安に感じることはないと思う (小学生) : 世帯タイプ別 (\*\*\*)



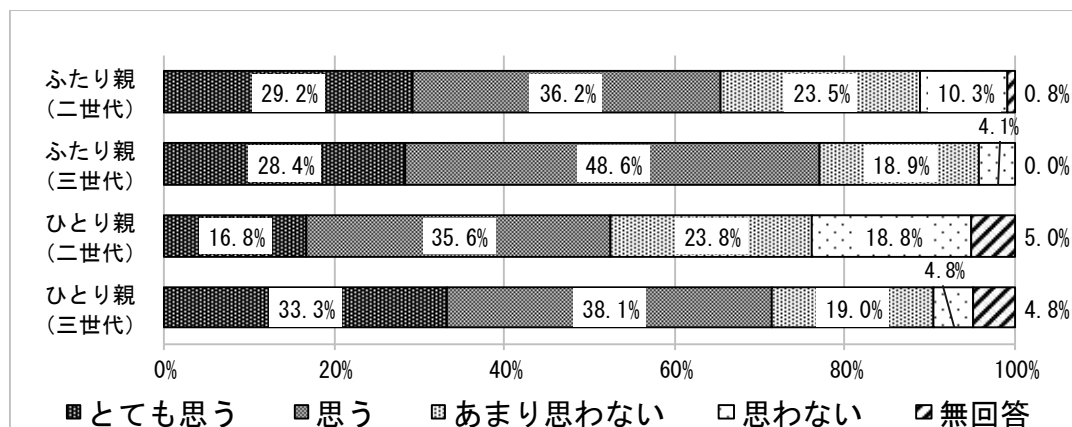
図表 5-2-6 自分は家族に大事にされていると思う (中学生) : 世帯タイプ別 (\*\*)



図表 5-2-7 自分は友だちに好かれていると思う (中学生) : 世帯タイプ別 (\*)

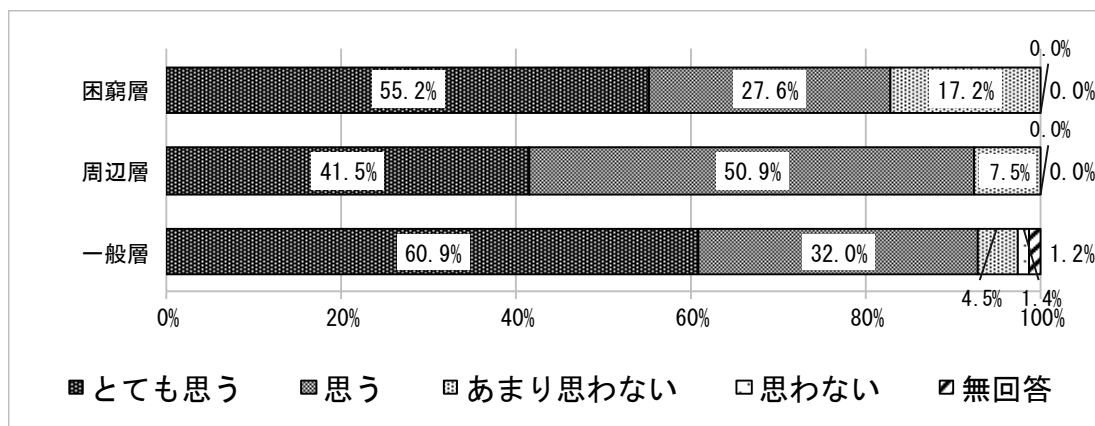


図表 5-2-8 孤独を感じることはないと思う (中学生) : 世帯タイプ別 (\*\*)

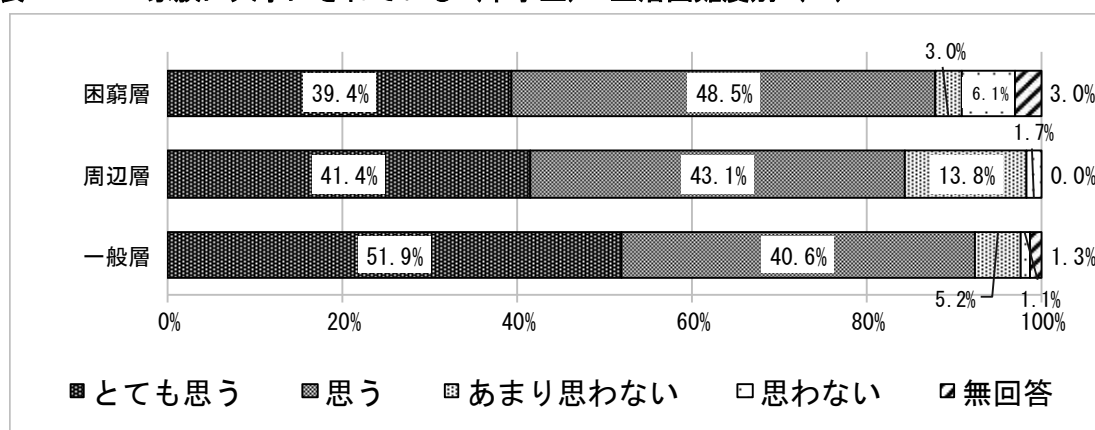


生活困難度別で、全ての年齢層で統計的に有意な差が見られた項目は「家族に大事にされている」である。一般層と比べて困窮層、周辺層で「あまり思わない」、「思わない」と回答した割合が高く、大事にされていないと感じている子どもは困窮層、周辺層に多い。

図表 5-2-9 家族に大事にされている（小学生）：生活困難度別（\*\*\*）



図表 5-2-10 家族に大事にされている（中学生）：生活困難度別（\*\*）



生活困難度別に自己肯定感を見ると、統計的に有意な差が見られる項目は、小学生では2項目（「不安を感じることはない」、「自分の将来が楽しみだ」）、中学生では2項目（「自分は価値のある人間だと思う」、「自分は友だちに好かれていると思う」）である。

## (2) 抑うつ傾向

本調査では、小学生、中学生の抑うつ傾向を表す指標としてDSRS-Cパールソン児童用抑うつ性尺度を採用した。

DSRS-Cパールソン児童用抑うつ性尺度は最近1週間の心の状態(18項目)について、子ども自身が3段階評価を行うものである。各項目は選択肢に応じてそれぞれ0~2点で指標化され、その合計が16点以上であった場合、抑うつ傾向があると判断される。全ての項目を回答しているもののみを分析対象とし、それ以外は全て「無回答」とし、後の分析から省かれている。

分析の結果、小学生の11.2%、中学生の20.1%にてDSRS-Cパールソン児童用抑うつ性尺度にて判断される抑うつ傾向が見られた。

図表 5-2-11 小学生、中学生の抑うつ傾向 (DSRS-Cパールソン児童用抑うつ性尺度)

抑うつ傾向	小学生		中学生	
	人数	割合	人数	割合
なし	872	81.1%	707	75.1%
あり	120	11.2%	189	20.1%
無回答	83	7.7%	46	4.9%

### ① 小学生、中学生の抑うつ傾向

世帯タイプ別、生活困難度別、仲の良い友だちの有無別、ほっとできる居場所の有無別で小学生と中学生のどちらにも抑うつ傾向は統計的に有意な差が見られた。

世帯タイプ別に見ると、小学生では「ふたり親(三世帯)世帯」が16.3%、中学生では「ひとり親(二世帯)世帯」が32.7%で最も高い。

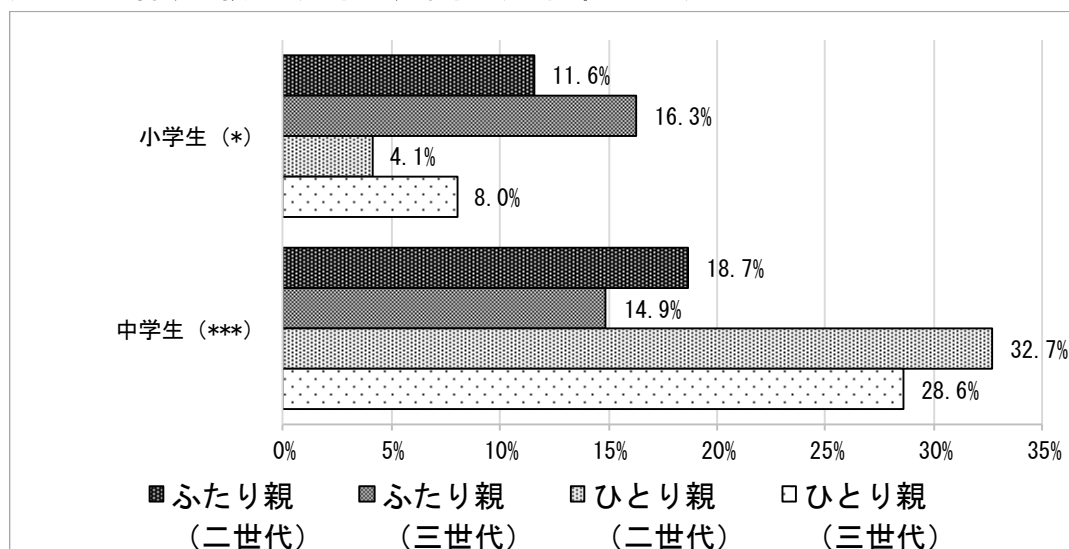
生活困難度別に見ると、生活困難度が上がるにつれて抑うつ傾向の割合が高くなる。

仲の良い友だちの有無別に見ると、仲の良い友だちが「いる」人に比べて「特にない」人の方が抑うつ傾向の割合が高い。

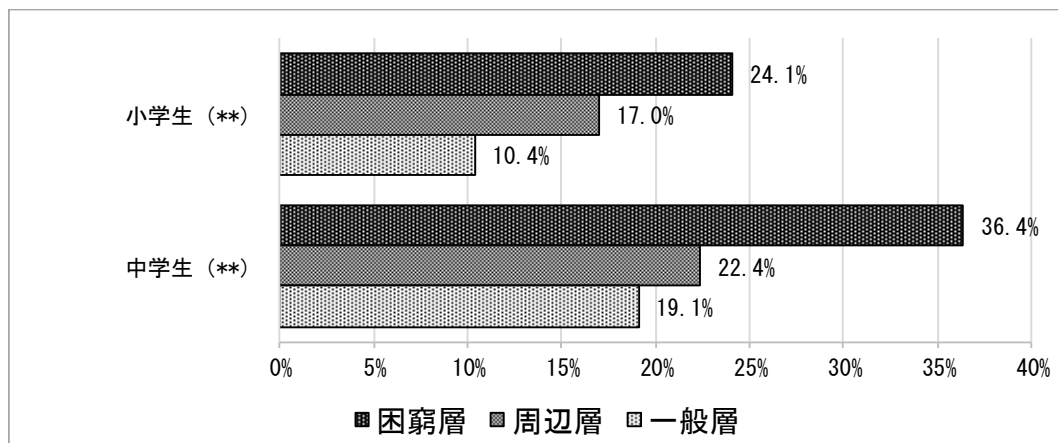
ほっとできる居場所の有無別に見ると、ほっとできる居場所が「ある」人に比べて「ない」人の方が抑うつ傾向の割合が高い。

性別に見ると、中学生では「男子」に比べて「女子」の方が抑うつ傾向の割合が高いが、小学生では差はほとんどない。

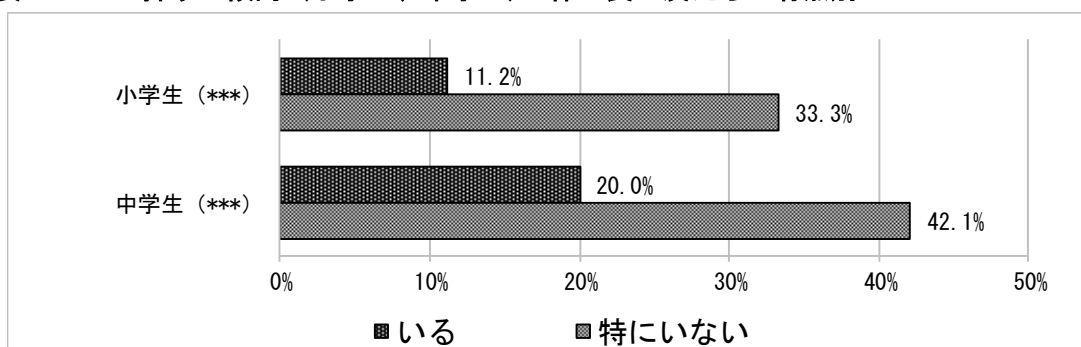
図表 5-2-12 抑うつ傾向 (小学生、中学生): 世帯タイプ別



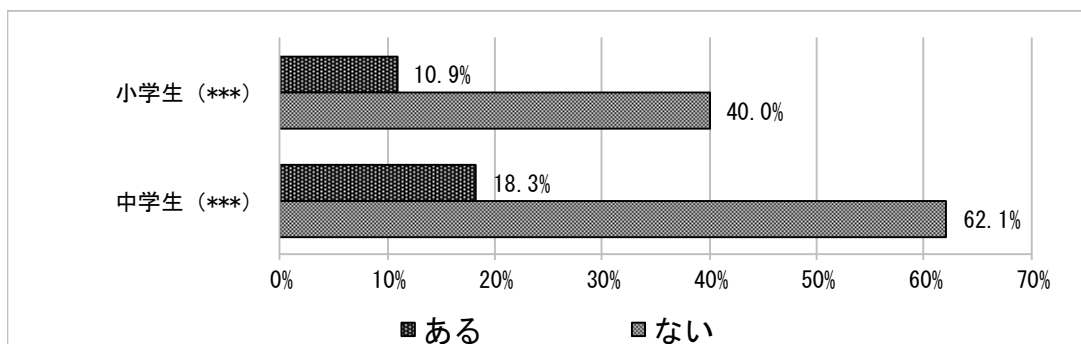
図表 5-2-13 抑うつ傾向（小学生、中学生）：生活困難度別



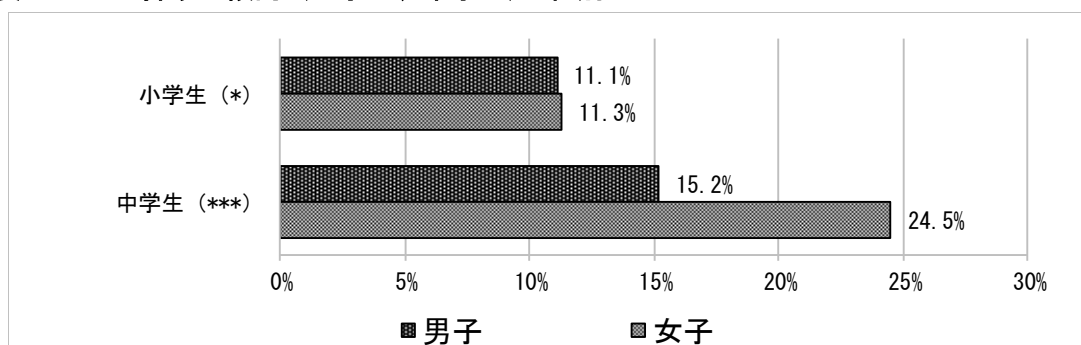
図表 5-2-14 抑うつ傾向（小学生、中学生）：仲の良い友だちの有無別



図表 5-2-15 抑うつ傾向（小学生、中学生）：ほっとできる居場所の有無別



図表 5-2-16 抑うつ傾向（小学生、中学生）：性別







## 第6部 保護者の状況



# 1 保護者の就労状況

## (1) 父母の就労状況

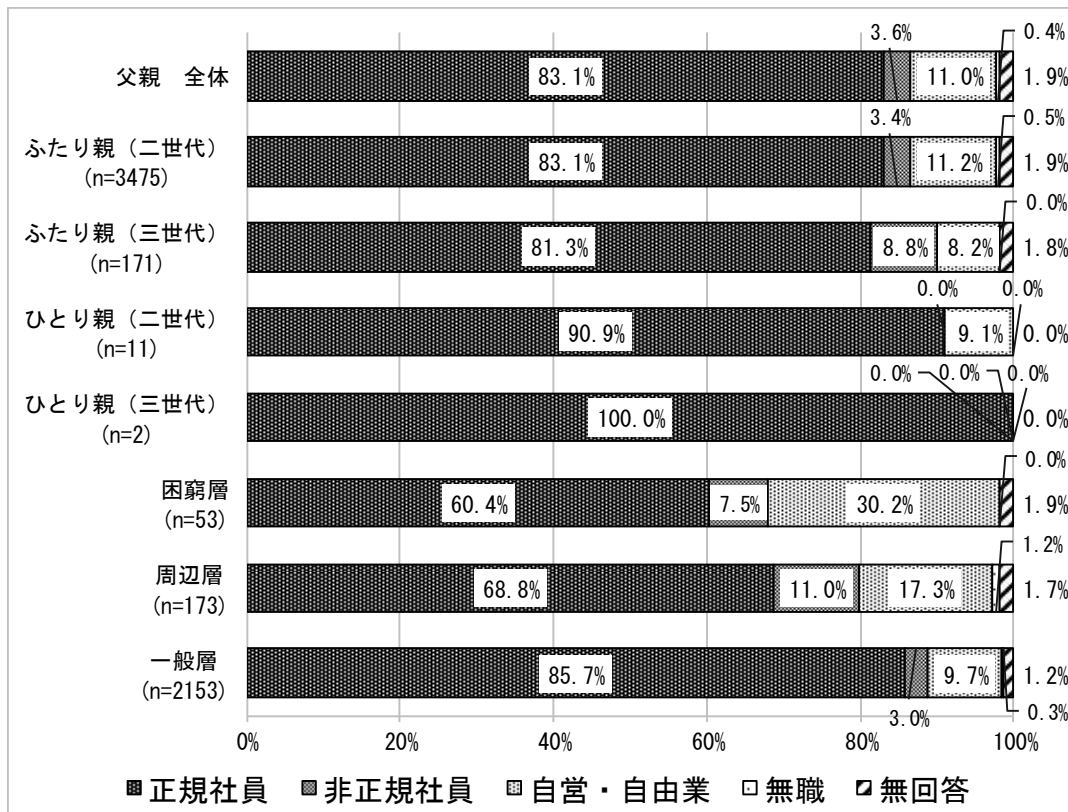
### ①父親

同居の父親の就労状況を聞いたところ、未就学の父親の83.1%は「会社役員」、「民間企業の正社員」、「公務員などの正職員」、「団体職員」（以下、正規社員）であり、次に多いのが「自営業（家族従事者を含む）」、「自由業」、「その他の働き方」（以下、自営・自由業）の11.0%、「契約社員・派遣社員・嘱託職員」、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」（以下、非正規社員）が3.6%であった（「わからない」及び父親がいない場合は集計に含めていない）。世帯タイプ別には、就労状況の分布に違いはなかったものの、生活困難度別には、困窮層が周辺層・一般層と比べて非正規社員、自営・自由業の割合が高い。

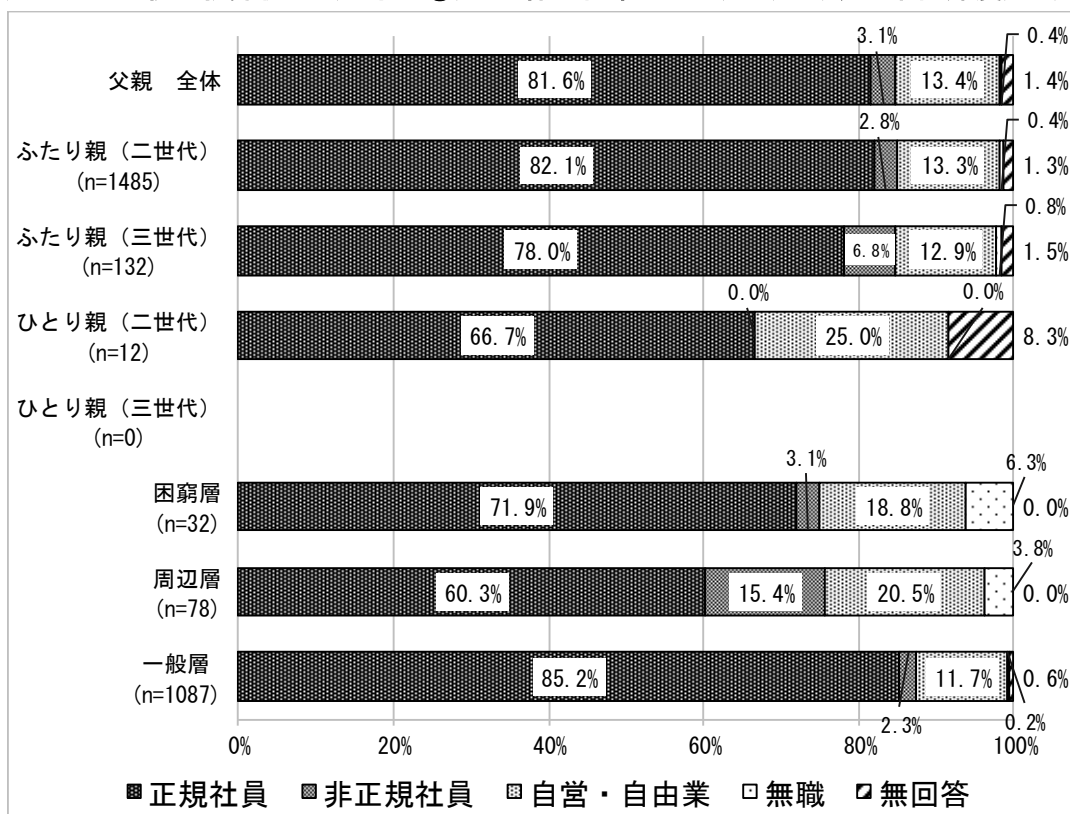
小学生①の父親の就労状況は、全体では未就学の父親とほとんど変わらないものの、困窮層において周辺層より正規社員の割合が高くなっている。困窮層の父親のうち、正規社員は71.9%であり、自営・自由業18.8%、無職が6.3%となっている。この傾向は、小学生②の父親においても見られ、困窮層の父親で正規社員は68.2%、自営・自由業は22.7%、無職は0.0%となっている。また中学生の父親においては、困窮層の父親で正規社員は62.5%、自営・自由業は16.7%、無職は0.0%となっている。

また、小学生②、中学生では、他の年齢層では見られなかった世帯タイプ別の違いが確認され、小学生②ではふたり親（三世代）世帯で自営・自由業の割合が高い。

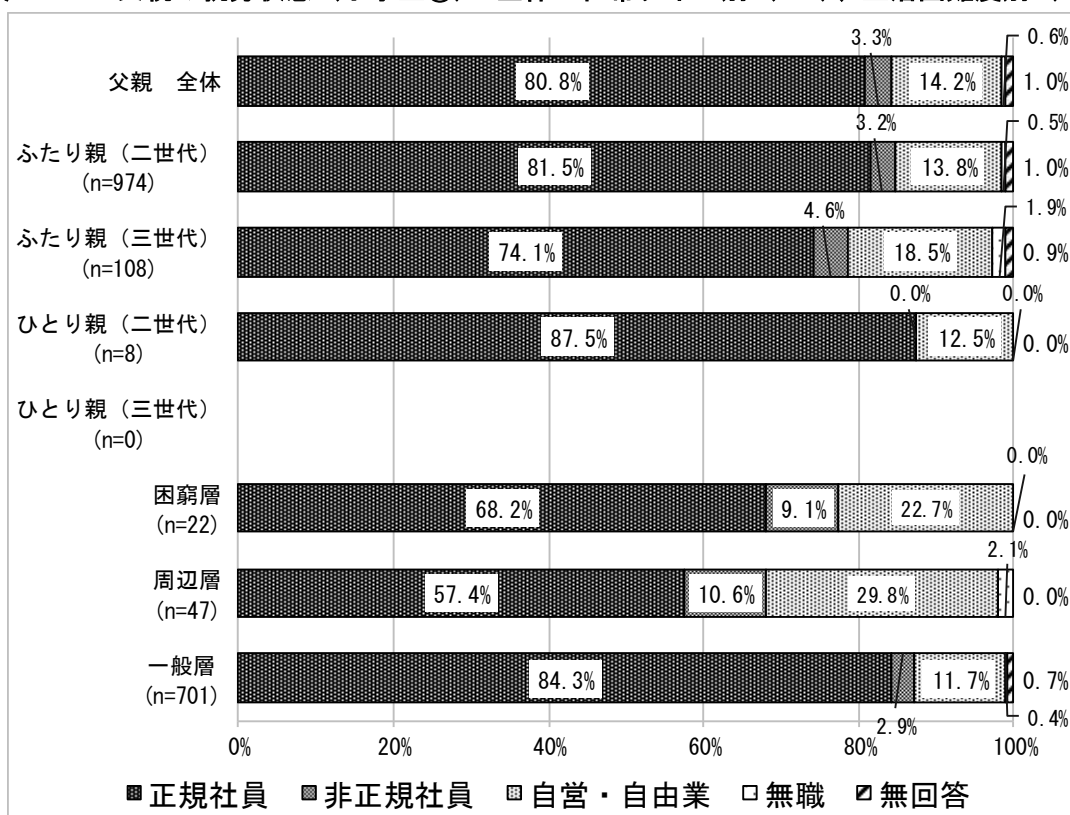
図表 6-1-1 父親の就労状態（未就学児）：全体＋世帯タイプ別（\*\*\*）、生活困難度別（\*\*\*）



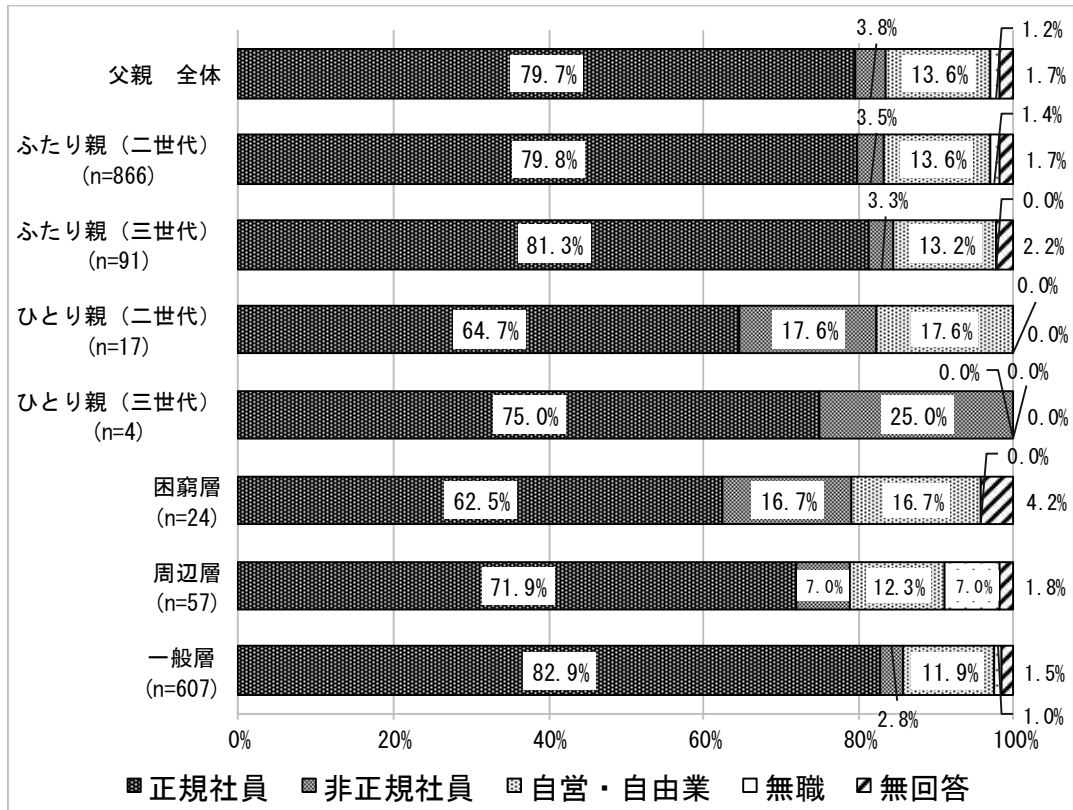
図表 6-1-2 父親の就労状態（小学生①）：全体+世帯タイプ別（\*\*\*）、生活困難度別（\*\*\*）



図表 6-1-3 父親の就労状態（小学生②）：全体+世帯タイプ別（\*\*\*）、生活困難度別（\*\*\*）



図表 6-1-4 父親の就労状態（中学生）：全体+世帯タイプ別（\*\*\*）、生活困難度別（\*\*\*）

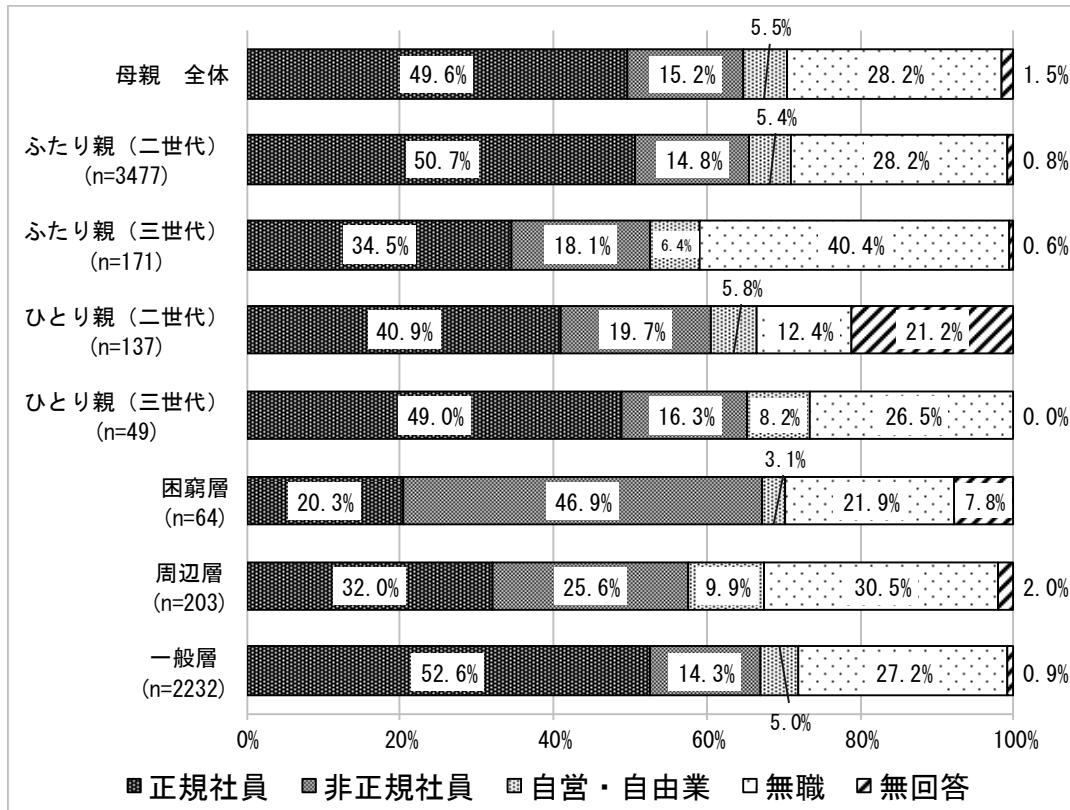


## ① 母親

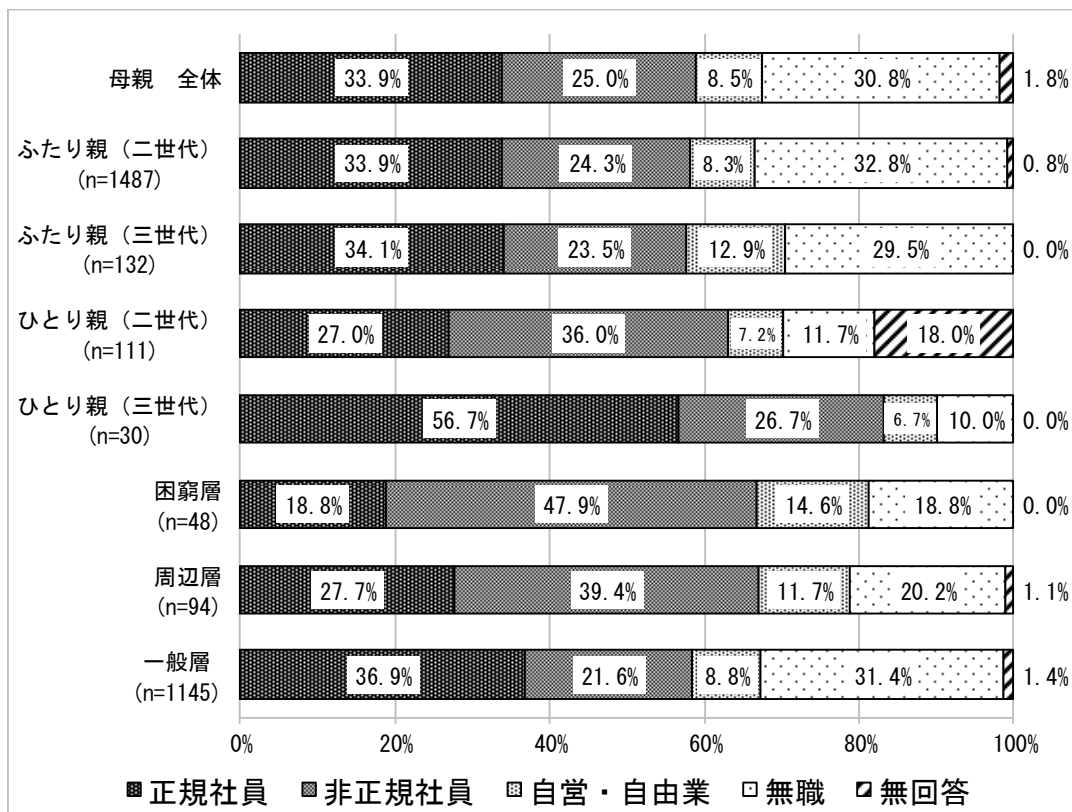
同居の母親の就労状況を聞いたところ、未就学の母親の就労状況で最も高いのが正規社員の49.6%であった。非正規社員は15.2%、自営・自由業は5.5%であり（「わからない」及び母親がいない場合は集計に含めていない）、母親全体の約7割が働いている。世帯タイプ別には、ふたり親世帯（二世帯・三世帯）の母親は無職の割合が高い。生活困難度別には、一般層は、正規社員の割合が52.6%と、困窮層、周辺層より20ポイント以上高く、困窮層・周辺層は非正規社員の割合が高い。

また、年齢層が上がるにつれて正規社員の割合が低くなり、非正規社員の割合が高くなる。正規社員の割合は小学生①では33.9%、小学生②では27.4%、中学生では25.3%に対し、非正規社員は小学生①では25.0%、小学生②では35.9%、中学生では42.8%となる。世帯タイプ別では、全ての年齢層のふたり親世帯で無職の割合が高く、ひとり親（三世帯）世帯で正規社員の割合が最も高い。生活困難度別では、全ての年齢層で未就学同様、一般層の正規社員の割合が困窮層・周辺層よりも高い。また、困窮層では一般層よりも非正規社員の割合が高い。

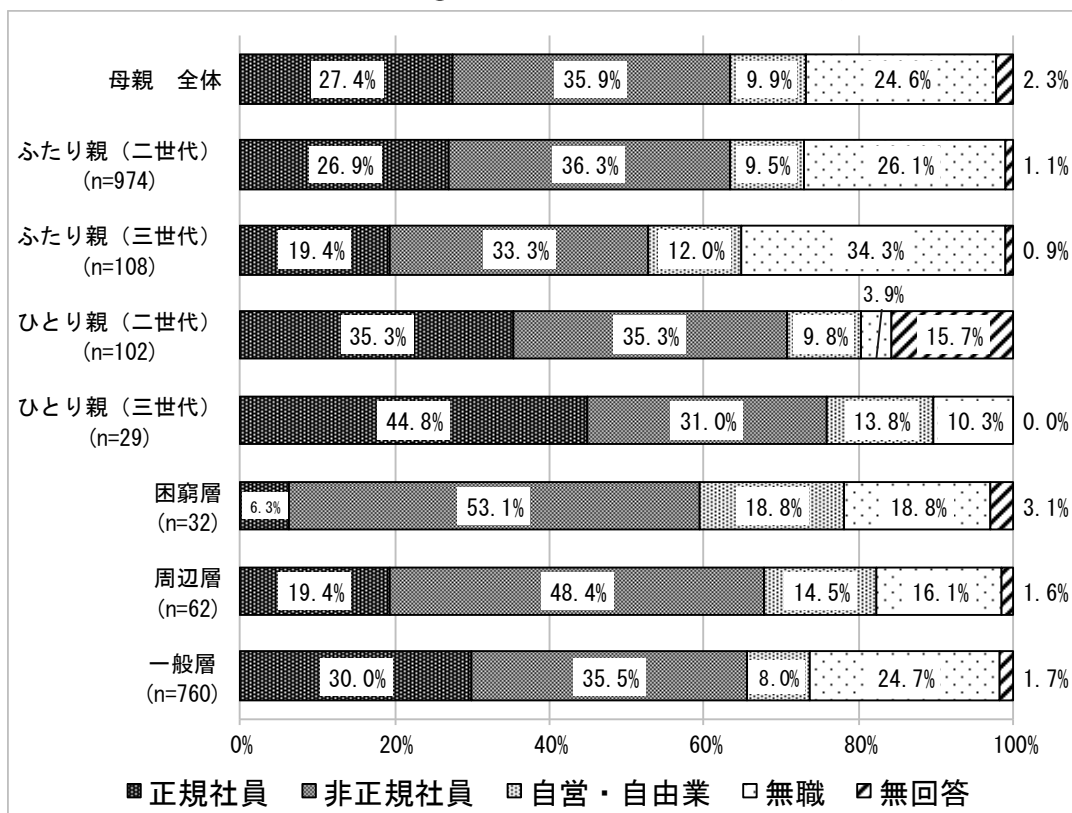
図表 6-1-5 母親の就労状態（未就学児）：全体＋世帯タイプ別（\*\*\*）、生活困難度別（\*\*\*）



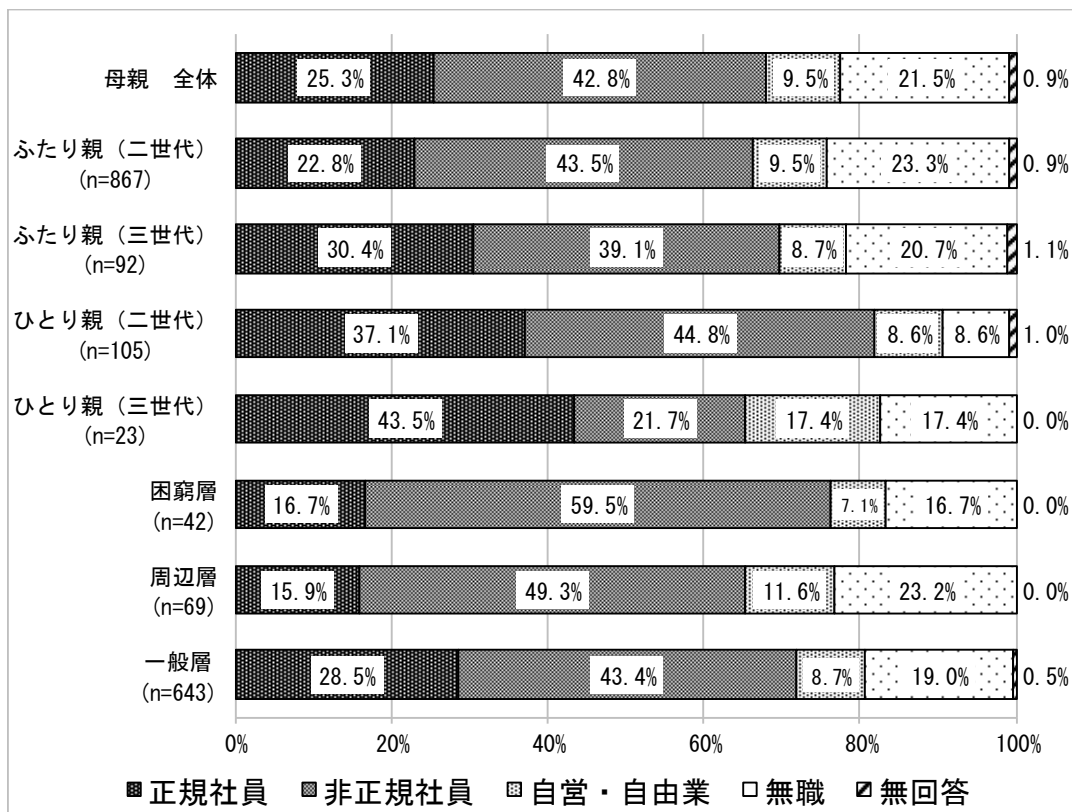
図表 6-1-6 母親の就労状態（小学生①）：全体+世帯タイプ別（\*\*\*）、生活困難度別（\*\*\*）



図表 6-1-7 母親の就労状態（小学生②）：全体+世帯タイプ別（\*\*\*）、生活困難度別（\*\*\*）



図表 6-1-8 母親の就労状態（中学生）：全体＋世帯タイプ別（\*\*\*）、生活困難度別（\*\*\*）



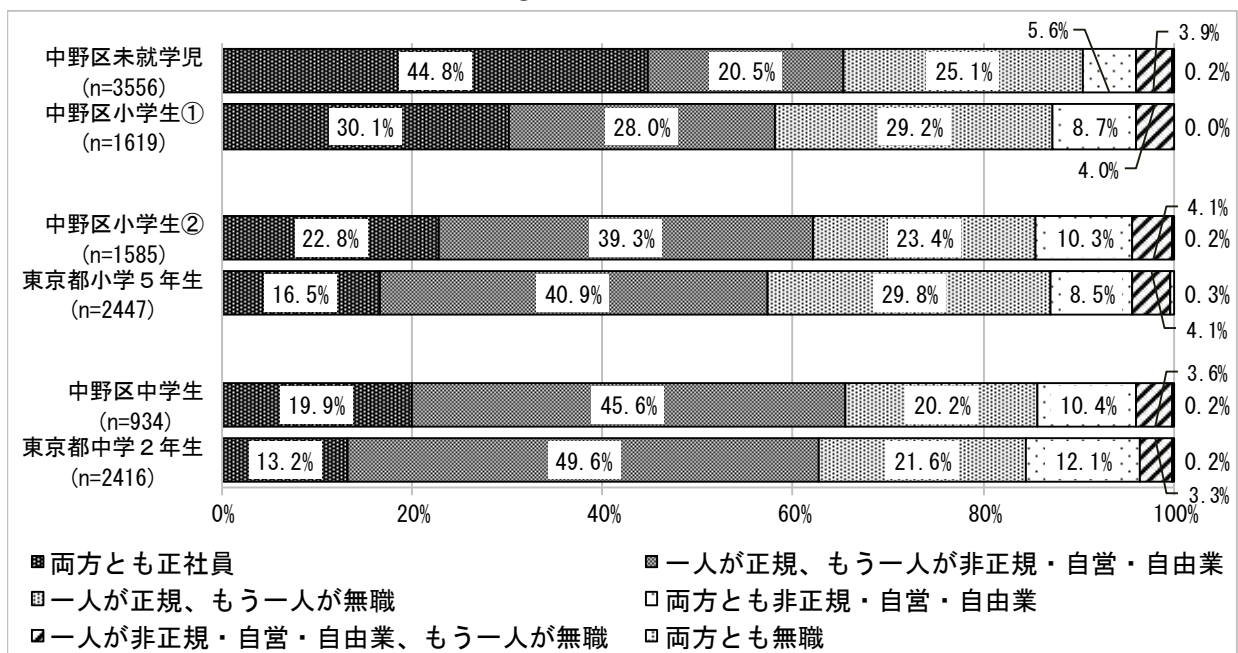


## (2) 共働きの状況

世帯全体の就労状況、共働きの状況は、家計の安定性のみならず、子どもの家庭環境や生活にも大きな影響を与える。そこで、ふたり親世帯にサンプルを限って、母親の就労状況と父親の就労状況から、世帯全体での就労状況を見た。その結果、年齢層が上がるにつれて最も割合が増加するのは「一人が正規、もう一人が非正規・自営・自由業」であり、未就学児では20.5%、小学生①では28.0%、小学生②では39.3%、中学生では45.6%であった。ふたり親世帯の未就学児で最も高いのは両親ともフルタイムで働いていると考えられる「両方とも正規」で、年齢層が上がるにつれて減少し、それぞれ44.8%、30.1%、22.8%、19.9%である。「一人が正規、もう一人が無職」は、それぞれ25.1%、29.2%、23.4%、20.2%である。「両方とも非正規・自営・自由業」であったのは、それぞれ5.6%、8.7%、10.3%、10.4%であり、1割程度のふたり親世帯の子どもが該当する。「一人が非正規・自営・自由業、もう一人が無職」、「両方とも無職」の合計も約4%の子どもが該当した。

東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共に、中野区に比べて東京都が「一人が正規、もう一人が非正規・自営・自由業」、「一人が正規、もう一人が無職」の割合が高く、東京都に比べて中野区が「両方とも正社員」は高くなっている。

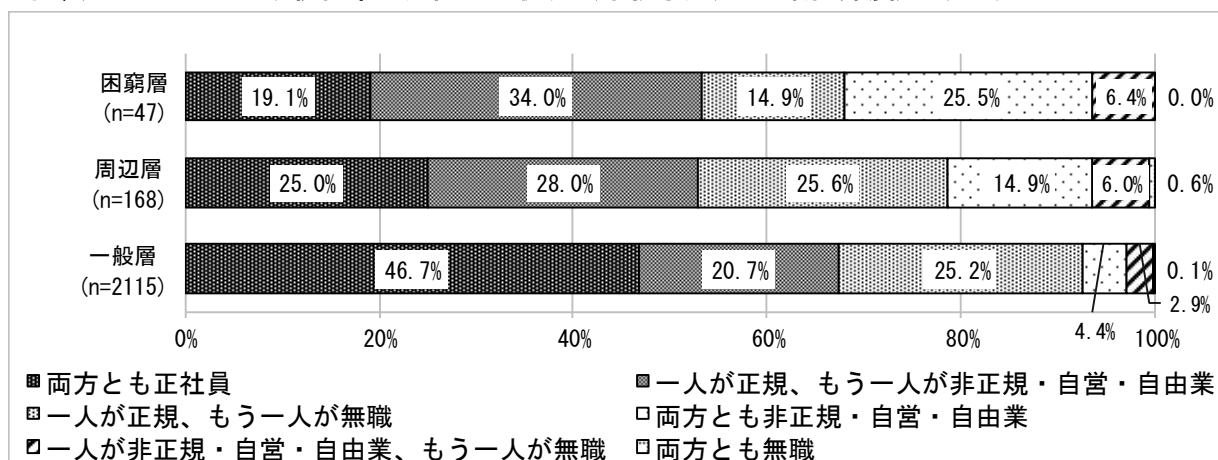
図表 6-1-9 ふたり親世帯の共働きの状況：年齢層別  
(小学生②、中学生は東京都との比較)



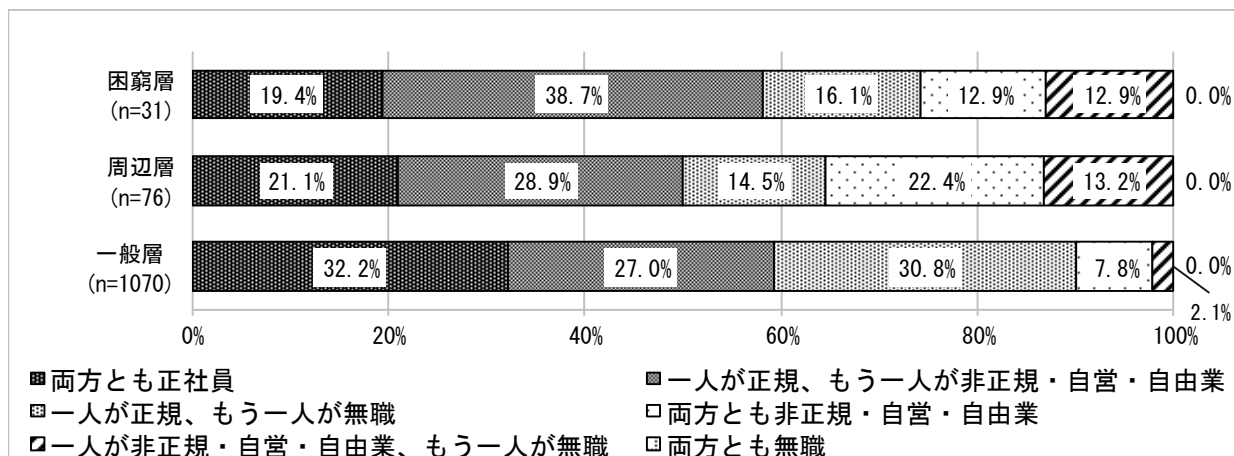
生活困難度別に見ると、生活困難度が高いほど、両親のどちらも正規社員でない世帯（「両方とも非正規・自営・自由業」、「一人が非正規・自営・自由業、もう一人が無職」）の割合が高くなっている。困窮層のふたり親世帯では、全ての年齢層で約2～3割が両親のどちらも正規社員ではない。

東京都との比較を見ると、小学生②の全ての層において、中野区に比べて東京都が「一人が正規、もう一人が無職」、「一人が非正規・自営・自由業、もう一人が無職」の割合が高く、東京都に比べて中野区が「両方とも非正規・自営・自由業」は高い。また中学生の全ての層において、中野区に比べて東京都が「一人が正規、もう一人が無職」、「両方とも非正規・自営・自由業」の割合が高く、東京都に比べて中野区が「両方とも正社員」は高くなっている。

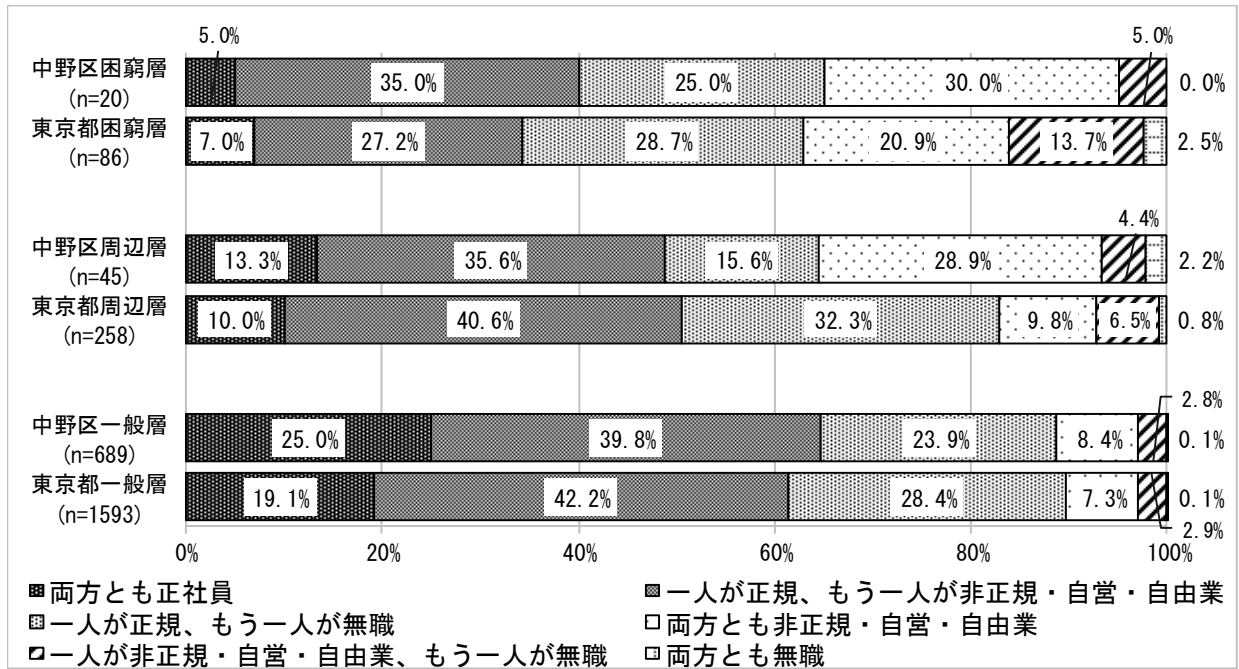
図表 6-1-10 ふたり親世帯の共働きの状況（未就学児）：生活困難度別（\*\*\*）



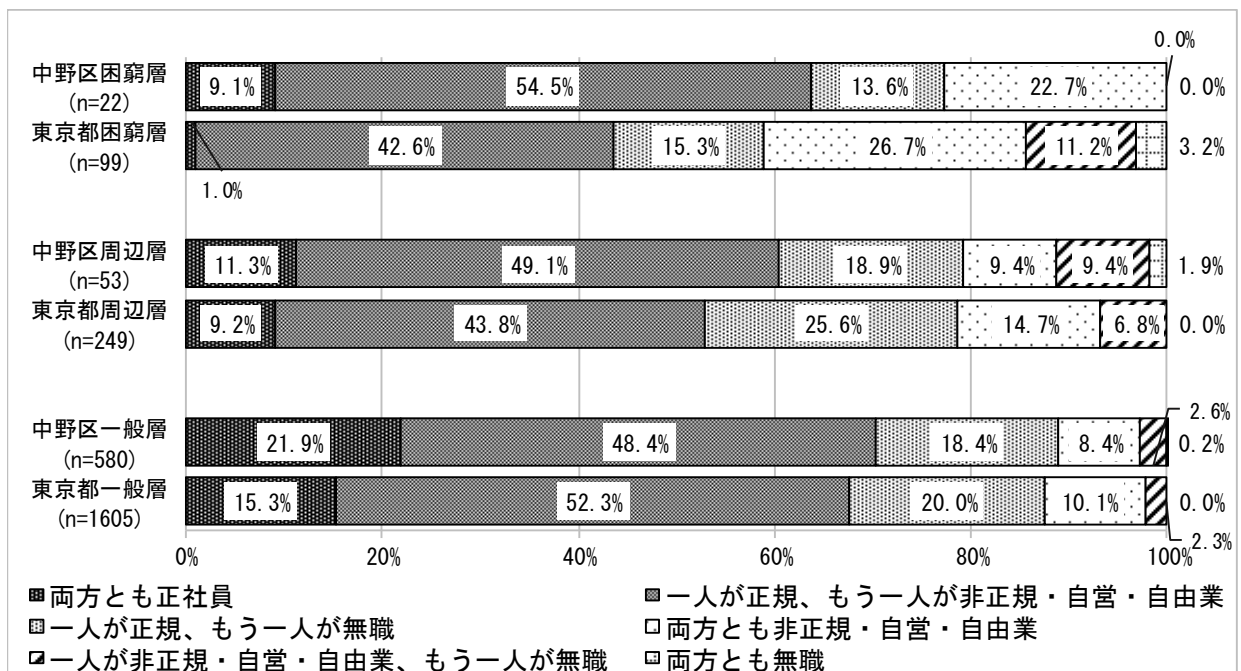
図表 6-1-11 ふたり親世帯の共働きの状況（小学生①）：生活困難度別（\*\*\*）



図表6-1-12 ふたり親世帯の共働きの状況（中野区小学生②、東京都小学5年生）：生活困難度別（\*\*\*）



図表 6-1-13 ふたり親世帯の共働きの状況（中野区中学生、東京都中学2年生）：生活困難度別（\*\*）

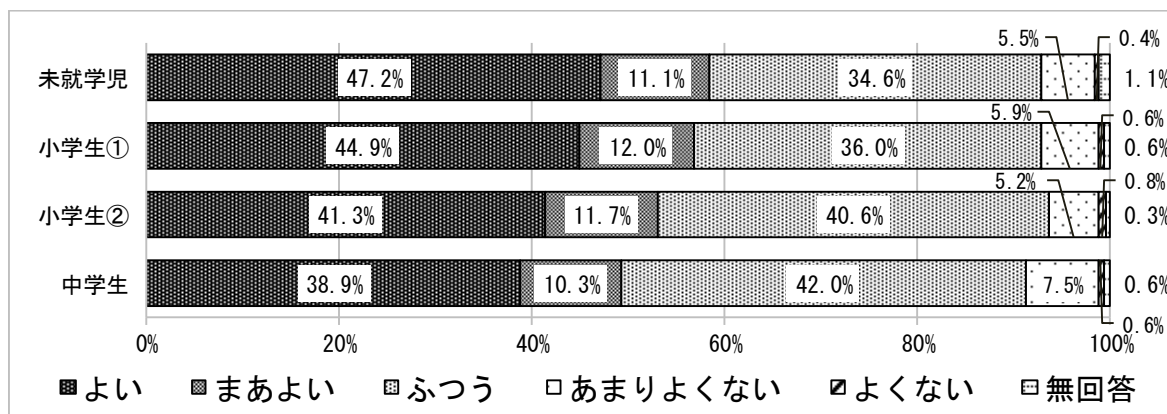


## 2 保護者の健康状態と精神的ストレス

### (1) 保護者の健康状態

保護者（回答者）の健康状態は、「よい」と回答した人が38.9～47.2%となっており、「まあよい」、「ふつう」を合わせると、90%以上の保護者の主観的な健康状態は良好であるものの、「あまりよくない」とする保護者が未就学児では5.5%、小学生①では5.9%、小学生②では5.2%、中学生では7.5%存在した。

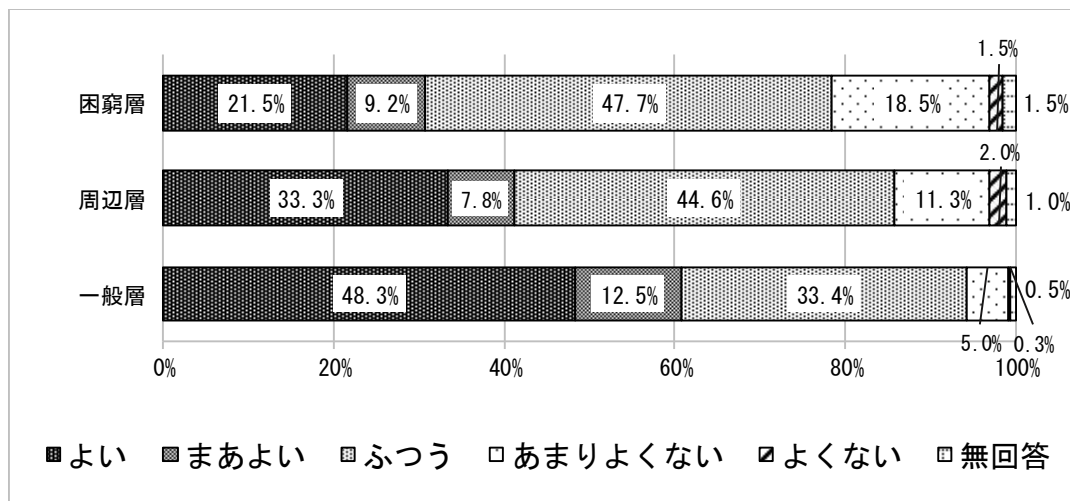
図表 6-2-1 保護者の健康状態：年齢層別



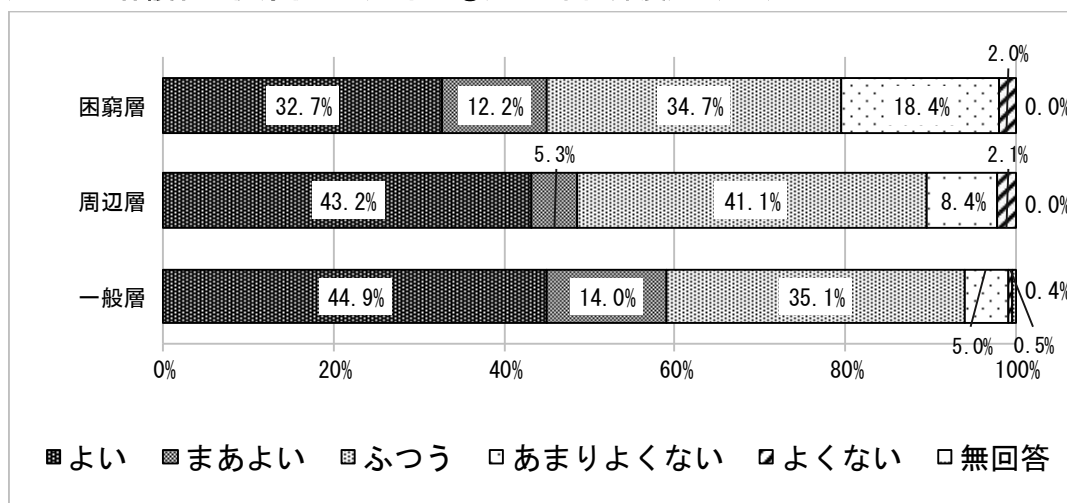
保護者の健康状態を、生活困難度別に見ると、全ての年齢層の保護者で統計的に有意な差が見られた。困窮層で健康状態が「よくない」（「あまりよくない」、「よくない」）と回答した保護者は、未就学児が20.0%、小学生①が20.4%、小学生②が24.2%、中学生が39.5%である（一般層では約5～7%）。また、困窮層では、子どもの年齢が高いほど、保護者の健康状態が「よくない」傾向がある。

東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共に全ての層において中野区に比べて東京都が、自身の健康状態を「よい」と回答した割合が高くなっている。一方で小学生②での全ての層で自身の健康状態を「まあよい」、「ふつう」と回答したのは東京都に比べて中野区の割合が高くなっている。また中学生での全ての層で「あまりよくない」と回答したのは東京都に比べて中野区の割合が高く、生活困難度が上がるにつれて差は広がっている。

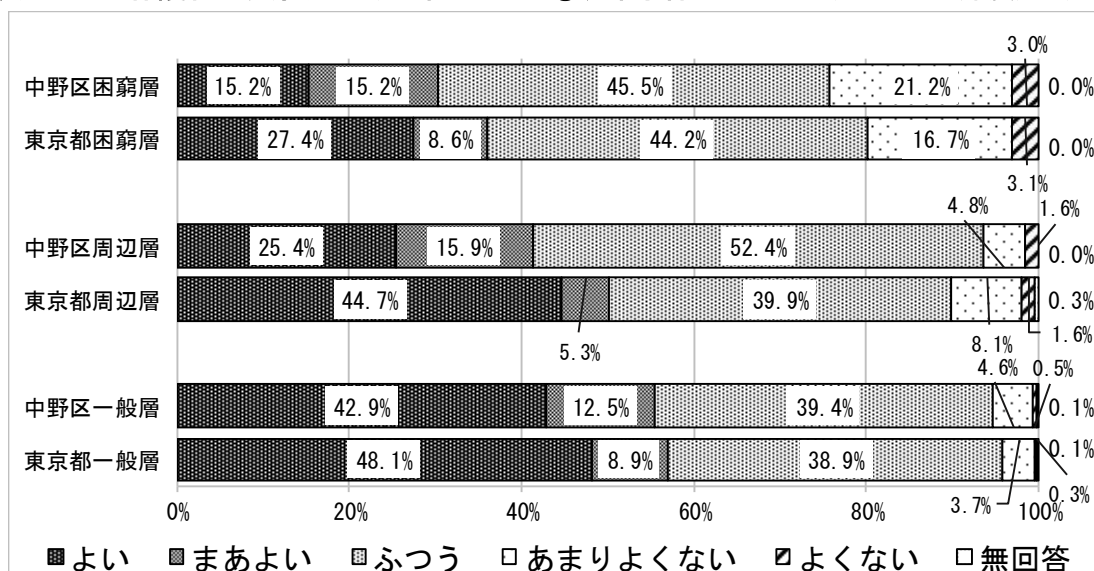
図表 6-2-2 保護者の健康状態（未就学児）：生活困難度別 (\*\*\*)



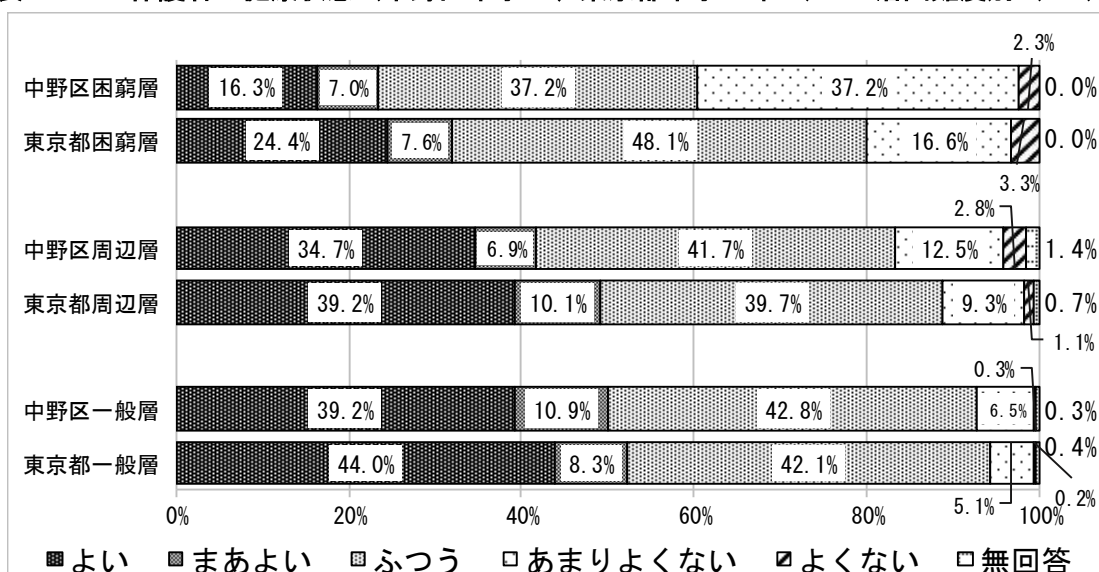
図表 6-2-3 保護者の健康状態（小学生①）：生活困難度別（\*\*\*）



図表 6-2-4 保護者の健康状態（中野区小学生②、東京都小学5年生）：生活困難度別（\*\*\*）



図表 6-2-5 保護者の健康状態（中野区中学生、東京都中学2年生）：生活困難度別（\*\*\*）



## (2) 保護者の抑うつ傾向

一般にうつ傾向を測る指標として普及しているK6指標を用いて、保護者（回答者）の抑うつ傾向を測定した。

K6は、過去30日間の心の状況（6項目）を指数化、点数によってそれぞれ、「心理的ストレス反応相当（5点以上）」、「気分・不安障害相当（9点以上及び10点以上）」、「重症精神障害相当（13点以上）」に分類される。全ての項目を回答しているもののみを分析対象とし、それ以外は全て「無回答」とし、後の分析から省かれている。

なお、基本的に1名の保護者に保護者票を回答してもらっているため、ここでいう「保護者」は母親が多い点は留意されたい（回答者については11頁～14頁参照）。

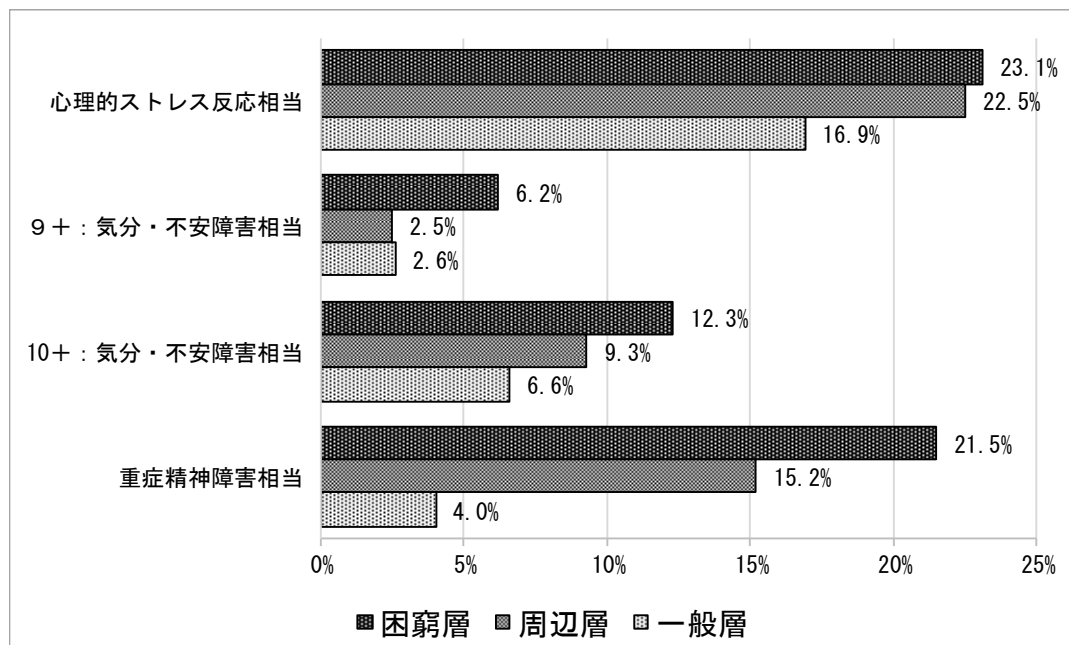
分析の結果、「心理的ストレス反応相当」と判断されるのは、未就学児の保護者では18.3%、小学生①の保護者では18.2%、小学生②の保護者では17.7%、中学生の保護者では15.5%であった。社会生活に困難をきたすとされている「重症精神障害相当」と判断されるのは、それぞれ5.0%、4.3%、4.8%、5.1%である。

図表 6-2-6 保護者の抑うつ傾向（K6）

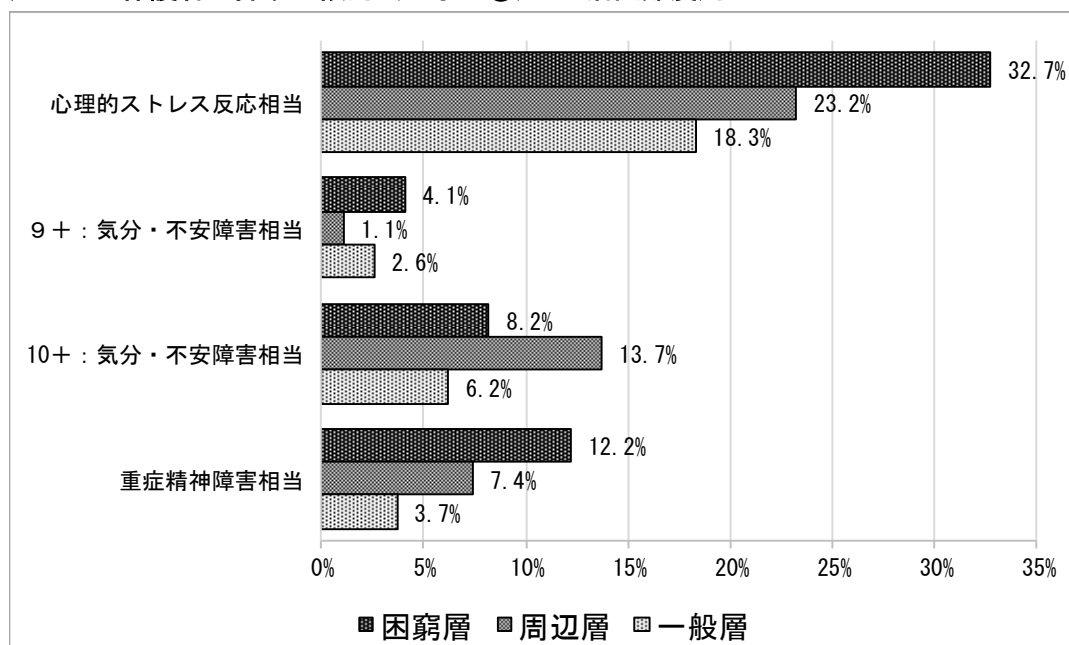
抑うつ傾向（あり）	未就学		小学生①		小学生②		中学生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
心理的ストレス反応相当	706	18.3%	325	18.2%	218	17.7%	173	15.5%
9+：気分・不安障害相当	102	2.6%	44	2.5%	27	2.2%	26	2.3%
10+：気分・不安障害相当	237	6.1%	120	6.7%	70	5.7%	69	6.2%
重症精神障害相当	194	5.0%	77	4.3%	59	4.8%	57	5.1%

生活困難度別では、未就学児、小学生①、小学生②、中学生いずれにおいても、困窮層で5割以上の保護者が、何らかの心理的ストレスを抱えており、特に中学生保護者で約8割となっている。また、「重症精神障害相当」の保護者の割合も高く、未就学児では21.5%、小学生①では12.2%、小学生②では21.2%、中学生では25.6%となっており、周辺層と比較してもその割合は高い。

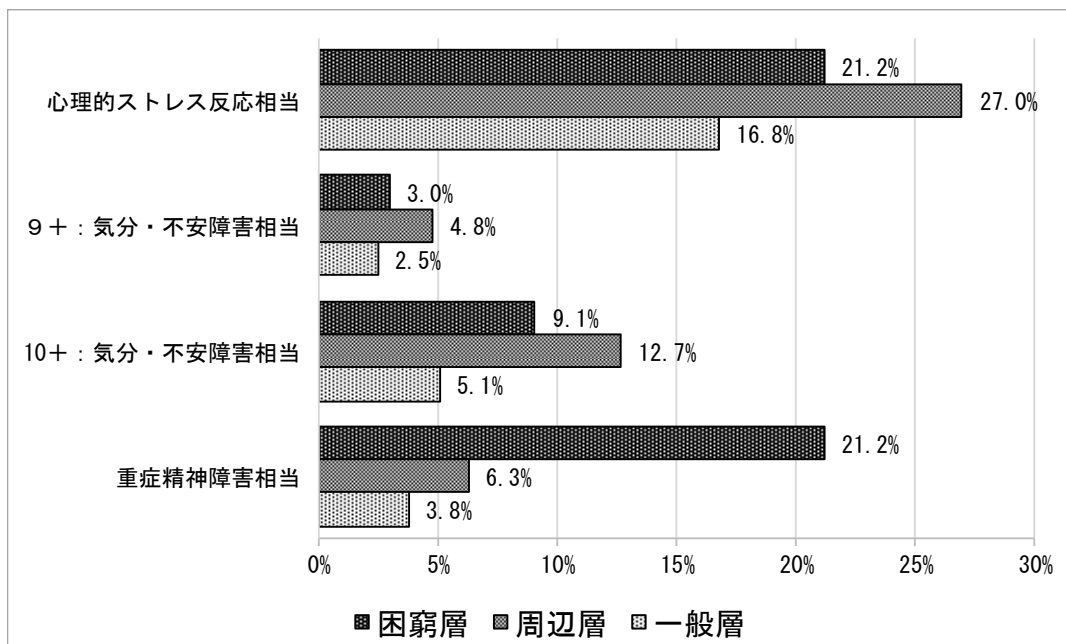
図表 6-2-7 保護者の抑うつ傾向（未就学児）：生活困難度別



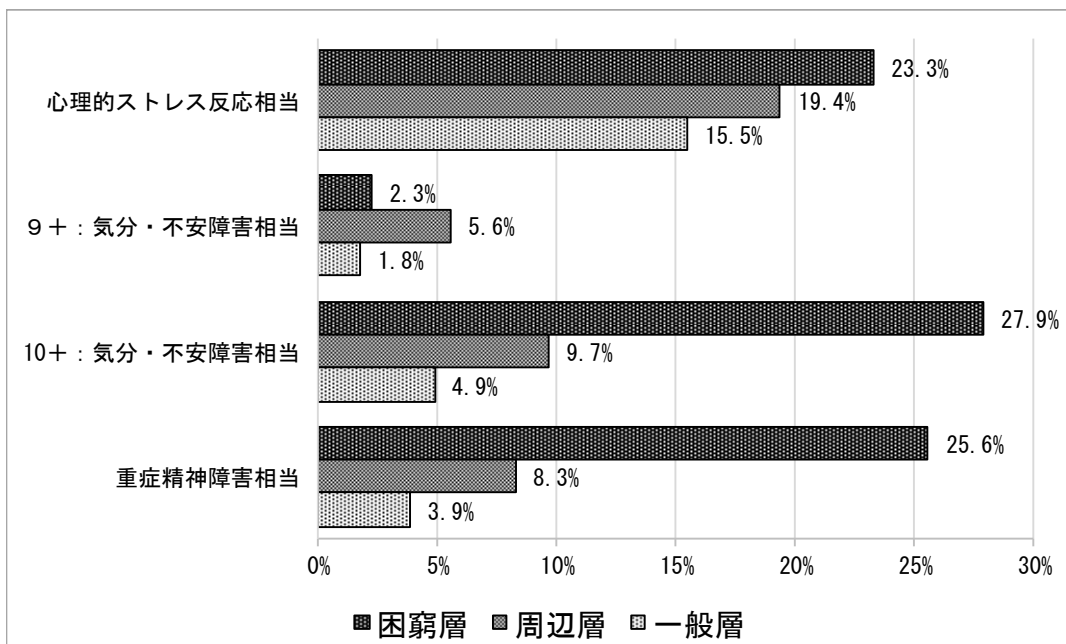
図表 6-2-8 保護者の抑うつ傾向（小学生①）：生活困難度別



図表 6-2-9 保護者の抑うつ傾向（小学生②）：生活困難度別



図表 6-2-10 保護者の抑うつ傾向（中学生）：生活困難度別





### 3 親子の時間

#### (1) 親子での過ごし方

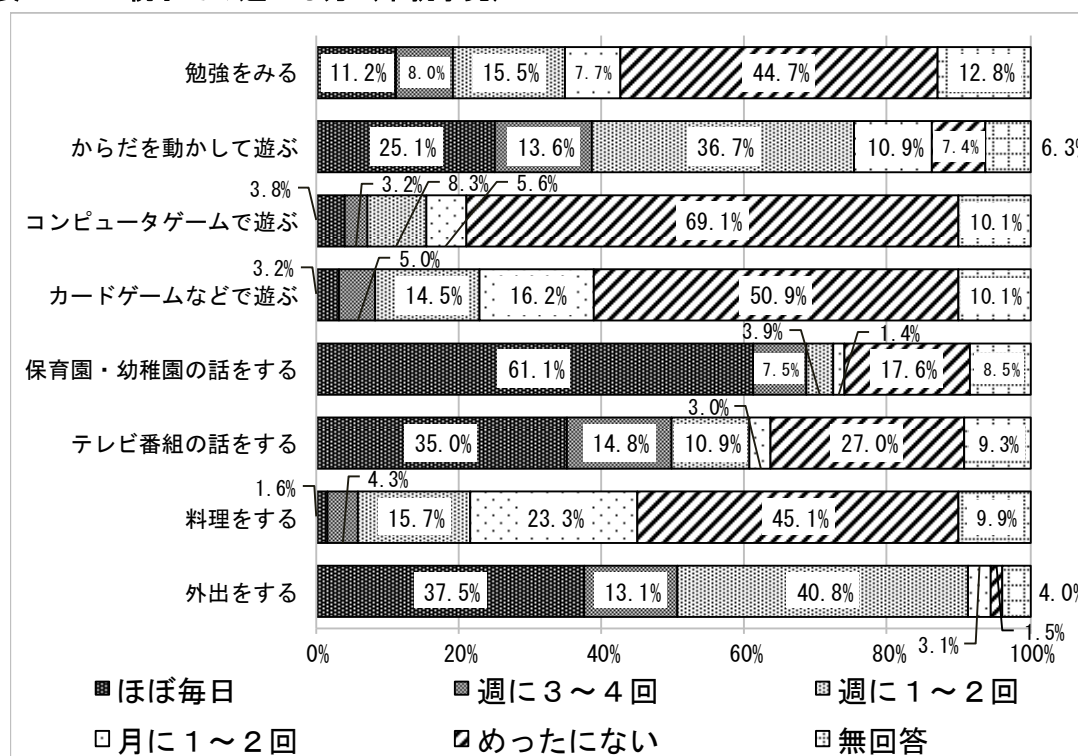
親子の過ごし方を調べるにあたり、本調査では保護者に「勉強をみる」、「〇〇をして遊ぶ」、「〇〇の話をする」、「料理をする」、「外出する」の8項目について、親子でどのくらいの頻度で行っているかを聞いた。

「子どもの勉強」を「ほぼ毎日」みる小学生①の保護者は60.8%で、「めったにない」は2.6%であった。小学生②になると「ほぼ毎日」みるは34.5%、「めったにない」は10.0%、中学生では「ほぼ毎日」みるは6.8%、「めったにない」は38.2%となり、年齢層が上がるにつれて勉強を子どもに任せる傾向が強くなる。

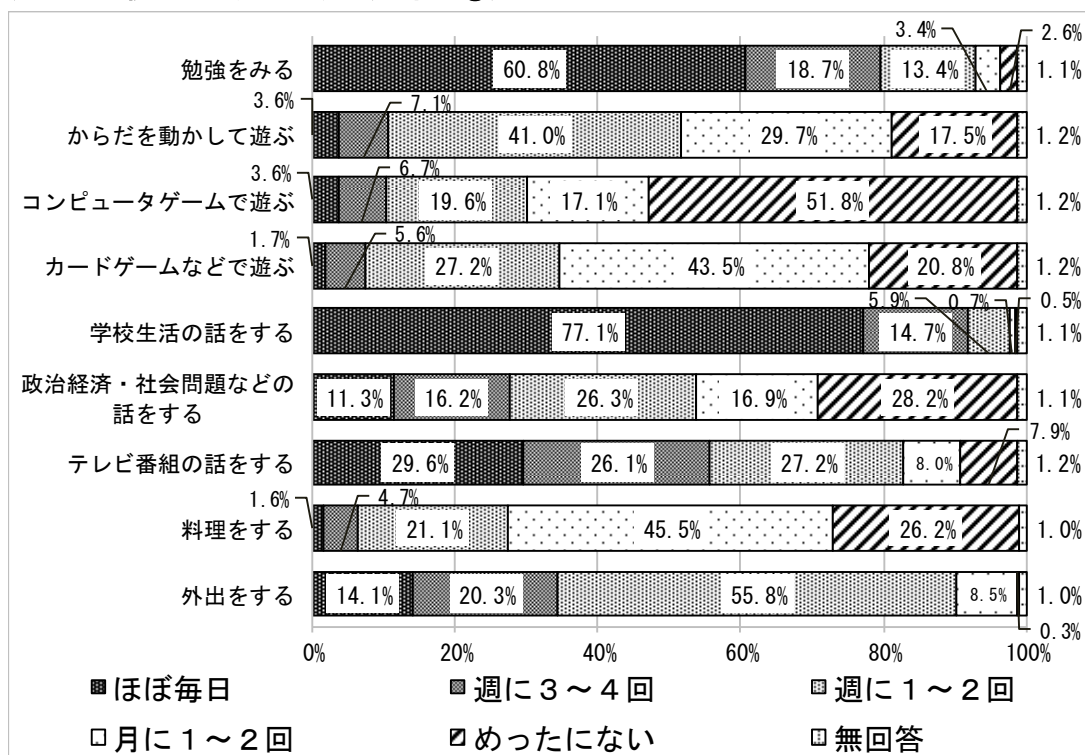
遊びに関する項目では、「からだを動かして遊ぶ」は未就学児の保護者で、週1回以上（「ほぼ毎日」、「週3～4回」、「週1～2回」）が75.4%で他の年齢層に比べて高く、「コンピュータゲームで遊ぶ」、「カードゲームなどで遊ぶ」は小学生①の保護者で、それぞれ29.9%、34.5%と高い。

未就学児、小学生①、小学生②、中学生の保護者全てで、「ほぼ毎日」と回答している割合が最も高い項目は「子どもと学校生活（保育園・幼稚園）の話をする」であり、「学校生活」は親子の会話の主要なトピックである。しかし、小学生①では77.1%、小学生②では67.1%、中学生では58.1%と、小学生①以降年齢が上がるにつれて「ほぼ毎日」と回答する割合が減っている。また、「外出する」についても、年齢層が上がるにつれて頻度が下がる傾向がうかがえる。

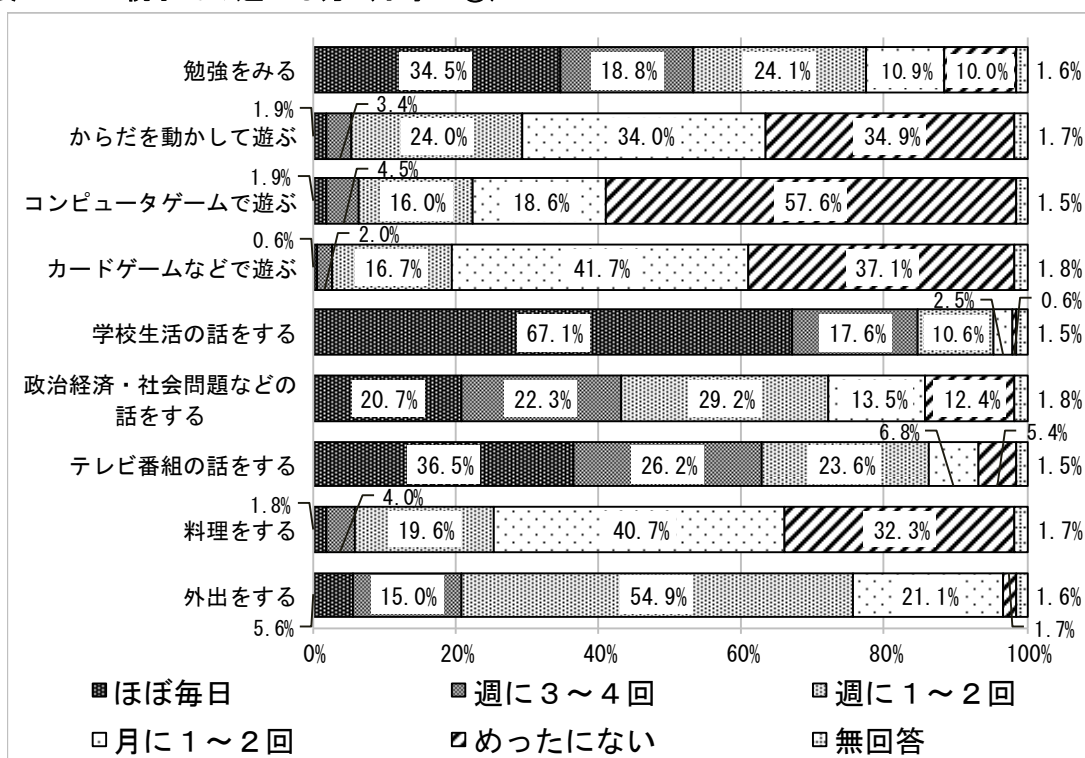
図表 6-3-1 親子での過ごし方（未就学児）



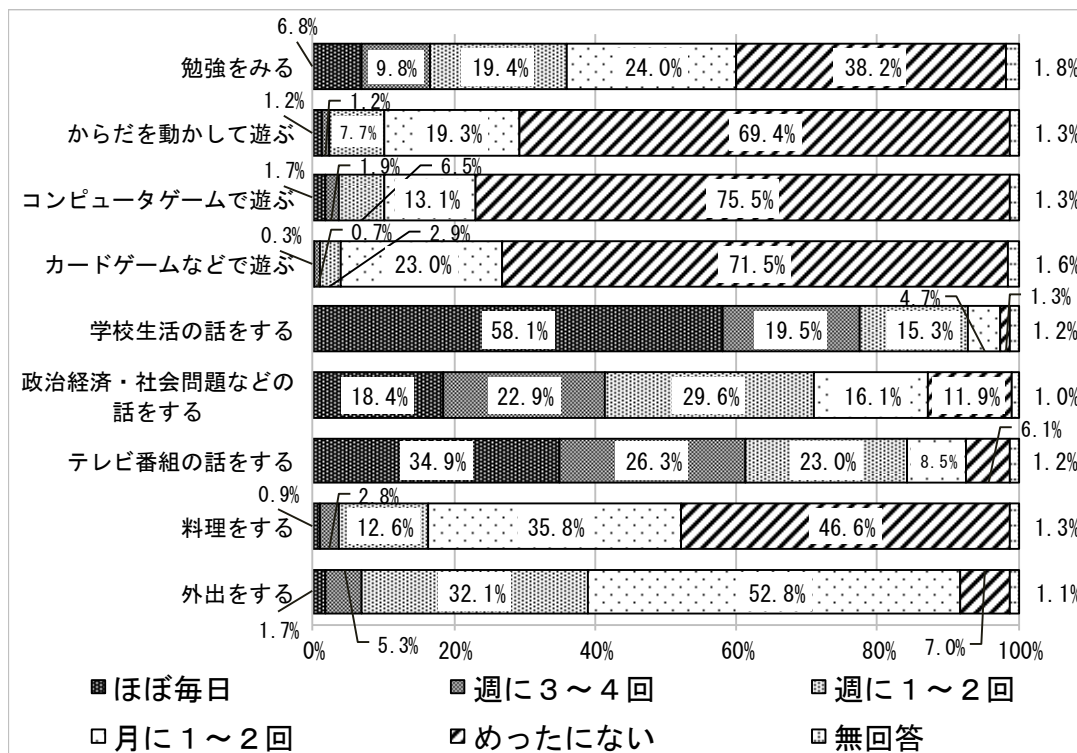
図表 6-3-2 親子での過ごし方（小学生①）



図表 6-3-3 親子での過ごし方（小学生②）

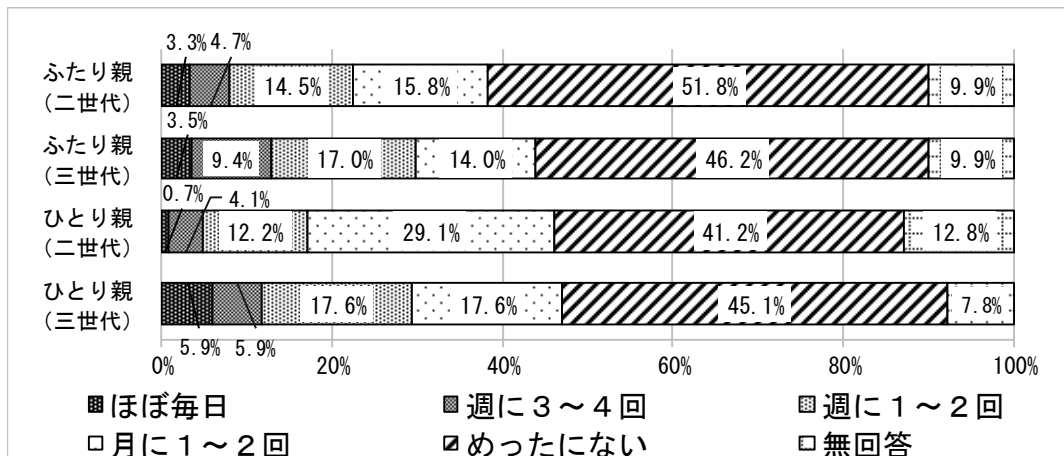


図表 6-3-4 親子での過ごし方（中学生）

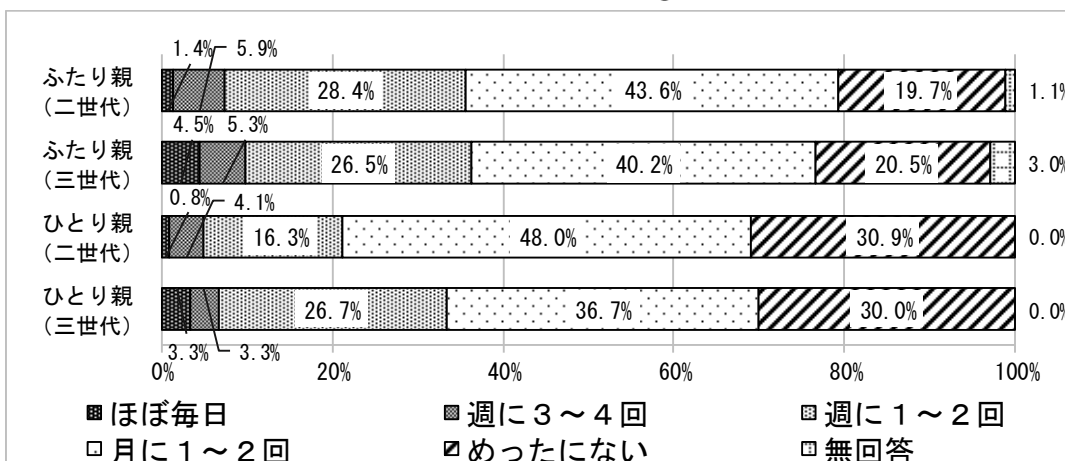


世帯タイプ別に見ると、未就学児、小学生①、小学生②で「子どもとカードゲームなどで遊ぶ」項目に統計的に有意な差が見られた。未就学児、小学生①では週に1回以上遊ぶ割合はひとり親（二世帯）世帯で最も低く、小学生②ではひとり親（三世帯）世帯で最も低い。

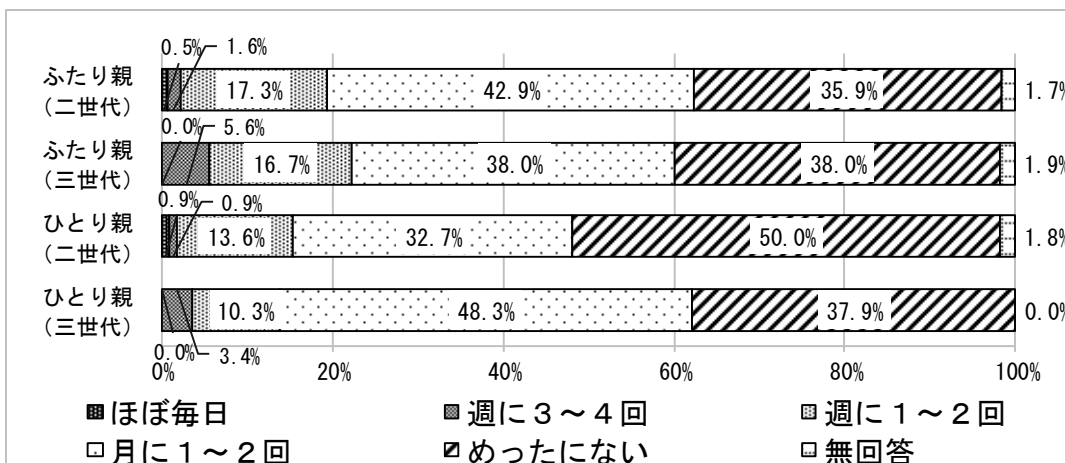
図表 6-3-5 子どもとカードゲームなどで遊ぶ（未就学児）：世帯タイプ別 (\*\*\*)



図表 6-3-6 子どもとカードゲームなどで遊ぶ（小学生①）：世帯タイプ別 (\*\*)

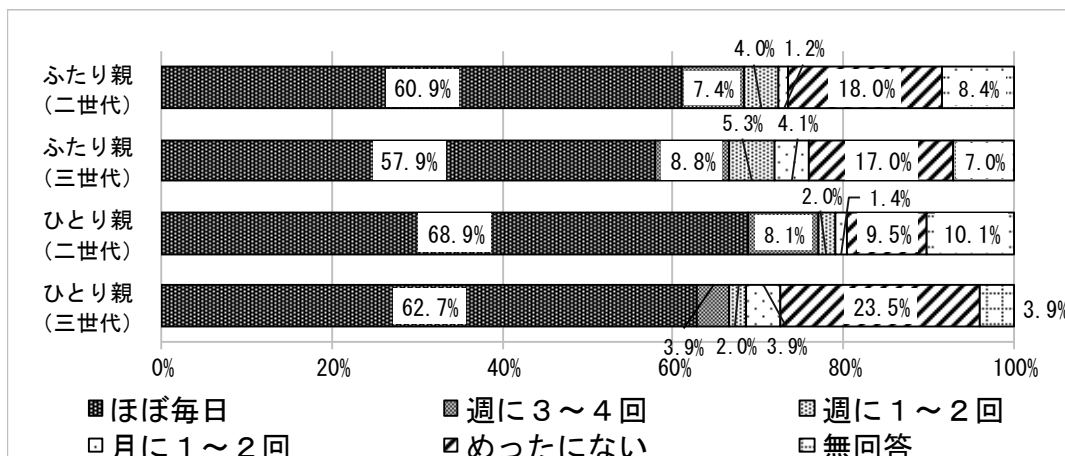


図表 6-3-7 子どもとカードゲームなどで遊ぶ（小学生②）：世帯タイプ別 (\*)

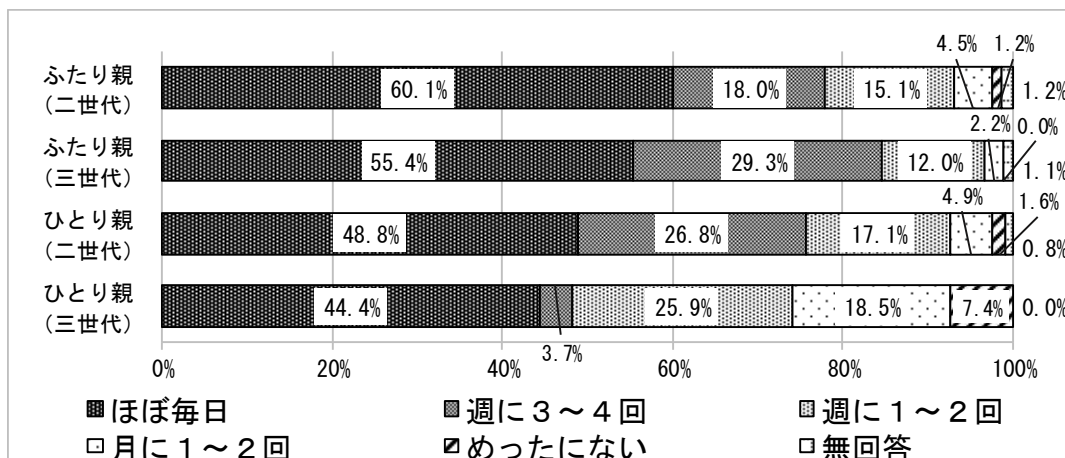


世帯タイプ別に見ると、未就学児、中学生で「子どもと学校（保育園・幼稚園）での話をする」項目に統計的に有意な差が見られた。未就学児では、ふたり親（二世帯）世帯、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯で「ほぼ毎日」話をしていると回答した保護者が6割以上いる。中学生では、ひとり親世帯に比べてふたり親世帯で「ほぼ毎日」話をしていると回答した保護者の割合が高い。

図表 6-3-8 子どもと保育園・幼稚園での話をする（未就学児）：世帯タイプ別(\*\*)

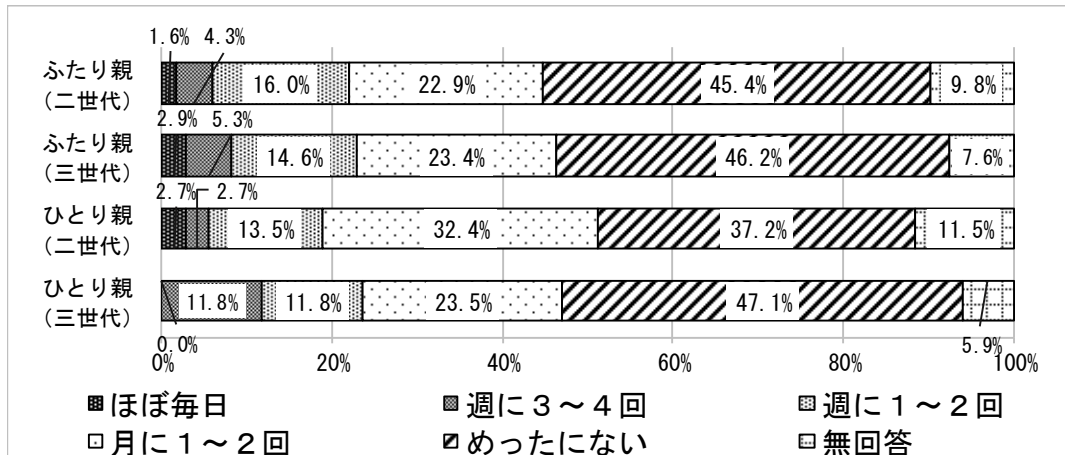


図表 6-3-9 子どもと学校生活の話をする（中学生）：世帯タイプ別(\*\*\*)

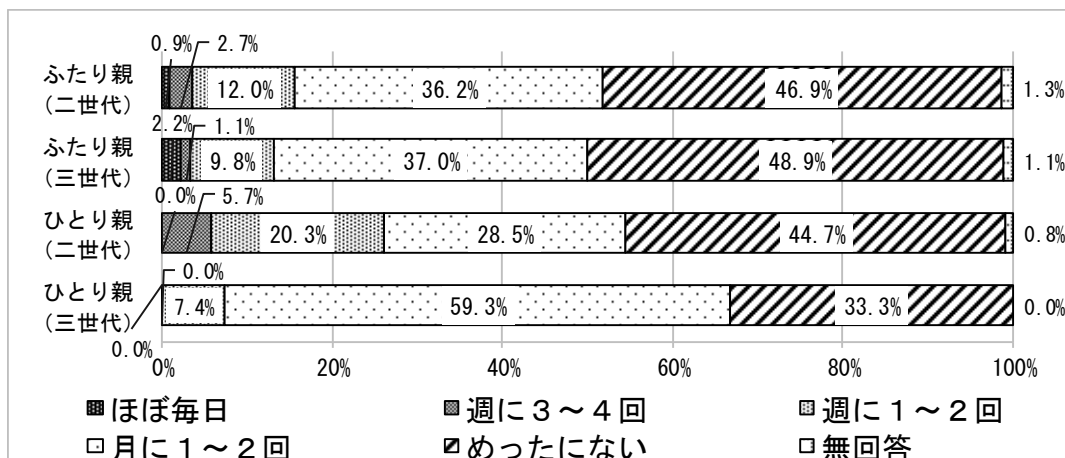


世帯タイプ別に見ると、未就学児、中学生で「子どもと一緒に料理をする」項目に統計的に有意な差が見られた。未就学児では、全ての世帯タイプで週に1回以上子どもと一緒に料理をする回答した保護者が2割前後となっている。中学生では、週に1回以上子どもと一緒に料理をする回答した保護者はひとり親（三世代）世帯で7.4%と他の世帯タイプに比べて低いが、月1回以上となると66.7%で他の世帯タイプに比べて高い。

図表 6-3-10 子どもと一緒に料理をする（未就学児）：世帯タイプ別(\*)



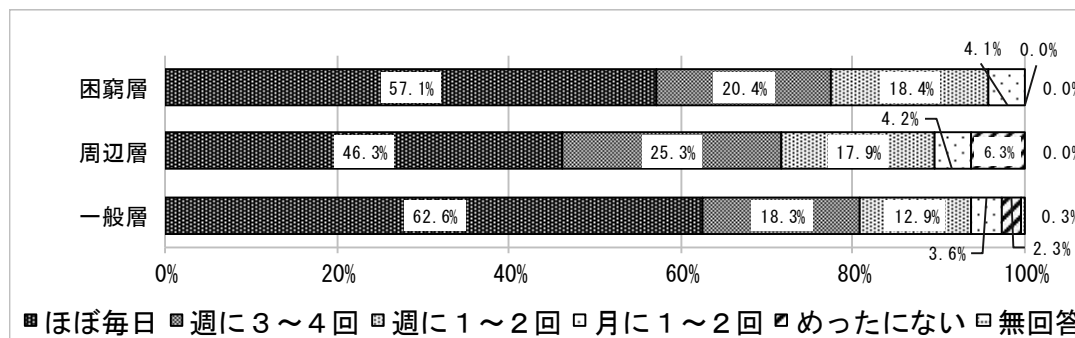
図表 6-3-11 子どもと一緒に料理をする（中学生）：世帯タイプ別(\*\*)



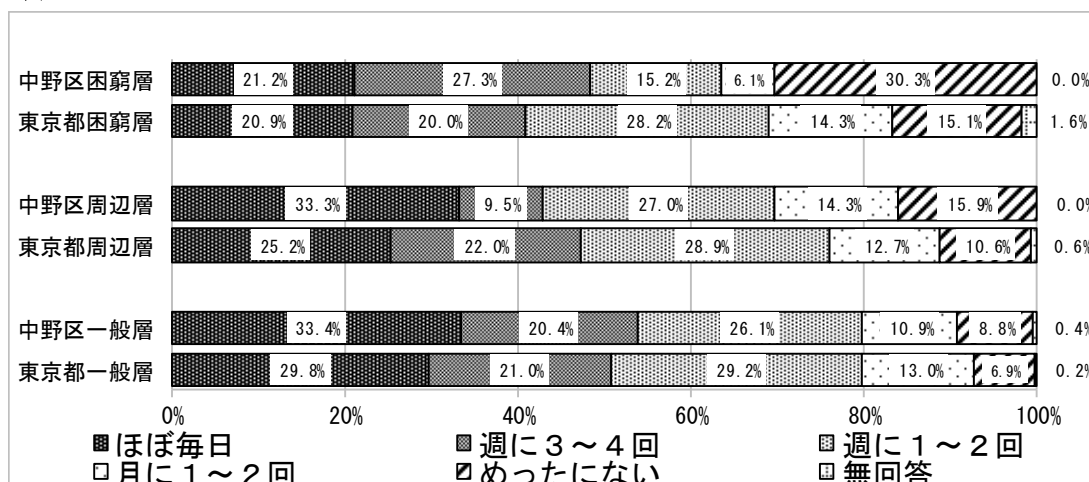
生活困難度別に見ると、小学生①、小学生②、中学生で「子どもの勉強をみる」項目に統計的に有意な差が見られた。小学生①では、子どもの勉強を「ほぼ毎日」と回答した保護者は困窮層が57.1%に対し、一般層は62.6%と5.5ポイントの差がある。小学生②、中学生においてもこの傾向は同様である。

東京都との比較を見ると、小学生②の全ての層において、東京都に比べて中野区が「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。また中学生の困窮層、一般層は中野区に比べて東京都が「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

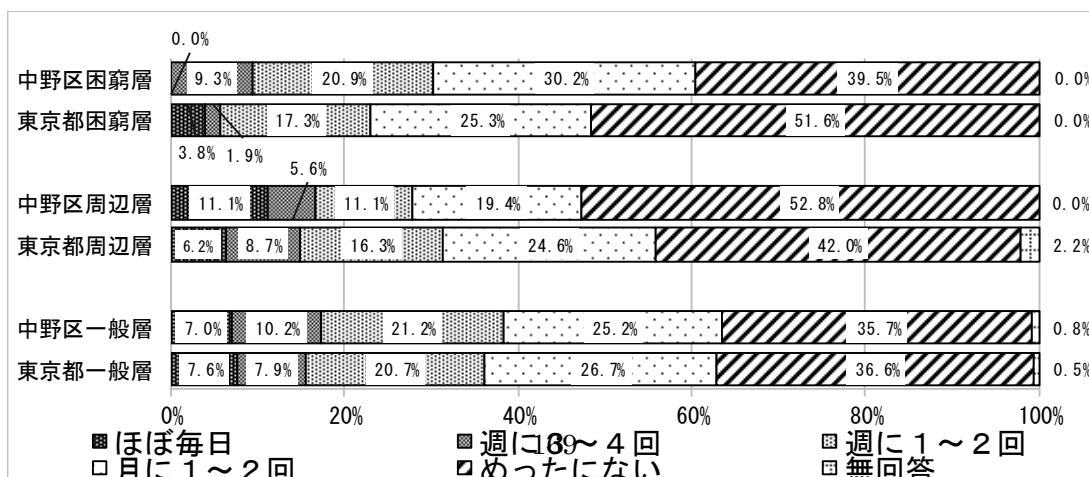
図表 6-3-12 子どもの勉強をみる（小学生①）：生活困難度別 (\*\*)



図表 6-3-13 子どもの勉強をみる：(生活困難度別 中野区小学生② (\*\*\*)、東京都小学5年生 (\*\*\*))

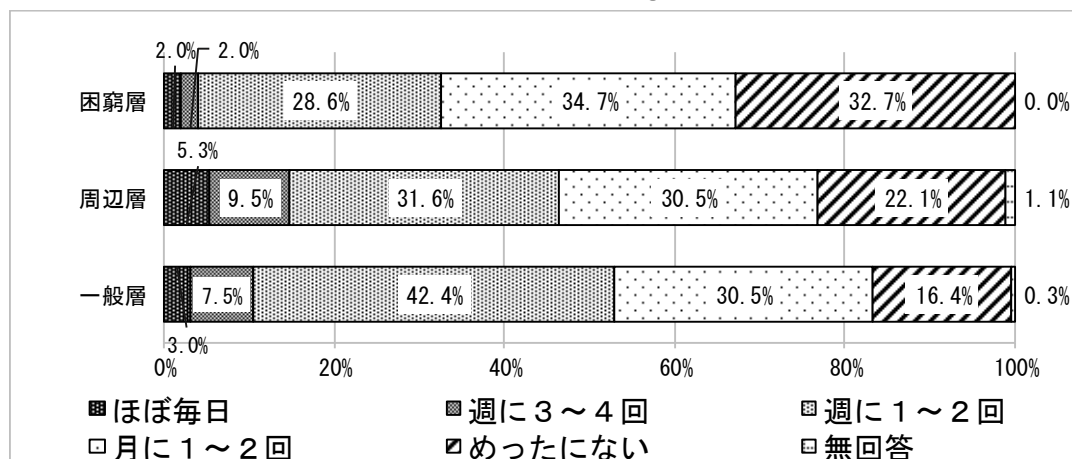


図表 6-3-14 子どもの勉強をみる：(世帯タイプ別 中野区中学生 (\*\*\*)、東京都中学2年生 (\*\*))

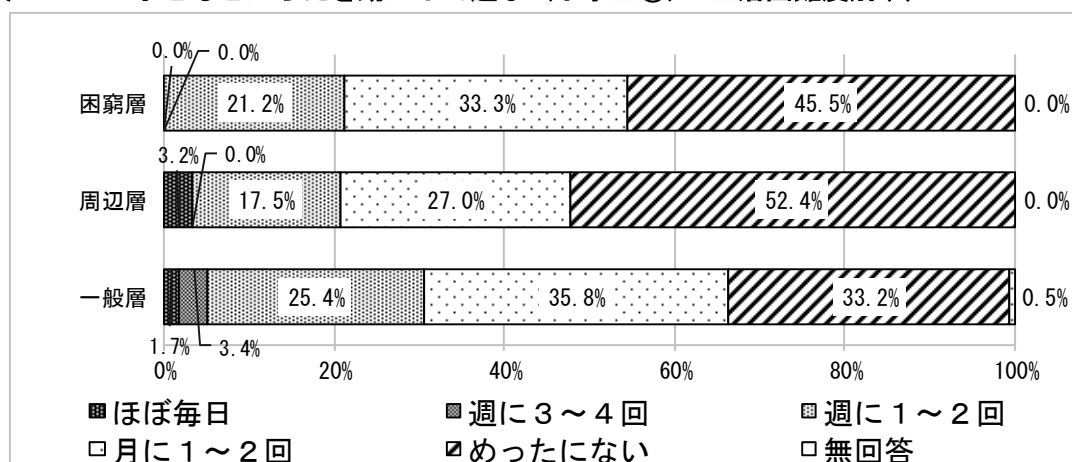


生活困難度別に見ると、小学生①、小学生②で「子どもとからだを動かして遊ぶ」項目に統計的に有意な差が見られた。小学生①では、一般層は困窮層に比べて週に1回以上子どもとからだを動かして遊ぶと回答した保護者の割合が高く、生活困難度が上がるにつれて子どもとからだを動かして遊ぶ割合が低くなる。小学生②では、小学生①と比べて遊ぶ頻度は下がるが、「めったにない」と回答した保護者は一般層が33.2%に対し、困窮層は45.5%と12.3ポイントの差がある。また、周辺層では「めったにない」と回答した保護者が52.4%で最も高い。

図表 6-3-15 子どもとからだを動かして遊ぶ（小学生①）：生活困難度別(\*\*)



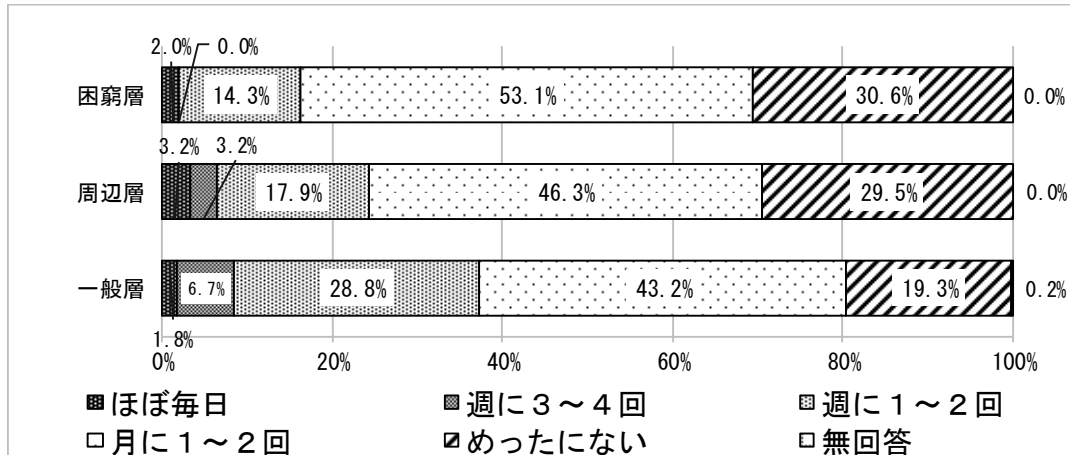
図表 6-3-16 子どもとからだを動かして遊ぶ（小学生②）：生活困難度別(\*)



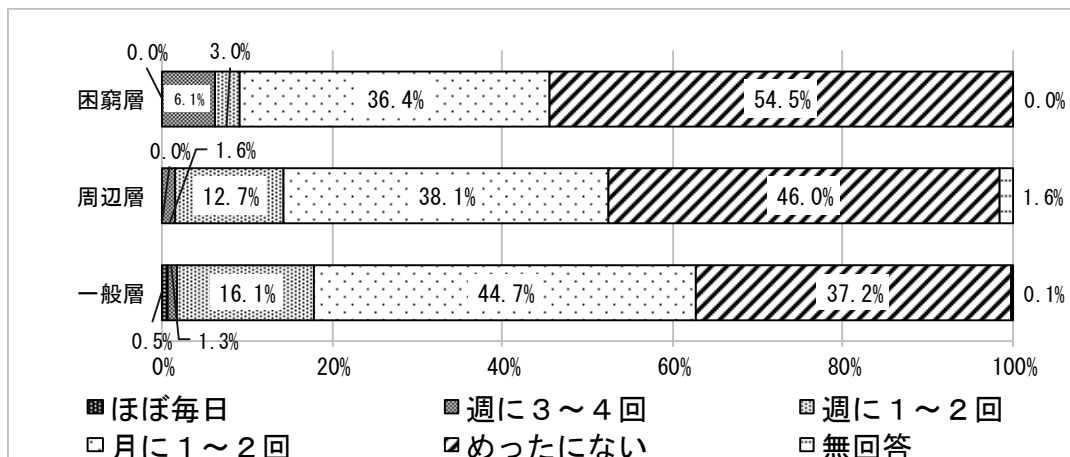


生活困難度別に見ると、小学生①、小学生②で「子どもとカードゲームなどで遊ぶ」項目に統計的に有意な差が見られた。小学生①では、週に1回以上子どもとカードゲームなどで遊ぶと回答した保護者の割合は生活困難度が上がるにつれて低くなり、この傾向は小学生②も同様である。

図表 6-3-17 子どもとカードゲームなどで遊ぶ（小学生①）：生活困難度別 (\*\*\*)

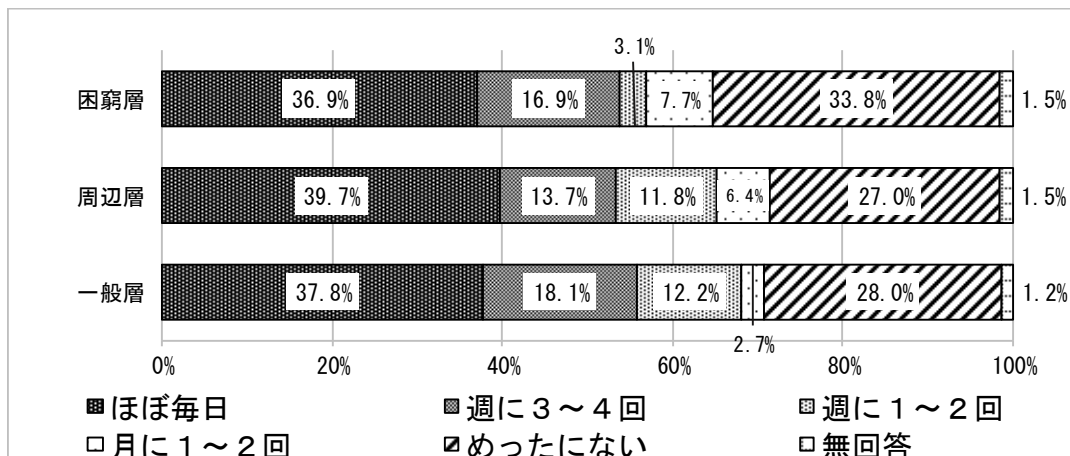


図表 6-3-18 子どもとカードゲームなどで遊ぶ（小学生②）：生活困難度別 (\*)

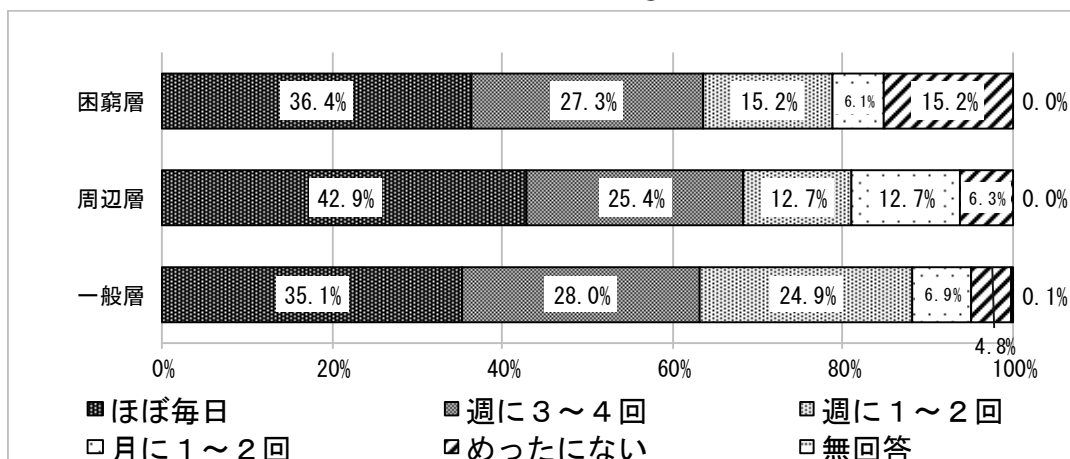


生活困難度別に見ると、未就学児、小学生②で「子どもとテレビ番組の話をする」項目に統計的に有意な差が見られた。未就学児では、週に1回以上子どもとテレビ番組の話をすると回答した保護者の割合は生活困難度が上がるにつれて低くなり、この傾向は小学生②も同様である。年齢層が上がると子どもとテレビ番組の話をする頻度が上がっている。

図表 6-3-19 子どもとテレビ番組の話をする（未就学児）：生活困難度別(\*\*)

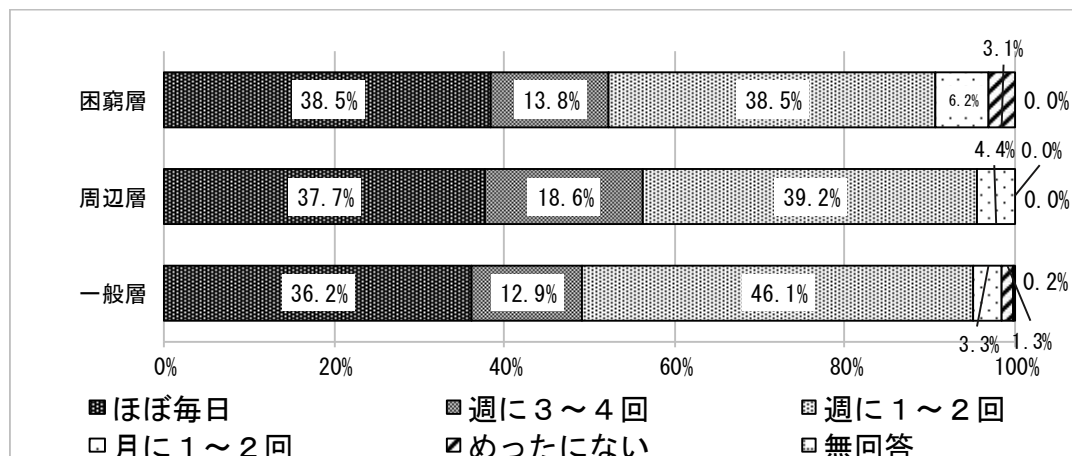


図表 6-3-20 子どもとテレビ番組の話をする（小学生②）：生活困難度別(\*)

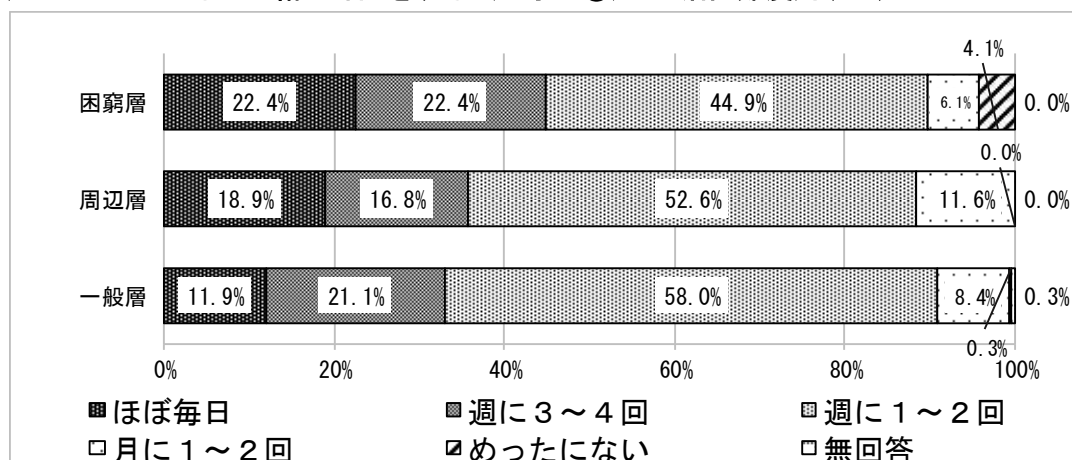


生活困難度別に見ると、未就学児、小学生①で「子どもと一緒に外出をする」項目に統計的に有意な差が見られた。未就学児では、週に1回以上子どもと一緒に外出すると回答した保護者の割合は全ての生活困難度で9割を超え、困窮層で90.8%、周辺層で95.5%、一般層で95.2%である。小学生①では、週に1回以上子どもと一緒に外出すると回答した保護者の割合は全ての生活困難度で約9割となっており、困窮層で89.7%、周辺層で88.3%、一般層で91.0%である。

図表 6-3-21 子どもと一緒に外出をする（未就学児）：生活困難度別（\*）



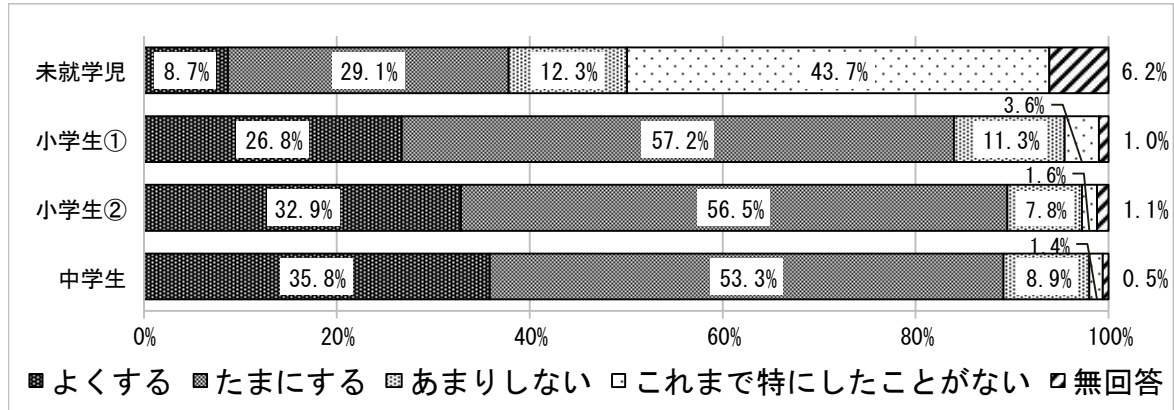
図表 6-3-22 子どもと一緒に外出をする（小学生①）：生活困難度別（\*\*\*）



## (2) 将来についての会話

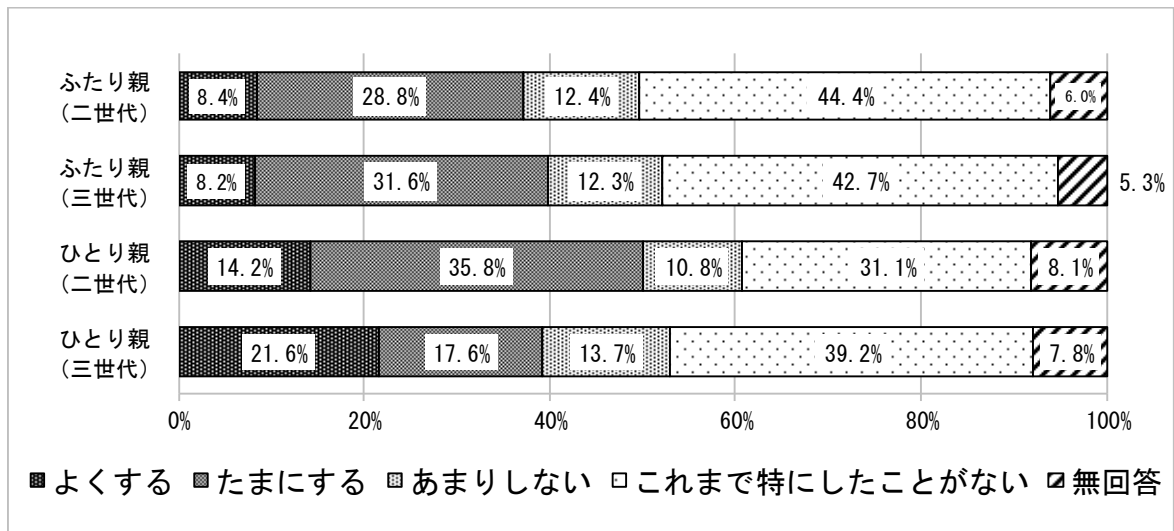
子どもの将来（夢・進路・職業等）について、子どもとどのくらいの頻度で話をするのかを保護者に聞いたところ、「よくする」は未就学児では8.7%、小学生①では26.8%、小学生②では32.9%、中学生では35.8%と年齢層が上がるにつれて高く、「たまにする」を合わせると、小学生①以降の年齢層で8割以上の保護者が子どもと将来について話している。

図表 6-3-23 将来についての会話：年齢層別



世帯タイプ別では、未就学児で統計的に有意な差が見られた。子どもと将来についての話を「よくする」割合は、ひとり親世帯はふたり親世帯に比べて高く、ひとり親（二世代）が14.2%、ひとり親（三世代）が21.6%であるのに対し、ふたり親（二世代）は8.4%、ふたり親（三世代）は8.2%であった。

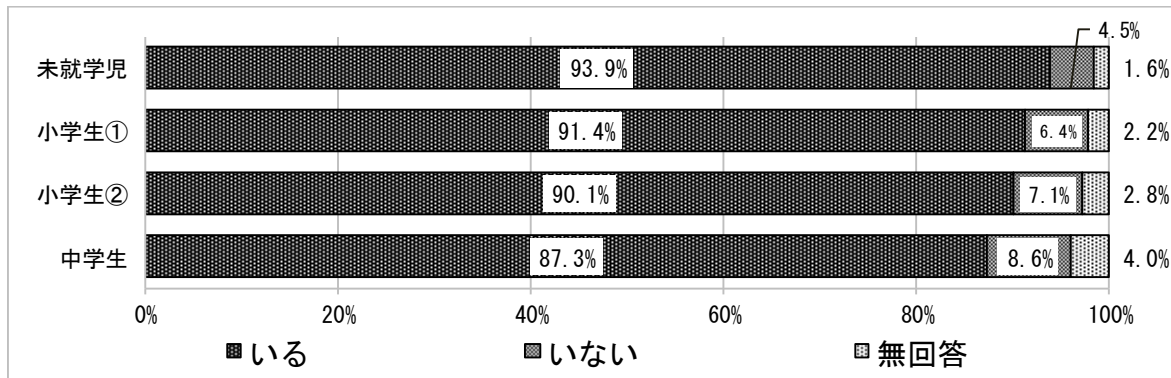
図表 6-3-24 将来についての会話（未就学児）：世帯タイプ別 (\*\*\*)



#### 4 相談相手

保護者に対し、「本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など）がいますか」と聞いた。図表 6-4-1 に、子どもの年齢層別に、保護者の相談相手の有無を示した。相談できる人が「いる」割合は未就学児では 93.9%、小学生①では 91.4%、小学生②では 90.1%、中学生では 87.3%と全ての年齢層で 8 割を超えているが、年齢層が上がるにつれて低くなっている。

図表 6-4-1 相談相手の有無：年齢層別

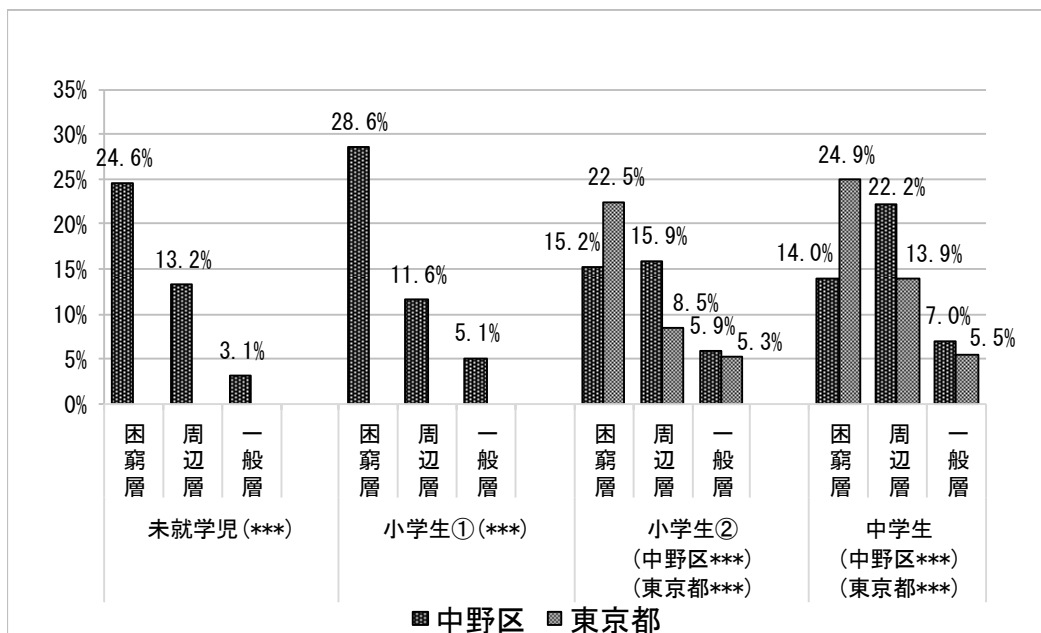


相談相手のいない保護者の割合を生活困難度別に見ると、未就学児、小学生①では生活困難度が上がるにつれて相談相手がない割合が高く、小学生②、中学生では一般層に比べて困窮層、周辺層で相談相手がない割合が高い。生活困難度が高くなるほど様々な問題を抱えやすくなると考えられるが、相談相手がおらず、社会的に孤立しやすい傾向にあるといえる。

東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共に困窮層において、中野区に比べて東京都が相談相手のいない保護者の割合が高くなっている。また小学生②、中学生共に全ての周辺層、一般層は東京都に比べて中野区の割合が高くなっている。

図表 6-4-2 相談相手のいない保護者の割合：生活困難度別

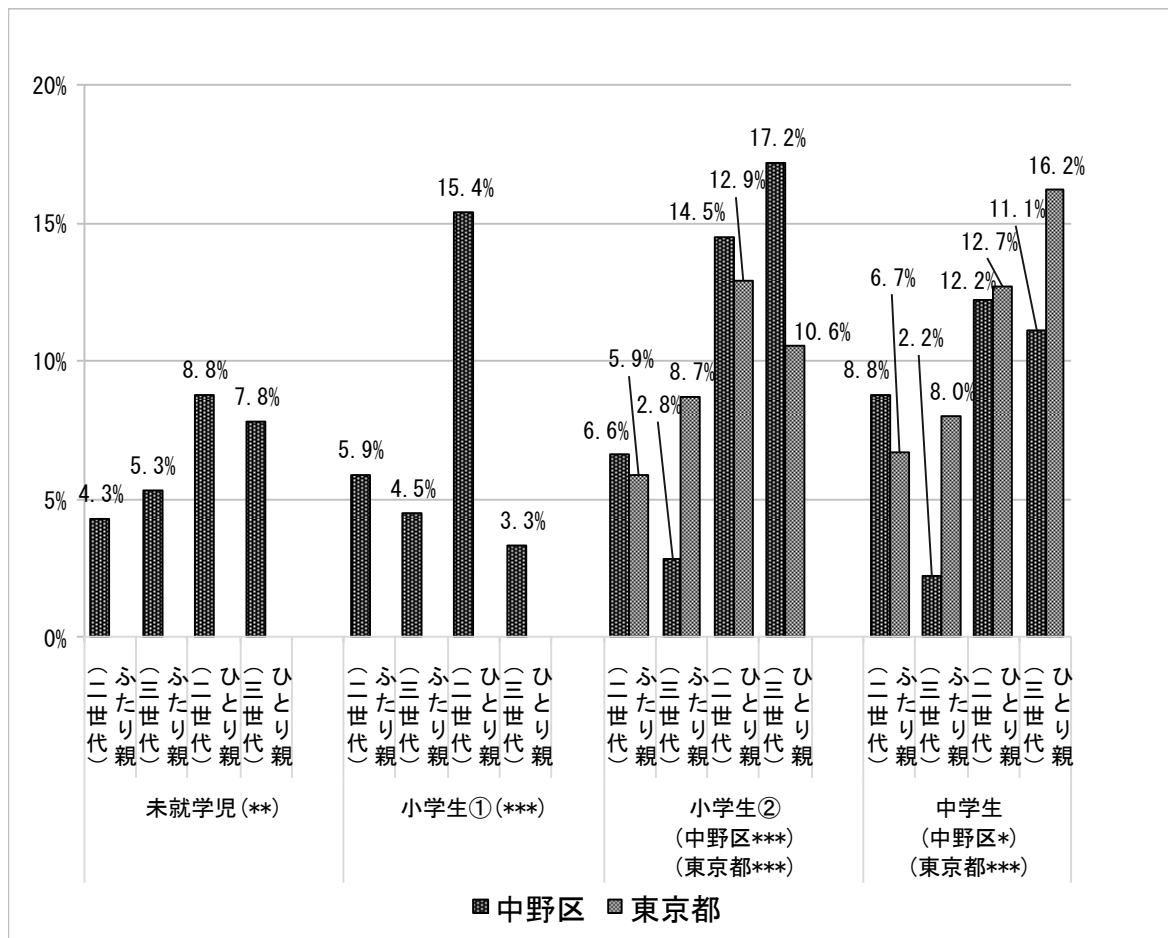
(小学生②、中学生は東京都との比較)



相談相手のいない保護者の割合を世帯タイプ別に見ると、「ふたり親世帯」よりも「ひとり親世帯」の方が相談相手のいない保護者の割合が高い傾向がうかがえる。特に小学生②ではひとり親（二世代、三世代）世帯がそれぞれ14.5%、17.2%とふたり親世帯に比べて高い。また、小学生①ではひとり親（二世代）世帯が15.4%で最も高い。

東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共に全てのふたり親（三世代）において中野区に比べて東京都が相談相手のいない保護者の割合が高くなっている。また小学生②、中学生共に全てのふたり親（二世代）は東京都に比べて中野区の割合が高くなっている。

**図表 6-4-3 相談相手のいない保護者の割合：世帯タイプ別**  
(小学生②、中学生は東京都との比較)



## 第7部 制度・サービスの利用





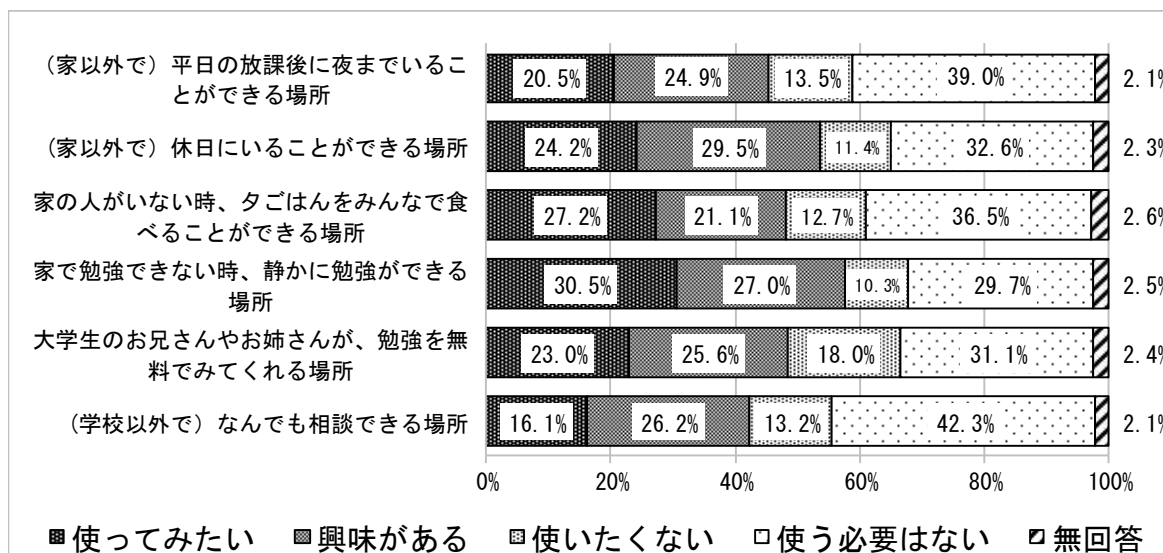
# 1 子ども本人の支援サービス利用意向

## (1) 年齢別の子ども本人のサービス利用意向

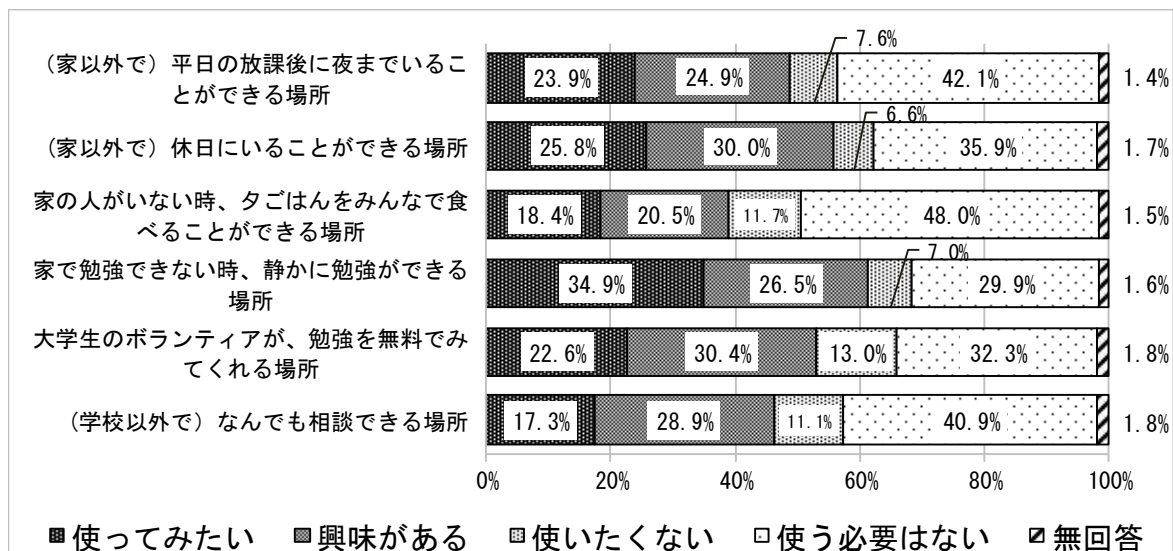
子どもを対象とする居場所、食事、学習、相談支援サービスについて、子ども本人の利用意向を聞いた。この結果、全ての年齢層において、学習支援や居場所への関心の高さが確認された。中でも「家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」は、小学生、中学生共に「使ってみたい」、「興味がある」を合わせると約6割であり、最も高い。さらに、「(家以外で) 休日にいることができる場所」も「使ってみたい」、「興味がある」を合わせると5割台となっており、小学生、中学生共に2番目に、「大学生が勉強を無料でみてくれる場所」が5割前後で3番目に高い。家や学校以外の勉強場所や自由に時間を過ごせる居場所への高い関心がうかがえる。

他の項目では、小学生では「家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」は「使ってみたい」、「興味がある」を合わせると48.3%、中学生では「(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所」が48.8%となっている。中学生は小学生に比べて「家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」を除く全ての項目で利用意向が高い。

図表 7-1-1 子ども本人のサービス利用意向 (小学生)



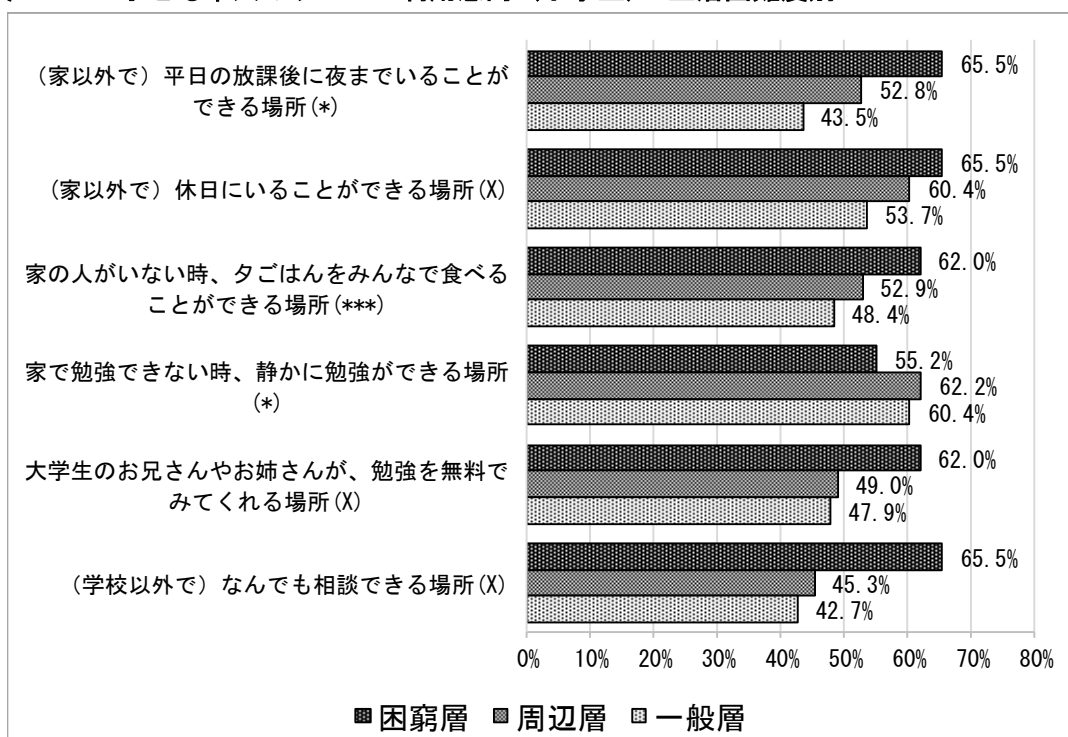
図表 7-1-2 子ども本人のサービス利用意向（中学生）



(2) 生活困難度別の子ども本人のサービス利用意向

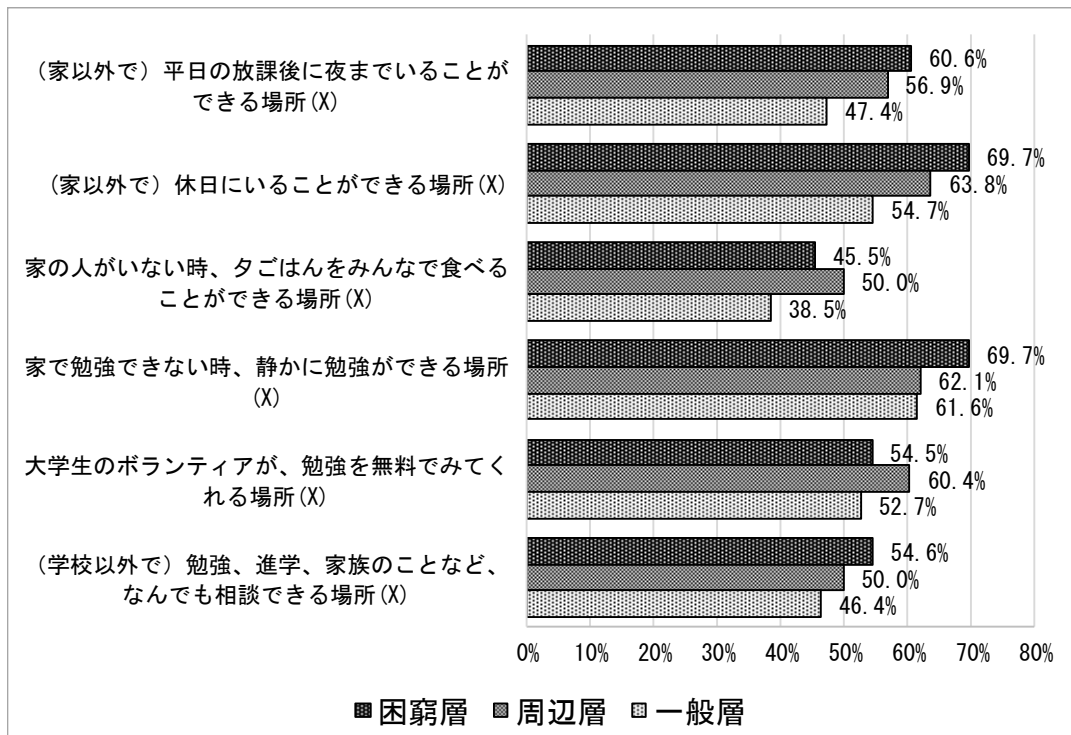
サービスの利用意向を「利用意向あり」（「使ってみたい」、「興味がある」）と「利用意向なし」（「使いたくない」、「使う必要はない」）に分けて、生活困難度との関係を見た。その結果、小学生では、「(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所」、「家の人がいない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」、「家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」で生活困難度による統計的に有意差があり、「(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所」、「家の人がいない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」ではいずれもが生活困難度が上がるにつれてサービスの利用意向を持つ子どもの割合が高くなる傾向がある。

図表 7-1-3 子ども本人のサービス利用意向（小学生）：生活困難度別



中学生では、生活困難度別には統計的に有意な差は見られなかったが、おおむね生活困難度が上がるにつれてサービスの利用意向を持つ子どもの割合が高くなる傾向がある。

図表 7-1-4 子ども本人のサービス利用意向（中学生）：生活困難度別



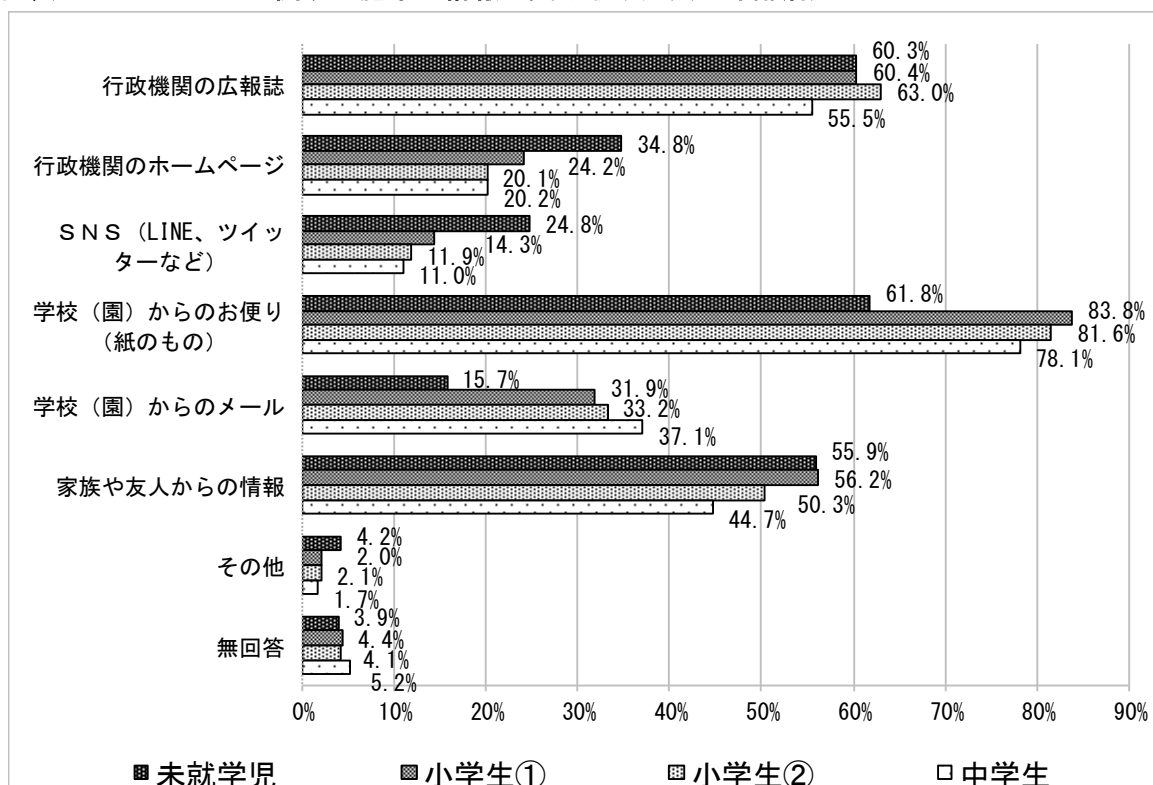
## 2 情報の受け取り方法

### (1) 年齢別の情報の受け取り方法

保護者に、現在どのような方法で子どもに関する施策等の情報を受け取っているか、また今後受け取りたいと希望するかを聞いた。

現在の受け取り方法には、全ての年齢層で、「学校からのお便り」、「行政機関の広報誌」、「家族や友人からの情報」の順に利用している保護者の割合が高かった。特に、「学校からのお便り」で情報を受け取っている保護者の割合は高く、小学生①以降の全ての年齢層で約8割となっている。また、小学生①以降の年齢層は「学校からのメール」が次点だが、未就学児は「行政機関のホームページ」が次点となっており、「SNS」と合わせて他の年齢層に比べて高い。

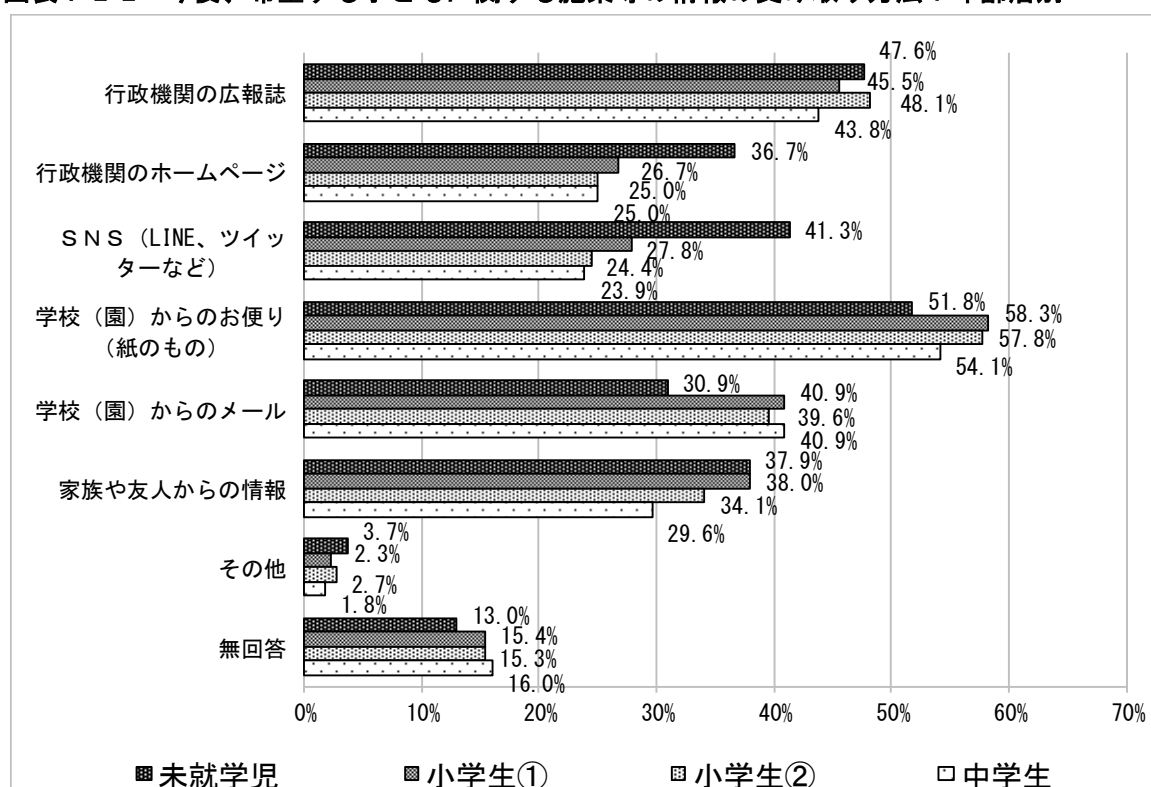
図表 7-2-1 子どもに関する施策の情報の受け取り方法：年齢層別



今後の希望についても、全ての年齢層で「学校からのお便り」、「行政機関の広報誌」の順に利用意向が強かったが、小学生①以降の年齢層は「学校からのメール」、「家族や友人からの情報」と続いているが、未就学児は「SNS」、「家族や友人からの情報」と続いており、「行政機関のホームページ」と合わせて他の年齢層に比べて高い。

現在の受け取り方法との違いを見ると、今後の希望では「学校からのメール」の利用を希望する保護者の割合が、「家族や友人からの情報」を希望する保護者の割合よりも高かった。また、「行政機関のホームページ」、「SNS」、「学校からのメール」等のインターネットを利用したサービスを希望する割合が高くなっている。

図表 7-2-2 今後、希望する子どもに関する施策等の情報の受け取り方法：年齢層別



### 3 支援サービスの利用状況・認知状況・利用意向

#### (1) 支援サービスの利用状況

##### ①年齢別の支援サービスの利用状況

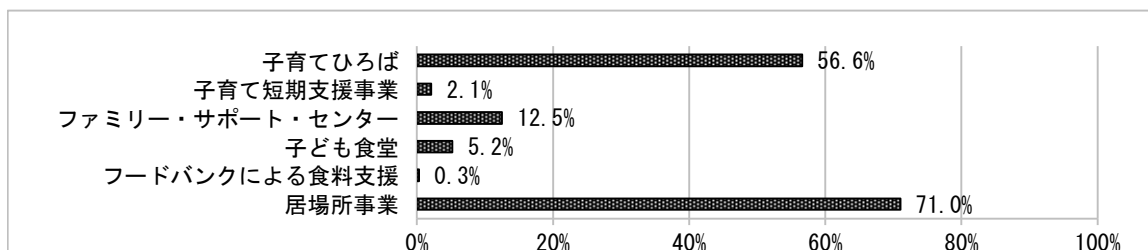
保護者に支援サービスの利用経験があるか聞いた。「子育て支援」として各年齢層の保護者に「子育てひろば」、「子育て短期支援事業」、「ファミリー・サポート・センター」の利用経験を聞いた。「子育てひろば」については約3～6割、「ファミリー・サポート・センター」については1割台、「子育て短期支援事業」は約1～2%の保護者に利用経験がある。おおむね年齢層が若いほど利用した割合が高い。

「食事支援」について、全ての年齢層の保護者に「子ども食堂」と「フードバンクによる食料支援」の利用経験を聞いた。「子ども食堂」は小学生①で7.6%、小学生②で5.5%、未就学児で5.2%であるが、「フードバンクによる食料支援」は全ての年齢層で1%未満である。

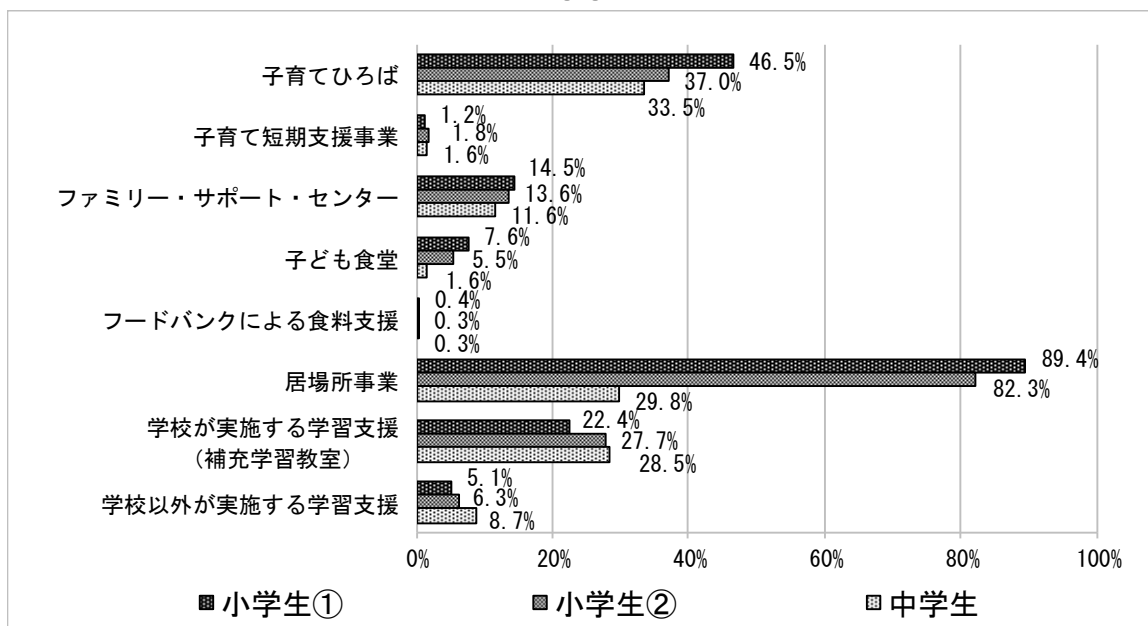
「居場所事業」について、未就学児の保護者には「児童館」、小学生①、②の保護者には「児童館、学童クラブ、キッズ・プラザ」、中学生の保護者には「中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所（児童館など）」の利用経験を聞いた。利用率は、未就学児が71.0%、小学生①が89.4%、小学生②が82.3%の一方、中学生では29.8%と利用率は落ちる。

「学習支援」について、未就学児を除く年齢層の保護者に「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」と「学校以外が実施する学習支援」の利用経験を聞いた。「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」についての利用率は、小学生①が22.4%、小学生②が27.7%、中学生が28.5%である。また、「学校以外が実施する学習支援」についての利用率は、小学生①が5.1%、小学生②が6.3%、中学生が8.7%でどちらも年齢層が上がるにつれて利用率も高くなる。

図表 7-3-1 支援サービスの利用率（未就学児）



図表 7-3-2 支援サービスの利用率（小学生①②、中学生）

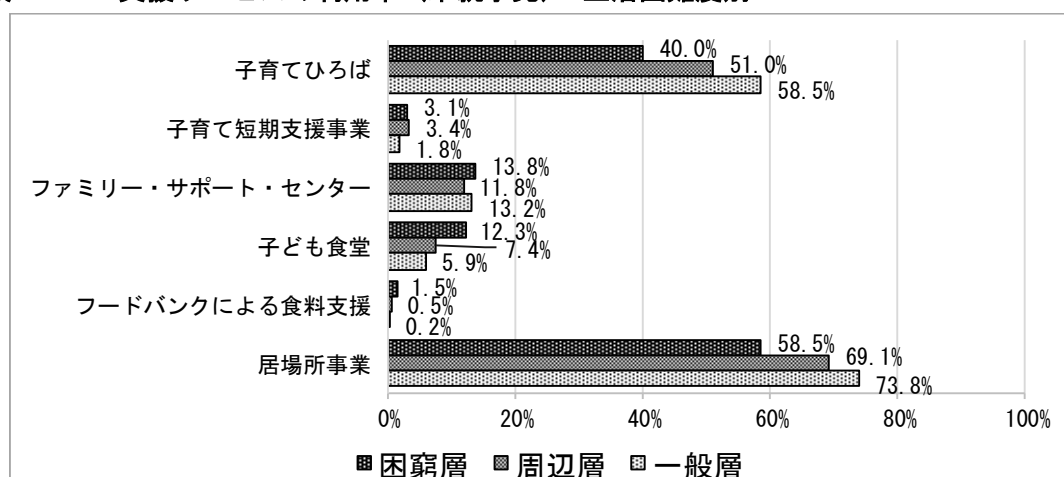


※居場所事業：児童館や学童クラブ、キッズ・プラザ、中学生以上の子どもが自由に過ごせる場所等。以下同じ。

## ②生活困難度別の支援サービス利用率

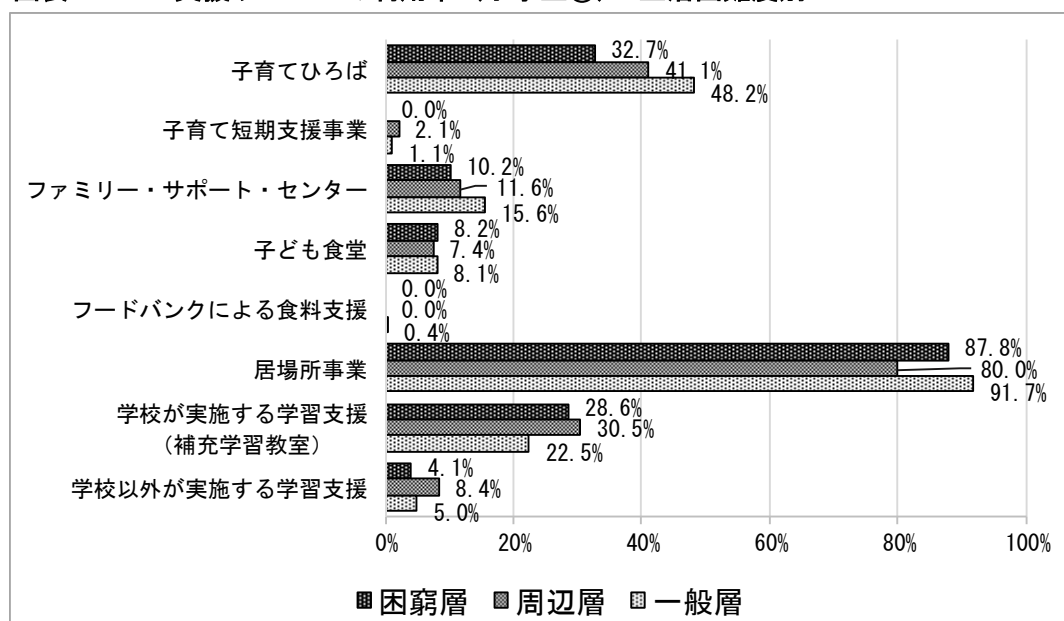
未就学児については、「子育てひろば」、「居場所事業」で生活困難度が上がるにつれて利用率は下がり、「ファミリー・サポート・センター」、「フードバンクによる食料支援」で生活困難度が上がるにつれて利用率が上がる。「子育てひろば」、「居場所事業」は他の項目に比べて利用率が高く、「子育てひろば」では困窮層が40.0%、一般層が58.5%、「居場所事業」では困窮層が58.5%、一般層が73.8%であった。

図表 7-3-3 支援サービスの利用率（未就学児）：生活困難度別



小学生①については、「子育てひろば」、「ファミリー・サポート・センター」で生活困難度が上がるにつれて利用率は下がる。「子育てひろば」、「居場所事業」、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」は他の項目に比べて利用率が高く、「子育てひろば」では困窮層が32.7%、一般層が48.2%、「居場所事業」では困窮層が87.8%、一般層が91.7%、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」では困窮層が28.6%、一般層が22.5%であった。

図表 7-3-4 支援サービスの利用率（小学生①）：生活困難度別

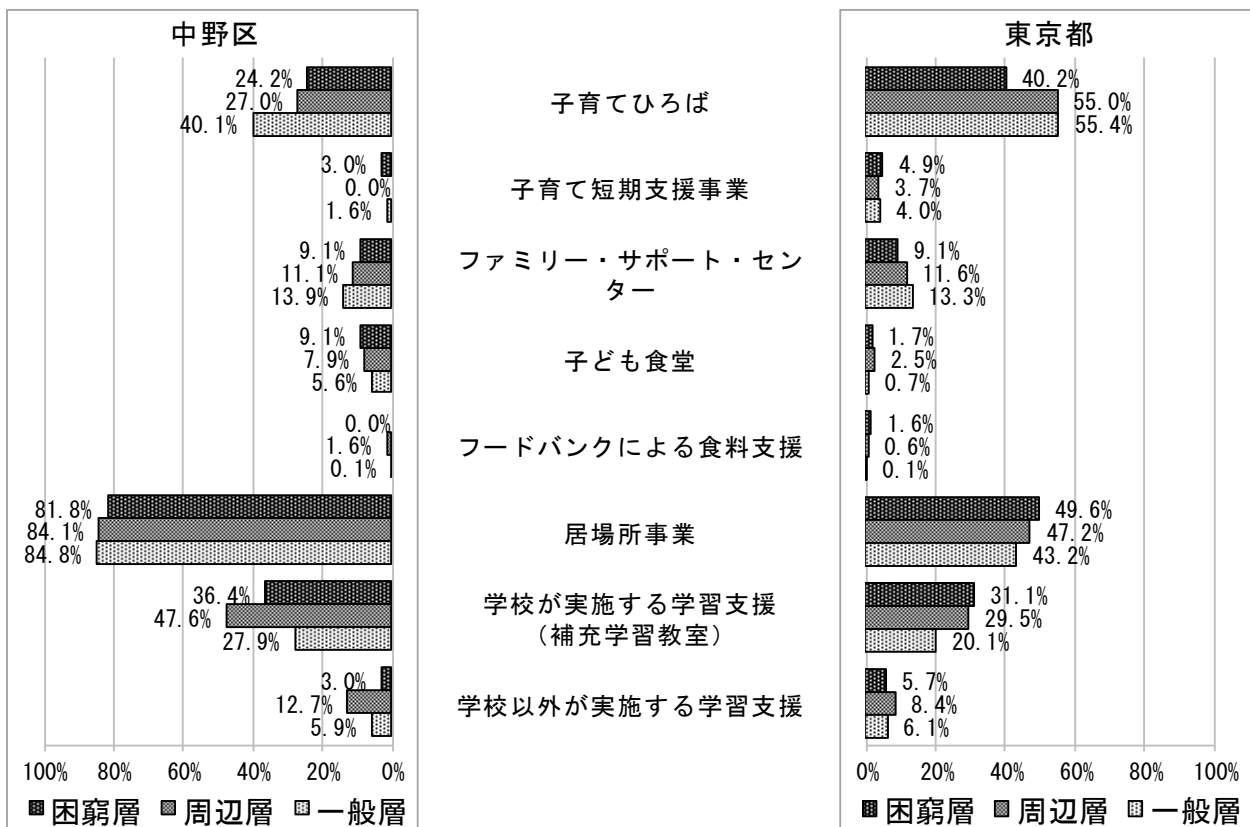


小学生②については、「子育てひろば」、「ファミリー・サポート・センター」、「居場所事業」で生活困難度が上がるにつれて利用率は下がる。「子育てひろば」、「居場所事業」、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」は他の項目に比べて利用率が高く、「子育てひろば」では困窮層が24.2%、一般層が40.1%、「居場所事業」では困窮層が81.8%、一般層が84.8%、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」では困窮層が36.4%、一般層が27.9%であった。

東京都との比較を見ると、小学生②は困窮層で中野区に比べて東京都の方が「子育てひろば」、「子育て短期支援事業」、「フードバンクによる食料支援」、「学校以外が実施する学習支援」の利用率が高くなっている。また周辺層では、中野区に比べて東京都の方が「子育てひろば」、「子育て短期支援事業」、「ファミリー・サポート・センター」の利用率が高くなっている。

また小学生②は全ての層で、東京都に比べて中野区の方が「子ども食堂」、「居場所事業」、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」の利用率が高くなっている。

図表 7-3-5 支援サービスの利用率（中野区小学生②、東京都小学5年生）：生活困難度別



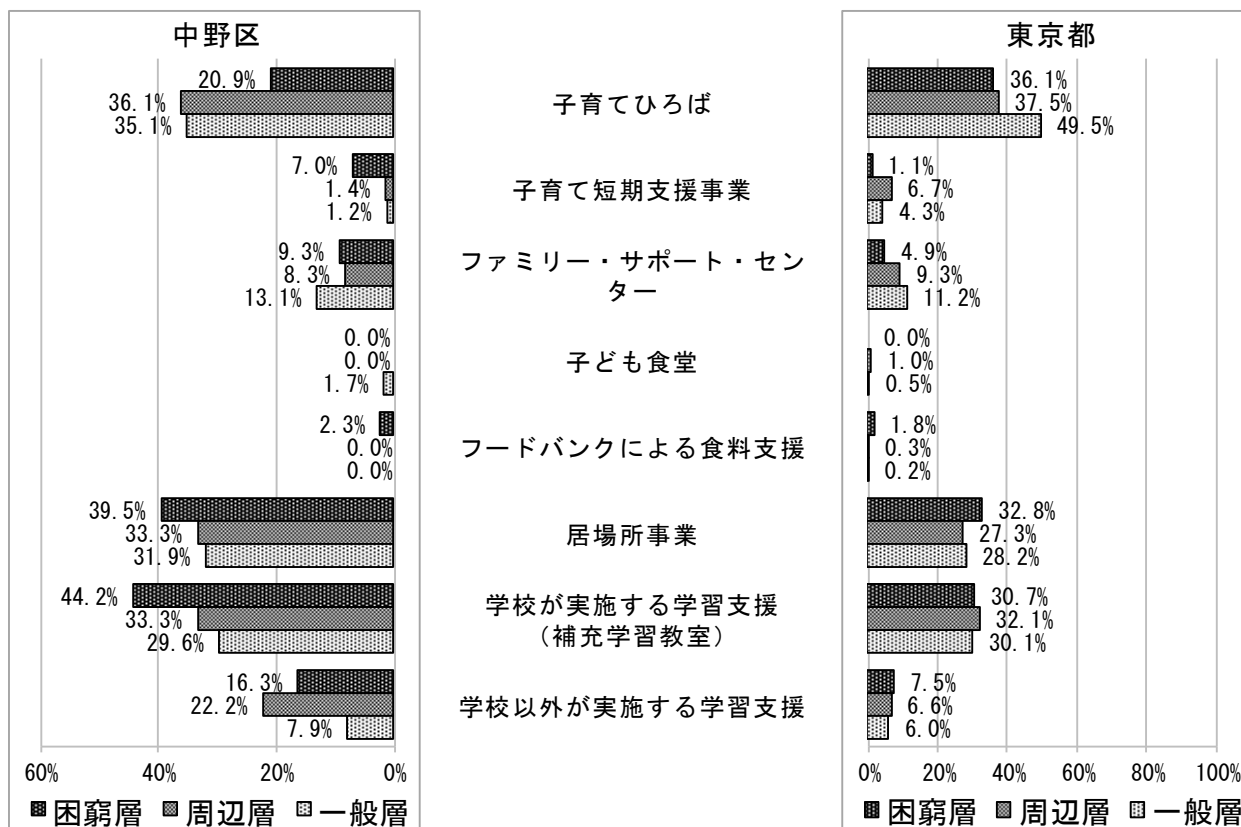


中学生については、「子育て短期支援事業」、「居場所事業」、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」で生活困難度が上がるにつれて利用率は上がる。「子育てひろば」、「居場所事業」、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」は他の項目に比べて利用率が高く、「子育てひろば」では困窮層が20.9%、一般層が35.1%、「居場所事業」では困窮層が39.5%、一般層が31.9%、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」では困窮層が44.2%、一般層が29.6%であった。

東京都との比較を見ると、中学生については困窮層で中野区に比べて東京都の方が「子育てひろば」の利用率が高くなっている。また周辺層では、中野区に比べて東京都の方が「子育てひろば」、「子育て短期支援事業」、「ファミリー・サポート・センター」、「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」の利用率が高くなっている。

また中学生は、東京都に比べて中野区の方が全ての層で「居場所事業」、「学校以外が実施する学習支援」の利用率が高く、また困窮層と周辺層で「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」の利用率が高くなっている。

図表 7-3-6 支援サービスの利用率（中野区中学生、東京都中学2年生）：生活困難度別



### ③世帯タイプの支援サービス利用率

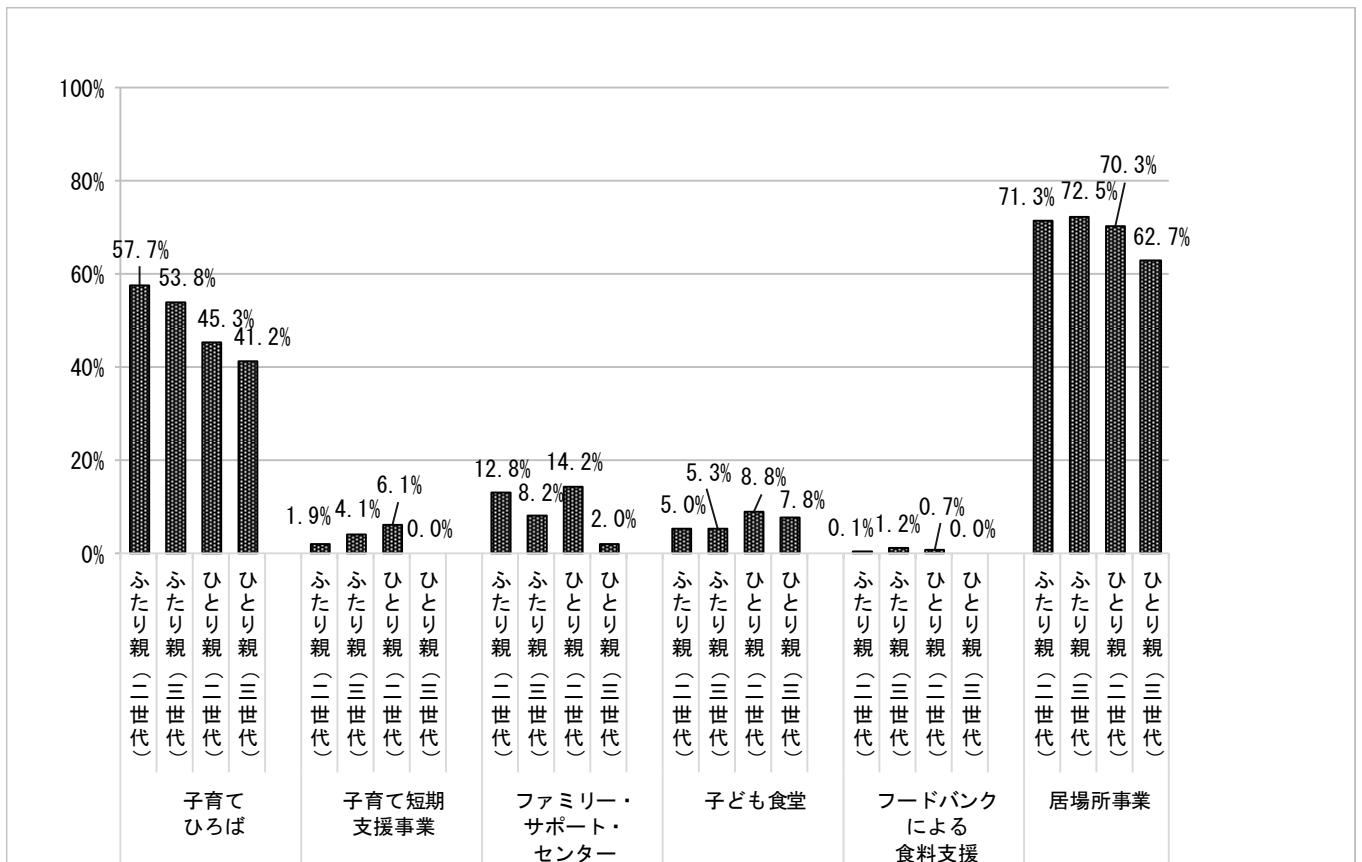
世帯タイプと支援サービス利用率の関連を見たところ、未就学児では、「子育てひろば」、「居場所事業」の利用率が全ての世帯タイプで高い。どちらの項目もひとり親世帯に比べてふたり親世帯で利用率が高い。

小学生①では、「子育てひろば」、「居場所事業」、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」の利用率が全ての世帯タイプで高い。特に「居場所事業」は全ての世帯タイプで8割を超え、ふたり親（二世帯）世帯では9割を超える。「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」はふたり親世帯に比べてひとり親世帯で利用率が高く、「子育てひろば」はひとり親世帯に比べてふたり親世帯で利用率が高い。

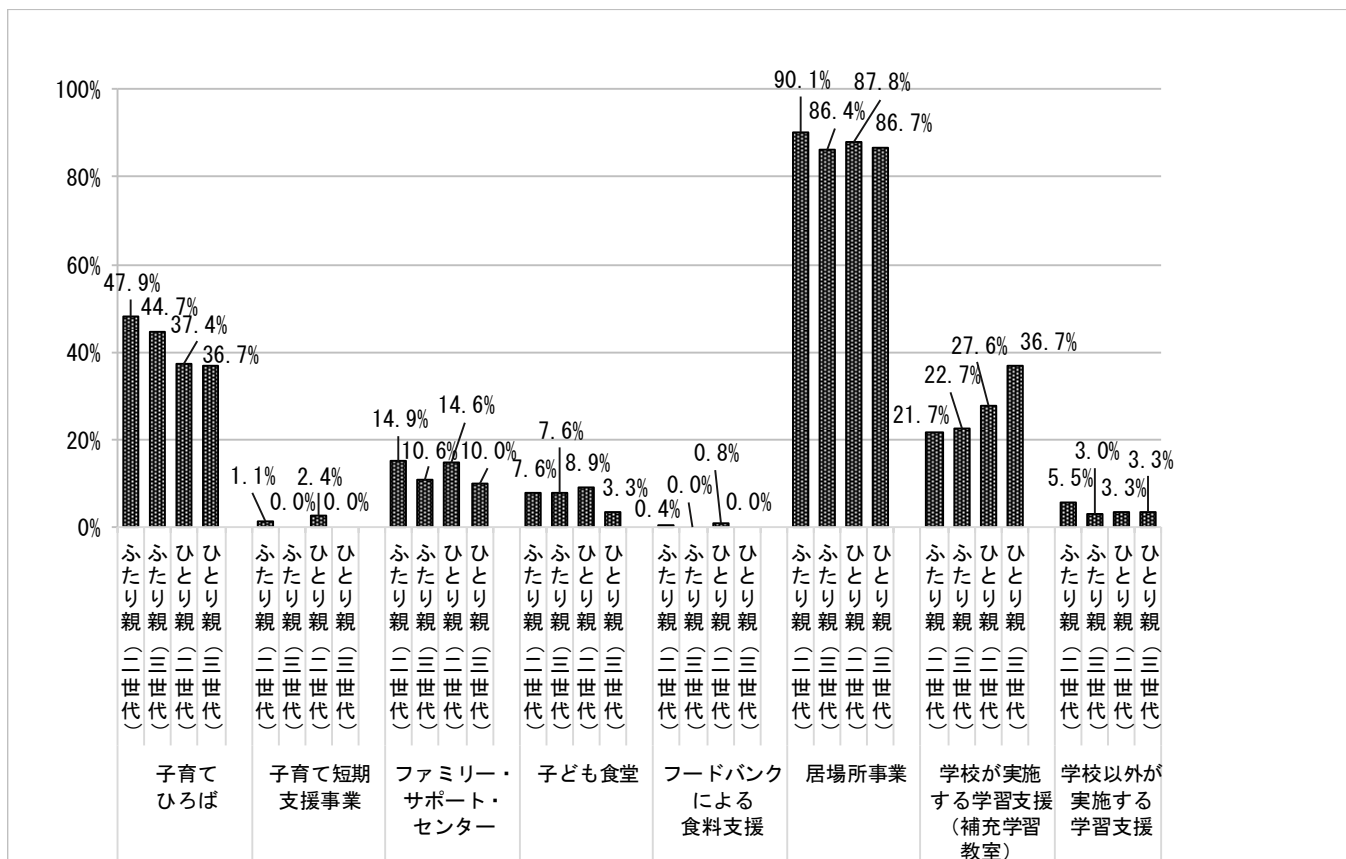
小学生②では、小学生①と同様に「子育てひろば」、「居場所事業」、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」の利用率が全ての世帯タイプで高く、特に「居場所事業」はふたり親（三世帯）の77.8%を除く世帯タイプで8割を超える。「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」はひとり親（三世帯）世帯で利用率が高く、「子育てひろば」はひとり親世帯に比べてふたり親世帯で利用率が高い。

中学生では、小学生①、②と同様に「子育てひろば」、「居場所事業」、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」の利用率は高いが、「居場所事業」の利用率は小学生①、②に比べて下がり、「学校以外が実施する学習支援」の利用率は上がっている。「学校以外が実施する学習支援」では、ふたり親世帯に比べてひとり親世帯で利用率が高い。

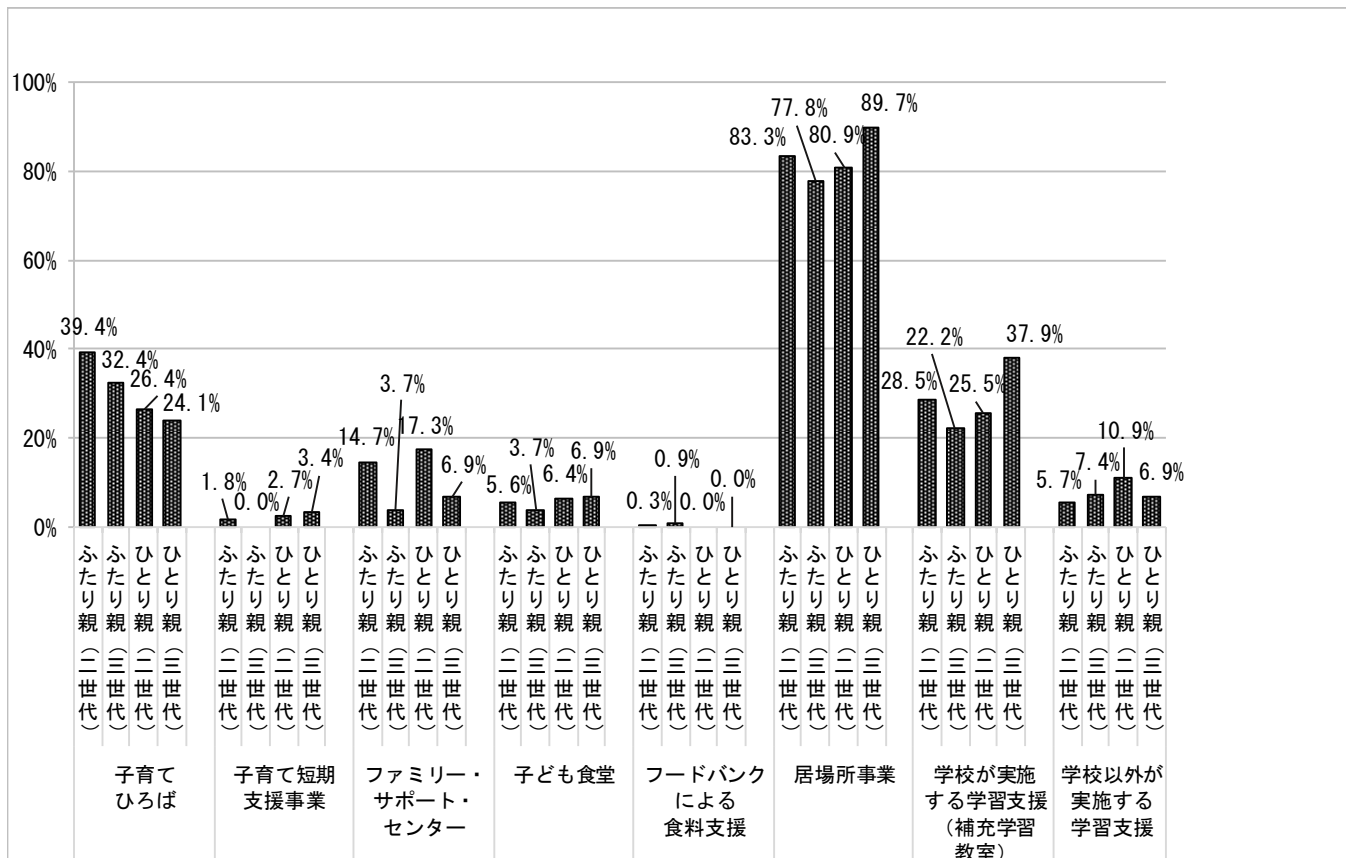
図表 7-3-7 支援サービスの利用率（未就学児）：世帯タイプ別



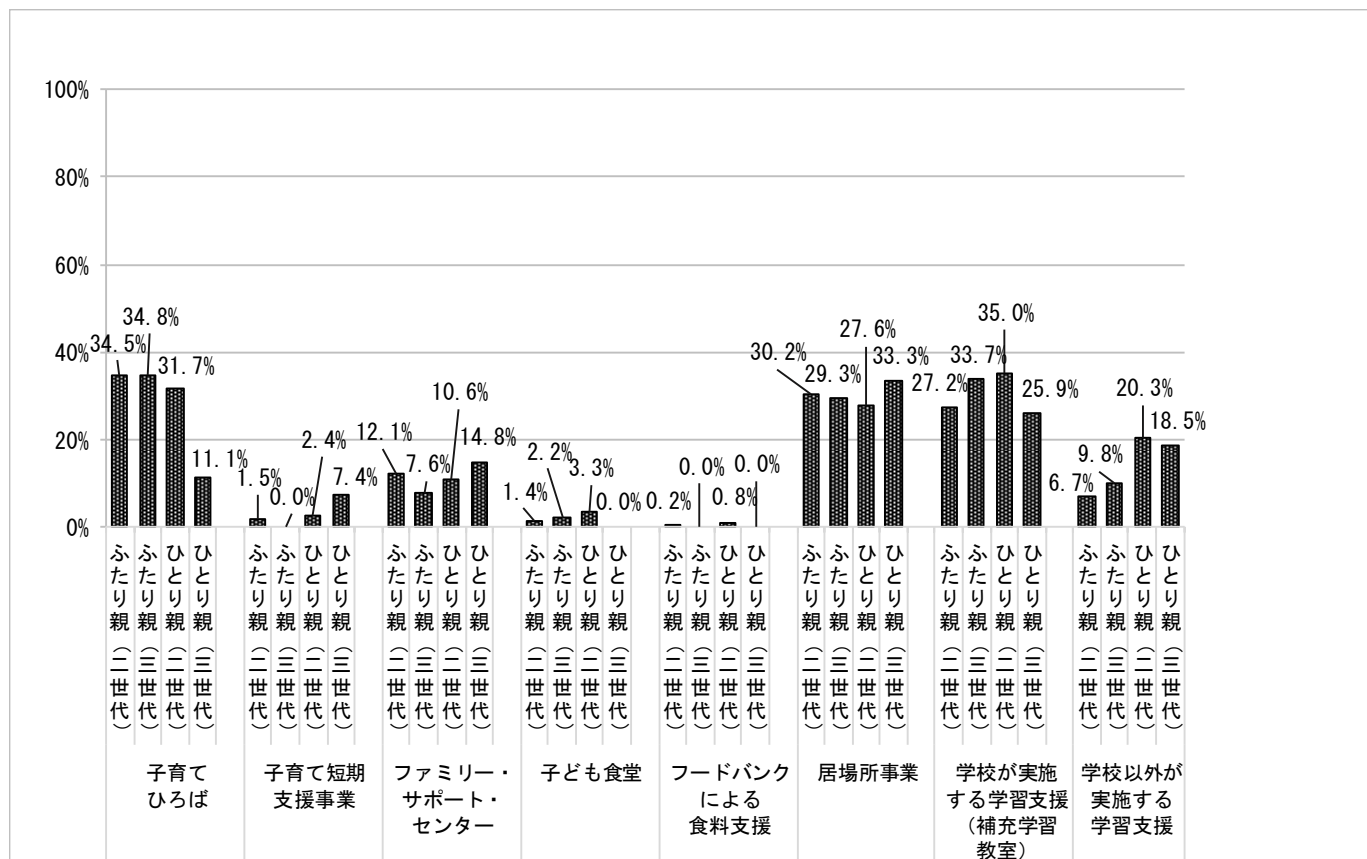
図表 7-3-8 支援サービスの利用率（小学生①）：世帯タイプ別



図表 7-3-9 支援サービスの利用率（小学生②）：世帯タイプ別



図表 7-3-10 支援サービスの利用率（中学生）：世帯タイプ別



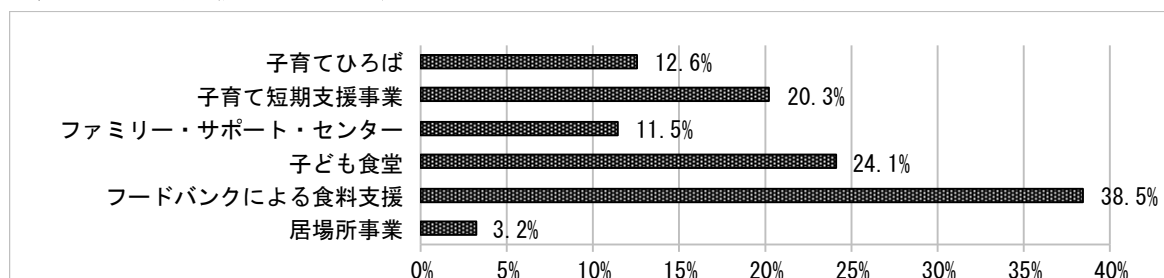
(2) 支援サービスの非認知による不利用

①年齢別の支援サービスの非認知による不利用

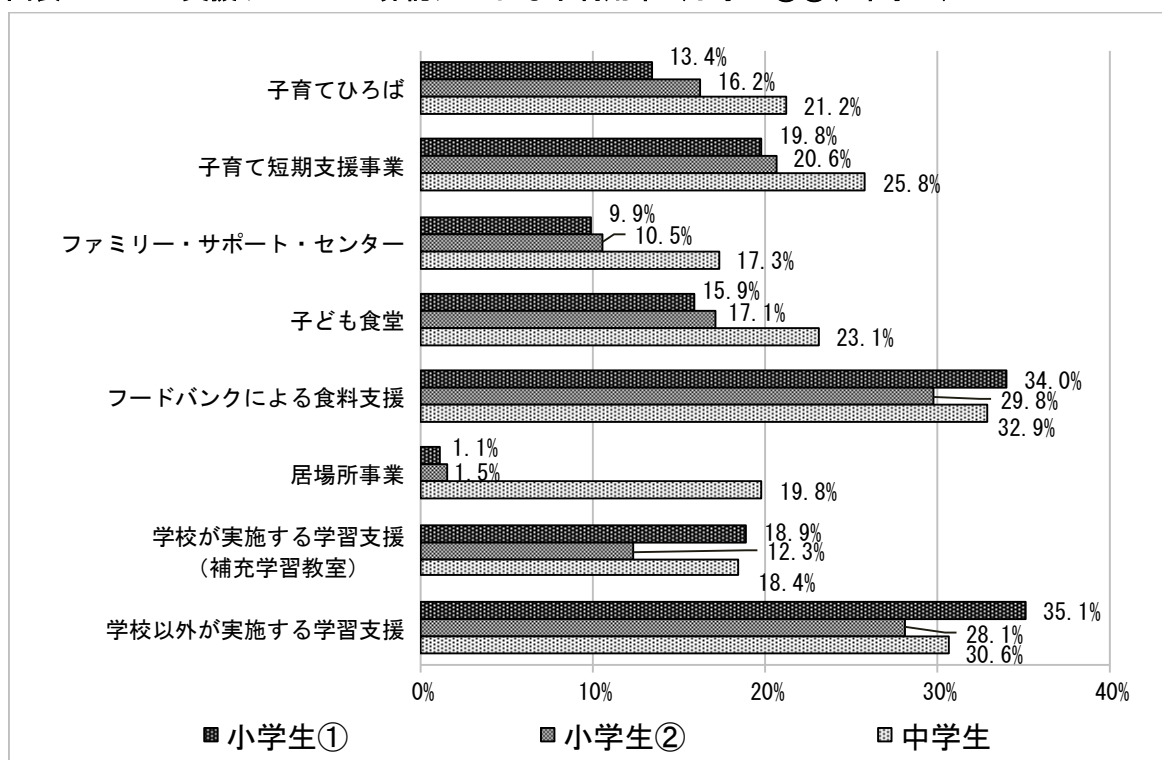
支援サービスを利用しなかった理由としては、全ての年齢層の全支援サービスで「利用したいと思ったことがなかった」が最も高い割合を占める。「制度等について全く知らなかった」との回答も多くの年齢層、支援サービスで次点に挙げられているため、ここでは「制度等について全く知らなかった」を取り上げた。

サービスを利用しなかった理由として、「制度等について全く知らなかった」と答えた保護者の割合（「非認知による不利用率」）を見ると、全ての年齢層において、上位3項目に共通して挙げられている項目は「フードバンクによる食料支援」で未就学児、小学生②、中学生の保護者で最も高く、「学校以外が実施する学習支援」では、小学生①で1位、小学生②、中学生で2位、「子育て短期支援事業」では、未就学児、小学生①、小学生②、中学生で3位となっている。

図表 7-3-11 支援サービスの非認知による不利用率（未就学児）



図表 7-3-12 支援サービスの非認知による不利用率（小学生①②、中学生）



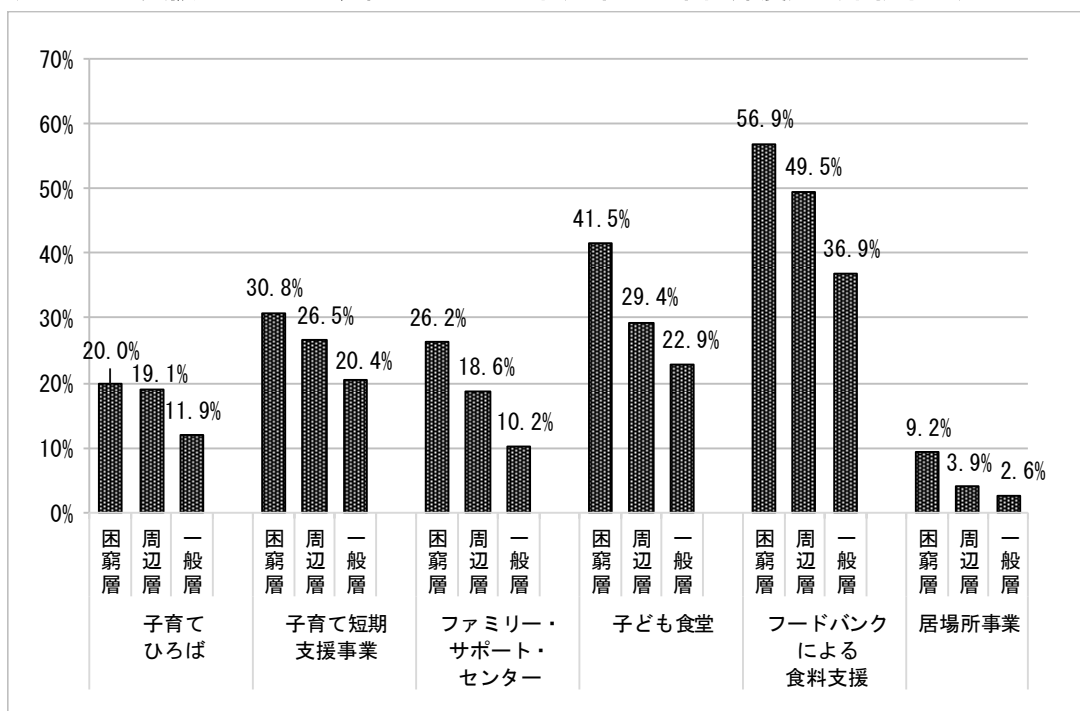
## ②生活困難度別の支援サービスの非認知による不利用

サービスの存在を知らなかったために利用しなかった保護者の割合を生活困難度別に見ると、未就学児では、生活困難度が上がるにつれて非認知による不利用率は高くなり、その他年齢層でも、おおむね一般層に比べて困窮層、周辺層で非認知による不利用率が高い傾向がうかがえる。

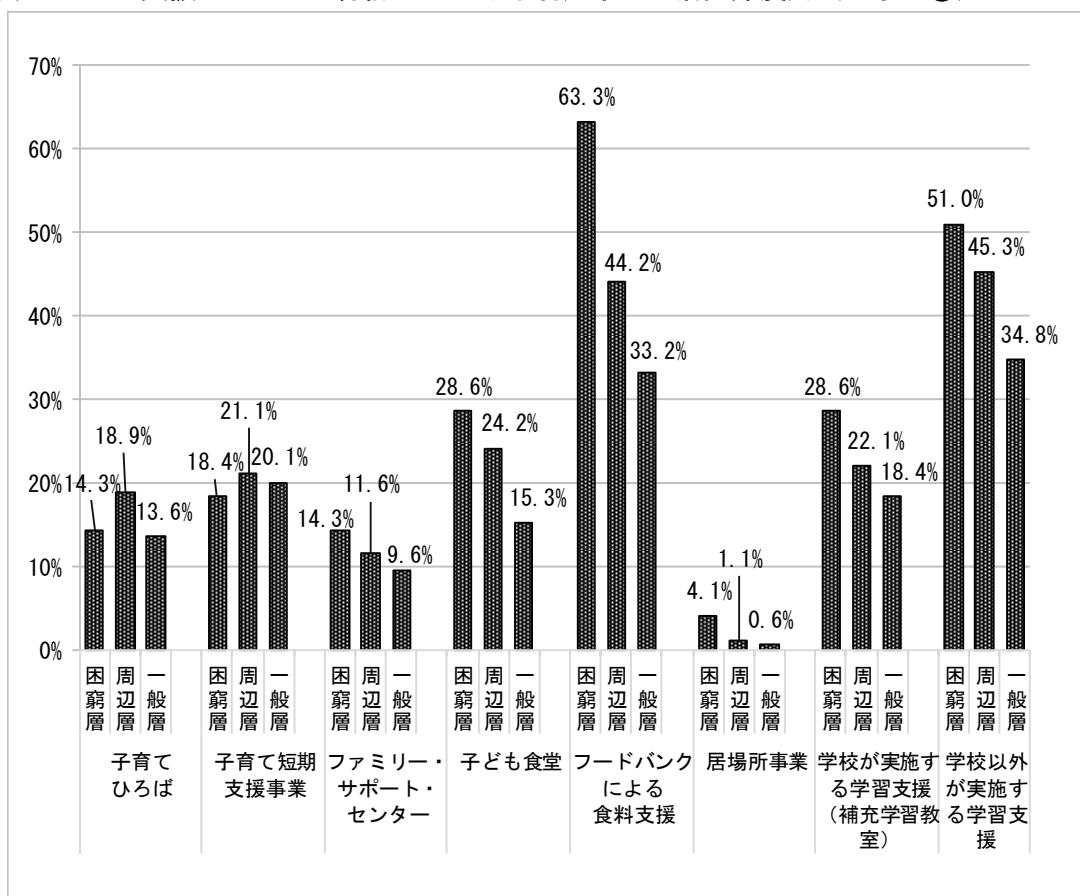
「フードバンクによる食料支援」は全ての年齢層で一般層に比べて困窮層、周辺層で高く未就学児で困窮層が 56.9% に対し、一般層が 36.9% と 20 ポイントの差があり、小学生①でも困窮層が 63.3% に対し、一般層が 33.2% と 30.1 ポイントの差がある。中学生では、「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」共に周辺層が最も高く、困窮層、一般層と続き、周辺層と一般層の差はそれぞれ 19.4 ポイント、25.9 ポイントとなっている。小学生②でも「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」は困窮層で最も高いことから生活困難度が高い世帯で食料支援の制度を知らないために利用に至っていない傾向がうかがえる。

さらに、学習支援サービス（「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」、「学校以外が実施する学習支援」）では特に小学生①で困窮層と一般層に差があり、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」では困窮層が 28.6% に対し、一般層が 18.4% と 10.2 ポイント、「学校以外が実施する学習支援」では困窮層が 51.0% に対し、一般層が 34.8% と 16.2 ポイントの差がある。小学生②、中学生では差はあるものの小学生①ほどの大きな差異は見られなかった。

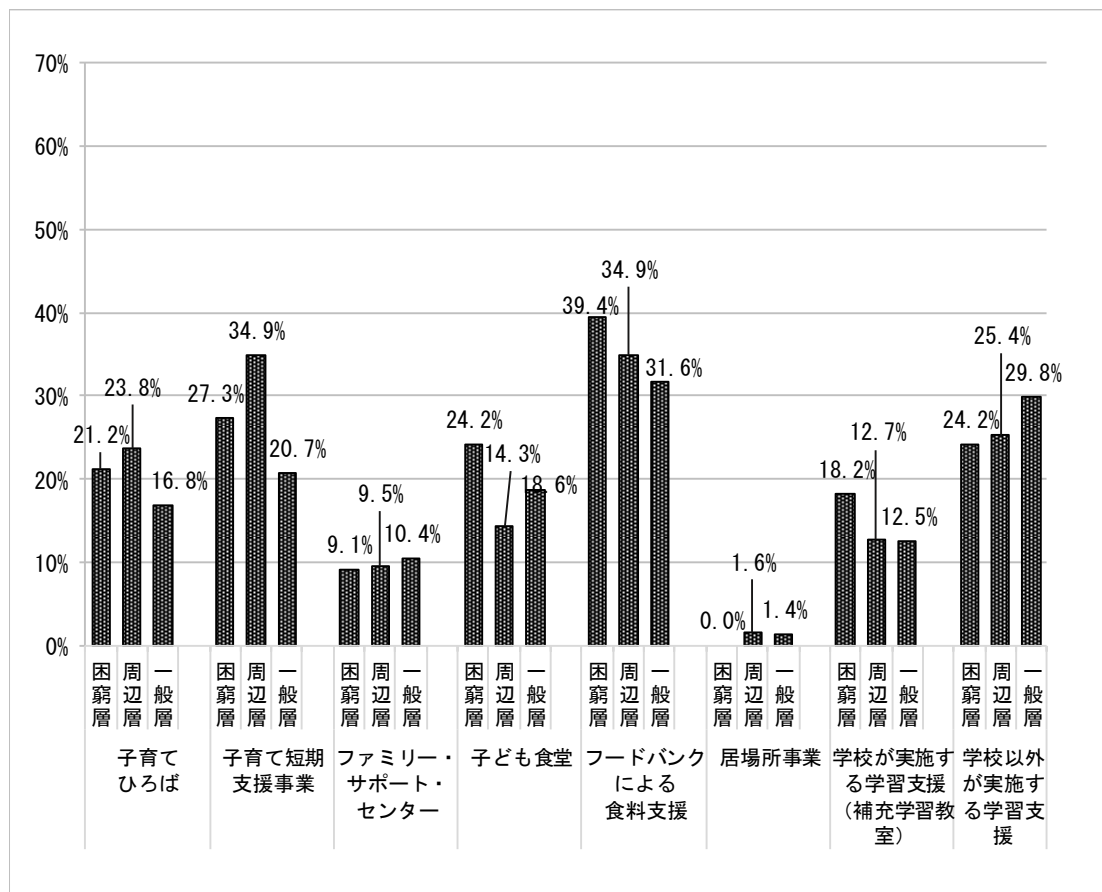
図表 7-3-13 支援サービスの非認知による不利用率：生活困難度別（未就学児）



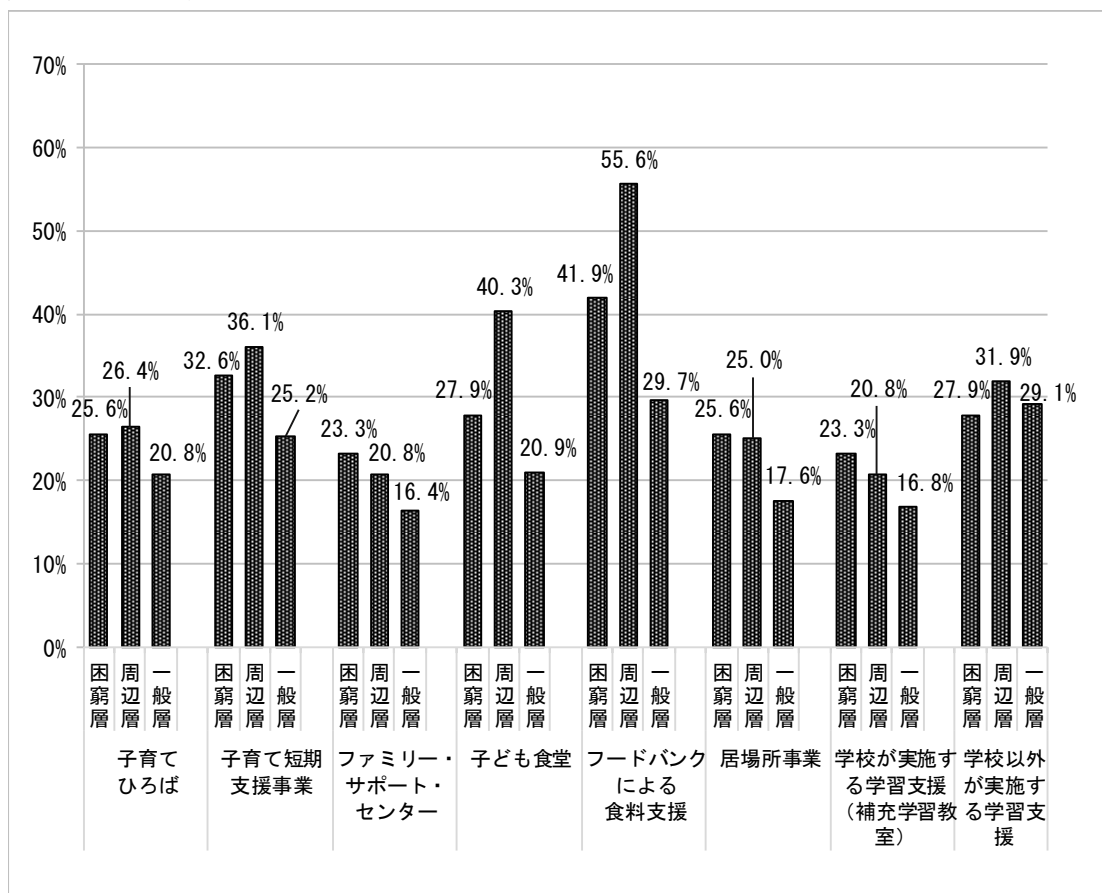
図表 7-3-14 支援サービスの非認知による不利用率：生活困難度別（小学生①）



図表 7-3-15 支援サービスの非認知による不利用率：生活困難度別（小学生②）



図表 7-3-16 支援サービスの非認知による不利用率：生活困難度別（中学生）

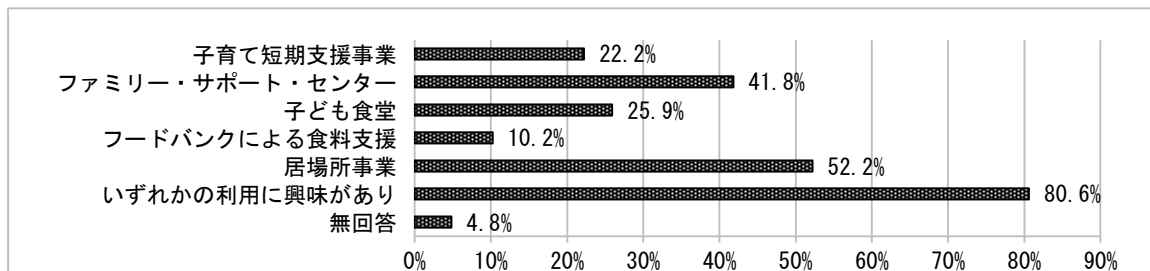


### (3) 保護者の支援サービス利用意向

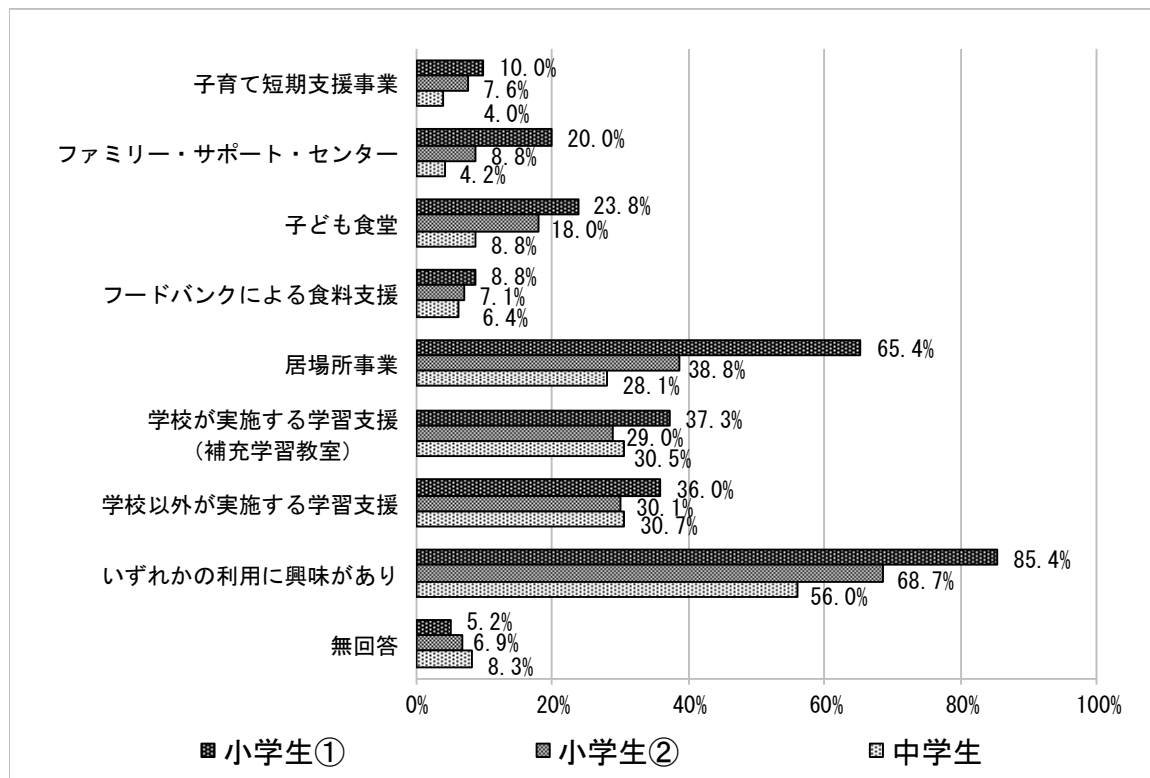
#### ①年齢別の保護者の支援サービス利用意向

子どもの保護者に「現在、これらの支援制度等を利用することに興味がありますか」と、今後の支援サービスの利用意向を聞いた。未就学児では「居場所事業」(52.2%)が最も高く、次いで「ファミリー・サポート・センター」(41.8%)、「子ども食堂」(25.9%)となっている。小学生①では「居場所事業」(65.4%)が最も高く、次いで「学校が実施する学習支援(補充学習教室)」(37.3%)、「学校以外が実施する学習支援」(36.0%)となっている。小学生②では「居場所事業」(38.8%)が最も高く、次いで「学校以外が実施する学習支援」(30.1%)、「学校が実施する学習支援(補充学習教室)」(29.0%)となっている。中学生では「学校以外が実施する学習支援」(30.7%)が最も高く、次いで「学校が実施する学習支援(補充学習教室)」(30.5%)、「居場所事業」(28.1%)となっている。また、「いずれかの利用に興味あり」と回答した保護者の割合は、未就学児が80.6%、小学生①が85.4%、小学生②が68.7%、中学生が56.0%であった。

図表 7-3-17 支援サービスの利用意向(未就学児)



図表 7-3-18 支援サービスの利用意向(小学生①②、中学生)





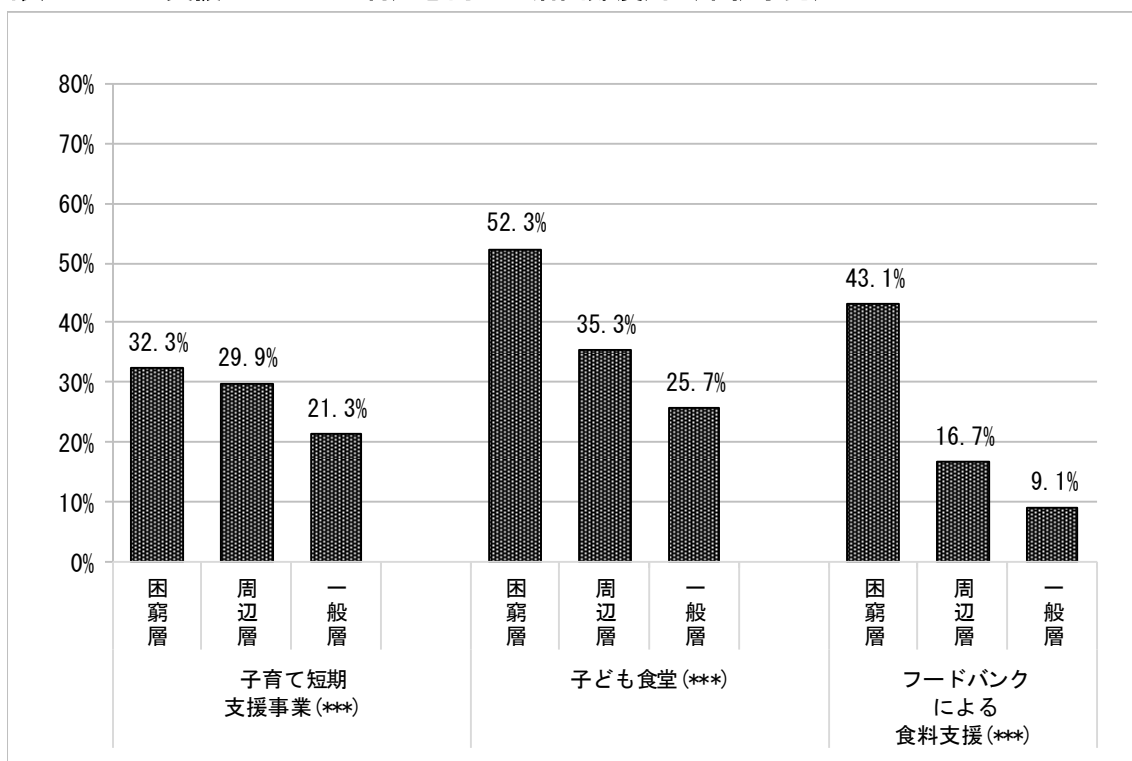
## ②生活困難度別の支援サービスの利用意向

生活困難度別に見ると、未就学児は「子育て短期支援事業」、「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」、小学生①は「子育て短期支援事業」、「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」、「居場所事業」、小学生②は「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」、「学校以外が実施する学習支援」、中学生は「子育て短期支援事業」、「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」、「学校以外が実施する学習支援」の利用意向に統計的に有意な差があった。また、有意な差があったもののうち、小学生①の「居場所事業」を除く全ての項目で、困窮層の利用意向が最も高く、困窮層、周辺層、一般層の順に利用意向が高かった。

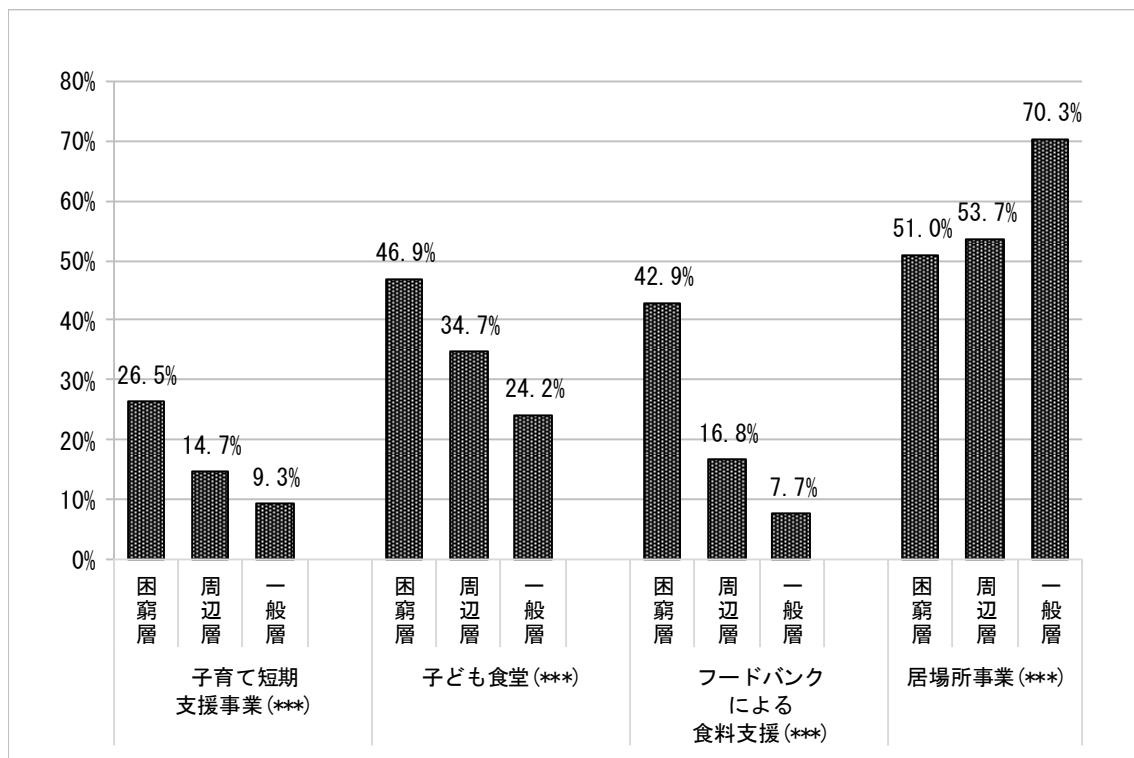
個別の支援サービスごとに見ていくと、未就学児では「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」といった食料支援の項目で高く、小学生①では「居場所事業」、小学生②、中学生では「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」、「学校以外が実施する学習支援」といった学習支援の項目で高くなっている。

困窮層と一般層で20ポイント以上の差がある項目としては、未就学児では「子ども食堂」（26.6ポイント）、「フードバンクによる食料支援」（34.0ポイント）、小学生①では「子ども食堂」（22.7ポイント）、「フードバンクによる食料支援」（35.2ポイント）、小学生②では「子ども食堂」（29.4ポイント）、「フードバンクによる食料支援」（27.9ポイント）、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」（24.5ポイント）、中学生では「フードバンクによる食料支援」（22.0ポイント）、「学校が実施する学習支援（補充学習教室）」（21.5ポイント）、「学校以外が実施する学習支援」（21.5ポイント）となっており、生活困難度による差が大きくなっている。

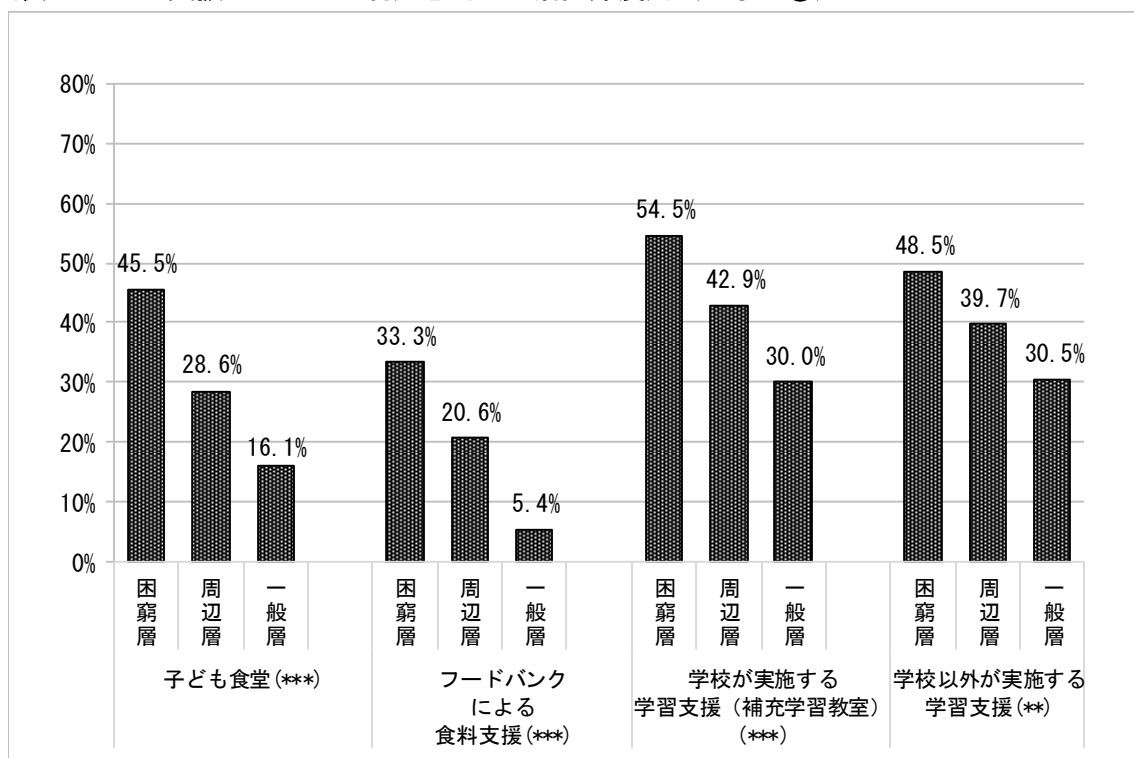
図表 7-3-19 支援サービスの利用意向：生活困難度別（未就学児）



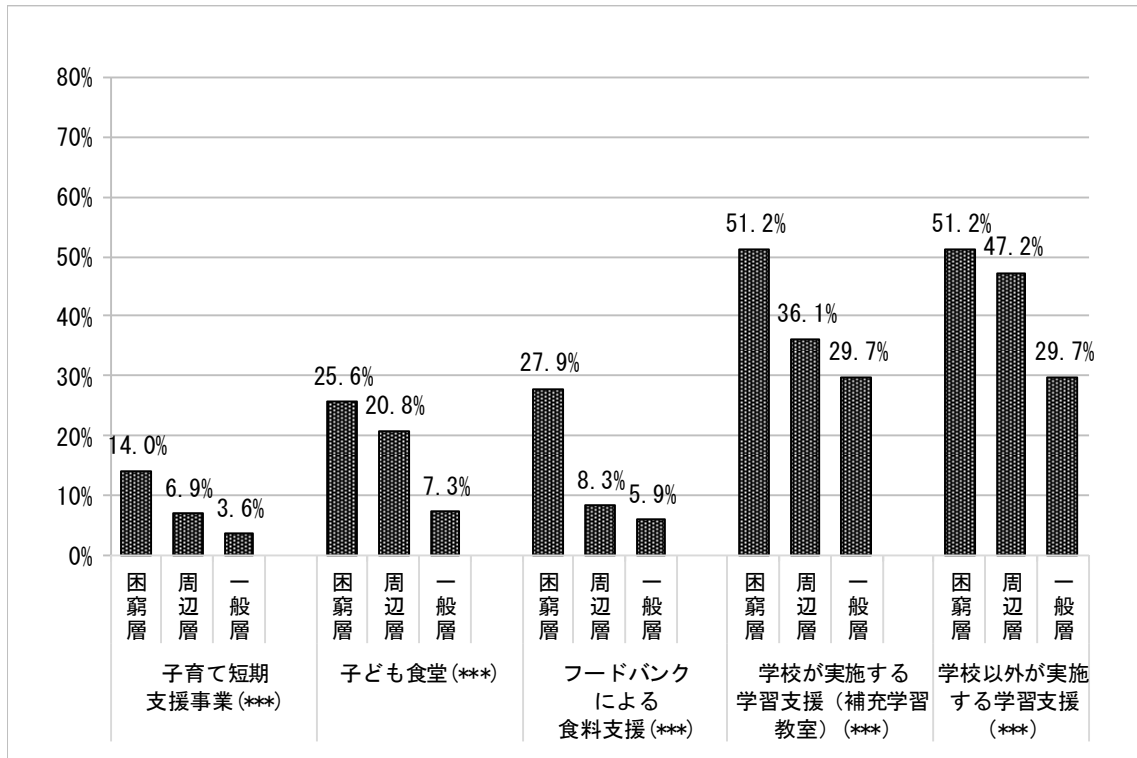
図表 7-3-20 支援サービスの利用意向：生活困難度別（小学生①）



図表 7-3-21 支援サービスの利用意向：生活困難度別（小学生②）



図表 7-3-22 支援サービスの利用意向：生活困難度別（中学生）

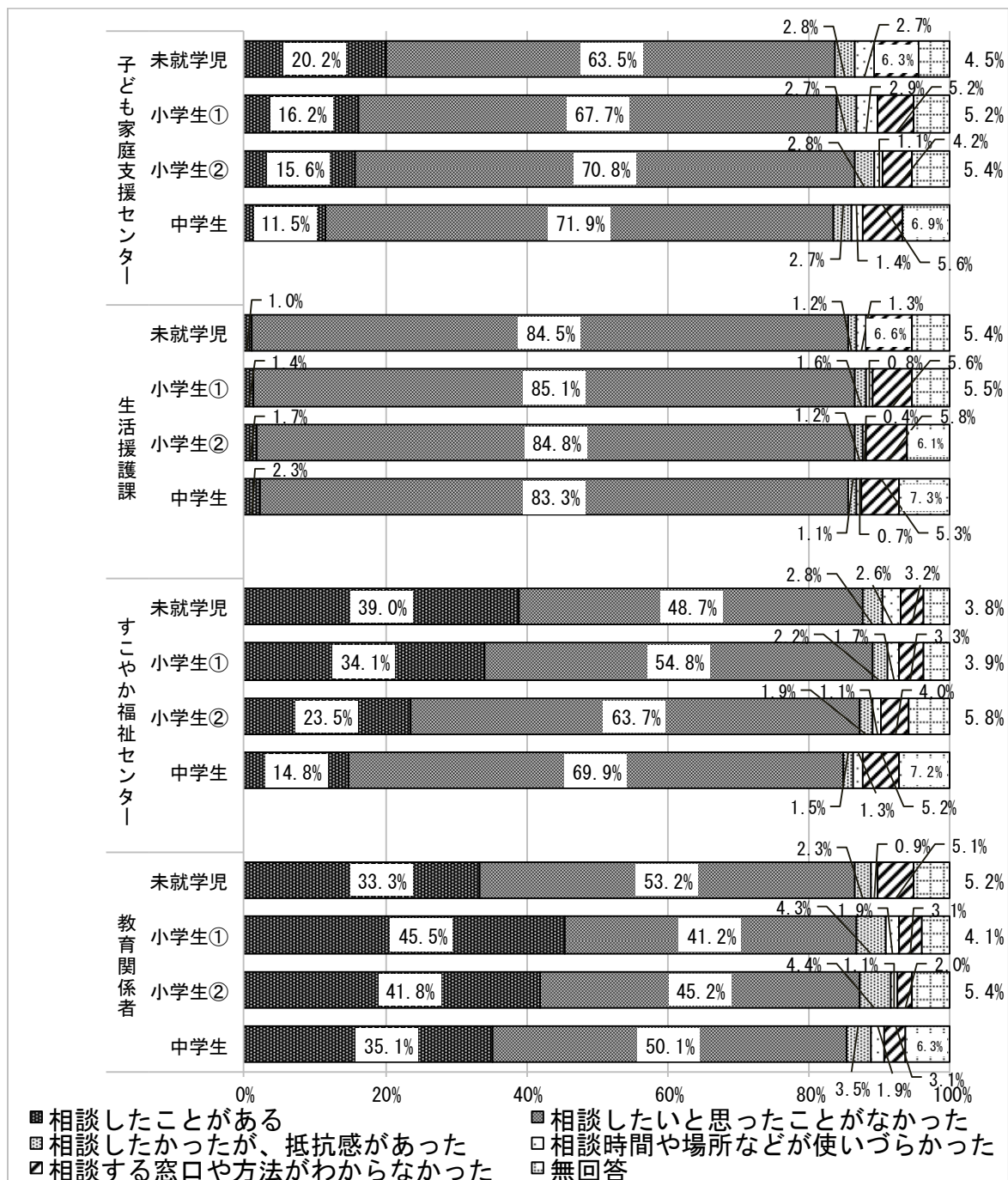


## 4 相談窓口の利用状況・認知状況

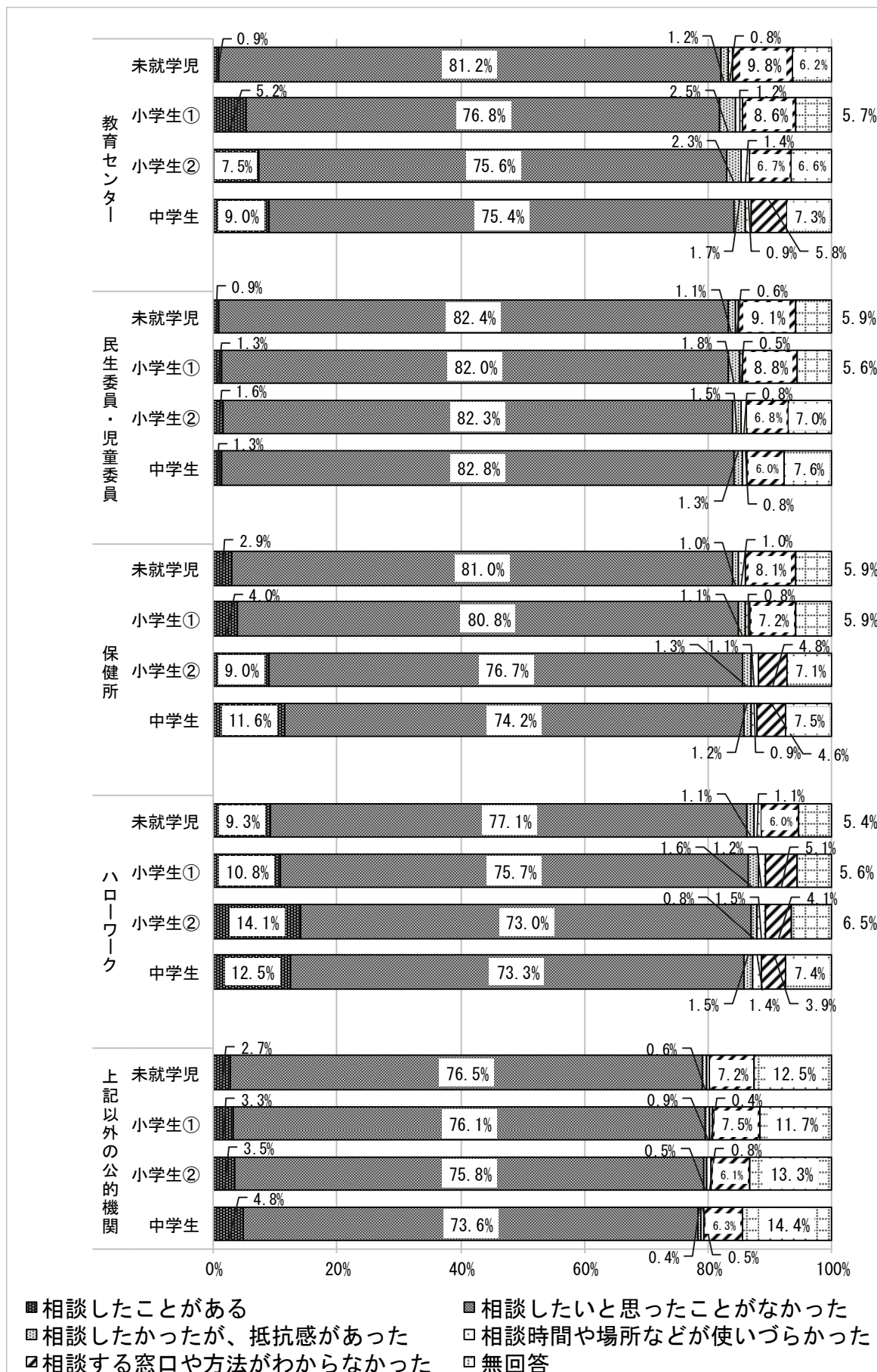
### (1) 相談窓口の利用状況

保護者に、「これまでに困ったときに公的機関に相談したことがありますか」と聞いた。全ての年齢層において学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど（グラフでは「教育関係者」と表記）について、3割以上の保護者が「相談したことがある」としている。子ども家庭支援センター、すこやか福祉センターは年齢層が上がるにつれて「相談したことがある」割合は低くなっているが、未就学児でそれぞれ20.2%、39.0%と他の項目に比べて高い。生活援護課、教育センター、保健所については年齢層が上がるにつれて「相談したことがある」割合は高くなっている。

図表 7-4-1 相談窓口の利用状況：年齢層別 (1/2)



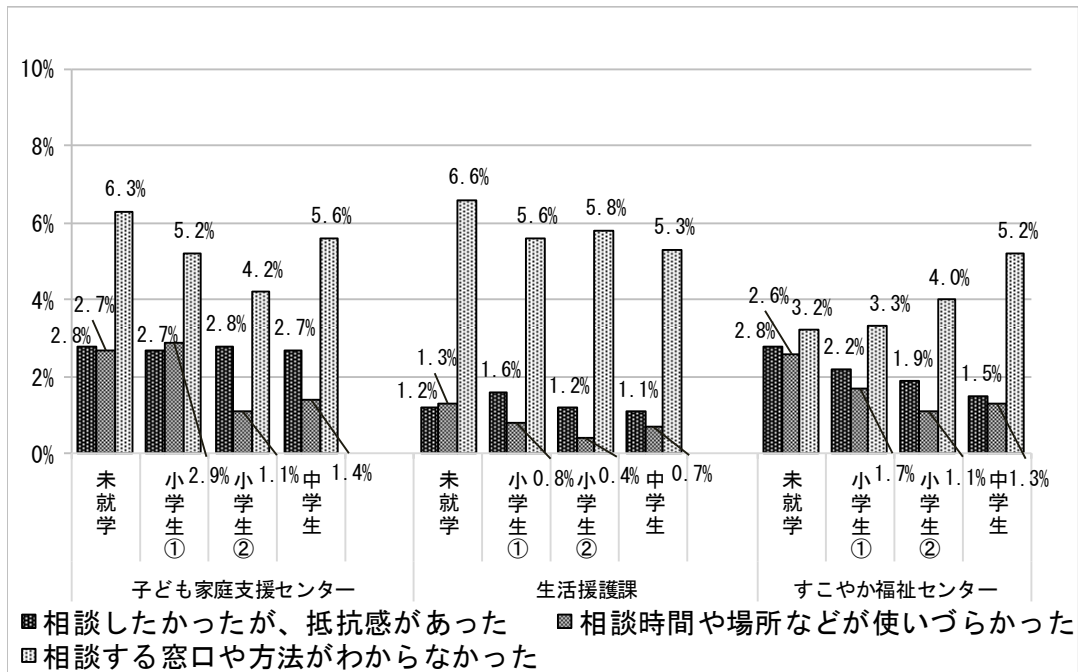
図表 7-4-2 相談窓口の利用状況：年齢層別 (2/2)



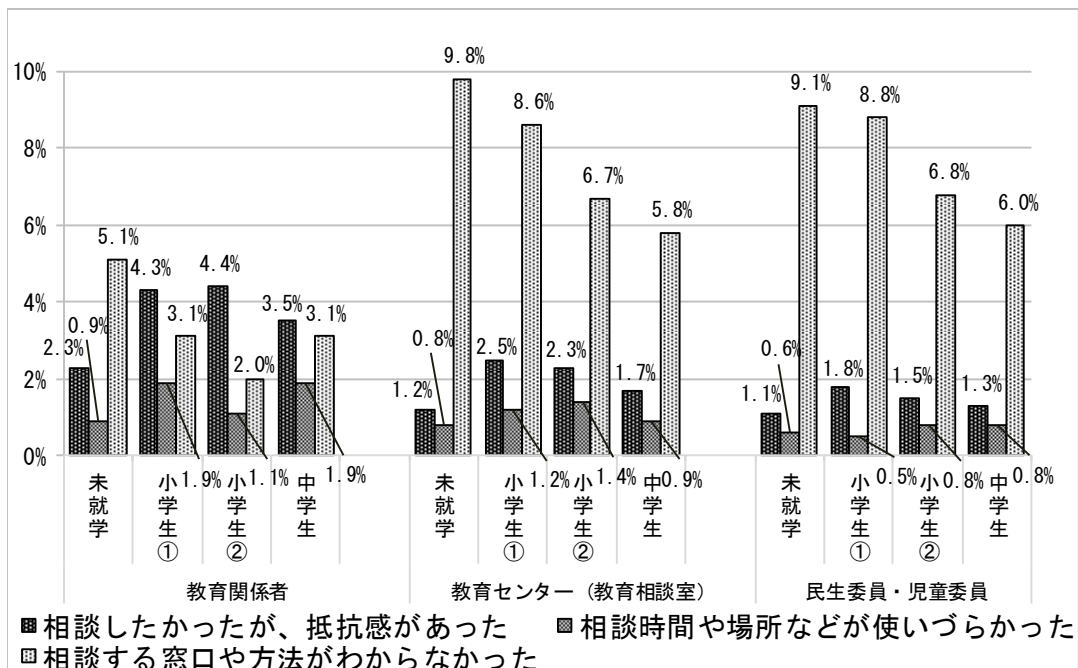
## (2) 相談したことがない理由

どの相談窓口についても、保護者が相談したことがない理由で最も割合が高いのはおおむね「相談したいと思ったことがなかった」であるが（小学生①の教育関係者は「相談したことがある」が最も高い）、一部の保護者はその他の理由（「相談したかったが、抵抗感があった」、「相談時間や場所が使いづらかった」、「相談する窓口や方法がわからなかった」）を挙げている。そこで、この3つの回答を選択した保護者の割合を見た。教育関係者を除く項目で全ての年齢層で「相談する窓口や方法がわからなかった」が最も高くなっているが、「教育関係者」については未就学児を除く年齢層で「相談したかったが、抵抗感があった」の割合が最も高い。未就学児では「相談する窓口や方法がわからなかった」が最も高い。

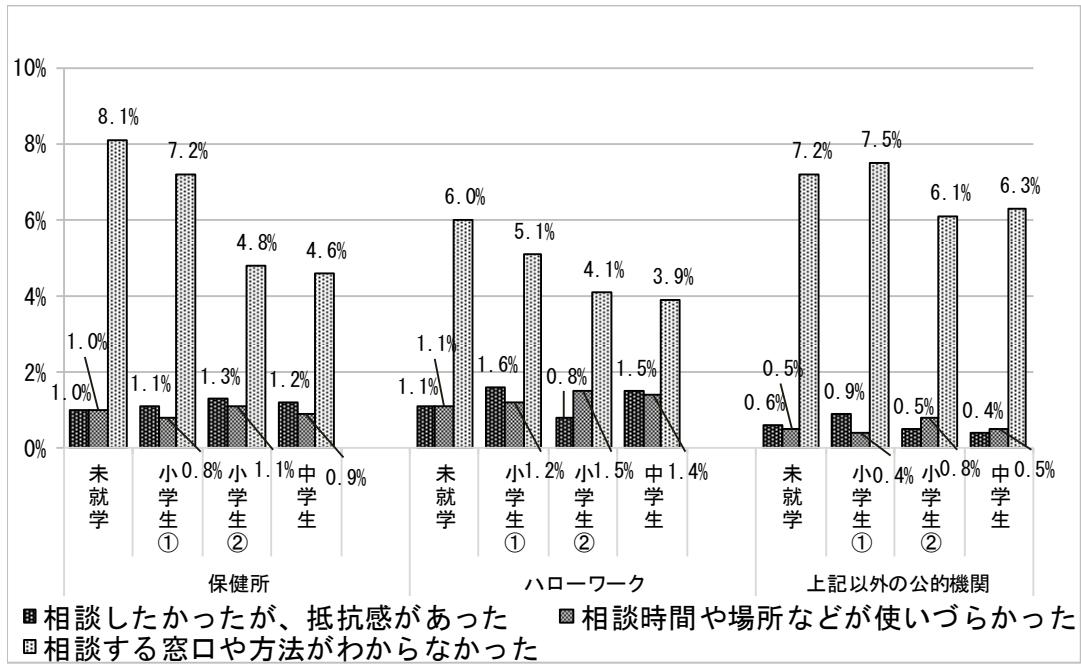
図表 7-4-3 相談窓口を利用しなかった理由(1/3)



図表 7-4-4 相談窓口を利用しなかった理由(2/3)



図表 7-4-5 相談窓口を利用しなかった理由(3/3)







## 第8部 中野区の環境について



## 1 保護者から見た中野区的环境

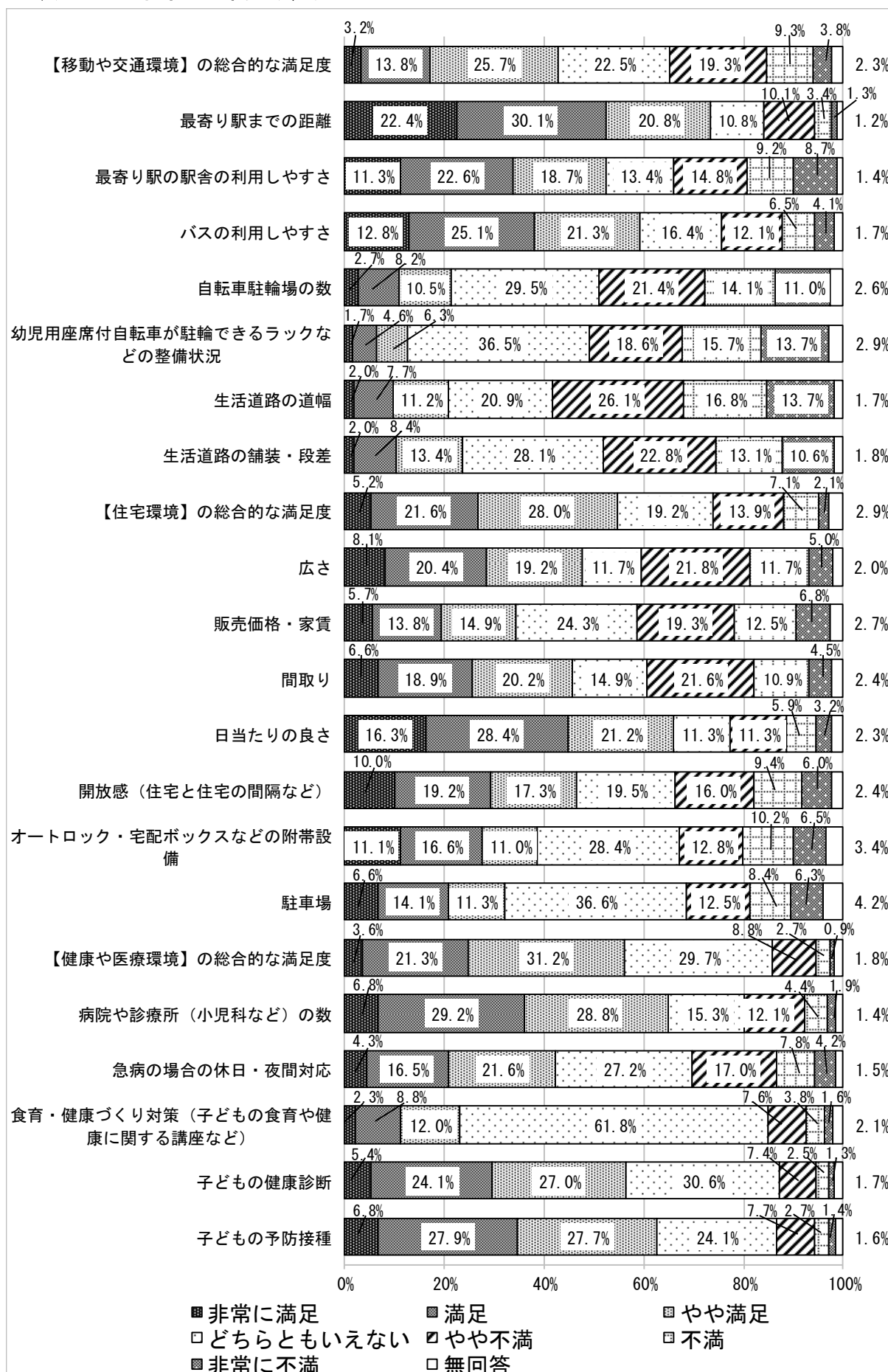
### (1) 中野区の各種環境

保護者から見た中野区の各種環境の満足度を聞いた。個別の項目の『満足度』（「非常に満足」、「満足」、「やや満足」）は、「最寄り駅までの距離」が73.3%で最も高く、次いで「日当たりの良さ」が65.9%、「病院や診療所（小児科など）の数」が64.8%、「子どもの予防接種」が62.4%、「バスの利用しやすさ」が59.2%、「子どもの健康診断」が56.5%、「町会・商店街の催しやお祭など」が55.1%、「最寄り駅の駅舎の利用しやすさ」が52.6%、「図書館など本に親しめる場所」が52.4%と上記項目で過半数を超えている。また、総合的な『満足度』としては、「【健康や医療環境】の総合的な満足度」が56.1%で最も高く、次いで「【住宅環境】の総合的な満足度」が54.8%と過半数を超えている。

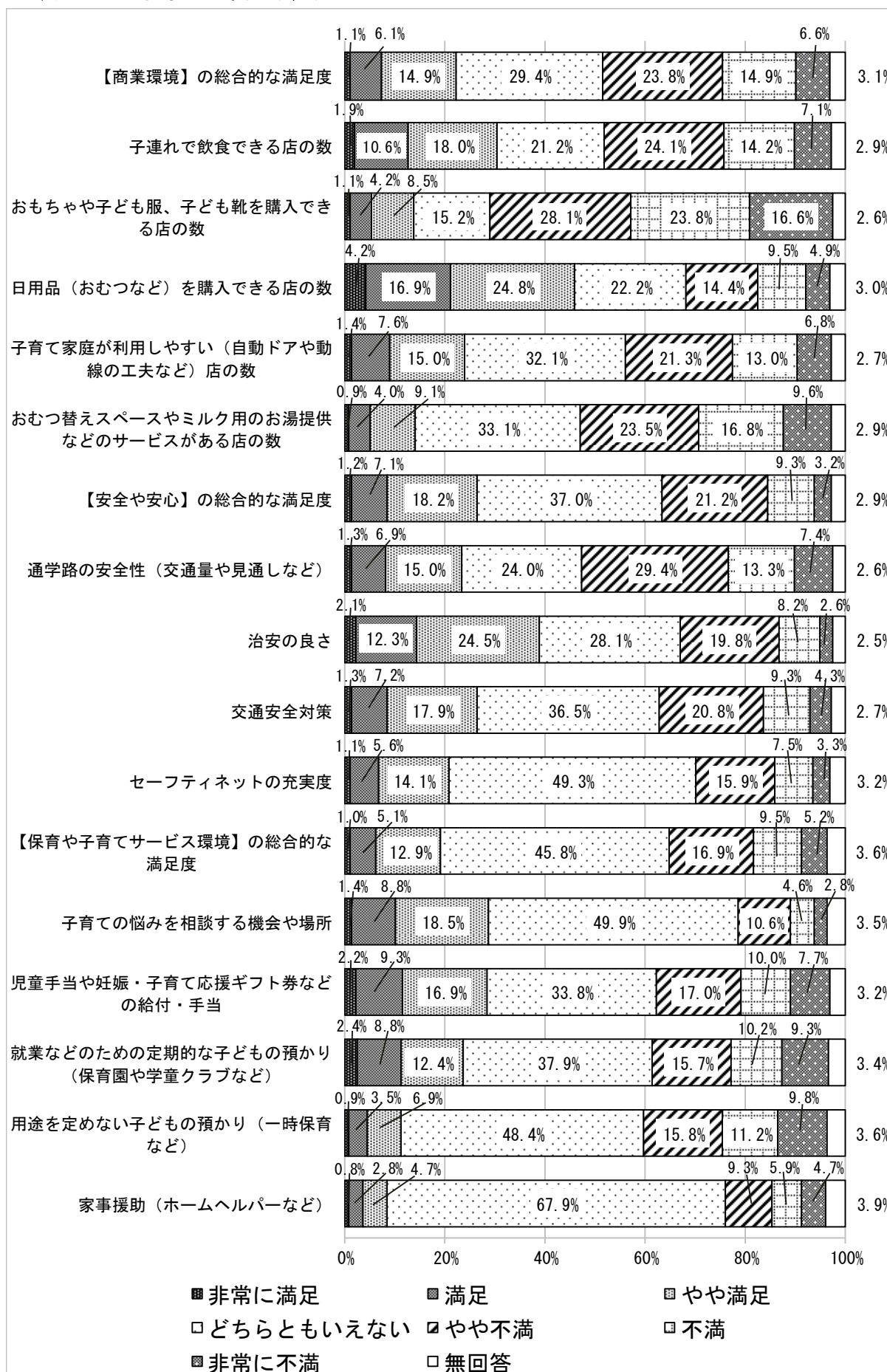
『不満足度』（「やや不満」、「不満」、「非常に不満」）は、「屋内で遊べる施設」が75.6%で最も高く、次いで「おもちゃや子ども服、子ども靴を購入できる店の数」が68.5%、「子どもが利用しやすい公園の設備（トイレなど）」が63.0%、「子どもが遊べる公園の遊具」が58.6%、「子どもがのびのびと過ごせる自然」が56.8%、「生活道路の道幅」が56.6%、「通学路の安全性（交通量や見通しなど）」、「子どもが遊べる公園の数」が50.1%と過半数を超えている。総合的な『不満足度』としては、「【遊び・憩いの環境】の総合的な満足度」が59.6%で唯一過半数を超えている。

個別の項目の『D. I.』（『満足度』－『不満足度』）は、「最寄り駅までの距離」が58.5ポイントで最も高く、次いで「子どもの予防接種」が50.6ポイント、「病院や診療所（小児科など）の数」が46.4ポイント、「日当たりの良さ」が45.5ポイント、「子どもの健康診断」、「町会・商店街の催しやお祭など」が45.3ポイントで高い。一方、『D. I.』の低い項目は、「屋内で遊べる施設」が-67.3ポイントで最も低く、「おもちゃや子ども服、子ども靴を購入できる店の数」が-54.7ポイント、「子どもが利用しやすい公園の設備（トイレなど）」が-48.1ポイントで低い。総合的な満足度は「【健康や医療環境】の総合的な満足度」が43.7ポイントで最も高く、「【遊び・憩いの環境】の総合的な満足度」が-42.8ポイントで最も低い。

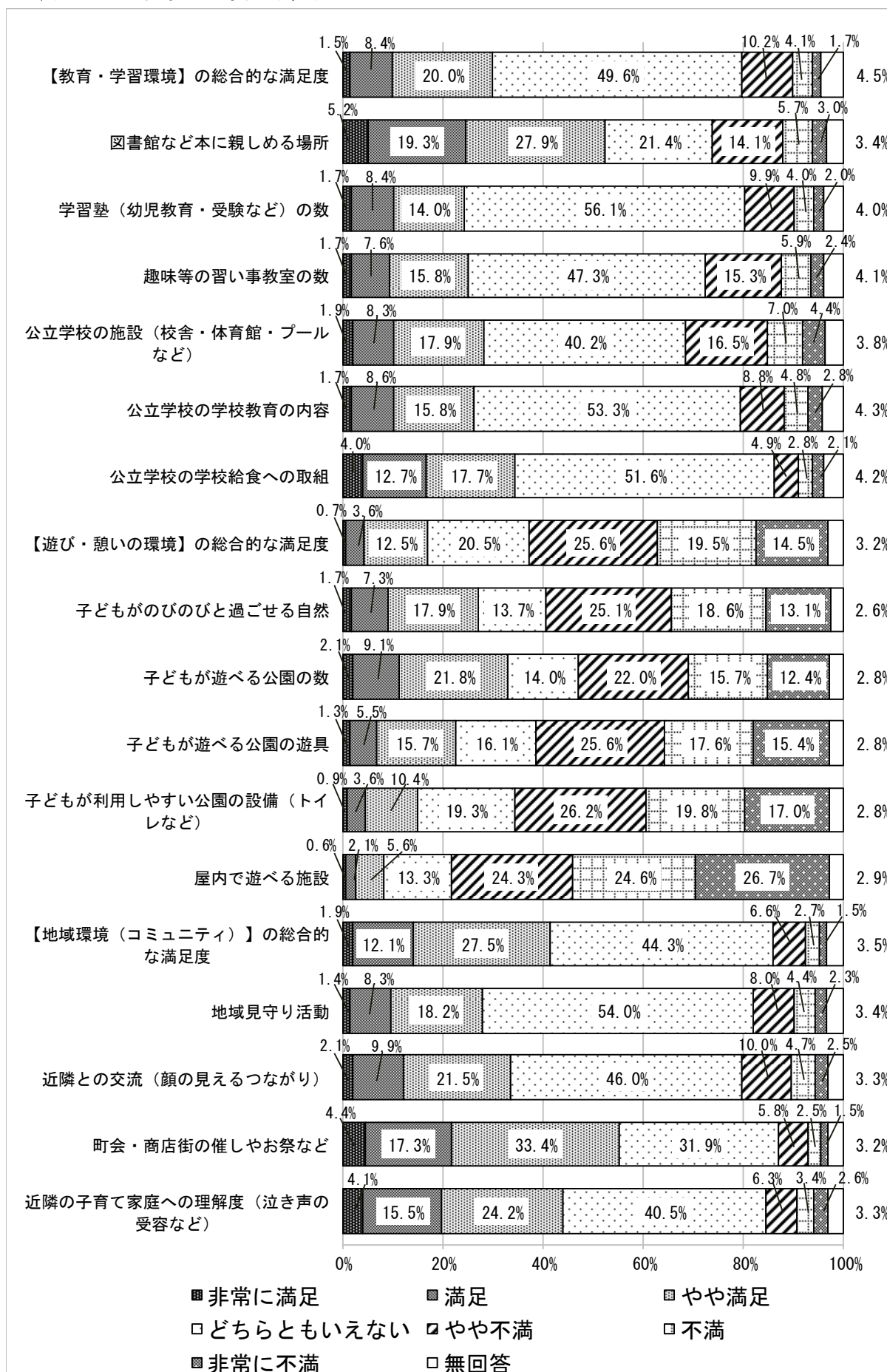
図表 8-1-1 中野区的环境 (1/3)



図表 8-1-2 中野区的环境 (2/3)



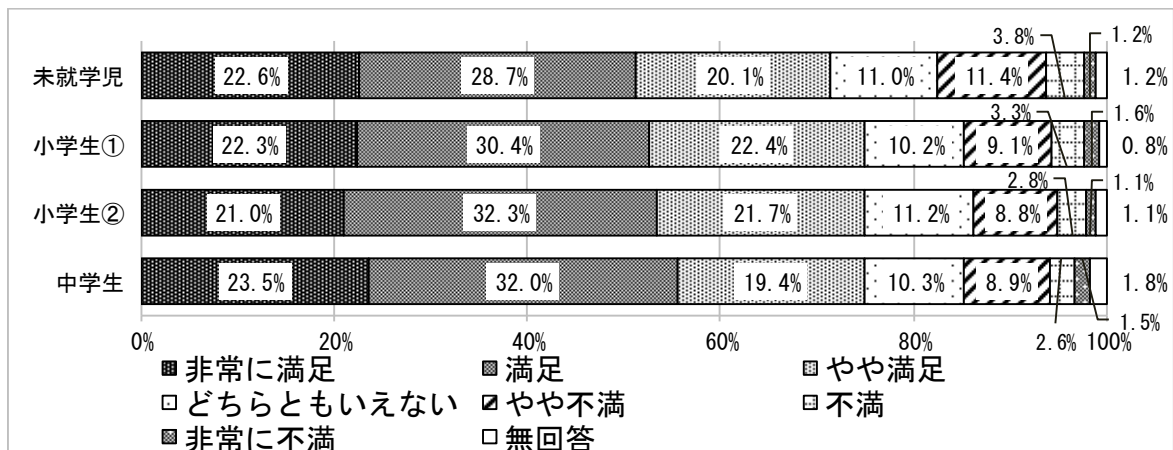
図表 8-1-3 中野区的环境 (3/3)



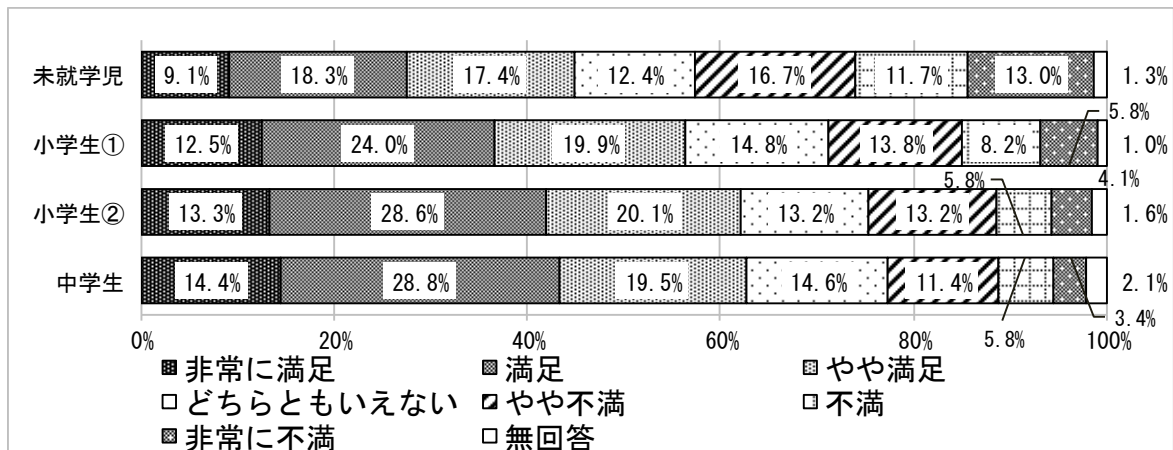
(2) 中野区の移動や交通環境について

中野区の移動や交通環境の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層で「最寄り駅までの距離」、「最寄り駅の駅舎の利用しやすさ」、「バスの利用しやすさ」で『不満足度』に比べて『満足度』が高く、「自転車駐輪場の数」、「幼児用座席付自転車が駐輪できるラックなどの整備状況」、「生活道路の道幅」、「生活道路の舗装・段差」で『満足度』に比べて『不満足度』が高かった。「【移動や交通環境】の総合的な満足度」は、全ての年齢層で『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。「最寄り駅の駅舎の利用しやすさ」は未就学児で、「幼児用座席付自転車が駐輪できるラックなどの整備状況」は小学生①で他の年齢層に比べて『不満足度』が高かった。

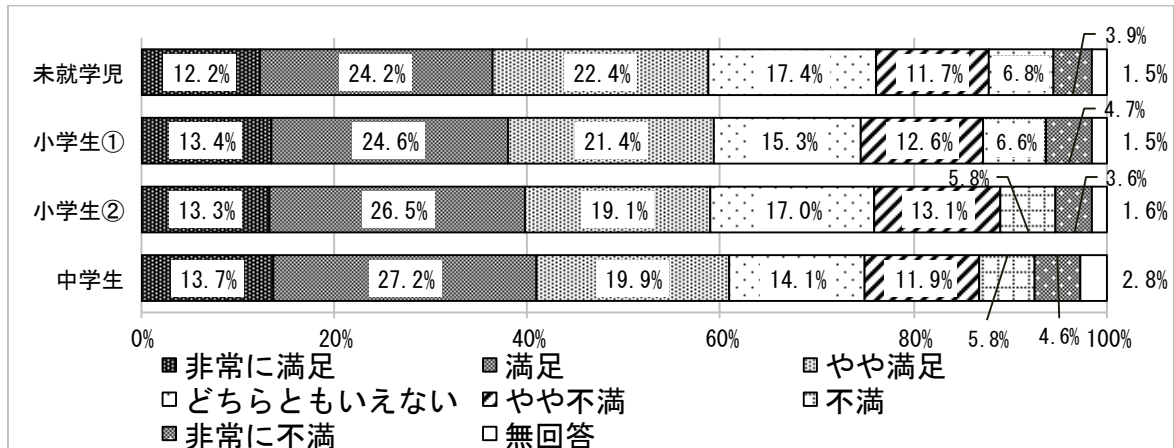
図表 8-1-4 最寄り駅までの距離：年齢層別



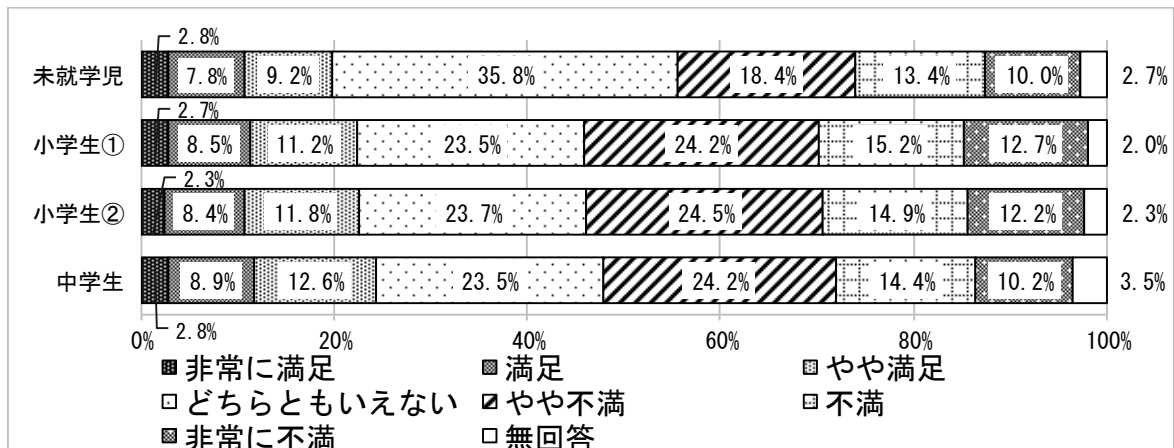
図表 8-1-5 最寄り駅の駅舎の利用しやすさ：年齢層別



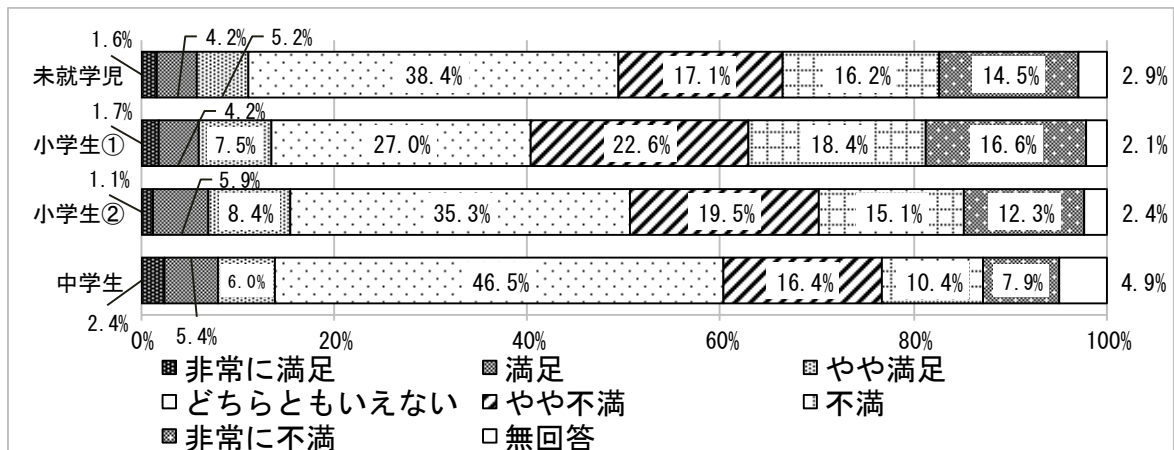
図表 8-1-6 バスの利用しやすさ：年齢層別



図表 8-1-7 自転車駐輪場の数：年齢層別

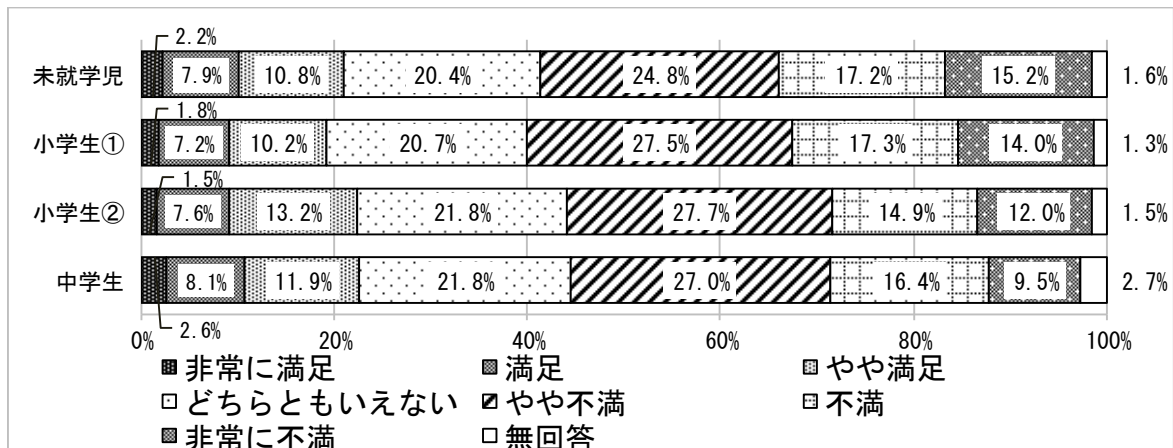


図表 8-1-8 幼児用座席付自転車が駐輪できるラックなどの整備状況：年齢層別

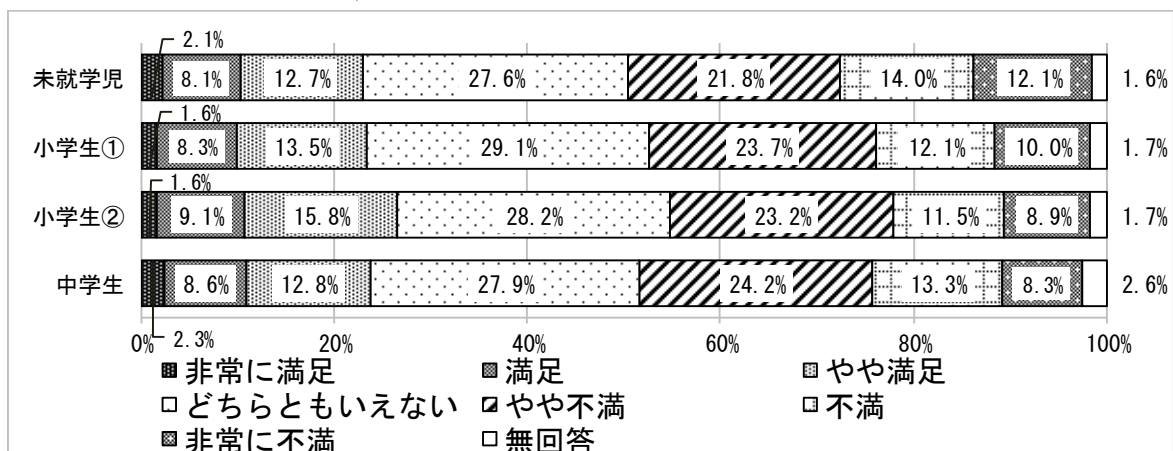




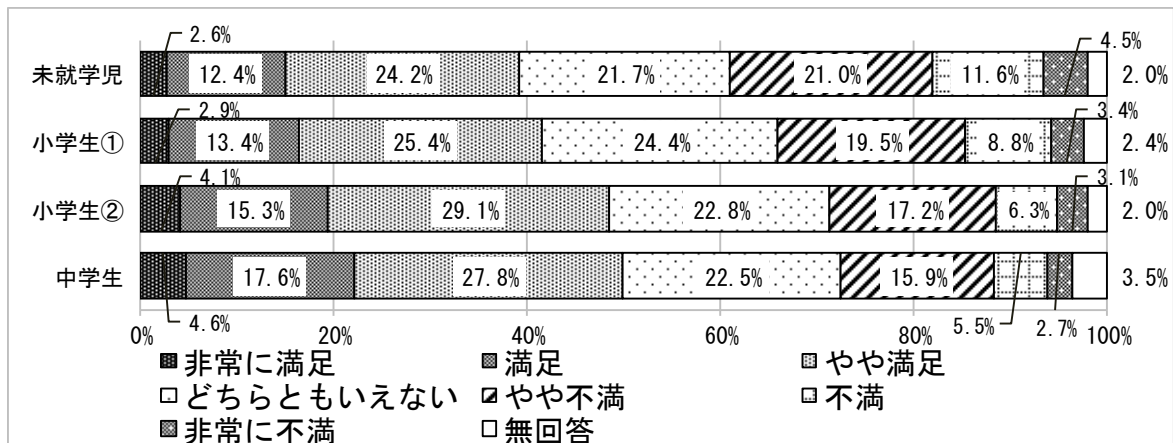
図表 8-1-9 生活道路の道幅：年齢層別



図表 8-1-10 生活道路の舗装・段差：年齢層別



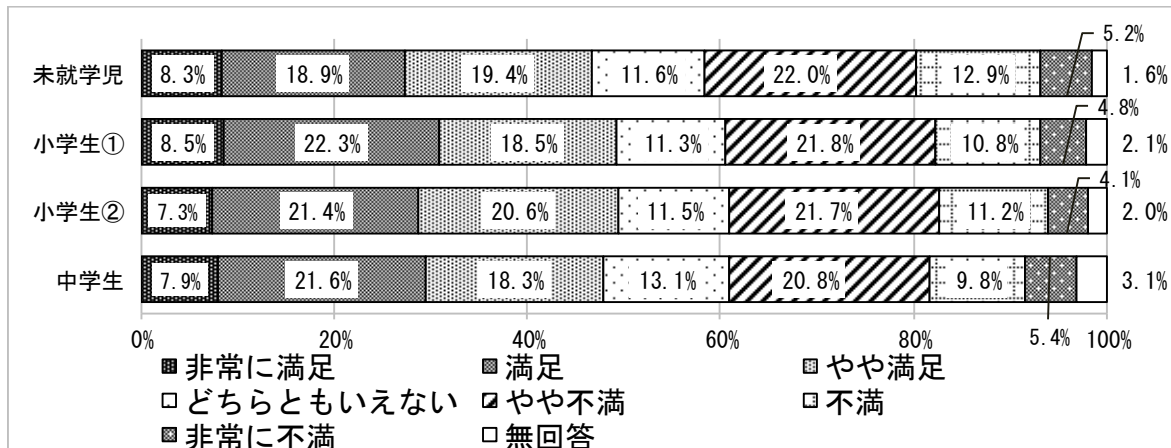
図表 8-1-11 【移動や交通環境】の総合的な満足度：年齢層別



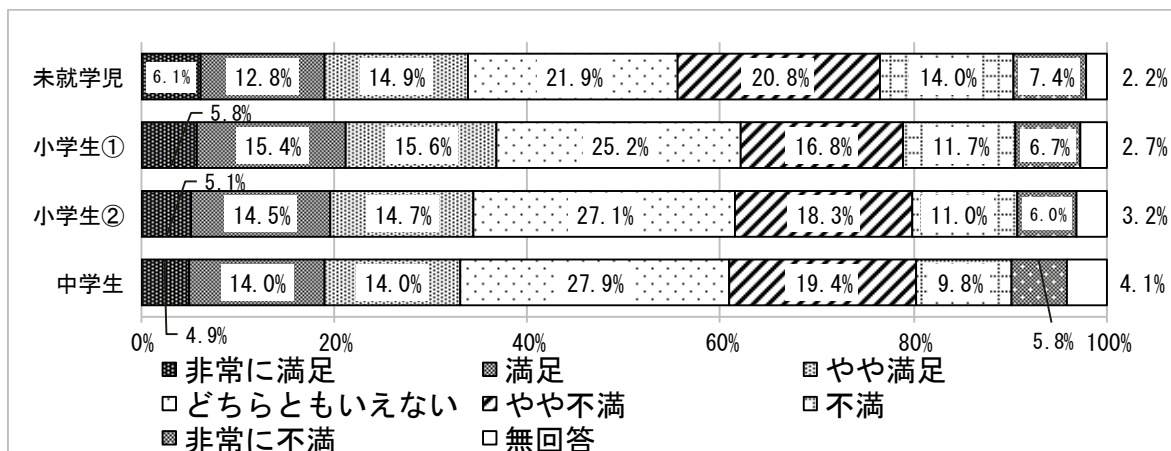
### (3) 中野区の住宅環境について

中野区の住宅環境の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層の「販売価格・家賃」を除く項目で『不満足度』に比べて『満足度』が高く、「販売価格・家賃」では、未就学児、小学生②、中学生では『満足度』に比べて『不満足度』が高いが、小学生①では『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。「【住宅環境】の総合的な満足度」は、全ての年齢層で『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。

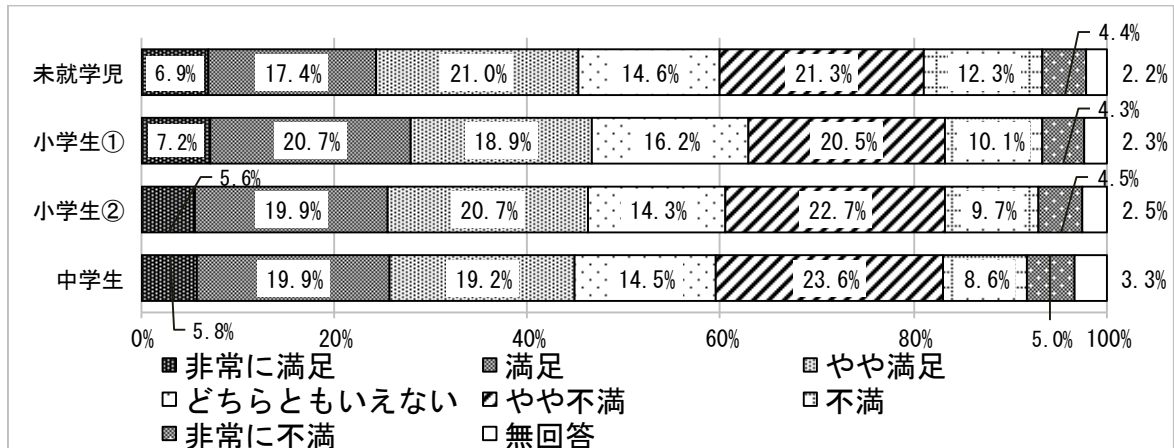
図表 8-1-12 広さ：年齢層別



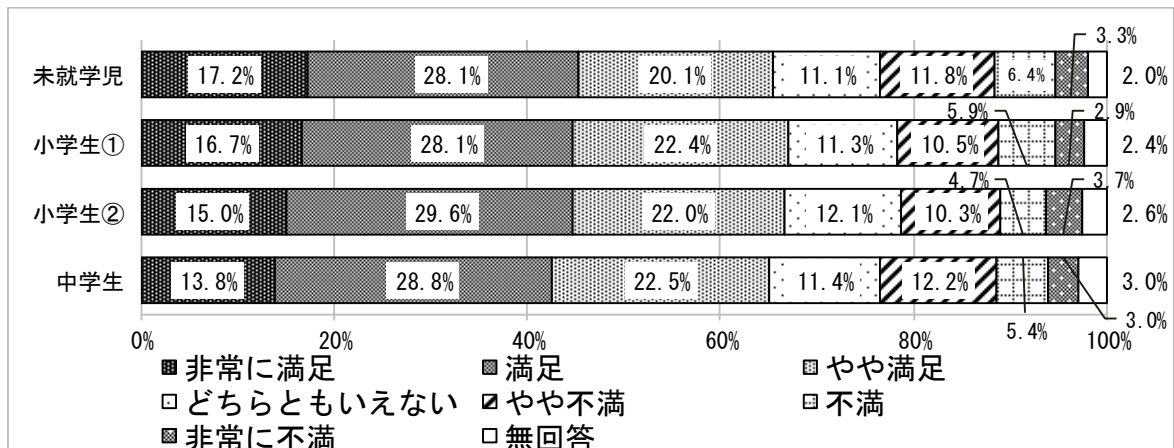
図表 8-1-13 販売価格・家賃：年齢層別



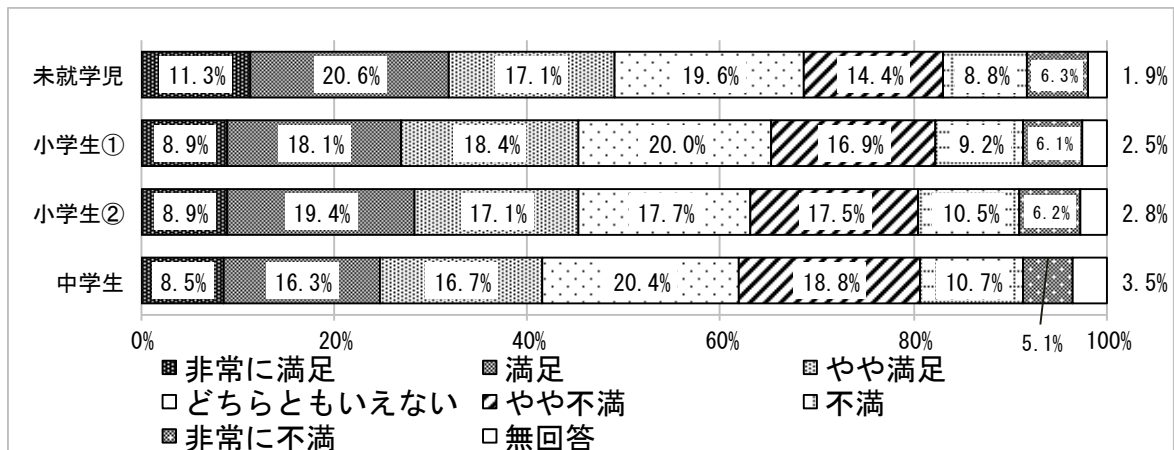
図表 8-1-14 間取り：年齢層別



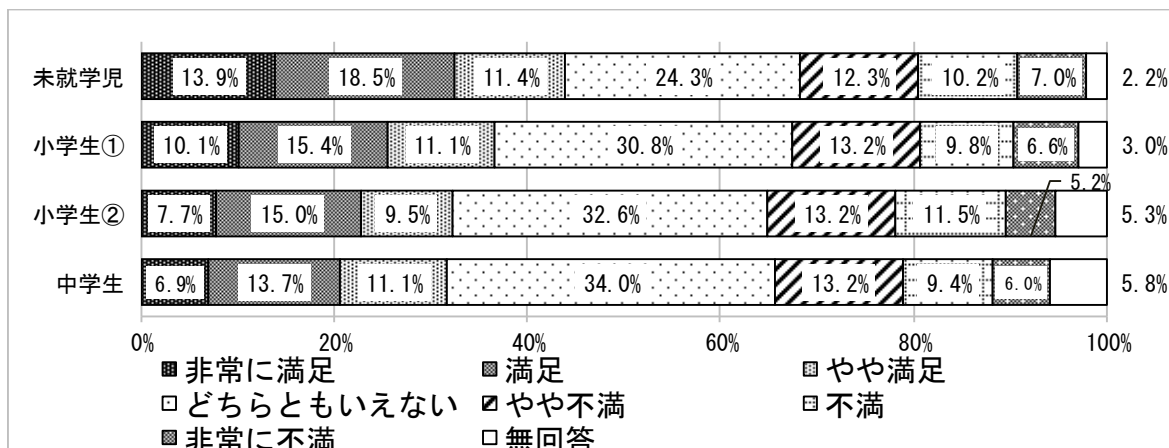
図表 8-1-15 日当たりの良さ：年齢層別



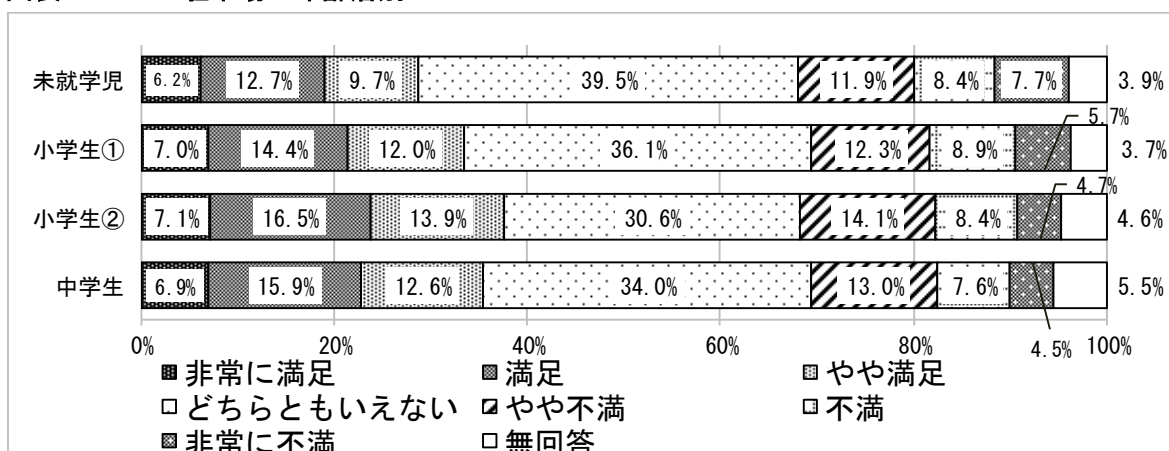
図表 8-1-16 開放感（住宅と住宅の間隔など）：年齢層別



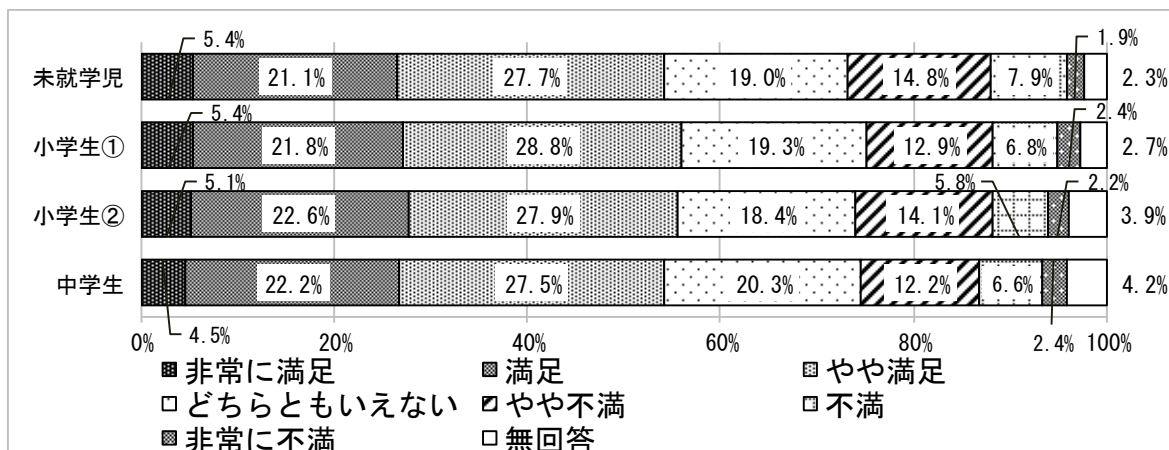
図表 8-1-17 オートロック・宅配ボックスなどの付帯設備：年齢層別



図表 8-1-18 駐車場：年齢層別



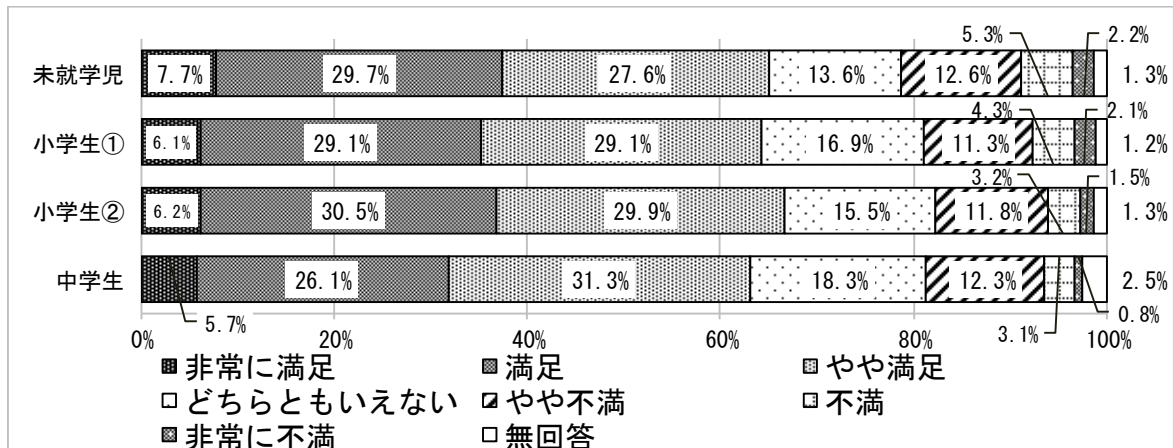
図表 8-1-19 【住宅環境】の総合的な満足度：年齢層別



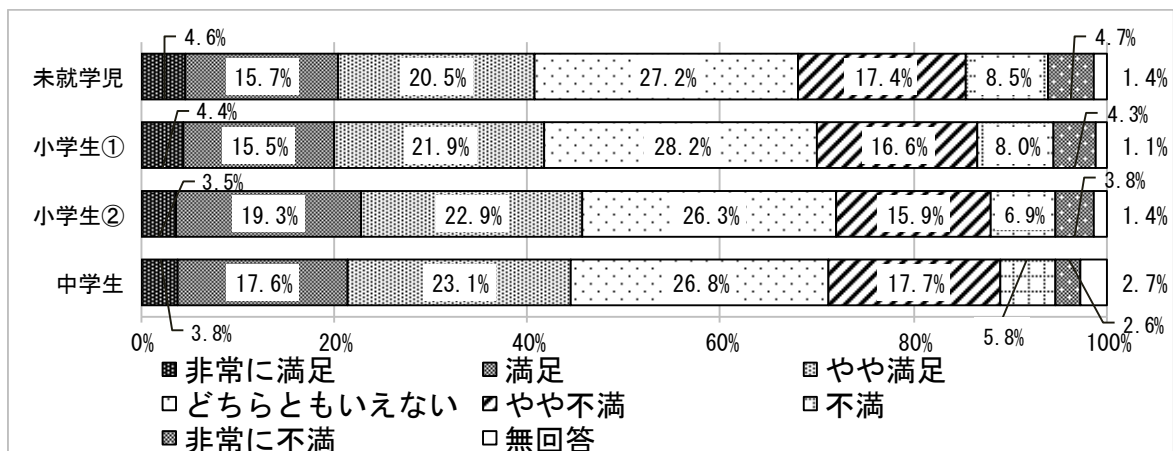
(4) 中野区の健康や医療環境について

中野区の健康や医療環境の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層の全ての項目で『不満足度』に比べて『満足度』が高い。特に「病院や診療所（小児科など）の数」では全ての年齢層で『満足度』が6割を超えており、「子どもの予防接種」も全ての年齢層で5割を超えている。【健康や医療環境】の総合的な満足度は、全ての年齢層で『不満足度』に比べて『満足度』が高く、『満足度』は5割を超えている。

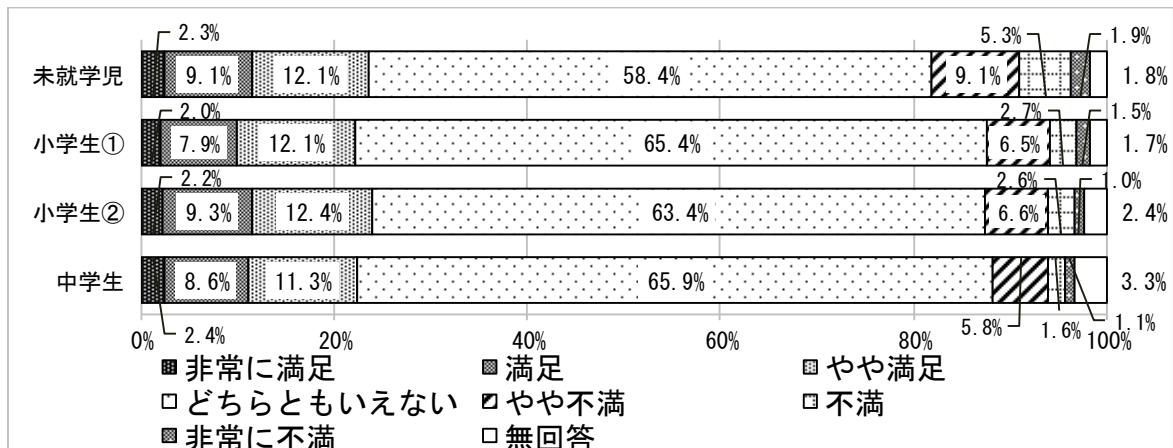
図表 8-1-20 病院や診療所（小児科など）の数：年齢層別



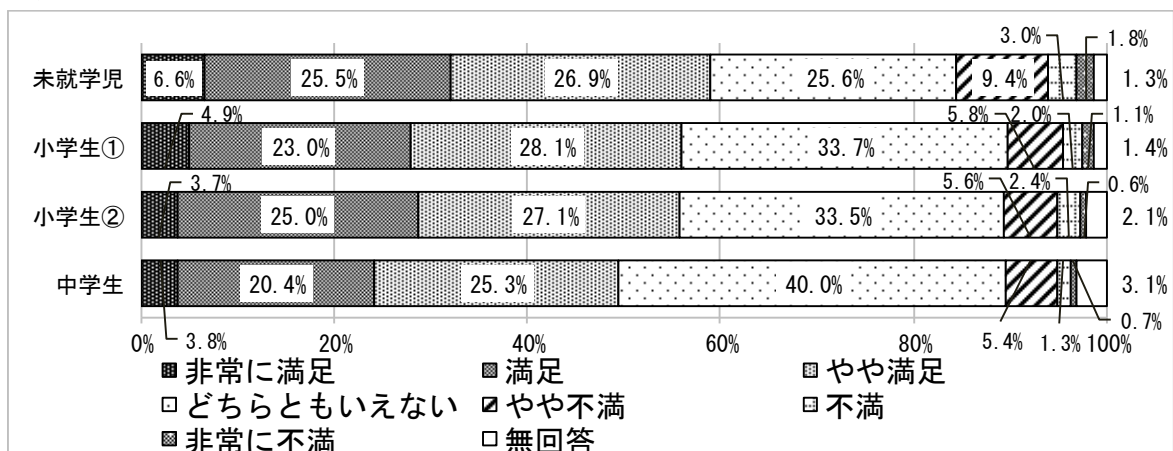
図表 8-1-21 急病の場合の休日・夜間対応：年齢層別



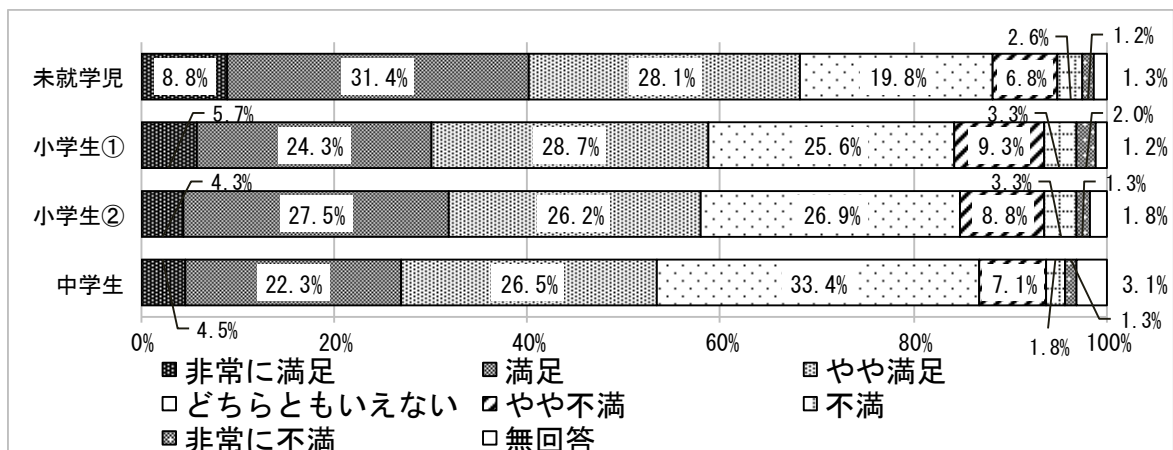
図表 8-1-22 食育・健康づくり対策（子どもの食育や健康に関する講座など）：年齢層別



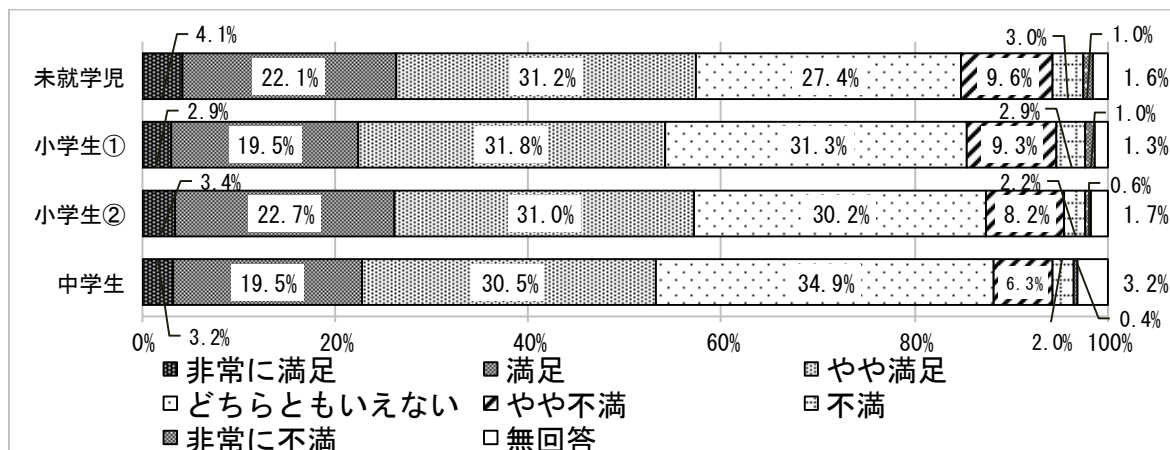
図表 8-1-23 子どもの健康診断：年齢層別



図表 8-1-24 子どもの予防接種：年齢層別



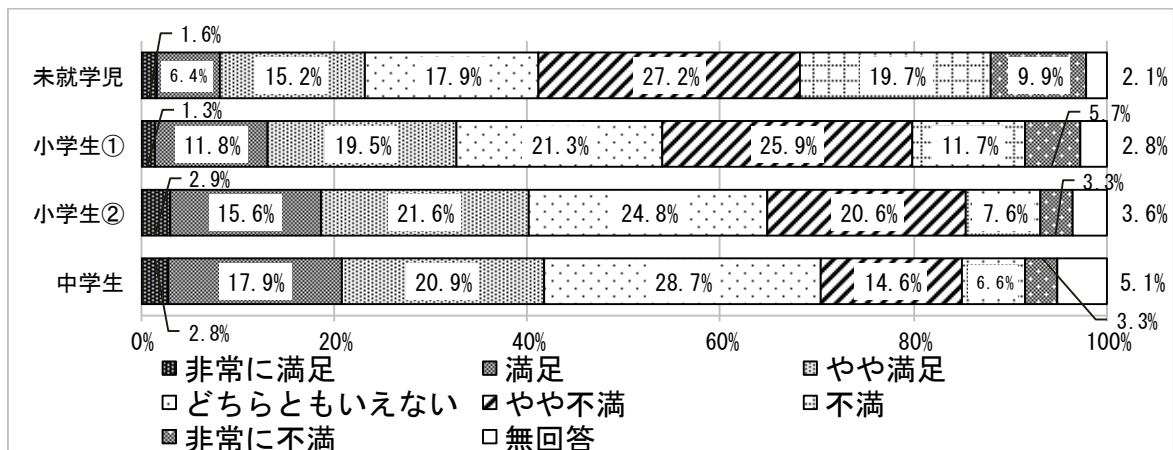
図表 8-1-25 【健康や医療環境】の総合的な満足度：年齢層別



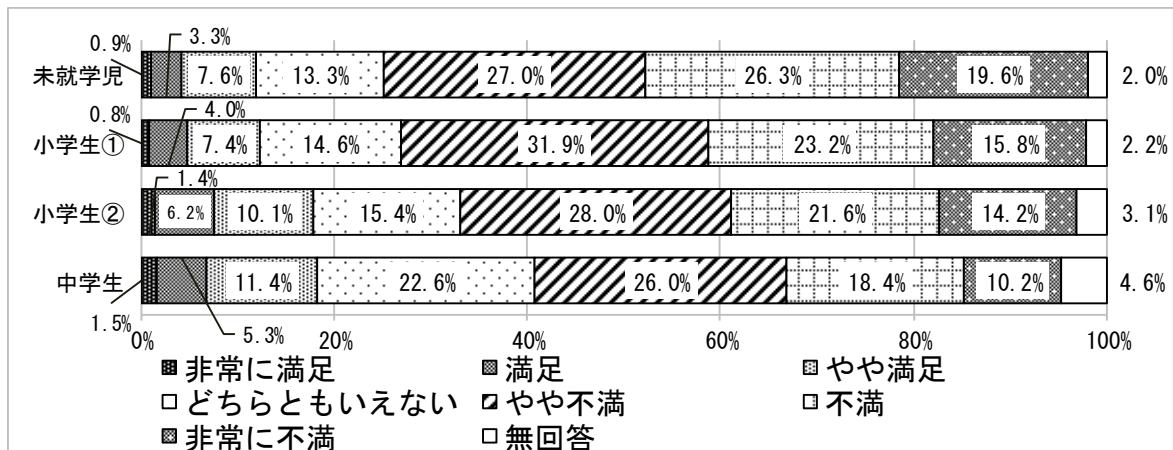
(5) 中野区の商業環境について

中野区の商業環境の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層で「日用品（おむつなど）を購入できる店の数」で『不満足度』に比べて『満足度』が高く、「おもちゃや子ども服、子ども靴を購入できる店の数」、「おむつ替えスペースやミルク用のお湯提供などのサービスがある店の数」で『満足度』に比べて『不満足度』が高かった。また、全ての項目で年齢層が下がるにつれて『不満足度』が高くなる。「【商業環境】の総合的な満足度」は、未就学児、小学生①、小学生②で『満足度』に比べて『不満足度』が高く、中学生で『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。

図表 8-1-26 子連れで飲食できる店の数：年齢層別

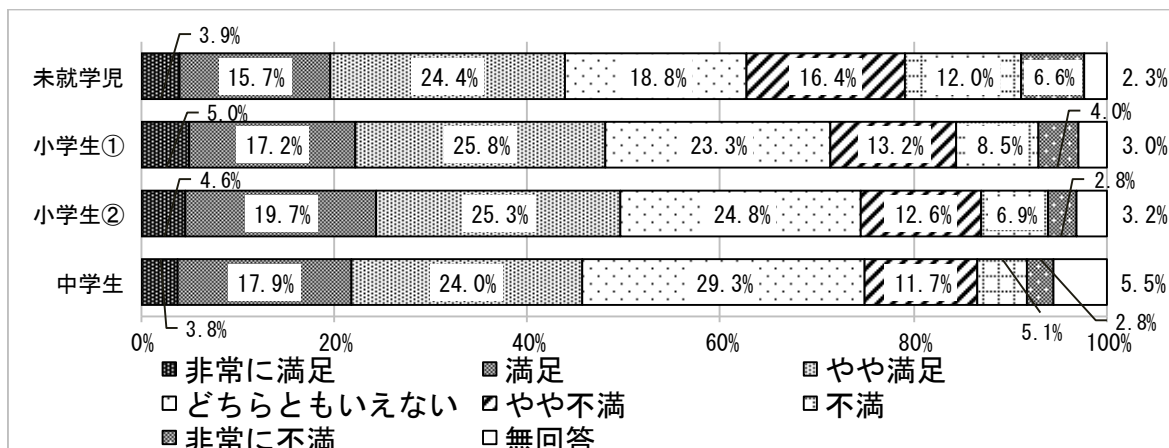


図表 8-1-27 おもちゃや子ども服、子ども靴を購入できる店の数：年齢層別

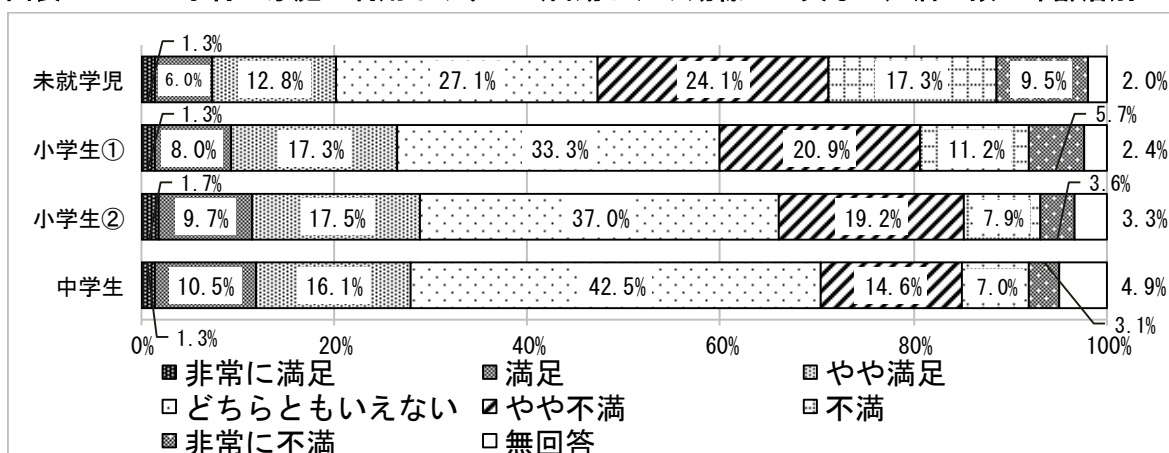




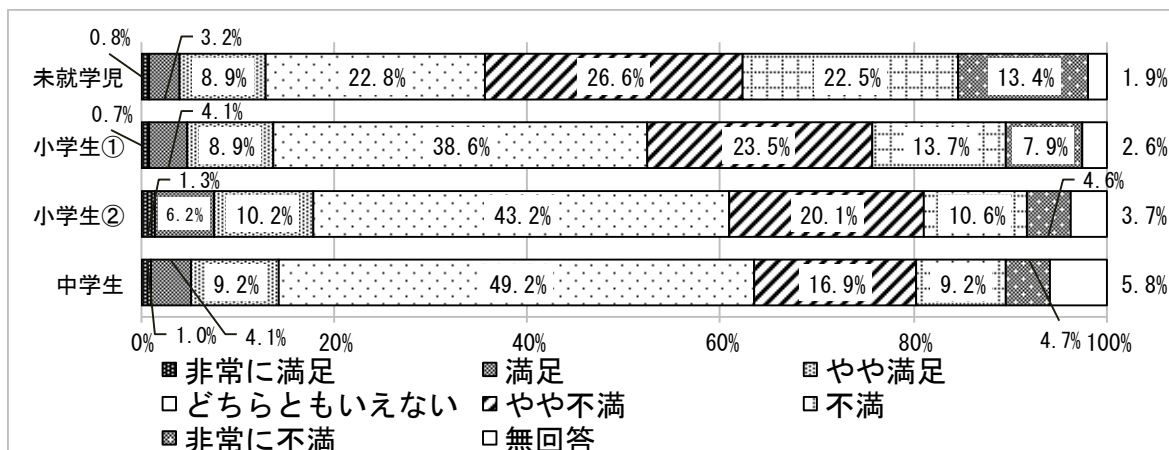
図表 8-1-28 日用品（おむつなど）を購入できる店の数：年齢層別



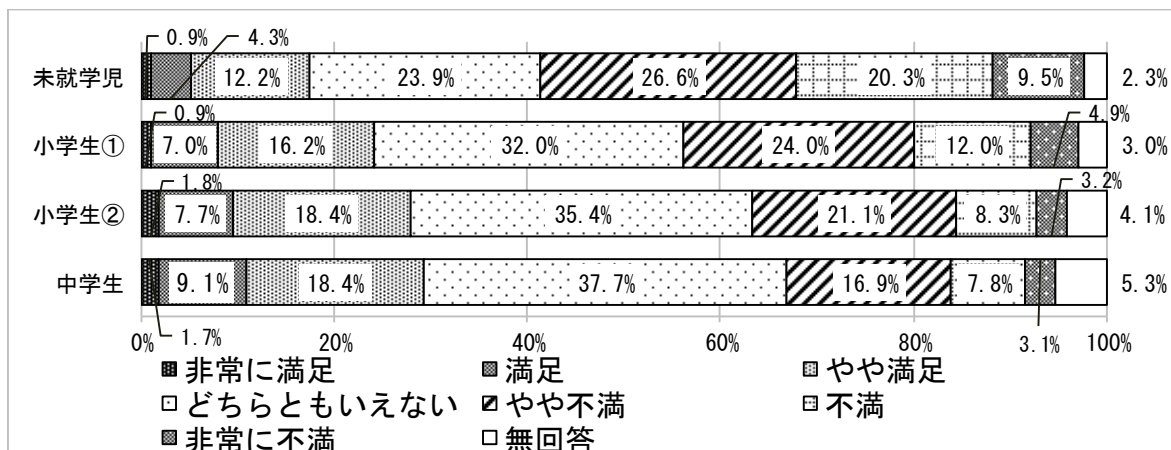
図表 8-1-29 子育て家庭が利用しやすい（自動ドアや動線の工夫など）店の数：年齢層別



図表 8-1-30 おむつ替えスペースやミルク用のお湯提供などのサービスがある店の数：年齢層別



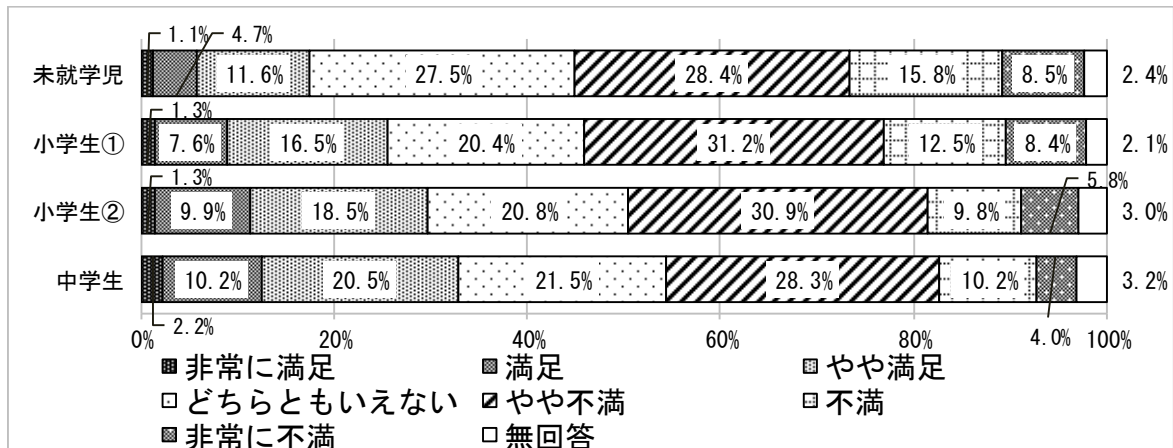
図表 8-1-31 【商業環境】の総合的な満足度：年齢層別



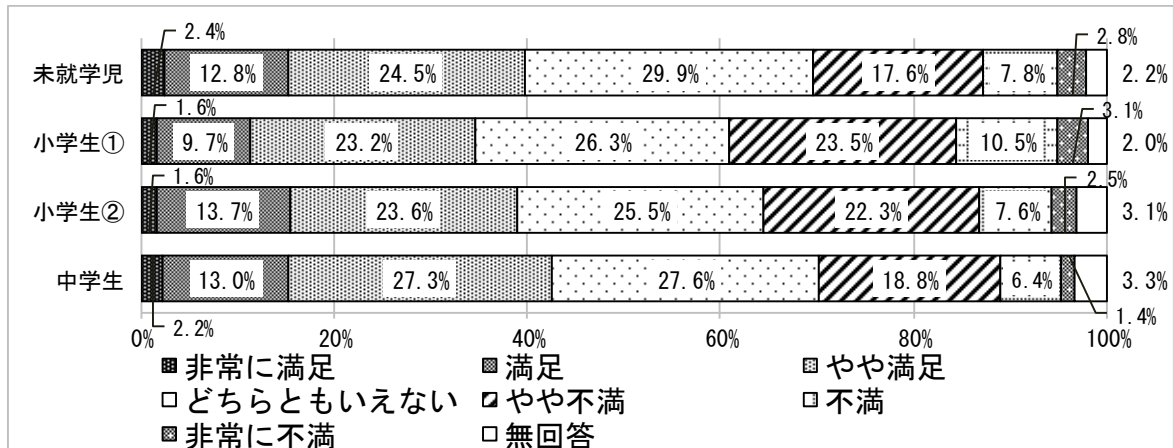
(6) 中野区の安全や安心について

中野区の安全や安心の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層で「通学路の安全性（交通量や見通しなど）」が『満足度』に比べて『不満足度』が高かった。また、「通学路の安全性（交通量や見通しなど）」、「交通安全対策」、「セーフティネットの充実度」では年齢層が上がるにつれて『満足度』が高くなり、「通学路の安全性（交通量や見通しなど）」は年齢層が上がるにつれて『不満足度』は低くなる。「【安全や安心】の総合的な満足度」は、未就学児、小学生①で『満足度』に比べて『不満足度』が高く、小学生②、中学生で『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。

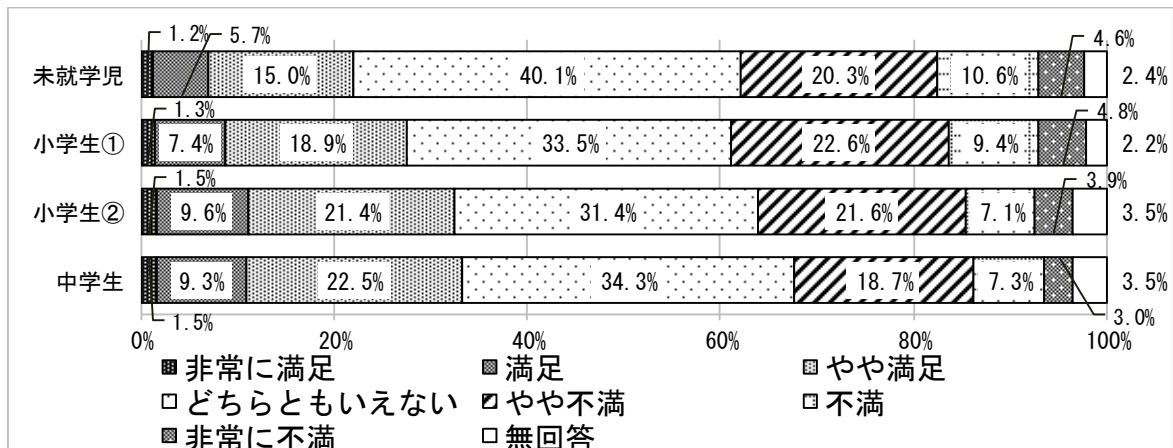
図表 8-1-32 通学路の安全性（交通量や見通しなど）：年齢層別



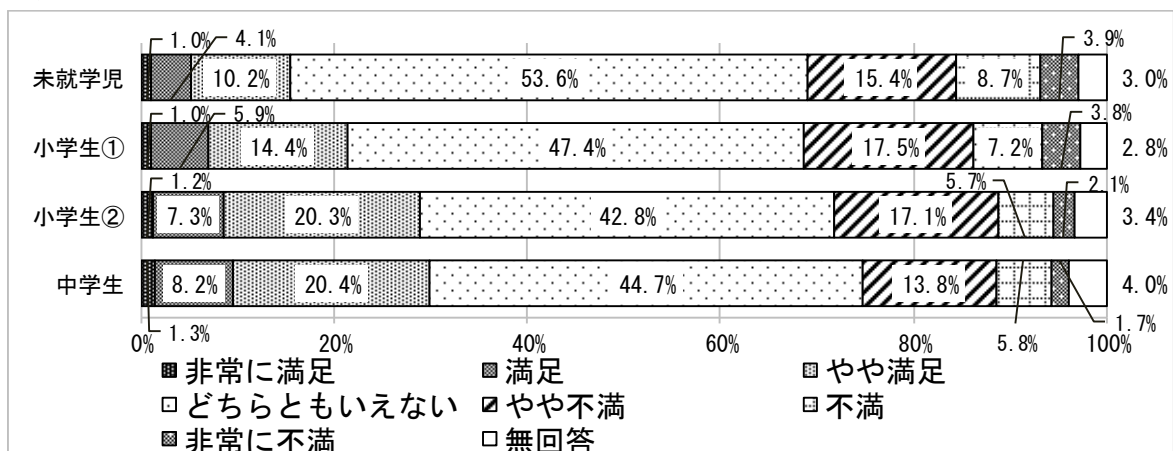
図表 8-1-33 治安の良さ：年齢層別



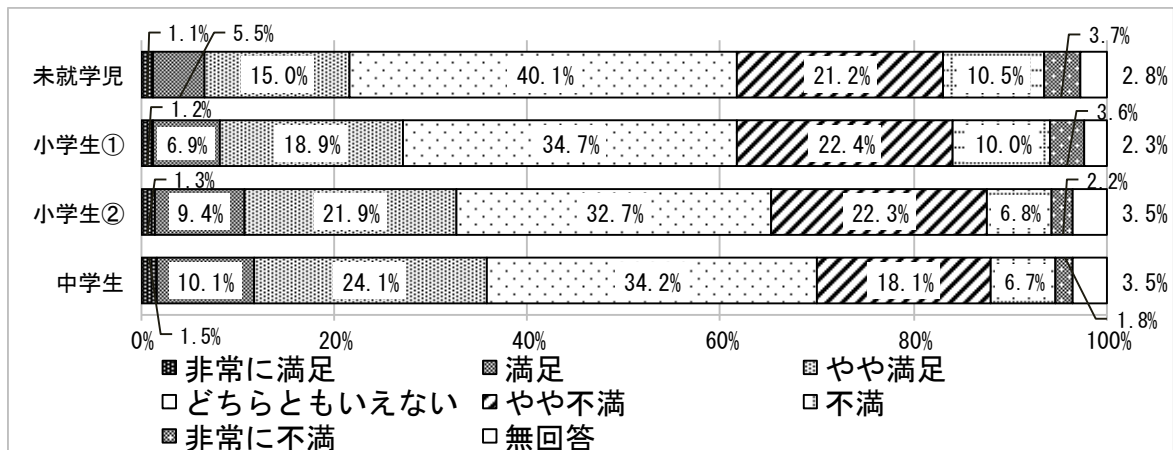
図表 8-1-34 交通安全対策：年齢層別



図表 8-1-35 セーフティネットの充実度：年齢層別



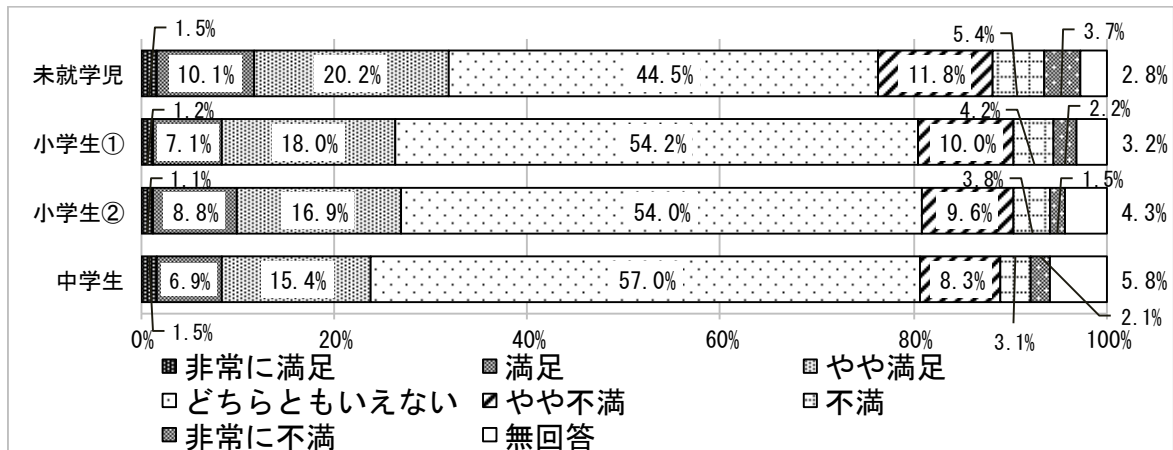
図表 8-1-36 【安全や安心】の総合的な満足度：年齢層別



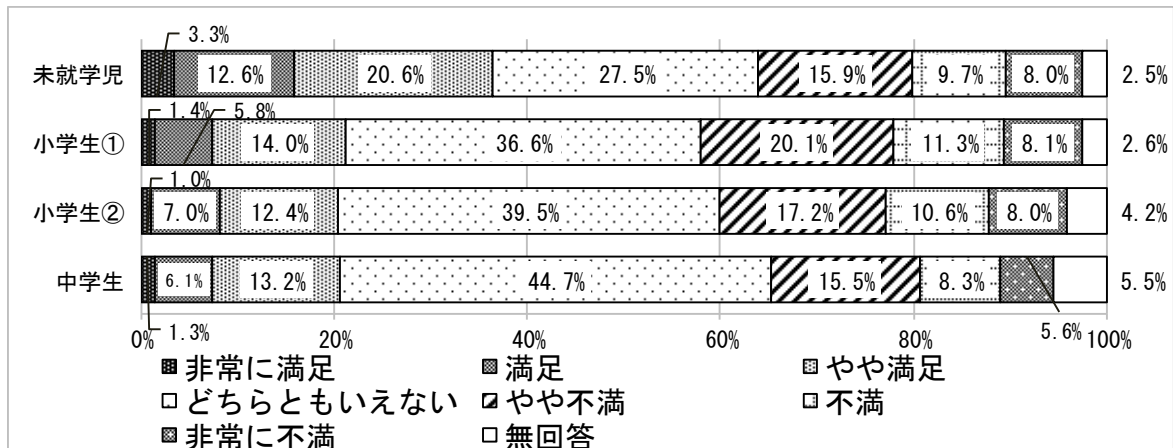
(7) 中野区の保育や子育てサービス環境について

中野区の保育や子育てサービス環境の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層で「子育ての悩みを相談する機会や場所」で『不満足度』に比べて『満足度』が高く、「就業などのための定期的な子どもの預かり（保育園や学童クラブなど）」、「用途を定めない子どもの預かり（一時保育など）」、「家事援助（ホームヘルパーなど）」で『満足度』に比べて『不満足度』が高かった。また、「児童手当や妊娠・子育て応援ギフト券などの給付・手当」を除く全ての項目で年齢層が下がるにつれて『不満足度』が低くなる。「【保育や子育てサービス環境】の総合的な満足度」は、全ての年齢層で『満足度』に比べて『不満足度』が高くなるが、年齢層が上がるにつれて『不満足度』は低くなる。

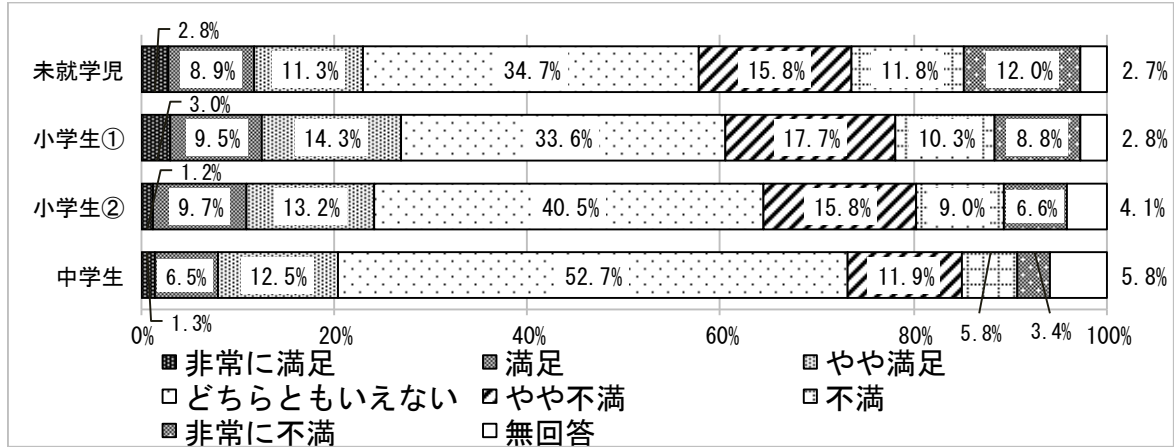
図表 8-1-37 子育ての悩みを相談する機会や場所：年齢層別



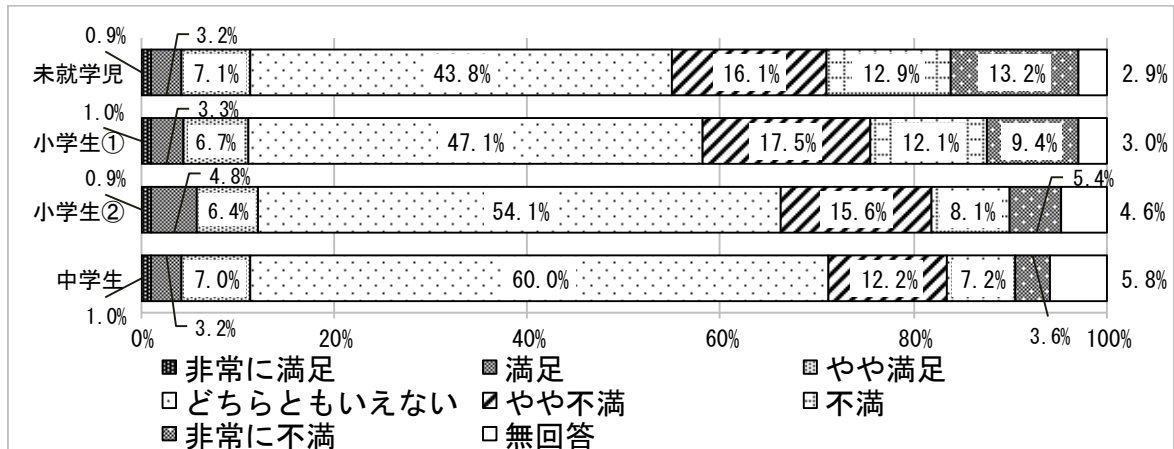
図表 8-1-38 児童手当や妊娠・子育て応援ギフト券などの給付・手当：年齢層別



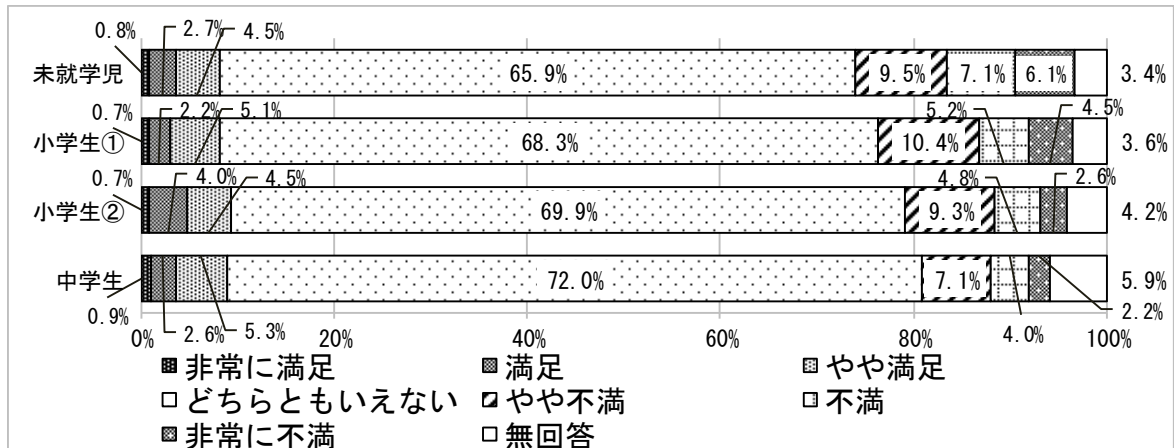
図表 8-1-39 就業などのための定期的な子どもの預かり（保育園や学童クラブなど）：年齢層別



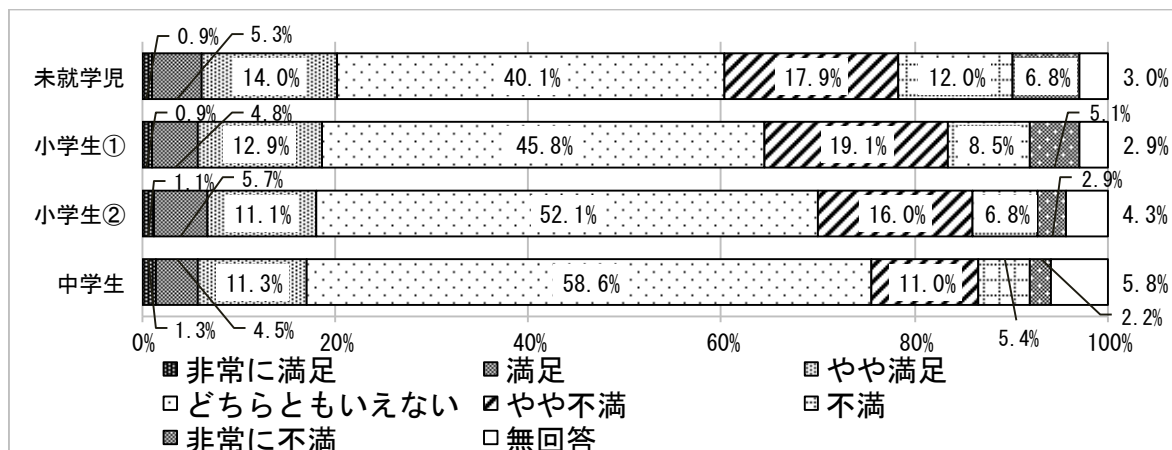
図表 8-1-40 用途を定めない子どもの預かり（一時保育など）：年齢層別



図表 8-1-41 家事援助（ホームヘルパーなど）：年齢層別



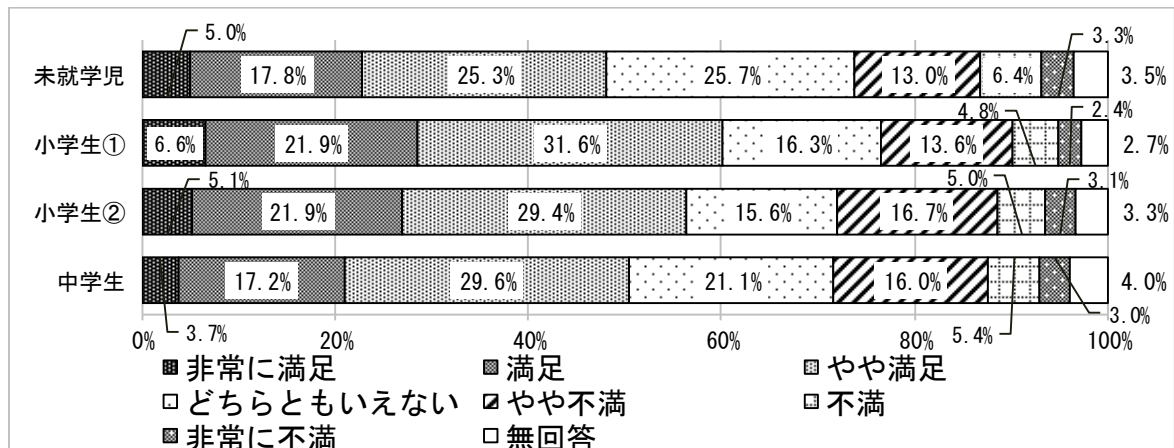
図表 8-1-42 【保育や子育てサービス環境】の総合的な満足度：年齢層別



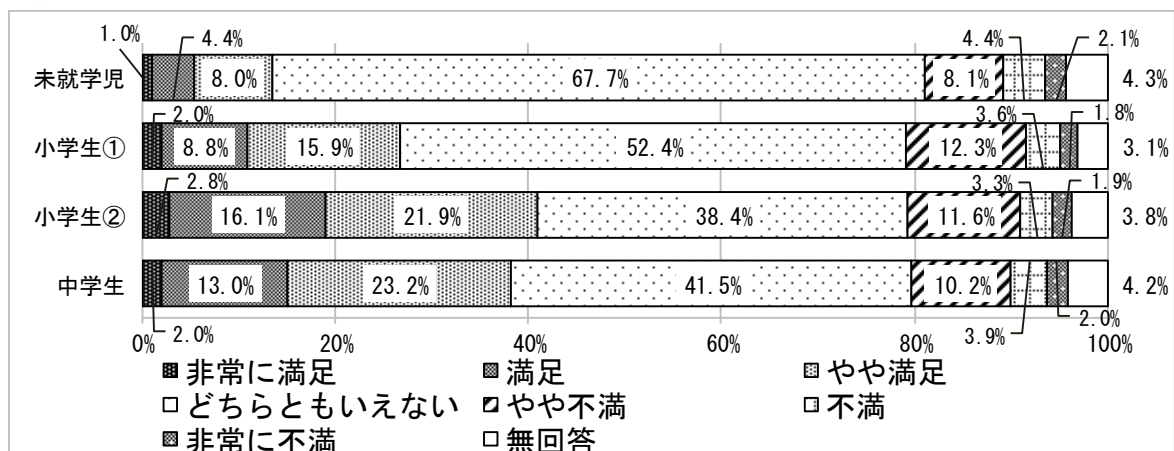
(8) 中野区の教育・学習環境について

中野区の教育・学習環境の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層で「図書館など本に親しめる場所」、「中野区の公立学校の学校給食への取組」が『不満足度』に比べて『満足度』が高く、その他項目に関しても未就学児を除く年齢層で『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。特に「中野区の公立学校の学校給食への取組」は小学生①、小学生②で『満足度』が6割を超え、他の項目に比べて高かった。「【教育・学習環境】の総合的な満足度」は、未就学児を除く全ての年齢層で『不満足度』に比べて『満足度』が高い。

図表 8-1-43 図書館など本に親しめる場所：年齢層別

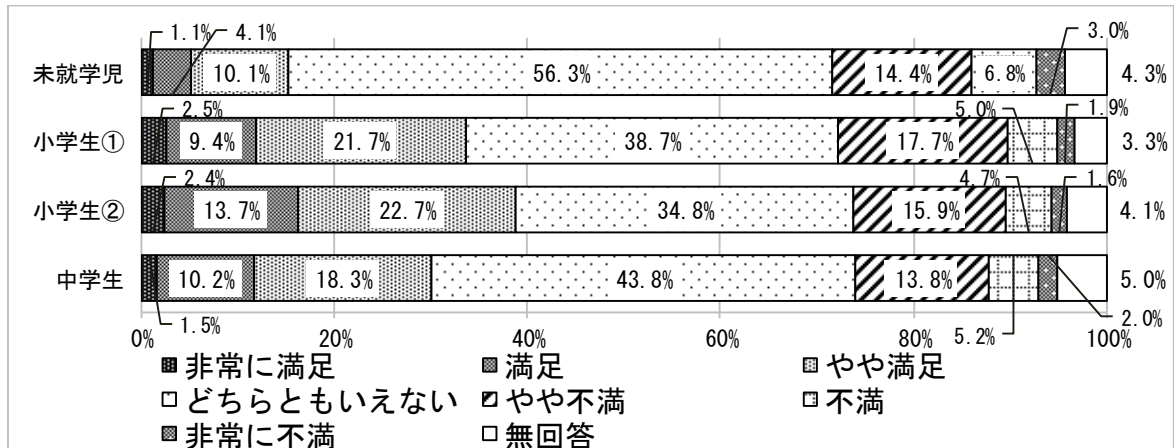


図表 8-1-44 学習塾（幼児教育・受験など）の数：年齢層別

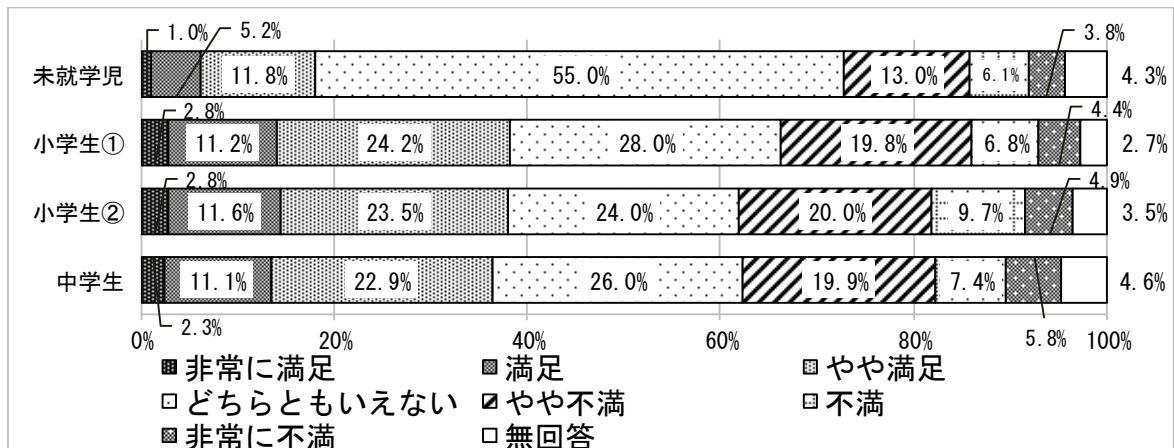




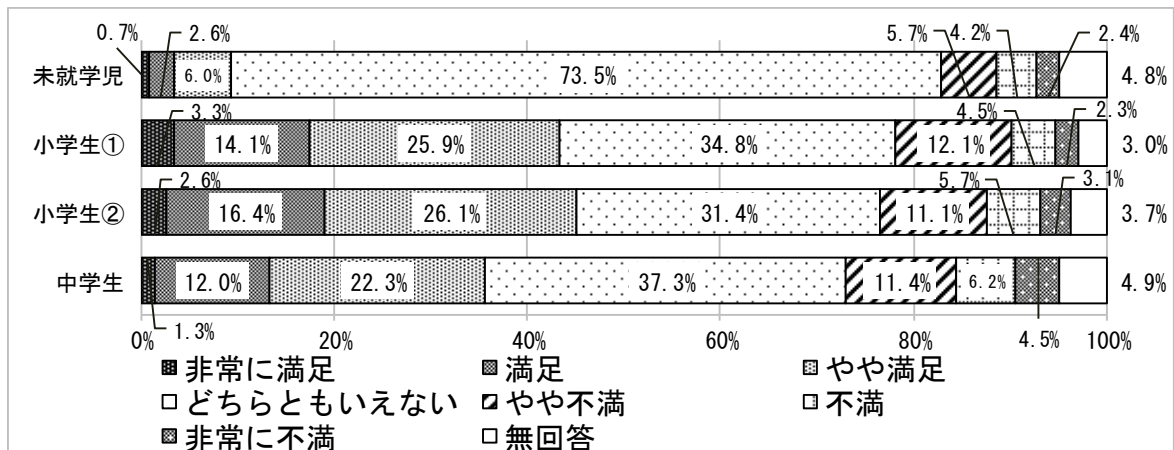
図表 8-1-45 趣味等の習い事教室の数：年齢層別



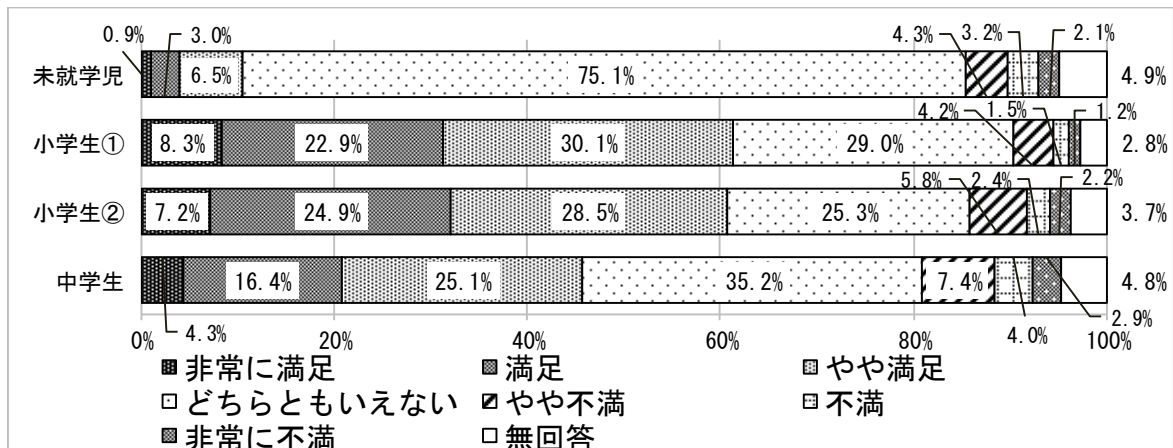
図表 8-1-46 中野区の公立学校の施設（校舎・体育館・プールなど）：年齢層別



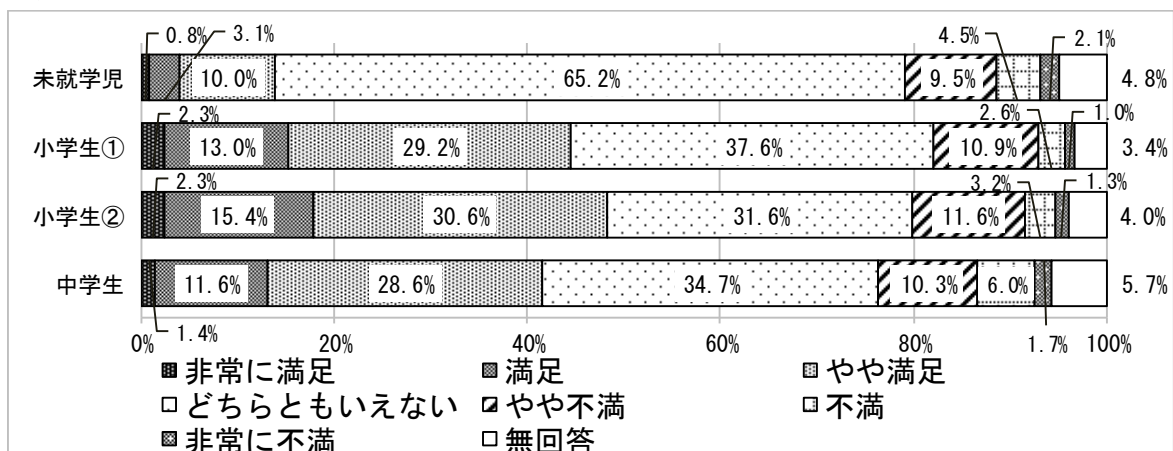
図表 8-1-47 中野区の公立学校の学校教育の内容：年齢層別



図表 8-1-48 中野区の公立学校の学校給食への取組：年齢層別



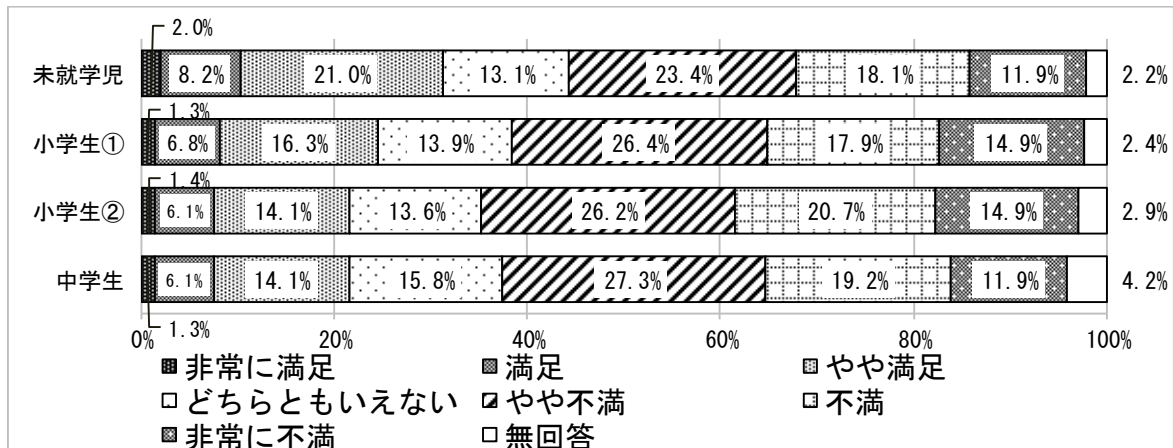
図表 8-1-49 【教育・学習環境】の総合的な満足度：年齢層別



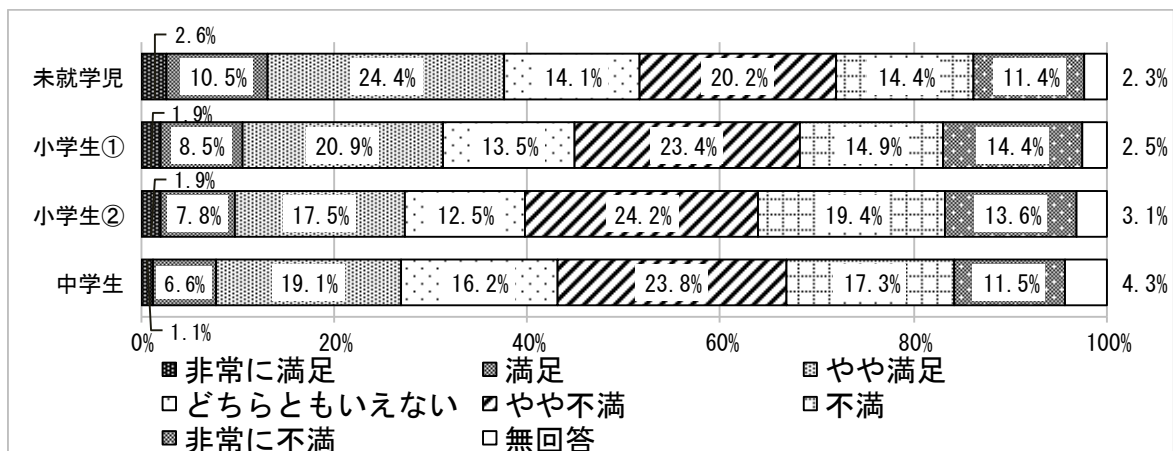
(9) 中野区の遊び・憩いの環境について

中野区の遊び・憩いの環境の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層の全ての項目で『満足度』に比べて『不満足度』が高い。特に「屋内で遊べる施設」では全ての年齢層で『不満足度』が6割を超えており、未就学児、小学生①、小学生②では7割を超えている。「【遊び・憩いの環境】の総合的な満足度」は、全ての年齢層で『満足度』に比べて『不満足度』が高く、『不満足度』は5割を超えている。

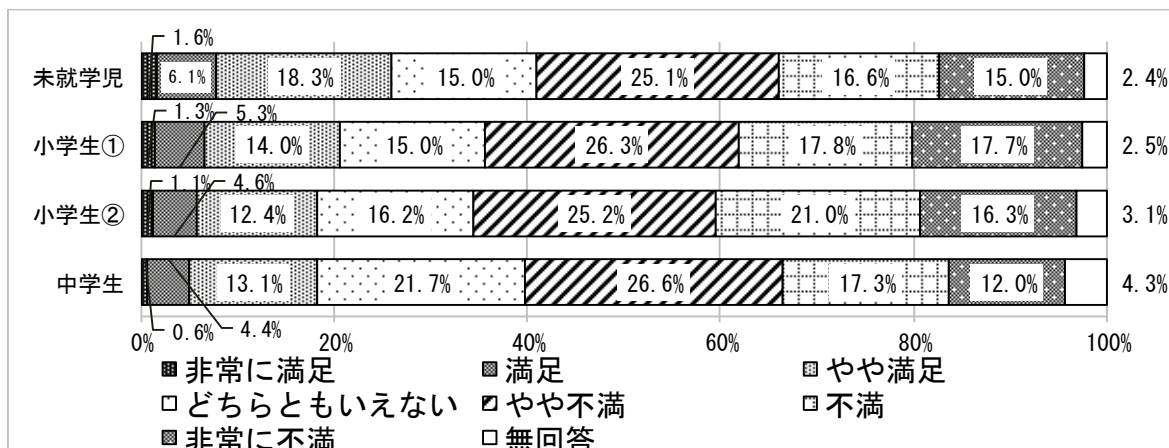
図表 8-1-50 子どもがのびのびと過ごせる自然：年齢層別



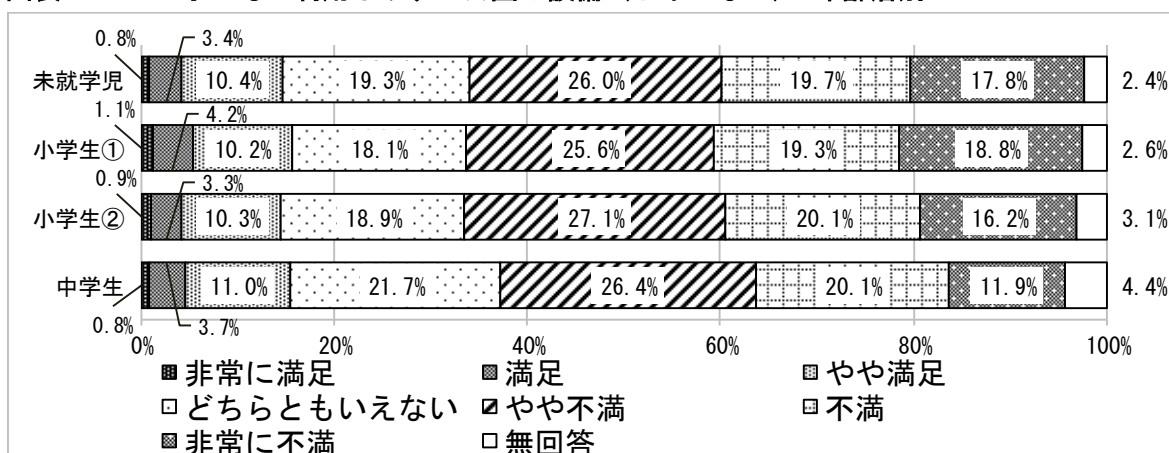
図表 8-1-51 子どもが遊べる公園の数：年齢層別



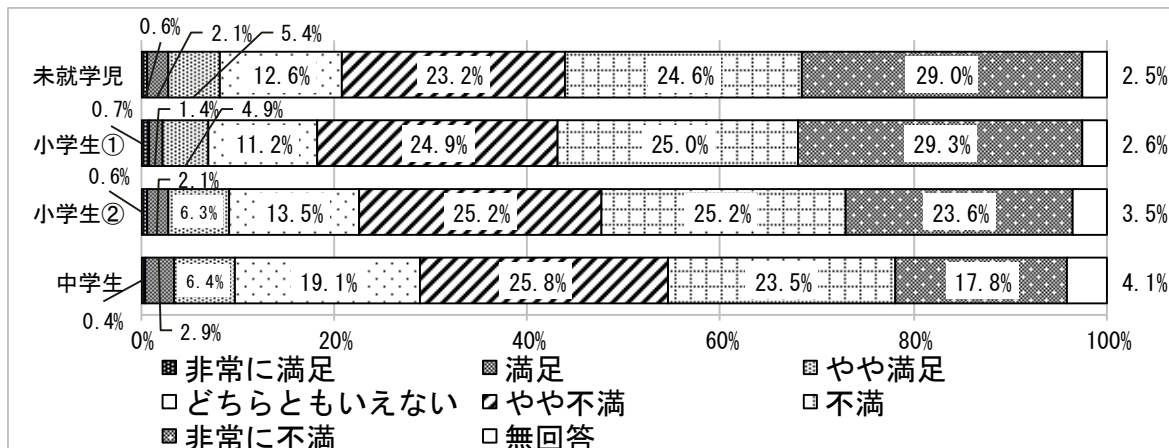
図表 8-1-52 子どもが遊べる公園の遊具：年齢層別



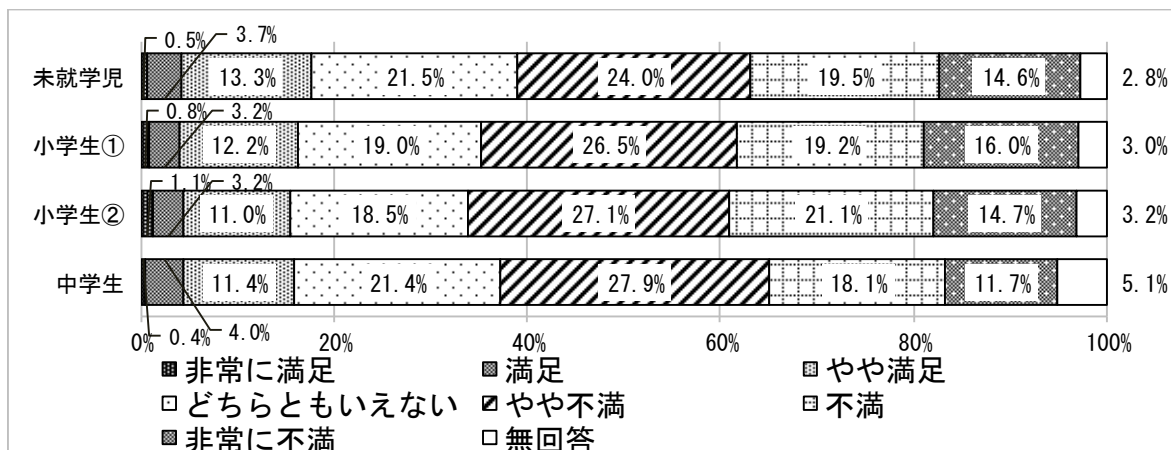
図表 8-1-53 子どもが利用しやすい公園の設備（トイレなど）：年齢層別



図表 8-1-54 屋内で遊べる施設：年齢層別



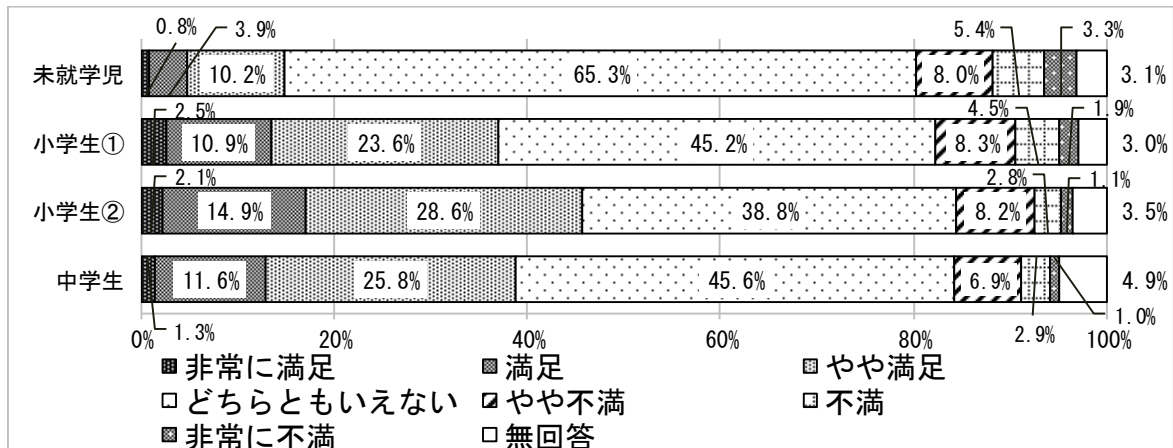
図表 8-1-55 【遊び・憩いの環境】の総合的な満足度：年齢層別



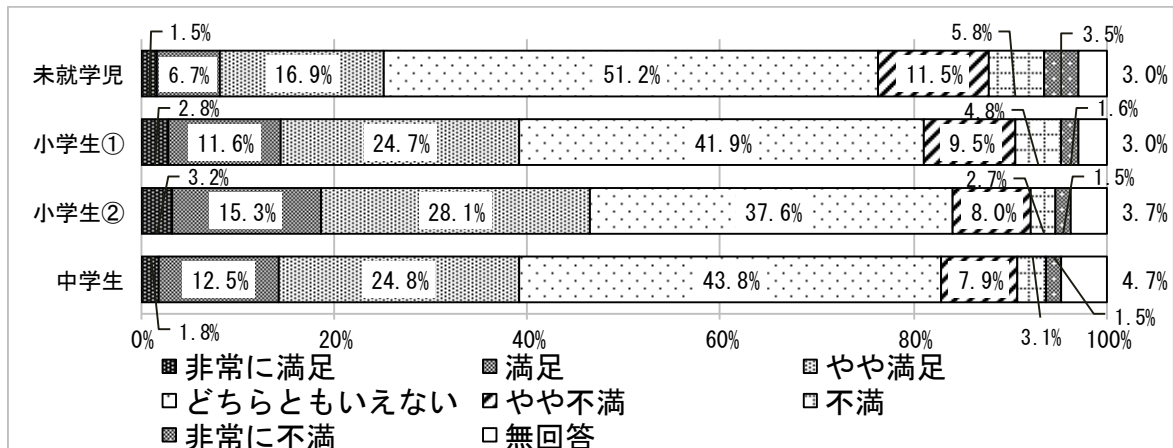
(10) 中野区の地域環境（コミュニティ）について

中野区の地域環境（コミュニティ）の満足度を年齢層別に見ると、未就学児の「地域見守り活動」を除く全ての年齢層の全ての項目で『不満足度』に比べて『満足度』が高い。特に「町会・商店街の催しやお祭など」では全ての年齢層で『満足度』が5割を超えている。「【地域環境（コミュニティ）】の総合的な満足度」は、全ての年齢層で『不満足度』に比べて『満足度』が高く、小学生②で『満足度』が5割を超えている。

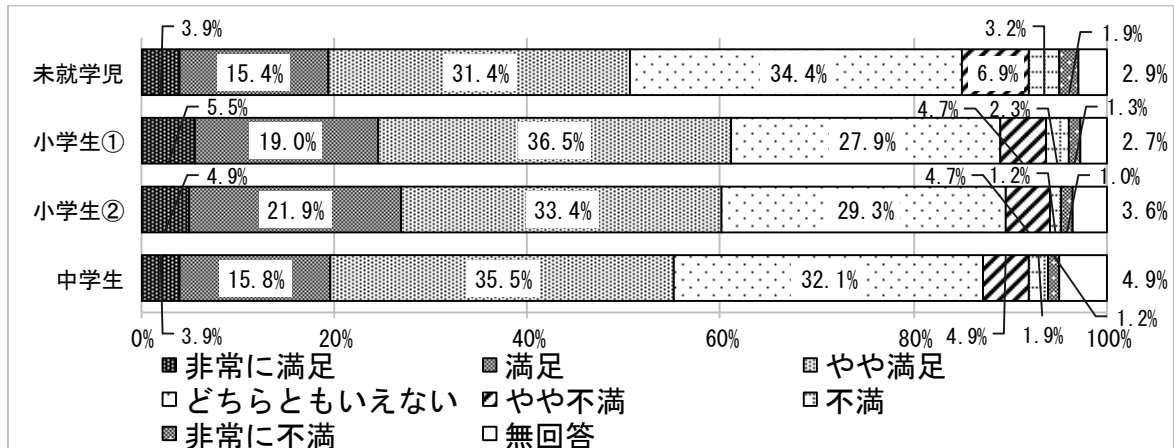
図表 8-1-56 地域見守り活動：年齢層別



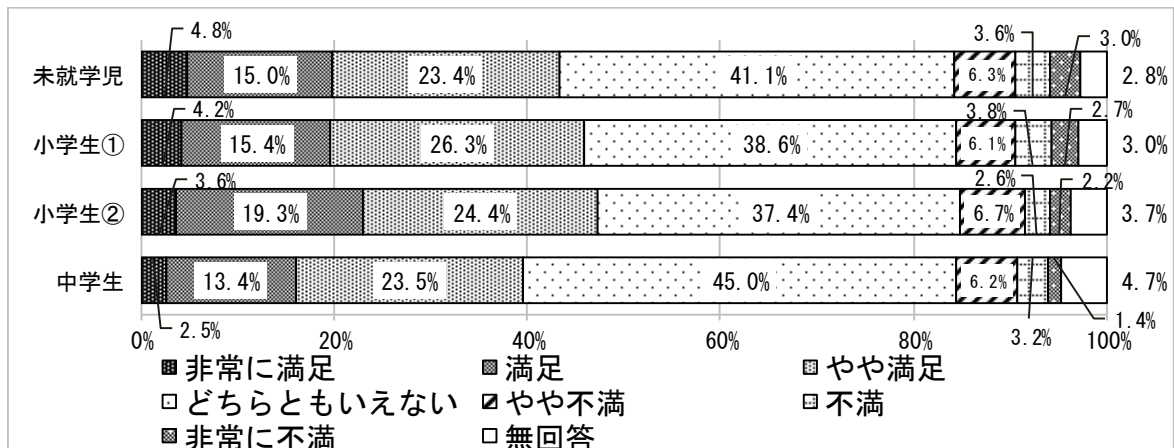
図表 8-1-57 近隣との交流（顔の見えるつながり）：年齢層別



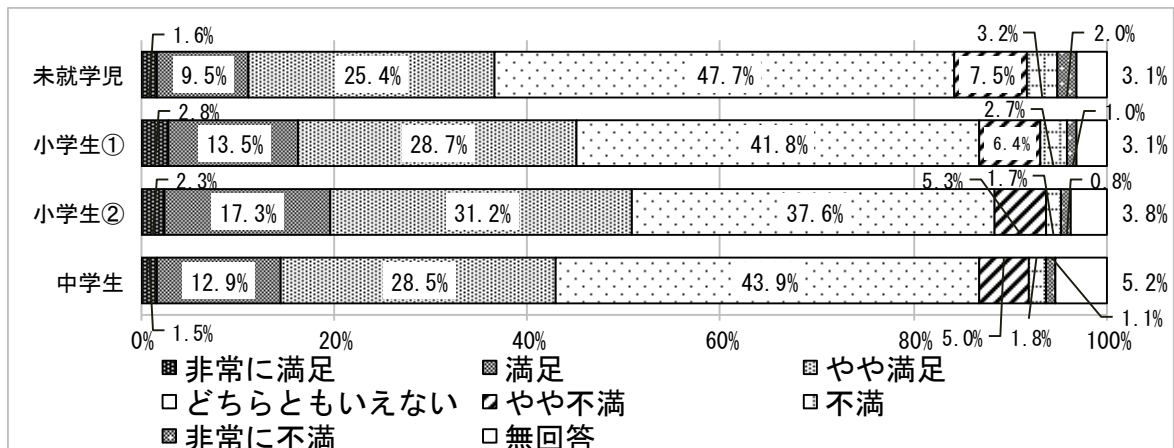
図表 8-1-58 町会・商店街の催しやお祭など：年齢層別



図表 8-1-59 近隣の子育て家庭への理解度（泣き声の受容など）：年齢層別



図表 8-1-60 【地域環境（コミュニティ）】の総合的な満足度：年齢層別

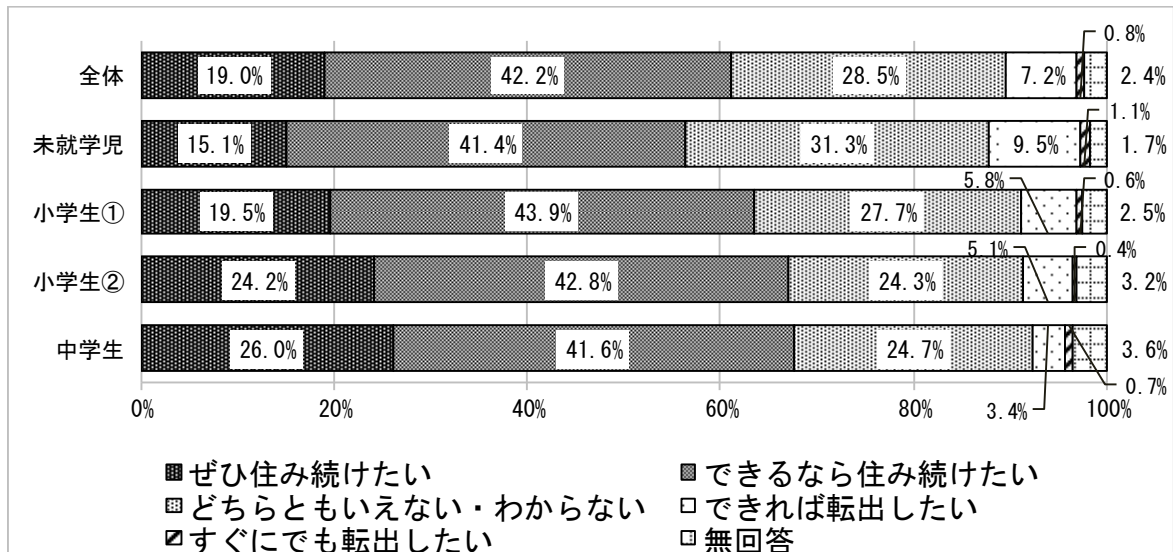


(11) 中野区への定住意向と、他者への推奨意向

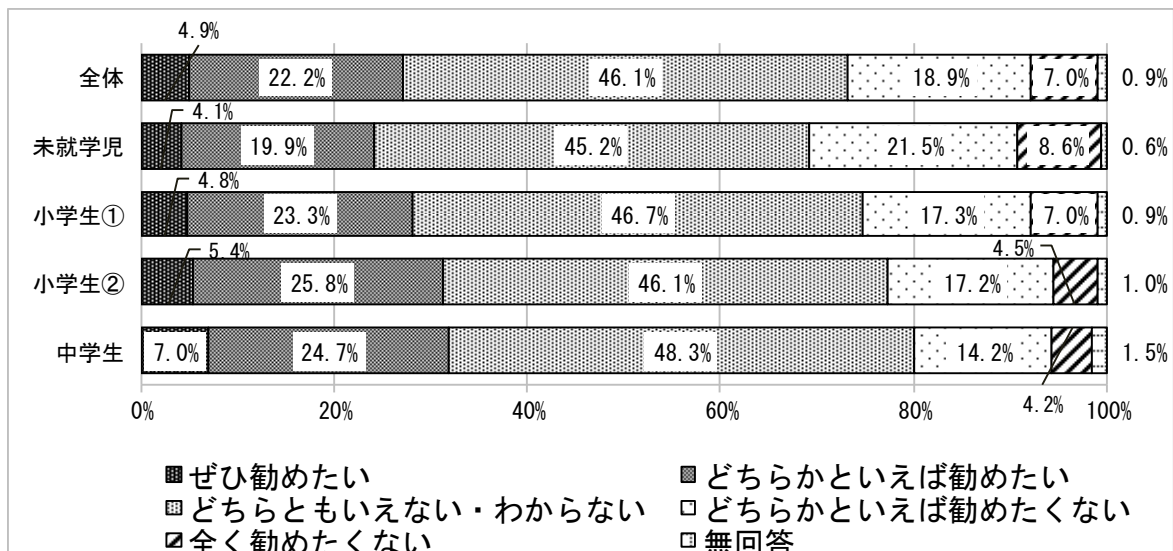
中野区への定住意向を年齢層別に見ると、全体及び全ての年齢層で『転出したい』（「できれば転出したい」、「すぐにでも転出したい」）に比べて『住み続けたい』（「ぜひ住み続けたい」、「できるなら住み続けたい」）が高い。また、年齢層が上がるにつれて『住み続けたい』が高くなる。

中野区の他者への推奨意向を年齢層別に見ると、全体、小学生①、小学生②、中学生では『勧めたくない』（「どちらかといえば勧めたくない」、「全く勧めたくない」）に比べて『勧めたい』（「ぜひ勧めたい」、「どちらかといえば勧めたい」）が高いが、未就学児では『勧めたい』に比べて『勧めたくない』が高い。また、年齢層が上がるにつれて『勧めたい』が高くなる。

図表 8-1-61 定住意向：年齢層別



図表 8-1-62 他者への推奨意向：年齢層別

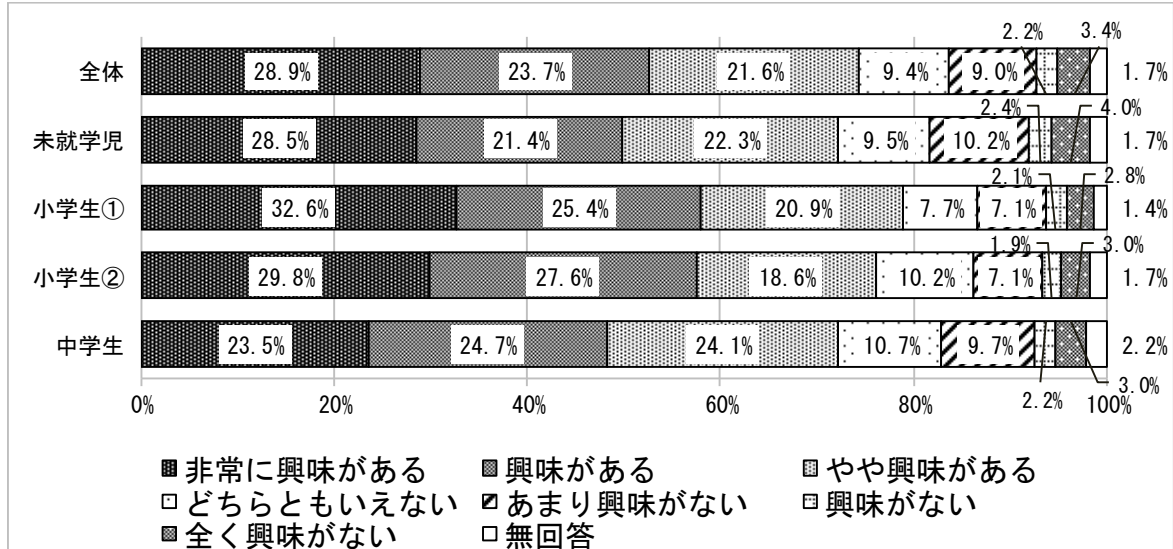




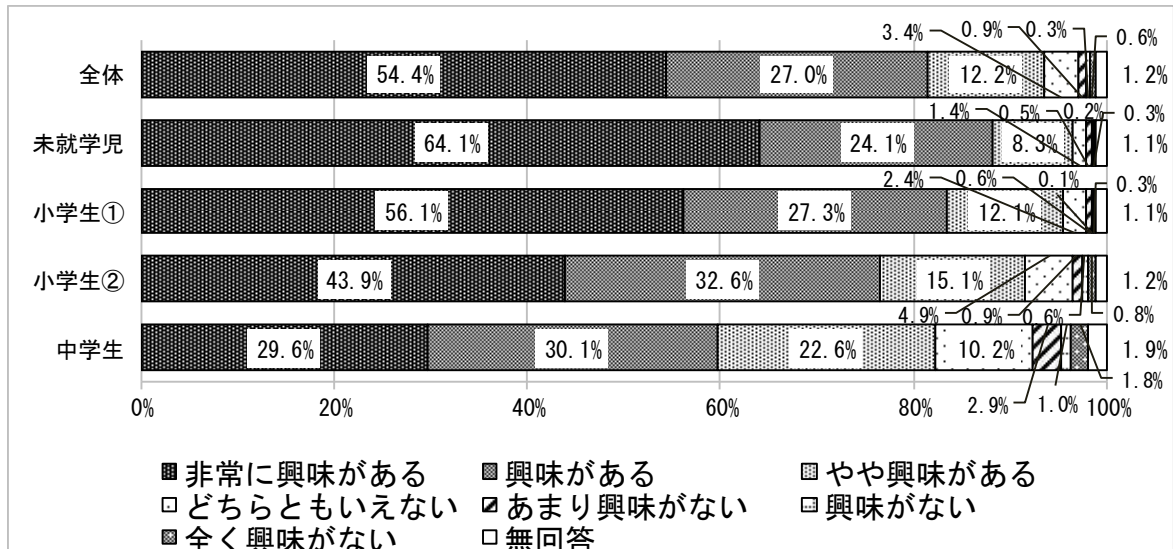
## (12) 施設への興味

各児童施設への興味を年齢層別に見ると、全ての年齢層の全ての項目で『興味がない』（「あまり興味がない」、「興味がない」、「全く興味がない」）に比べて『興味がある』（「非常に興味がある」、「興味がある」、「やや興味がある」）が高い。特に「子どもが自分の好きな遊びができる場所」では全ての年齢層で『興味がある』が8割を超えており、未就学児、小学生①、小学生②では9割を超えている。また「先端的技術等を体験できる施設」の未就学を除く全ての年齢層で、年齢層が上がるにつれて『興味がある』は低くなる。

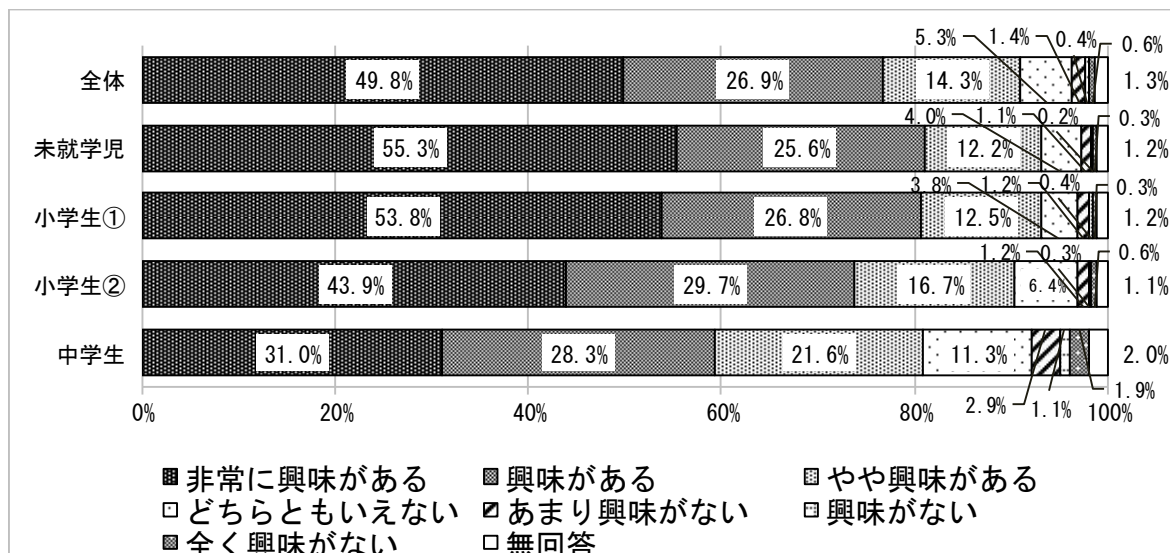
図表 8-1-63 先端的技術等を体験できる施設：年齢層別



図表 8-1-64 子どもが自分の好きな遊びができる場所（プレイパークなど）：年齢層別



図表 8-1-65 子どもが自由に集まり、活動できる場所：年齢層別



## 2 子どもから見た中野区的环境

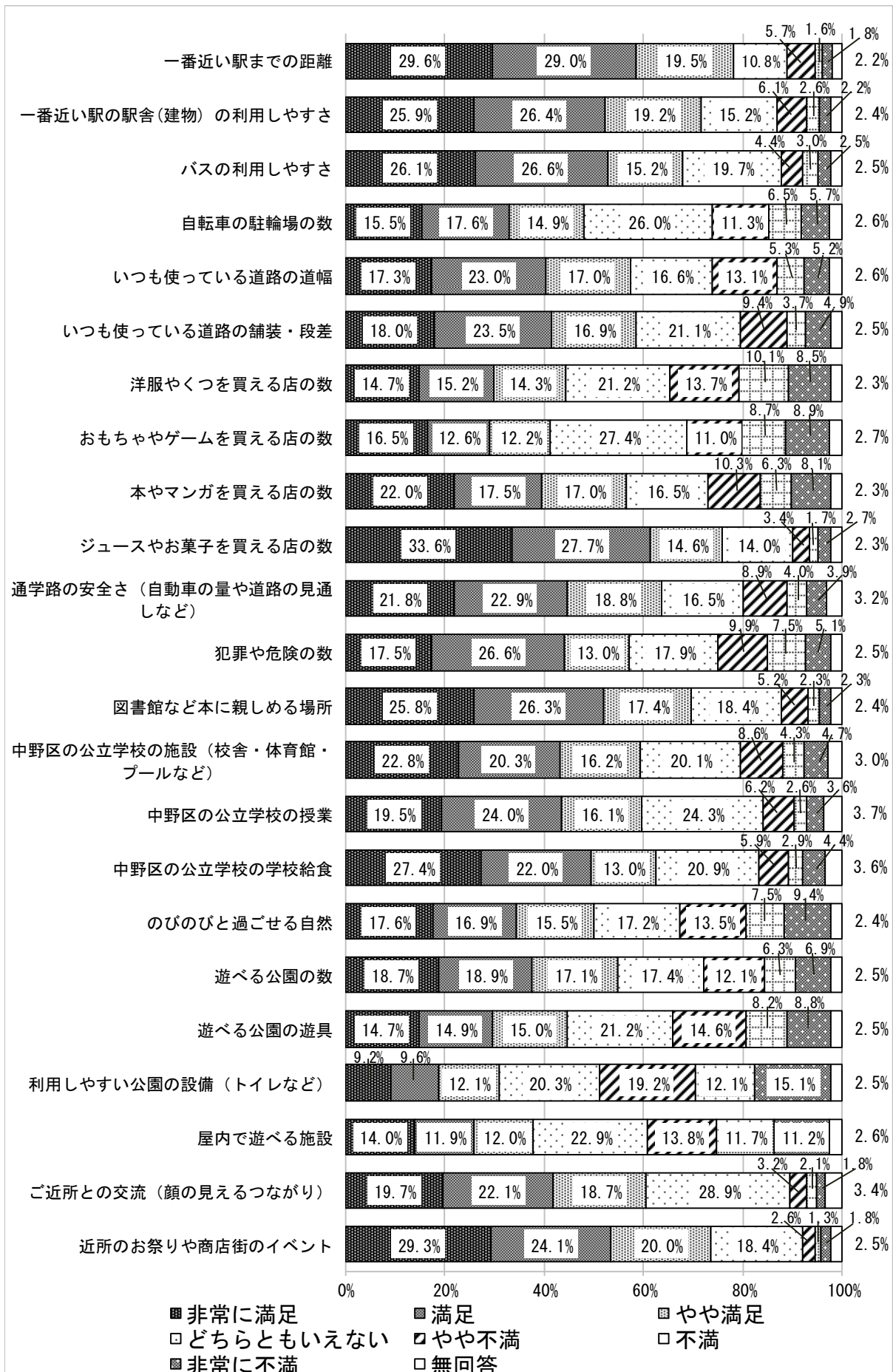
### (1) 中野区の各種環境

子どもから見た中野区の各種環境の満足度を聞いた。個別の項目の『満足度』は、「一番近い駅までの距離」が78.1%で最も高く、次いで「ジュースやお菓子を買える店の数」が75.9%、「近所のお祭りや商店街のイベント」が73.4%、「一番近い駅の駅舎(建物)の利用しやすさ」が71.5%、「図書館など本に親しめる場所」が69.5%、「バスの利用しやすさ」が67.9%、「通学路の安全さ(自動車の量や道路の見通しなど)」が63.5%、「中野区の公立学校の学校給食」が62.4%、「ご近所との交流(顔の見えるつながり)」が60.5%と上記項目で6割を超えている。また、保護者に比べて全体的に『満足度』が高い。

『不満足度』は、「利用しやすい公園の設備(トイレなど)」が46.4%で最も高く、次いで「屋内で遊べる施設」が36.7%、「洋服やくつを買える店の数」が32.3%、「遊べる公園の遊具」が31.6%、「のびのびと過ごせる自然」が30.4%と3割を超えている。

個別の項目の『D. I.』は、「一番近い駅までの距離」が69.0ポイントで最も高く、次いで「ジュースやお菓子を買える店の数」が68.1ポイント、「近所のお祭りや商店街のイベント」が67.7ポイント、「一番近い駅の駅舎(建物)の利用しやすさ」が60.6ポイント、「図書館など本に親しめる場所」が59.7ポイント、「バスの利用しやすさ」が58.0ポイント、「ご近所との交流(顔の見えるつながり)」が53.4ポイントで高い。一方、『D. I.』の低い項目は、「利用しやすい公園の設備(トイレなど)」が-15.5ポイントで唯一マイナスとなり最も低い。

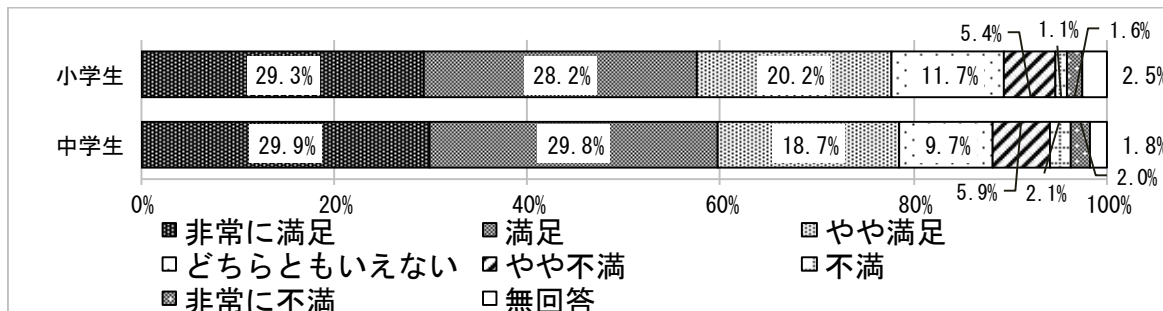
図表 8-2-1 中野区的环境



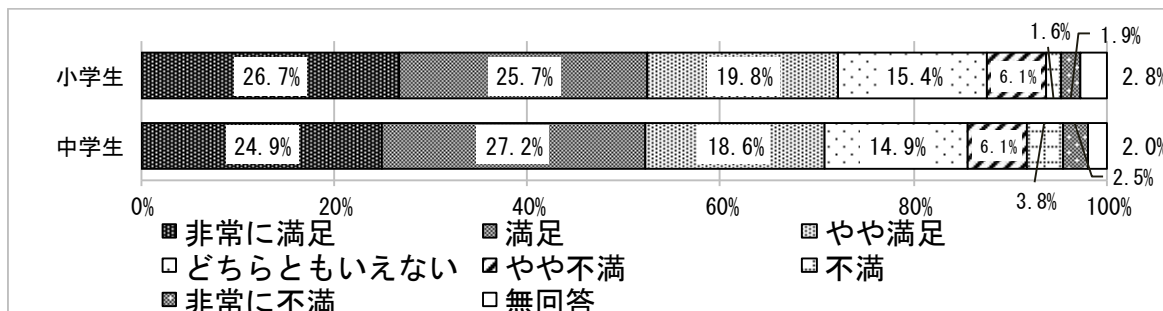
(2) 中野区の移動や交通について

中野区の移動や交通の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層の全ての項目で『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。また「一番近い駅の駅舎(建物)の利用しやすさ」、「バスの利用しやすさ」、「自転車の駐輪場の数」での中学生は、小学生に比べて『満足度』が低い。特に「自転車の駐輪場の数」は中学生で『満足度』が5割未満と、他の項目に比べて低かった。

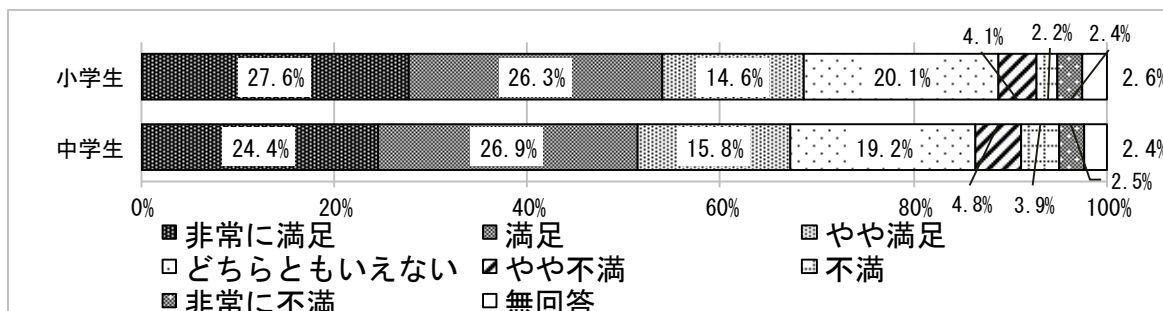
図表 8-2-2 一番近い駅までの距離



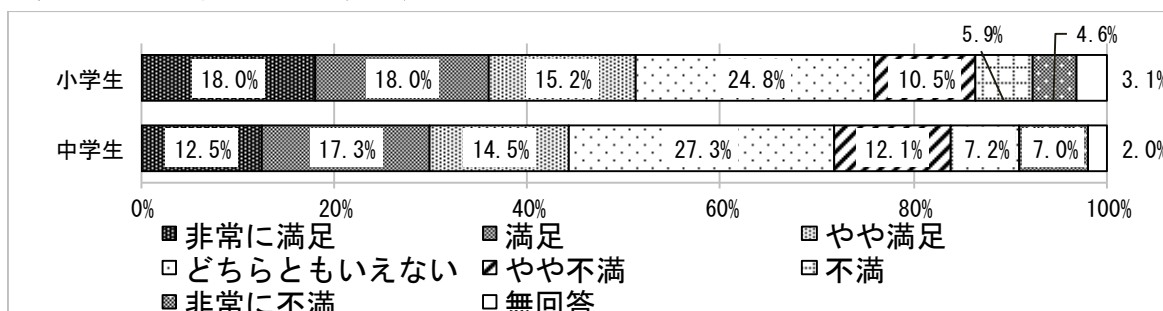
図表 8-2-3 一番近い駅の駅舎(建物)の利用しやすさ



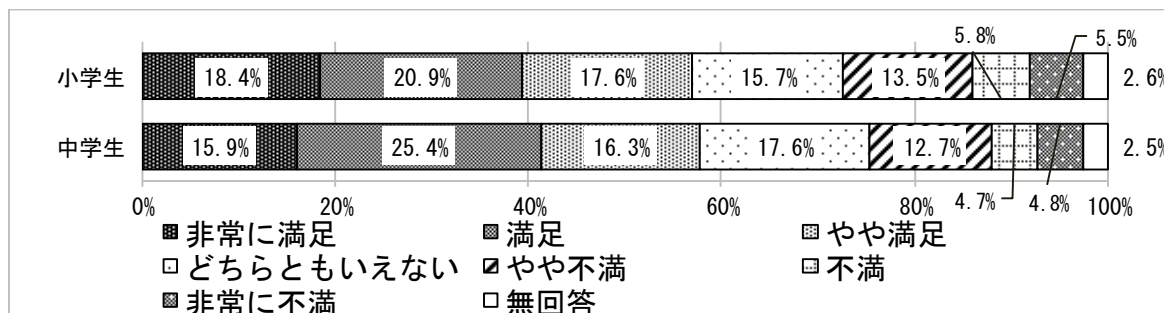
図表 8-2-4 バスの利用しやすさ



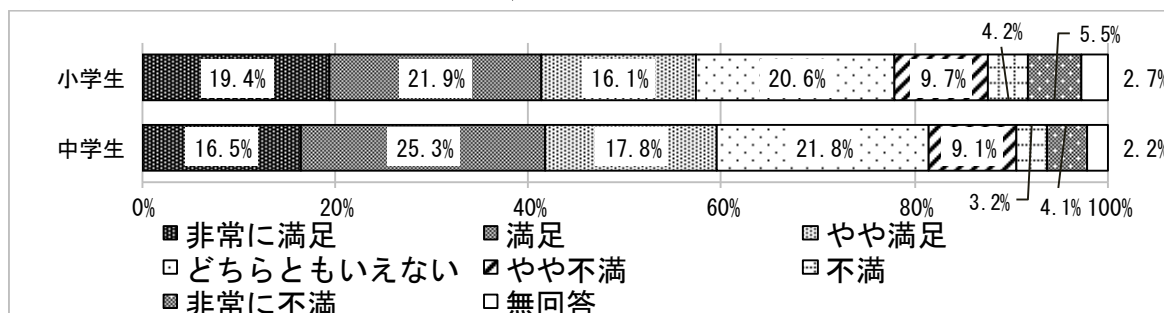
図表 8-2-5 自転車の駐輪場の数



図表 8-2-6 いつも使っている道路の道幅



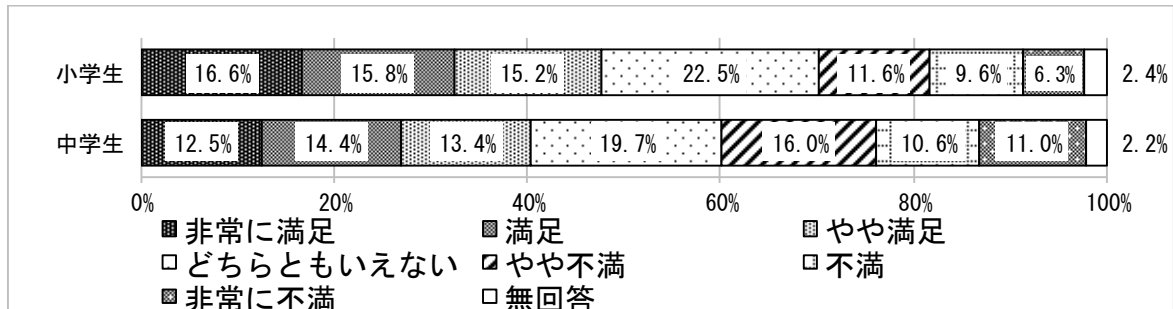
図表 8-2-7 いつも使っている道路の舗装・段差



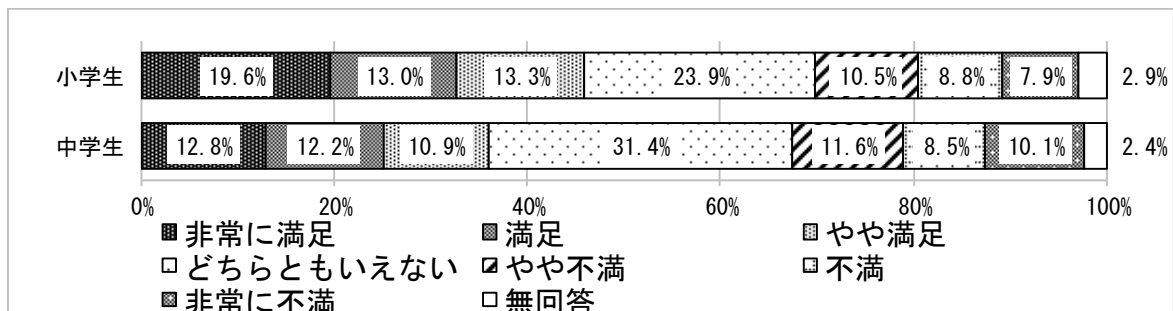
### (3) 中野区の買い物をする場所について

中野区の買い物をする場所の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層の全ての項目で『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。また、全ての項目で年齢層が下がるにつれて『不満足度』が高くなる。特に中学生で「洋服やくつを買える店の数」、「おもちゃやゲームを買える店の数」については『不満足度』が3割を超え、他の項目に比べて高かった。

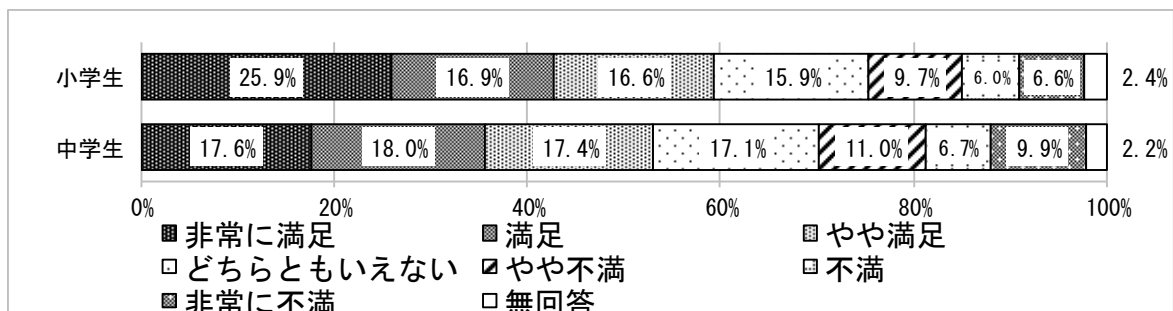
図表 8-2-8 洋服やくつを買える店の数



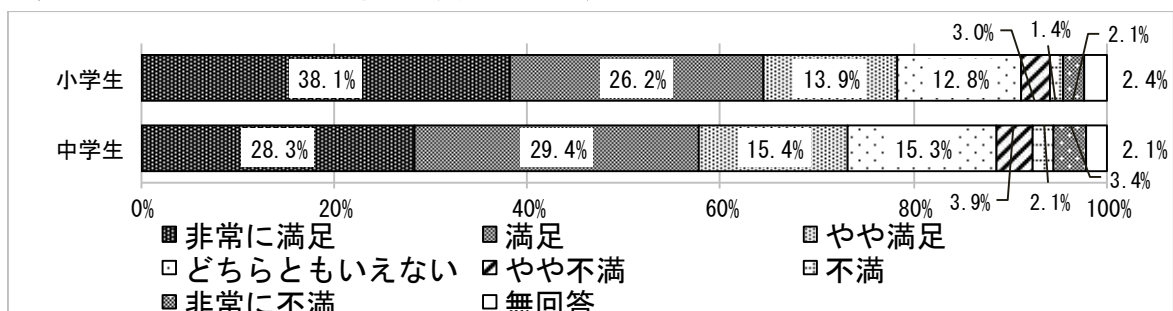
図表 8-2-9 おもちゃやゲームを買える店の数



図表 8-2-10 本やマンガを買える店の数



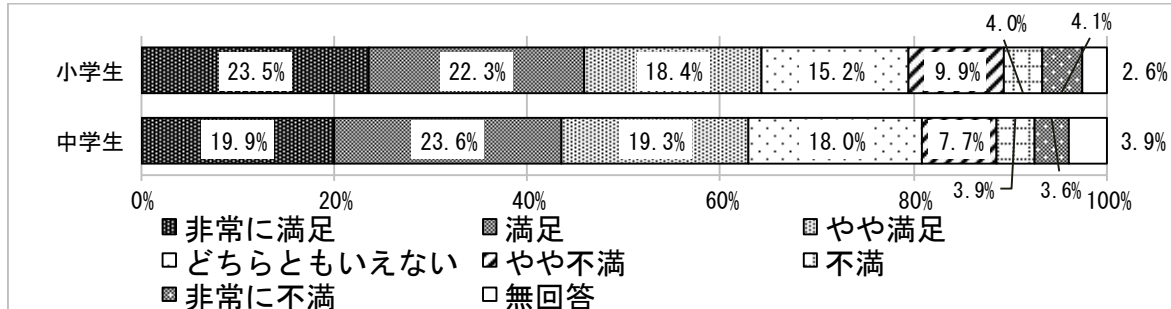
図表 8-2-11 ジュースやお菓子を買える店の数



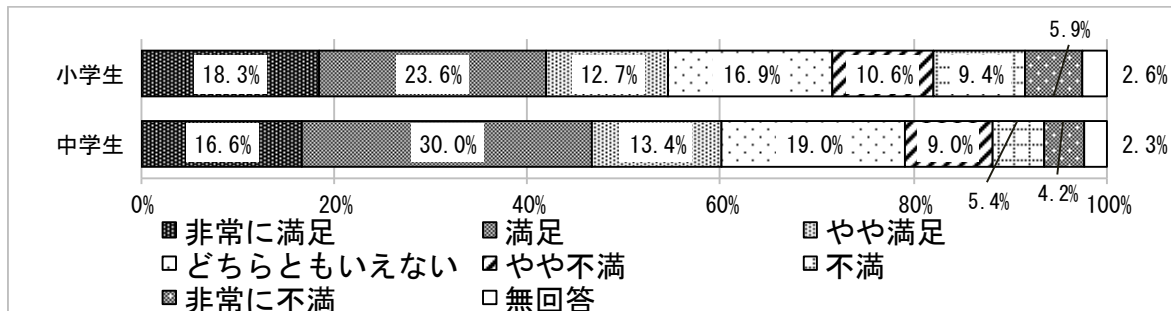
(4) 中野区の安全や安心について

中野区の安全や安心の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層の全ての項目で『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。また、「通学路の安全性（交通量や見通しなど）」は年齢層が上がるにつれて『満足度』が低くなる一方、「通学路の安全性（交通量や見通しなど）」、「犯罪や危険の数」では年齢層が上がるにつれて『不満足度』が低くなる。

図表 8-2-12 通学路の安全さ（自動車の量や道路の見通しなど）



図表 8-2-13 犯罪や危険の数

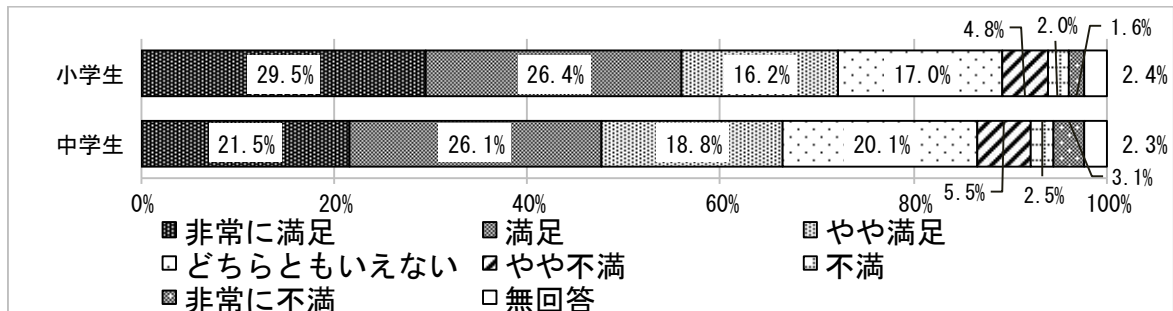




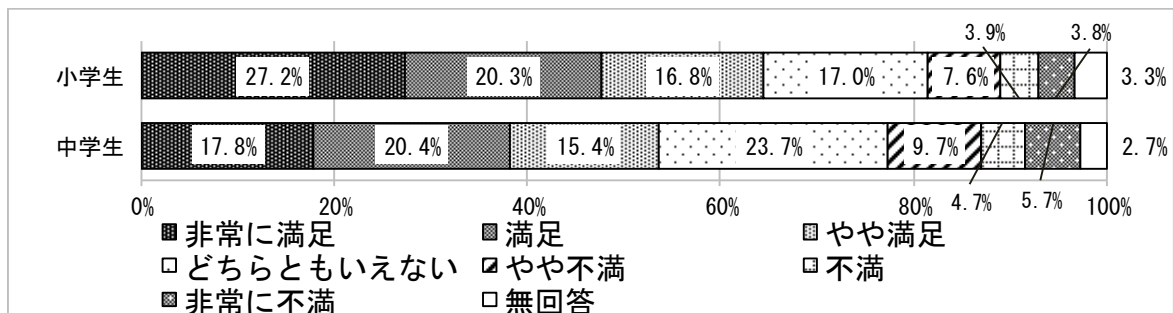
(5) 中野区の教育・学習について

中野区の教育・学習の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層の全ての項目で『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。特に「図書館など本に親しめる場所」、「中野区の公立学校の学校給食」は小学生で『満足度』が7割を超え、他の項目に比べて高かった。一方で、「中野区の公立学校の施設（校舎・体育館・プールなど）」は中学生で『不満足度』は2割を超え、他の項目に比べて高かった。

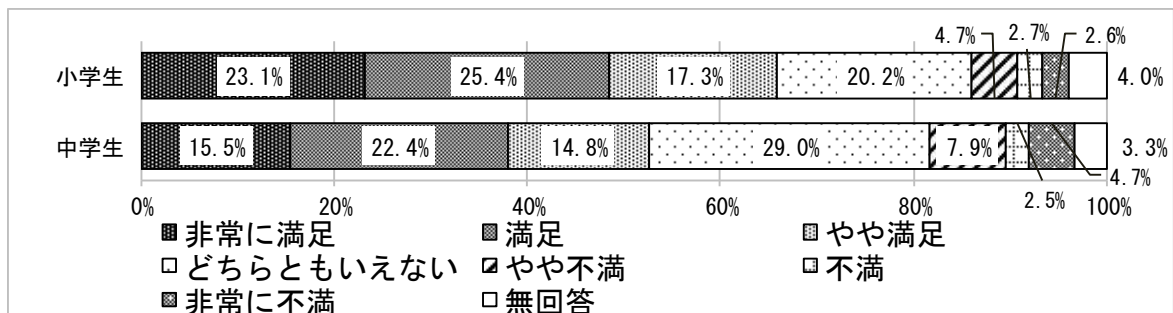
図表 8-2-14 図書館など本に親しめる場所



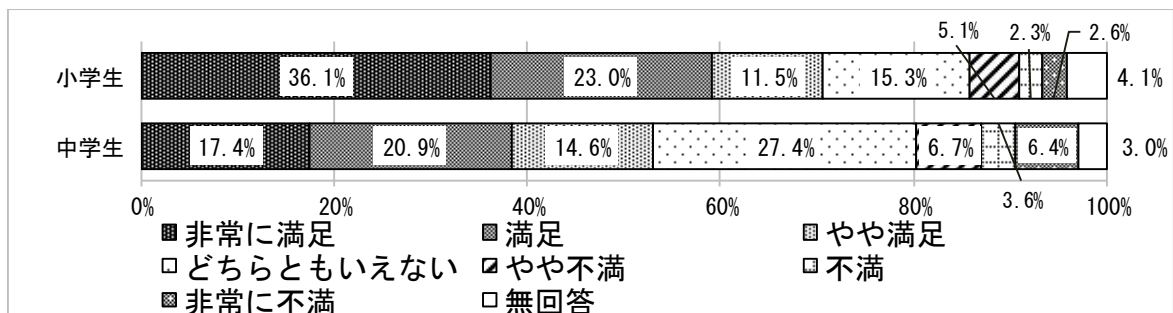
図表 8-2-15 中野区の公立学校の施設（校舎・体育館・プールなど）



図表 8-2-16 中野区の公立学校の授業



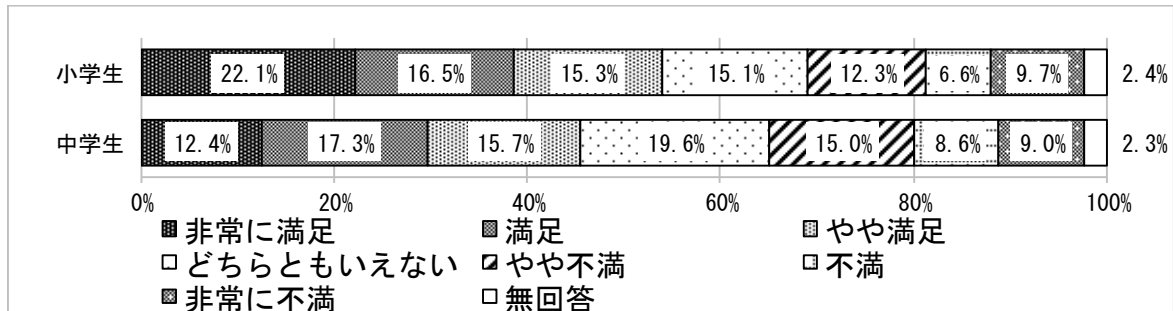
図表 8-2-17 中野区の公立学校の学校給食



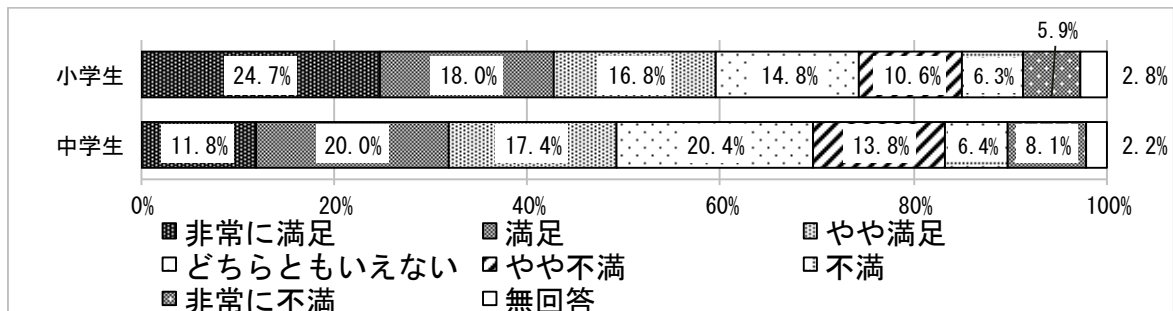
(6) 中野区の遊ぶ場所について

中野区の遊ぶ場所の満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層の「のびのびと過ごせる自然」、「遊べる公園の数」、「遊べる公園の遊具」で、『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。一方で全ての年齢層で「利用しやすい公園の設備（トイレなど）」と、中学生の「屋内で遊べる施設」で『満足度』に比べて『不満足度』が高く、それぞれ『不満足度』が4割を超えている。

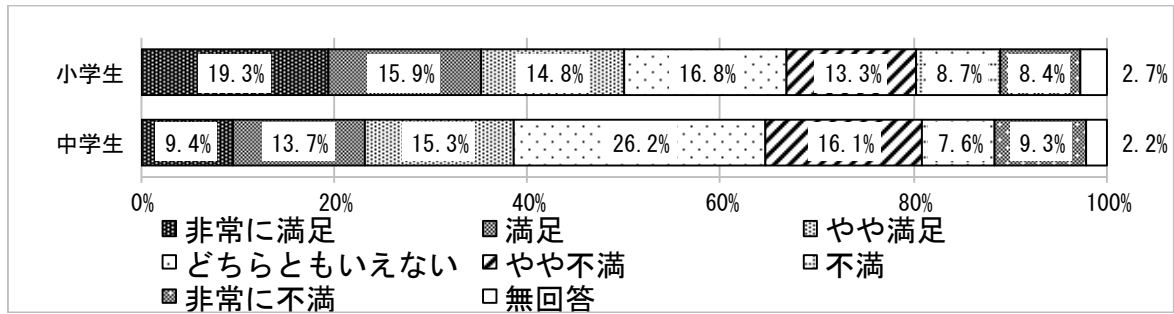
図表 8-2-18 のびのびと過ごせる自然



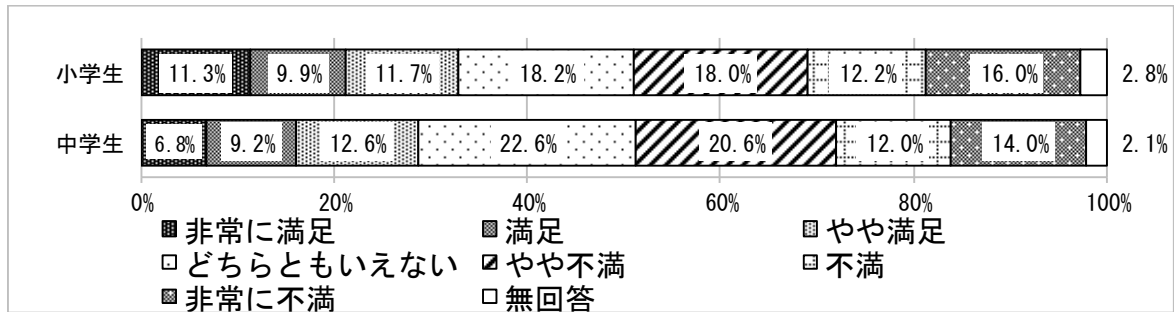
図表 8-2-19 遊べる公園の数



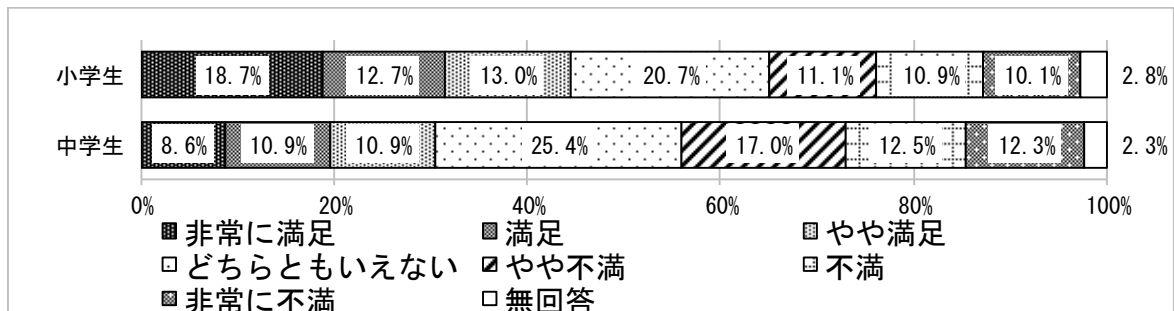
図表 8-2-20 遊べる公園の遊具



図表 8-2-21 利用しやすい公園の設備（トイレなど）



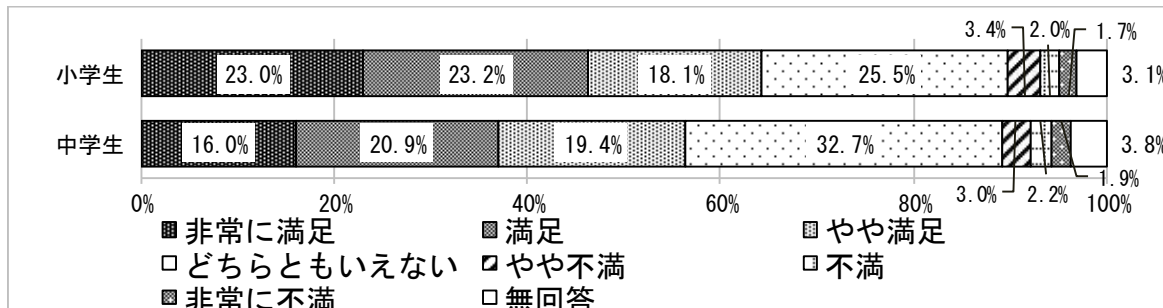
図表 8-2-22 屋内で遊べる施設



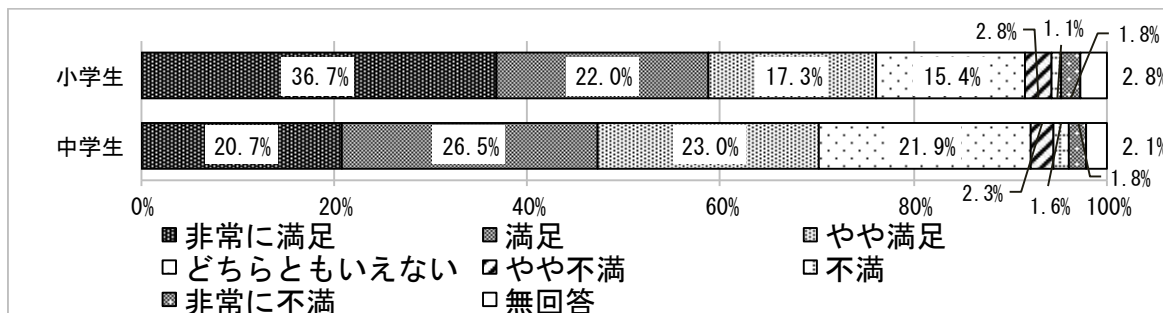
(7) 中野区のまちの人達とのつながりについて

中野区のまちの人達とのつながりの満足度を年齢層別に見ると、全ての年齢層の全ての項目で『不満足度』に比べて『満足度』が高かった。特に「近所のお祭りや商店街のイベント」は全ての年齢層で『満足度』が7割を超え、他の項目に比べて高かった。

図表 8-2-23 ご近所との交流（顔の見えるつながり）



図表 8-2-24 近所のお祭りや商店街のイベント

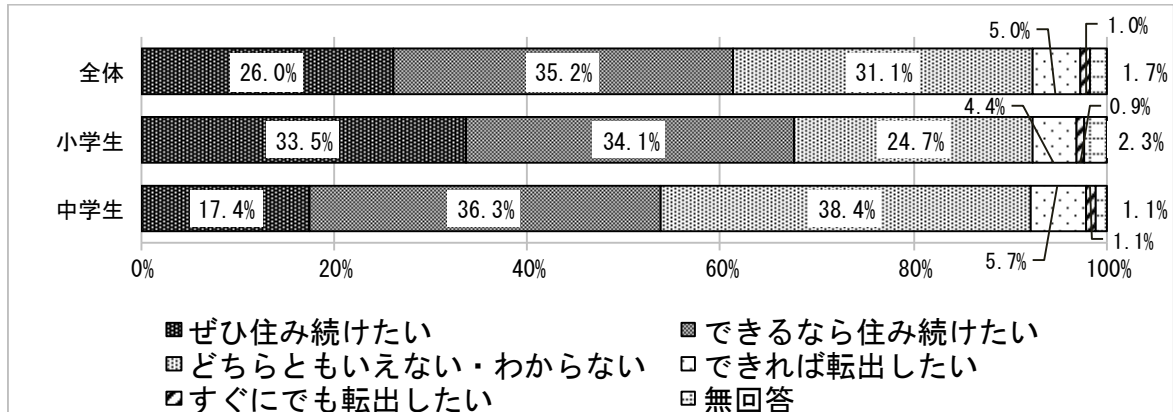


(8) 中野区への定住意向と好感度

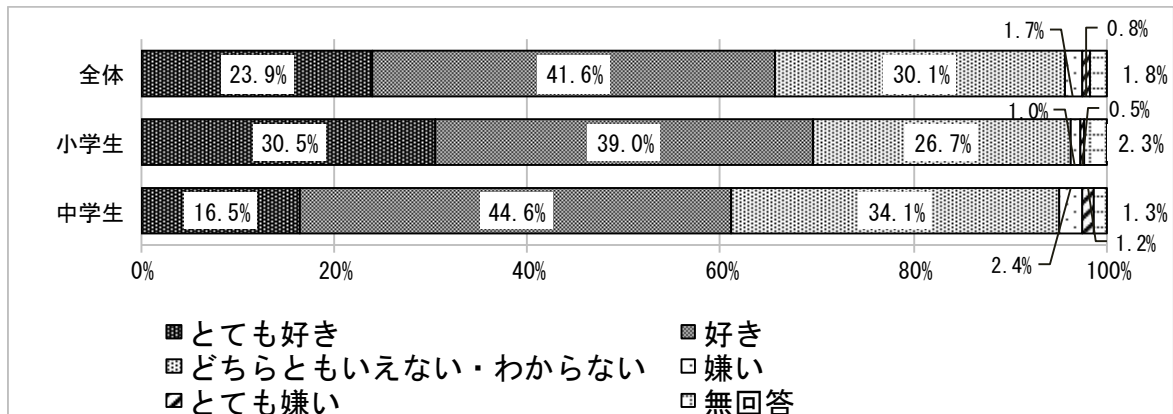
中野区への定住意向を年齢層別に見ると、全体及び全ての年齢層で『転出したい』に比べて『住み続けたい』が高い。また、年齢層が上がるにつれて『住み続けたい』が低くなる。

中野区的好感度を年齢層別に見ると、全体及び全ての年齢層で『好き』(「とても好き」、「好き」)に比べて『嫌い』(「嫌い」、「とても嫌い」)が高い。また、年齢層が上がるにつれて『好き』が低くなる。

図表 8-2-25 定住意向



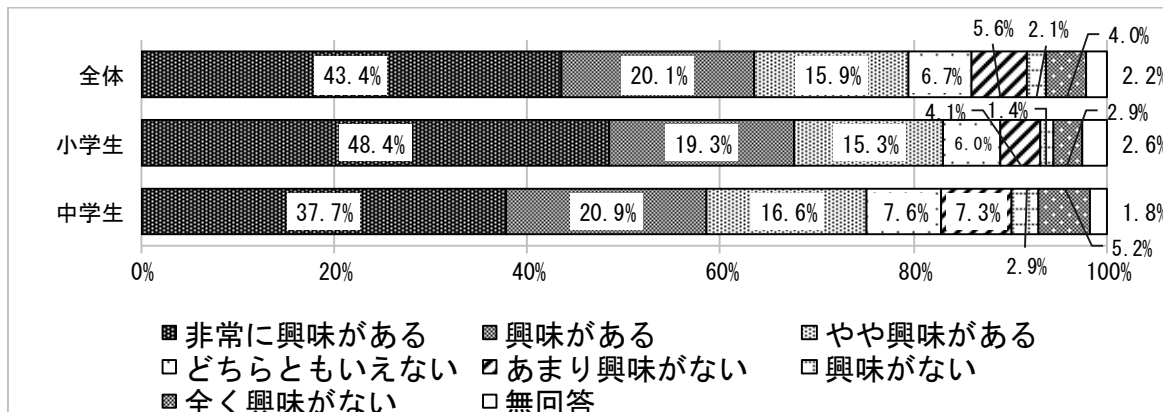
図表 8-2-26 好感度



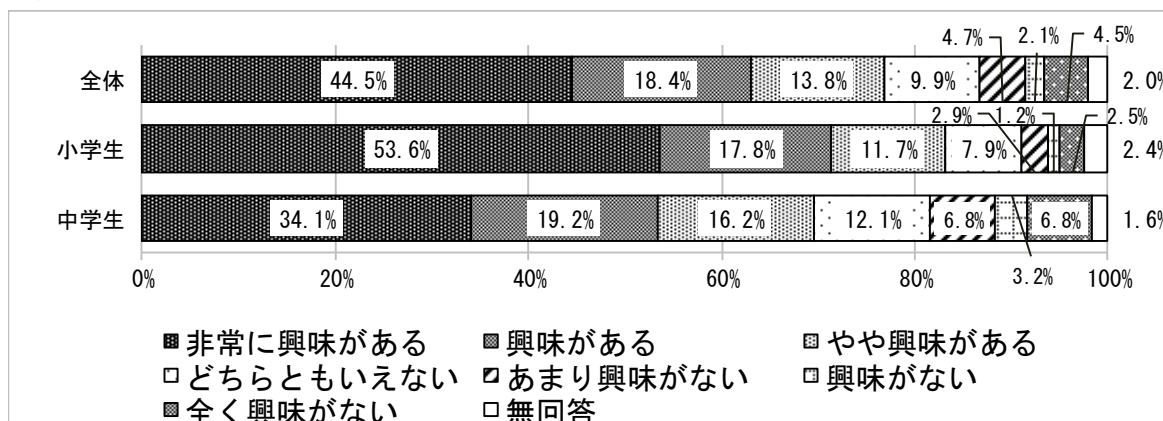
(9) 施設への興味

中野区の各児童施設への興味を年齢層別に見ると、全ての年齢層の全ての項目で『興味がない』に比べて『興味がある』が高い。特に「先端的技術等を体験できる施設」、「子どもが自分の好きな遊びができる場所（プレイパークなど）」の『興味がある』では、小学生は8割を超え、中学生は約7割である。また、年齢層が上がるにつれて『興味がある』は低くなる。

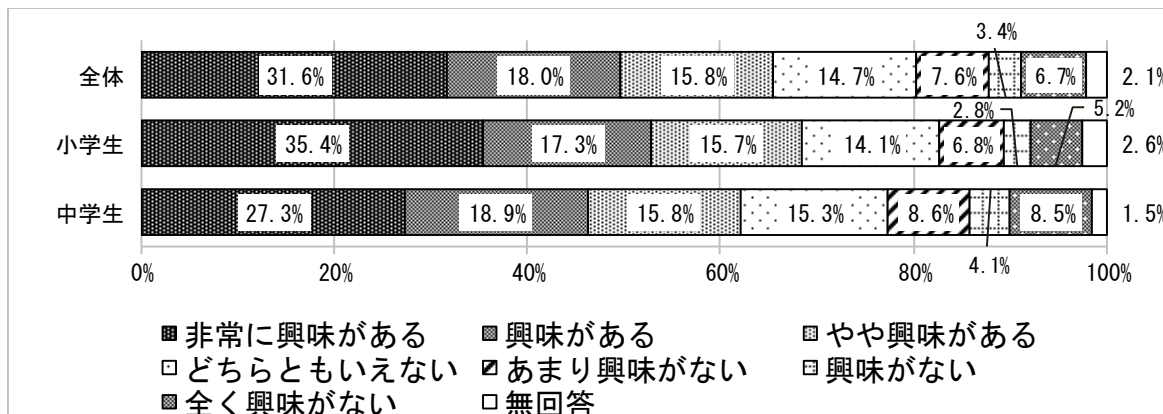
図表 8-2-27 先端的技術等を体験できる施設



図表 8-2-28 子どもが自分の好きな遊びができる場所（プレイパークなど）



図表 8-2-29 子どもが自由に集まり、活動できる場所



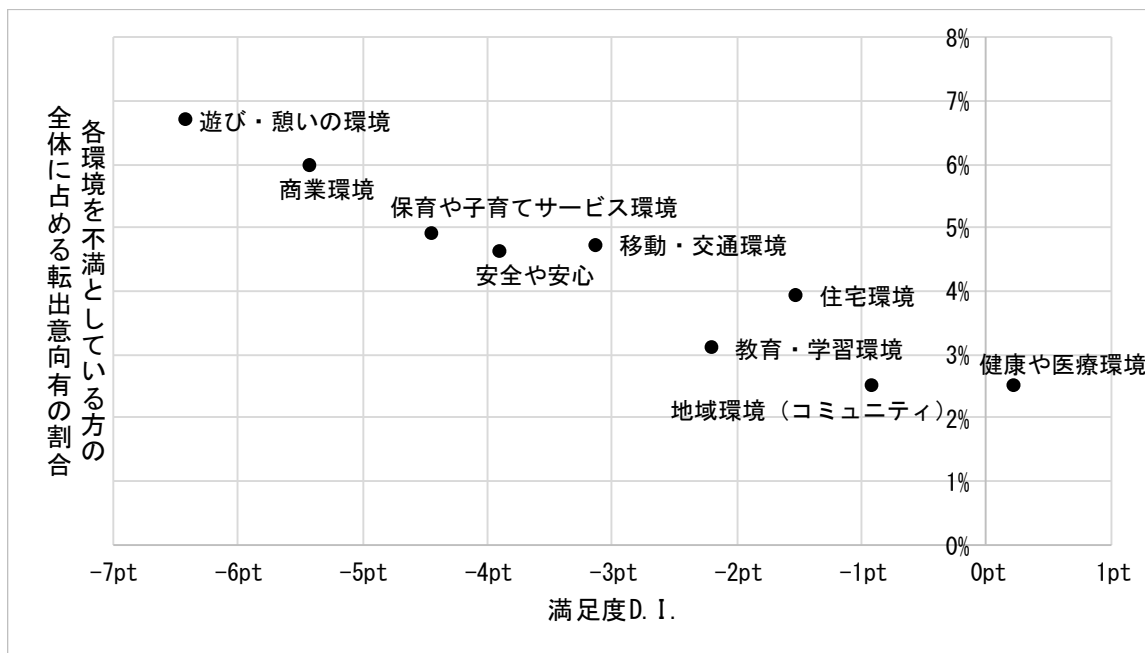
### 3 中野区の環境要因と定住意向の分析

#### (1) 保護者から見た各環境要因と定住意向の関係

中野区の各環境要因と定住意向の関係から、各環境を不満と回答した方の全体に占める転出意向の割合を縦軸に、転出意向がある方の各環境の満足度の『D. I.』を横軸に分析した。

保護者の分析結果から、「健康や医療環境」、「地域環境（コミュニティ）」、「住宅環境」が中野区の“強み”として挙げられる。一方、「遊び・憩いの環境」、「商業環境」、「保育や子育てサービス環境」は“弱み”として挙げられる。

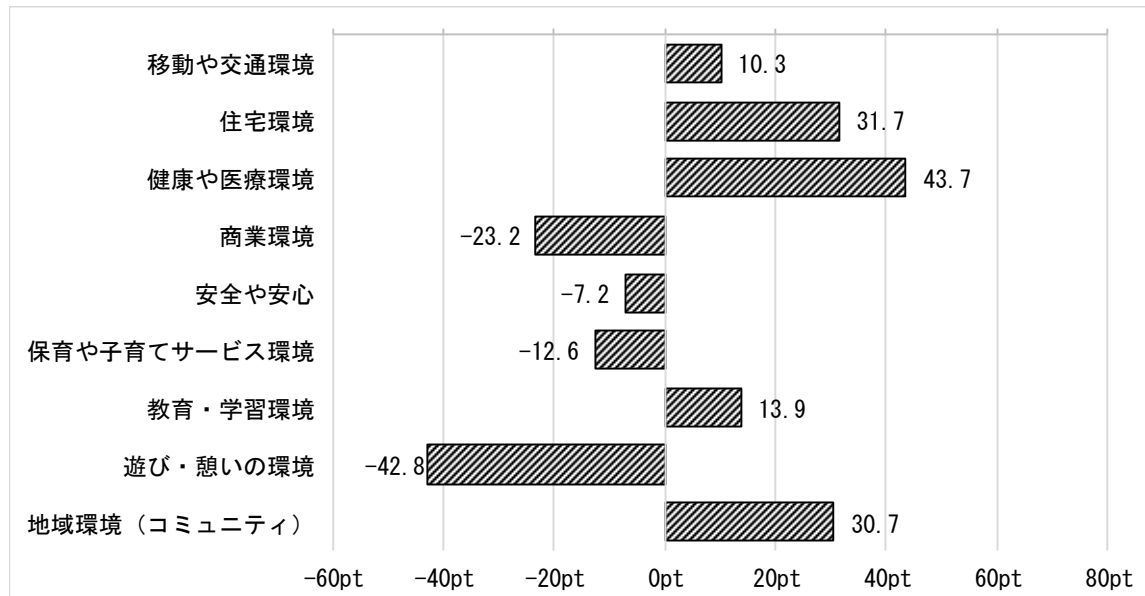
図表 8-3-1 中野区の環境要因の強み・弱み：保護者



※各環境を不満としている方の全体に占める転出意向の割合：当該環境に不満と回答し、かつ「転出したい」と回答した方の回答者全体に占める割合

全体の満足度の D. I. を見ると、「健康や医療環境」が 43.7 ポイントで最も高く、「住宅環境」が 31.7 ポイント、「地域環境（コミュニティ）」が 30.7 ポイントで続いている。一方、「遊び・憩いの環境」は -42.8 ポイントで最も低く、「商業環境」が -23.2 ポイント、「保育や子育てサービス環境」が -12.6 ポイント、「安全や安心」が -7.2 ポイントと上記 4 項目がマイナス域となっている。

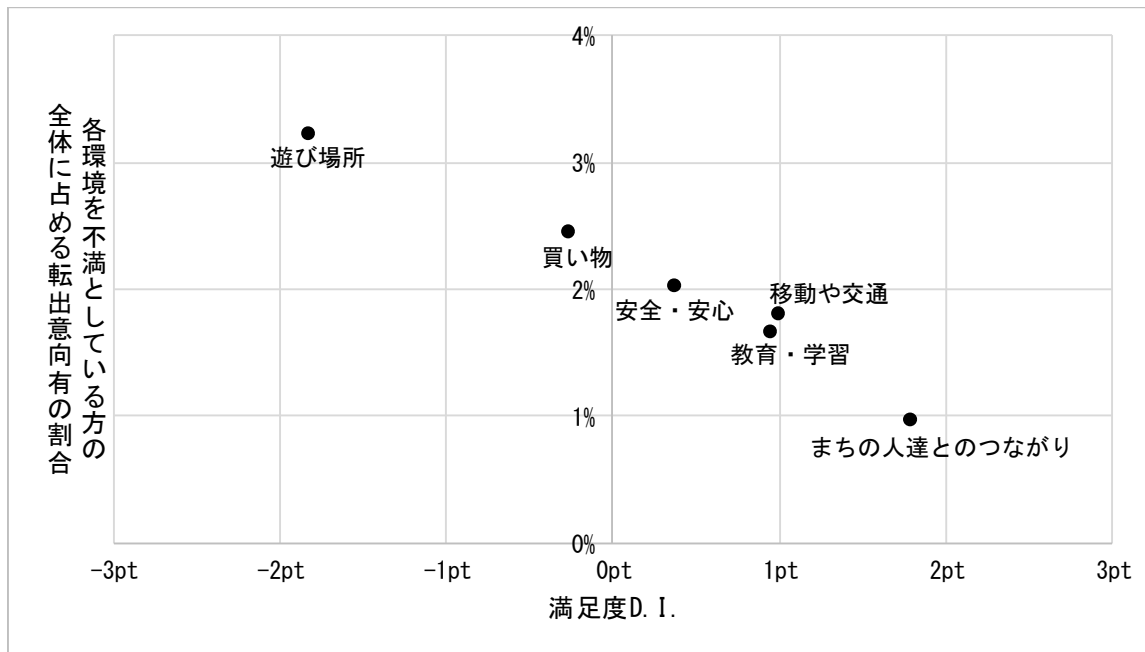
図表 8-3-2 中野区の環境要因の全体の満足度 D. I.：保護者



(2) 子どもから見た各環境要因と定住意向の関係

子どもの分析結果からは、「まちの人達とのつながり」が中野区の“強み”として挙げられる。一方、保護者と同様に「遊び場所」、「買い物」は“弱み”として挙げられる。「遊び場所」（保護者は「遊び・憩いの環境」）は保護者と子ども双方で強い“弱み”として挙げられているため、改善されることにより満足度、定住意向が上がるということが推察される。

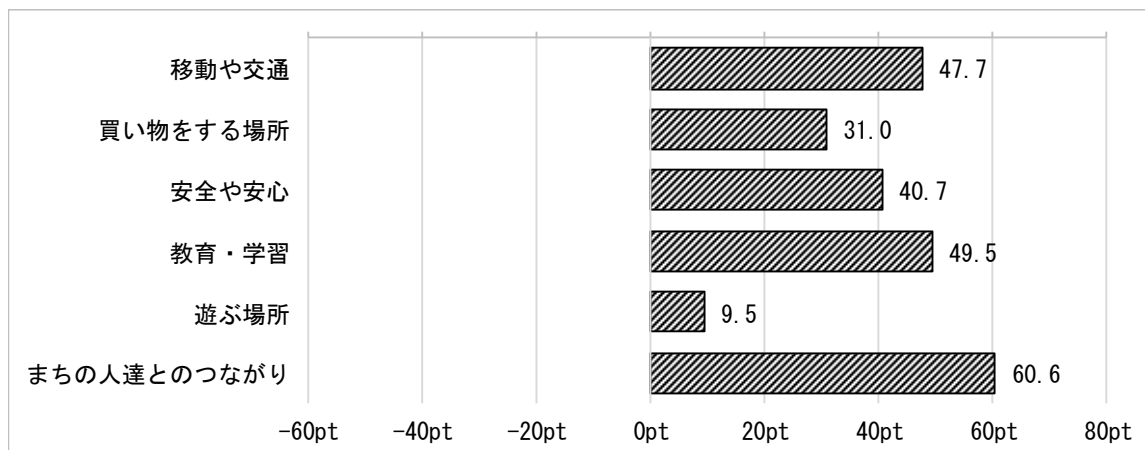
図表 8-3-3 中野区的环境要因の強み・弱み：子ども



※各環境を不満としている方の全体に占める転出意向の割合：当該環境に不満と回答し、かつ「転出したい」と回答した方の回答者全体に占める割合

全体の満足度の D. I. を見ると、全てプラス域となっており、「まちの人達とのつながり」が 60.6 ポイントで最も高く、「教育・学習」が 49.5 ポイント、「移動や交通」が 47.7 ポイント、「安全や安心」が 40.7 ポイントで続いている。

図表 8-3-4 中野区的环境要因の全体の満足度 D. I.：子ども





## 第9部 自由記述



## 1 保護者の自由記述

### (1) 困っていることや悩み事

保護者の困っていることや悩み事を聞いたところ、1,963名の方から2,757件の回答が寄せられた。以下にはカテゴリー分類した結果、回答の多かった分類項目の主な意見を掲載する。

#### 1. 保育や子育てサービス環境に関するご意見 (925件)

- ・ 学童クラブが実質2年生までしか在席できず、3年生以降は家で長時間一人で留守番させないといけないです。子守りの人を頼んだり、時間を消化させるために習い事を入れるとお金がかかかります。保育園を増すならそれと同じ様に学童の受け入れ人数を増してもらわないと意味がないです。
- ・ 中野区の一時的保育施設をもっと充実させてほしいです。2歳の子どもがいるが、上鷺宮地区には近隣に一時的保育の施設がないため、子連れで行きづらい用事への参加が難しいです。
- ・ 一時保育を利用したいが、定員が少なくすぐに埋まってしまい必要な時に利用できません。
- ・ 娘と弟の保育園がバラバラで転園届を出しているが空きが出ないため、一緒に園にできません。
- ・ 少子化のためなのか、公立幼稚園が中野区には少ないです。

#### 2. 収入・貯蓄等金銭面に関するご意見 (304件)

- ・ わが家は毎月ギリギリで生活しているので、貯蓄できる余裕はありません。これから子どもにかかる教育費を考えると不安しかありません。その費用を補える公的機関や区でやっているようなものがあれば知りたいし、利用したいです。
- ・ 貯蓄があまりない為、子どもの将来、進学などにかかる費用が支払えるかどうか不安です。
- ・ 給料は減り、税金は増えているため、この先やっていけそうにありません。

#### 3. 就業・仕事と子育ての両立等に関するご意見 (201件)

- ・ 仕事を探すのに、ハローワークに行きたいが、子どもを連れて行けません。渋谷にあるハローワークのような、子どもを見てくれるハローワークを増やしてほしいです。
- ・ 子どもたちが幼稚園に入ったので働きたいが、時間や曜日が限られているので働ける場がありません。
- ・ 末っ子が入園したので働きたいという思いはあるが、職場に迷惑がかかるかもしれない(子ども急病などで呼び出しなど)と思うと踏み切れません。仕事と家事・育児を両立できるかも不安です。



## (2) 中野区への意見・要望

保護者の中野区への意見・要望を聞いたところ、3,275名の方から5,590件の回答が寄せられた。以下にはカテゴリー分類した結果、回答の多かった分類項目の主な意見を掲載する。

### 1. 遊び・憩いの環境に関するご意見 (1,459件)

- ・ 子育て先進区といいながら、施策が不十分。子どもの居場所が少ないです。(特に屋内)夏は外が暑すぎてあそべないのに、屋内で子どもが集える場所がありません。もっと小さい意見もひろってほしいです。
- ・ 小学生男子は高学年になると遊具を使って遊ぶことより、野球やサッカーをしたいのに、遊べる場所がほぼありません。ボールを使って遊べる公園を増やして欲しいです。
- ・ 思いっきり遊べる広くて安全な、木の多い森のような場所が、子どもも大人も心が休まり人が集う場になるのだと思います。お金が無くても公園で過したくなるようなパリの公園のように、広い公園が生活にうるおいを与えるのだと思います。あと散歩中に楽しめる並木道をたくさん増やしてほしいです。
- ・ 自然があり、自由に遊べる公園が減ってしまいました。保育園は民営化でかなり不安感があります。(不要なストレスを事業者にも利用者(子ども・親)にも与えました) 児童館も減らす話があり、子どもの今後の預け先、遊ばせる場所がなくなるのではないかと不安。総じて、「子どもが減ってもかまわない」と思っているかのような政策が多いです。

### 2. 保育や子育てサービス環境に関するご意見 (1,237件)

- ・ 仕事の関係で、学童クラブの預かりが平日20時までだとお迎えに行けるので延長を希望します。
- ・ 保育園の、待機児童が多くて入れない。認可保育園は全然入園できないのに、無認可保育園も無いです。保育所が少なすぎます。また手続きもとても時間がかかります。
- ・ 保育士資格のない人を保育園で働かせるような政策はやめて、きちんと保育士の待遇を改善し、保育の質を保ってほしいです。
- ・ 保育水準維持のため、保育園の運営に関し、これ以上の民営化には反対です。一定数の区立保育園を維持すべきだと考えます。私は今の区立保育園を大変評価しております。

### 3. 移動や交通環境に関するご意見 (595件)

- ・ 中野駅のベビーカー利用の不便さを改善してほしいです。エレベーターがないのは、本当に困ります。
- ・ 中野駅南口側の歩道の段差は斜めに削ってありベビーカーがすんなりと通れるが、北口側の信号等の段差は全てひっかかります。小さい事だが、全然違うと思います。

- 上鷲宮は中野中心からとても遠いので、中野駅あたりで特徴的な建物が建っても全くうれしくないで、もっと、なかのんの本数とバス停を増やしてほしいです。

## 2 子どもの自由記述

### (1) 中野区への意見・要望

子どもの中野区への意見・要望を聞いたところ、1,281名の方から1,972件の回答が寄せられた。以下にはカテゴリー分類した結果、回答の多かった分類項目の主な意見を掲載する。

#### 1. 遊び・憩いの環境に関するご意見 (494件)

- ・ ボールで遊べる公園がほしいです。
- ・ 中野区にも自然豊かな公園、自然と触れ合える場所があった方が良くと思います。また、僕は小学生の頃、サッカー・野球などの球技ができる公園が少なく困っていました。改善してほしいです。
- ・ 屋内で、中学生が遊べたり、おしゃべりしたり、ゲームができたりする場所がとてもほしいです。
- ・ 公園などのトイレをもっときれいにしてほしいです。

#### 2. 商業環境に関するご意見 (401件)

- ・ 本屋を増やしてほしいです。
- ・ 中野サンプラザを壊さないでほしいです。
- ・ 本屋、文房具屋を増やしてほしいです。
- ・ イオンモールのような、(ブロードウェイや四季の森公園もあるが) 大きなショッピングモールがあったら嬉しいです。

#### 3. 教育・学習環境に関するご意見 (314件)

- ・ 近くに中野中学校があるのに、とても遠い緑野中学校に通わなければならないので、一番近い学校に通えるようにしてほしいです。
- ・ 教科書をタブレットにしてほしいです。
- ・ 図書館でゆっくり勉強できるようにしてほしい。図書館でおすすめの本などを紹介してほしい。図書館で探している本と一緒に探してほしいです。
- ・ 図書館を増やしてほしい。図書館の本をきれいにしてほしいです。

## (2) アンケートの感想、大人の人に言いたいこと・困っていること

子どものアンケートの感想、大人に言いたいこと・困っていることを聞いたところ、370名の方から449件の回答が寄せられた。以下にはカテゴリー分類した結果、回答の多かった分類項目の主な意見を掲載する。

### 1. アンケートに関するご意見 (174件)

- ・ アンケートの質問数は多かったけど、私が解答した答えをみて、「今の自分は幸せだな」と改めて感じることができました。
- ・ 設問が多いと思った。これだとやる前にやる気力を無くしてしまう人が多そうなのでもう少し少なめにして欲しいです。
- ・ このアンケートでいじめられている子などが少しでも楽になればいいなと思います。なのでこのアンケートを続けてほしいです！

### 2. 教育・学習に関するご意見 (54件)

- ・ いじめに対する罰則を作ってほしいです（先生に言っても対応してくれない。言っても逆に謝らせられます。）
- ・ 先生に対しての不満なこと(悪口ではなく、例えば生徒によって態度を変えるのをやめてほしい、とか。)について無記名アンケートをとってほしいです。
- ・ 図書館や地域の場所では「うるさい」と注意されて使えません。中学生にもなると、欲しいのは遊具や公園ではなく、落ちついて勉強やおしゃべりができる環境です。中～高生が自分達で考えて楽しめる様な屋内施設が欲しいです！
- ・ 夏だから、体力づくりも必要だが、休憩もなし、水を飲む時間もないというのはおかしいです。

### 3. 安全や安心に関するご意見 (21件)

- ・ 狭い道で、イヤホンをしながらスマホを見るのはやめてください。自転車で通るとき、すごく迷惑です。
- ・ 最近、東京都内で、事故や火事、犯罪や、連れさり事件などが多くなっていることが心配です。
- ・ 歩きながらのスマホ操作をやめてほしいです。
- ・ 車や自転車が信号を無視していくのをやめてもらいたいです。



---

---

# 中野区子どもと子育て家庭の実態調査 報告書

令和2年1月 発行

発行 中野区 子ども教育部 子ども・教育政策課  
〒164-8501  
東京都中野区中野四丁目8番1号  
電話 03-3228-5605

---

---